

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第133集

駒焼場遺跡発掘調査報告書

国道4号金田一バイパス関連遺跡発掘調査

(財)岩手県文化振興事業団
埋蔵文化財センター

こま やき ば
駒焼場遺跡発掘調査報告書

国道4号金田一バイパス関連遺跡発掘調査

序

広大な面積を有する本県は、縄文時代の遺跡を中心にした数多くの埋蔵文化財包蔵地が分布し、昭和62年度の岩手県教育委員会のまとめでは7,000カ所を越えることが知られております。これら先人たちの残した文化財を保護し、保存していくことは県民に課せられた重大な責務であります。

一方、現在の生活を豊かに、快適な生活をおくるための地域開発、とくに基幹となる道路をはじめとする交通網の整備もまた県民の切実な願いであります。このように、埋蔵文化財の保護、保存と開発という相容れない要素をもつ事業の調和のとれた施策が今日的な課題になっております。

当岩手県文化振興事業団は、埋蔵文化財センター創設以来、県教育委員会の指導と調整のもとに、開発事業によって止むを得ず消滅する遺跡の発掘調査を行い、その記録を残す措置をとってまいりました。

本報告書は、国道4号金田一バイパス建設に関連して、昭和61・62年度に発掘調査した二戸市駒焼場遺跡の調査結果をまとめたものであります。

遺跡は奈良時代、平安時代を主体とした複合遺跡であり、これまで類例の少なかった大溝をもつ平安時代のとりで状遺構や複雑に重複した平安時代の住居址45棟をはじめとする数多くの遺構とそれに伴うさまざまな遺物が検出され、県北でも有数の規模をもつ遺跡であることが判明しました。これらの貴重な資料は当地方の歴史を明らかにするうえで役立つものと考えられます。

この報告書が、研究者のみならず一般に広く活用され、埋蔵文化財に対する理解と保護の一助になれば幸いです。

最後になりましたが、これまでの発掘調査や報告書作成に御援助、御協力を賜りました建設省東北地方建設局岩手工事事務所・二戸市教育委員会をはじめとする関係各位に感謝申し上げますとともに、今後の御指導と御協力をお願いします。

昭和63年10月

財団法人 岩手県文化振興事業団

理事長 中 村 直

例 言

1 本報告書は岩手県二戸市金田一字駒焼場12-2ほかに所在する駒焼場遺跡の発掘調査結果を収録したものである。

2 本遺跡の発掘調査は、国道4号金田一バイパス建設に伴う緊急調査である。調査は建設省東北地方建設局岩手工事事務所と岩手県教育委員会との協議を経て、財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターが担当した。

3 駒焼場遺跡の台帳番号と調査時の遺跡略号は次のとおりである。

登録台帳番号 I F 80-0024

遺跡略号 KY-86・87

4 発掘調査は昭和61年8月1日～10月31日、62年4月10日～6月30日に実施した。室内整理は昭和61年11月1日～62年3月25日、昭和62年11月1日～昭和63年3月25日に行った。

5 発掘調査は61年度中川重紀・光井文行、62年度中村良一・佐藤嘉広・光井文行が担当し、報告書の作成は中村良一・光井文行が担当した。

6 検出された遺構の種類と遺構数は次のとおりである。

縄文時代の竪穴住居址状遺構	3	古代の竪穴住居址	45	土坑	100
墓塚	2	溝跡	8	方形周溝跡	3
		焼土遺構	1	柱穴群	1

7 本報告書の執筆分担は、次のとおりである。

I 調査に至る経過 昆野 靖

III 検出された遺構と遺物

3. 土坑・墓塚 5. 方形周溝跡 中村良一

VII 検出された遺構の分類と若干の考察

2. 土坑 4. 方形周溝跡 中村良一

上記以外 光井文行

8 分析や鑑定は、次の方々に依頼した。(敬称略)

動物遺存体種同定 佐藤 正彦(陸前高田市立博物館)

熊谷 賢(東北学院大学・学生)

火山灰・須恵器の胎土分析 三辻 利一(奈良教育大学教授)

炭化穀類種子同定 パリノ・サーヴェイ株式会社

炭化樹種の同定 早坂松次郎(社団法人岩手県木炭協会)

石質鑑定 佐藤 二郎(佐藤地質工学研究所)

青銅製品分析

松枝 大治 (秋田大学助教授)

鉄製品分析

赤沼 英男 (岩手県立博物館)

- 9 調査区配置のための基準点設定は、東日本測量設計株式会社が行った。基準点-A, Bの平面直角座標の第10系の (X, Y) の座標値は次のとおりである。

基準点-A (N50・E18) X = 35,693.671m, Y = 40,502.084m, H = 83.600m

基準点-B (NS0・E18) X = 35,645.736m, Y = 40,516.281m, H = 83.281m

- 10 発掘調査及び室内整理では次の機関や方々の御協力、御教示を賜った。(敬称略)

二戸市教育委員会 建設省東北地方建設局岩手工事事務所

高橋信雄 (岩手県立博物館) 本堂寿一 (北上市立博物館) 北林八洲晴、遠藤正夫、三浦圭介、岡田康博、成田滋彦、坂本洋一、白鳥文雄、畠山昇 (青森県埋蔵文化財調査センター) 舟木義勝、大野憲司、小林克 (秋田県埋蔵文化財センター) 宇部則保 (八戸市立博物館)

- 11 現地調査には、田中常治氏をはじめとする地方の方々のご協力をいただいた。

- 12 調査によって得られた資料は、岩手県立埋蔵文化財センターに保管している。

目 次

序

例 言

< 本文目次 >

I 調査に至る経過	3	3 鞆の羽口	291
II 遺跡の立地と環境		4 鉄製品	291
1 位置	4	5 砥石	294
2 地形	4	6 その他の石製品	294
3 地質	8	7 その他の遺物	295
4 周辺の遺跡	10	(1) 炭化穀類	295
III 調査方法と室内整理		(2) 炭化材樹種	295
1 野外調査の方法	17	VII 検出された遺構の分類と若干の考察	
2 室内整理	18	1 古代の竪穴住居址	296
IV 検出された遺構と遺物		a. 形状・面積	296
1 縄文時代の竪穴住居址状遺構	25	b. 主軸方位	297
2 古代の竪穴住居址	29	c. カマド	297
3 土坑・墓塚	123	d. 付属土坑	297
4 大溝跡・溝跡	185	e. 重複関係	297
5 方形周溝跡	199	f. 住居址の群別と年代	298
6 柱穴群	202	2 土坑	299
V 遺構外出土遺物		3 大溝跡	301
1 縄文時代の土器	204	4 方形周溝跡	302
2 古代の土器	204	VIII 鑑定・分析	
VI 出土遺物の分類と考察		1) 金属器の蛍光 x 線分析	309
1 古代の土器	287	2) 須恵器胎土分析	310
(1) 土師器	287	3) 動物遺存体種同定	317
(2) 須恵器	290	4) 鉄器の金属学的解析について	321
(3) 酸化焰焼成の須恵器	290	5) 試料種子同定報告	325
2 土製紡錘車	290		

＜ 図版目次 ＞

図版 1	岩手県全図……………	1	図版31	ⅢA—19住居址……………	67
図版 2	遺跡位置図……………	2	図版32	ⅣA—2住居址……………	70
図版 3	遺跡周辺の地形図……………	5	図版33	ⅣA—3住居址(1)……………	72
図版 4	遺跡周辺地形分類図……………	7	図版34	ⅣA—3住居址(2)……………	73
図版 5	周辺の遺跡分布図……………	12	図版35	ⅣA—4住居址(1)……………	76
図版 6	調査された周辺の古代遺跡の分布図	15	図版36	ⅣA—4住居址(2)……………	77
図版 7	調査区域地形図……………	18	図版37	ⅣA—5住居址(1)……………	79
図版 8	基準点及びグリッド配置図……………	19	図版38	ⅣA—5住居址(2)……………	80
図版 9	土器器面調整などの表し方……………	22	図版39	ⅣA—6住居址……………	82
図版10	遺構配置図……………	23	図版40	ⅣA—7住居址……………	85
図版11	ⅣA—20・21住居址状遺構……………	27	図版41	ⅣA—8 a住居址(1)……………	88
図版12	ⅣA—22住居址状遺構……………	28	図版42	ⅣA—8 a住居址(2)……………	89
図版13	ⅡA—1・2住居址遺構……………	30	図版43	ⅣA—8 b住居址……………	90
図版14	ⅡA—3住居址……………	33	図版44	ⅣA—9住居址……………	93
図版15	ⅡA—5住居址……………	35	図版45	ⅣA—10住居址状……………	95
図版16	ⅡA—4住居址……………	37	図版46	ⅣA—11住居址……………	98
図版17	ⅢA—1住居址……………	39	図版47	ⅣA—12住居址……………	99
図版18	ⅢA—2住居址……………	41	図版48	ⅣA—13住居址(1)……………	101
図版19	ⅢA—3住居址……………	43	図版49	ⅣA—13住居址(2)……………	106
図版20	ⅢA—4住居址……………	45	図版50	ⅣA—14住居址(1)……………	105
図版21	ⅢA—5住居址……………	47	図版51	ⅣA—14住居址(2)……………	107
図版22	ⅢA—6住居址(1)……………	49	図版52	ⅣA—15住居址……………	112
図版23	ⅢA—6住居址(2)……………	50	図版53	ⅣA—16住居址……………	114
図版24	ⅢA—7住居址……………	52	図版54	ⅣA—17住居址(1)……………	116
図版25	ⅢA—8住居址……………	54	図版55	ⅣA—17住居址(2)……………	117
図版26	ⅢA—9住居址……………	57	図版56	ⅣA—18・ⅤA—1住居址……………	120
図版27	ⅢA—10・11住居址……………	59	図版57	ⅤA—2・3・4住居址……………	122
図版28	ⅢA—12・13住居址……………	61	図版58	ⅡA—1・2・3・4土坑(1)……………	125
図版29	ⅢA—15住居址……………	63	図版59	ⅡA—3・4土坑(2)……………	126
図版30	ⅢA—16・18・20住居址……………	65	図版60	ⅡA—5・6・7土坑……………	127

图版61	II A—8·9·10土坑·····	129	图版91	II A—101·102大溝跡·····	187
图版62	II A—11·12·13·14土坑·····	131	图版92	III A—101·IVA—101大溝跡· III A—102·103溝跡·····	195
图版63	III A—1·2土坑·····	133	图版93	IVA—102·104溝跡·····	198
图版64	III A—3·4土坑·····	135	图版94	II A—1号方形周溝跡·····	200
图版65	III A—5·6土坑·····	137	图版95	IVA—1·2号方形周溝跡·····	201
图版66	III A—7·8·9土坑·····	139	图版96	II·III区柱穴群(1)·····	202
图版67	III A—10·11·12·13土坑·····	141	图版97	II·III区柱穴群(2)·····	203
图版68	III A—14·15·16土坑·····	143	图版98	II A—1·2 ·3住居址(1)出土遺物·····	207
图版69	III A—17·18·19土坑·····	145	图版99	II A—3住居址出土遺物(2)·····	208
图版70	III A—20·21·22土坑·····	147	图版100	II A—4·5·III A—1·2 住居址出土遺物·····	209
图版71	III A—23·24·25土坑·····	148	图版101	III A—3· 4住居址(1)出土遺物·····	210
图版72	III A—27·28·30土坑·····	150	图版102	III A—4住居址出土遺物(2)·····	211
图版73	III A—31·32·33·34土坑·····	152	图版103	III A—5·6住居址(1)出土遺物	212
图版74	III A—35·36土坑·····	154	图版104	III A—6住居址出土遺物(2)·····	213
图版75	III A—37·38·39土坑·····	156	图版105	III A—7·8住居址出土遺物··	214
图版76	III A—40·41· IVA—1·2土坑·····	158	图版106	III A—9住居址出土遺物(1)·····	215
图版77	IVA—3·4·5·10土坑·····	160	图版107	III A—9住居址出土遺物(2)·····	216
图版78	IVA—6·7·8土坑·····	162	图版108	III A—11住居址出土遺物(1)·····	217
图版79	IVA—9·11·12·13土坑·····	164	图版109	III A—11(2)·13· 15住居址出土遺物·····	218
图版80	IVA—14·15·16·26土坑·····	166	图版110	III A—16·19住居址(1)出土遺物	219
图版81	IVA—17·18·19·20土坑·····	168	图版111	III A—19(2)· IVA—2住居址出土遺物·····	220
图版82	IVA—24·25·27土坑·····	171	图版112	IVA—3住居址出土遺物(1)·····	221
图版83	IVA—28·29·30·31土坑·····	173	图版113	IVA—3住居址出土遺物(2)·····	222
图版84	IVA—32·33·34·35·37土坑	175	图版114	IVA—4住居址出土遺物(1)·····	223
图版85	IVA—36·38·40·41土坑·····	177	图版115	IVA—4(2) ·5住居址(1)出土遺物·····	224
图版86	IVA—42·44·45·47土坑·····	179			
图版87	IVA—46·48·49土坑·····	181			
图版88	IVA—50·51, VA—2土坑··	183			
图版89	VA—1土坑, III A—1·2墓塚	184			
图版90	II A—101·102·III A—101· IVA—101大溝跡·····	186			

函版116	IV A—5 住居址出土遺物(2)·····	225	函版142	IV A—17(5)·18住居址出土遺物	251
函版117	IV A—5(3)·		函版143	V A—1 住居址出土遺物·····	252
	6 住居址(1)出土遺物·····	226	函版144	V A—2·3 住居址出土遺物··	253
函版118	IV A—6 住居址出土遺物(2)·····	227	函版145	II A—3·5·6·7·8 土坑	
函版119	IV A—6 住居址出土遺物(3)·····	228		出土遺物·····	254
函版120	IV A—6(4)·		函版146	II A—9·10·11·12·	
	7 住居址(1)出土遺物·····	229		III A—2·6 土坑出土遺物·····	255
函版121	IV A—7 住居址出土遺物(2)·····	230	函版147	III A—7·16·17 土坑出土遺物	256
函版122	IV A—7 住居址出土遺物(3)·····	231	函版148	III A—19·28·30 土坑出土遺物	257
函版123	IV A—7 住居址出土遺物(4)·····	232	函版149	III A—36·IV A—2·3·4	
函版124	IV A—8 住居址出土遺物(1)·····	233		·7 土坑出土遺物·····	258
函版125	IV A—8 住居址出土遺物(2)·····	234	函版150	IV A—8·9·12 土坑出土遺物	259
函版126	IV A—8(3)·9 住居址·		函版151	IV A—13·16·19·24·28 土坑	
	10 住居址狀遺構(1)出土遺物·····	235		出土遺物·····	260
函版127	IV A—10 住居址出土遺物(2)·····	236	函版152	IV A—49 土坑出土遺物(1)·····	261
函版128	IV A—10 住居址出土遺物(3)·····	237	函版153	IV A—49(2)·	
函版129	IV A—11·12 住居址出土遺物··	238		V A—1 土坑出土遺物·····	262
函版130	IV A—13 住居址出土遺物(1)·····	239	函版154	II A—101 大溝跡出土遺物(1)·····	263
函版131	IV A—13 住居址出土遺物(2)·····	240	函版155	II A—101 大溝跡出土遺物(2)·····	264
函版132	IV A—13 住居址出土遺物(3)·····	241	函版156	II A—101 大溝跡出土遺物(3)·····	265
函版133	IV A—13(4)·		函版157	II A—101 大溝跡出土遺物(4)·····	266
	14 住居址(1)出土遺物·····	242	函版158	II A—101 大溝跡出土遺物(5)·····	267
函版134	IV A—14 住居址出土遺物(2)·····	243	函版159	II A—101 大溝跡出土遺物(6)·····	268
函版135	IV A—14 住居址出土遺物(3)·····	244	函版160	II A—101 大溝跡出土遺物(7)·····	269
函版136	IV A—13(4)·		函版161	II A—102 大溝跡出土遺物(1)·····	270
	16 住居址(1)出土遺物·····	245	函版162	II A—102 大溝跡出土遺物(2)·····	271
函版137	IV A—16 住居址出土遺物(2)·····	246	函版163	II A—102 大溝跡出土遺物(3)·····	272
函版138	IV A—16(3)·		函版164	II A—102 大溝跡出土遺物(4)·····	273
	17 住居址(1)出土遺物·····	247	函版165	II A—102 大溝跡出土遺物(5)·····	274
函版139	IV A—17 住居址出土遺物(2)·····	248	函版166	II A—102 大溝跡出土遺物(6)·····	275
函版140	IV A—17 住居址出土遺物(3)·····	249	函版167	II A—102 大溝跡出土遺物(7)·····	276
函版141	IV A—17 住居址出土遺物(4)·····	250	函版168	III A—101 大溝跡出土遺物(1)·····	277

図版169 IIIA—101(2)・IVA—101 大溝跡(1)出土遺物……………	278	図版173 遺構外出土遺物(2)……………	282
図版170 IVA—101大溝跡出土遺物(2)……………	279	図版174 遺構外出土遺物(3)……………	283
図版171 IVA—101大溝跡(3)・IVA— 102溝跡・IVA—1・2号方形 周溝跡出土遺物……………	280	図版175 遺構外出土遺物(4)……………	284
図版172 遺構外出土遺物(1)……………	281	図版176 遺構外出土遺物(5)……………	285
		図版177 遺構外出土遺物(6)……………	286
		図版178~179 土器分類図、主な鉄製品…	304
		図版180 土師器A群・B群……………	306

< 写真図版目次 >

写真図版 1 空中写真 (遺跡全景) ……	357	写真図版23 IIIA—11住居址……………	379
写真図版 2 遺跡遠景……………	358	写真図版24 IIIA—16・18住居址……………	380
写真図版 3 空中写真……………	359	写真図版25 IIIA—19住居址……………	381
写真図版 4 発掘調査状況・現地説明会	360	写真図版26 IVA—2住居址(1)……………	382
写真図版 5 IVA—20住居址状遺構……………	361	写真図版27 IVA—2(2)・ IVA—3住居址(1)……………	383
写真図版 6 IVA—21住居址状遺構……………	362	写真図版28 IVA—3住居址(2)……………	384
写真図版 7 IVA—22住居址状遺構……………	363	写真図版29 IVA—4住居址……………	385
写真図版 8 IIA—1住居址……………	364	写真図版30 IVA—5住居址……………	386
写真図版 9 IIA—2住居址……………	365	写真図版31 IVA—6住居址(1)……………	387
写真図版10 IIA—3住居址……………	366	写真図版32 IVA—6住居址(2)……………	388
写真図版11 IIA—4・5住居址……………	367	写真図版33 IVA—7住居址(1)……………	389
写真図版12 IIIA—1・2住居址(1)……………	368	写真図版34 IVA—7住居址(2)……………	390
写真図版13 IIIA—2住居址(2)……………	369	写真図版35 IVA—8住居址(1)……………	391
写真図版14 IIIA—3住居址……………	370	写真図版36 IVA—8(2)・9住居址……………	392
写真図版15 IIIA—4住居址……………	371	写真図版37 IVA—10住居址状遺構……………	393
写真図版16 IIIA—5住居址……………	372	写真図版38 IVA—11・12・17住居址(1)	394
写真図版17 IIIA—6住居址(1)・ IIA—102大溝跡(1)……………	373	写真図版39 IVA—12・17住居址(2)……………	395
写真図版18 IIIA—6住居址(2)……………	374	写真図版40 IVA—13(1)・17住居址(3)…	396
写真図版19 IIIA—7住居址……………	375	写真図版41 IVA—13住居址(2)……………	397
写真図版20 IIIA—8・9住居址(1)……………	376	写真図版42 IVA—13住居址(3)……………	398
写真図版21 IIIA—9住居址(2)……………	377	写真図版43 IVA—14住居址(1)……………	399
写真図版22 IIIA—10・12住居址……………	378	写真図版44 IVA—14住居址(2)……………	400

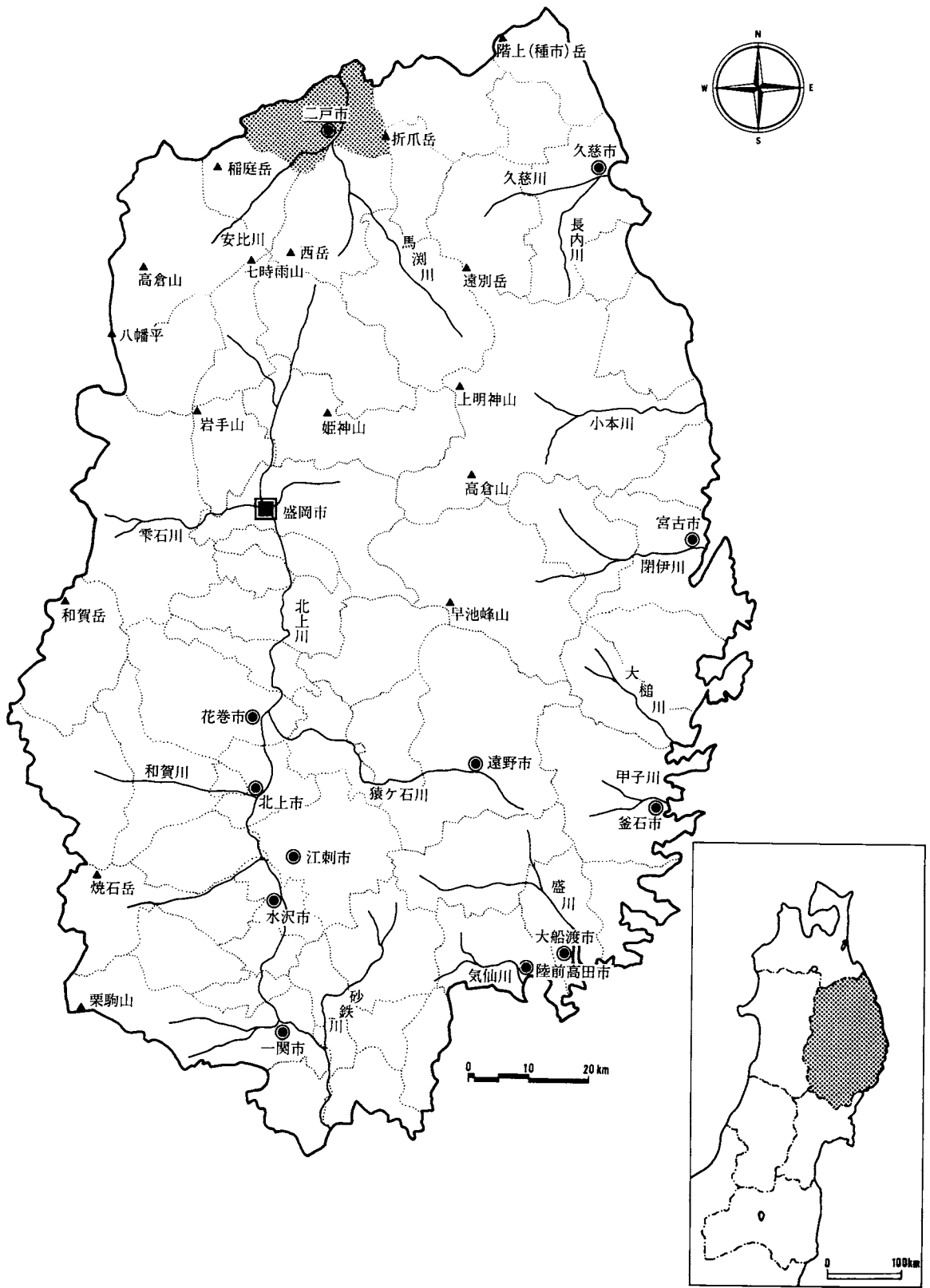
写真図版45	IV A—14住居址(3)·····	401	写真図版72	IV A—11·12·13土坑·····	428
写真図版46	IV A—15·16住居址(1)·····	402	写真図版73	IV A—14·15·16土坑(1)·····	429
写真図版47	IV A—16住居址(2)·····	403	写真図版74	IV A—17·18·19土坑·····	430
写真図版48	IV A—18住居址·····	404	写真図版75	IV A—15(2)·20·24·25 ·26·V A—1土坑·····	431
写真図版49	V A—1·2·3住居址(1)	405	写真図版76	IV A—27·28·29土坑·····	432
写真図版50	V A—2·3住居址(2)·····	406	写真図版77	IV A—30·31·32土坑·····	433
写真図版51	V A—4住居址·····	407	写真図版78	IV A—33·34·35土坑·····	434
写真図版52	II A—1·2·3·4土坑	408	写真図版79	IV A—36·37·38土坑·····	435
写真図版53	II A—5·6·7土坑·····	409	写真図版80	IV A—40·41·42土坑·····	436
写真図版54	II A—8·9·10土坑·····	410	写真図版81	IV A—44·45·46·47土坑	437
写真図版55	II A—11·12·13土坑·····	411	写真図版82	IV A—48·49·50土坑·····	438
写真図版56	II A—14· III A—1·2土坑(1)·····	412	写真図版83	II A—101·102(1)大溝跡·····	439
写真図版57	III A—3·4· 5·8土坑(1)·····	413	写真図版84	II A—102大溝跡(2)·····	440
写真図版58	III A—6·7·8(2)土坑·····	414	写真図版85	III A—101大溝跡(1)·····	441
写真図版59	III A—9·10·11土坑·····	415	写真図版86	III A—102·103溝跡· IV A—101大溝跡(1)·····	442
写真図版60	III A—1(2)·12·13·14 ·15土坑(1)·····	416	写真図版87	IV A—101大溝跡(2)·····	443
写真図版61	III A—15(2)·16·17 ·18土坑·····	417	写真図版88	III A—101大溝跡(2) IV A—102溝跡·····	444
写真図版62	III A—19·20·21·22土坑	418	写真図版89	IV A—104溝跡·····	445
写真図版63	III A—23·24·30土坑·····	419	写真図版90	II A—1号方形周溝跡·····	446
写真図版64	III A—27·28·25土坑·····	420	写真図版91	IV A—1·2号方形周溝跡	447
写真図版65	III A—31·32·33土坑·····	421	写真図版92	II A—1·2· 3住居址(1)出土遺物·····	448
写真図版66	III A—34·35·36土坑·····	422	写真図版93	II A—3(2)· 4住居址(1)出土遺物·····	449
写真図版67	III A—37·38·39土坑·····	423	写真図版94	II A—4(2)·5·III A—1 ·2·3住居址出土遺物·····	450
写真図版68	III A—40·41 IV A—1土坑·····	424	写真図版95	III A—4住居址出土遺物·····	451
写真図版69	IV A—2·3·4土坑·····	425	写真図版96	III A—5· 6住居址(1)出土遺物·····	452
写真図版70	IV A—5·6·7土坑·····	426			
写真図版71	IV A—8·9·10土坑·····	427			

写真図版97	III A—6(2)· 7·8住居址(1)出土遺物…	453	写真図版116	IV A—14住居址(2)出土遺物	472
写真図版98	III A—8(2)· 9住居址(1)出土遺物…	454	写真図版117	IV A—14(3)· 16住居址(1)出土遺物…	473
写真図版99	III A—9(2)· 11住居址(1)出土遺物…	455	写真図版118	IV A—16住居址(2)出土遺物	474
写真図版100	III A—11(2)·13·15 ·16住居址出土遺物…	456	写真図版119	IV A—16(3)· 17住居址(1)出土遺物…	475
写真図版101	III A—19住居址出土遺物…	457	写真図版120	IV A—17住居址(2)出土遺物	476
写真図版102	IV A—2 ·3住居址(1)出土遺物…	458	写真図版121	IV A—17(3)· 18住居址出土遺物…	477
写真図版103	IV A—3(2)· ·4住居址(1)出土遺物…	459	写真図版122	V A—1·2·3 住居址出土遺物…	478
写真図版104	IV A—4(2)· 5住居址(1)出土遺物…	460	写真図版123	II A—3·5·6·7·8·9 10·11·12土坑出土遺物…	479
写真図版105	IV A—5住居址(2)出土遺物	461	写真図版124	III A—2·6·7·16· 17土坑出土遺物…	480
写真図版106	IV A—6住居址(1)出土遺物	462	写真図版125	III A—19·28· 30土坑出土遺物…	481
写真図版107	IV A—6(2)· 7住居址(1)出土遺物…	463	写真図版126	III A—36·IV A—2·3·4· 7·8·9土坑出土遺物…	482
写真図版108	IV A—7住居址(2)出土遺物	464	写真図版127	IV A—9·12·13·16·19· 24·28·49土坑(1)出土遺物	483
写真図版109	IV A—7(3)· 8住居址(1)出土遺物…	465	写真図版128	IV A—49(2)· V A—1土坑出土遺物…	484
写真図版110	IV A—8住居址(2)出土遺物	466	写真図版129	II A—101大溝跡(1) 出土遺物…	485
写真図版111	IV A—9住居址·IV A— 10住居址(1)出土遺物…	467	写真図版130	II A—101大溝跡(2) 出土遺物…	486
写真図版112	IV A—10住居址状遺構(2) 出土遺物…	468	写真図版131	II A—101大溝跡(3) 出土遺物…	487
写真図版113	IV A—11·12· 13住居址(1)出土遺物…	469	写真図版132	II A—101大溝跡(4) 出土遺物…	488
写真図版114	IV A—13住居址(2)出土遺物	470	写真図版133	II A—101大溝跡(5)	
写真図版115	IV A—13(3)· 14住居址(1)出土遺物…	471			

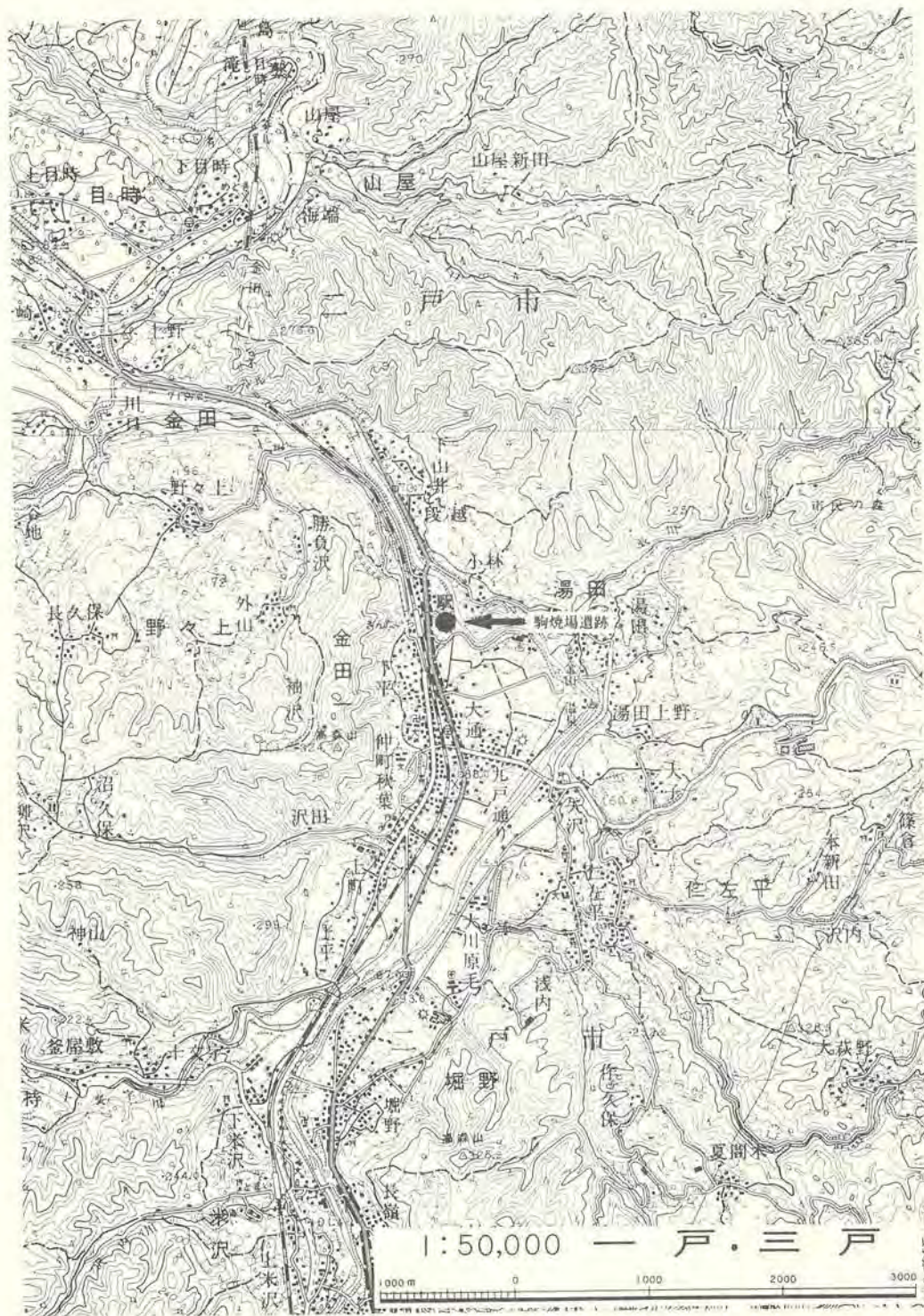
出土遺物……………	489	写真図版140 IIIA—101(2)・IVA—101 大溝跡(1)出土遺物……………	496
写真図版134 IIA—102大溝跡(1) 出土遺物……………	490	写真図版141 IVA—101大溝跡(2) 出土遺物……………	497
写真図版135 IIA—102大溝跡(2) 出土遺物……………	491	写真図版142 IVA—101(3)大溝跡・IVA —102溝跡・IVA—1・2 号方形周溝跡出土遺物……	498
写真図版136 IIA—102大溝跡(3) 出土遺物……………	492	写真図版143 遺構外出土遺物(1)……………	499
写真図版137 IIA—102大溝跡(4) 出土遺物……………	493	写真図版144 遺構外出土遺物(2)……………	500
写真図版138 IIA—102大溝跡(5) 出土遺物……………	494	写真図版145 遺構外出土遺物(3)……………	501
写真図版139 IIIA—101大溝跡(1) 出土遺物……………	495	写真図版146 遺構外出土遺物(4)……………	502
		写真図版147 遺構外出土遺物(5)……………	503
		写真図版148 遺構外出土遺物(6)……………	504

＜ 表 目 次 ＞

表 1	周辺の遺跡一覧表……………	13	表 21	鞆の羽口計測一覧表……………	346
表 2	遺跡周辺の発掘調査された 古代・中世の遺跡一覧表……………	16	表 22	貨幣計測一覧表……………	346
表 3・4	住居址一覧表(1)・(2)……………	330	表 23～26	鉄製品計測一覧表(1)～(4)……………	347
表 5～19	出土土器観察表(1)～(15)……………	332	表 27	青銅製品計測表……………	350
表 20	紡錘車計測一覧表……………	346	表 28・29	炭化材樹種一覧表(1)・(2)……………	350
			表 30・31	石器計測一覧表(1)・(2)……………	352



図版 1：岩手県全図



図版2：遺跡位置図

I. 調査に至る経過

二戸市金田一字上田面から同市金田一字段ノ越に至る総延長3,200mの一般国道4号金田一バイパスの建設は、昭和50年から計画着手され、昭和67年に完了の予定である。

この間に所在する埋蔵文化財包蔵地の取り扱いについては、昭和53年から建設省東北地方建設局岩手工事事務所と岩手県教育委員会との事前協議が行われた。岩手県教育委員会は建設予定地内の遺跡分布調査を実施し、上田面3、上田面2、荒田3、荒田4、八ツ長2、沖1、馬場2、馬場、駒焼場、府金橋の10遺跡を確認している。そのうち、府金橋遺跡についてはすでに昭和56、57年に発掘調査を実施し、発掘調査報告書を刊行している。

駒焼場遺跡については、昭和57年から岩手工事事務所と岩手県教育委員会の間で現地調査を含む協議が行われた。その間の経過は、以下のとおりである。

昭和57年10月25日付け 建東岩二工第126号 岩手工事事務所長から岩手県教育委員会あて
埋蔵文化財包蔵地の分布調査についての依頼

昭和58年10月19～21日 岩手県教育委員会による現地調査の実施

昭和58年7月23日付け 教文第262号 岩手県教育長から岩手工事事務所長あて
国道4号金田一バイパス建設工事に係る遺跡分布調査の結果について回答

昭和60年12月11日 岩手工事事務所、岩手県教育委員会文化課、岩手県文化振興事業団
埋蔵文化財センターの協議

これにより、駒焼場遺跡の発掘調査は、昭和61年度に当埋蔵文化財センターが実施することとなり、昭和61年8月1日付け委託契約により着手した。

その後の、当初予定された調査対象面積2,130㎡のうち、1,000㎡については民家移転の遅延等があり、再度岩手工事事務所と岩手県教育委員会の間で協議された。その結果、未調査区域については次年度に第二次調査として実施することとなった。

さらに昭和61年12月3日 岩手工事事務所、岩手県教育委員会文化課、岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターの3者協議が行われ、昭和62年度に当埋蔵文化財センターが継続調査することとなり、昭和62年4月8日付け契約により着手したものである。

II. 遺跡の立地と環境

1. 位置

駒焼場遺跡は岩手県最北部の二戸市字金田一に所在し、東日本旅客鉄道東北本線金田一温泉駅の東約200mに位置している。二戸市は昭和47年に福岡町と金田一村が町村合併して成立し、現在の人口約30,100人、面積238.17km^{※1}である。『この地域は、県北に位置しているわりには、馬淵川の河谷を通して、海洋の影響を受けて年平均10℃と比較的温暖であり、梅雨期でも北方高気圧の勢力圏内にあることが多く降雨日数が少なく年間降水量が925mm（福岡）で県内で最も少ない地域となっている。河川流域に沿って比較的多く耕地が拓けおり、耕地に対する水田の割合は2割と低く畑地が多く占めている。畑地は従来、麦、雑穀などが中心であったが、たばこ、ホップなどの工芸作物、りんごなどの果樹、野菜等が年々ふえ、また乳用牛、肉用牛などの大家畜畜産の振興が目ざましい。』遺跡のある金田一地区は北側を青森県三戸町、東側を青森県名川町、岩手県軽米町と接している。※(1) 土地分類基本調査「一戸」1971（岩手県）による。

2. 地形

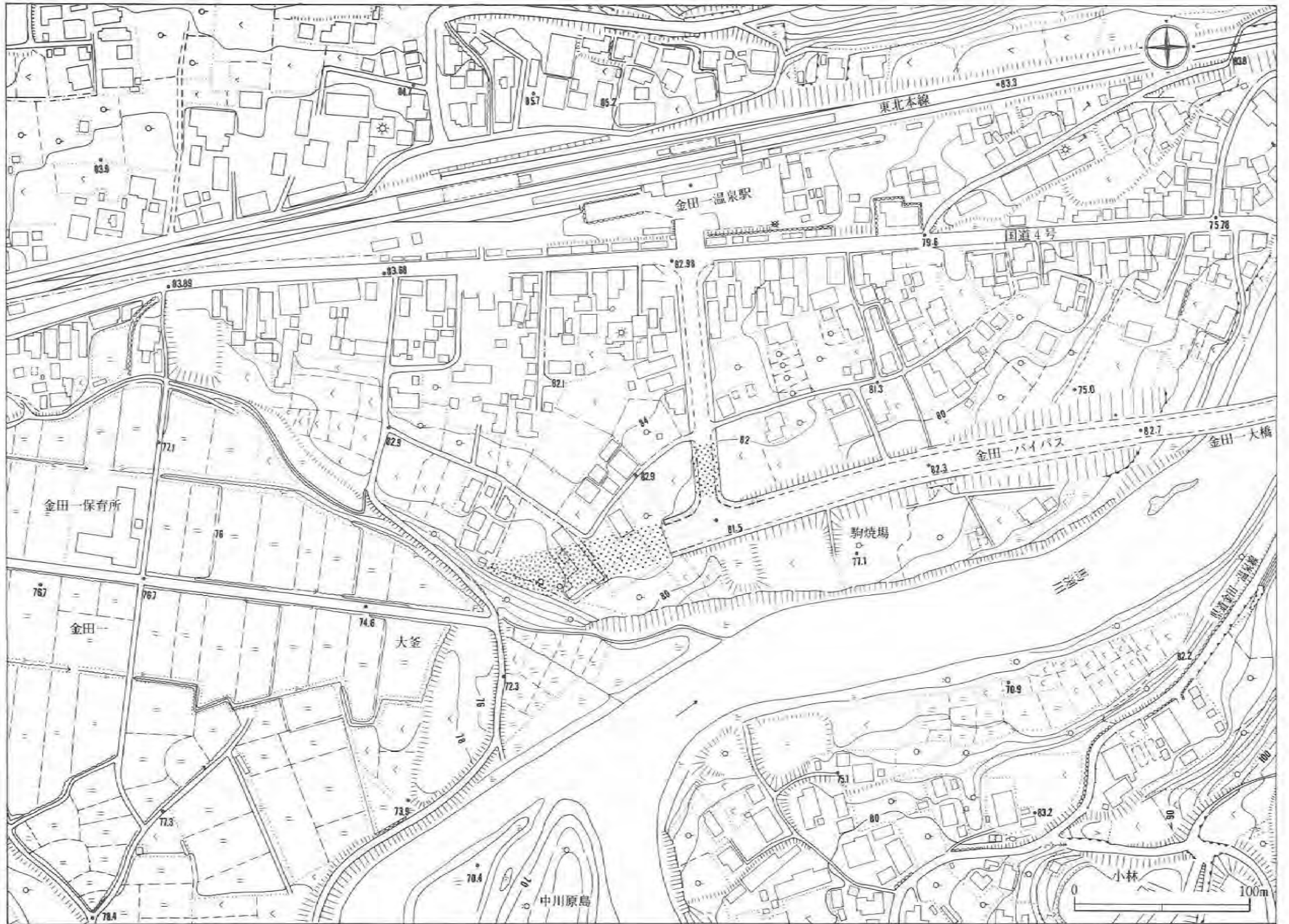
二戸市は西に奥羽山脈、東に北上山地があり、その間を馬淵川が北流している。この地域の北上山地には古い隆起準平原が広く分布しており、最高点は折爪岳（標高852m）である。南西の西岳（標高1,018m）、稲庭岳（1,078m）より連なる奥羽山脈は前面にせまる200～300mの丘陵の背後にあるため、市街地からはみえない。

馬淵川は下閉伊郡安家森付近に源を発し、北流し青森県三戸町で流れを北東に変えて太平洋にそそいでいる。幹線流路延長142km、流路面積2,050km²である。二戸市周辺では、南西の安代町方面より流れてくる安比川、東方からの白鳥川、金田一川、西方からの十文字川と合流している。この地域は馬淵川を中心とした河川によって形成された段丘が狭く発達している。

松山力氏によれば二戸市周辺の馬淵川沿いの細長い谷底平野には、幾段かの沖積段丘があり、その外側に洪積世の段丘である低位、中位段丘が発達しているという。

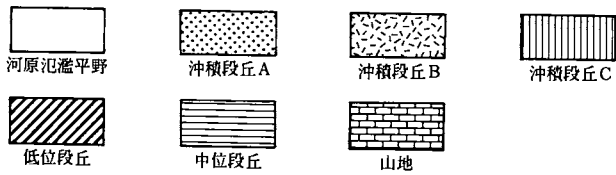
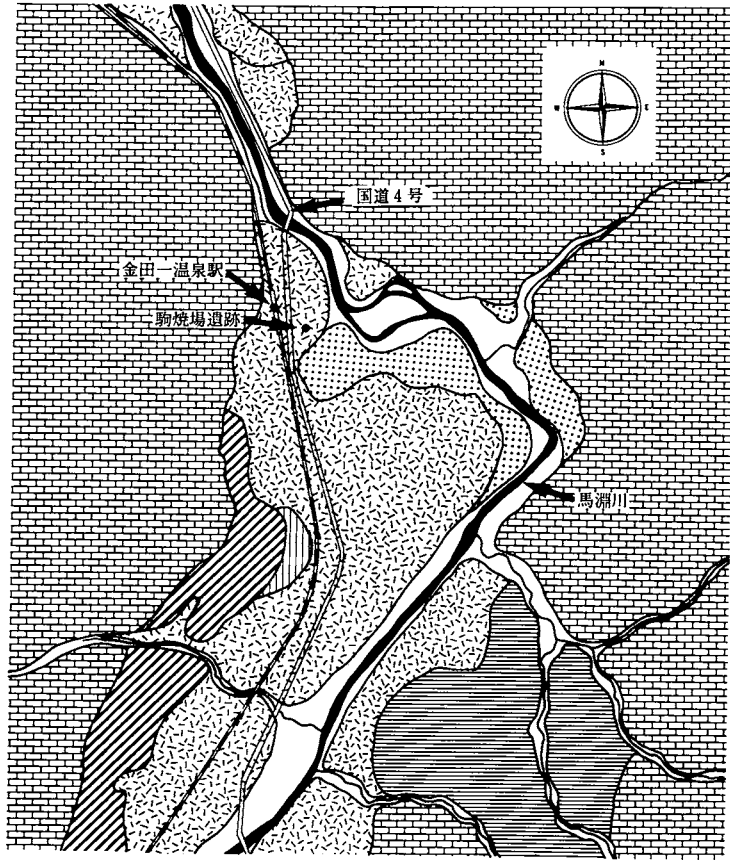
中位段丘である仁左平段丘は仁左平付近及び二戸市中心部東方に分布する標高140～220mの丘陵性段丘である。低位の福岡段丘との比高差は30m前後である。主な構成層は砂礫、砂、粘土層である。福岡高等学校裏では構成層の上位に厚さ2mの高館火山灰がのり、さらに上位を厚さ1mの八戸火山灰が覆っている。

低位段丘である福岡段丘は馬淵川の東岸の下山井、西岸の仲町秋葉、上平、米沢、上里付



			
<p>昭和57年度調査区域 (総合通所・埋文センター調査)</p>	<p>昭和58年度調査区域 (国地蔵遺跡・コブ市教育委員会調査)</p>	<p>昭和61年度調査区域 (国地蔵遺跡・埋文センター調査)</p>	<p>昭和62年度調査区域 (国地蔵遺跡・埋文センター調査)</p>

図版3：遺跡周辺の地形図



図版 4：遺跡周辺地形分類図

近、海上川、十文字川付近に分布し、低位の沖積段丘とは比高15~20mで接している。一般にかなりの起伏をもつ面上に八戸浮石流凝灰岩がのるとされ、火山灰流凝灰岩台地の性格をもっている。

この地域の沖積段丘は大池昭二氏ら(1966)によって、米沢段丘と堀野段丘とに分けられた。その後、松山力氏(1981)は一部修正を加え、沖積段丘を長嶺段丘、中町段丘、堀野段丘、中曽根段丘に分類した。

長嶺段丘は二戸市立体育館・同中央公民館をのせる段丘で低位の仲町段丘との比高差は北側、西側で4~6mである。

中町段丘は二戸市中心部の中町付近を標式地とする。上平より北方の馬淵川西岸と市中心部の長嶺~五日町付近の東岸に分布し、川床面との比高差は25~30mである。構成層は数mの砂礫層と南部浮石層を伴う黒色土層である。

堀野段丘は馬淵川東岸の矢沢から堀野付近及び杉ノ沢付近、西岸の下米沢から石切所付近にかけて分布する。中町段丘と同様に南部浮石層を伴う黒色土層をのせるが、段丘面傾斜がやや大きく川床面との比高差が15~18mと小さい。

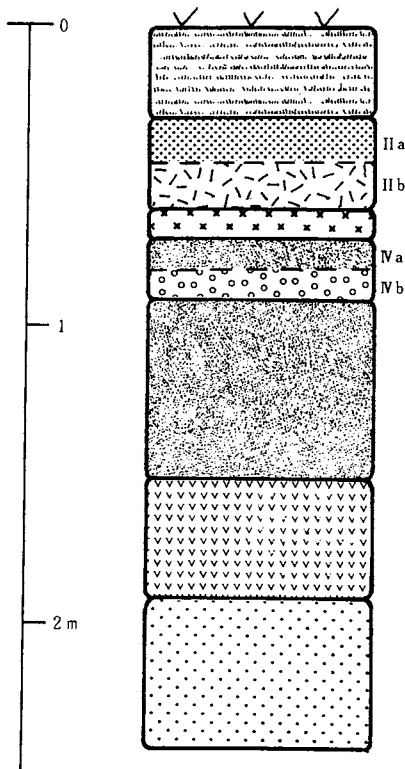
中曽根段丘は曲流する馬淵川をかかえるように存在している。高位の堀野段丘とは2~3mの比高差をもち、中振浮石層を含む黒色土層をのせるが南部浮石層を欠く。段丘面傾斜が大きい。

松山力氏のご教示によると、本遺跡をのせている面は堀野段丘に相当し、段丘縁辺部に当遺跡があるため、遺跡内の層序では南部浮石層を欠いているが、段丘としては南部浮石層をのせていることである。

本遺跡は馬淵川西岸の堀野段丘相当の沖積段丘縁辺部に立地している。段丘面の傾斜は緩やかである。低位の面とは比高差は10mあり、やや急な段丘崖をなしている。標高は81~83mである。馬淵川の川床面との比高差は12~14mである。遺跡の現況は、61年調査した南半部が保育園跡(それ以前は馬蹄所)、62年調査した北半部は宅地、畑地である。遺跡と同じ面の土地は宅地、畑地、果樹園に利用され、馬淵川と段丘崖の間の低位の平坦地は小規模な水田がつくられている。

3. 地質

岩手県北部に分布する縄文時代以降の降下火山灰砕屑物は、下位より二ノ倉火山灰、南部浮石、中振浮石、十和田b降下火山灰、十和田a降下火山灰でいずれも十和田火山灰を給源とする。最近、十和田a降下火山灰の上位に中国大陸の白頭山を起源とする白頭山火山灰一苫小牧火山灰が町田洋(1982)氏によって命名されている。



挿図 基本層序

本遺跡で明瞭に識別できる火山灰は中振浮石、十和田 a 降下火山灰である。中振浮石は当地域では砂状を呈していることからアワズナと呼ばれている。降下年代は遺構とのかかわりから縄文時代前期～中期とされている。本遺跡の北側では層として確認されているが、そのほかでは帯状またはブロック状に堆積している。

十和田 a 降下火山灰は古墳、奈良、平安時代の遺構の埋土中に、層として形成されたり、ブロックとして混じったりしている。十和田 a 降下火山灰の降下年代はバラツキがあるが遺構との関連から 9 世紀後葉から 10 世紀前葉の火山灰とみるのが妥当のようである。本遺跡で遺構内から検出されているにぶい黄橙色の火山灰は、奈良教育大学三辻利一氏による蛍光 X 線分析の結果、十和田 a 降下火山灰と同定されている。本遺跡における基本層序は、以下のとおりである。

- I 層 表土及び耕作土の黒褐色土、層厚20～30cm。
- II a 層 十和田 a 降下火山灰を母体にした腐植土、浮石混じりの黒褐色砂質シルト層、層厚20～30cm。
- II b 層 十和田 a 降下火山灰、奈良時代の竪穴住居址の埋土に堆積、再堆積で層を形成してみられる。埋土内では水の力により細粒と粗粒とに分級化してみられる。遺構外では不連続で自然な窪みなどにブロック、帯状に堆積している。層厚2～3cm。
(遺構内10～20cm)
- III 層 十和田 b 降下火山灰起源の灰白色浮石を混じる黒色砂質シルト層。層厚10～20cm。
- IV a 層 中振浮石まじりの黒色～黒褐色砂質シルト層、中振浮石起源の腐植土、層厚10～20cm。
- IV b 層 中振浮石 黄褐色～淡黄褐色の浮石、本遺跡では粒径1～3mm、層として形成されず、断続的にブロックで残っているところが多い。調査区北側で最大層厚10cmである。
- V 層 黒褐色～暗褐色シルト層、浮石を含まない。層厚50～60cm。
- VI 層 褐色砂質シルト層、粒径1cmの浮石が混じる。層厚30～40cm。
- VII 層 砂質 浮石混じる。小中礫少量含む。

4. 周辺の遺跡

全国遺跡地図『岩手県』（1984、文化庁）によると、本遺跡のある二戸市に登録されている縄文、弥生、古墳、古代、中世、近世の遺跡数は100数ヶ所である。10数年前からバイパス道路建設、高速道路建設などに伴い、記録保存を目的とした緊急発掘調査が多く行われ、現在まで発掘調査された遺跡は35ヶ所に及んでいる。竪穴住居址が検出されている遺跡を中心に、周辺の遺跡について時代、時期別に概観をのべる。遺構、遺物の時期決定については報告書に従っている。

縄文時代 早期

二戸市南西部の300mの丘陵に立地する大久保遺跡1棟、低位段丘上にある馬立I遺跡16棟、馬淵川西岸の沖積段丘上の市街地にある家の上遺跡2棟、長瀬B遺跡5棟が検出されている。貝殻文尖底土器を主体とするものである。隣接する一戸町の北館B遺跡、平船III遺跡、軽米町馬場野II遺跡からは日計式押型文の土器が出土している。長瀬B遺跡の竪穴住居址の1棟は大型で、長軸径9.6mの隅丸長方形をなしている。

前期

低位段丘に立地している火行塚遺跡から2棟、上里遺跡から2棟、竪穴住居址が検出されている。いずれも円筒土器が出土している。馬淵川西岸の沖積段丘面にのる中曽根II遺跡から円筒土器が共伴する住居址、大木系土器が伴う住居址が8棟検出されている。大木系文化圏の北限を考える上で好資料を提供している。上里遺跡の前期末葉の土壌から人骨7体が発見されている。

中期

竪穴住居址は沖積段丘上にのる沢村B遺跡から2棟（大木10式）、荒谷A遺跡19棟（円筒上層e式-2、大木8b式-14、大木9式、以降-3）、下村B遺跡5棟（大木9式）、上村遺跡5棟（大木10式）が検出されている。大半が大木式土器を伴う中葉以降のものである。円筒土器を伴う住居址は、低位段丘に立地する上里遺跡から7棟（円筒上層a式-5、d式-1、その他-1）検出されている。

後期

市内で検出されている竪穴住居址は後期初頭、前葉のものが圧倒的に多く45棟である。その分布も南西部の300m台の丘陵やそれに挟まれた低位段丘上に立地している。主な遺跡は馬立I遺跡-18棟、馬立II遺跡-27棟、青ノ久保遺跡-2棟である。低位段丘にのる遺跡では沢内遺跡から2棟検出されている。前葉のものは十腰内I式である。中葉以降のものは隣町の軽米町馬場野II、君成田IV遺跡から出土している。沖積段丘にのる下村B遺跡からは配石遺構や甕

棺墓（甕一器高61cm）などが発見されている。馬立II遺跡からは粘土紐を使って弓矢、動物、釣針などの形に貼付けている狩猟文土器、米沢遺跡からもそれに類した土器が出土している。

晩期

本遺跡から北約4 kmにある雨滝遺跡は遺物の出土量も多く、代表的な遺跡である。住居址が検出されている遺跡は沢内遺跡2棟、中曽根遺跡1棟のみである。隣町の軽米町馬場野II遺跡、駒板遺跡、大日向遺跡から遺物、住居址が検出されている。

弥生時代

馬淵川の沖積段丘に立地する大淵遺跡、長瀬B遺跡から各1棟、沢内川の小規模な低位段丘にのる馬立I遺跡から4棟。竪穴住居址が検出されている。軽米町馬場野II遺跡では11棟、大日向II遺跡では6棟検出されている。いずれも前葉の時期に位置づけられるものである。前葉の谷起島式土器の特徴的なものが火行塚遺跡から出土している。大淵遺跡からは合口甕棺や単甕葬と思われる土器も見つかっている。二戸市金田一川遺跡や軽米町君成田IV遺跡からは遠賀川系の土器が出土している。

北海道系土器（続縄文）

遺構として確認されていないが丘陵に立地している西久保遺跡や隣町の一戸町親久保II遺跡から後北C2式の土器片が見つかっている。

古墳～奈良時代

馬淵川東岸の沖積にのる堀野古墳がある。周滄の外径が12mで石組で囲われた主体部をもつ古墳が1基見つかっている。副葬品は鉄製の締め金具をもつ全長45cmの蕨手刀である。金田一にも古墳があったとされ、その出土品として勾玉が紹介されたり、蕨手刀といわれるものが保管されていたとされているがその確証はなく、存在は不明である。伝金田一古墳とされるものである。蕨手刀は軽米町外川目からも1振り出土している。

二戸市内のこの時期の竪穴住居址は10遺跡から合計195棟検出されている。馬淵川西岸の沖積段丘に立地する遺跡——長瀬B遺跡25棟、長瀬C遺跡30棟、中曽根遺跡76棟、荒谷A遺跡4棟、長瀬D遺跡5棟、上田面遺跡31棟、府金橋遺跡2棟、馬場遺跡11棟、馬淵川東岸の沖積段丘にのる遺跡——堀野遺跡11棟、300mの丘陵上にある遺跡——青ノ久保遺跡5棟である。遺跡の中で最も古く位置づけられているのが堀野遺跡、次いで上田面遺跡で7世紀後半～8世紀初頭とされている。新しく位置づけられている遺跡は中曽根II遺跡である。馬淵川西岸に遺跡が集中しているのは、二戸バイパス、金田一バイパスが西岸を通るためと東岸の段丘は狭くしかも市街地、宅地化しているためと思われる。



図版 5 : 周辺の遺跡

表1：周辺の遺跡一覧表

番号	遺跡名	種別	遺構、遺物	備考	番号	遺跡名	種別	遺構、遺物	備考
1	目時中平	散布地			34	上田面	集落跡	土師器	
2	中野	散布地			35	大川原毛	散布地		
3	道の下	散布地	土器・縄文土器		36	堀野I	集落跡・ 祭祀跡		
4	舌崎石造	散布地	土器・縄文晩期石器・土偶		37	堀野遺跡群	集落跡・ 祭祀跡	土器・縄文	
5	釜沢館	城館跡	居館		38	堀野館	館跡		
6	舌崎A	包蔵地	土器・縄文晩期		39	海蛸田	散布地	縄文土器・土師器	
7	舌崎上野	散布地	土器・縄文後期		40	細越	散布地	縄文土器	
8	舌崎	散布地	土器・縄文晩期		41	十文字II	散布地	縄文土器・土師器	
9	海上館	城館跡	居館中世		42	十文字I	散布地	縄文土器	
10	林向	散布地	土器・縄文晩期		43	下斗米館	館跡		
11	野々上I	散布地	土器・縄文		44	佐々木館	城館跡	居館・土器・縄文・土師器	
12	野々上II	散布地	土器・縄文		45	家の上			
13	出張	散布地	土師器		46	荒谷	散布地	土器晩器	
14	野々上III	散布地	土器・前期土師		47	下村遺跡群	集落跡	土師器・縄文土器	
15	小野	散布地	縄文土器		48	上平II	散布地	縄文土器	
16	勝負沢I	集落跡			49	上平I	散布地	土器・縄文土器・土師器	
17	下山井	散布地			50	上平III	散布地	土器・縄文晩期・土師器	
18	下山井館	館跡			51	荒谷B			
19	段の越	散布地			52	上平IV	集落跡	土器・縄文土器	
20	勝負沢II	散布地	縄文土器・土師器		53	上村			
21	勝負沢III	散布地	縄文土器・土師器		54	長嶺	散布地	縄文土器・	
22	親久保IX	散布地	土器・縄文後期		55	土川I	散布地	縄文土器・土師器	
23	上ノ沢II	散布地	土器(前期土器他)		56	夏間木	散布地	土器・縄文後・晩期 注口土器・土偶	
24	仏畑	散布地	土器・縄文後晩期		57	橋場	散布地	土器・縄文晩期・注口 土器・石器・土偶	
25	上ノ沢I	散布地	縄文土器・石鏃		58	高清水IX	集落跡・ 散布地		
26	駒焼場	集落跡	竪穴住居・鉄器 土師器・須恵器・縄文・中世		59	長瀬D			
27	大釜	散布地	縄文土器・土師器(?)		60	長瀬C			
28	天狗	集落跡・ 散布地	縄文晩期土器		61	米沢遺跡群	集落跡	土師器・縄文土器	
29	馬場I・II	散布地	縄文土器・土師器		62	長瀬B			
30	秋場	散布地	縄文土器		63	長瀬A			
31	館	散布地	縄文土器・土師器		64	沖			
32	四戸城	館跡			65	中沢野			
33	上町	集落跡			66	米沢			

北海道系土器（北大式土器）

市南西部の標高300mの丘陵にある大久保遺跡から口縁部に斜位、縦位の細隆起線文をもち下位に斜縄文を施文しているものや、横位の細隆起文に刺突文が施されているものがある。刺突文は貫通されているもの、内瘤をもつものがある。北大Ⅰ式から北大Ⅱ式に位置づけられるものである。堀野遺跡からも1点出土しているという。そのほか隣町の軽米町から見つまっている。

平安時代

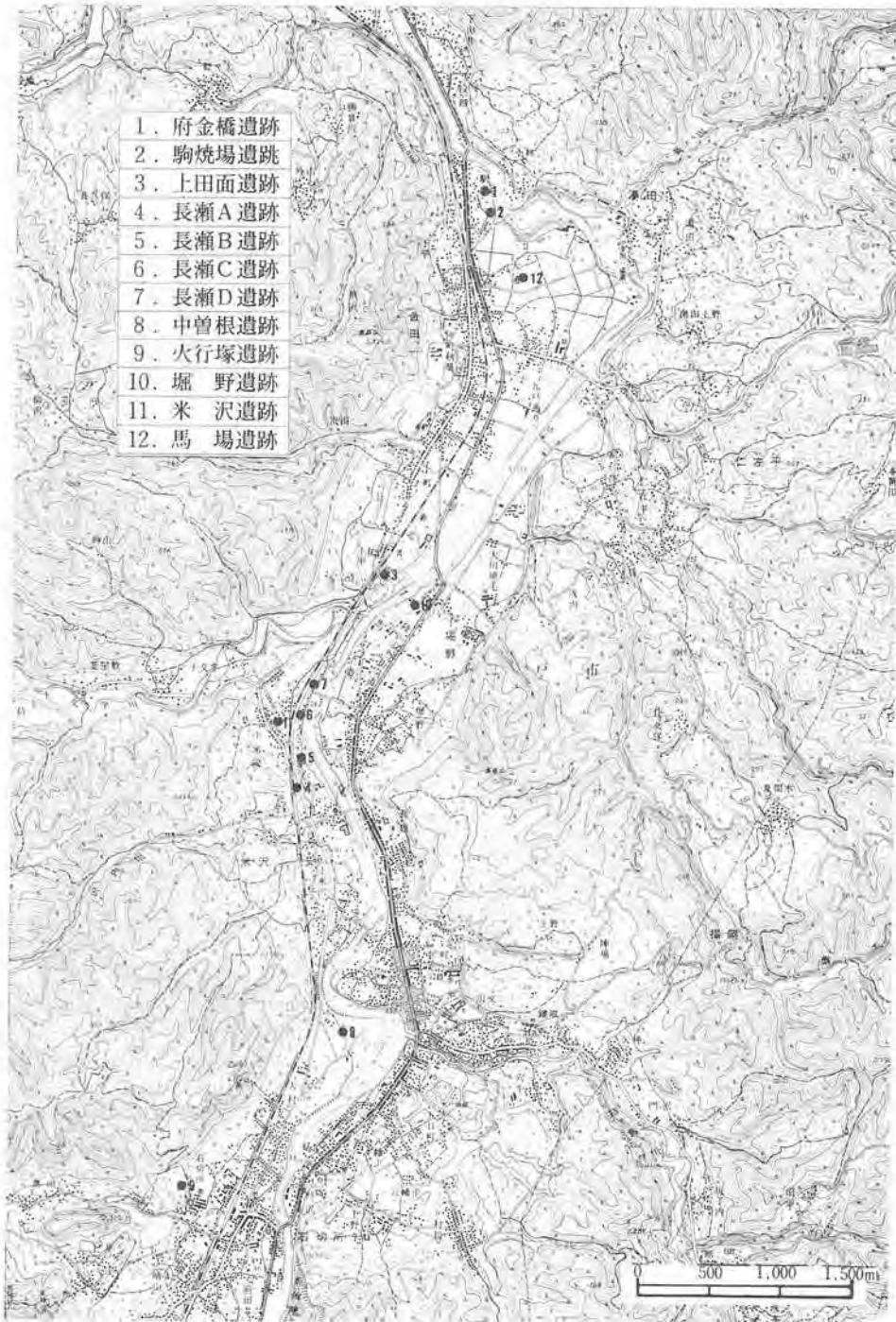
12遺跡から57棟の竪穴住居址が検出されている。馬淵川西岸の沖積段丘上にある遺跡——中曾根遺跡6棟、中曾根Ⅱ遺跡2棟、上田面遺跡2棟、長瀬A遺跡11棟、長瀬B遺跡7棟、府金橋遺跡7棟、駒焼場遺跡（昭和58年二戸市教委）2棟、馬場遺跡3棟、米沢遺跡2棟、低位段丘上にある遺跡——上里遺跡1棟、火行塚遺跡9棟、300mの丘陵上にある遺跡——青ノ久保遺跡5棟である。住居址が十和田a降下火山灰（降下年代9世紀後葉～10世紀前葉）に覆われ、降下以前に廃棄された住居址が中心である遺跡は中曾根遺跡、中曾根Ⅱ遺跡、上田面遺跡、長瀬A遺跡、馬場遺跡、米沢遺跡、火行塚遺跡である。県北部ではこの時期にカマドの付設場所が方位と共に壁中央部から隅寄りに変化している。

埋土に十和田a降下火山灰をブロックで混じる方形周溝跡が大淵遺跡1基、上里遺跡5基、長瀬C遺跡1基、長瀬D遺跡1基が検出されており、墓塚形態を考える上に良い資料である。

中世

竪穴住居址が検出されている遺跡は沖積段丘にのる長瀬C遺跡10棟、長瀬D遺跡1棟、家の上遺跡1棟、下村B遺跡2棟、駒焼場遺跡（昭和58年調査）1棟、馬場遺跡1棟である。遺物には北宗銭である淳化元宝、天聖元宝、元豊通宝、頑祐通宝などがある。低位段丘にのる上里遺跡からも1棟検出されている。形態には、出入口の張出し部をもつものもたないものがある。張出しのあるものには正方形の住居に出入施設、長方形の住居に出入施設とがある。中央部に炉をもつものもある。柱穴は壁際に並んでいる。

以上、縄文から中世まで竪穴住居址を中心に二戸市内の調査された遺跡をみてきた。本遺跡は二戸市北部の馬淵川西岸の沖積段丘にあり、北4kmは縄文晩期前葉の遺物が豊富に出土した雨滝遺跡がある。雨滝遺跡が昭和28年・35年に調査され、それ以後、金田一地区における本格的な発掘調査は昭和58年の金田一バイパスに伴う府金橋遺跡調査までない。遺物としては昭和31年に金田一にある古墳から出土したとされる勾玉や、昭和39年に最近「遠賀川系土器」と呼ばれている金田一川遺跡出土の前期弥生式土器が紹介されている。府金橋遺跡と駒焼場遺跡（二戸市教委により昭和57年に調査）は東西に連続する遺跡であり、当センターが調査した駒焼場遺跡は府金橋遺跡の南側と接続している。前2遺跡の発掘調査の成果は奈良時代の竪穴住



図版 6：発堀調査された周辺の古代遺跡分布図

表2：遺跡周辺の発掘調査された古代・中世の遺跡

番号	遺跡名	古墳	古代の竪穴住居址			古代の土坑			古代の周溝跡		古代の溝跡	中世の竪穴住居址	備考
			奈良	平安	不明	奈良	平安	不明	円形	方形			
1	府金橋遺跡		2	7	1		7		1				
2	駒焼場遺跡			3								1	昭和58年 一ノ宮教委 昭和61,62年 当センター調査
2	駒焼場遺跡		6	39									
3	上田面遺跡		26	2	5	7			1(奈良)				
4	長瀬A遺跡		13				2						
5	長瀬B遺跡		25	7			8		2				
6	長瀬C遺跡		24					9		1	2	9	
6	長瀬C遺跡(第2次)		6									1	
7	長瀬D遺跡		5							1	1	1	
8	中曽根遺跡			5	1		2		13				
8	中曽根II遺跡		76	2	2				28				
9	火行塚遺跡			9			10		5	1	1		
10	堀野遺跡	1	11						2				
11	米沢遺跡			2									
12	馬場遺跡		11	3				6				1	
13	青ノ久保遺跡		5	5									
14	上里遺跡			1			1		5	5		1	
15	家の上遺跡											1	
16	沢内B遺跡											4	
17	荒谷A遺跡		4										

居址2棟、平安時代の竪穴住居址8棟、中世の竪穴住居址1棟、古代の円形周溝跡1基など古代を中心とした遺構が検出され、この地域にも古代の人々が生活していたことが確認されている。

文献によると、北上川中流域地帯は坂上田村麻呂によって征討され、802年に水沢に胆沢城、803年に紫波城が築城され制圧されることになる。811年に文室綿麻呂らにより閉伊・爾薩体地方の蝦夷を征伐し、蝦夷地の平定を完了している。爾薩体のあるこの地方は9世紀初め頃に中央政府に組み込まれていくことになる。しかし、878年の元慶の乱に出羽の夷俘が反乱をおこし、救援軍2,400余人が北上川流域より鹿角を経て秋田に至っている。北東北は以前として不安定な状況が続いていることを示している。平安時代中頃、地方政治の統制がゆるみはじめ、その頃、厨川柵を本拠地とし、奥六郡（岩手、紫波、稗貫、江刺、和賀、胆沢）を占有していたのは在地の安倍氏であった。前九年の役（1051～1062）、後三年の役（1083～1087）を経て奥羽両国を支配するようになったのは藤原清衡であった。三代にわたって藤原氏は北方の王者としてこの地に君臨することになる。

本遺跡は政府軍に征討される以前の奈良時代の竪穴住居址、征伐以後、安倍氏から藤原氏に権力が移る平安中期～後期にかけての竪穴住居址、大溝跡、土坑、方形周溝跡が検出されている。

III. 調査方法と室内整理

1. 野外調査の方法

調査区の設定と遺構名

調査範囲は東西幅約30m、南北の長さ約90mの道路建設の範囲である。測量座標は調査区南側と北側に業者に外注して杭1、杭2の任意の2点を設置してもらい、杭1と杭2を結んだ線をグリッドの南北方向とし、杭1を座標の原点とした。原点より北へ1m、2mはN1、N2、南へはS1、S2、同様に東西にはE1、E2、W1、W2と表した。調査区は原点より40m×40mの大区画を設定し、南から北へI、II、IIIのローマ数字をつけ、西から東にA、Bのアルファベット文字をつけ、大区画をIIA、IIBと呼ぶことにした。それぞれの大区画は4m×4mの小区画（グリット）100個に分割し、南から北へ0～9のアラビア数字を、西から東へa～jのアルファベット小文字をつけ大区画と組み合わせてIIA-6b、IIIB-2aのように呼んだ。粗掘りの際に出土した遺物や遺構外の遺物は4m×4mの小区画毎に記名して取り上げた。

検出された遺構は、大区画毎に分け、竪穴住居址には1～、土坑、墓墳には51～、大溝跡、溝跡には101～、焼土遺構には151～の番号を付し、大区画の名前と組み合わせて、IIIA-2住居址、IIIB-53土坑、IIIA-102溝跡と呼称した。遺構が2つの大区画にまたがっている場合、遺構が多く占めている方の大区画名を使用した。必ずしも厳密ではない。

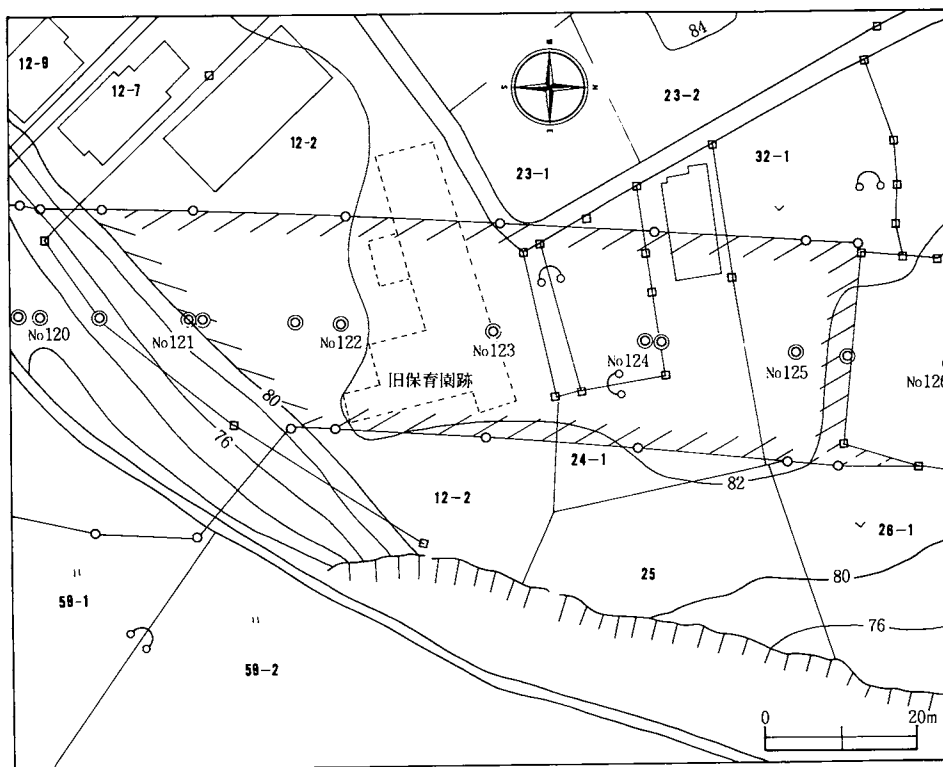
粗掘り、遺構検出、精査

粗掘りは畑地については手掘り、宅地跡及び保育園跡は重機によった。埋土に十和田a降下火山灰が層またはブロックで入る古代の遺構の検出面はII層上面であるが、そのほかはIII層またはIV層である。表土を取り除いた後、徐々に掘り下げて遺構の検出を行った。遺構の重複が多く遺構の切り合いを識別できる目になるまでには大分時間を要した。

遺構の精査は住居址は4分法、土坑、墓墳、柱穴状ピットは2分法を原則とし、大溝跡は遺構の切り合いの新旧を確認することもあり適宜に土層観察用の畦畔（ベルト）を設けて調査をした。遺構内出土の遺物は埋土中のものはQ₁～Q₄の4分割、Q₁、Q₂の2分割にし、層位または埋土上部、埋土下部をつけ、IIIA-3（住）Q₃埋土下部のように記入して取り上げた。床面出土の遺物は写真撮影後、図面にのせ通し番号を付し、IVA-2（住）床面No3と記入し取り上げた。

実測、写真

実測は2人一組で3組つくり実測作業を行った。簡易な遣り方法を採用し、実測の縮尺は、



図版7：調査区域地形図

大溝跡が40分の1、その他の遺構が20分の1に統一した。

写真撮影は2～3名の調査員が担当し専属にしている。検出状況、埋土土層断面、焼失住居址の炭化材出土状況、完掘全景、カマド・炉の断ち割り、遺物出土状況などできるだけ多くの状況を記録するようになった。

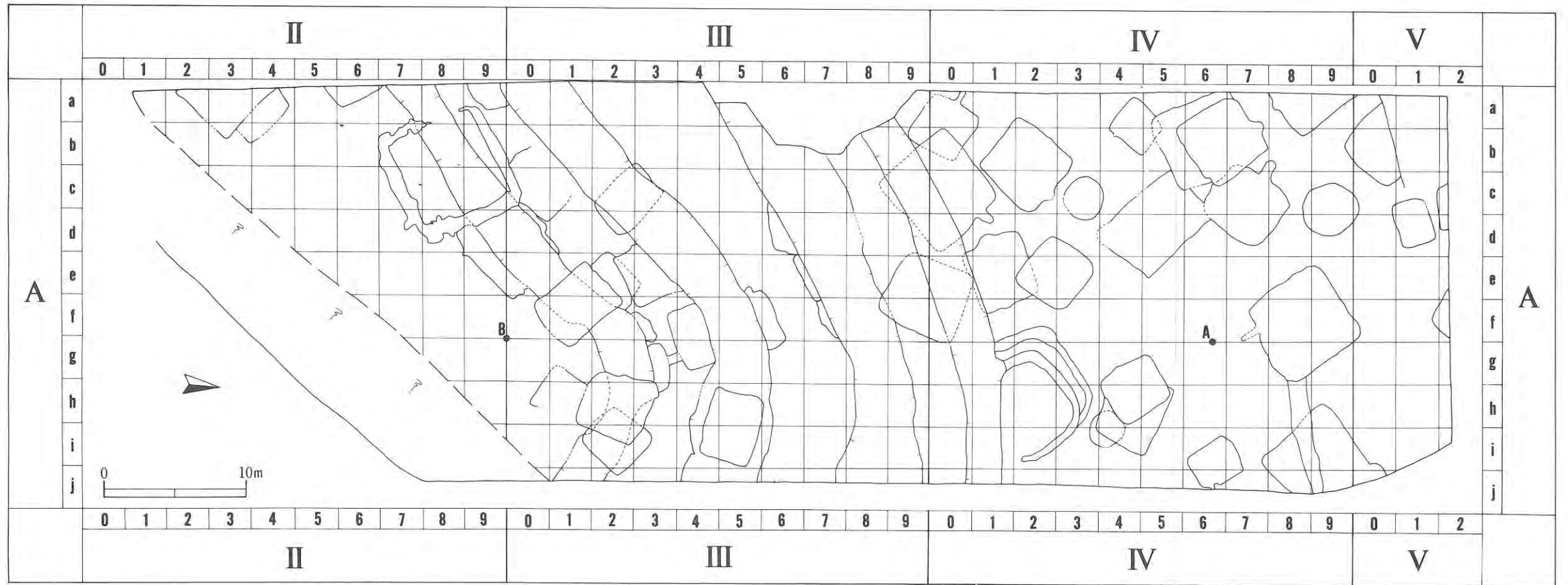
写真撮影には6×7 cm判カメラ（白黒用）1台、35mm判カメラ（白黒、カラーズライド用）2台を使用した。

2. 室内整理

室内整理は昭和61年11月1日～62年3月25日、62年11月1日～63年3月25日の期間で行った。

遺構

・実測してきた図面の座標、セクションポイントの位置、基準高などを点検しながら遺構ごとに第2原図を作成し、報告書用の土層注記は別紙に箇条書に記して第2原図に付した。



図版 8 : 基準点及びグリッド配置図

・第2原図をもとにトレースし、スクリーン・トーンを貼り、スケールをつけ図版作成を行った。トレース図は原則として20分の1、40分の1である。

・本報告の図版はトレース図版を一定に縮尺（住居址—12分の5、土坑—2分の1）、不定縮尺（大溝跡）に縮小したものである。

遺物

・土器は水洗、注記後、遺構外、遺構内に分け、遺構内は遺構ごとに接合した。最後には、隣接する遺構から出土した土器、遺構の土器も合わせて接合、復元をした。

・実測する土器は、接合復元できたもののほかに、4分の1以上残存し反転実測できるもの、4分の1未満であるが遺構とのかかわりで取り上げなければならないもの（平面実測）などがある。これらの土器は遺構内は遺構順に1～、遺構外は801～の番号を付けて登録した。

・登録された土器は、調査員が土器全体の調整を表している部分を選んで、チョーク、鉛筆で調整痕をしるし、室内協力員が原寸で実測した。調整痕の実測範囲は内外面共4分の1を目安とした。

・調整にはヘラナデ、ヘラケズリ、ヘラミガキ、ハケメ調整などがあるが、ヘラケズリともヘラナデとも断定できない調整はナデ状のヘラケズリ調整とし、その表現方法も両者の表し方を組み合わせて示した。

・輪積み痕は明瞭にみえる部分のみ実測した。

・拓本は底部の木葉痕、回転糸切り痕、須恵器体部のタタキ目痕、当て具痕のみ行った。

・4分の1以上2分の1未満で反転実測した土器は口縁部の線を半分まで引き、2分の1以上あるのは全部引いて表している。

・ロクロ使用の土器は口縁部、ロクロ痕などを直線で表し、ロクロ不使用の土器はフリー・ハンドで表現した。

・鉄製品は錆付着のままモノクロ写真、X線写真を撮った後で、錆を落とし、実測した。

・須恵器、酸化焰焼成の須恵器（須恵系土器）は断面を黒く塗りつぶして表した。

・器面に黒色処理が施されているものは、スクリーン・トーンを2分の1貼って表現した。

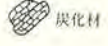
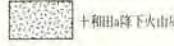
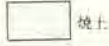
・土器実測図の左上には法量（口径・器高・底径）を、右上に出土地点を記した。反転実測で口径、底径を推定したものは（ ）、器高の残存高は〔 〕でくくって表した。

・本報告の遺物図版は土器、鉄器が縮尺3分の1、土製品、石器は大小に応じて原寸、2分の1、3分の1に分けて縮小されている。

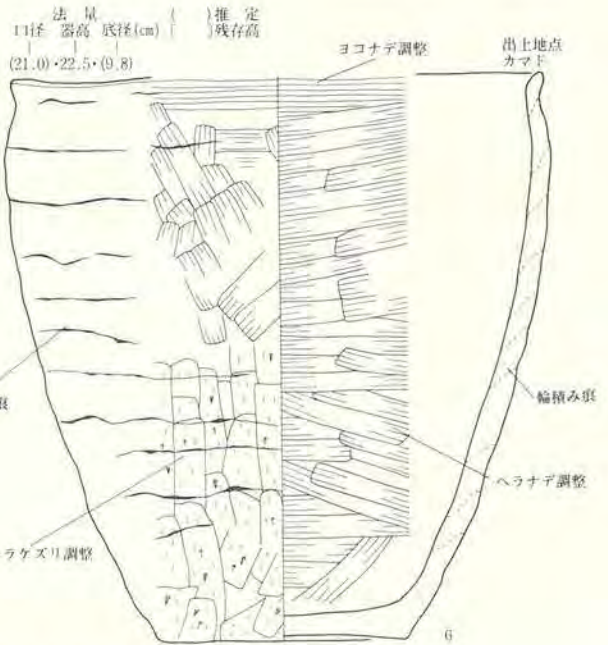
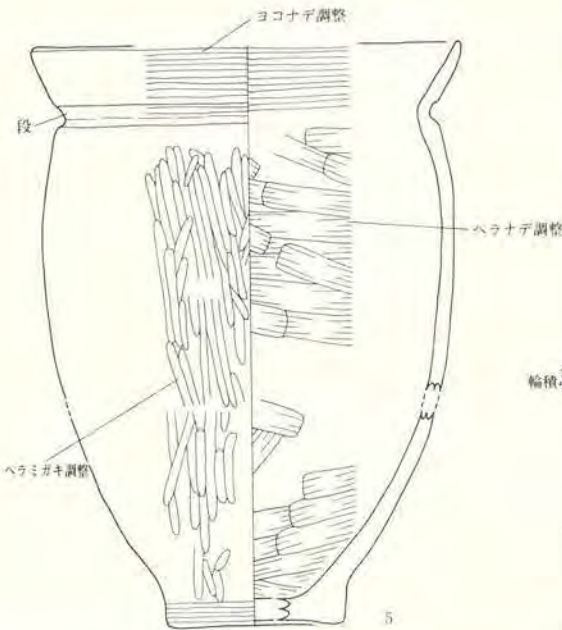
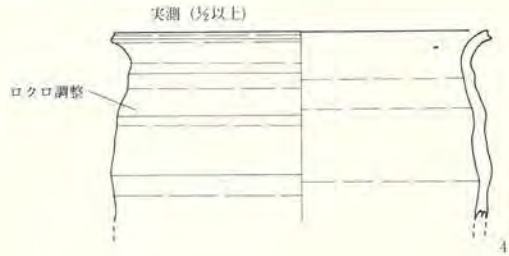
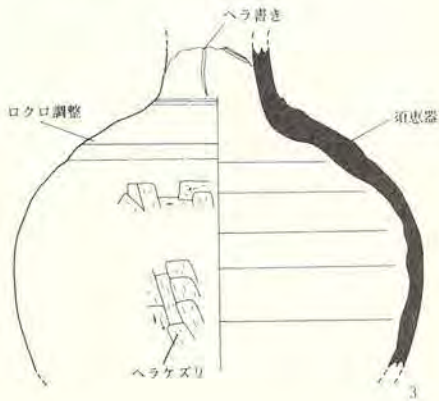
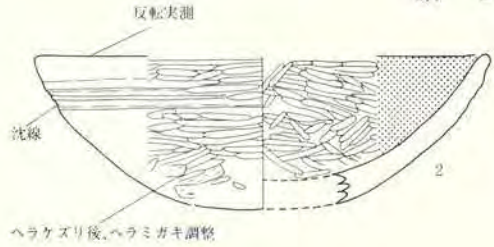
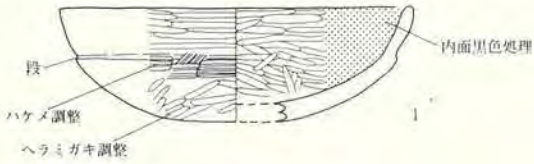
P.....土器

G.....礫

P₁・P₂・P₃.....柱穴又は柱穴状ビット

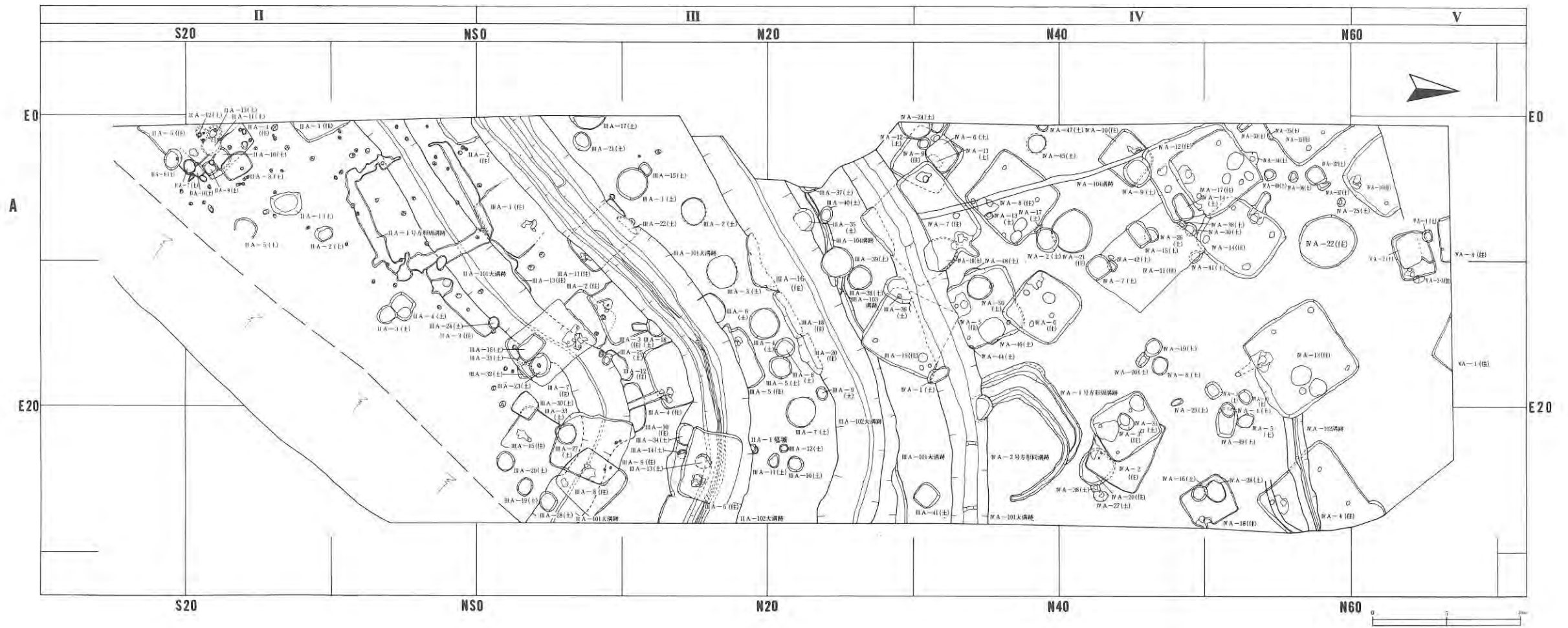


1,2,5,6 ロクロ不使用
3,4 ロクロ使用



法量 () 推定
口径 器高 底径(cm) | 残存高
(21.0)・(22.5)・(9.8)

図版9：スクリーントーンの表し方、土器の器面調整、計測値、出土地点の表し方



図版10：駒焼場遺跡遺構配置図

IV 検出された遺構と遺物

61年、62年度の発掘調査で検出された遺構は縄文時代の竪穴住居址状遺構3棟、古代の竪穴住居址45棟（奈良時代7棟、平安時代33棟、不明5棟）、平安時代の大溝跡4条、方形周溝跡3基、縄文～古代の土坑100基、墓塚2基、溝跡、柱穴群である。

縄文時代の住居址状遺構は調査区北側半分、奈良時代の竪穴住居址は全体にある程度の間隔をもって散在している。平安時代の竪穴住居址は全体にかなりの密度で分布し、平安時代以前の遺構を切ったり、平安時代同士の住居址や大溝跡と重複したりしてかなり複雑な分布をしている。平安時代の竪穴住居址は大溝跡以前のもの、大溝跡とほぼ同時期のもの、大溝跡以降のものに分けられる。

大溝跡は2条1組で2組あり時間差があり、数回の改修が行われている。空中写真の判読から西側にのびている大溝跡が90°曲がって北側に真直のびているようである。

平安時代の貯蔵穴と思われる土坑は調査区中央部を中心に分布している。方形周溝跡3基のうち2期は同じ場所で切り合っている。墓塚3基は近世以降のもので一部骨片が残存していた。

出土遺物は土師器中心である。土師器はロクロ使用よりロクロ不使用のものが圧倒的に多い。ロクロ不使用の奈良、平安時代の土師器甕のうち、粗いヘラケズリ調整されている平安時代のもが大半である。そのほかの遺物としては、縄文後期～晩期の土器、須恵器、鞆の羽口、土製・鉄製の紡錘車、鉄鎌、雁股、刀子、鎌、手鎌、鉄鈴、手斧、鉄滓、砥石、磨石、石鏃、琥珀、炭化した穀類、魚類・小動物の骨片、人骨などである。大溝跡と関係する武器類が多く出土するのは注目される。

1. 縄文時代の竪穴住居址状遺構

中振浮石層を多く混じるIVa層を切り込んでつくられている。検出された遺構は、炉が検出されていないが、柱穴をもつものもあり、規模もある程度大きく、平面形も整っており、床面も平坦であることから、竪穴住居址状遺構として取扱った。

IVA-20住居址状遺構

遺 構 (図版11, 写真図版5)

本遺構は調査区中央部東側にあり、西側上半部の大半をIVA-2・3住居址に、北側をIVA-38土坑に切られている。検出面は中振浮石混じりの黒褐色土層の上面である。IVA-2住居

址のカマドを断ち割った際に、その断面に遺構がみえ存在が確認されたものである。

埋土は上半部層が黒色砂質シルト層と極暗褐色シルト層で、下半部層が幾分中礫浮石を混じる黒褐色シルト層で占められている。

遺構は西側がやや不整な円形をなし、長径2.6m、短径2.3mの規模をもつものである。最大壁高は23cmである。壁は床面は丸味をもってつながる。床面は平坦で硬くしまっていない。炉、柱穴は検出されていない。本遺構はIVA-38土坑より古い。

出土遺物はない。

IVA-21住居址状遺構

遺 構（図版11, 写真図版6）

本遺構は調査区中央部西側にあり、南側をIVA-2土坑に切られ、全体を耕作痕による攪乱を受けている。西にIVA-8住居址、東にIVA-11住居址がある。検出面は中礫浮石を混じる黒褐色砂質シルト層上面である。

埋土は上部層が黒色砂質シルト層、下部層が中礫浮石を混じる暗褐色～褐色砂質シルト層である。

遺構は耕作痕による攪乱を多く受けているため、残存状態が悪くまた掘り過ぎがある。写真図版では段状の床面になっているが、実際はやや緩かな傾きで床面へとつながると思われる。遺構は直径2.8mの規模をもち円形をなしている。平均壁高は17cmである。

床面はしまりがなく幾分凹凸がある。柱穴状ピットが壁際周囲から多く検出されている。

北西と南東壁から検出されているP₁（径24×36cm、深さ14cm）、P₂（径32×41cm、深さ27cm）の2個は規模、位置から柱穴としてもよいと考えられる。そのほかの柱穴状ピットの規模はP₃（径19cm、深さ7cm）、P₄（径14cm、深さ13cm）、P₅（径11cm、深さ11cm）、P₆（径13cm、深さ7cm）、P₇（径14cm、深さ14cm）である。

周溝、炉は検出されていない。本遺構はIVA-2土坑より古い。

出土遺物はない。

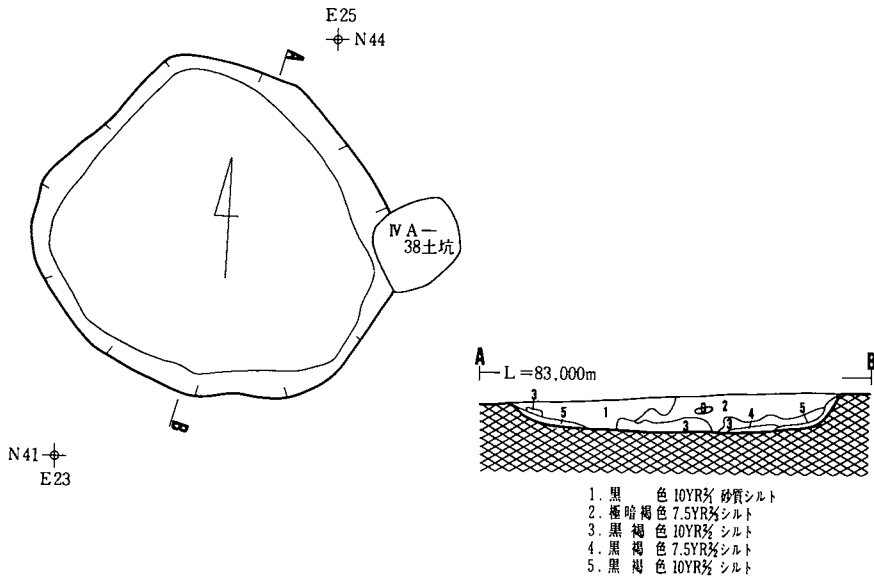
IVA-22住居址状遺構

遺 構（図版12, 写真図版7）

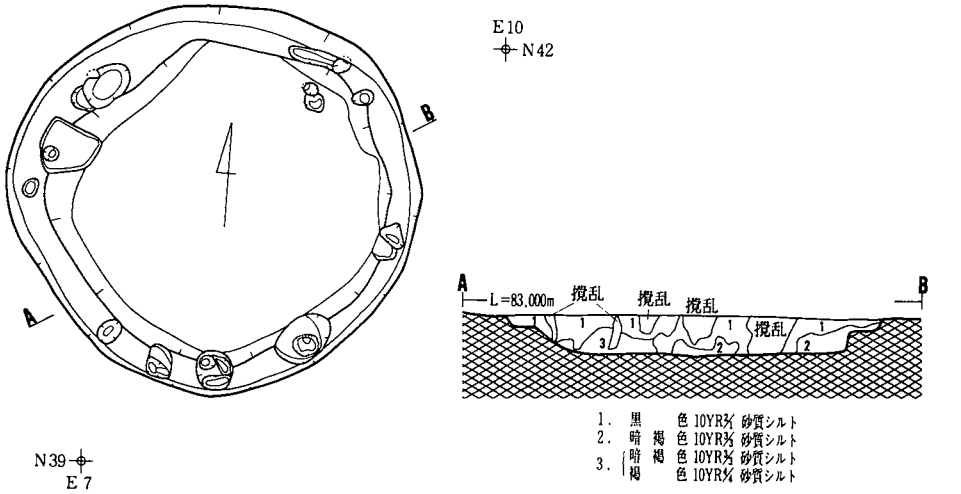
本遺構は調査区北西端にあり、北にIVA-16住居址、西にIVA-15住居址、東にIVA-13住居址、南にIVA-14住居址がある。検出面は中礫浮石混じりの黒褐色砂質シルト層、基本層序IVa層である。

埋土は西側で多く暗褐色シルトがブロックで混じり、全体に中礫浮石混じりの黒褐色砂質シ

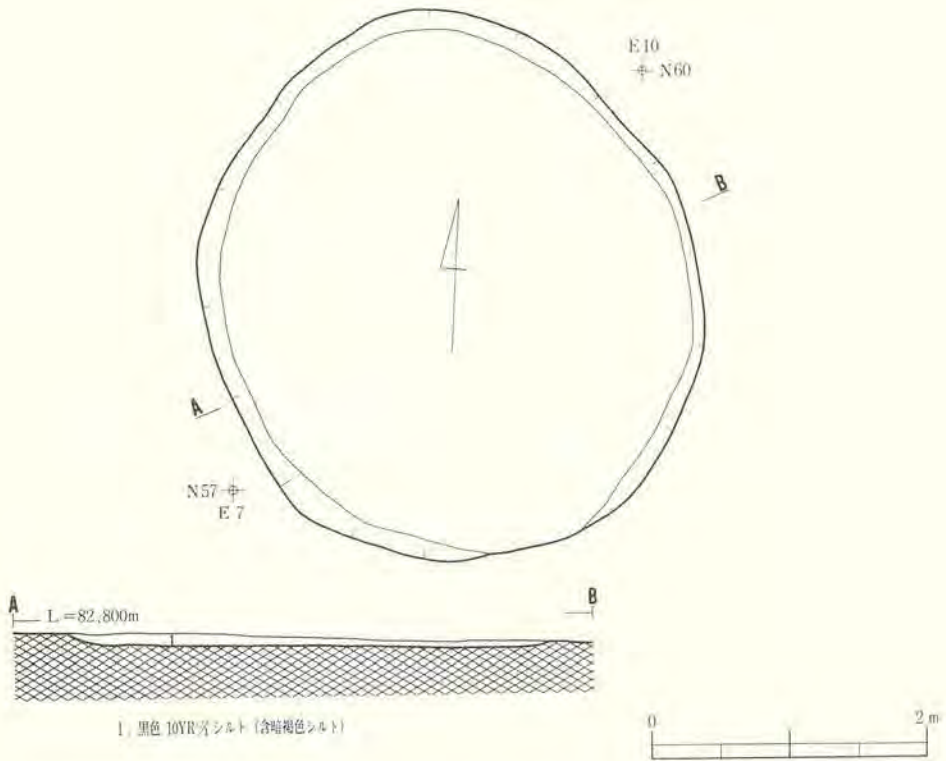
IV A-20住居址状遺構



IV A-21住居址状遺構



図版11：IV A-20・21住居址状遺構



図版12：ⅣA-22住居址状遺構

ルト層で占められている。

本遺構は長径4.1m、短径3.6mの規模をもち、平面形がほぼ円形をなしている。最大壁高は8 cmである。掘り込み面は更に上にあつたと思われる。

床面は幾分凹凸があり、しまっていない。中振浮石がブロックで床面に露出している。貼り床は施されていない。南壁側の床面に三角状をなした一段高い部分がある。その機能については不明である。壁は緩い傾斜で立ち上がる。

柱穴、炉、周溝は検出されていない。

遺構内からの出土遺物はない。遺構周辺から縄文後期前葉の土器片が若干出土している。

2. 古代の竪穴住居址

検出された古代の竪穴住居址は45棟である。奈良時代のもの7棟、平安時代のもの33棟、不明5棟である。奈良時代の竪穴住居址は平安時代の竪穴住居や大溝に切られており、完形なものはない。埋土には十和田a降下火山灰の再堆積層がみられる。平安時代の竪穴住居址は互いに複雑に重複し、また大溝跡とも切り合っている。内部に貯蔵穴をもつものがある。柱穴は不明瞭なものも多く、床を掘り下げて発見されたものが多い。

II A—1 住居址

遺構（図版—13, 写真図版—8）

本遺構は調査区南端の西側にあり、南約3mにII A—5住居址、北約6mにII A—2住居址がある。検出されているのは北東壁から南東壁にかけての部分で、大部分は調査区域外にある。遺構は表土を約20cm取り除いた中振浮石起源の黒褐色層（基本層序IV a層）の上面で検出された。

埋土は暗褐色シルトのブロック・中振浮石を多く、炭化物を少量混じる黒褐色シルトの単層で占められている。ゲートボール場であったため、埋土上面は硬くしまっている。

検出されている部分での壁の長さは北東壁が³3.28m、南東壁が³1.94mである。形状はやや隅丸な方形をなしていると推定される。カマドの位置は不明である。壁高は北東壁で17～22cm、南東壁で3～16cmである。南東壁の壁高が一部低いのは検出時に掘りすぎがあるためである。

床面はほぼ平坦でしまっている。貼り床は施されていない。北東壁際の床面が⁵4×60cmの範囲で攪乱を受けている。

柱穴状のピットはP₁（径25×27cm・深さ19cm）、P₂（径25×28cm・深さ26cm）、P₃（径18×20cm・深さ18cm）の3個が検出されている。P₁は南東壁、P₃は北東壁に接し、P₂は一部調査区域外にある。これらの埋土は黒褐色シルトの単層で占められている。P₁の埋土には炭化物、焼土粒、P₂の埋土には褐色シルトのブロックが少量混じる。P₁、P₂、P₃のうち、P₁は位置から主柱穴である可能性がある。住居址全体が検出されていないため、柱穴の対応関係が不明であるため断定することはできない。P₂、P₃についての機能は不明である。周溝は巡らせていない。

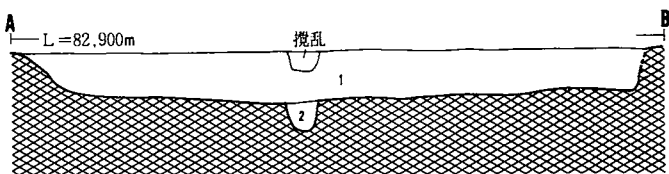
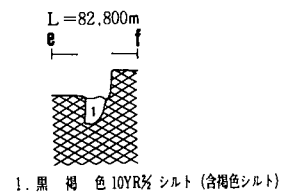
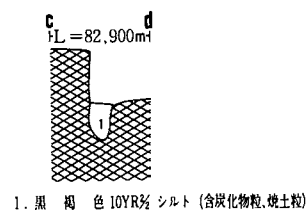
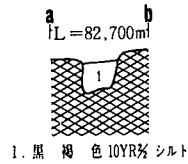
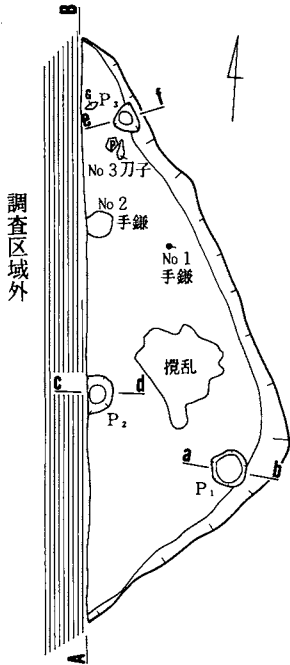
住居址の主軸方位は北西—南東または北東—南西である。他の遺構との重複はない。

出土遺物（図版—98, 写真図版—92）

（床面）土師器甕形土器の体部片（1）、鉄製品 手鎌（2、4）、刀子（3）が出土している。2は目釘式の手鎌である。左端が一部欠損し弯曲しているが原形は幅1.5cm、長さ8.6

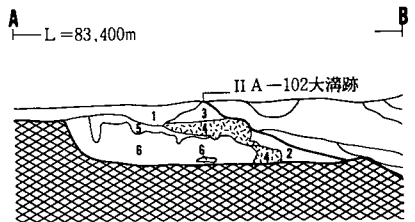
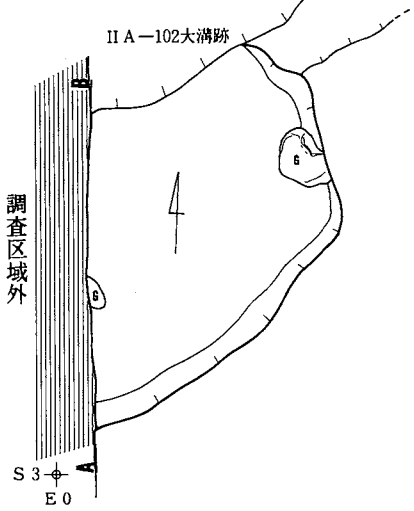
II A-1 住居址

E 2
 ⊕ S 8

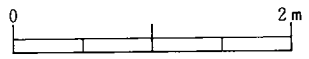


E 2
 ⊕ S 1

II A-2 住居址



1. 黒褐色 10YR 矽土 (含十和田a降下火山灰、暗褐色シルト、炭化物)
2. 黒褐色 10YR 矽土 (含暗褐色シルト、十和田a降下火山灰)
3. 極暗褐色 7.5YR 矽土 (含十和田a降下火山灰)
4. 濃い黄褐色 10YR 矽土 (十和田a降下火山灰)
5. 暗褐色 10YR 矽土 (含十和田a降下火山灰)
6. 黒色 10YR 矽土 (含十和田a降下火山灰)



図版13：II A-1・2住居址

cm (推定)、最大厚0.8cmである。右側には径0.3cm、長さ3.5cmの目釘が内側に曲がった形で遺存している。木製のものが取り付けられていたと思われる。刀部は使用などにより内弯状に変形している。3は刀子で身の先端と茎の部分が欠損している。身の長さは15cm(推定)、刀元の身幅1.8cm、棟厚0.5cmである。4は挟着式の手鎌である。左右の上端を三角状に(長さ3cm、最大幅0.5cm)に折り返している。刀部は使用や砥き減りによって内弯状に変形している。長さ8.9cm、最大幅2.0cm、最大厚0.8cmである。

II A—2 住居址

遺構 (図版—13, 写真図版—9)

本遺構は調査区の南西側にあり、東約3mにIII A—1住居址、南約6mにII A—1住居址がある。表土を10~15cm掘り下げた面で十和田a降下火山灰(三辻利一氏の鑑定による)の広がりが見られ遺構と判明したものである。住居址は北側がII A—102大溝跡に切られ、西側が調査区域外にあり、北東壁と南東壁の一部が検出されているにすぎない。

埋土は十和田a降下火山灰が上位から床面にかけてU字状に堆積(層厚8~24cm)しているほか全体に小ブロックで少量ながら混じる。層をなしている十和田a降下火山灰は分級化が発達しており降下して堆積したほか水によって運ばれてきたもののがかなり多く占められている(松山力氏の御教示による)。十和田a降下火山灰の上位・下位は暗褐色シルトの小ブロックを混じる黒色シルトで大部分が占められている。

検出されている壁の長さは北東壁が1.52m、南東壁が2.24mである。形状はやや不整な隅丸方形をなしていると推定される。カマドの有無、位置は不明である。壁高は北東壁が22~29cm、南東壁が27~31cmである。

床は中振浮石混じりの黒褐色シルト層を掘り込んでつくられている。貼り床は施されていない。床面は幾分凹凸があり、強く踏み固められている。柱穴、周溝は検出されていない。

住居址の主軸方位は北西—南東または北東—南西である。住居址はII A—102大溝跡より古い。

出土遺物 (図版—98, 写真図版—92)

(床面) 8は半分欠損している土製の紡錘車である。上面径4.1cm、下面径4.4cm、厚さ3.4cmで上半がやや窄まるがほぼ円柱状の形態をなす。中心に径0.8~1.1cmの孔があげられている。調整はナデが中心で、側面に一部ヘラミガキがみられる。

(埋土) 土師器環形土器—5・6は口縁部片、7は底部片で内外面をヘラミガキ後、内面を黒色処理している。5、7はヘラミガキ前のヘラケズリ整形痕が残っている。5は口縁部片の中心に不明瞭ながら緩い段をもつ。7は丸底気味の平底である。3点ともロクロ未使用である。

II A-3 住居址

遺 構 (図版-14, 写真図版-10)

本遺構は調査区南側中央にあり、北にIII A-1住居址、東にIII A-7住居址が隣接している。暗褐色シルト層(基本層序V層)の上面でカマドの構成礫、焼土が検出され住居址と判明したものである。住居址の大半は南西-北東方向に走る幅約3mのII A-101大溝跡に切られており、僅かに南側の部分が残存している。

埋土は十和田a降下火山灰がブロックでやや多く、暗褐色シルトが小ブロックで混じる黒褐色シルト層で占められている。全体に中振浮石のほか灰白色の浮石も混じる。

住居址は南東壁の長さが6.1m、一部残存する北東壁が1.1m、南西壁1.2mである。形状が長方形を呈し、規模が長径6.2m、短径5m前後であるものと推定される。カマドは南東壁中央部西寄りに設けられている。壁高は南東壁で10~14cm、北東壁で7cm、南西壁で15cmである。

床は浮石混じりの褐色シルト層を掘り込んでつくられている。床面は緩い凹凸があり、あまり硬くしまっていない。貼り床は施されていない。柱穴、周溝は検出されていない。

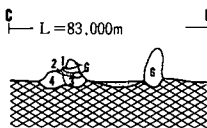
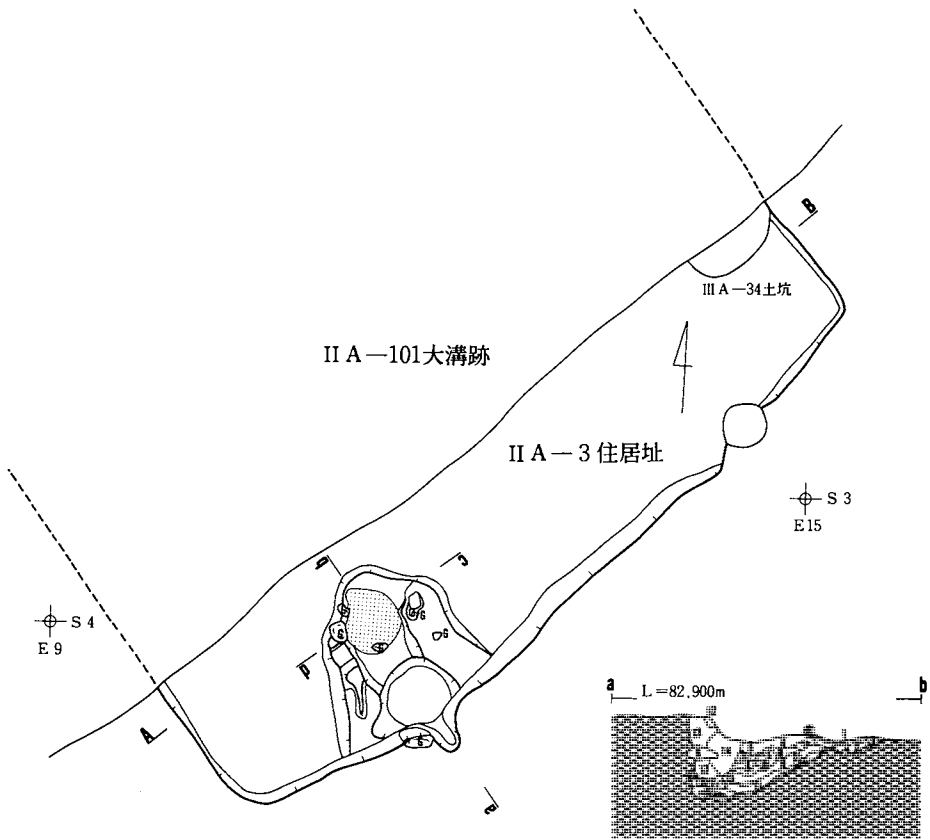
南東壁に設けられているカマドは同一場所に2回に渡って作り替えが行われている。最初のカマドは掘り抜き式の煙道をもつものである。残存している煙道はやや急な勾配で下降して煙出し口につながる。煙出し口は煙道より幾分深く底面が皿状をなす。煙出し口の埋土は暗褐色~黒褐色シルトで占められ、十和田a降下火山灰がブロックで混じる。中位に長径25cm、厚さ6~9cmの扁平な亜円礫が横位に埋まっている。この礫はかつて煙出しの上部施設を構成していた礫であったと思われる。残存する煙出し口の長さは82cmである。

新しく作り替えられたカマドは煙道が溝状の半地下式で壁際で急激に立ち上がるものである。カマドの袖は細長いまたは扁平な亜円礫を2枚に重ねて芯にしシルトでまいてつくられている。最も大きい構成礫は右袖に残っており、長径32cm、短径14cm、幅7cmである。袖の下底部は床面より7~10cm掘り込んでつくられている。燃烧部は浅皿状を呈し中心部が6cm程窪んでいる。燃烧部は径49cm、厚さ2~3cmの規模で火熱により赤色帯びている。カマド本体の幅は1.2~1.4mである。燃烧部から煙出し口までの長さは1.1mである。

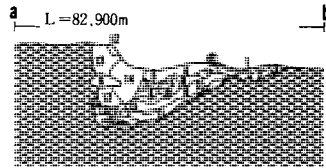
住居址の主軸方位はE-43.5°-Sである。本遺構はII A-101大溝跡、III A-24土坑、方形周溝跡に切られていることから、これらの遺構より古い。また、III A-13住居址を切られてつくられているから、III A-13住居址より新しい。

出土遺物 (図版-98・99, 写真図版-92・93)

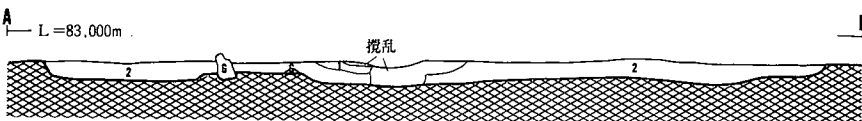
(カマド) 土師器甕形土器-9の体部外面には胎土がある程度乾いた段階で幅1.5cm前後の鋭いヘラケズリ調整が施されている。ヘラケズリ前に口縁部にはヨコナデがされている。口縁



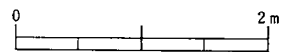
1. 黒褐色 10YR_{7/3} シルト (含焼土粒、炭化物)
2. 暗褐色 10YR_{6/3} シルト (含褐色シルト)
3. 黒褐色 10YR_{6/3} シルト (含暗褐色シルト)
4. 黒褐色 7.5YR_{6/3} シルト (含暗褐色シルト)



1. 赤褐色 5YR_{6/3} シルト 焼土
2. 暗赤褐色 5YR_{5/3} シルト (含黒褐色シルト)
3. 暗赤褐色 5YR_{5/3} シルト 焼土
4. 黒褐色 10YR_{6/3} シルト (含十和田a降下火山灰、暗褐色シルト)
5. 黒褐色 5YR_{6/3} シルト (含十和田a降下火山灰、焼土粒)
6. 暗赤褐色 5YR_{6/3} シルト 焼土
7. 暗褐色 10YR_{6/3} シルト
8. 極暗赤褐色 5YR_{6/3} シルト
9. 黒褐色 5YR_{6/3} 砂質シルト (含焼土粒)
10. 暗赤褐色 5YR_{6/3} シルト 焼土
11. 暗赤褐色 5YR_{6/3} 砂 (含焼土粒)
12. 黒褐色 10YR_{6/3} シルト (含十和田a降下火山灰)
13. 黒褐色 10YR_{6/3} シルト (含焼土粒、十和田降下火山灰)
14. 暗赤褐色 5YR_{6/3} シルト (含暗褐色シルト、黒褐色シルト、焼土粒)
15. 極暗赤褐色 5YR_{6/3} シルト (焼土塊)
16. 黒褐色 5YR_{6/3} シルト (含焼土粒、黒褐色シルト、十和田a降下火山灰)
17. 黒褐色 5YR_{6/3} シルト (含焼土粒、十和田降下火山灰)



1. 黒褐色 10YR_{7/3} シルト (含焼土塊、炭化物、暗褐色シルト)
2. 黒褐色 10YR_{6/3} シルト (含十和田a降下火山灰、暗褐色シルト、炭化物)



図版14：II A-3住居址

部は短く直上気味に外反している。内面ヘラナデ調整はヨコ、ナナメ方向である。胎土には砂粒が多くはないが全体に混じり長径3mmの小石もわずかにみられる。10は口縁部が極端に短く直上ないし外反している破片で全体が黒色帯びた色調である。口縁部は大波状をなし口唇部の厚さも一定でない。ⅢA-16土坑の埋土(中位)から出土したものと接合している。11は底部が外方に張り出している底部片である。

(埋土) 土師器小型土器-12は口縁部がほぼ真直に立ち上がる小型のものである。口縁部をヨコナデ後下から上方向にヘラケズリ調整されている。輪積みの凹凸が乗っている。埋土下部から出土している口縁部片である。甕形土器-13~18、20は口縁部の形態が、ほぼ真直に立ち上がる(13)、極端に短く内湾ないし内傾する(15、18)、極端に短く外反する(20)、短く外反する(14、16)口縁部片である。18には口縁部下位に直径3~5mmの補修孔と思われるものが1つ外側からあけられている。17は外面は浅いヘラケズリで調整されている体部片である。内外面は黒色帯びた色調である。胎土に砂が多く混じり土器表面はザラザラしている。19は底部外面に笹葉状圧痕をもつ破片である。

須恵器壺形土器-21は体部上半の破片でロクロ整形後、外面をヘラケズリで調整している。胎土分析の結果、青森県の五所川原窯群産の可能性強いとされている。甕形土器-22は外面にタタキ目痕、内面に一部アテ具痕をもつ体部片である。胎土分析の結果、産地は岩手・宮城県である。

石製品-23は円板状の形態をなしていたと思われる破片で中央部が厚い。片面に擦痕らしきものが一部みられる。用途は不明である。石質は白色細粒凝灰岩である。

ⅡA-4 住居址

遺 構 (図版-16, 写真図版-11)

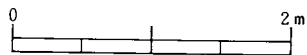
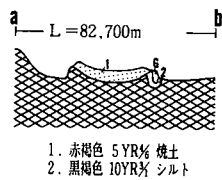
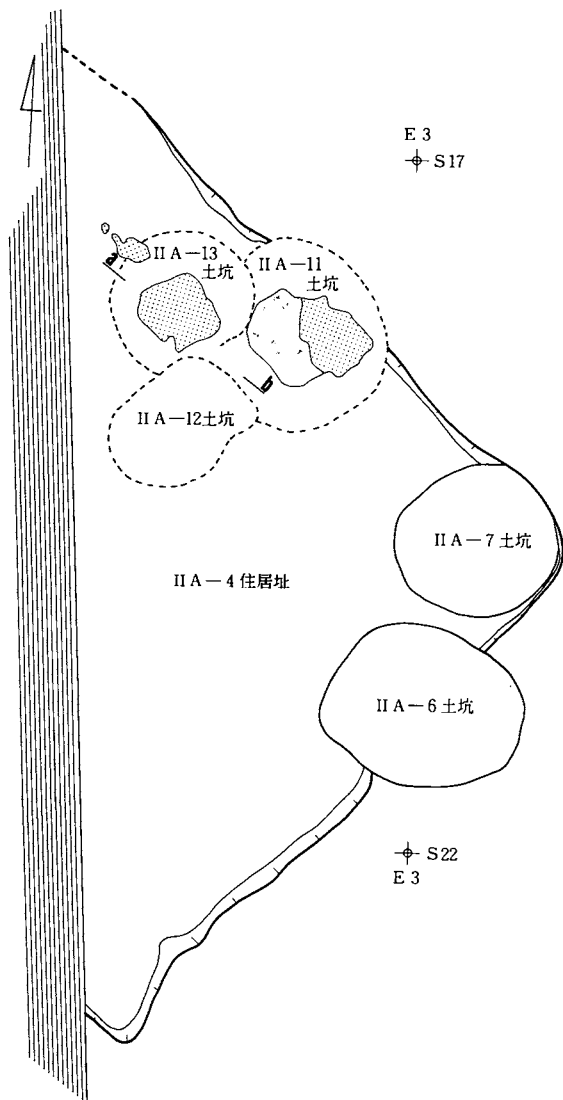
本遺構は調査区南端の西側に位置し一部調査区域外にある。表土を20cm掘り下げた面で十和田a降下火山灰混じりの黒褐色の広がりが見出され遺構と判明したものである。住居址北側はⅡA-5住居址、ⅡA-6・7・11・12・13・14土坑に切られている。

埋土は十和田a降下火山灰を大ブロック、暗褐色シルトを小ブロックで混じる黒褐色シルトの単層で占められている。

検出されている北東壁と南西壁から、住居址は4.9m×5.1mの規模をもちほぼ方形をなしていると推定される。カマドは北東壁中央部北寄りに設けられている。壁高は北東壁で8~10cm、南東壁で7~10cmである。

住居址は暗褐色シルト層(基本層序Ⅳ層)を掘り込んでつくられている。床面は凹凸があり、あまりしまっていない。貼り床は施されていない。柱穴、周溝は検出されていない。

調査区域外



図版15：II A-4 住居址

北東部に設けられているカマドはII A-5住居址に切られているため、燃烧部のみ残存する。燃烧部は中央が7 cm程窪む皿状をなし、火熱により長径59cm、短径50cm、厚さ11cmの規模で赤変している。右袖の下底部に長径16cmの細長い垂円礫が埋まっていることから、カマドの袖は礫を芯にしシルトでまいてつくられていたものと推定される。

住居址の主軸方位はN-43°-Eである。住居址はII A-5住居址、II A-6・7・11・12・13・14土坑より古い。

出土遺物 (図版-100, 写真図版-93・94)

(埋土) 土師器甕形土器-24は口縁部が極端に短く外反している口縁部片である。25は掘り方の埋土から出土している体部片で外面がヘラケズリで調整されている。26、27は底部に木葉圧痕をもつもので、外面をヘラケズリで調整されている。さらに内面には輪積み痕が顕著に残っている。粘土紐の幅は1~1.5cm程度である。

II A-5 住居址

遺構 (図版-15, 写真図版-11)

本遺構は調査区南端の西側にあり一部調査区域外にある。北約3 mにII A-1住居址がある。住居址の南側はII A-4住居址を切った上につくられている。住居址は北東壁中央部をII A-8土坑、南西隅をII A-9土坑に切られている。検出面は暗褐色シルト層(基本層序V層)上面である。表土を20cm程掘り下げた面でカマド燃烧部の焼土が検出され住居址と判明したものである。

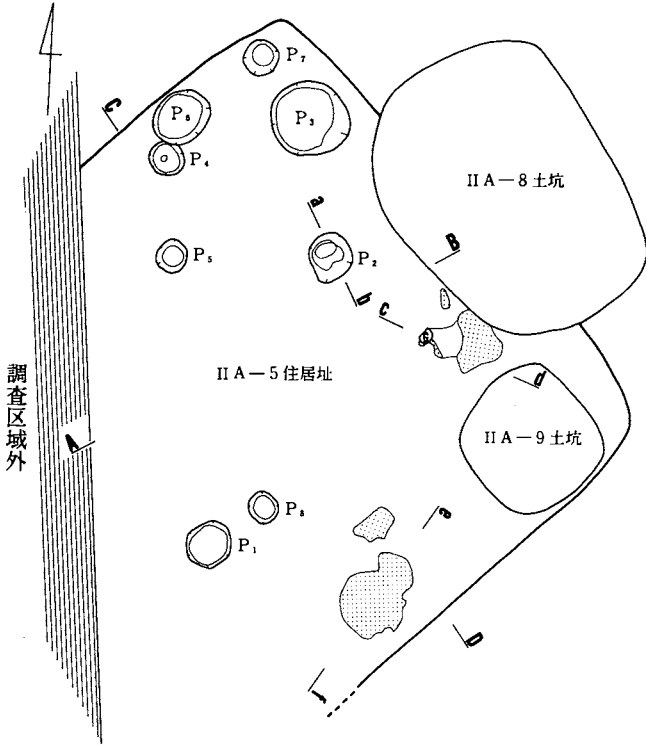
検出した面が床面であったため埋土観察のためのベルトはとれなかった。しかし、調査区域外との界の土層観察から、埋土は十和田a降下火山灰の小ブロック、炭化物、焼土粒が混じる黒褐色シルトで占められている。

住居址は4.1m×(3.9)m(推定)の規模をもち、壁が幾分外方に張り出すがほぼ方形をなしていたと推定される。壁高は不明である。

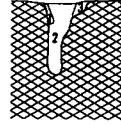
住居址は深さ10~20cmの掘り方をもつ。その埋土は十和田a降下火山灰の小ブロック、暗褐色シルトのブロックを混じる黒褐色シルトである。床面はほぼ平坦でありあまりしまっていない。

柱穴状ピットがP₁~P₈の8個検出されている。P₁~P₄の埋土は黒褐色シルトで十和田a降下火山灰が混じる。P₅~P₇の埋土は十和田a降下火山灰を含まない黒褐色シルトで、褐色シルトや暗褐色シルトが小ブロックで混じる。P₈の埋土は炭化物を混じる黒褐色シルトで占められている。住居址とほぼ同時期の柱穴状ピットはP₁~P₄である。P₅~P₇と住居址との新旧は不明である。P₈は住居址より新しい。住居址に伴う主柱穴は不明である。柱穴状ピッ

E 3
 S 15

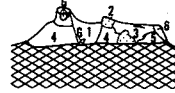


a L=82,800m b



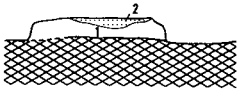
- S 18
 E 5
1. 黒褐色 10YR% シルト (含暗褐色シルト)
 2. 黒褐色 10YR% シルト (含十和田a降下火山灰、暗褐色シルト)
 3. 黒褐色 10YR% シルト (含暗褐色シルト)

c L=82,800m d

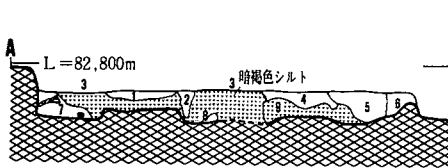


1. 黒褐色 10YR% シルト (含黒色シルト)
2. 明赤褐色 5YR% シルト 焼土
3. にぶい赤褐色 5YR% シルト (含焼土粒、炭化物)
4. 黒褐色 10YR% シルト (含焼土粒)
5. 黒褐色 10YR% シルト (含焼土粒)
6. 暗褐色 10YR% シルト

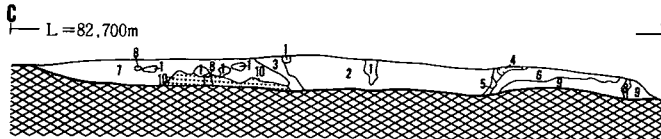
e L=82,800m f



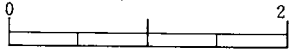
1. 黒褐色 10YR% シルト (含十和田a降下火山灰、黒色シルト、黒褐色シルト)
2. 明赤褐色 5YR% シルト 焼土



1. 黒褐色 10YR% シルト
2. 黒褐色 10YR% シルト (含十和田a降下火山灰、焼土粒、焼土)
3. 暗褐色 10YR% シルト (含炭化物、黒褐色シルト)
4. 黒褐色 10YR% シルト (含暗褐色シルト)
5. 黒褐色 10YR% シルト (含暗褐色シルト、炭化物)
6. 黒褐色 10YR% シルト (含暗褐色シルト)
7. 黒褐色 7.5YR% シルト (含十和田a降下火山灰)
8. 黒褐色 10YR% シルト (含暗褐色シルト、焼土粒)
9. 暗褐色 10YR% シルト



1. 黒褐色 10YR% シルト (含暗褐色シルト)
2. 黒褐色 10YR% シルト (含十和田a降下火山灰、焼土粒、炭化物)
3. 黒褐色 10YR% シルト (含十和田a降下火山灰)
4. 明赤褐色 5YR% シルト 焼土
5. 暗赤褐色 5YR% シルト (含焼土粒)
6. 黒褐色 7.5YR% シルト (含焼土粒、暗褐色シルト)
7. 黒褐色 10YR% 砂質シルト (含十和田a降下火山灰、焼土粒)
8. 暗褐色 10YR% シルト
9. 黒褐色 10YR% シルト (含暗褐色シルト)
10. 暗褐色 10YR% シルト



図版16：II A-5住居址

トの規模は短径・長径・深さの順に記すと、P₁ (28cm・34cm・24cm)、P₂ (32cm・34cm・49cm)、P₃ (50cm・58cm・8 cm)、P₄ (24cm・25cm・70cm)、P₅ (22cm・23cm・40cm)、P₆ (42cm・46cm・9 cm)、P₇ (25cm・27cm・32cm)、P₈ (21cm・24cm・46cm)である。周溝は検出されていない。

カマドは南東壁中央部西寄り(1号カマド)と北東壁中央部南寄りに設けられている。1号カマドは燃焼部の焼土のみ残存する。焼土の規模は短径48cm、長径62cm、厚さ7cmである。2号カマドは煙道側をIIA-8土坑、右袖側をIIA-9土坑に切られている。一部残存している左袖は礫とシルトでつくられている。燃焼部は浅皿状をなし径39cm、厚さ7cmの規模で火熱により赤色化している。2つのカマドの新旧関係は2号カマドの袖部が残存していることから、2号カマドが1号カマドより新しいと思われる。しかし、1号カマドの袖部が存在していることから、2号カマドが1号カマドより新しいと思われるが断定できない。また、1号カマドの袖部が存在していたか否かについては不明であるため、同時に存在する工房的な炉址とも考えられるが、鍛冶関係などの遺物が出土していない。

住居址の主軸方位はE-43°-S(1号カマド)、N-43°-E(2号カマド)である。本住居址はIIA-8・9土坑より古く、IIA-4住居址、IIA-10・11・12・13土坑より新しい。

出土遺物(図版-100、写真図版-94)

(埋土) 土師器坏形土器-28はロクロ使用の内面黒色処理されている底部片である。ロクロからの底部切り離しは回転糸切りである。再調整はない。底部外面に太さ1mm、長さ2cmの浅い沈線状のものがみられる。器壁の厚さは2~3mmと薄い。

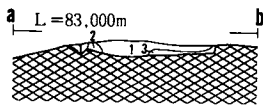
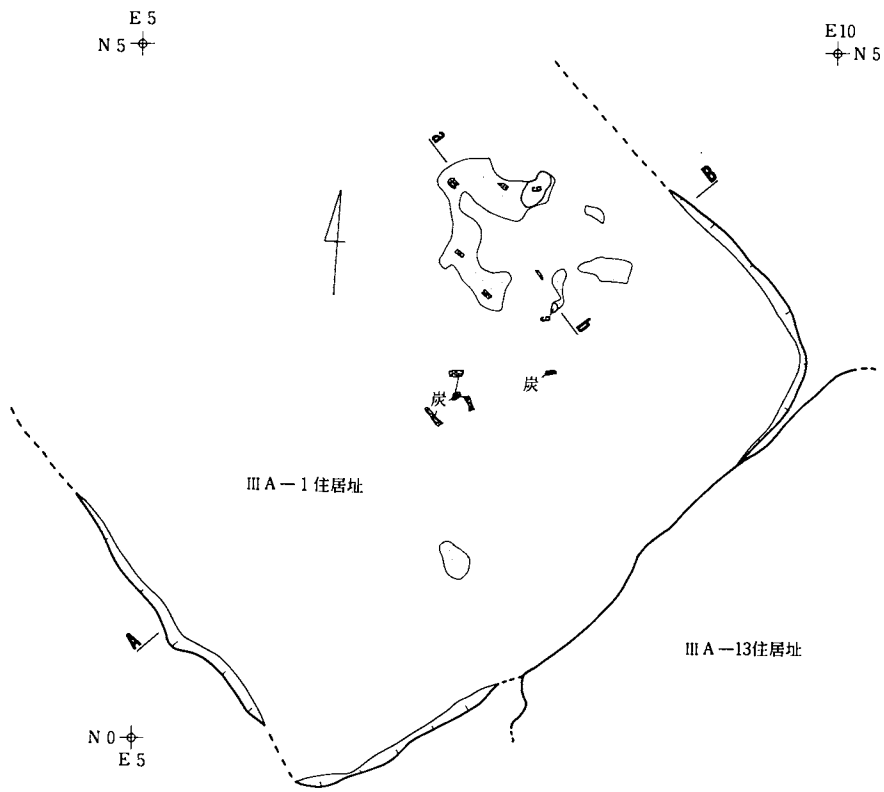
III A-1 住居址

遺構(図版-17、写真図版-12)

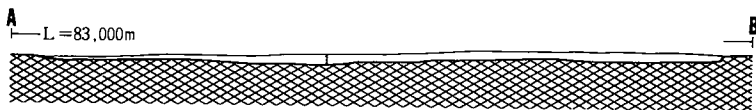
本遺構は調査区南部の西側にあり、西約4mにIIA-1住居址、東約2mにIII A-11住居址がある。検出面は黒褐色シルト層(基本層序IV a層)の上面である。炭化材や現地性焼土の広がりが見られ遺構と判明したものである。住居址は南東壁側がIIA-13住居址を切り一部IIA-1方形周溝跡に切られている。住居址は焼失住居址である。

埋土は焼土塊、炭化材を多く混じり、十和田a降下火山灰がブロックで僅かに含む黒褐色シルトで占められている。

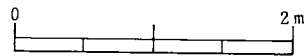
住居址は北側が消失している。残存する壁の長さは南東壁が4.8m、南西壁が2.5m、北東壁が1.6mである。検出された壁や掘り方から、住居址は一辺が4.8m前後で形状が方形をなしていたものと推定される。カマドは北東壁に設けられている。壁高は北東壁で4cm、南東壁で3cm、南西壁で2cmである。



1. 黒褐色 10YR^{2/6} シルト (含焼土粒)
2. 黒褐色 10YR^{2/6} シルト (含焼土塊、炭化物)
3. 黒色 10YR^{2/1} シルト



1. 黒褐色 10YR^{2/6} シルト (含焼土塊、炭化材、暗褐色シルト)
十和田a降下火山灰



図版17：Ⅲ A-1 住居址

床面は凹凸があるがしまっている。住居址は壁周囲に幅約1m前後の掘り方をもつ。掘り方はいくつもの土坑を並べたような形状をなしている。柱穴、周溝は検出されていない。

北東壁に設けられているカマドは削平を受け、僅かに燃焼部の一部と右袖の芯であったと推定される礫が残存する。右袖の礫は長さ28cm、幅14cm、厚さ11cmの大きさの硬質凝灰岩である。

長さ10~18cm、径3cm前後の炭化材が中央部から北東壁にかけて現地性焼土と共に床面に分布している。現地性焼土で最大のもは20cm×28cm、厚さ2cmの規模をもつ。炭化材の樹種は針葉樹（早坂松次郎氏の鑑定による）である。

住居址の主軸方位はN-41°-Eである。本住居址はIIA-13住居址より新しくIIA-1方形周溝跡より古い。

出土遺物（図版-100、写真図版-94）

（カマド） 土師器坏形土器-29は内面黒色処理が施されているロクロ使用の口縁部片である。外面はロクロナデ後一部にヘラミガキがみられる。30は単位の短い（長さ3cm程度）ヘラケズリで調整されている体部片である。31は口縁部が極端に短く外反しているものである。胎土中に砂のほかには雲母が多く混じる。底部はあるが体部下半は欠損している。

III A-2 住居址

遺構（図版-18、写真図版-12・13）

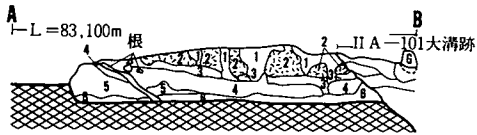
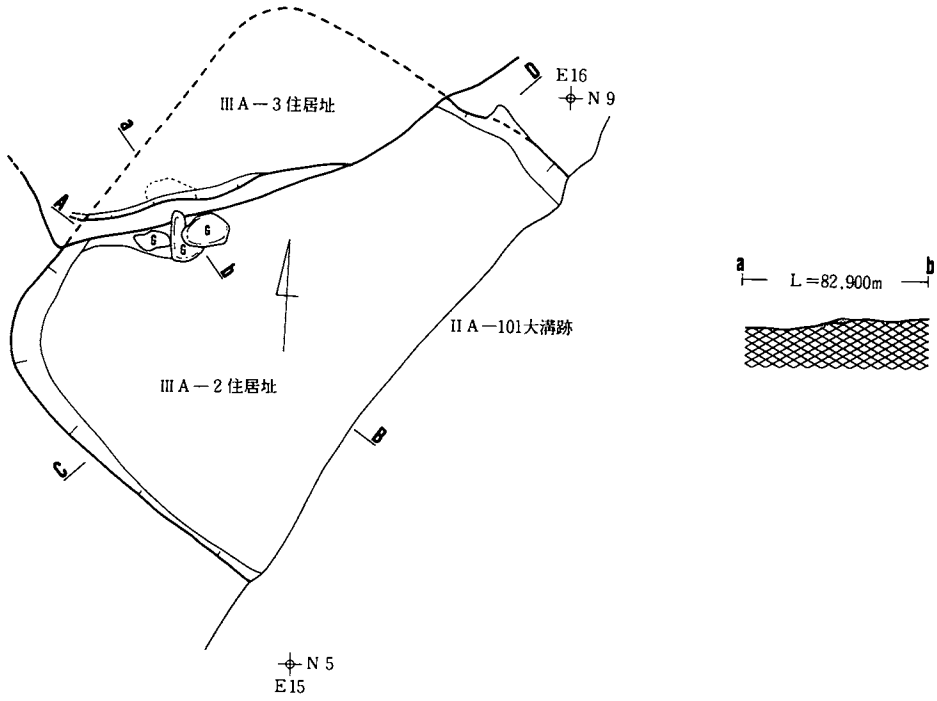
本住居址は調査区南側中央に位置している。表土を取り除いた黒褐色シルト層（基本層序IV a層）の上面で十和田a降下火山灰の広がりが見られ遺構と判明したものである。住居址は南側がIIA-101大溝跡、III A-7住居址に、北側がIII A-3住居址に切られ、僅かに北東壁と南西壁の一部が残存している。

埋土は上部層が皿状に堆積している十和田a降下火山灰層で、下層部が十和田a降下火山灰が小ブロックで混じる黒色~黒褐色シルト層で構成されている。十和田a降下火山灰はIII A-1住居址の場合と同じく分級化が発達しており、上位ほど橙色帯びている。

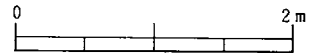
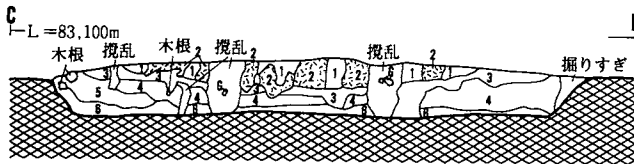
残存する壁の輪郭線から、住居址は一辺が3.6m前後の規模をもち、隅丸方形の形状をなしていたものと推定される。壁高は南西壁で23~26cm、北東壁で30~33cmである。

住居址は黒褐色シルト層を掘り込んでつくられている。床面は幾分凹凸があるがほぼ平坦でややしまっている。貼り床は施されていない。柱穴、周溝は検出されていない。

カマドは大部分がIII A-3住居址によって切られている。北西壁中央部と推定される位置に長径28~36cmの垂円礫3個と燃焼部の一部が検出されていることから、カマドは北西壁中央部に設けられていたと推定される。燃焼部の使用面はIII A-3住居址に上半部を切られてい



- (A-B、C-D)
1. 暗褐色 10YR_{2/2} シルト (含十和田a降下火山灰)
 2. にぶい黄褐色 10YR_{4/2} シルト 十和田a降下火山灰
 3. にぶい黄褐色 10YR_{4/2} シルト (含十和田a降下火山灰、黒褐色シルト)
 4. 黒褐色 10YR_{2/2} シルト (含十和田a降下火山灰、黒褐色シルト)
 5. 黒褐色 10YR_{2/2} シルト
 6. 黒褐色 10YR_{2/2} シルト (含十和田a降下火山灰)



図版18：Ⅲ A-2 住居址

る。焼土は径26cm×36cm、厚さ3cmの規模で残存している。

住居址の主軸方位はW-40.5°-Nである。本住居址はII A-101大溝跡、III A-3・7住居址より古い。

出土遺物（図版-100、写真図版-94）

（埋土） 土師器甕形土器-32、33は口縁部片である。口縁部の形態は32が外反しているもので、33がほぼ真直に立ち上がるものである。33は口縁部が肥厚している。32は小形のものと思われる。

III A-3 住居址

遺構（図版-18、写真図版-14）

本住居址は調査区南側中央にありIII A-4・7・11住居址と隣接している。検出面は黒褐色シルト層（基本層序IV a層）の上面である。住居址は南側がIII A-2住居址を切り、北側がII A-102大溝跡、III A-18土坑に切られている。住居址は焼失住居址である。

埋土は上部層が暗褐色シルト、下部層が炭化物、焼土を多く、暗褐色シルトを少量含む黒褐色シルトで構成されている。壁際に三角状に堆積している黒褐色シルトには十和田a降下火山灰が小ブロックで少量混じる。

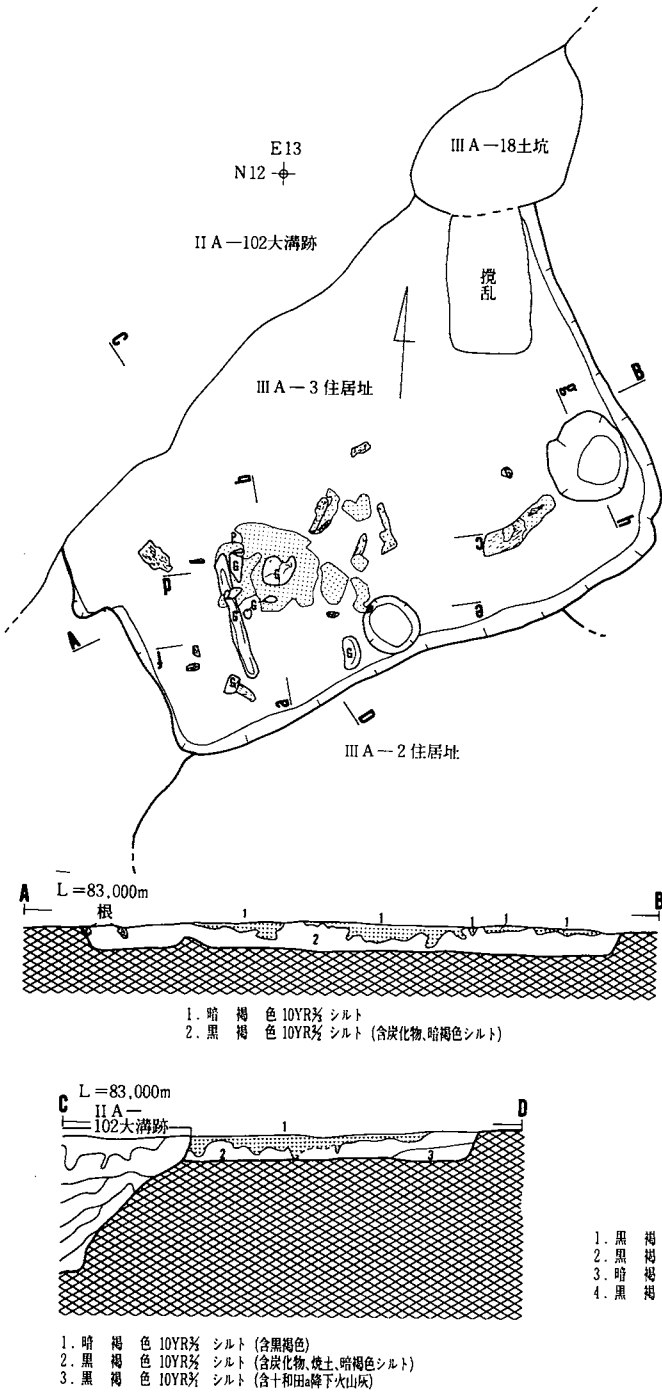
壁の高さは南東壁が3.9m、一部残存している北東壁が2.5m、南西壁が1.8mである。住居址は一辺が4m前後で形状が方形をなしていたものと推定される。カマドは南東壁中央部西寄りに設けられている。壁高は南東壁で10~13cm、北東壁で9~16cm、南西壁で10~12cmである。

住居址は全体に掘り方をもつ。掘り方の埋土は暗褐色シルトをブロックで多く混じる黒褐色シルトで占められている。床面はほぼ平坦でありあまりしまっていない。

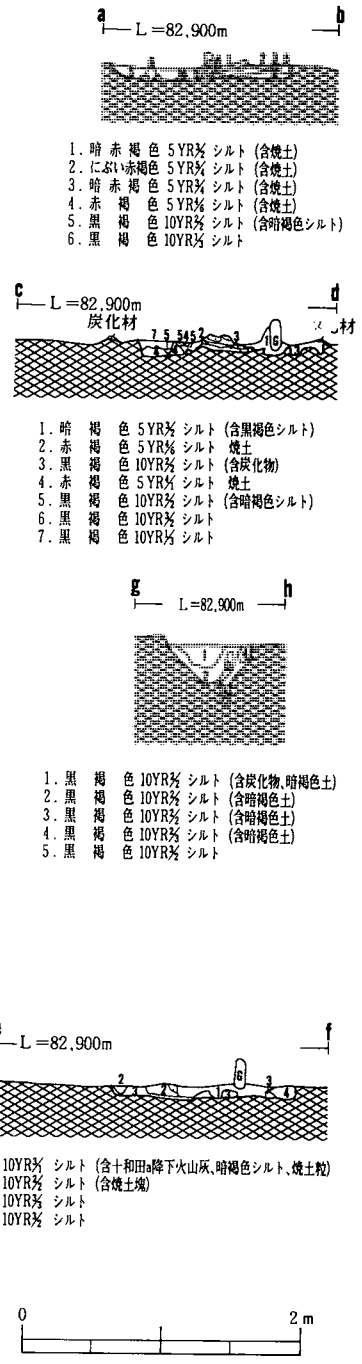
柱穴状ピットは南東壁中央部にP₁（径38×42cm、深さ14cm）、南東隅にP₂（径58×64cm、深さ56cm）が検出されている。P₂は埋土が黒褐色シルトで占められ、上層部に炭化物が多く混じる。底面に柱痕と思われる穴がみられる。P₂は住居址に伴うもので、規模、埋土断面から柱穴と思われるものであるが、対応する柱穴が検出されず断定しがたい。P₁は住居址より新しい。周溝は検出されていない。

南東壁に設けられているカマドは右袖部と焼土部が残存している。右袖は長さ88cm、幅22cm、厚さ7~10cmの扁平な硬質凝灰岩を横に立てて埋めている。袖部は硬質凝灰岩をカマドの芯にしシルトをまいてつくられていたと推定される。

焼土と炭化材（クリ）が中央部から南西隅にかけての床面上に多く堆積している。これらの焼土・炭化材は投げ込まれたものでなく、住居が焼失して一部残存したものであると思われる。



E16
N13



図版19：Ⅲ A-3住居址

る。

住居址の主軸方位はE-59.5°-Sである。本住居址はⅢA-2住居址より新しく、ⅡA-102大溝跡、ⅢA-18土坑より古い。

出土遺物 (図版-101, 写真図版-94)

(床面・カマド) 土師器甕形土器-37は口縁部が緩く外反し体部が粗いヘラケズリで調整されている破片である。胎土に粒径1~2mmの粗砂が多く混じる。38は口縁部が内湾ないし内傾する口縁部片である。

(埋土) 土師器坏形土器-34は内面黒色処理が施されているロクロ使用の口縁部片である。口唇部近くがやや外反している。甕形土器-35、36は体部外面がヘラケズリで調整されている口縁部片である。口縁部の形態は34が極端に短く外反する、36が内傾ないし内湾するものである。

鉄製品-37は2枚に折り曲げた刀子を2点(あるいは同一固体のもの)重ねられているものである。1点は茎が4cm程現存し刀元の幅2.1cm、棟厚が0.3cmで、他の1点は身幅1.8~2cm、棟厚0.2cmである。再利用して他の鉄製品をつくらうとしたのではないかと推定される。

40は根先が欠損している鉄鏃の一部と思われる。現存は12.9cmである。

ⅢA-4住居址

遺構 (図版-20, 写真図版-15)

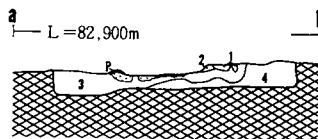
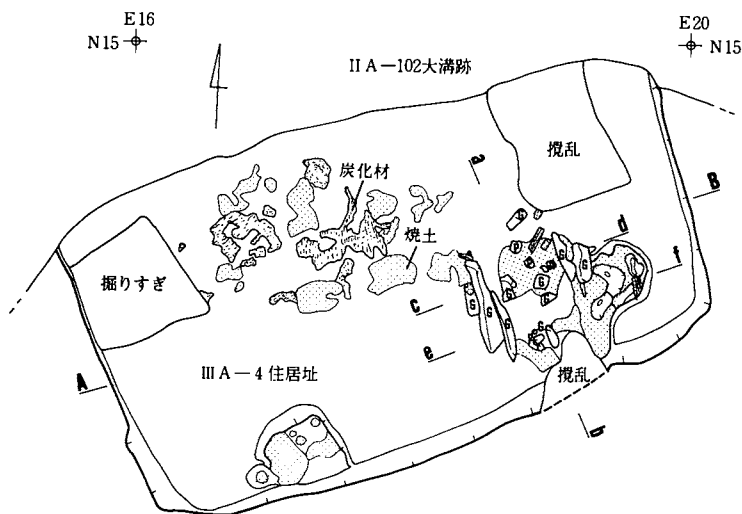
本住居址は調査区南東部にあり、西約1mにⅢA-1住居址、北約4mにⅢA-5住居址、東約2mにⅢA-6住居址、南約1mにⅢA-10・12住居址がある。検出面は暗褐色シルト層(基本層序V層)の上面である。住居址は北側の大半をⅡA-102大溝跡に、カマドと壁の一部を基礎コンクリートの溝によって切られている。本住居址は焼失住居址である。

埋土は十和田a降下火山灰が小ブロックで混じり炭化物、焼土を多く含む黒褐色シルトで占められている。焼土は中央部に多くみられる。

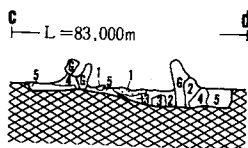
壁の長さは南東壁が4.3m、一部残存する南西壁が2.1m、北東壁が1.7mである。残存部から住居址は一辺が4.3m前後の規模をもち、形状が方形をなしていたと推定される。カマドは南東壁中央部東寄りに設けられている。壁高は南東壁が17~28cm、北東壁が19~22cm、南西壁が10~13cmである。

住居址は全体に8~12cmの深さの掘り方をもつ。掘り方の埋土は暗褐色シルトがブロックで混じる黒褐色シルトで占められている。柱穴、周溝は検出されていない。

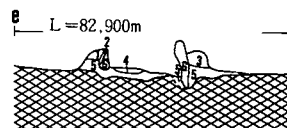
南東壁に設けられているカマドは煙道部が基礎コンクリートの溝によって切られている。カマドの袖は右袖が長さ64cm、幅34cm、厚さ6~11cmと長さ51cm、幅35cm、厚さ3~5cm



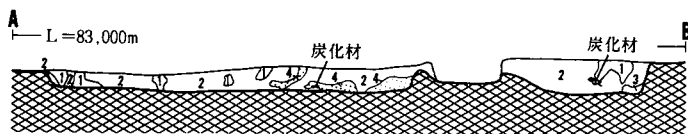
1. 暗赤褐色 5YR $\frac{5}{2}$ シルト (含暗褐色シルト)
2. 暗赤褐色 5YR $\frac{5}{2}$ シルト 焼土
3. 黒褐色 10YR $\frac{5}{2}$ シルト (含焼土粒)
4. 暗褐色 10YR $\frac{5}{2}$ 粘土



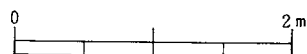
1. 赤褐色 5YR $\frac{5}{2}$ 焼土
2. 極暗赤褐色 5YR $\frac{5}{2}$ シルト (含暗褐色シルト)
3. 黒褐色 10YR $\frac{5}{2}$ シルト (含暗褐色シルト)
4. 黒褐色 10YR $\frac{5}{2}$ シルト (含暗褐色シルト)
5. 黒褐色 10YR $\frac{5}{2}$ シルト (含黒褐色シルト)



1. 暗赤褐色 5YR $\frac{5}{2}$ シルト 焼土
2. にぶい赤褐色 5YR $\frac{5}{2}$ 砂質シルト
3. 黒褐色 5YR $\frac{5}{2}$ 砂質シルト (含焼土粒、炭化物)
4. 極赤褐色 5YR $\frac{5}{2}$ 砂質シルト (含焼土粒、炭化物)
5. 黒褐色 10YR $\frac{5}{2}$ シルト



1. 暗褐色 10YR $\frac{5}{2}$ シルト
2. 黒褐色 10YR $\frac{5}{2}$ シルト (含十和田a降下火山灰、炭化物、焼土粒)
3. 黒褐色 10YR $\frac{5}{2}$ シルト
4. にぶい赤褐色 5YR $\frac{5}{2}$ シルト (含焼土塊、炭化材)



図版20：Ⅲ A-4 住居址

の2個の扁平な硬質凝灰岩を一部重ね、やや内傾させて10~14cm程埋め込んで芯にし、シルトをまいてつくられている。左袖も同じように硬質凝灰岩を芯にしている。燃烧部の使用面は浅皿状をなし、火熱により径44cm、厚さ6cmの規模で赤変している。燃烧部中央部より壁寄りに支脚と思われる礫が埋め込まれていた。燃烧部の埋土には、カマドの崩壊土、構成礫と推定される焼成を受けたシルトや硬質凝灰岩が堆積している。カマド本体の幅は1.1m、壁までの長さは1.1mである。

住居址全体に炭化材、現地性焼土の広がりが見られ、中央部で床面直上、壁際で10cm程浮いてレンズ状に堆積している。現地性焼土は炭化材の直上、直下に形成されている。炭化材の樹種はクリ、ケヤキである。

住居址の主軸方位はE-64.5°-Sである。本住居址はII A-5住居址と位置、規模から推定して切り合っていたと思われる。両住居址ともII A-102大溝跡に切られているため、その新旧関係は不明である。

出土遺物 (図版-101・102, 写真図版-95)

(床面・カマド) 土師器甕形土器-43、46は口縁部が極端に短く外反する破片である。45は口縁部が短く外反するもので、胎土中には砂粒のほかに粒径0.5~1cmの小礫が混じる。口縁部は水平でなく歪んだ大波状をなしている。44は外面をヘラケズリで調整されている体部下半である。

(埋土) 土師器坏形土器-41、42はロクロ使用の口縁部片である。42は内面ヘラミガキ後、黒色処理が施されている。41は二次的の火熱を受けて黒色が消失したと思われる。

鉄製品-47は両端が欠損し現存長が8.8cm、最大幅1.6cm、棟厚0.8cmの刀子である。

カマドの構成礫-48、49はカマド袖などの芯に使用されていた切り石で石質は凝灰質砂岩である。

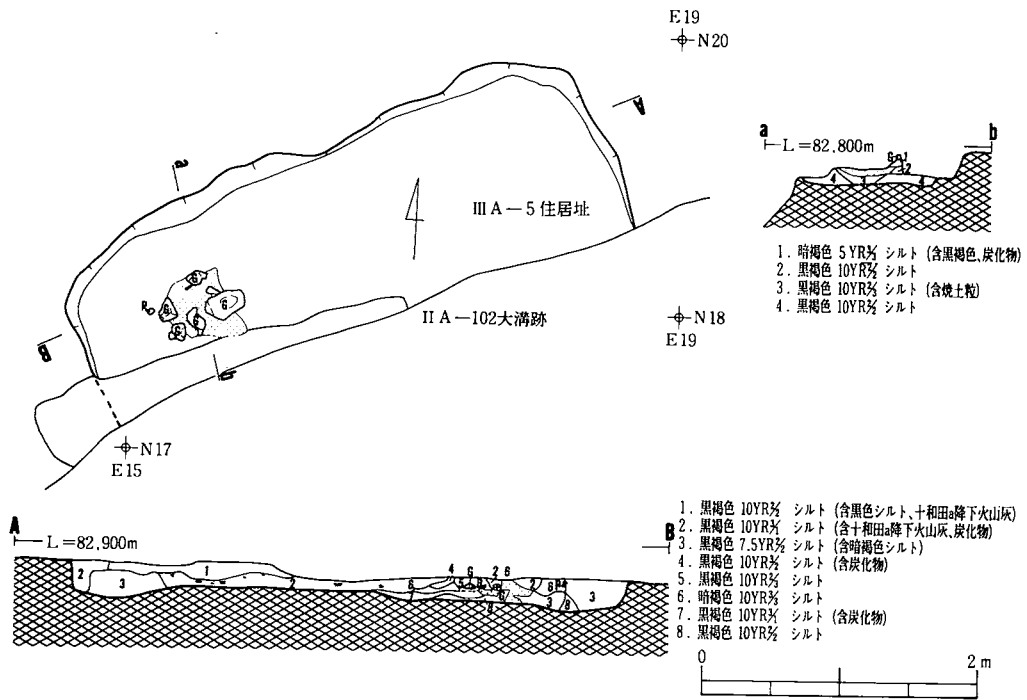
III A-5住居址

遺構 (図版-20, 写真図版-15)

本住居址は調査区南側中央にあり、南約4mにIII A-3住居址、南東約3mにIII A-6住居址、北約0.5mにIII A-4土坑、西約1mにIII A-6土坑がある。検出面は中掘浮石層(基本層序IV b層)上面である。住居址は南側の大半がII A-102大溝跡に切られている。住居址は消失住居址である。

埋土は十和田a降下火山灰のブロック、焼土、炭化物を含む黒褐色シルトで占められる。

壁の長さは北西壁が4m、一部残存する南西壁が0.6m、北西壁が1.3mである。住居址は一辺が4m前後の規模をもち、形状が方形を呈していたものと推定される。壁高は北西壁で



図版21：Ⅲ A-5 住居址

12~22cm、北東壁で23~25cm、南西壁で14~18cmである。

床面はやや凹凸がありしまっていない。貼り床は施されていない。柱穴、周溝は検出されていない。炭化材、焼土が住居址全体に散在している。

カマドは構成礫の一部と燃烧部が北西隅に検出されている。カマドの残存状況が悪いため、カマドの位置は、北西壁中央部西寄りかまたは南西壁中央部北寄りに設けられていたと思われる。構成礫の配置から前者の可能性が強い。カマドはⅢ A-6 住居址のように壁からやや離れている。燃烧部は浅皿状をなし火熱により径42cm、厚さ4cmの規模で赤変している。カマドの構成礫は硬質凝灰岩である。

住居址の主軸方位はW-63.5°-NまたはS-63.5°-Wである。本住居址はII A-102大溝跡より古い。

出土遺物 (図版-103, 写真図版-96)

(カマド) 土師器甕形土器-52は口縁部が極端に短く外反している。底部は欠損している。胎土に多くの粗砂を混ぜている。51は単位の短いヘラケズリで調整されている体部片である。

(埋土下部) 土師器甕形土器-50はカマド周辺の埋土下部から出土した小形の土器で、口縁部が短く直上気味に外反するものである。体部外面調整は上半がヘラナデ、下半がヘラケズリで

ある。器壁は3～4mmと薄い。底部外面に木葉の圧痕をもつ。口縁部は不規則な小波状をなす。胎土中の砂は僅かである。

鉄製品—53は頭部が円錐状をなす筒形の鉄製品である。現存長3.9cm、長径1.4cm、内孔最大径0.8cmである。用途については不明である。

ⅢA—6 住居址

遺構 (図版—22・23, 写真図版—15・18)

本住居址は調査区南東部にあり、西約1.5mにⅢA—4住居址、南約4mにⅢA—9住居址がある。住居址はⅡA—102大溝跡の上部を切ってつくられている。大溝跡の埋土を除去している際に検出されたものである。住居址は焼失住居址である。

埋土は上部層が人為的に埋め戻されたと思われる汚れの少ない暗褐色シルト、下部層が炭化物、焼土粒、焼土塊が多く混じり十和田a降下火山灰を幾分含む黒褐色シルトで占められている。

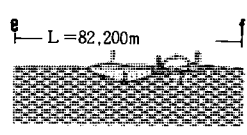
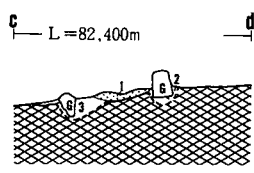
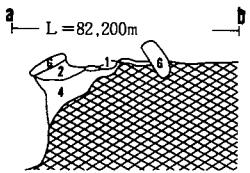
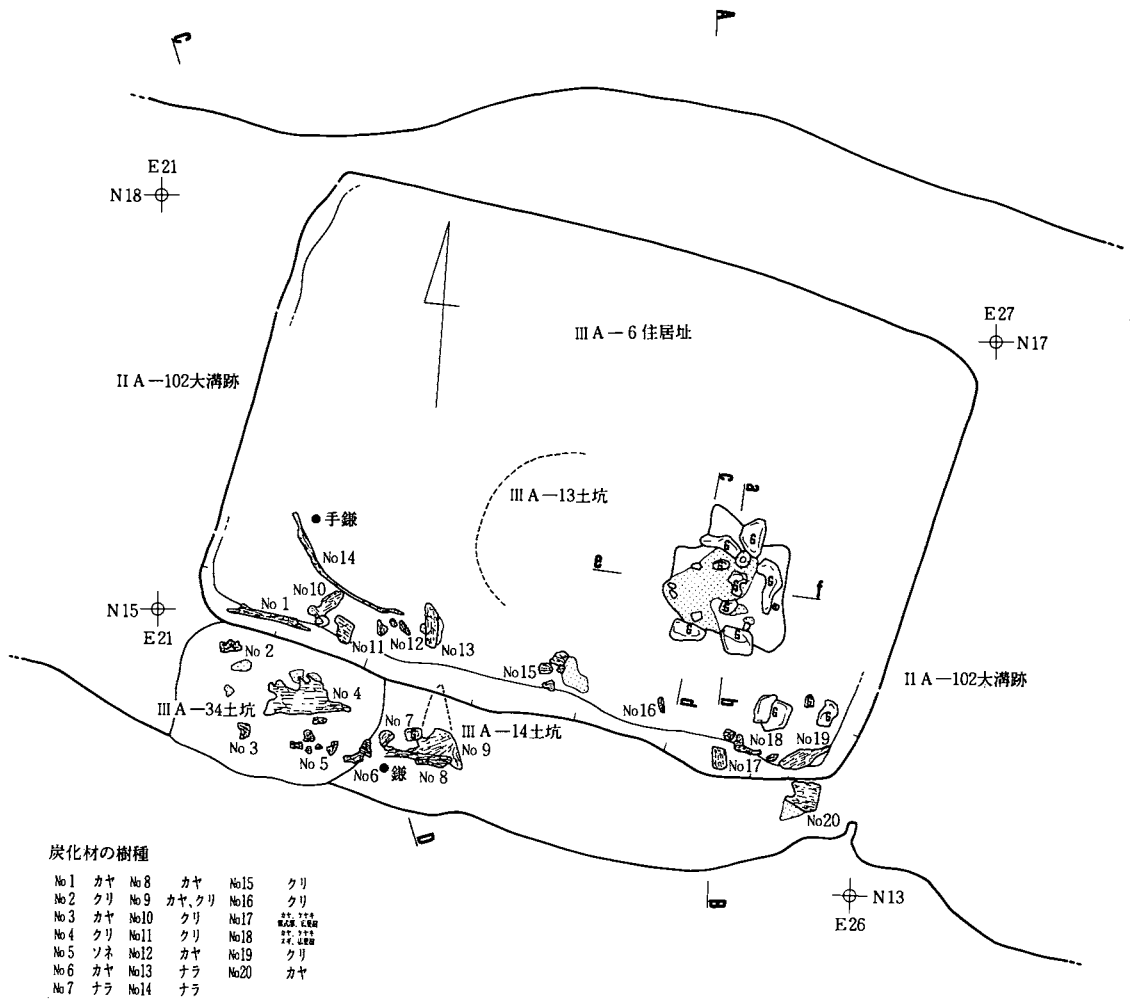
住居址の一部は大溝跡の埋土を取り除く際に同時に掘ってしまい消失している。床面中央部が丸底状に窪んでいるのに気がつかず、水平に掘っていて床面が跡切れたため住居址が大溝跡に切られていると判断したからである。住居址は大溝跡の壁を切ってつくられた南側と埋土土層観察のためのベルト2本の部分だけが残存している。検出された壁の輪郭線から、住居址は3.5m×4.5mの規模をもち、長方形をなしていたと推定される。カマドは南東壁中央部南寄りに設けられている。壁高は南西壁で81～84cmである。

床面は大溝跡と重なる中央部が深さ29cm程窪む皿状をなしている。大溝跡を切っている部分には十和田a降下火山灰、黒褐色シルト混じりの極暗褐色シルトで厚さ6～11cmの貼り床が施されている。貼り床の面は硬くしまっている。柱穴、周溝は検出されていない。

南東隅近くに設けられているカマドは袖部の構成礫の一部と燃焼部が残存し煙道部が消失している。右袖の構成礫は長径29cm、幅24cm、厚さ11cmと長径19cm、幅18cm、厚さ13cmの大きさの硬質凝灰岩2個をつなぎ内傾させて3分の1程埋め込まれている。左袖も同じよう構成礫がすえられている。燃焼部はやや北側に傾斜するがほぼ平坦で、火熱により径76cm×80cm、厚さ11cmの規模で赤変している。カマドの西端部が壁から1.6m以上も離れていると推定されることから、カマドでなくて炉であった可能性もある。

住居址のほぼ床面全体に炭化材、現地性焼土が堆積している。住居が焼失しそのまま一部が残ったものと思われる。炭化材の樹種はクリ・カヤが多く一部ナラ、ケヤキ、スギ、広葉樹である。

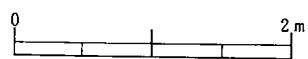
住居址南側に接続する形で長さ4.5m前後、最大幅1.1m、深さ27～42cm規模の長方形の



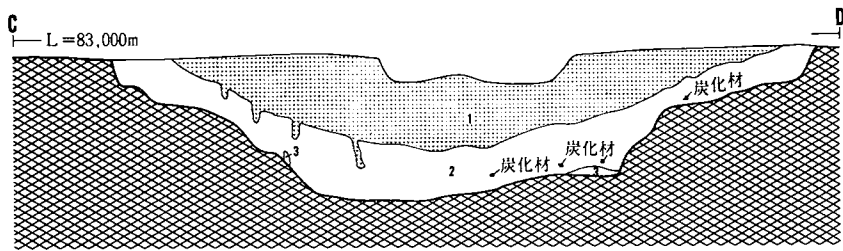
1. 赤褐色 5YR $\frac{1}{2}$ 砂質シルト 焼土
2. 黒褐色 10YR $\frac{1}{2}$ シルト
4. 黒褐色 10YR $\frac{1}{2}$ シルト
(含十和田a降下火山灰、暗褐色シルト、黒色シルト)

1. 赤褐色 5YR $\frac{1}{2}$ 砂質シルト 焼土
2. 黒褐色 10YR $\frac{1}{2}$ シルト
4. 黒褐色 7.5YR $\frac{1}{2}$ シルト (含暗褐色シルト)

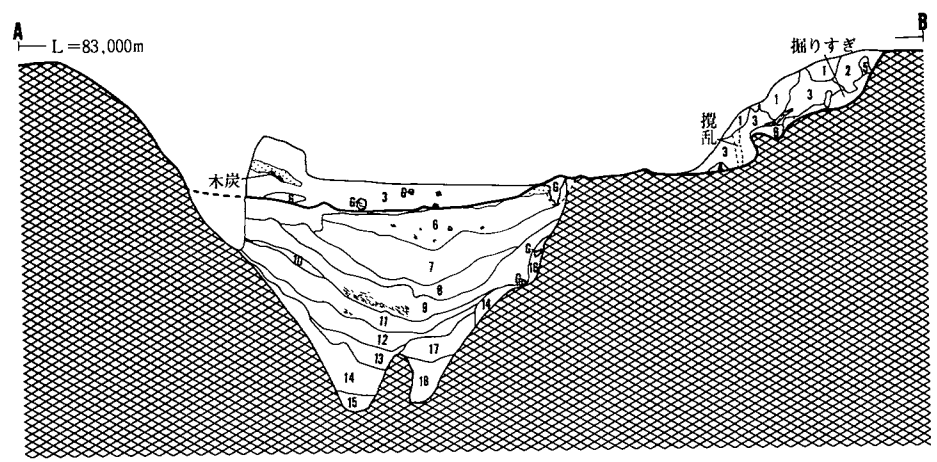
1. 暗赤褐色 5YR $\frac{1}{2}$ シルト (含焼土塊)
2. 極暗赤褐色 5YR $\frac{1}{2}$ シルト (含炭化物、焼土殻)
3. 赤褐色 5YR $\frac{1}{2}$ 砂質シルト 焼土



図版22：Ⅲ A-6 住居址(1)



- 1. 暗褐色 10YR% シルト
- 2. 黒褐色 10YR% シルト (含炭化物、焼土塊、焼土粒、十和田降下火山灰)
- 3. 暗褐色 10YR% シルト (含黒褐色シルト)



- | | |
|---------------------------------------|-------------------------------------|
| 1. 黒褐色 10YR% シルト (含暗褐色シルト) | 10. 黒褐色 7.5YR% シルト (含十和田降下火山灰) |
| 2. 黒褐色 7.5YR% シルト (含十和田降下火山灰、炭化物) | 11. 黒褐色 10YR% シルト (含十和田降下火山灰) |
| 3. 黒褐色 10YR% シルト (含暗褐色シルト) | 12. 黒褐色 7.5YR% シルト (含十和田降下火山灰) |
| 4. 黒褐色 10YR% シルト (含暗褐色シルト) | 13. 黒色 10YR% シルト (含十和田降下火山灰、暗褐色シルト) |
| 5. 極暗褐色 7.5YR% シルト | 14. 暗褐色 10YR% 砂 (含黒褐色シルト) |
| 6. 黒褐色 7.5YR% シルト (含十和田降下火山灰) | 15. 黒褐色 10YR% 砂 |
| 7. 黒褐色 10YR% シルト (含十和田降下火山灰、暗褐色シルト) | 16. 黒褐色 7.5YR% シルト (含暗褐色砂) |
| 8. 極暗褐色 7.5YR% シルト (含十和田降下火山灰、黒褐色シルト) | 17. 黒褐色 7.5YR% シルト (含暗褐色砂) |
| 9. 黒褐色 10YR% シルト (含十和田降下火山灰、炭化物) | 18. 黒褐色 10YR% 砂 (含暗褐色砂) |



図版23：Ⅲ A—6 住居址(2)

遺構が検出されている。底面は中央部が段落状を、端部が緩い傾斜をなしている。埋土が連続していること、炭化材や焼土が住居址と同じように分布していること、底面の形態などから、住居址に伴う出入口状の施設と考えられる。

住居址の主軸方位はE-14.5°-Sである。本住居址はII A-102大溝跡、III A-34土坑より新しく、III A-13土坑より古い。

出土遺物 (図版-103・104, 写真図版-96・97)

(床面・カマド) 土師器甕形土器-54~56は口縁部破片である。口縁部の形態は54が内傾ないし内弯する、55が短く外反する、56が極端に短く外反するなどそれぞれ違っている。57は口縁部が内傾ないし内弯し体部外面がヘラケズリで調整されている小形のものである。胎土、色調、形態、調整などから、57は外面ヘラケズリ調整される59と同一個体と思われる。59はII A-102溝跡埋土出土のものと接合している。60は外面が粗いヘラケズリで調整されている。体部下端には凹凸があり粗雑なつくりである。

鉄製品 鎌-58は身が折り返し部から上方に大きく弯曲しながら伸びているものである。刃部中央が幅広をなしている。全長15.8cm、最大幅2.7cm、棟厚0.5cmである。三角状に折り返し部は最大幅1.8cm、最大長2.7cmである。手鎌-61は目釘式のもので、現存長7.9cm、最大幅1.8cm、最大厚0.3cmである。刃部は使用及び砥ぎ減りにより内弯状に変形している。

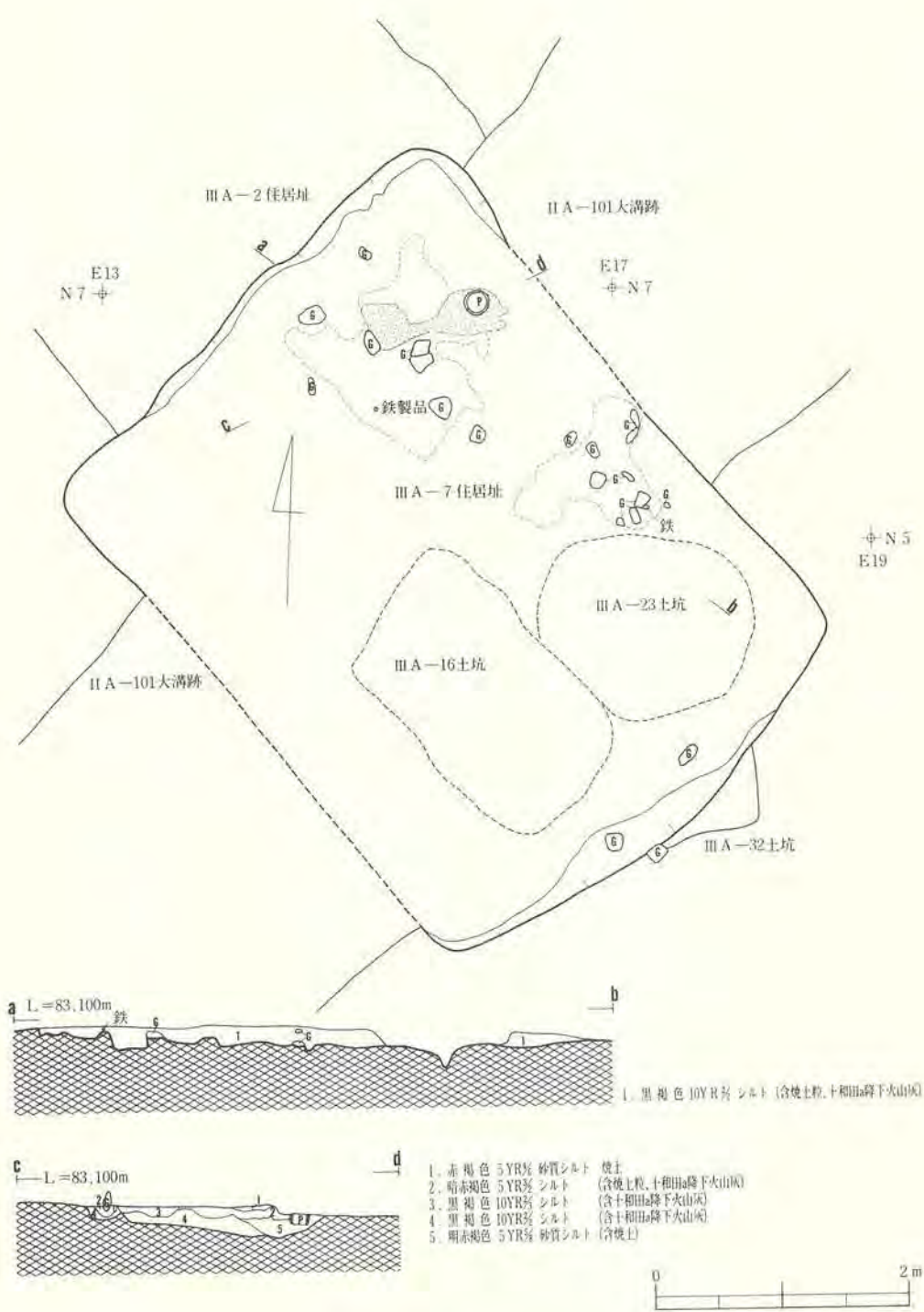
鉄鎌-62~64はともに長い頸部をもつ。根先の形態は62が鑿状のもの、63、64が三角状をなす。63の三角形は非対称の形である。62は現存長13.2cm、身の高さ9.3cm、身の最大幅1.0cm、身の最大厚0.3cm、63は現存長14.0cm、身の重さ10.5cm、身の最大幅1.1cm、身の最大厚0.4cm、64は現存長14.0cm、身の重さ10.5cm、身の最大厚0.3cmである。

木製品-65は棒状のもので柄の一部であったと思われる。66は弓状をなすものである。両先端が欠損しているため、弓と断定できなかつた。2点とも炭化した状態で出土している。樹種はともにナラである。

III A-7 住居址

遺構 (図版-24, 写真図版-19)

本遺構は調査区南側中央に位置し、III A-2 住居址、II A-101大溝跡を切ってつくられている。II A-101大溝跡の埋土を取り除いている際に、現地性焼土の広がりや埋設土器が検出されたこと、大溝跡のペルトの土層断面観察から住居址と判明したものである。従って、住居址西側はすでに大溝跡の埋土として除去されており、北東壁の一部、北西壁、南東壁が残存している。本住居址は南東部をIII A-16・23土坑に切られている。現地性焼土の堆積状況などから焼失住居であると思われる。



図版24：Ⅲ A-7 住居址

埋土は径20～30cmの川原石や現地性焼土が多く含み、北西壁際に十和田a降下火山灰のブロックが混じる黒褐色シルトで占められている。

残存する壁の輪郭線から住居址は3.8m×5.1mの規模をもち、ほぼ長方形をなしていたと思われる。壁高は最大が南西壁で12cmである。

床面は中央部が窪む浅皿状を呈し、しまっている。大溝跡の埋土を切つてつくられているため、使用している間に中央部が低くなったと思われる。柱穴、壁溝は検出されていない。

北東隅近くに土師器が埋設されている。土器は甕形土器の底部で、周囲が径35cm×69cm、最大厚23cmの規模で焼土が形成されている。これらはカマドの燃焼部であったと推定され、土器は支脚の役目を果たしていたと思われる。カマドの位置は北西壁中央部東寄りかまたは北東壁中央部北寄りである。

現地性焼土は北東壁側に多く形成されており、中央ではほぼ床面直上、壁際ではやや浮いている形で堆積している。

本住居址はⅢA-2住居址、ⅡA-101大溝跡より新しく、ⅢA-16・23土坑より古い。

出土遺物（図版-105, 写真図版-97）

（床面） 土師器甕形土器-66は北東部の床面に埋没していたもので体部下半は欠損している。まわりには現地性焼土が広がり土器も二次的の火熱を受けて橙色帯びている。口縁部は極端に短く外反し、口縁は平坦でなく凹凸がある。外面は幅1～1.5cm、長さ3cm前後のヘラケズリで調整されている。

（埋土） 土師器甕形土器-68、70は底部片である。70は丸底気味で外面に木葉の圧痕をもつ。

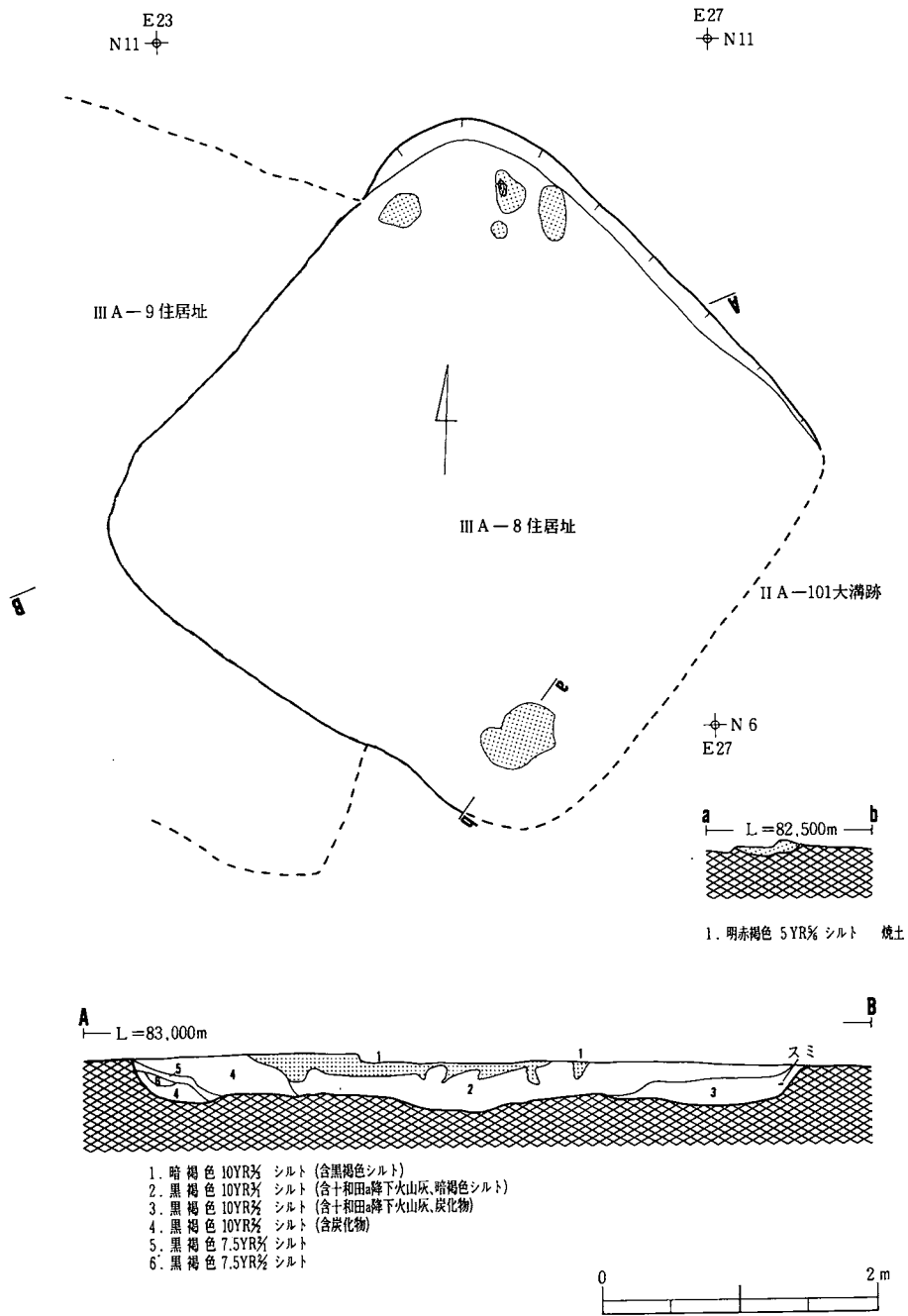
鉄製品-69は現存長2.8cmで、用途は不明である。幅1cm前後、厚さ0.1cmの板状のものを縦長に折り曲げてあるものである。

ⅢA-8住居址

遺構（図版-25, 写真図版-20）

本遺構は調査区南東部に位置し、北約3mにⅢA-6住居址、西約2mにⅢA-15住居址があり、ⅡA-101大溝跡、ⅢA-9住居址を切つてつくられている。ⅡA-101大溝跡の埋土を取り除いている際にカマドの燃焼部と思われる現地性焼土が検出され住居址と判明したものである。はじめ、基本層序Ⅳ層の上面で北東壁が検出されていたのであるが、大溝跡の北壁と考えていたため、その段階では気がつかなかった。

埋土は最上部層が人為的に埋め戻されたと思われる汚れの少ない暗褐色シルト、中部層が十和田a降下火山灰をブロックでわずかに含み、暗褐色シルトが小ブロックで散在する黒褐色シ



図版25：Ⅲ A—8 住居址

ルト、最下部層が炭火物を幾分含む黒褐色シルトで構成されている。中部層が埋土の大半を占め、最下部層が壁際に三角状に堆積している。

住居址は残存する北西壁の一部、北東壁、埋土断面の観察から推定して、3.3m×4.1mの規模をもち、ほぼ方形を呈していたものと思われる。壁高は北東壁中央部で32cm、北西隅で26cmである。

床面は凹凸があり、中央部が窪む皿状を呈している。面上はあまりしまっていない。貼り床は施されていない。柱穴、周溝は検出されていない。

カマドは燃烧部下底部のみ残存し、南東壁中央部南寄りに設けられていたものと推定される。燃烧部の使用面はかたく浅皿状をなし、径50cm×58cm、厚さ8cmの規模で火熱により赤変している。

本住居址はⅢA-9住居址より新しく、ⅡA-101大溝跡より古い。住居址主軸方位はE-39°Sである。

出土遺物（図版-105, 写真図版-97・98）

（床面） 鉄製品 鈴-75は下部中央に長さ4.2cm、幅0.2mの溝状の開口部をもつ。上部には長さ1.1cm、幅0.6cm、厚さ0.1~0.2cmの長方形の突起（把手）部をもち上端に径0.4cmの貫通孔をもっている。上半部と下半部を接合してつくられているが、接合部が半分以上重なって段になっている。高さ4.7cm、長径4.3cm、短径3.6cm、厚さ0.1~0.2cmである。

（埋土） 土師器甕形土器-71、72は口縁部が極端に短く外反している小破片である。73は口縁部が緩く外反しているもので、内外面に輪積み痕が残っている。外面は単位の短いヘラケズリで調整されている。胎土には粒径5~6mmの小石が混じる。

須恵器長頸壺形土器-74は口縁部と底部が欠損している。内外面をロクロで整形後、外面をヘラケズリで調整している。体部最大幅17.1cmである。頸部にタテとナナメ方向に1本ずつヘラ書きによる沈線がみられる。頸部の左側及び上部が欠損してヘラ書きの全体を把握できないが、「ㄣ」、「人」と類似したものが刻まれていたと思われる。胎土分析の結果、青森県五所川原窯跡群産である。

鉄製品 手鎌-76は目釘式のもので右端が欠損し、折り曲っている。刃部は使用及び砥ぎ減りにより内弯している。現存長44cm、最大幅2.1cm、最大厚0.4cmである。

ⅢA-9住居址

遺構（図版-26, 写真図版-20・21）

本遺構は調査区南東部に位置し、北約4mにⅢA-6住居址、西約3mにⅢA-7・12住居址がある。本住居址は東側上部をⅢA-8住居址・ⅢA-27土坑に切られ、ⅡA-101大溝跡

・ⅢA—10住居址を切っている。ⅢA—15住居址と重複関係にあるがその新旧は不明である。住居址は焼失住居址である。

埋土は上部層が十和田 a 降下火山灰を大ブロックで多く含む黒褐色シルト、下部層が炭化材、焼土を多く含む黒褐色シルトで構成されている。

住居址は4.7m×4.1mの規模をもち、南北にやや長い長方形を呈している。壁高は北東壁で31~39cm、北西壁で14~31cm、南西壁で4~31cm、南東壁で1~11cmである。

床面は壁際より中央部が20cm程低い浅皿状を呈し、凹凸があるがしまっている。貼り床は施されていない。周溝は検出されていない。

柱穴状ピットは北東隅で2個P₁(径22cm×33cm・深さ23cm)・P₂(径21cm×19cm・深さ11cm)、北西隅で2個P₃(径26cm×32cm・深さ26cm)・P₄(径19cm×20cm・深さ13cm)、南東隅で2個P₅(径20cm×24cm・深さ21cm)・P₆(径22cm×23cm・深さ23cm)の6個が検出されている。柱穴状ピットは南西隅のものがⅢA—27土坑に切られているとすれば、P₂、P₃、P₆とで長方形の配置を呈していることになる。周溝は検出されていない。

カマドは南東壁中央部北寄りに設けられている。保存状態は悪くカマド袖の下底部と燃焼部の一部が残存しているにすぎない。袖部は凝灰岩とシルトでつくられている。燃焼部の使用面は浅皿状を呈し火熱により径44cm×50cm、厚さ3cmの規模で赤変している。燃焼部に堆積している焼土中には骨片が多く混じる。カマド本体の幅は1.1mである。

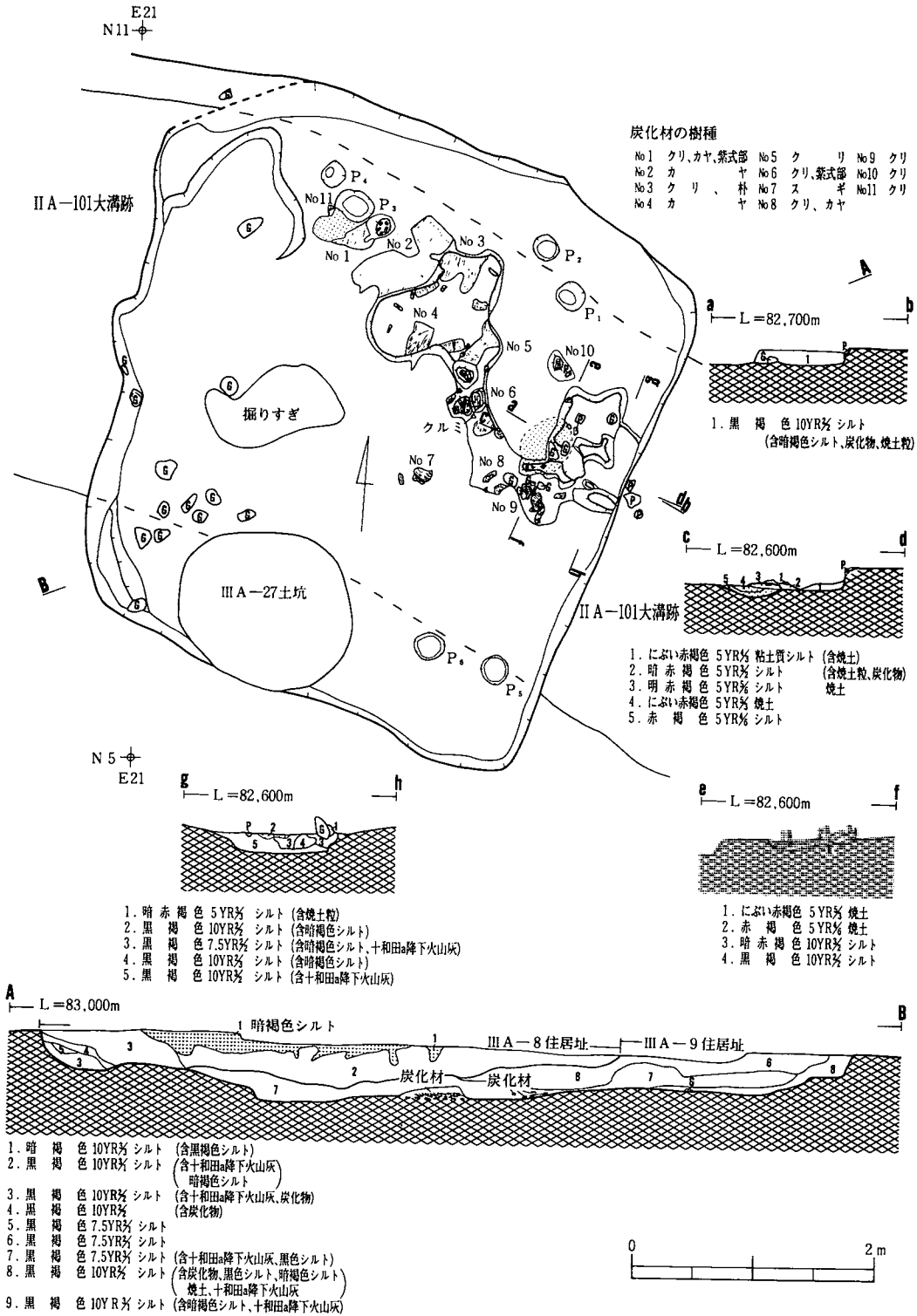
カマドから北東壁にかけて炭化材が現地性焼土と共に幾分浮いた形で堆積している。樹種はカヤ、クリが多く一部スギ、ムラサキシキブなどである。これらの炭化材、焼土は住居が焼失した時のものと思われる。

本住居址の主軸方位はE—19°—Sである。住居址はⅢA—8住居址、ⅢA—27土坑より古く、ⅢA—10住居址、ⅡA—101大溝跡より新しい。

出土遺物 (図版—106・107, 写真図版—98・99)

(カマド・床面) 土師器坏形土器—77はロクロ使用で内面黒色処理が施されている口縁片である。甕形土器—78、81は外面がヘラケズリで調整されている口縁部片である。口縁部の形態は77が極端に短く外反し、81が緩く外反するものである。84は口縁部が内傾ないし内湾しているものである。外面は主にヘラケズリで調整されているが、上半の一部にはヘラケズリがなされておらずヘラナデのままになっている。胎土には砂粒が多く混じる。底部は欠損している。84は外面がヘラケズリで調整されている底部片である。

石製品—94は最大長12.7cm、最大幅4.9cm、最大厚2.7cmの板状のものである。石質は珪化木である。使用痕は確認されていないが、床面直上から出土したため何らかの形で利用してい



図版26：Ⅲ A-9 住居址

たと思われ図版に載せた。

(埋土) 土師器坏形土器—79は体部に沈線をもつ口縁部片である。外面調整は口縁部がヨコナデ、沈線下がヘラミガキである。内面はヘラミガキ調整後、黒色処理が施されていたと思われる。火熱を受け黒色が消失している。甕形土器—80、82は口縁部が緩く外反している破片である。83、88～89は口縁部が極端に短く外反する破片で、口縁が水平でなく凹凸がある。83は胎土に砂粒を多く混じる。また、二次的火熱を受けて表面が褐色帯びている。90、91は口唇部が角張る。88、89は口唇部が肉薄になり外面がヘラケズリのほかにナデ状の調整がみられる。88は砂粒のほかに幾分雲母が混じる。87は口縁部が緩く外反している。口唇部に溝状の凹がみられる。胎土に砂粒が多く混じる。92は胎土に砂粒が多く混じる体部下半で、二次的火熱を受けている。86、93は底部片である。86は底部外面に木葉圧痕をもつ。93の底部外面は粗いヘラケズリ調整である。

ⅢA—10住居址

遺構 (図版—27, 写真図版—22)

本遺構は調査区南東部にあり、北約1mにⅢA—4住居址、西約0.3mにⅢA—12住居址がある。住居址は南側半分をⅡA—101大溝跡、東側の一部をⅢA—9住居址に切られている。残存する北側の住居址は更に中央部を基礎コンクリートの溝によって切られている。住居址は大溝跡を精査している際に床面が検出され遺構と判明したものである。埋土は黒褐色シルトで占められてる。

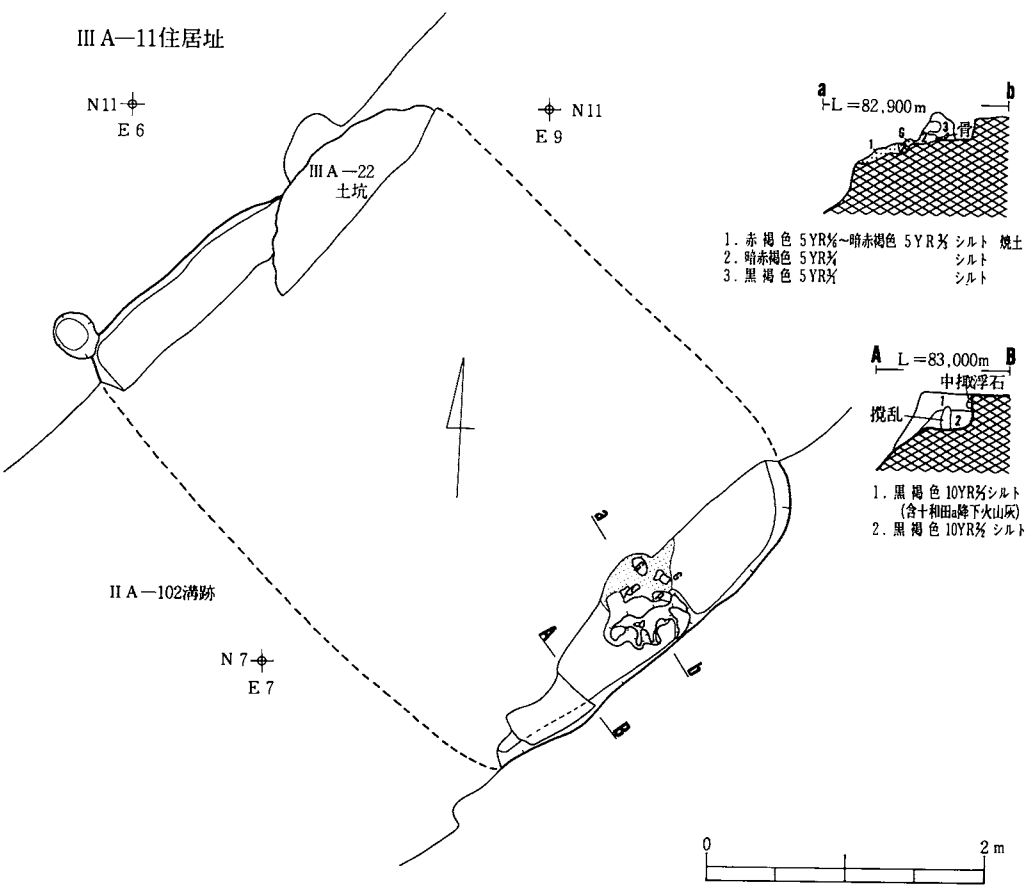
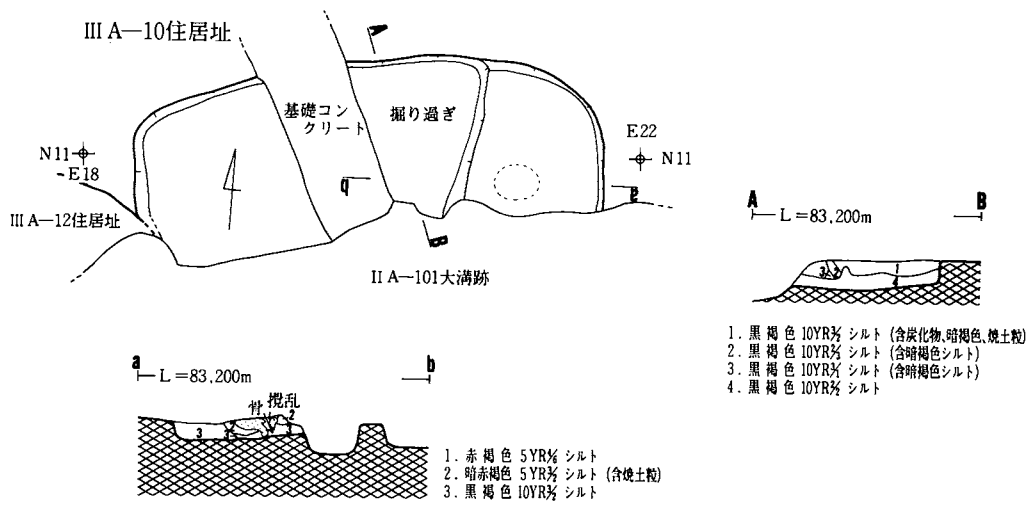
北壁の長さは約3.2mである。北西・北東隅はやや丸味を帯びている。形状はやや不整な方形を呈していたと推定される。壁高は3～9cmである。

床面はしまっておらず、一部掘り過ぎている。住居址は全体に深さ4～11cmの掘り方をもつ。底面は凹凸がある。掘り方の埋土は炭化物、暗褐色シルトのブロックを混じる黒褐色シルトである。

北東隅近くにカマドの燃焼部と思われる現地性焼土が検出されている。焼土は径31cm、厚さ8cmの規模で火熱により赤変している。カマドは北壁中央部東寄りかまたは東壁中央部北寄りに設けられていたと思われる。壁との位置関係から考えると、後者の可能性が強い。

本住居址はⅡA—101大溝跡、ⅢA—9住居址より古い。ⅢA—12住居址と重複しているカ所は不明である。

出土遺物はない。



図版27：Ⅲ A—10・11住居址

ⅢA-11住居址

遺構 (図版-27, 写真図版-23)

本遺構は調査区南西部にあり、北約3mにⅢA-14住居址、東約1.5mにⅢA-2住居址、南西約2mにⅢA-1住居址がある。住居址の大半はⅡA-102大溝跡に切られ、僅かに北側と南側の一部残っているだけである。北西壁は更にⅢA-22土坑に切られている。住居址は大溝跡を精査している際にカマドの一部が検出され遺構と判明したものである。

埋土は上部層が十和田a降下火山灰(と思われる)が僅かに混じる黒褐色シルト、下部層が暗褐色シルトのブロックを混じる黒褐色シルトで占められている。

残存する壁の長さは南東壁が3.1m、北東壁が1.9mである。南東隅はやや丸味を帯びている。住居址は形状が長方形を呈し、3.1m×4.2mの規模をもつものと推定される。この住居址は当初北西壁が残っているものをⅢA-14住居址として別の遺構にして取り扱っていた。壁が平行していること、床面の高さが同じこと、形状や埋土が合うことなどから同一住居址としたものである。壁高は北西壁で11~13cm、南東壁で10~25cmである。

床面はしまっている。貼り床は施されていない。周溝、柱穴は検出されていない。

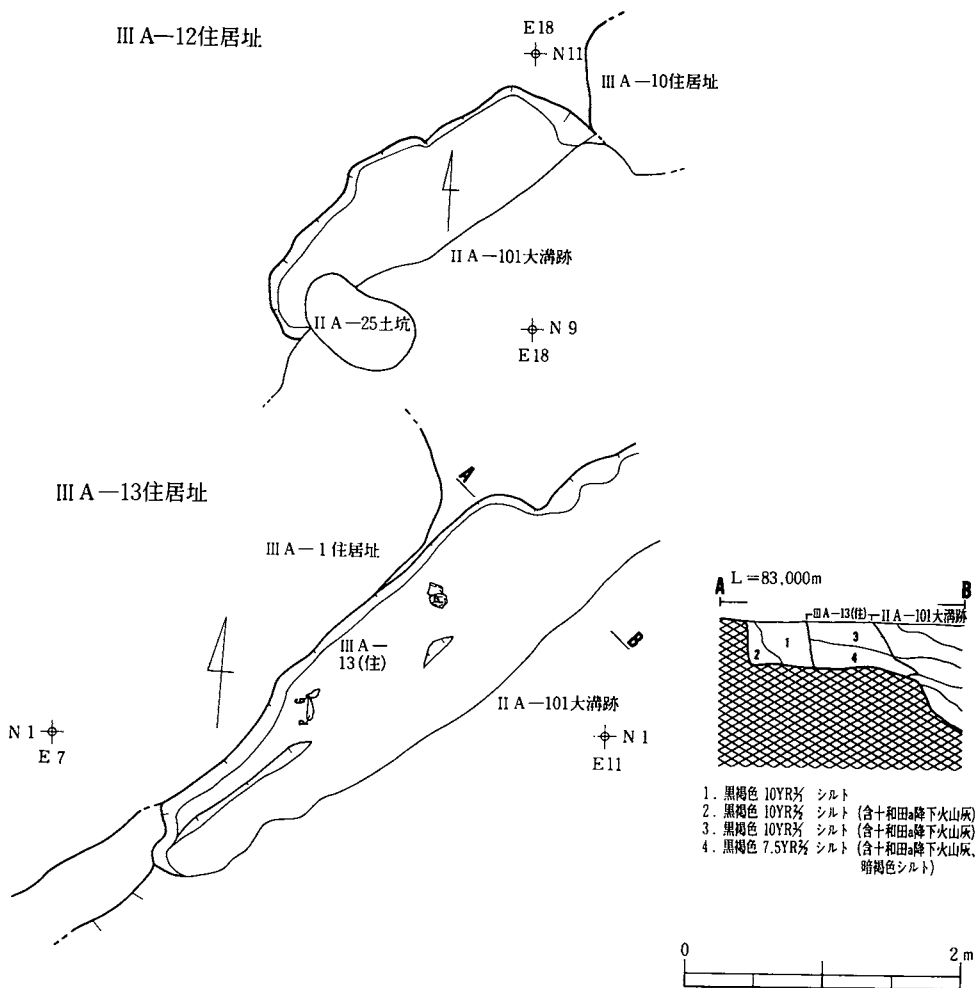
カマドは南東壁中央部東寄りに設けられている。カマドは燃焼部半分までⅡA-102大溝跡に切られており、保存状態は悪い。カマドは亜円礫を芯にしシルトを被覆させてつくられていたと思われる。煙道は壁際で急に立ち上がり屋外にでるものである。燃焼部使用面は皿状を呈し、火熱により径66cm、厚さ6cmの規模で赤変している。カマド崩壊内から土師器片が多く出土している。

住居址の主軸方位はE-44.5°-Sである。本住居址はⅢA-22土坑、ⅡA-102大溝跡より古い。

出土遺物 (図版-108・109, 写真図版-99・100)

(カマド) 土師器甕形土器-95~98、100は口縁部片である。口縁部形態は95が緩く外反、96が内湾ないし直上、97、100が極端に短く外反、98が短く外反するものである。96の口唇部は角張る。99は胎土に多量の砂粒と粒径4mm前後の小石が混じる体部片である。101は外面を浅いヘラケズリで丁寧に調整されているもので口縁部が欠損している。二次的火熱を受けている。

102は極端に短く外反しているもので粗いヘラケズリで調整されている。胎土に多く粗砂が混じる。底部は欠損している。103は小型のもので底部が欠損している。口縁部の形態は一樣でなく内湾ないし内傾する部分と極端に短く外反している部分とがある。口唇部は一部角張るところがある。口縁をある程度水平にするために突出した部分を削ったためと思われる。内外面に炭化した煮こぼれが少量付着している。



図版28：ⅢA-12・13住居址

ⅢA-12住居址

遺構 (図版-28, 写真図版-22)

本遺構は調査区南側にあり、西側1m内にⅢA-2・3・7住居址、北約1mにⅢA-4住居址がある。住居址の大半はⅡA-101大溝跡に切られており北側が幾分残存しているだけである。東側はⅢA-10住居址と重複関係にあるが新旧関係は不明である。大溝跡を精査している際に、壁・床面の一部が検出され住居址と判明したものである。埋土は黒褐色シルトである。

残存する北西壁の長さは2.4mである。両隅は丸味を帯びている。形状は方形を呈していたと思われる。壁高は5～11cmである。床面はしまっていない。貼り床は施されていない。柱穴、周溝は検出されてない。カマドの有無、位置は不明である。本住居址はII A-101大溝跡より古い。

出土遺物はない。

III A-13住居址

遺構 (図版-28)

本遺構は調査区南東部にあり、大半がII A-101大溝跡に切られ、更にII A-3住居址、III A-1住居址、II A-1方形周溝跡に切られ北壁の一部が残存しているにすぎない。住居址はII A-3住居址の北西壁側を精査している際に、床面、壁が検出され住居址と判明したものである。埋土は炭化物を含む黒褐色シルトである。

残存している北西壁の長さは3.6mである。隅はやや丸味を帯びている。住居址の形状は方形を呈していたと思われる。壁高は22～30cmである。床面は凹凸があるが、しまっている。柱穴、周溝は検出されていない。カマドの有無は不明である。

本住居址はII A-101大溝跡、II A-3住居址、III A-1住居址、II A-1方形周溝跡より古い。

出土遺物 (図版-109, 写真図版-100)

(埋土) 土師器甕形土器-103、104は外面をヘラケズリで調整され、胎土に砂粒が多く混じる底部片、体部片である。105は全体的に黒色帯びている。

III A-15住居址

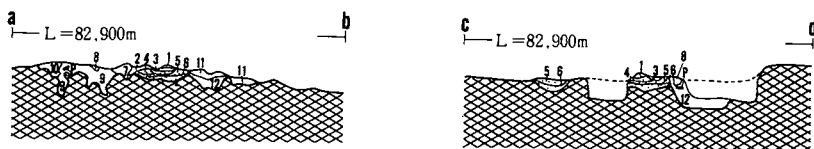
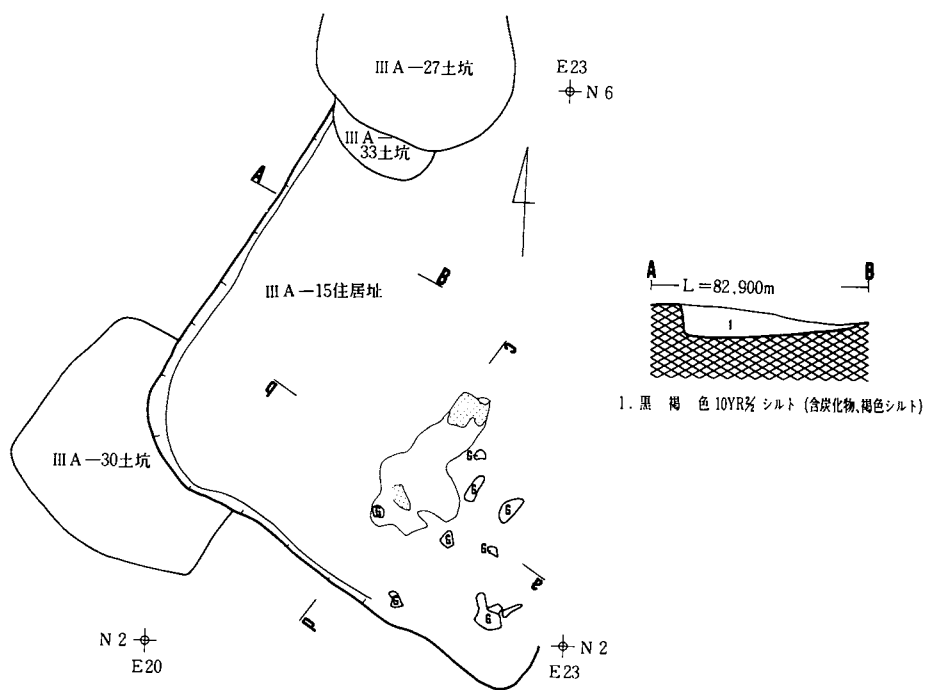
遺構 (図版-29)

本遺構は調査区南端東部に位置し、西約1.5mに住居址がある。基本層序IV b層上面でカマド燃烧部と思われる現地性焼土が検出され遺構と判明したものである。東側の大部分は削平を受けて消失している。北側の一部はIII A-9住居址、III A-27土坑に切られている。

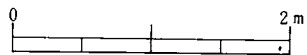
埋土は上位に炭化物、下位に褐色シルトのブロックが多く混じる黒褐色シルトで占められている。

残存する壁の長さは北西壁が2.8m、南西壁が3.3mである。住居址は形状が方形で、一辺が3.3m以上の規模のものであったと推定される。壁高は2～10cmである。

床面は凹凸があり、しまっていない。住居址は埋土が炭化物・暗褐色シルトのブロックを混じる黒褐色シルトの掘り方をもつ。掘り方は住居址南西隅を中心に施され、規模は径2.2m、



- | | |
|-------------------------|-------------------------------|
| 1. 赤褐色 5YR% 焼土 | 7. 黒褐色 5YR% シルト (含焼土粒) |
| 2. 極暗赤褐色 5YR% シルト (含焼土) | 8. 暗褐色 10YR% シルト (含焼土) |
| 3. 赤褐色 5YR% 焼土 | 9. 黒褐色 10YR% シルト |
| 4. 暗赤褐色 5YR% 焼土 | 10. 黒褐色 10YR% シルト (含暗褐色シルト) |
| 5. にぶい赤褐色 5YR% 焼土 | 11. 極暗赤褐色 5YR% シルト (含焼土塊、焼土粒) |
| 6. 赤褐色 5YR% 焼土 | 12. 黒褐色 10YR% (含暗褐色シルト) |



図版29：Ⅲ A-15住居址

深さ5～22cmである。柱穴、周溝は検出されていない。

カマドは南東壁中央部西寄りに設けられている。残存状態は悪く、燃焼部の下底部が現存しているだけで、構成礫と思われる凝灰岩が動いた状態で周囲に散在している。カマド袖は礫を芯にしてシルトで被覆してつくられていたと思われる。燃焼部使用面は中央が窪む浅皿状を呈し、火熱により径1.1m×0.65m、厚さ13cmの規模で赤変している。燃焼部中心は南東壁から少なくとも1.4m以上離れたところに位置している。

本住居址の主軸方位はE-30.5°-Sである。住居址はⅢA-9住居址、ⅢA-27土坑・ⅢA-30土坑より古い。

出土遺物（図版-109、写真図版-100）

（埋土） 土師器甕形土器-106は口縁部が極端に短く外反し、外面をヘラケズリで調整している破片である。108は体部が外傾気味に立ち上がり口縁部が緩く外反しているものである。体部外面は幅広い（2cm前後）やや粗いヘラケズリで調整されており、表面が丸味帯びず角張っている。小型土器-107は口縁部が内湾ないし直上し、外面が主にヘラナデで調整されている破片である。

ⅢA-16住居址

遺構（図版-30、写真図版-24）

本遺構は調査区中央部西寄りにあり、大部分をⅢA-102大溝跡に切られ僅かに南側の一部が残存している。中礫浮石混じりの黒褐色砂質シルト層まで掘り下げた段階、大溝跡より古い遺構として認定されたものである。ⅢA-18住居址と切り合っていると思われる部分が大溝跡に切られている。

埋土は十和田a降下火山灰がブロックで混じる黒色～黒褐色シルト層である。中礫浮石も幾分混じる。3層には十和田a降下火山灰の大ブロック（径3～6cm）が多く混在している。

1・2層はⅢA-102大溝跡の埋土である。東壁寄りの床面で現地性焼土が検出されている。

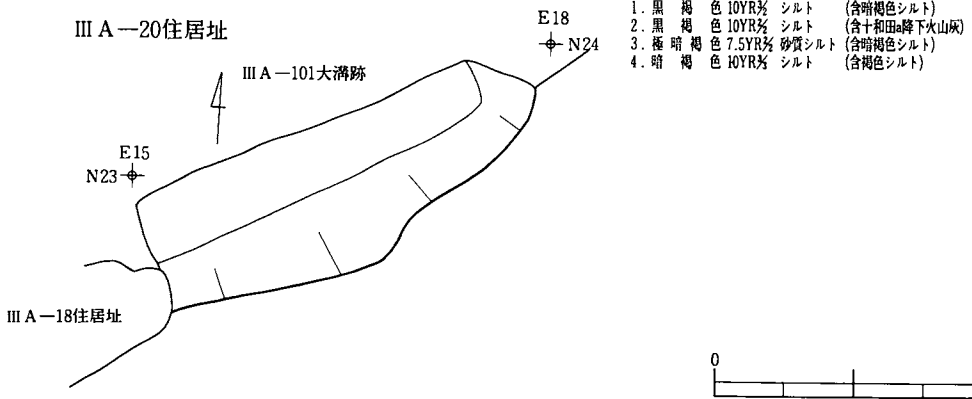
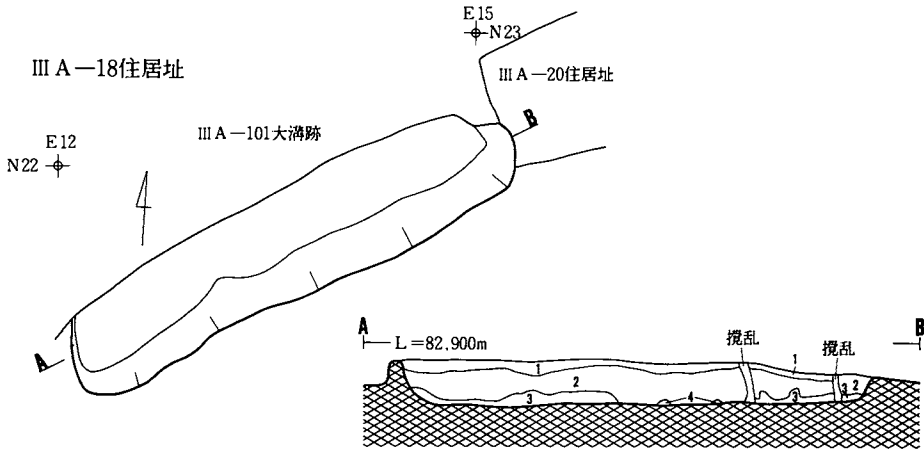
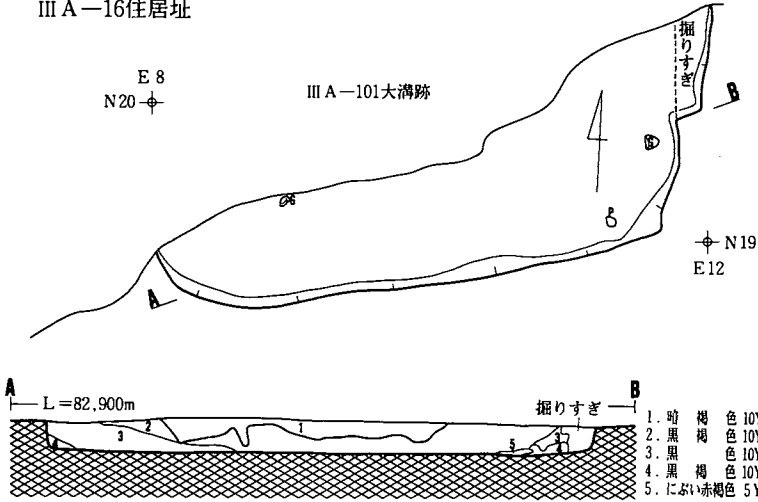
残存している南壁の長さは3.5m、東壁の長さは0.9mである。住居址は一辺が3.7m前後で方形ないし長方形の形状をなしていたと推定される。角は幾分丸味帯びている。壁高は南西隅で20cm、南東隅で15cm、南壁中央部で20cmである。

床は浮石の混じらない暗褐色シルト層を幾分掘り込んでつくられている。床面は硬くしまり、大小の凹凸が少しあるが全体として平坦である。周溝、柱穴は検出されていない。

南東隅に現地性焼土が検出されているが、袖部などのカマド本体がみられず、カマド跡とは断定できなかった。従ってカマドの位置については不明である。

本住居址はⅢA-102大溝跡より古い。東に隣接するⅢA-18住居址との新旧は不明である。

III A-16住居址



図版30：III A-16・18・20住居址

出土遺物（図版—110, 写真図版—100）

（埋土） 土師器甕形土器—109～111は口縁部が極端に短く外反し、体部外面がヘラケズリで調整されている破片である。109～110は小型の土器である。111の口縁部下の2 cm間にはヘラケズリ調整されていない不定方向のヘラナデで調整されている。

ⅢA—18住居址

遺構（図版—30, 写真図版—24）

本遺構は調査区中央部にあり、大半を南西から北東方向に走るⅢA—102大溝跡に切られており、僅かに南東壁が残存するのみである。検出面は中掬浮石起源の黒褐色砂質シルト層上面である。大溝跡に切られた部分でⅢA—16住居址と重複していたと思われる。

埋土は大部分が十和田a降下火山灰を粒状に多く混じり、中掬浮石、十和田b降下火山灰起源と思われる灰白色浮石を幾分含む黒褐色シルト層で占められている。最下部に部分的に暗褐色シルトがブロックで混じる極暗褐色砂質シルト層が堆積している。1層は大溝跡の埋土である。

検出されている南東壁の長さは3.6mで、方形ないし長方形を呈していたと思われる。壁高は南西隅で29cm、南東隅で34cmである。床は暗褐色シルト層の上ブロックを掘り込んでつくられている。床面はやや窪みがあり壁際が幾分高い、全体的にしまっている。

柱穴、周溝は検出されていない。カマドの存在の有無、位置は不明である。

本遺構はⅢA—102大溝跡より古い。ⅢA—16住居址やⅢA—20住居址との新旧は不明である。

出土遺物はない。

ⅢA—19住居址

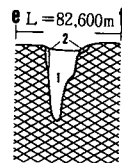
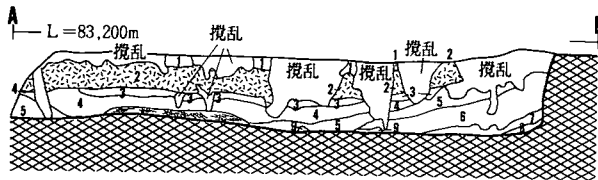
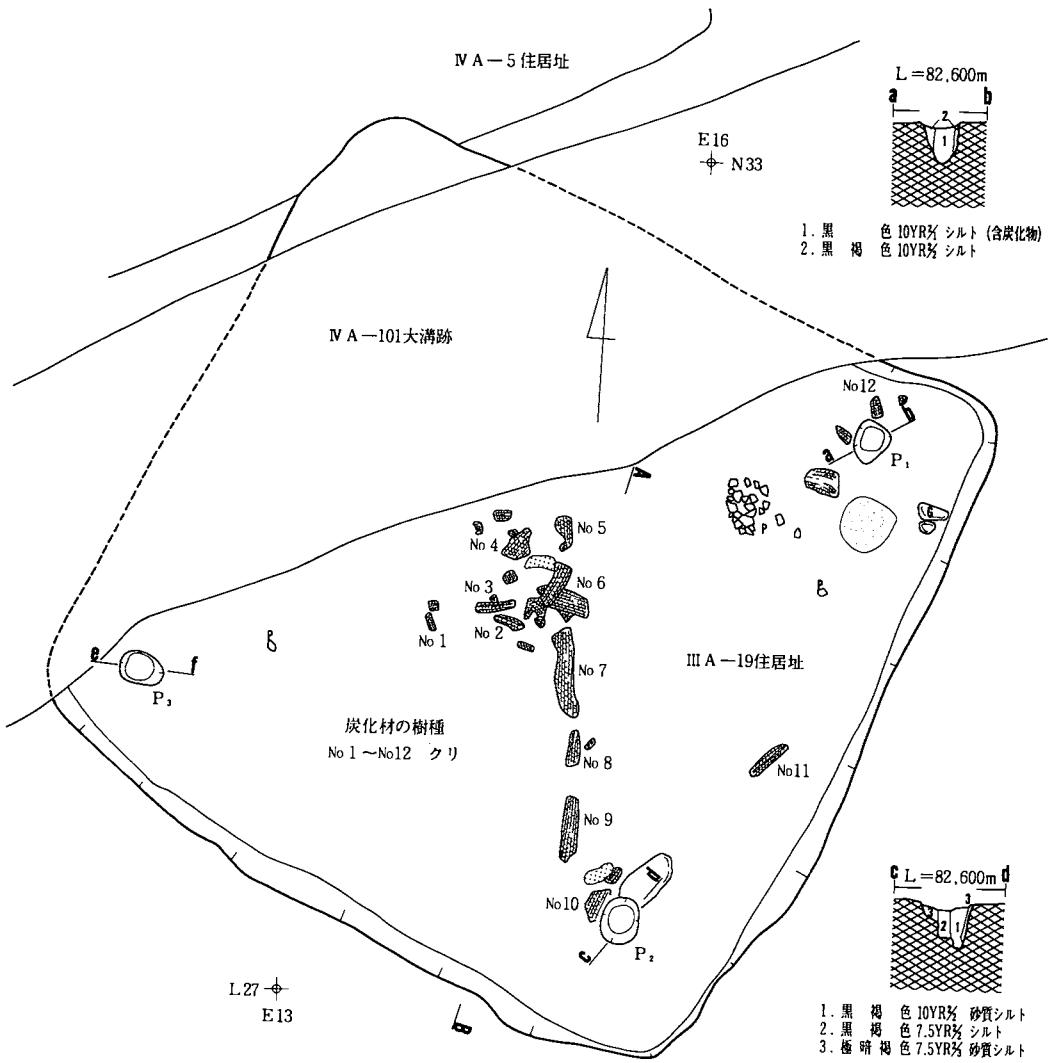
遺構（図版—31, 写真図版—25）

本遺構は調査区中央部北寄りにあり、北側をⅣA—101大溝跡やⅣA—5住居址に切られている。表土下の黒褐色土を取り除いた面、十和田a降下火山灰の広がりかみられ遺構と認定され、形状、規模から住居址と推定したものである。東・西・南隅の壁上部はそれぞれⅣA—1土坑、ⅣA—36土坑、ⅢA—102大溝跡に切られている。本住居址は焼失住居址である。

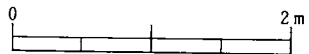
埋土は上半部がレンズ状に堆積している層厚16～21cmの十和田a降下火山灰層、下半部が十和田a降下火山灰のブロック、炭化物、焼土を混じる黒色～黒褐色シルト層で占められている。最下部に炭化材、現地性焼土が多く堆積している。火山灰層の最も低いところは床面から20cmある。

残存する北隅の一部と南側半分から、住居址は一辺から5.4m前後の規模で、隅丸方形の形状をなしていたと思われる。壁高は南西壁中央部で61cm、南東壁中央部で46cmである。

床は暗褐色シルト層を掘り込み、壁周辺を中心に褐色シルトのブロック、浮石を混じる暗褐色



- | | |
|-------------------------------|--------------------------------|
| 1. 灰黄褐色 10YR% 火山灰 | 6. 黒褐色 7.5YR% シルト (含十和田a降下火山灰) |
| 2. にぶい黄褐色 10YR% 十和田a降下火山灰 | 7. 黒色 10YR% シルト |
| 3. 褐色 10YR% 火山灰 (含十和田a降下火山灰) | 8. 黒褐色 7.5YR% シルト |
| 4. 黒褐色 10YR% シルト (含十和田a降下火山灰) | 9. 暗褐色 10YR% 砂質シルト |
| 5. 黒褐色 10YR% シルト | |



図版31：Ⅲ A-19住居址

色シルトで貼り床が施されている。床面は硬くしまり全体的にほぼ平坦である。

柱穴はP₁、P₂、P₃と3つの隅近くに1個づつ検出されている。北隅にも1個あったものと推定され、主柱穴は四角形の4本柱であったと思われる。柱穴の規模は東隅のP₁が径30cm、深さ31cm、南隅のP₂が径34cm、深さ54cm、西隅のP₃が径32cm、深さ33cmである。周溝は検出されていない。

埋土の十和田a降下火山灰の堆積状態や出土遺物からこの住居址とほぼ同時期と思われる住居址から推定して、本住居址のカマドの位置は、大溝跡に切られている北西壁中央部に設けられていたと思われる。

住居址中央部から南側や東側にかけて、現地性焼土や炭化材の分布が多くみられた。分布状態、堆積状態から、投げ込みでなく住居焼失時に形成されたものと考えられる。

本住居址はIVA-5住居址、IVA-101大溝跡、IVA-1土坑、IVA-36土坑より古い。

出土遺物（図版-110・111, 写真図版-101）

（床面） 土師器坏形土器-112は体部上半に沈線をもち、内面黒色処理されている口縁部片である。口縁から沈線までの間に2段の凹凸がある。外面は上半がヨコナデ後一部ヘラミガキ、沈線より下がヘラケズリ後ヘラミガキが施されている。内面に区切りはない。113は体部上位に沈線をもち、内外面をヘラミガキ後黒色処理されている口縁部片である。体部は内湾しながら立ち上がり口唇部近くで直上している。内面に区切りはない。甕形土器-116は口縁部が幾分内湾気味に立ち上がり口唇部近くで直上し、肩部に段をもつもので底部が欠損している。体部外面はヘラケズリ後、タテ方向にやや粗雑なヘラミガキで調整されている。輪積み痕が残っていたり、表面に凹凸があつたりして、全体として粗雑なつくりである。

石製品-119、120は磨石で石質が輝石安山石である。

（埋土） 土師器坏形土器-114は体部外面に軽い段をもち内面に不明瞭ながら区切りをもつ体部片である。外面は段より上をヨコナデ後、下をヘラケズリ後ヘラミガキ調整されている。内面は黒色処理されている。115は体部上位に段をもち内面黒色処理されている口縁部片である。体部は内湾し口唇部近くで外傾している。甕形土器-117、118は同一個体と思われる体部片と底部片で、胎土に砂粒が多く混じり内面が黒色を帯びている。外面は色調が褐色で、調整がヘラケズリである。118は底部が外方に張り出し内面形が丸味帯びている。

ⅢA-20住居址

遺構 (図版-30)

本遺構は調査区中央部にあり、南にⅣA-5住居址、北にⅡA-19住居址がある。西側がⅢA-18住居址に、北側がⅢA-102大溝跡に切られているため、僅かに南東壁の一部が残存するのみである。大溝跡を精査している際に検出された。形状、規模などから住居址としたものである。

埋土は十和田a降下火山灰がブロックで混じる黒褐色シルト層である。

検出されている南東壁の長さは1.5mである。壁高は29~38cmである、床は暗褐色シルト層を掘り込んでつくられている。貼り床は施されていない。床面はほぼ平坦でややしまる。

柱穴、周溝は検出されていない。カマドの存在の有無は不明である。

本遺構はⅢA-102大溝跡より古い。

出土遺物はない。

ⅣA-2住居址

遺構 (図版-32, 写真図版-26・27)

本遺構は調査区北部の南東側にあり、北東にⅢA-18住居址、西にⅣA-6・11住居址などがある。住居址はⅣA-3住居址東半分の上部を切ってつくられている。表土を20cm程掘り下げた段階で、不明瞭であるが黒褐色土の広がりが見られ遺構と判明したものである。湿めると幾分周囲より褐色帯びてみえる程度である。

埋土は層厚が5~8cmとうすく、十和田a降下火山灰や黒色シルトを小ブロックで含み、灰白色浮石、中振浮石が混じる黒褐色シルト層である。

住居址は南西壁が短い台形の形状を呈している。規模は壁中央部間で4.2m×5.2mで北西-南東方向が長い。壁高は北東壁中央部で3cm、南東壁中央部で3cm、南西壁中央部で8cm、北西壁中央部で5cmである。

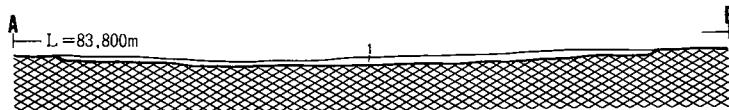
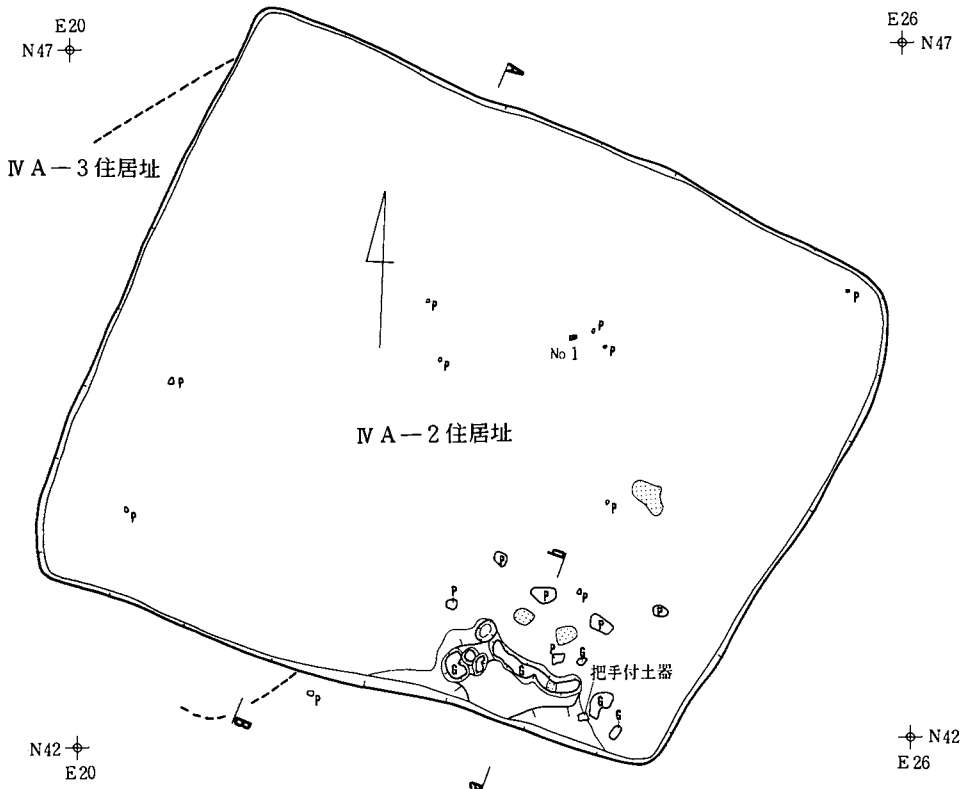
床は中振浮石混じりの黒褐色土層を掘り込んでつくられている。床面は大きい凹凸がある。全体にしまっているが、カマドのある東側半分の床面はすごく硬くしまっている。貼り床は施されていない。柱穴、周溝は検出されていない。

南西壁中央部東寄りの壁際に凝灰岩及び現地性焼土がある程度のまとまりをもって検出されている。カマドの燃焼部と認定できるほどの焼土は残存していないが、凝灰岩が連続して配置されていることから、炉ないしカマドなどの施設があったものと推定される。

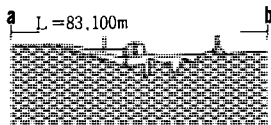
住居址の主軸方位はS-14°-Wである。本住居址はⅣA-3住居址より新しい。

出土遺物 (図版-111, 写真図版-102)

(カマド・床面) 土師器甕形土器-121は口縁部が極端に短く外反し外面をヘラケズリで調



1. 黒褐色 10YR₇ シルト (含十和田a降下火山灰,炭化材)



1. 極暗赤褐色 5YR₇ シルト (含炭化物,焼土粒)
2. 黒褐色 7.5YR₇ シルト

炭化材の種類
No 1 | ナラ



図版32：IV A-2 住居址

整されている口縁片である。小型のものと思われる。把手付土器-122は外面を部分的にヘラケズリ調整されている急須状の把手の部分である。把手は中空のもので、最大径3.7cm、長さ5.4cm、中空の径2.4cm、長さ3.7cmである。本体の部分が残存していないため、どのような位置で、どのような形で取付けられていたかは不明である。

IVA-3 住居址

遺 構 (図版-33・34, 写真図版-27・28)

本遺構は調査区北部の南東側にあり、東半分は上半部をIVA-2住居址に切られている。表土を20cm掘り下げた黒褐色土層上面でIVA-2住居址と同時に検出されたものである。

埋土は上半部の大部分が耕作による攪乱を受け、下半部が中礫浮石、炭化物を含む黒褐色砂質シルト層である。攪乱を受けず僅かに残存している上半部には十和田a降下火山灰が小ブロックで混じる。

住居址は3.7m×4.2mの規模をもち、北西-南東方向に長い長方形をなしている。隅の角は幾分丸味帯びている。壁高は北東壁中央部で37cm、南東壁中央部で30cm、南西壁中央部で32cm、北西壁中央部で30cmである。

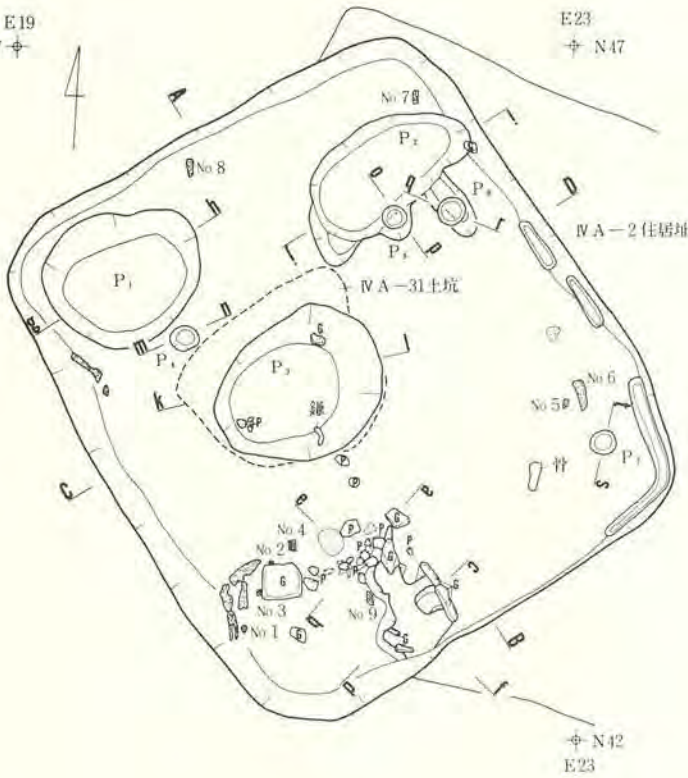
床は暗褐色シルト層を掘り込んでつくられている。床面は凹凸が多くある。焼失時に形成された炭化材や現地焼土がP₃の埋土上部に浅皿状に堆積していることから、P₃の底面は幾分浅く窪んでいたと思われる。また、北西中央部に床より一段高い幅50cm、長さ110cm、厚さ5~9cmの舌状の形をした汚れた暗褐色シルトが検出された。P₁を埋土を除去する際、浮いた形になるので取り除いてしまった。同じように東隅に北東壁に沿って幅50cm、長さ80cm、厚さ20cm~24cmの長形状の硬い部分が検出されている。この下から周溝が見つかっている。当初出入口施設に関連するかと推定したが不明である。焼失時の炭化材がこの上に乗っている。住居の建て替えと何か関係あるのかもしれないがその事実を把握することができなかった。

住居址は深さ4~19cmで底面に凹凸のある掘り方をもつ。掘り方の埋土は黒褐色シルトをブロックで混じる暗褐色シルトや黒色シルトをブロックで混じる黒褐色砂質シルトで構成されている。

柱穴は床面上で検出することができなかった。掘り方埋土を除去した面で柱穴と思われるP₄(径19cm・深さ47cm)、P₅(径14cm、深さ31cm)、P₆(径17cm、深さ44cm)、P₇(径17cm、深さ23cm)の4個が検出されている。配置的に考えて、カマド西脇にも柱穴が1個あったものと考えられ、これとP₄、P₆、P₇との4個で支柱穴は四角形を構成していたと思われる。東隅から北東壁にかけて不連続であるが幅10~13cm、深さ3~8cmの周溝状

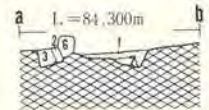
E19
N47

E23
N47

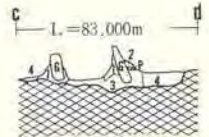


炭化材の樹種

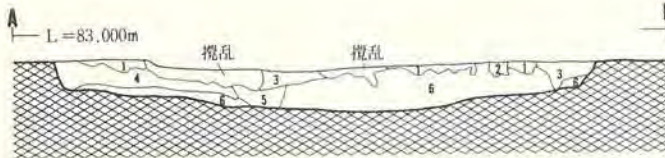
No.1	ケ	ヤ	キ
No.2	ク	リ	リ
No.3	ク	ヤ	キ
No.4	ケ	ヤ	キ
No.5	不	明	樹
No.6	針	葉	樹
No.7	針	葉	樹
No.8	針	葉	樹
No.9	針	葉	樹



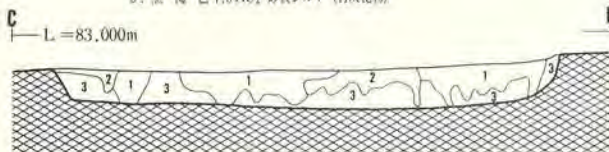
1. 明赤褐色 5YR₇ 砂質シルト 焼土
2. 暗赤褐色 5YR₇ 粘土質シルト
3. 黒色 10YR₇ 砂質シルト



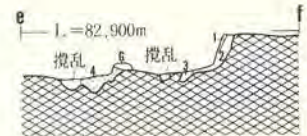
1. 暗赤褐色 5YR₇ 砂質シルト (含炭化物、焼土粒)
2. 暗赤褐色 5YR₇ 砂質シルト
3. 黒褐色 10YR₇ シルト
4. 黒褐色 10YR₇ 砂質シルト (含暗褐色シルト)



1. 黒褐色 10YR₇ シルト (含十和田降下火山灰、炭化物)
2. 暗褐色 10YR₇ シルト
3. 黒褐色 7.5YR₇ 砂質シルト (含暗褐色シルト)
4. 黒褐色 10YR₇ 砂質シルト (含炭化物)
5. 黒褐色 7.5YR₇ 砂質シルト (含炭化物)
6. 黒褐色 7.5YR₇ 砂質シルト (含炭化物)



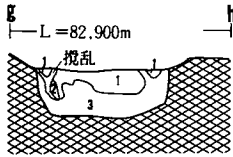
1. 黒褐色 10YR₇ 砂質シルト
2. 極暗褐色 7.5YR₇ 砂質シルト (含暗褐色シルト)
3. 黒褐色 7.5YR₇ 砂質シルト (含炭化物)



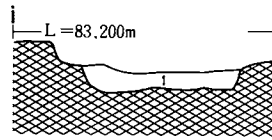
1. 暗赤褐色 2.5YR₇ シルト (含褐色シルト)
2. 極暗赤褐色 2.5YR₇ シルト (含焼土粒、炭化物)
3. 黒褐色 5YR₇ シルト (含炭化物)
4. 明赤褐色 5YR₇ 砂質シルト 焼土



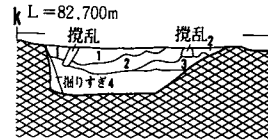
図版33：IV A-3 住居址(1)



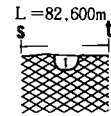
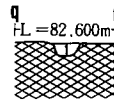
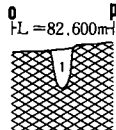
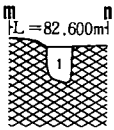
1. 黒褐色 10YR₇ シルト (含炭化物)
2. 暗褐色 10YR₇ シルト (含焼土粒)
3. 黒褐色 10YR₇ シルト (含暗褐色シルト)



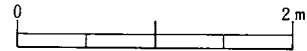
1. 黒色 10YR₇ 砂質シルト (含十和田a降下火山灰)



1. 黒褐色 10YR₇ シルト (含炭化物, 暗褐色シルト)
2. 黒褐色 10YR₇ シルト (含暗褐色シルト)
3. 暗褐色 7.5YR₇ シルト
4. 暗褐色 10YR₇ シルト



- m-n, o-p, g-r, s-t
1. 黒褐色 10YR₇ シルト



図版34：ⅣA—3 住居址(2)

の溝が巡っている。

西隅に不整円の土坑P₁ (径1.0m×1.16m、深さ38cm) が検出されている。埋土は上半部が住居址埋土から連続する炭化物混じりの黒褐色シルト層、下半部が人為的に埋め戻されたと思われる暗褐色シルトのブロックを多く含む黒褐色シルト層である。焼失時には、下半部が埋まっていた状態であったと思われる。また、ほぼ中央部の楕円の土坑P₃ (径1.0m×1.18m、深さ38cm) が検出されている。埋土は十和田 a 降下火山灰が粒状に混じり灰白色浮石が全体に散在する黒褐色シルト層である。最上部に炭化材が堆積している。炭化材の堆積状態から、焼失時には、この土坑はほとんど埋まっていたものと思われる。北隅近くに楕円の土坑P₂ (径1.24m×0.64m、深さ24cm) が検出されている。埋土は十和田 a 降下火山灰が小ブロックで混じる黒色シルト層である。

カマドは南東壁中央部西寄りに設けられている。袖部などのカマド本体の残存状態は悪い。

カマド及び周辺にはカマドの構成礫である凝灰岩が多く検出されている。最大のもは天井部の構成礫で作ったと思われる径29cm×31cm、厚さ8cmの板状のものである。原位置を保つ壁近くのもは径9～10cm×13～20cm、厚さ7～9cmの板状の凝灰岩を並べて直線状に配置している。燃焼部は火熱により焼土化した使用面のみが残存している。焼土の規模は径17cm×20cm、厚さ11cmである。焼土中心から壁までは1.16mあり、他の住居址と比較して長い。袖部の幅は1～1.1mであったと推定される。壁外に半地下式などの煙道はつくられておらず、煙道は壁際で急に立ち上がり屋外の煙出口施設とつながる構造のものであったと思われる。

中央部ではほぼ床面直上、壁際ではやや浮いた形で斜めに堆積した炭化材、現地性焼土がところどころに検出されていることから、住居址は焼失をうけたものと思われる。

本住居址は主軸方向がE-55°-Sで、IVA-2住居址より古い。

出土遺物（図版-112・113、写真図版-102・103）

（床面） 土師器坏形土器-123はロクロ未使用で体部上位に段をもち内面黒色処理されている口縁部片である。内外面の調整はヘラミガキである。甕形土器-124は口縁が不規則な大波状をなし口縁部の形態も一様でなく緩く外反している部分と極端に外反している部分とがある。全体に内外とも黒色を帯びている。125、127は口縁部が緩く外反しているかまたは短く外反していると思われる破片である。外面は粗いヘラケズリで調整されている。126は口縁部が極端に短く外反するもので体部の最大径が中央部より上にある。口縁部は部分的に緩く外反しているところがある。体部外面は鋭いヘラケズリで調整されている。内面のヘラナデ調整はヨコ方向のほかにタテ方向がみられる。内外面に炭化物が付着している。128は口縁部が外反しているがその長さが0.9～1.6cmと一様でないもので底部が欠損している。体部最大径は中位より上にある。胎土には粒径0.6cmの小石が少量混じる。外面調整は鋭いヘラケズリである。二次的に火熱を受けている。内面に輪積み痕が残る。129は外面に木葉圧痕をもつ底部片である。130、131は体部外面をヘラケズリで調整されている体部片である。

鉄製品 手鎌-133は目釘式のもので左半分が欠損している。刃部は使用及び砥ぎ減りにより内弯状に変形している。現存長5.4cm、最大幅2.6cm、最大厚0.2cmである。鎌-136は折り返し部から著しく上方に伸び弯曲するものである。先端は欠損している。全長17.9cm、最大刃幅2.4cm、最大厚0.4cmである。

（埋土） 土師器甕形土器-132は口縁部が極端に短く外反している破片である。外面はヘラケズリで調整され、輪積み痕がみられる。

鉄製品 刀子-134は茎の一部と思われる。現存長は3.0cm、最大厚は0.5cmである。釘-135は横断形が四角をなすもので頭上半が欠損している。

IVA—4 住居址

遺 構 (図版—35・36, 写真図版—29)

本遺構は調査区北部の東側にあり、一部調査区域外にのびている。南にIVA—18住居址、西にIVA—13住居址が隣接して存在する。住居址中央を東西に走る幅1.3mの平安時代のIVA—102溝や現代の水道管理設のための溝などによって切られている。表土を20cm程掘り下げた面、暗褐色シルトの広がりが見られ住居址と判明したものである。

埋土は大半が黒褐色シルトを小ブロックで含むやや汚れた暗褐色シルト層で占められている。最下部に十和田a降下火山灰を小ブロックで含む黒褐色シルト層が堆積している。埋土は溝に切られているほか、耕作による攪乱を受けている。

住居址は東側3分の1が調査区域外にあり全体を把握することができなかったが、検出されている部分から、一辺が5.8～6.6m前後の長さで、ほぼ台形に近い状態をなしていたと思われる。壁高は北隅で43cm、南隅で48cm、北東壁中央部で25cmである。

床は暗褐色シルト層を掘り込んでつくられている。床面は中央部が柔いほかは全体に硬くしまっている。特にカマド周辺は硬い。床面には幾分大小の凹凸が見られる。

柱穴はP₁(径26cm、深さ5cm)、P₂(径30cm、深さ25cm)、P₃(径20cm、深さ26cm)、P₄(径20cm、深さ7cm)、P₅(径36cm、深さ14cm)の4個が検出されている。位置や規模からみて、主柱穴はP₂、P₃、P₄であると考えられ、調査区域外に1個あり、4個で構成していたと思われる。柱穴配置全体はカマド寄りである。周溝は検出されていない。

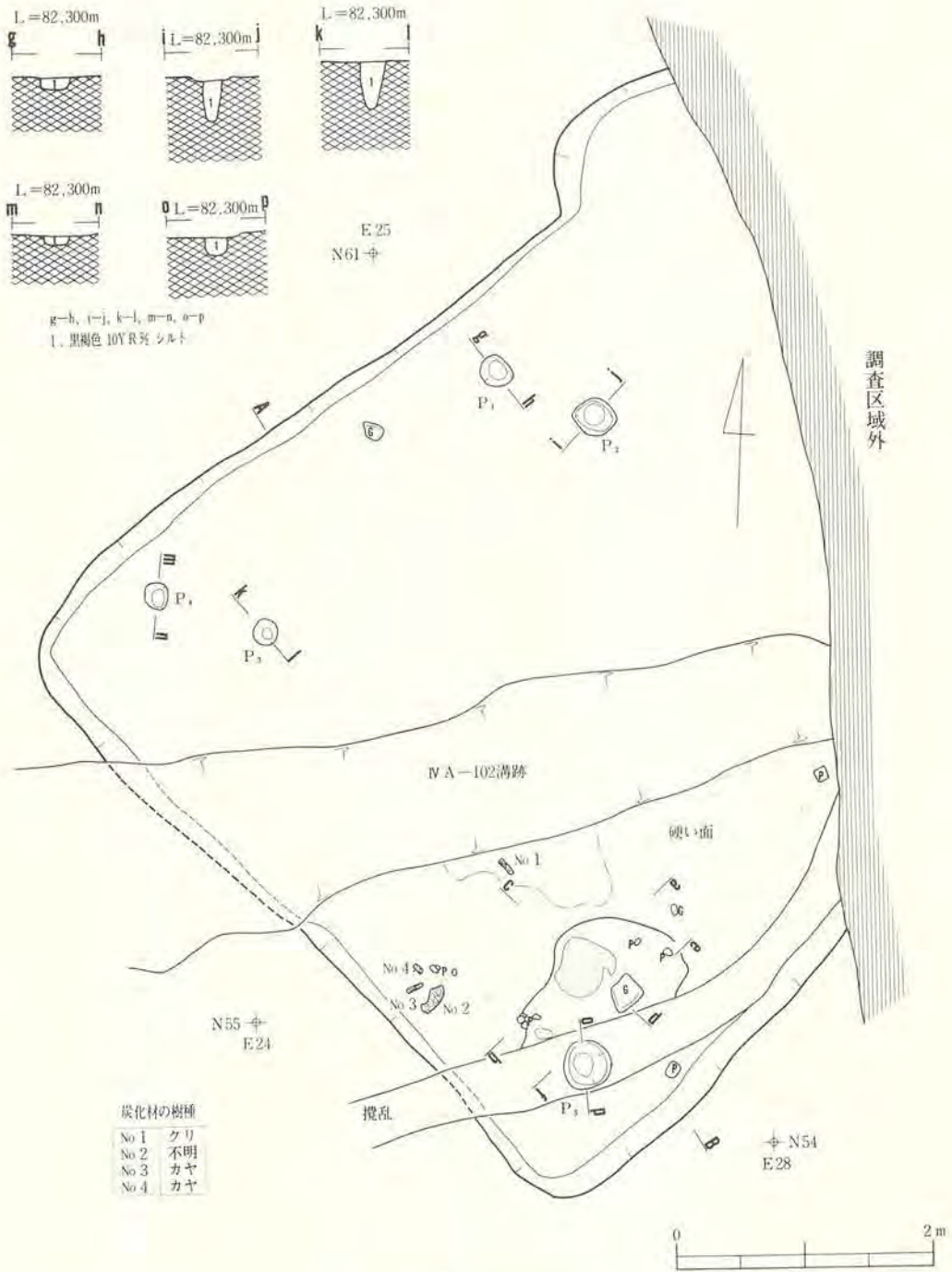
カマドは南西壁中央部西寄りに設けられている。カマド本体はつぶれ、その一部が残存している。カマドは扁平な凝灰岩を芯にし暗褐色シルトなどでまいてつくられていたと思われる。焼土化している燃焼部の使用面は径39cm×46cmの規模の広がりをもつ。焼土の厚さは6cmである。

カマド周辺や中央部と中心に炭化材、現地性焼土が分布していることから、本住居址は焼失住居址であると思われる。

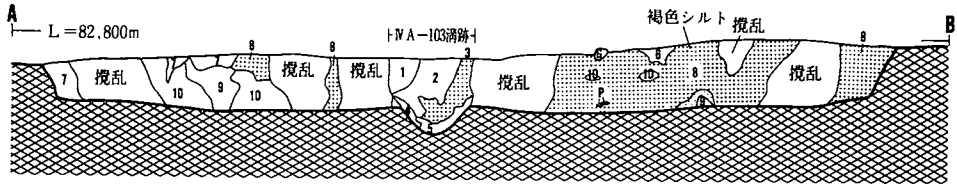
本住居址は主軸方位がW—42°—Sで、IVA—102溝跡より古く、IVA—13住居址との新旧関係はわからない。

出土遺物 (図版—114・115, 写真図版—103・104)

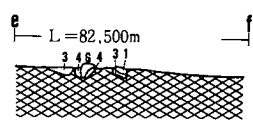
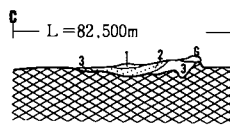
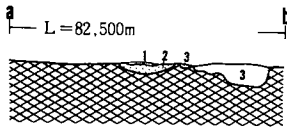
(床面) 土師器甕形土器—138～140は口縁部が極端に短く外反し外面をヘラケズリで調整されている破片である。口縁は不規則な波状をなす。139は外面に輪積み痕を残し粘土紐の幅が1.6～2.2cmである。142は口縁部が短く外反している口縁部片である。胎土に多量の砂粒が混じる。外面は粗いヘラケズリで調整されている。143は全体に黒色帯びており、口縁部が緩く外反している破片である。内外面に顕著な輪積み痕が残っている。粘土紐の幅は1.4cm～2.1cm



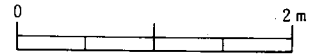
図版35：IV A-4 住居址(1)



- | | |
|----------------------------------|------------------------------|
| 1. 黒褐色 10YR% シルト | 6. 黒褐色 10YR% シルト |
| 2. 黒褐色 10YR% 砂質シルト (含炭化物、暗褐色シルト) | 7. 極暗褐色 7.5YR% シルト |
| 3. 暗褐色 10YR% シルト | 8. 暗褐色 10YR% 砂質シルト |
| 4. 黒色 10YR% シルト | 9. 黒褐色 10YR% シルト (含暗褐色砂質シルト) |
| 5. 黒色 7.5YR% シルト | 10. 黒色 10YR% シルト (含暗褐色砂質シルト) |



- a-b, c-d, e-f
1. 暗褐色 10YR% シルト
 2. 赤褐色 5YR% 焼土
 3. 黒褐色 10YR% シルト
 4. 暗褐色 10YR% シルト



図版36：IV A-4 住居址(2)

である。外面は口縁部下3 cm程がヘラナデされたままでヘラケズリで調整されていない。細かい黒雲母が胎土に混じる。144、145は粒径0.7cmの小石が混じる底部である。145は底部外面にヘラケズリで大部分消失した木葉圧痕が残っている。

(埋土) 土師器坏形土器—137はロクロ使用と思われる口縁部片である。内面はヘラミガキ調整されている。火熱により黒色は焼失している。甕形土器—141は短く外反し外面ヘラケズリ調整の口縁部片である。小型のものである。胎土中には砂粒が少ないが1個だけ粒径1.6 cmの小石が混じる。144は口縁部が内湾ないし内傾している破片である。口縁は水平でなく凹凸がある。胎土には砂粒のほかに粒径0.4~0.5cmの小石が少し混じる。外面は鋭いヘラケズリ調整である。148は胎土に砂、小石が混じる体部片である。147は金雲母が胎土に多く混じる底部片である。

VI A - 5 住居址

遺構 (図版-37・38, 写真図版-30)

本遺構は調査区中央部にあり、西のIV A - 7・8住居址と近接している。住居址は北側をIV A - 6住居址、南側をIV A - 101大溝跡に切られ、III A - 19住居址の北隅やIV A - 46・48・50土坑を切っている。検出面は中礫浮石混じりの黒褐色砂質シルト層である。

埋土は大半が十和田 a 降下火山灰をブロックで多く含み、暗褐色シルトを小ブロックで含む黒褐色砂質シルト層で占められている。全体に中礫浮石、十和田 b 降下火山灰起源の灰白色浮石が散在している。

住居址は南側がIV A - 101大溝跡に切られているが、南東壁に設けられているカマドの燃焼部が残存していることから、全体の形状、規模について推定することができる。住居址は一辺5 m前後の規模をもち方形の形状をなしていたと思われる。壁高は北東壁で38cm、北西壁で55cm、南西壁で59cmである。

床は暗褐色シルト層を掘り込んでつくられている。住居址に伴う土坑P₁があるのに気がつかなかったことやIV A - 50土坑のある床面の部分が窪んでいたことなどから、低い面に合わせて掘ってしまい、カマド、土坑周辺を除く床面に幾分掘りすぎがある。消失してしまったが、床面は全体的にしまっていた。カマド周辺は硬くしまっている。IV A - 50土坑のある部分は、土坑上部を暗褐色シルトをブロックで混じる黒褐色シルトや黒色シルトで塞いで床面をつくっている。その面は踏み固められ皿状に窪み硬くなっている。

柱穴と思われるものがP₂ (径29cm、深さ14cm)、P₃ (径26cm、深さ89cm)、P₄ (径18cm、深さ15cm)、P₅ (径20cm、深さ18cm)の4個が検出されている。柱穴の配置は平行四辺形なので別にあるのかもしれない。この配置はIV A - 3・4住居址と同じく全体としてカマド寄りである。周溝は検出されていない。

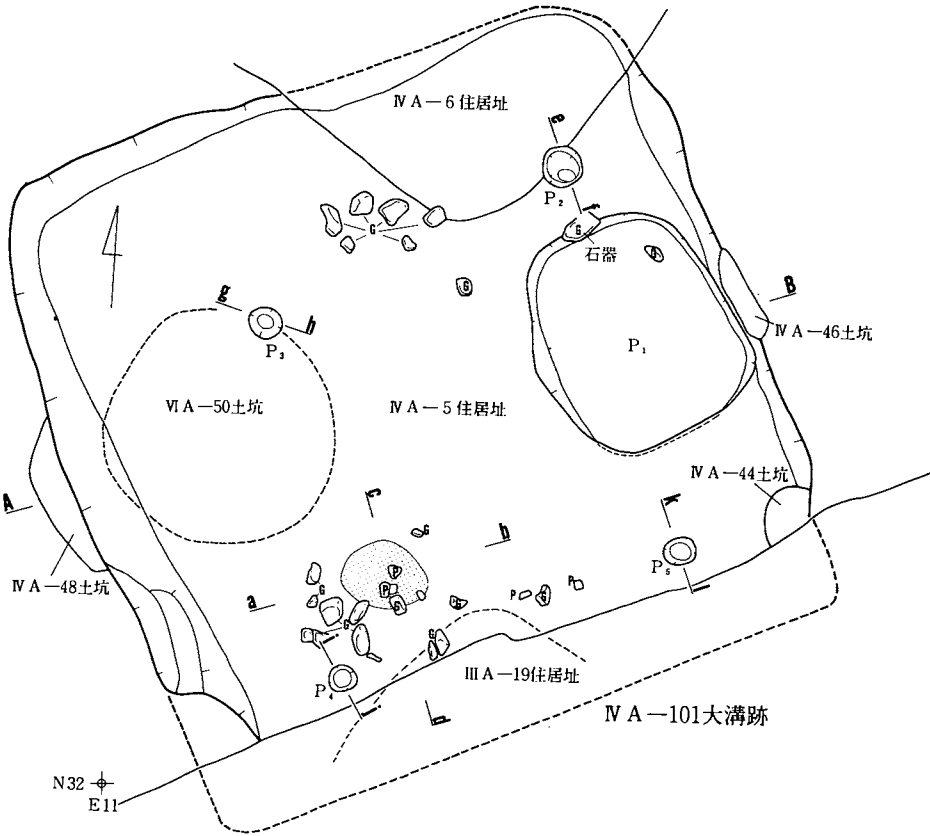
カマドは南東壁中央部西寄りに設けられている。南側が一部大溝跡に切られカマド燃焼部のみが残存している。燃焼部の使用面は浅皿状をなし火熱により赤変し、その焼土の規模は径50 cm×60cm、厚さ12cmである。カマドの袖部は扁平な凝灰岩を埋置し芯にしシルトでまいてつくられていたと思われる。カマドは一部III A - 19住居址の壁・埋土を切って構築している。

北東壁の中央部に接する形で住居址に伴う隅丸長方形の土坑P₁ (径162×128cm、深さ54 cm)が検出されている。埋土は上層が十和田 a 降下火山灰が小ブロックで混じる黒褐色シルト層、中層が灰白色浮石を混じる黒色シルト層、下層が暗褐色シルト層で構成されている。上・中層は住居址埋土と連続しており自然堆積の様相をなしている。土坑は貯蔵穴などと類した機能をしていたものと思われる。

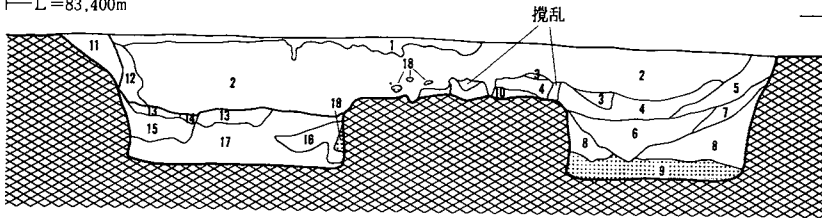
北西壁中央部から土坑P₁にかけて長径10~24cmの垂角礫がほぼ床面で8個検出されてい

E11
N38

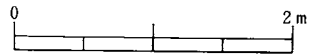
E15
N38



A—L=83,400m



- | | |
|--|--|
| 1. 黒褐色 10YR $\frac{2}{6}$ シルト | 11. 黒色 10YR $\frac{2}{6}$ シルト |
| 2. 黒褐色 10YR $\frac{2}{6}$ 砂質シルト (含十和田a降下火山灰、暗褐色シルト) | 12. 黒褐色 7.5YR $\frac{2}{6}$ シルト (含十和田a降下火山灰) |
| 3. 黒褐色 7.5YR $\frac{2}{6}$ 砂質シルト (含十和田a降下火山灰、炭化物、暗褐色シルト) | 13. 黒色 10YR $\frac{2}{6}$ 砂質シルト |
| 4. 黒褐色 10YR $\frac{2}{6}$ 砂質シルト (含十和田a降下火山灰) | 14. 黒褐色 10YR $\frac{2}{6}$ 砂質シルト (含暗褐色シルト) |
| 5. 黒褐色 7.5YR $\frac{2}{6}$ 砂質シルト (含燧土粒、十和田a降下火山灰) | 15. 黒色 10YR $\frac{2}{6}$ シルト (含暗褐色シルト) |
| 6. 黒褐色 10YR $\frac{2}{6}$ 砂質シルト (含炭化物) | 16. 黒褐色 10YR $\frac{2}{6}$ 砂質シルト |
| 7. 黒褐色 7.5YR $\frac{2}{6}$ シルト (含十和田a降下火山灰) | 17. 黒褐色 10YR $\frac{2}{6}$ シルト (含暗褐色シルト) |
| 8. 黒色 7.5YR $\frac{2}{6}$ シルト | 18. 暗褐色 7.5YR $\frac{2}{6}$ シルト |
| 9. 黒褐色 7.5YR $\frac{2}{6}$ シルト | |
| 10. 黒褐色 10YR $\frac{2}{6}$ 砂質シルト | |



図版37：IV A—5 住居址(1)

る。住居上部や屋根上に置かれていたものか、住居内で使用されていたものか、廃絶後投げ込まれたのかは不明である。8個のうち1個は台石として使用されたものである。

本住居址は主軸方位がE-66.5°-Sで、IV A-6住居址やIV A-101大溝跡より古く、III A-19住居址、土坑IV A-46・48・50土坑より新しい。

出土遺物 (図版-115・116・117,写真図版-104・105)

(カマド・床面) 土師器甕形土器-151は口縁部が極端に短く直上気味に外傾している口縁部片である。外面はヘラケズリ、内面は強いヘラナデで調整されている。口唇部は角張るところと丸味帯びるところがある。二次的の火熱を受けている。156は外面ヘラケズリ調整の底部片である。157は胎土に金雲母が幾分混じる底部片である。内面は黒色を帯びている。

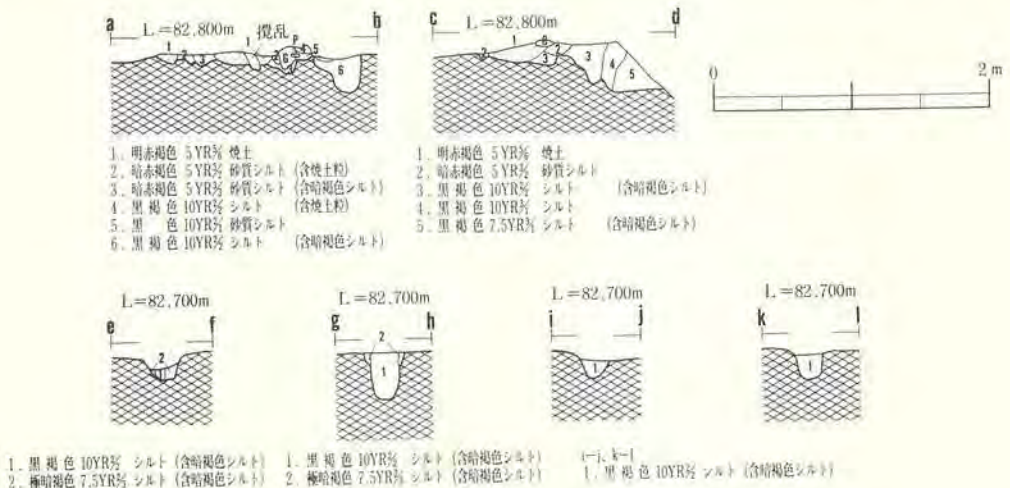
土製品-160は球状または円柱状の形をしていたと思われる。用途は不明である。

鉄製品-164は茎の一部であると推定される。現存長は5.4cmである。

石製品-165は平坦面に使用痕があり台石と思われる。石質は花崗閃緑岩である。

(埋土) 土師器環形土器-149は体部上位に不連続な沈線をもち、内外面ヘラミガキ調整されている内黒の口縁部片である。甕形土器-150は口縁部が外反し口唇部が角張り中央に浅い溝をもつ口縁部片である。肩部に軽い段をもつ。152は口縁部が極端に短く外反している破片である。153は全体的にいびつな器形である。口縁部が緩く外反している。

口縁は凹凸がある。体部と底部が接合する部分は丸味を帯びている。体部外面はヘラケズリで調整されている。胎土には小石が混じる。154は内外面に炭化物が付着し外面ヘラケズリ調整されている体部上半の破片である。157~159は底部片である。159は底部外面に笹の葉圧痕



図版38：IV A-5住居址(2)

をもつ。

鉄製品 161は手鎌の一部と推定される。162の器種は不明である。雁股—163両先端を欠損している。現存長は11.1cm、最大値は4.0cmである。

IV A—6 住居址

遺 構 (図版—39, 写真図版—31・32)

本遺構は調査区中央部北側にあり、IV A—5住居址を切ってつくられている。北にIV A—11住居址、西にIV A—8住居址が近接している。検出面は中振浮石を混じる黒褐色砂質シルト層上面である。IV A—5住居址し重複した形で同じ面で遺構として判明したものである。

埋土は上位層が十和田a降下火山灰を小ブロックで幾分混じる黒褐色シルト層、下位層が十和田a降下火山灰を大ブロック(長径4~6cm、短径2~3cm)で多く含む黒色砂質シルト層で占められている。上層部は耕作による攪乱を多く受けている。

住居址は4.2m×4.4mの規模をもち、方形の形状をなしている。隅の角はやや丸味帯びている。壁高は北東壁中央部で36cm、南東壁中央部で38cm、南西壁中央部で37cm、北西壁中央部で49cmである。

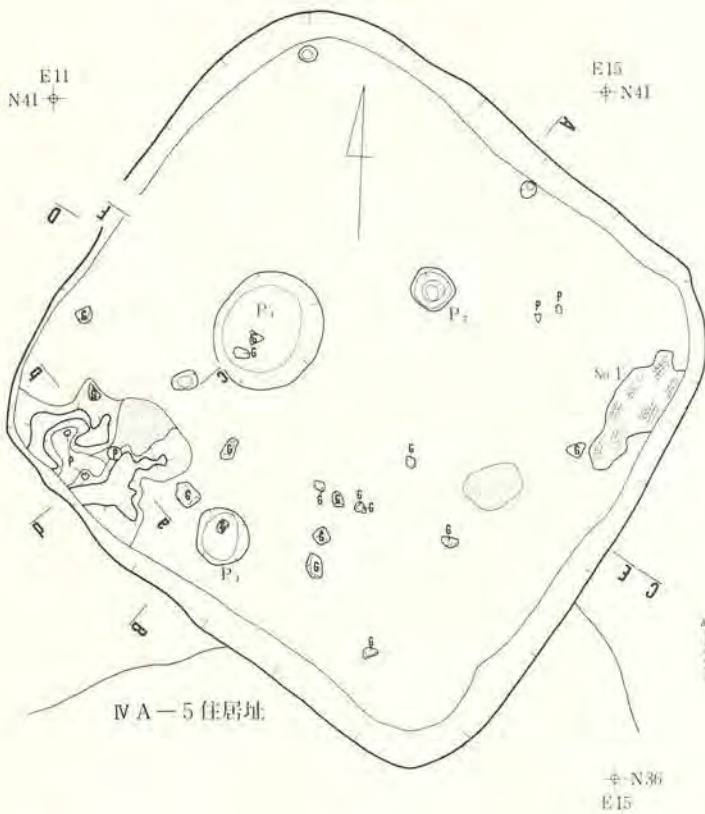
床は暗褐色シルト層を下位の中振浮石層直前近くまで掘り込んでつくられている。床面は幾分凹凸がある。床面は全体としてしまっている。カマド周辺は特に硬い。床は深さ3~16cmで底面に凹凸がある掘り方をもつ。埋土は中振浮石を多く混じる黒褐色砂質シルトである。

床面上で柱穴は見つけれず、掘り方底面上で柱穴と思われるP₂(径30cm、深さ43cm)、P₃(径40cm、深さ12cm)の2個が検出されている。2本の柱穴配置は類例がなく支柱穴として断定しがたい。周溝は検出されていない。

中央部西寄りに円状の土坑P₁(径76cm×98cm、深さ31cm)が検出されている。底部は播鉢状をなしている。土坑は人為的に塞がれており、廃絶時には使用されていなかったものと思われる。埋土は上位が暗褐色、黒色シルトを粒状に混じる砂質シルト層、中位が暗褐色粘土質シルト層、下位が暗褐色シルトをブロックで混じる黒褐色シルト層である。

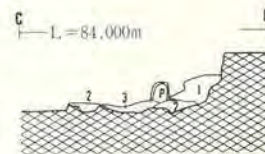
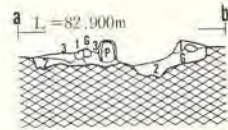
カマドは南西壁中央部西寄りに設けられている。カマドの残存状態は悪い。袖部は凝灰岩を芯にし暗褐色シルトでまいて構築されていたと思われる。燃烧部使用面は浅皿状なし、径40cm×60cm、厚さ8cmの規模で火熱により焼土化している。煙道は壁外に半地下式のものなどはつくられておらず、壁際から急激に立ち上がり屋外の煙出口につながっていたものと思われる。燃烧部奥に口径12.8cm、器高15.9cm、底径7.5cmの甕形土器を倒立させてカマドの支脚としている。カマド本体の規模は幅96cm、全長105cm程度であったと推定される。

床面がところどころ焼けていることや東側の床面上に炭化材が堆積していることから、焼失住居址であったと思われる。

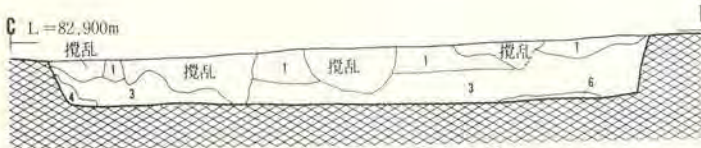
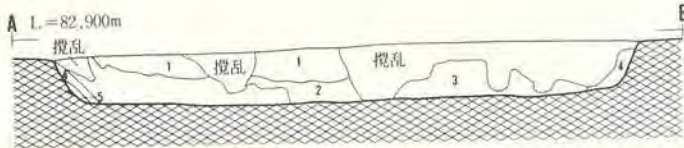


IV A-5 住居址

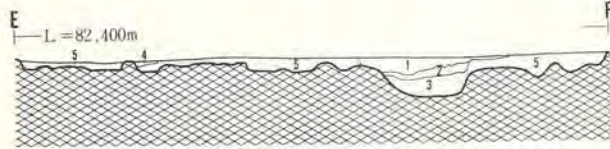
炭化材の樹種
No. 1 クリ



- a-b, c-d
1. 暗褐色 10YR5/3 シルト
 2. 黒褐色 10YR5/3 砂質シルト (含暗褐色粘土質シルト)
 3. 赤褐色 5YR5/3 砂質シルト 焼土



- A-B, C-D
1. 黒褐色 10YR5/3 シルト (含十和田降下火山灰)
 2. 黒褐色 7.5YR5/3 シルト (含十和田降下火山灰、炭化物)
 3. 黒色 10YR5/3 砂質シルト (含十和田降下火山灰、暗褐色シルト)
 4. 黒色 10YR5/3 シルト (含十和田降下火山灰)
 5. 黒褐色 10YR5/3 (含十和田降下火山灰)
 6. 暗褐色 7.5YR5/3 シルト



- E-F 掘り方埋土
1. 黒褐色 10YR5/3 砂質シルト (含暗褐色シルト)
 2. 暗褐色 10YR5/3 粘土質シルト
 3. 黒褐色 7.5YR5/3 シルト (含暗褐色シルト)
 4. 暗赤褐色 5YR5/3 砂質シルト (含焼土)
 5. 黒褐色 10YR5/3 砂質シルト



図版39：IV A-6 住居址

本住居址は主軸方位がS-34.5°-Wで、IVA-5住居址より新しい。

出土遺物（図版-117・118・119・120, 写真図版-106・107）

（床面・カマド） 土師器坏形土器-168は体部上位に軽い段をもちロクロ不使用で内面黒色処理の口縁部片である。内外面はヘラミガキで調整されている。甕形土器-170はほぼ完形のもので倒立させてカマド支脚として使用されていた。口縁部は極端に短く外反し体部最大径が中央部よりやや上にあり体部が僅かに膨らむ器形である。口唇部の厚さは一様ではない。外面はヘラケズリで調整されている。胎土に砂粒が多く混じる。173は体部外面がナデ調整後、部分的にヘラケズリが行われている体部片である。外面に輪積み痕が残り粘土紐の幅は2~2.5cmである。180、181は底部外面に木葉圧痕をもち外面ヘラケズリ調整されている底部片である。181は体部下半に段をもっている。壺形土器-179は二次的焼熱を受け外面ヘラケズリ調整の底部片である。

土製品 轆の羽口-190はカマド右袖の壁際に直立した状態で検出された羽口の先端部側のものである。先端は溶解し鉄滓が付着している。現存長106cm、先端部の外径5.8cm・内径2.1cmである。

（埋土） 土師器坏形土器-166は外面に段、内面に稜をもつ口縁部小破片である。167は体部上半に段のみられない口縁部片である。169は体部上位に段をもち内面に区切りをもたない口縁部片である。3点とも外面はヨコナデ・ヘラケズリ後ヘラミガキ調整、内面はヘラミガキ後黒色処理されている。182は平底で外面ヘラケズリ、内面ヘラミガキ後黒色処理されている底部片である。甕形土器-172~178は体部外面がヘラケズリ調整されている口縁部片である。口縁部の形態は171、172、174、176が極端に短く外反、175が短く外反、177が直上気味に外傾、178が緩く外反している。171、178は胎土中に雲母が多く混じる。174は器壁が薄い。183~185は外面ヘラケズリ調整されている底部片である。184、185は底部外面に木葉圧痕をもつ。183の底部は外方に幾分張り出す。

鉄製品 釘-187は両先端が欠損している。現存長は4.8cm、幅0.4cmである。刀子-188は茎の一部である。現存長5.5cm、最大幅1.3cm、最大厚0.6cmである。鉄鎌-189は根先が三角形で茎の先端が欠損している。現存長9.7cm、身の高さ6.9cm、身の最大幅0.9cmである。

IVA-7住居址

遺構（図版-40, 写真図版-33・34）

本遺構は調査区中央部の北西側にあり、東にあるIVA-5住居址や北にあるIVA-8住居址と近接している。南側は南西-北東方向に走る幅2.8mのIVA-101大溝跡やIVA-103遺跡に切られ僅かに南隅が残存する。住居址はIVA-9住居址やIVA-18土坑を切ってつくられてい

る。検出面は中振浮石混じる黒褐色砂質シルト層上面である。

埋土は大半が十和田 a 降下火山灰を小ブロックで含む、十和田 b 降下火山灰起源の灰白色浮石を含む黒褐色シルト層である。最下部に十和田 a 降下火山灰のほかに暗褐色シルトをブロックで混じる黒褐色砂質シルト層が堆積している。

残存する壁の輪郭線から、住居址は一辺が6.5mの規模をもち、方形の形状をなしていたと思われる。隅の角はやや丸味帯びている。壁高は北隅で44cm、西隅で46cm、南隅で40cmである。

床は中振浮石層下位の暗褐色シルト層を掘り込んでつくられている。中央部を除く周辺部は黒色シルト、暗褐色シルトを小ブロックで混じる黒褐色砂質シルトで厚さ2～5 cmの貼り床が施されている。床面は緩やかな凹凸があるが全体として平坦で硬くしまっている。

柱穴と思われる規模のものが P₁ (径34cm、深さ14cm)、P₂ (径32cm、深さ41cm)、P₃ (径26cm、深さ19cm)、P₄ (径34cm、深さ21cm) の4個が検出されている。配置からみて、P₁、P₂が支柱穴であると考えられ、大溝跡に切られている南側にも2本あって、4本で四角形の柱穴配置をしていたものと思われる。周溝は幅16～20cm、深さ7～14cmの規模で巡っている。南隅の周溝は掘り過ぎてしまったと思われる。

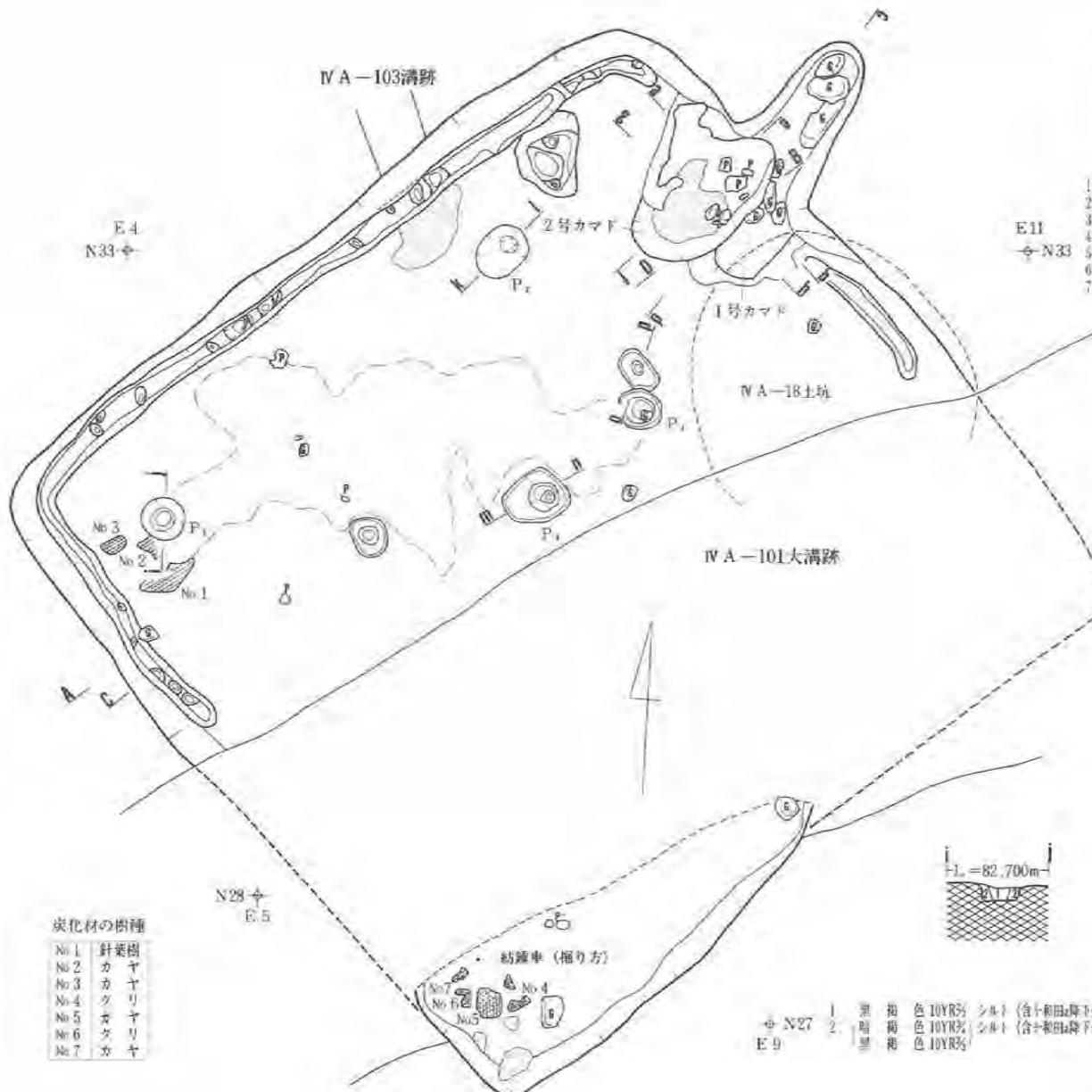
カマドは北東壁中央部北寄りに設けられている。ほぼ同一位置でカマドのつくり替えが行われており、新しい方を新カマド、古い方を旧カマドと呼ぶ。新カマドは旧カマドのやや北寄りの旧カマドの左袖上につくられている。新カマドは直方体状の凝灰岩を「ハ」の字状に並べ、それにシルトや粘土質シルトをまいてつくられている。燃烧部使用面は浅皿状をなし火熱により赤変している。焼土の規模は径24cm×48cm、厚さ5 cmである。煙道は壁際から急激に立ち上がり屋外の煙出口につながるものと思われる。新カマドの規模は幅0.6m、全長1.5mである。

旧カマドは新カマドと違い半地下式の煙道(幅50～60cm、長さ110cm、深さ10～17cm)をもつものである。左袖、燃烧部使用面は新カマドによって大半を削られ、右袖と煙道の一部が残存している。右袖及び煙道にはカマドの構成礫である凝灰岩が直線状に並べている。煙道は燃烧部から緩く立ち上がり、そのままの勾配でのぼり煙出口につながる。旧カマドの規模は幅0.9m、全長2.2mである。

西隅から東側にかけて、床面またはほぼ床面直上に炭化材や現地性焼土が検出されていることから、住居址は焼失住居址であると考えられる。

主軸方位はN-40°-Eである。本住居址はIVA-101大溝跡、IVA-103溝跡より古く、IVA-9住居址、IVA-18土坑より新しい。

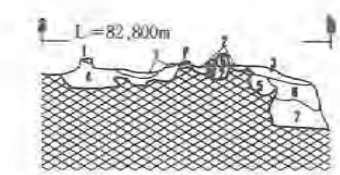
出土遺物 (図版-120・121・122・123, 写真図版-107・108・109)



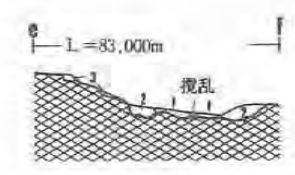
炭化材の樹種

No.1	針葉樹
No.2	カヤ
No.3	ツリ
No.4	ヤ
No.5	ヤ
No.6	ヤ
No.7	ヤ

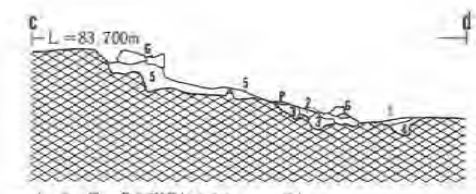
紡錘車 (掘り方)



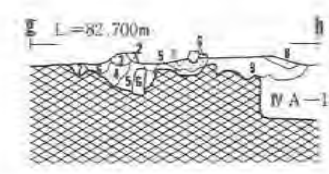
- E.11
N33
- 暗赤褐色 5YR5 砂質シルト (含焼土粒)
 - 黒褐色 10YR5 シルト
 - 黒褐色 10YR5 砂質シルト
 - 黒褐色 10YR5 砂質シルト
 - 黒褐色 7.5YR5 砂質シルト (含暗褐色シルト)
 - 黒褐色 10YR5 シルト (含十和田降下火山灰, 暗褐色シルト)
 - 暗褐色 7.5YR5 シルト (含暗褐色シルト)



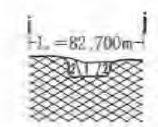
- IV A-7住
- 明赤褐色 2.5YR5 シルト 焼土
 - 黒褐色 10YR5 砂質シルト (含暗褐色シルト)
 - 暗褐色 2.5YR5 砂質シルト (含暗褐色シルト)



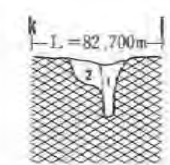
- 赤褐色 2.5YR5 シルト 焼土
- 暗赤褐色 5YR5 シルト (含焼土粒)
- 黒褐色 10YR5 シルト (含暗褐色シルト)
- 黒褐色 7.5YR5 砂質シルト
- 黒褐色 7.5YR5 シルト



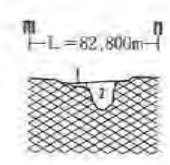
- 明赤褐色 2.5YR5 焼土
- 暗赤褐色 5YR5 シルト (含焼土粒)
- 暗赤褐色 10YR5 焼土質シルト
- 黒褐色 10YR5 シルト
- 暗褐色 10YR5 シルト
- 暗褐色 10YR5 シルト
- 暗褐色 10YR5 焼土質シルト
- 黒褐色 10YR5 砂質シルト
- 暗褐色 10YR5 シルト (含十和田降下火山灰, 暗褐色シルト)



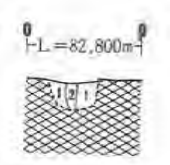
- E.9
N27
- 黒褐色 10YR5 シルト (含十和田降下火山灰)
 - 暗褐色 10YR5 シルト (含十和田降下火山灰)
 - 黒褐色 10YR5



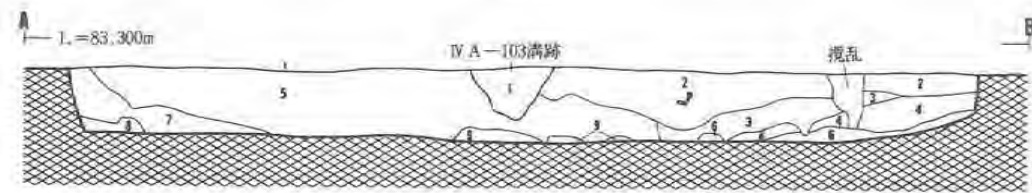
- 黒褐色 10YR5 シルト
- 暗褐色 10YR5
- 黒褐色 10YR5 シルト
- 黒褐色 10YR5



- 暗褐色 10YR5
- 暗褐色 10YR5



- 黒褐色 10YR5 シルト (含十和田降下火山灰)
- 黒褐色 10YR5 シルト



- 黒褐色 10YR5 シルト (含十和田降下火山灰)
- 黒褐色 10YR5 シルト (含十和田降下火山灰)
- 黒褐色 7.5YR5 砂質シルト (含暗褐色シルト)
- 黒褐色 10YR5 シルト (含暗褐色シルト)
- 黒褐色 10YR5 シルト (含十和田降下火山灰)



- 黒褐色 10YR5 シルト (含十和田降下火山灰, 暗褐色シルト)



図版40: IV A-7 住居址

(床面・カマド) 土師器環形土器—191は小型で内黒の丸底である。体部外面は上半がヨコナデ後ヘラミガキ、下半がヘラケズリ調整されている。ロクロ不使用である。194はロクロ不使用で外面ヘラケズリ調整の口縁部片である。甕形土器—195、201は口縁部が内傾ないし内弯しているものである。体部外面は主にヘラナデ調整が中心で、下半に幾分ヘラケズリ調整が行われている。外面に輪積み痕が顕著に残る。201は小型の甕である。粘土紐の幅は195が2～3cm、201が1～1.5cmである。201は底部外面に木葉圧痕をもつ。195は底部を欠損している。199は外面ヘラケズリ調整で口縁部が内弯（一部極端に短く外反）している破片である。196、200、202、204は口縁部が極端に短く外反している口縁部片である。外面調整は200がヘラナデ、そのほかがヘラケズリである。204のヘラケズリは粗い。196、200の胎土には金雲母が多く混じる。198は口縁部が外反し体部外面調整がヘラケズリであるものである。二次的の火熱を受けている。203、205、208は底部片である。203は底部外面を丁寧なヘラケズリで調整されている。208は体部下端がすばまり底部につながる。207は外面ヘラケズリ調整の体部片である。胎土には砂粒がやや多く混じる。

石器—210、211は石質が輝石安山岩である。ともに平坦面に擦痕をもつものである。211は台石として使用されたと思われる。

(掘り方埋土) 鉄製品 紡錘車—209は両先端が欠損しているが現存長20.3cm、円盤の外径5.9cm、円盤の長さ0.4cm、軸の径0.5cmである。残存する上端は屈曲している。

(埋土) 土師器環形土器—192は体部外面中位に軽い段をもち、内外面ヘラミガキ調整で体部下端が丸味をもつ平底のものである。外面の一部は消失しているが内外黒色処理されている。

193は体部外面に段、内面に区切りをもつ台付のものである。内外面は丁寧なヘラミガキで調整されている。内面は黒色処理されているが大半が二次的の火熱により消失している。台は高さが0.5cm、外面中央が幾分くぼむ。甕形土器—199は口縁部が極端に短く外反し、外面がヘラナデ後ヘラケズリ調整されている小型甕の口縁部片である。胎土に金雲母が多く混じる。

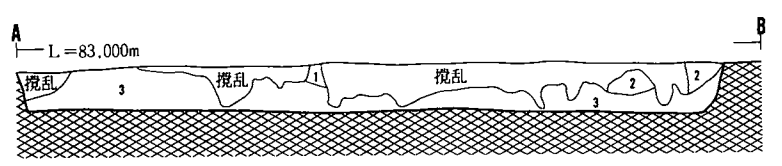
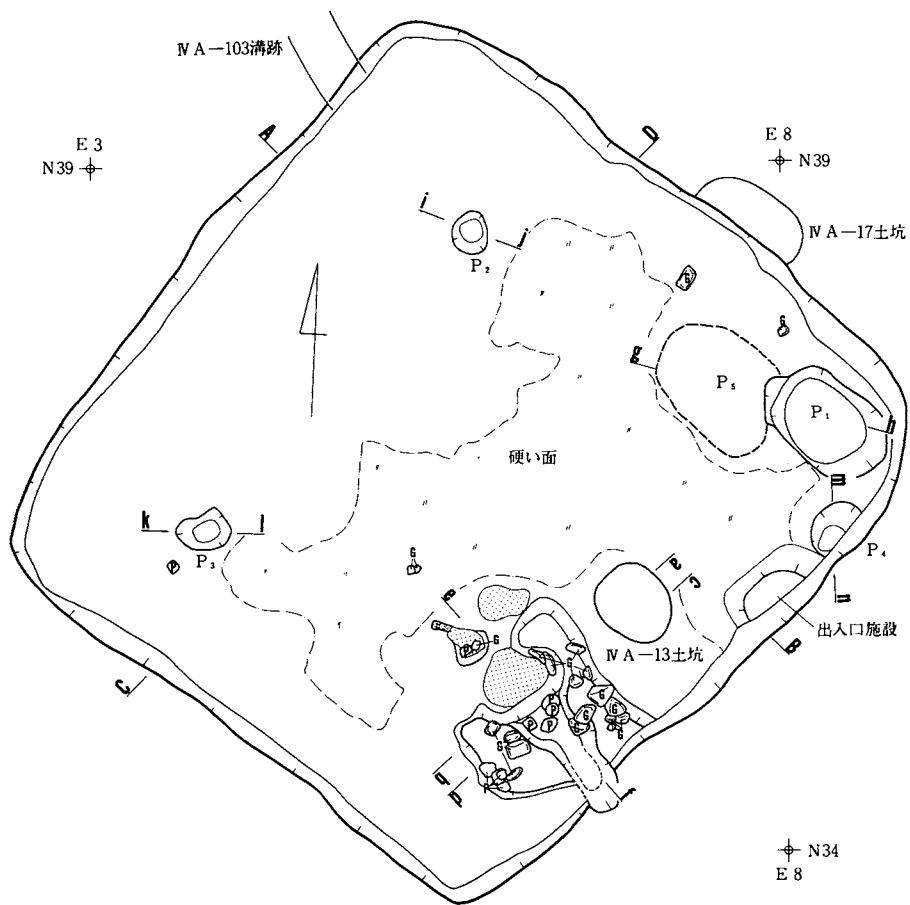
206は底部片である。

IV A—8 住居址

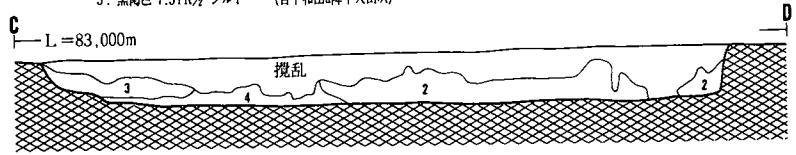
遺 構 (図版—41・42・43, 写真図版—35・36)

本遺構は調査区中央部北西にあり、南のIV A—7住居址や東のIV A—5・6住居址と近接している。検出面は中礫浮石混じりの黒褐色砂質シルト層上面である。カマドのある南東壁側を拡張しており、拡張した新しい住居址をIV A—8 a住居址、古い方の住居址をIV A—8 b住居址と呼ぶ。

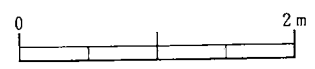
(IV A—8 a住居址)



- 1. 黒褐色 10YR $\frac{7}{5}$ シルト (含暗褐色シルト)
- 2. 黒褐色 10YR $\frac{7}{5}$ 砂質シルト (含十和田a降下火山灰)
- 3. 黒褐色 7.5YR $\frac{7}{5}$ シルト (含十和田a降下火山灰)



- 1. 黒褐色 10YR $\frac{7}{5}$ シルト (含暗褐色シルト)
- 2. 黒褐色 7.5YR $\frac{7}{5}$ シルト (含十和田a降下火山灰、炭化物)
- 3. 黒褐色 10YR $\frac{7}{5}$ シルト (含十和田a降下火山灰)
- 4. 黒色 10YR $\frac{1}{1}$ シルト (含暗褐色シルト)

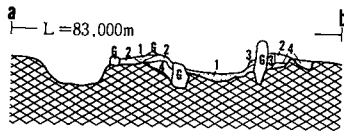


図版41：IV A-8 a 住居址(1)

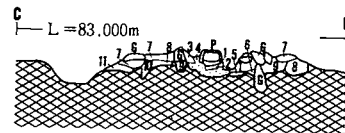
埋土は上層部が攪乱を多く受けているが、十和田a降下火山灰を小ブロックで多く含む黒褐色シルト層で占められている。東側の最下部に暗褐色シルトが小ブロックで少量混じる黒色シルト層が堆積している。

住居址は壁中央部で5.0m×5.1mの規模で、南西壁がやや短い台形に近い形状をなしていたものと推定される。壁高は北東壁中央部で38cm、南東壁中央部で32cm、南西壁中央部で37cm、北西壁中央部で41cmである。

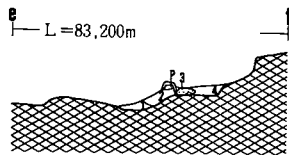
床は中礫浮石層下位の暗褐色シルト層を掘り込んでつくられている。床面は中央部からカマドのある東側半分はがりがりに硬くしまっている。西側はあまり硬くなく掘りすぎがみられる。床面は出入口のある南東壁中央部北寄り近くが幾分高いほかは全体として平坦である。東



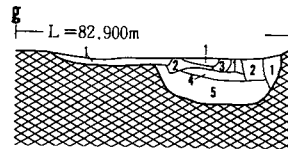
1. 暗赤褐色 2.5YR $\frac{7}{2}$ シルト (含焼土粒)
2. 明赤褐色 2.5YR $\frac{7}{2}$ シルト (含焼土粒)
3. 暗褐色 10YR $\frac{7}{2}$ シルト
4. 黒褐色 10YR $\frac{7}{2}$ 砂質シルト



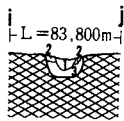
1. 暗赤褐色 2.5YR $\frac{7}{2}$ シルト (含焼土粒)
2. におい赤褐色 5YR $\frac{7}{2}$ シルト
3. 暗赤褐色 2.5YR $\frac{7}{2}$ シルト
4. 赤褐色 2.5YR $\frac{7}{2}$ 砂質シルト 焼土
5. 暗赤褐色 2.5YR $\frac{7}{2}$ 粘土質シルト(含炭化物、焼土)
6. におい赤褐色 2.5YR $\frac{7}{2}$ 砂質シルト(含焼土)
7. 暗褐色 10YR $\frac{7}{2}$ シルト
8. 黒褐色 10YR $\frac{7}{2}$ 砂質シルト
9. 黒褐色 10YR $\frac{7}{2}$ シルト
10. 黒褐色 10YR $\frac{7}{2}$ シルト(含暗褐色シルト)
11. 黒褐色 10YR $\frac{7}{2}$ シルト



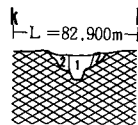
1. 暗赤褐色 2.5YR $\frac{7}{2}$ シルト (含炭化物、焼土粒)
2. 赤褐色 2.5YR $\frac{7}{2}$ 粘土質シルト
3. 明赤褐色 2.5YR $\frac{7}{2}$ 砂質シルト 焼土
4. 暗赤褐色 2.5YR $\frac{7}{2}$ 砂質シルト



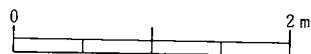
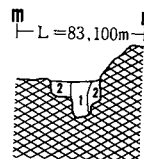
1. 極暗黒褐色 7.5YR $\frac{7}{2}$ シルト (含十和田a降下火山灰)
2. 黒褐色 10YR $\frac{7}{2}$ シルト
3. 暗褐色 10YR $\frac{7}{2}$ シルト
4. 黒褐色 10YR $\frac{7}{2}$ シルト (含十和田a降下火山灰)
5. 黒褐色 7.5YR $\frac{7}{2}$ シルト (含十和田a降下火山灰、暗褐色シルト)



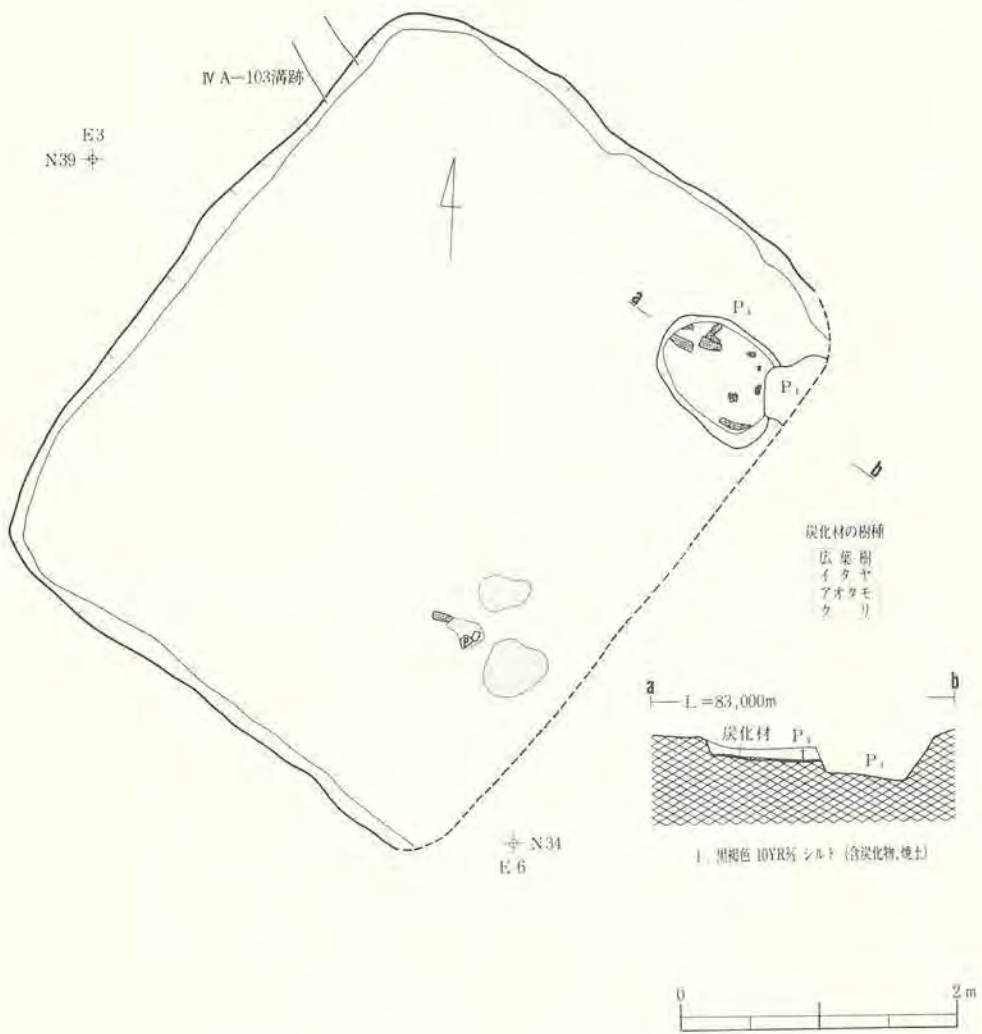
1. 黒褐色 10YR $\frac{7}{2}$ シルト
2. 黒褐色 10YR $\frac{7}{2}$ シルト
3. 黒褐色 7.5YR $\frac{7}{2}$ シルト



1. 黒褐色 10YR $\frac{7}{2}$ シルト
2. 黒褐色 7.5YR $\frac{7}{2}$ シルト



図版42：ⅣA—8 a住居址(2)



図版43：IV A—8 b 住居址

側半分を中心に貼り床が施されている。

柱穴は P₂ (径26cm、深さ20cm)、P₃ (径28cm、深さ18cm)、P₄ (径22cm、深さ28cm) の3個が検出されている。カマド脇にも1個柱穴があって四角形の柱穴配置をなしていたと思われる。柱穴配置はIV A—3・4・5住居址と同じくカマド寄りである。周溝は検出されていない。

東隅に接する形で長方形の土坑 P₁ (径98cm×62cm、深さ38cm) が検出されている。埋土は十和田 a 降下火山灰を粒状に、暗褐色シルトを小ブロックで混じる黒褐色シルトである。IV A—8 b 住居址に伴う土坑 P₅ の東側を切り、西側を暗褐色シルトで塞いだ形でつくられてい

る。P₁は貯蔵穴のような機能を果していたものと思われる。

カマドは南東壁中央部南寄りに設けられている。天井部は崩壊し燃焼部と袖部の一部残存するだけである。袖部は芯となる扁平な凝灰岩を半分近く埋め、それにシルトをまいてつくられている。燃焼部は使用面は浅皿状を呈し、火熱により径40cm×46cm、厚さ6cmの規模で赤変している。燃焼部には甕形土器の底部を倒立させて支脚として使用されている。支脚の土器と焼土化した使用面との間には厚さ3～5cmの焼土粒、骨片混じりの灰が堆積していた。

南東壁中央部北寄りに上幅22cm×50cm、下幅32cm×80cm、高さ10cmの規模で粘土、シルトでつくられた段状（角錐台）の施設が検出されている。面は床面と同じくガリガリに硬くしまっていること、壁に接していることなどから段階状の出入口施設であると思われる。床面は出入口に近づくにつれ高くなる。

住居地の西側半分を中心に炭化材、焼土の分布がみられることから、住居地は焼失住居地であると思われる。

主軸方位はE-43.5°-Sである。本住居地はIVA-8b住居地、IVA-17土坑より新しい。（IVA-8b住居地）

本住居地はカマド側を拡張する以前の住居地で、カマドの位置、貯蔵穴と考えられる土坑P₅の位置から、径4.2m×5.1mの規模で、長方形の形状をなしていたと推定される。

床面はIVA-8a住居地と同じ面と思われる。東隅にIVA-8a住居地によって上部を暗褐色シルトで塞がれていた径74cm×104cm、深さ10cmの規模の長方形の土坑P₅が検出されている。土坑の底面上には炭化材や現地性焼土が堆積しており、住居が焼失した時に形成されたものと思われる。

従って、IVA-8a住居地はIVA-8b住居地が焼失した後、土坑P₅を埋めて、カマド側に拡張する形で新たに建て直されたものと思われる。

出土遺物（図版-124・125・126、写真図版-109・110）

（床面・カマド）土師器甕形土器-213は口縁部が極端に短く外反している小型甕の口縁部片である。外面は浅いヘラケズリで調整されている。口縁は凹凸をなす。214～217は口縁部が極端に短く外反しているものである。214は外面を主にナデ調整されているいびつな口縁部片である。215～217は214に比べて胎土に小石や砂粒が多く混じる。3点とも主にヘラケズリで調整されている。215、216は体部上半3～4.5cmの間はヘラナデのみである。215の底部外面には「V」のヘラ書きがある。217の体部下半は倒立してカマドの支脚として使われたもので二次的の火熱を受けて上半と色調を異にしている。支脚に利用する前、割れた凹凸面を削って平坦にしている。220は短く外反し体部外面ヘラケズリ調整の口縁部片である。胎土に径2.2cmの小石が1個混じるが砂粒は少ない。二次的の火熱を受けている。外面に一部炭化物が付着してい

る。225～227は底部片である。底部外面に226は木葉圧痕をもち、227は直線状のヘラ書き「+」の一部が残っている。

(埋土) 土師器坏形土器—212は体部に沈線をもち内外ヘラミガキ調整で内黒の体部片である。甕形土器—218・219は口縁部が極端に短く外反し体部がやや膨らむ小型甕である。219は底部を欠損している。2点とも最大径は体部にある。外面はヘラケズリ調整である。218の胎土に金雲母が少量混じる。221～224は口縁部が極端に外反し外面ヘラケズリ調整の口縁部片である。223は外面に輪積み痕がある。221、224は胎土に砂粒が多く混じる。228、229は底部片である。229の体部・底部外面は粗いヘラケズリで行われている。

鉄製品 釘—230は現存長2.2cmの方頭で脚先端が欠損している。

IV A—9 住居址

遺構 (図版—44, 写真図版—36)

本遺構は調査区西端にあり、東側をIV A—7住居址、西側をIV A—24土坑、北側をIV A—6土坑、南側をIV A—101大溝跡に切られている。表土を取り除いた面で、十和田a降下火山灰の広がりの確認され遺構と判明したものであるが、他の遺構との切り合いが多く床面まで掘り下げるまで住居址のプランが容易につかめなかったものである。

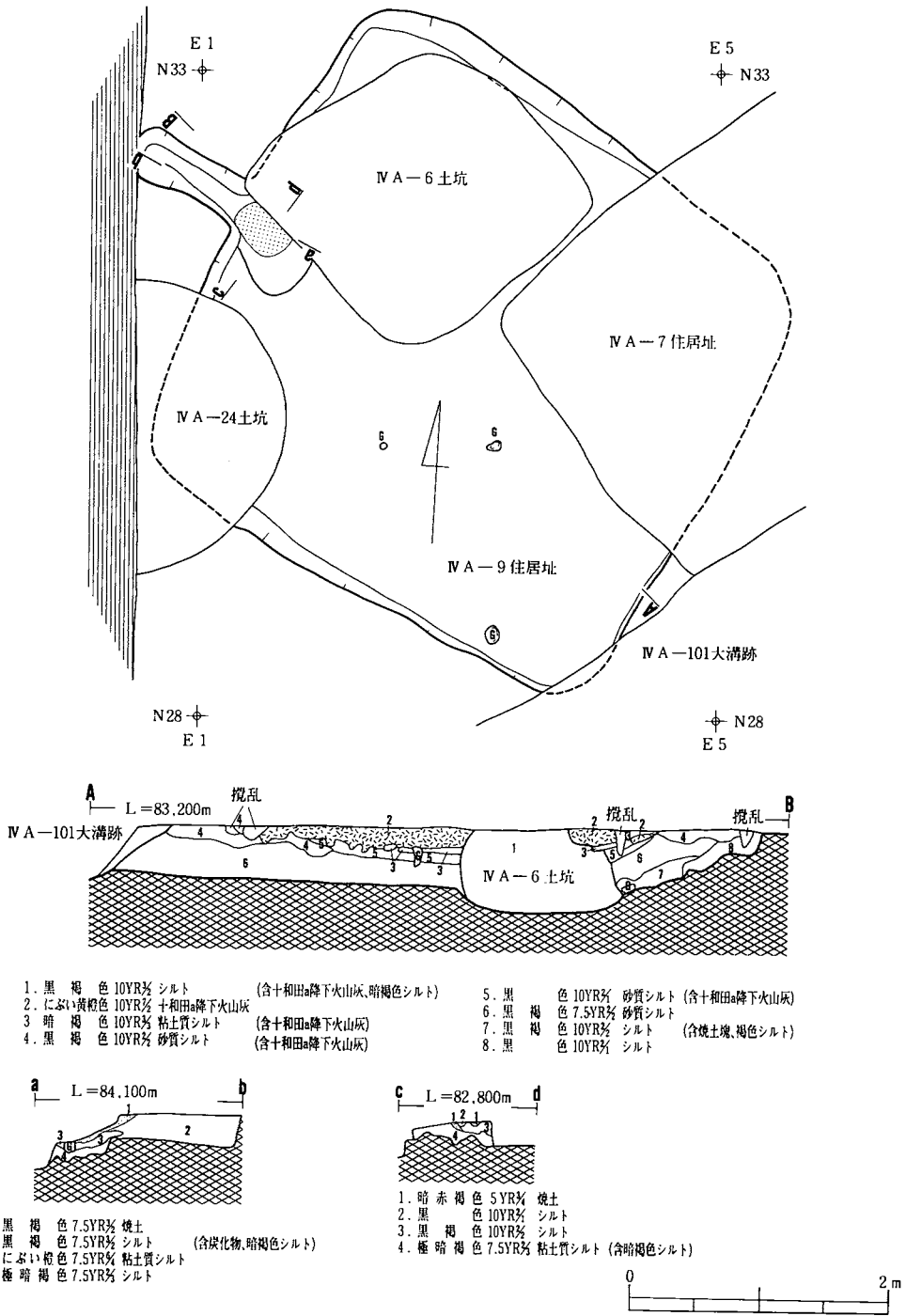
埋土は上部層が十和田a降下火山灰層(層厚14cm)、下層部が灰白色浮石を混じる黒褐色砂質シルト層である。

残存する壁の輪郭線から、住居址は一辺4.1mの規模で、隅丸方形の形状をなしていたものと思われる。壁高は北西壁で40cm、北東壁で44cm、南西壁で32cmである。

床は黒褐色砂質シルト層を掘り込んでつくられている。床面は平坦で全体に硬くしまっている。柱穴、周溝は検出されていない。

カマドは北西壁中央部に設けられている。右袖はIV A—12土坑に切られ、煙道の一部は調査区域外にのびている。構成礫なども検出されておらず、燃焼部の使用面の一部が残存しているのみである。使用面は平坦で、火熱により焼土化している。焼土の規模は36cm(推定)×44cm、層厚さ6cmである。煙道は半地下式のもので、壁際で急激に立ち上がり緩く下降して煙出口につながる。煙道は100cm(推定)、幅35～40cm、深さ18～26cmの規模のものである。カマドは幅0.7m、全長1.7mと推定される。

主軸方位はW—26.5°—Nである。本住居址はIV A—7住居址、IV A—6・24土坑、IV A—101大溝跡より古い。



図版44：IV A-9 住居址

出土遺物（図版—126, 写真図版—111）

（床面） 土師器坏形土器—232はロクロ不使用の平底のものである。体部は外傾気味に立ち上がり僅かに内弯する。体部に段、沈線はもたない。外面はヘラケズリ後ヘラミガキで調整され下端にヘラケズリ痕が残る。内面はヘラミガキ後黒色処理されている。内外面に凹凸があり器壁も厚く粗いつくりである。

（埋土） 土師器坏形土器—231は体部外面上位に沈線をもち内外面ヘラミガキ調整されている内黒の丸底である。口縁部は欠損している。体部外面にはヘラケズリ痕が残存する。甕形土器—233は口縁部が外反し口唇部近くで直上気味に立ち上がり、肩部に段をもち体部が僅かに膨らむものである。口縁部内面に区切りをもち、口唇部が丸味を帯びている。最大径は口縁にある。口縁部内外面はヘラケズリ後ヘラミガキ調整されている。体部外面はタテ方向のヘラケズリ後、口縁部近くの上半をヨコ方向のヘラケズリを行い、その後部分的にタテ方向のヘラミガキが行われている。体部下端にはヨコ方向のヘラミガキがみられる。内面はヨコ方向のヘラミガキ後タテ方向のヘラミガキ調整されている。埋土最下部出土で住居址の時期とほぼ一致するものと思われる。

IVA—10住居址状遺構

遺 構（図版—45, 写真図版—37）

本遺構は調査区北部の南西側にあり、北側をIVA—12住居址、東側をIVA—9土坑、中央部を南北に走る幅24cmのIVA—103溝跡に切られている。北にはIVA—7住居址、東にはIVA—11住居址が隣接している。検出面は表土を取り除いた中振浮石混じりの黒褐色砂質シルト上面である。

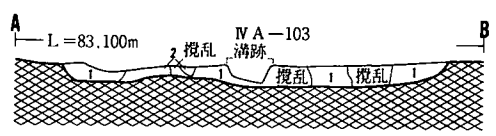
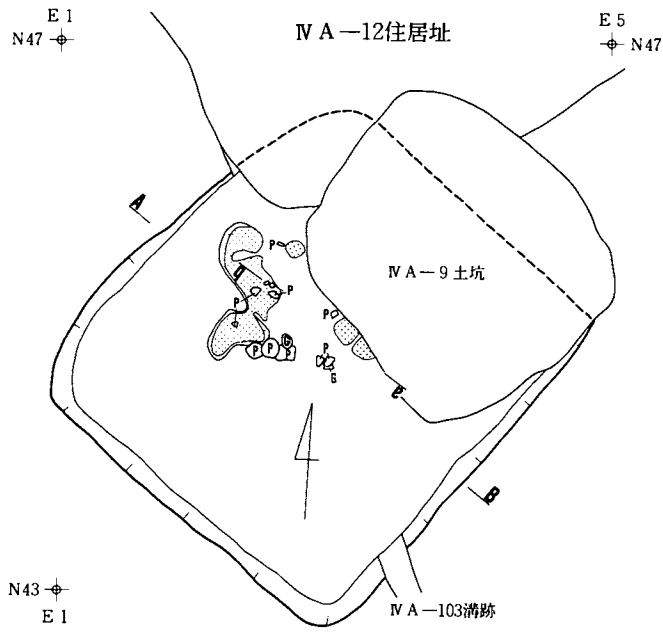
埋土は中振浮石混じりの黒褐色砂質シルト層である。住居址は壁中央部で径2.8m×3.1mの規模で北東—南西方向が幾分長いが隅丸方形の形状をなしていたと思われる。壁高は北西壁で16cm、南東壁で13cm、南西壁13cmである。

床面は凹凸があり、あまりしまっていない。柱穴、周溝は検出されていない。住居址中央部東寄りに径24cm、層厚3cmの規模の焼土が検出されている。炉のような役割を果たしていたのであろうか。炉の上にやや浮いた凝灰岩が堆積している。カマドと考えられる施設は検出されていない。

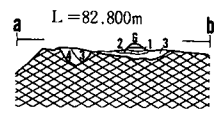
本遺構はIVA—12住居址、IVA—9住居址、IVA—103溝跡より古い。

出土遺物（図版—126・127・128, 写真図版—111・112）

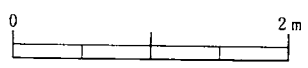
（床面） 土師器坏形土器—234は体部に段をもたない平底で内黒である。外面調整は上半がヨコナデ後、下半がヘラケズリ後ヘラミガキが行われている。下端にヘラケズリ痕がみえる。



- 1. 黒褐色 10YR 砂質シルト
- 2. 黒褐色 7.5YR 砂質シルト (含焼土粒)



- 1. 黒褐色 10YR 砂質シルト
- 2. 暗赤褐色 5YR 砂質シルト 焼土
- 3. 極暗赤褐色 5YR 砂質シルト (含焼土粒)
- 4. 黒褐色 10YR 砂質シルト



図版45：IV A-10住居址状遺構

235は体部上位に段をもち、内面に部分的に区切りをもつ。体部上半はヨコナデ後ヘラミガキ、段より下はハケメ、ヘラケズリ後ヘラミガキで調整されている。段周辺にハケメ痕が残る。236は体部上位に段をもつ内黒の口縁部片である。外面はヨコナデ、ヘラケズリ後ヘラミガキ調整されているが下端にヘラケズリ痕が残る。

(埋土) 土師器環形土器—237は体部に沈線をもつ内黒のものである。沈線より上に2つの凹凸があるなどIV A—19住居址出土の112と類似した特徴をもつ。体部外面はヨコナデ、ヘラケズリ後ヘラミガキで調整されている。甕形土器—238は口縁部が外反し肩部に段をもつ口縁部片である。口縁部内外面、体部内面はヘラミガキ調整である。体部外面にはヘラケズリ痕が残る。239は口縁部片で口唇部近くに沈線状のへこみをもつ。内外面はヨコナデ後ヘラミガキ調整である。240、241は口縁部が外反し口唇部近くで直上しているものである。口縁部内面に区切りをもつ。240は内外面が磨耗していて不明瞭であるが、2点とも内外面ヘラミガキ調整されている。241は肩部に沈線状の段をもち、体部内外面はヘラケズリ後ヘラミガキ調整である。242は口縁部が外傾し、肩部に緩い段をもつもので体部下半が欠損している。口縁部は外面がヨコナデ、ヘラケズリ後、内面がヨコナデ後、ヘラミガキで調整されている。体部外面はヘラケズリ後、内面はヘラナデ、ハケメ後ヘラミガキで調整されている。内面に炭化物が付着している。243は肩部に沈線状の段をもち口縁部が外傾している破片である。内外面ヘラケズリで調整されている。245は肩部に段をもち口縁部が大きく外傾している口縁部片である。口唇部は角張り、中央に溝状のくぼみをもつ。体部外面はハケメ、内面はヘラナデで調整されている。247は体部片で外面がナデ状の調整、内面がヘラナデ後タテ方向のヘラミガキ調整が行われている。248は底部が外方にやや張り出し、内外面ヘラミガキで調整されている。体部上半が欠損している。249は外面ヘラケズリ調整の底部片である。壺形土器—244は内外面を丁寧なヘラミガキで調整されている。口縁部上端、体部下半が欠損している。外面は黒色処理されている。非常にもろい状態で検出されている。246は内外面ヘラミガキ調整されている体部片である。内面のヘラミガキは粗い。外面に一部ヘラケズリ痕が残る。

石器 250は石質が輝石安山岩で台石として使用されたと思われる三角状の扁平なものである。

IV A—11住居址

遺 構 (図版—46, 写真図版—38)

本遺構は調査区の南東側にあり、西のIV A—10住居址状遺構、北のIV A—17住居址、南のIV A—6住居址と隣接している。IV A—14住居址を切り、IV A—7・15・26土坑に切られている。IV A—12住居址と重複関係にあるがその新旧は不明である。

表土を取り除いた面で暗褐色～黒褐色シルトの分布が不明瞭ながらみえて、遺構と認定したものである。全体のプランを明確にするために少しずつ掘り下げてみたが最後まで明確なプランを把握することができなかった。

住居址は平面的にしかとらえることができなかった。規模は4.7m×6.7m、形状は長方形をなしていたと思われる。硬くしまった床面も検出されておらず、床面の状態については不明である。検出した面がすでに床面または床面下の掘り方であったのかもしれない。

北西壁中央部南寄りで壁から1m離れた位置に径24cm、厚さ6cmの規模の現地性焼土が検出されている。検出時にみえていた焼土である。検出面ですでに床面がある程度削られていたのであるとすれば、この位置にカマドの燃焼部があったとも考えられる。

周溝、桂穴は検出されていない。本住居址はIV A—7・15・26土坑より古く、IV A—14住居址より新しい。

出土遺物 (図版—129, 写真図版—113)

(埋土) 土師器坏形土器—251は体部外面に段、内面に区切りをもち内外ヘラケズリ調整で内黒の口縁部片である。段下はヘラケズリで調整されている。甕形土器—252は外面ヘラケズリ調整された体部片である。253は底部片である。

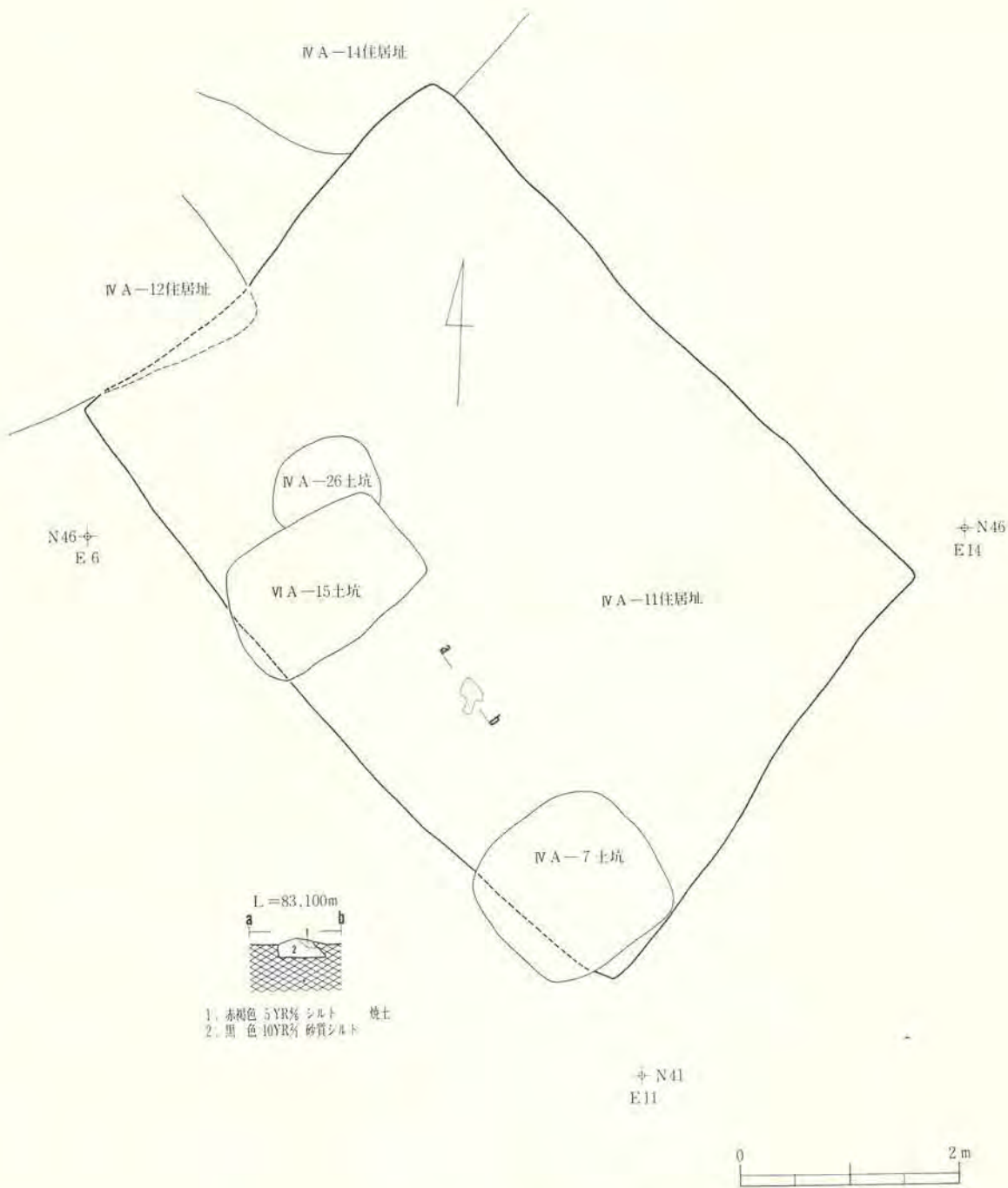
IV A—12住居址

遺 構 (図版—47, 写真図版—38・39)

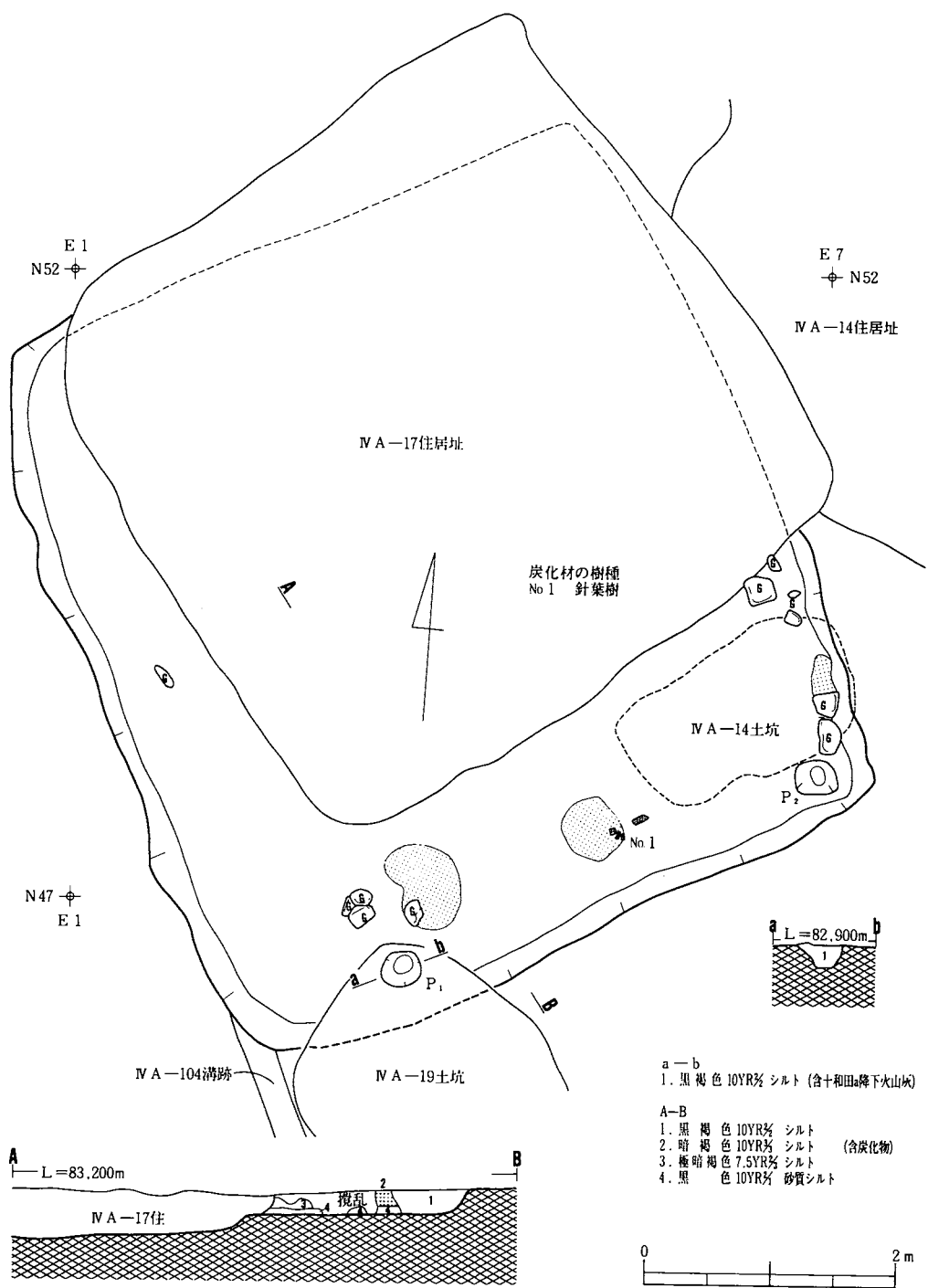
本遺構は調査区北部の南西側にあり、IV A—10住居址状遺構、IV A—14土坑を切り、南側の一部をIV A—9土坑、北側の大半をIV A—17住居址、西側をIV A—103溝跡に切られている。検出面は表土を取り除いた中掘浮石まじりの黒褐色砂質シルト層土面である。

埋土は最下部に暗褐色シルトの大ブロックを混じる黒褐色シルト層である。埋土の大半は攪乱を受けている。

残存する壁の輪郭線から、住居址は径5.6m×6.2mの規模をもち、長方形の形状をなしていたと思われる。壁高は南西壁中央部で17cm、南隅で14cm、南東壁中央部で21cm、東隅で13cmである。



図版46：IV A-11住居址



図版47：IV A-12住居址

床面は暗褐色シルト層を掘り込んでつくられている。床面は硬くしまっておらず全体に掘りすぎてしまった。柱穴はP₁（径32cm、深さ18cm）、P₂（径30cm、深さ10cm）の2個が検出されている。

柱穴配置は四角形で、カマド寄りのものであったと考えられる。周溝は検出されていない。

南東壁中央部西寄りに径54cm×72cmの現地性焼土の広がり³が検出されている。上部は削平されており焼土の厚さは2cm程度である。焼土のまわりに径12～22cmの礫³が存在することから、この位置にカマドがあったと推定される。

南側を中心に炭化材や現地性焼土が検出されていることから、焼失住居址であると思われる。

本住居址はIVA-10住居址状遺構やIVA-14土坑より新しく、IVA-17住居址、IVA-103溝跡、IVA-9土坑より古い。

出土遺物（図版-129, 写真図版-113）

（床面） 土師器坏形土器-254は内外面ヘラミガキ調整されている内黒の体部片である。255は胎土に金雲母が多く混じる体部外面ヘラケズリ調整の体部片である。257は外面ナデ状のヘラケズリがみられる体部片で外面に輪積み痕が残る。

（埋土） 須恵器壺形土器-256は内面にカキ目痕、外面にヘラケズリ痕をもつ体部片である。鉄製品 釘-258、259は共に頭部を欠損している断面が四角の釘である。

IVA-13住居址

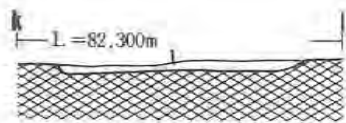
遺 構（図版-48・49, 写真図版-40・41・42）

本遺構は調査区北部中央にあり、東のIVA-4住居址、西のIVA-14住居址と隣接している。住居址はIVA-102溝跡と重複している。検出面は中振浮石混じりの黒褐色砂質シルト層上面である。暗褐色シルトの広がり³がみられ、遺構と判明したものである。

埋土は大半が灰白色浮石、炭化物を含む黒褐色砂質シルト層で占められている。最上部層には人為的に埋め戻されたと思われる暗褐色シルト層（層厚10～16cm）、最下部層には壁際を中心に十和田a降下火山灰がブロックで混じり炭化物、焼土を多く含む黒褐色～極暗褐色砂質シルト層が堆積している。

住居址は径6.2m×6.4mの規模をもち、ほぼ方形の形状をなしている。隅の角は丸味帯びている。壁高は北東壁中央部で54cm、南東壁中央部で60cm、南西壁中央部で47cm、北西壁中央部で61cmである。

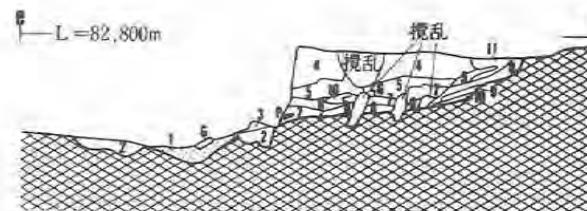
床は暗褐色シルト層を掘り込んでつくられている。中央部以外の壁周囲に幅1.8～2.4m、深さ4～21cmの掘り方をもつ。掘り方の埋土は中振浮石混じりの黒褐色砂質シルト層である。



3. 黒褐色 10YR% 砂質シルト

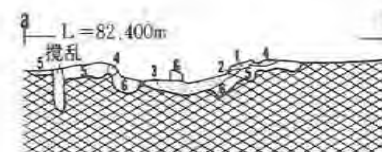
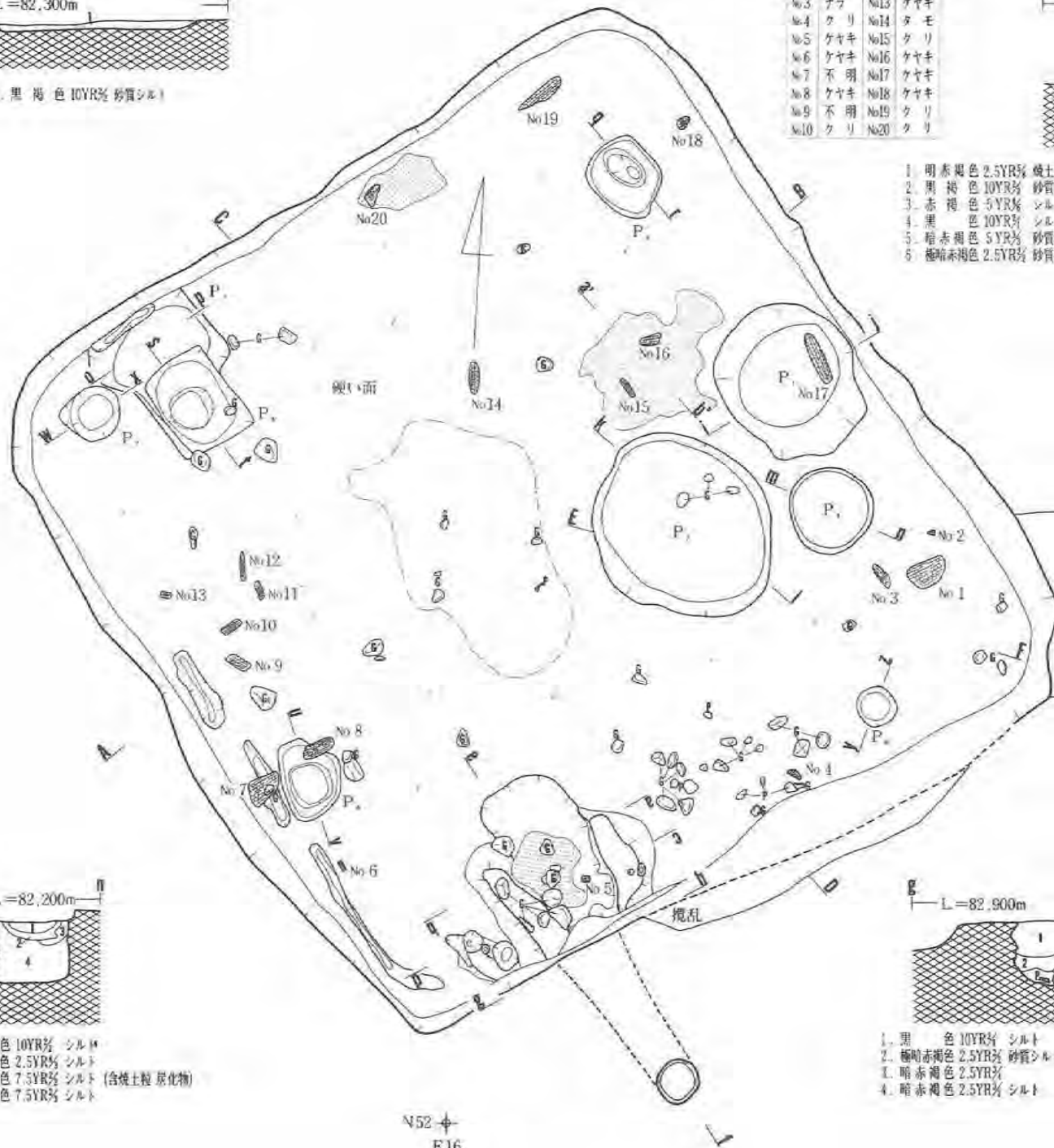
炭化材の樹種

No1 ナラ	No11 ケヤキ
No2 針葉樹	No12 ケヤキ
No3 ナラ	No13 ケヤキ
No4 クリ	No14 タモ
No5 ケヤキ	No15 クリ
No6 ケヤキ	No16 ケヤキ
No7 不明	No17 ケヤキ
No8 ケヤキ	No18 ケヤキ
No9 不明	No19 クリ
No10 クリ	No20 クリ

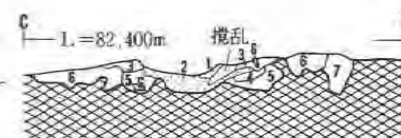


1. 明赤褐色 2.5YR% 焼土
2. 黒褐色 10YR% 砂質シルト
3. 赤褐色 5YR% シルト (含焼土)
4. 黒色 10YR% シルト (含十和田a降下火山灰)
5. 暗赤褐色 5YR% 砂質シルト (含焼土粒)
6. 極暗赤褐色 2.5YR% 砂質シルト (含焼土粒、炭化物)
7. 暗赤褐色 2.5YR% シルト (含焼土粒、暗褐色シルト)
8. 黒褐色 5YR% シルト (含焼土)
9. 暗赤褐色 2.5YR% 砂質シルト (含焼土粒、焼土塊)
10. 黒褐色 5YR% シルト (含焼土粒)
11. 黒褐色 5YR% シルト (含焼土)

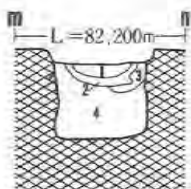
N57
E12



1. 暗赤褐色 2.5YR% 焼土
2. 暗赤褐色 5YR% シルト (含炭化物、焼土粒)
3. 赤褐色 2.5YR% 焼土
4. 極暗赤褐色 5YR% シルト
5. 黒色 10YR% シルト
6. 極暗赤褐色 5YR% シルト (含炭化物、焼土粒)

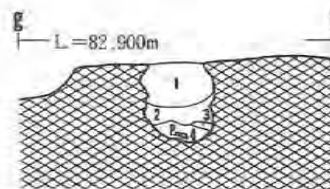


1. 赤褐色 5YR% 焼土
2. 暗赤褐色 2.5YR% 焼土
3. 暗褐色 10YR% 粘土質シルト (含焼土粒、焼土塊、炭化物)
4. 暗赤褐色 5YR% シルト (含焼土粒)
5. 極暗褐色 7.5YR% シルト
6. 黒褐色 7.5YR% シルト
7. 黒褐色 7.5YR% シルト

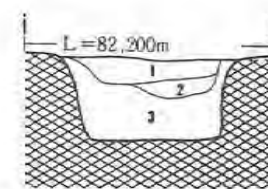


1. 黒褐色 10YR% シルト
2. にぶい赤褐色 2.5YR% シルト
3. 黒褐色 7.5YR% シルト (含焼土粒、炭化物)
4. 極暗褐色 7.5YR% シルト

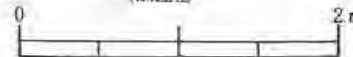
N52
E16



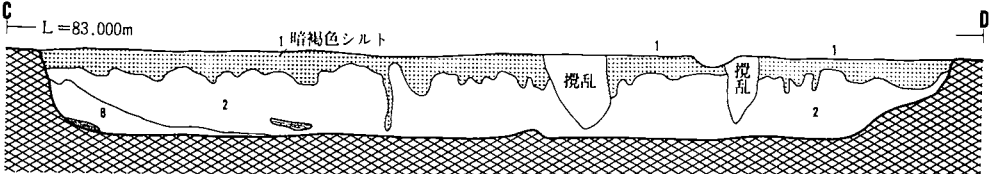
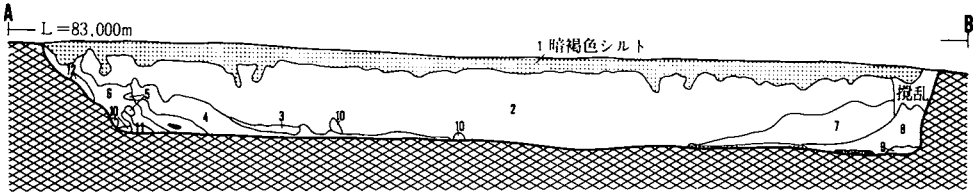
1. 黒色 10YR% シルト (含十和田a降下火山灰)
2. 極暗赤褐色 2.5YR% 砂質シルト (含焼土粒、焼土塊、炭化物)
3. 暗赤褐色 2.5YR% (含焼土)
4. 暗赤褐色 2.5YR% シルト (含焼土粒、焼土塊、暗褐色シルト)



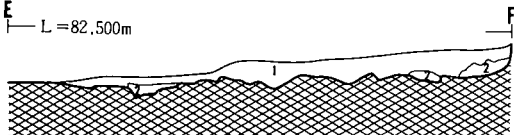
1. 黒褐色 10YR% 砂質シルト (含十和田a降下火山灰炭化物、焼土粒、焼土塊)
2. 黒褐色 7.5YR% 砂質シルト (含焼土粒、暗褐色シルト)
3. 暗褐色 10YR% 砂質シルト (含焼土粒)



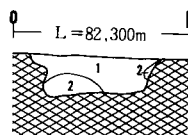
図版48: MA-13住居址(1)



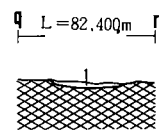
- | | |
|---|--|
| 1. 暗褐色 10YR _{7/2} シルト | 7. 黒褐色 10YR _{7/2} 砂質シルト (含十和田a降下火山灰) |
| 2. 黒褐色 10YR _{7/2} 砂質シルト (含炭化物, 暗褐色シルト) | 8. 極暗褐色 7.5YR _{7/2} シルト (含炭化物, 焼土, 十和田a降下火山灰) |
| 3. 黒褐色 10YR _{7/2} 砂質シルト (含十和田a降下火山灰) | 9. 黒褐色 10YR _{7/2} 砂質シルト |
| 4. 黒褐色 7.5YR _{7/2} シルト | 10. 黒褐色 7.5YR _{7/2} 粘土質シルト |
| 5. 極暗褐色 7.5YR _{7/2} シルト (含炭化物, 焼土) | 11. 黒褐色 10YR _{7/2} 砂質シルト |
| 6. 黒褐色 10YR _{7/2} シルト | 12. 黒褐色 10YR _{7/2} 砂質シルト |



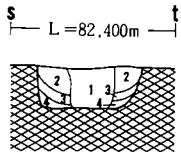
- 黒褐色 10YR_{7/2} 砂質シルト
- 黒褐色 7.5YR_{7/2} シルト



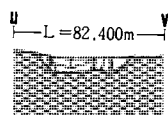
- 黒褐色 10YR_{7/2} 砂質シルト (含暗褐色シルト)
- 黒褐色 10YR_{7/2} 粘土質シルト



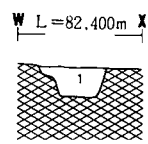
- 黒褐色 10YR_{7/2} シルト (含焼土粒)



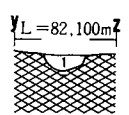
- 黒褐色 7.5YR_{7/2} (含暗褐色シルト)
- 暗褐色 10YR_{7/2} シルト
- 黒褐色 10YR_{7/2} シルト
- 黒褐色 10YR_{7/2} シルト



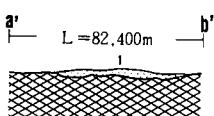
- 黒褐色 10YR_{7/2} シルト (含炭化物, 焼土粒)
- 暗褐色 10YR_{7/2} シルト
- 暗褐色 10YR_{7/2} シルト



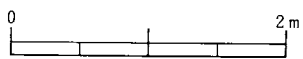
- 黒褐色 10YR_{7/2} シルト (含炭化物, 暗褐色シルト)



- 黒褐色 10YR_{7/2} シルト



- 赤褐色 2.5YR_{7/2} 砂質シルト 焼土



図版49：ⅣA—13住居址(2)

掘り方の底面は凹凸が多くある。床面は平坦で硬くしまっている。

柱穴と思われるものはP₅（径20cm、深さ8cm）、P₆（径34cm、深さ31cm）、P₇（径41cm、深さ14cm）、P₈（径34cm、深さ14cm）、P₉（径34cm、深さ14cm）、の5個が検出されている。P₅・P₆・P₇の掘り方は長方形や不整長方形をなし、規模はそれぞれ31cm×62cm、54cm×94cm、48cm×62cmである。位置や規模から、P₅、P₆は支柱穴を構成していたと思われる。P₉もその可能性がある。周溝は南西壁の南側を中心に幅8～18cm、深さ3～14cmの規模のものが不連続であるが検出されている。

北東壁中央部から住居中央にかけて、P₁（径108cm、深さ51cm）、P₂（径176cm、深さ6cm）、P₃（径64cm、深さ56cm）の円形土坑が3個、西隅にP₄（径60×96cm、深さ24cm）の楕円形土坑が1個検出されている。P₁の埋土は上部層が十和田a降下火山灰を小ブロックで混じり、焼土塊、炭化材を多く含む黒褐色砂質シルト層、中央部が焼土粒のほかに暗褐色シルトを小ブロックで混じる黒褐色砂質シルト層、埋土の大半を占める下部層、黒褐色シルトを粒状に混じる暗褐色砂質シルト層で構成されている。下部層は人為的に埋め戻されたものである。焼失時にはP₁は深さ26cmの播鉢形の土坑であったと思われる。

土坑P₃の埋土は大半が極暗褐色シルト層で占められている。最上部層に黒褐色シルト層とにぶい赤褐色シルト層がレンズ状に堆積している。にぶい赤褐色シルト層には焼土や多くの灰が混じる。埋土の大部分を占める極暗褐色シルト層は人為堆積である。焼失時には深さ18cmの浅い土坑であったと思われる。

土坑P₄の埋土は暗褐色シルトをブロックで多く混じる黒褐色砂質シルト層で占めている。住居が廃絶する以前に人為的に埋め戻されていたものと思われる。土坑P₂は浅皿状をなし埋土が小礫と混じる黒褐色砂質シルト層である。

北東壁中央部から70cm西寄りの位置に不整形に広がる長径124cm、短径102cm、層厚5cmの規模の現地性焼土が検出されている。この焼土は焼失時に形成されたものでなく、住居に伴うもので炉の機能を果していたものと思われる。炉の種類については不明である。

カマドは南西壁中央部西寄りに設けられている。カマド本体は大半が崩壊しており下部が部分的に残存する。袖部は扁平な凝灰岩を内側に傾斜させて芯にしシルトをまいてつくられている。袖部の幅は1.8mと推定される。燃烧部は浅皿状に中央が窪み火熱により使用面が径68cm×74cm、層厚12cmの規模で焼土化している。燃烧部前の焚口部も径30cmの浅皿状をなし燃烧部側に傾斜している。煙道は掘抜き式のもので、燃烧部から緩く立ち上がり煙出口につながるものである。煙道は径18～20cm、長さ1.42mである。煙出口は径32cm、深さ18cmである。

壁際から床面中央にかけて炭化材、現地性焼土が三角状に堆積している。分布状態、堆積状態

から住居が焼失した時に形成されたものと思われる。従って、本住居址は焼失住居址である。

主軸方位はE-60.5°-Sである。本住居址はIVA-102溝跡よりも古いと思われる。

出土遺物 (図版-130・131・132・133, 写真図版-113・114・115)

(床面・カマド) 土師器甕形土器-260は口縁部が極端に短く外反し外面へラケズリで調整されている口縁部片である。外面に輪積み痕が3ヶ所みられる。口縁部外面に炭化物が付着している。262は口縁部が極端に短く外反する破片で外面へラケズリ後幅の狭いナデ状の調整が行われている。胎土には砂粒が多く混じる。粗雑なつくりである。265は外面粗へラケズリで調整されている口縁部片である。胎土に多くの砂が混じる。口縁部は極端に短く外反している。264は口縁部が極端に短く外反する小型甕で体部下半が欠損している。261、266は底部片である。外面はタテ方向のへラケズリ、内面はヨコとタテ方向のへラナデで調整されている。

石器類 272は細長い1面に、277は2面に、278は1面に擦ったような使用痕が認められるものである。石質は3点とも輝石安山岩である。273は両面が磨かれ加工され、縁辺部には敲打痕をもつものである。両面に浅皿状の窪みをもつ。石質は硬砂岩である。用途は不明である。274は石質が硬砂岩で明瞭な使用痕は確認できないが、床面直上から出土したこと、形態、大きさが握って何かをたたくの都合よいことから、参考上取りあげた。279は平坦な側面に擦った使用痕のあるもので、石質は輝石安山岩である。

(埋土) 土師器甕形土器-264は口縁部が短く外反し外面のへラケズリ調整の口縁部片である。ケズリが深いため口縁部と体部の境に段差ができる。267は口縁部が極端に短く外している破片である。268は外面粗いへラケズリ調整の底部片である。

鉄製品 釘-269~271は方頭釘で埋土上部から出土している。現存長は順に3.8cm、3.9cm、4.6cmである。

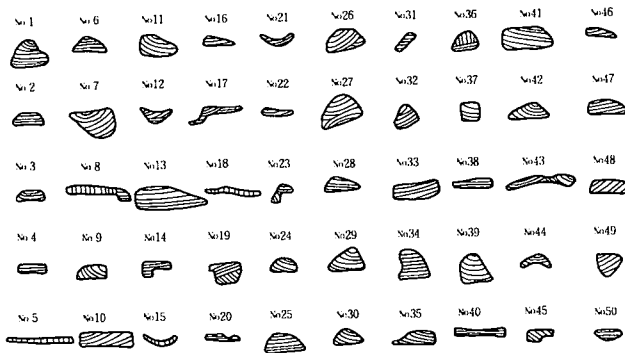
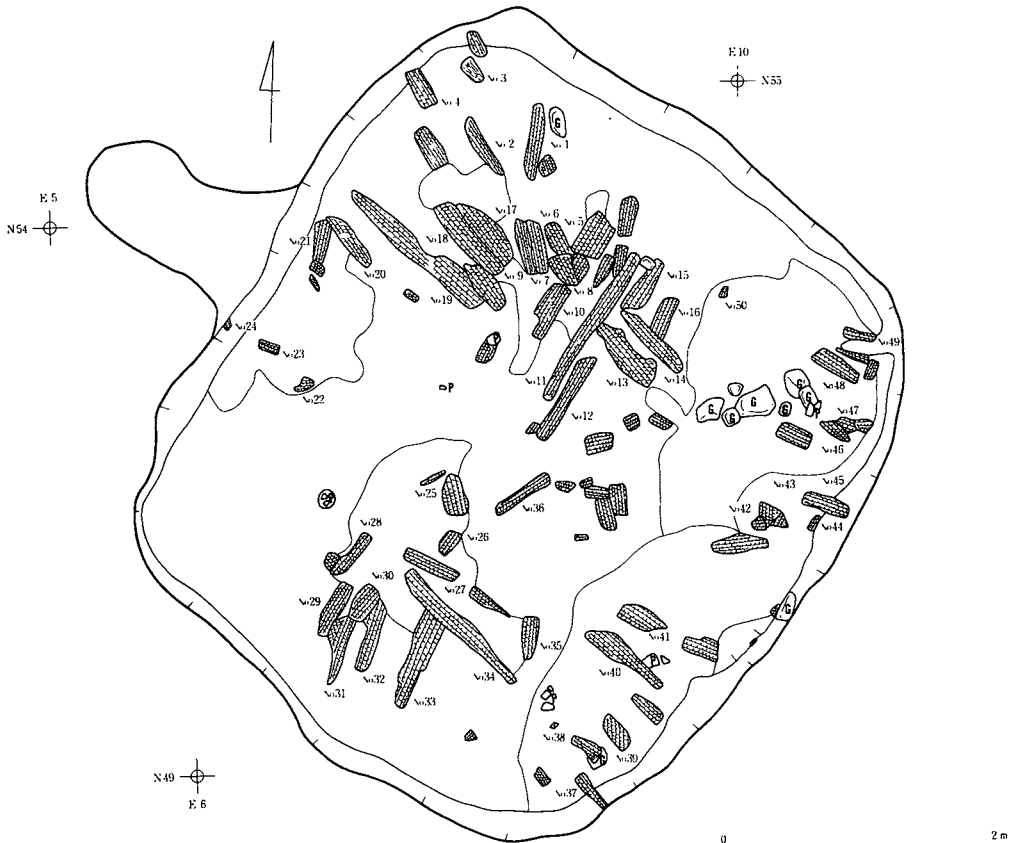
石器類 275は柱穴P₄の埋土から出土したもので石質は輝石安山岩である。

土製品 轆の羽口-276は多くの鉄滓ともに埋土最下部から出土したものである。276aは炉側の先端部片で表面に鉄滓が付着している。現存長7.9cm、外径7.4cm(推定)、内径3.6cm(推定)である。276bは送風側の先端部片である。先端近くに段がありすぼまる形をなす。現存長6.5cm、外径8.1cm(推定)、内径2.6cm(推定)である。

IVA-14住居址

遺構 (図版-50・51, 写真図版-43・44・45)

本遺構は調査区北部の西側にあり、西側をIVA-17住居址、南側をIVA-11住居址に切られている。北西にIVA-15住居址、東にIVA-13住居址が近接している。検出面は表土下の黒褐色砂質シルト層上面である。十和田a降下火山灰の広がりが見られ住居址と判明したものであ

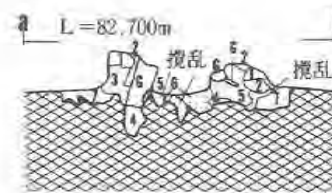
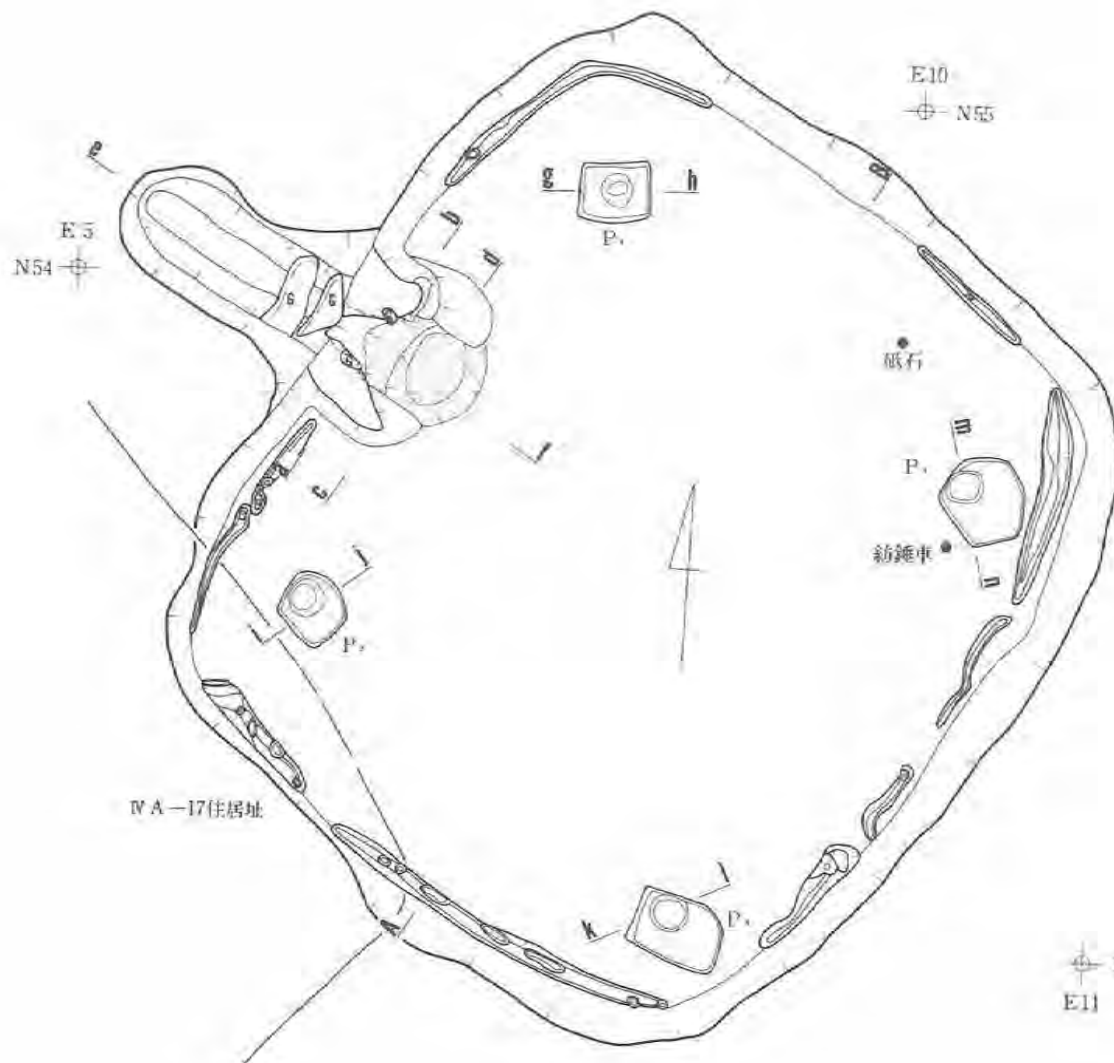


炭化材の樹種

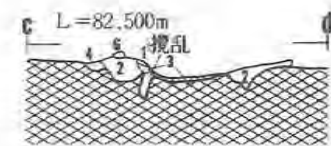
No. 4	ク	リ
No. 5	ク	リ
No. 6	ク	ヤ
No. 7	ク	リ
No. 8	ク	リ
No. 27	ク	リ
No. 30	ナ	ラ
No. 34	ナ	ラ
No. 37	ク	リ



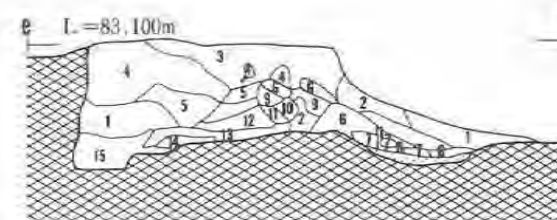
図版50：IV A-14住居址(1)



1. 濃い黄褐色 10YR7/2 粘土質シルト
2. 暗褐色 10YR5/2 粘土質シルト
3. 里褐色 10YR6/2 シルト
4. 里褐色 10YR6/2 シルト
5. 暗赤褐色 2.5YR5/2 砂質シルト (含焼土、焼土粒、炭化物)
6. 赤褐色 2.5YR5/2 シルト
7. 黒褐色 10YR4/2 シルト

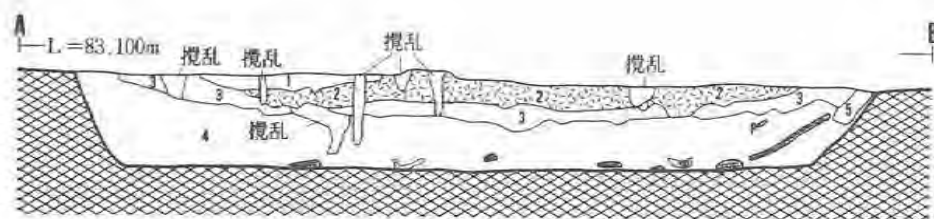


1. 暗赤褐色 2.5YR5/2 粘土質シルト (含焼土塊)
2. 極暗赤褐色 2.5YR4/2 粘土質シルト (含炭化物、焼土塊、焼土)
3. 暗赤褐色 2.5YR5/2 シルト
4. 極暗赤褐色 2.5YR4/2 シルト

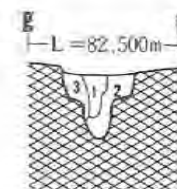


- | | |
|------------------------------|----------------------------------|
| 1. 黒褐色 10YR4/2 シルト (含焼土、炭化物) | 9. 里褐色 10YR6/2 シルト (含焼土粒) |
| 2. 里褐色 10YR5/2 砂質シルト | 10. 濃い黄褐色 10YR7/2 粘土質シルト |
| 3. 暗褐色 10YR5/2 シルト (含炭化物) | 11. 黒褐色 10YR4/2 シルト (含焼土粒) |
| 4. 黄褐色 10YR6/2 粘土質シルト | 12. 里褐色 10YR6/2 砂質シルト (含焼土粒、炭化物) |
| 5. 黒褐色 10YR4/2 砂質シルト | 13. 黒褐色 5YR4/2 砂質シルト (含土粒) |
| 6. 極暗赤褐色 5YR4/2 粘土質シルト | 14. 黒褐色 7.5YR4/2 シルト (含焼土粒) |
| 7. 赤褐色 5YR5/2 粘土質シルト (含炭化物) | 15. 極暗褐色 7.5YR4/2 シルト (含焼土粒) |
| 8. 明赤褐色 5YR6/2 粘土質シルト (含炭化物) | |

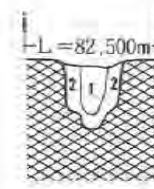
N50
E11



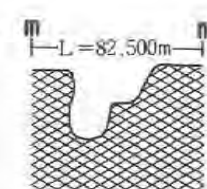
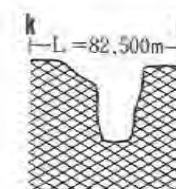
1. 黒褐色 10YR4/2 シルト (含十和田a降下火山灰)
2. 濃い黄褐色 10YR7/2 十和田a降下火山灰
3. 暗褐色 10YR5/2 シルト (含十和田a降下火山灰)
4. 黒褐色 7.5YR4/2 砂質シルト (含十和田a降下火山灰、炭化物、焼土粒)
5. 極暗褐色 7.5YR4/2 シルト (含焼土、炭化物)



1. 黒褐色 10YR4/2 シルト
2. 黒褐色 10YR4/2 シルト (含暗褐色シルト)
3. 暗褐色 10YR5/2 シルト



1. 黒褐色 10YR4/2 (含暗褐色シルト)
2. 暗褐色 10YR5/2 シルト



図版51：IV A-14住居址(2)

る。

埋土は上部層が十和田 a 降下火山灰層（層厚 8～16cm）、下部層が炭化材、焼土塊を多く混じる極暗褐色～黒褐色シルト層で占められている。最上部層には黒褐色シルト層がある。

住居址は4.8m×5.2mの規模をもち、やや北東—南西方向が長いがほぼ隅丸方形の形状をなしている。壁高は北東壁中央部で65cm、南東壁中央部で61cm、南西壁中央部で62cm、北西壁中央部で66cmである。

住居址は暗褐色シルト層を掘り込んでつくられ、深さ3～21cmで底面の凹凸が激しい掘り方をもつ。埋土は暗褐色シルトをブロックで多く混じる黒褐色シルト層である。床面は平坦で硬くしまっている。

柱穴は四隅にあり4本で四角形を構成している。柱穴のその規模はP₁（径18cm、深さ27cm）、P₂（径21cm、深さ39cm）、P₃（径22cm、深さ47cm）、P₄（径20cm、深さ41cm）である。柱穴の掘り方は形状が長方形、不整四角形をなし、その規模がP₁～P₄の順に径34cm×41cm、34cm×39cm、38cm×52cm、46cm×51cmである。周溝は北東壁中央部北寄りの一部（長さ1.2m）を除いて不連続ながら巡っている。規模は幅6～13cm、深さ5～15cmである。

カマドは北西壁中央部に設けられている。カマドは左袖や煙道の天井部の一部が原位置の状態で残存している。左袖は厚さ10～12cmの扁平な凝灰岩を内側に傾斜させ、3分の1程度埋めて袖の芯とし、暗褐色～にぶい黄褐色シルトでまいてつくられている。燃烧部使用面は浅皿状をなしやや焚口側に傾いている。使用面は火熱により焼土化し、その規模は径52cm×58cm、層厚5cmである。煙道は溝状の掘り込みのものである。壁近くの煙道上部に径12cm×48cm、厚さ7cm、径14cm×56cm、厚さ7cmの規模の扁平な凝灰岩が天井部の芯として2個並べて置かれていた。煙道は壁際で立ち上がった後、緩く下降して煙出口につながる。煙道は幅64～70cm、長さ146cmである。煙出口は径32cm、深さ74cmである。カマドは幅1.1m、全長2.4mである。

住居址全体に規則的に並んだ形で炭化材が検出されている。炭化材は放射状に並んでいるもの、交差しているものなどがあり、中央ではほぼ床面上、壁際では浮いた形で三角状に堆積している。炭化材の上にも下にも現地性焼土が形成されている。炭化材の堆積、分布状態から、住居址は焼失住居址である。

住居址の主軸方位はW-29.5°-Nである。本住居址はIVA-11・12・17住居址より古い。

出土遺物（図版-133・134・135・136、写真図版-115・116・117）

（床面） 土師器環形土器-280は内黒の丸底で体部中位に軽い段をもち。外面はヨコナデ、ヘラケズリ（下半）後ヘラミガキ調整されている。281、283は体部外面に段をもつ口縁部片である。外面は上半がヨコナデ後ヘラミガキ、段より下半がヘラケズリ後部分的にヘラミガキが

行われている。底部の形態は丸底と思われる。内面ヘラミガキ調整後黒色処理されている。283は二次的火熱を受け黒色の大半が消失している。282は丸底で体部外面に段をもち内面に軽い稜をもつ。外面調整は上半がヨコナデ後一部ヘラミガキ、ヘラケズリ、下半がヘラケズリ後一部ヘラミガキである。内面はヘラミガキ後黒色処理されているが二次的火熱により大半がしまっている。

土製品 紡錘車—296は横断面が側面中央がへこむ台形をなしている。完形品で上面外径4.1cm、下面外径5.6cm、厚さ2.9cm、円孔形0.8~0.9cmである。調整は下面、側面がヘラケズリ、ヘラミガキ、上面がナデ、ヘラケズリである。重さ80gである。

石製品 砥石—300は扁平な三角形をなし2面に使用痕があり、片面には刃の切り傷痕が多数ある。石質は硫紋岩である。

石器類 301、302の石質は輝石安山岩である。302は敲打痕をもつものである。301は扁平な礫で自然礫かもしれない。

(埋土) 土師器環形土器—284は体部中位に段、上位に沈線をもつ口縁部破片である。外面は上半が主にヨコナデ後ヘラミガキ、段下半がヘラケズリ後一部ヘラミガキで調整されている。内面は黒色処理されている。285は外面に段、沈線をもたず口縁部が口唇部近くで直上している丸底で内黒の坏である。外面はヨコナデ、ヘラケズリ後ヘラミガキ調整である。287は外面に段、内面に区切りをもつ内黒の体部片である。外面調整は上半が主にヨコナデ、段より下半がヘラケズリ後ヘラミガキである。底部の形態は丸底であると思われる。甕形土器—286は小型で口縁部の大半が欠損している。肩部に沈線状の段をもち体部があまり脹らずに底部から内弯気味に立ち上がるものである。底部は外方に幾分張り出している。底部内形は卵形をなす。外面は口縁部がヨコナデ、体部がヘラケズリ後ヘラミガキ、内面は口縁部がヘラミガキ、体部がヘラナデで主に調整されている。289は口縁部がやや外傾し肩部に段をもつものである。底部は外方にやや張り出す。体部外面はヘラケズリ後ヘラミガキ、内面はヘラナデで調整されている。内面の上半に炭化物が付着している。290は口縁部が短く外反し主に内外面をヘラナデで調整されている破片である。下半に輪積み痕がみられる。288は小型甕の体部上半片である。外面は磨耗していて不明瞭であるが口縁部がヨコナデ、体部がヘラケズリ後ヘラミガキ調整されていたと思われる。内面調整は主にヘラミガキ調整である。291は底部で底部内形が卵形をなし底部がやや外に張り出すものである。外面はヘラミガキ、内面はヘラナデで調整されている。292は外面ヘラケズリ調整の底部片である。293~295は底部で底部内形が丸味を帯びている。293、294は底部が外方に張り出し体部外面がヘラケズリ、一部ヘラミガキ調整である。底部外面に木葉圧痕をもつ。295は外面ヘラナデ調整のものである。

鉄製品 298、299は鉄板状のもので用途については不明である。

IV A—15住居址

遺 構 (図版—52, 写真図版—46)

本遺構は調査区北部西端にあり、大半が調査区域外にのびている。北にIV A—16住居址、南にIV A—17住居址が近接している。検出面は中礫浮石混じりの黒褐色砂質シルト層上面である。

埋土は大半が暗褐色シルトを小ブロックで含み、灰白色浮石を含む黒褐色シルト層で占められている。壁際に十和田 a 降下火山灰をブロックで含む黒褐色シルト層が三角状に堆積している。埋土は大部分を耕作などによる攪乱を受けている。

検出されている部分での北東壁、南東壁の長さはそれぞれ5.0mと3.8mである。形状は方形ないし長方形をなしているものと思われる。東隅はやや丸味を帯びている。壁高は北端で20cm、東隅で27cm、西端で39cmである。

床は暗褐色シルト層を掘り込み、中礫浮石混じりの黒褐色砂質シルトで貼り床が施されている。床面はガリガリに硬くしまり凹凸がある。

柱穴は P₁ (径26cm、深さ14cm)、P₂ (径44cm、深さ10cm) の 2 個が検出されているが、いずれも浅い。位置からすれば、P₂ が主柱穴を構成していたと推定される。周溝、カマドは検出されていない。他の遺構との重複はない。

出土遺物はない。

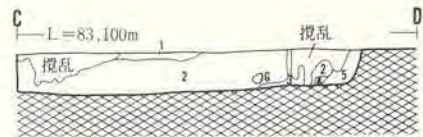
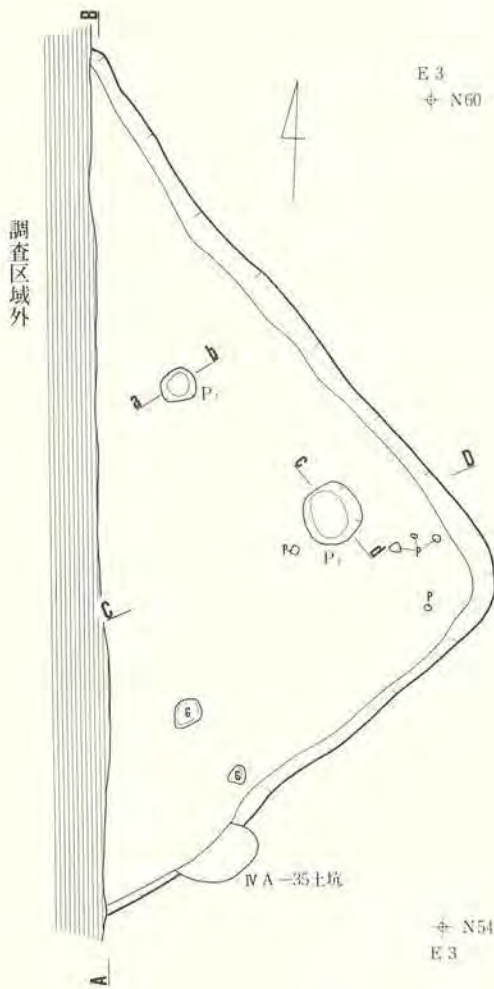
IV A—16住居址

遺 構 (図版—53, 写真図版—46・47)

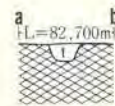
本遺構は調査区北西端にあり、東にV A—2・3住居址、南にIV A—15住居址が隣接してある。北側の大部分は新しい時代の溝に切られている。検出面は中礫浮石を含む暗褐色シルト砂質層である。

埋土は上部層が人為的に埋め戻されたと思われる黒褐色シルトをブロックで含む暗褐色シルト層、下部層が暗褐色シルトをブロックで、十和田 a 降下火山灰を粒状で含み、炭化物を少量含む黒褐色シルト層である。埋土上部は攪乱を多く受けている。

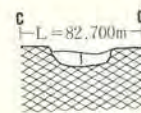
南西壁の長さは4.2m、残存している部分での南東壁、北西壁の長さは1.4m、4.0mである。住居址を切っている溝の北側に住居址の一部が検出されていないことから、住居址の北隅は溝に切られた部分にあったと思われる。住居址は一辺が4.2m前後の規模をもち、ほぼ方形の形状をなしていたとおもわれる。壁高は東隅で27cm、南東壁中央部で35cm、南隅で34cm、南西壁北端で36cmである。



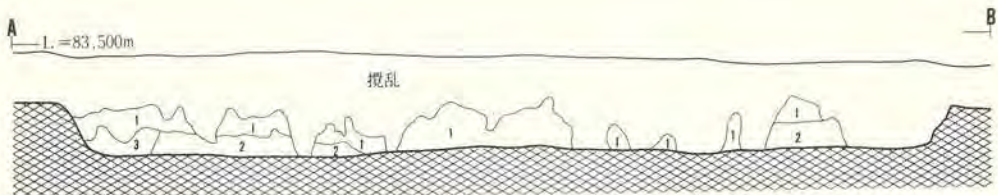
1. 黒褐色 10YR₅ シルト
2. 黒褐色 10YR₅ 砂質シルト (含暗褐色シルト, 十和田a降下火山灰)
3. 暗赤褐色 5YR₅ シルト
4. 暗赤褐色 5YR₅ シルト (含十和田a降下火山灰)
5. 黒色 10YR₅ 砂質シルト (含十和田a降下火山灰)



1. 黒褐色 10YR₅ シルト (含十和田a降下火山灰)



1. 黒褐色 10YR₅ 砂質シルト



1. 黒褐色 10YR₅ シルト (含暗褐色シルト)
2. 黒色 10YR₅ シルト
3. 黒褐色 10YR₅ シルト (含十和田a降下火山灰)



図版52：IV A-15住居址

床は暗褐色シルト層を掘り込み中振浮石混じりの黒褐色砂質シルトで埋めてつくられている。床面はしまっており、凹凸がある。柱穴は東隅にP₁（径25cm、深さ18cm）の1個が検出されている。周溝は検出されていない。

カマドは南東壁中央部西寄りに設けられている。残存状態は悪い。カマドの構成礫と思われる川原石や凝灰岩がカマド周辺で出土している。カマドの右袖は長径24cm、厚さ8cmの扁平な亜角礫を芯にし、シルトでまいてつくられている。燃焼部の使用面は浅皿状をなし火熱により赤変している。焼土の規模は径24cm×80cm、層厚6cmである。壁外に溝状などの煙道は検出されておらず、煙道は燃焼部から緩く昇り、壁際で急激に立ち上がり屋外の煙出口施設につながっていたものと推定される。カマドは幅0.7m、全長0.8m以上であったと推定される。

住居址の主軸方位はE-39°-Sである。本住居址と重複する遺構はない。

出土遺物（図版-136・137・138, 写真図版-117・118・119）

（床面・カマド） 土師器甕形土器-303は小型の口縁部片である。口縁部は極端に短く外反し、体部外面はヘラケズリで調整されている。304は口縁部が内湾ないし内傾、305は口縁部が極端に短く外反している破片である。ともに外面はナナメ方向の粗いヘラケズリ調整である。胎土に粒径0.4~0.6cmの小石が混じる。304は外面に一部薄く粘土が付着している。305は器壁が薄い。306は口縁部が緩く外反一部内傾しているもので底部が欠損している。外面はヘラケズリ調整である。307~310は外面ヘラケズリ調整されている底部片である。309は底部が外方に張り出すものである。308、309は胎土に砂を多く混じり底部外面に木葉圧痕をもつ。

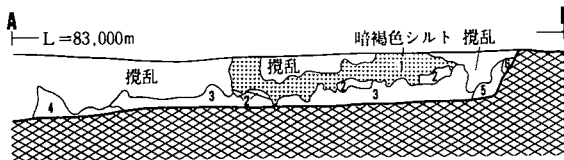
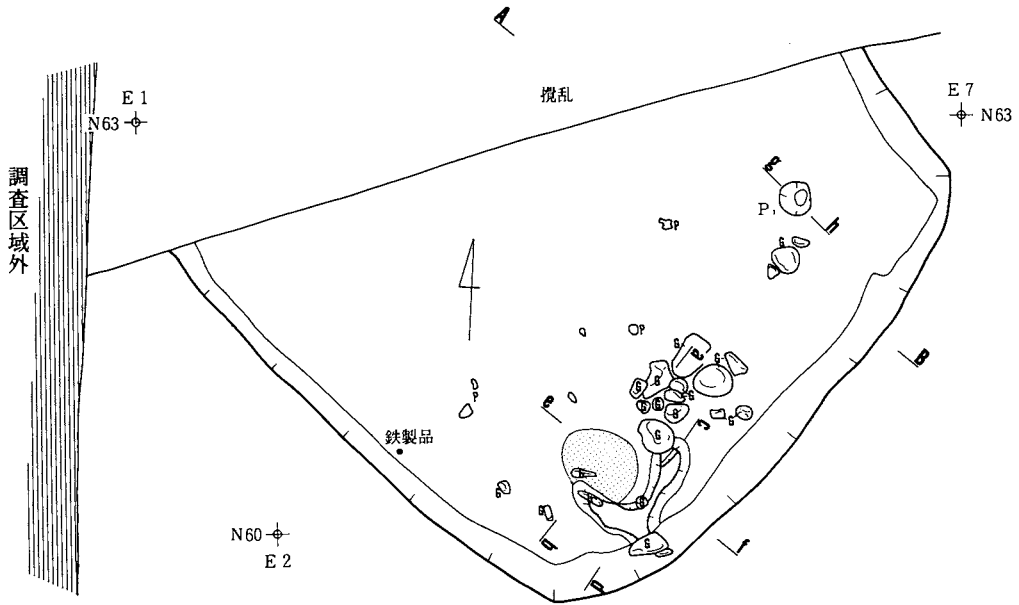
鉄製品 312は南西壁際のカマド寄りの埋土下部からほぼ完形で出土したものである。全長は23.8cmである。三角状の部分を身、ねじれている部分を頸部、茎の3つに分けて説明する。身の頭部の両側は径2.6cm前後の輪状をなしている。片面には輪の上に長さ3cm、径1.4~1.7cmと長さ2cm、径1.6cmの筒状のものが1個それぞれついている。頸部は長さ9.5cm程あり上半が左まき、下半が右まきにねじれている。茎の長さは5cm、幅0.6cm、厚さ0.4cmで断面が長方形である。用途について色々な推定がなされているが確定していない（まとめ参照）。314、315は同一個体と思われるもので、フタ状の形態をなしていたと思われる。

（埋土） 土師器甕形土器-295は外面ヘラケズリ調整されている体部下半の破片である。

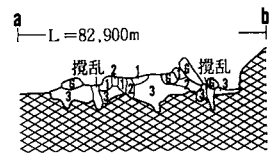
鉄製品 313は刀子の身の一部分と茎の部分である。現存長4.3cm、茎の長さ3.2cm、最大厚0.7cmである。

IVA-17住居址

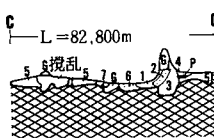
遺構（図版-54・55, 写真図版-38・39・40）



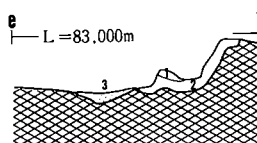
1. 暗褐色 10YR $\frac{2}{6}$ シルト (含暗褐色シルト)
2. 黒褐色 10YR $\frac{2}{6}$ シルト (含暗褐色シルト)
3. 黒褐色 7.5YR $\frac{2}{6}$ 砂質シルト (含十和田降下火山灰、炭化物)
4. 黒褐色 7.5YR $\frac{2}{6}$ 砂質シルト
5. 極暗褐色 7.5YR $\frac{2}{6}$ 砂質シルト (含十和田降下火山灰、炭化物)
6. 黒色 10YR $\frac{2}{6}$ 砂質シルト



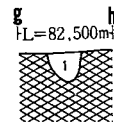
1. 暗褐色 10YR $\frac{2}{6}$ 砂質シルト
2. 極暗褐色 5YR $\frac{2}{6}$ シルト (含焼土粒、炭化物)
3. 黒褐色 10YR $\frac{2}{6}$ 砂質シルト



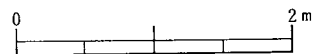
1. 暗赤褐色 2.5YR $\frac{2}{6}$ シルト (含焼土粒、炭化物)
2. 赤褐色 5YR $\frac{2}{6}$ 砂質シルト (含焼土粒、炭化物)
3. 黒褐色 5YR $\frac{2}{6}$ 砂質シルト (含焼土粒)
4. 極暗赤褐色 5YR $\frac{2}{6}$ シルト (含焼土粒)
5. 黒褐色 10YR $\frac{2}{6}$ 砂質シルト
6. 赤褐色 5YR $\frac{2}{6}$ シルト 焼土
7. 極暗赤褐色 5YR $\frac{2}{6}$ シルト



1. 暗赤褐色 2.5YR $\frac{2}{6}$ シルト (含焼土粒)
2. 黒褐色 10YR $\frac{2}{6}$ 砂質シルト (含焼土粒)
3. 赤褐色 5YR $\frac{2}{6}$ 焼土



1. 黒褐色 10YR $\frac{2}{6}$ シルト



図版53：Ⅳ A—16住居址

本遺構は調査区北部の東側にあり、IVA-12住居址、IVA-14住居址、IVA-35土坑を切っている。北にIVA-15住居址、南にIVA-11住居址が隣接している。検出面は中振浮石混じりの黒褐色砂質シルト層上面である。

埋土は上部層が人為的に埋め戻された黒褐色シルトをブロックで含む暗褐色シルト層、中部層が炭化物や暗褐色シルトをブロックで含む黒褐色シルト層、下部層が十和田a降下火山灰を大ブロックで含む黒褐色シルト層である。

住居址は壁中央部で5.0m×4.9mの規模をもち、ほぼ方形の形状をなしている。壁高は北東壁中央部で34cm、南東壁中央部で14cm、南西壁中央部で15cm、北西壁中央部で40cmである。

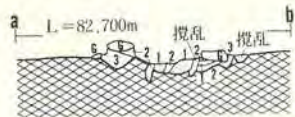
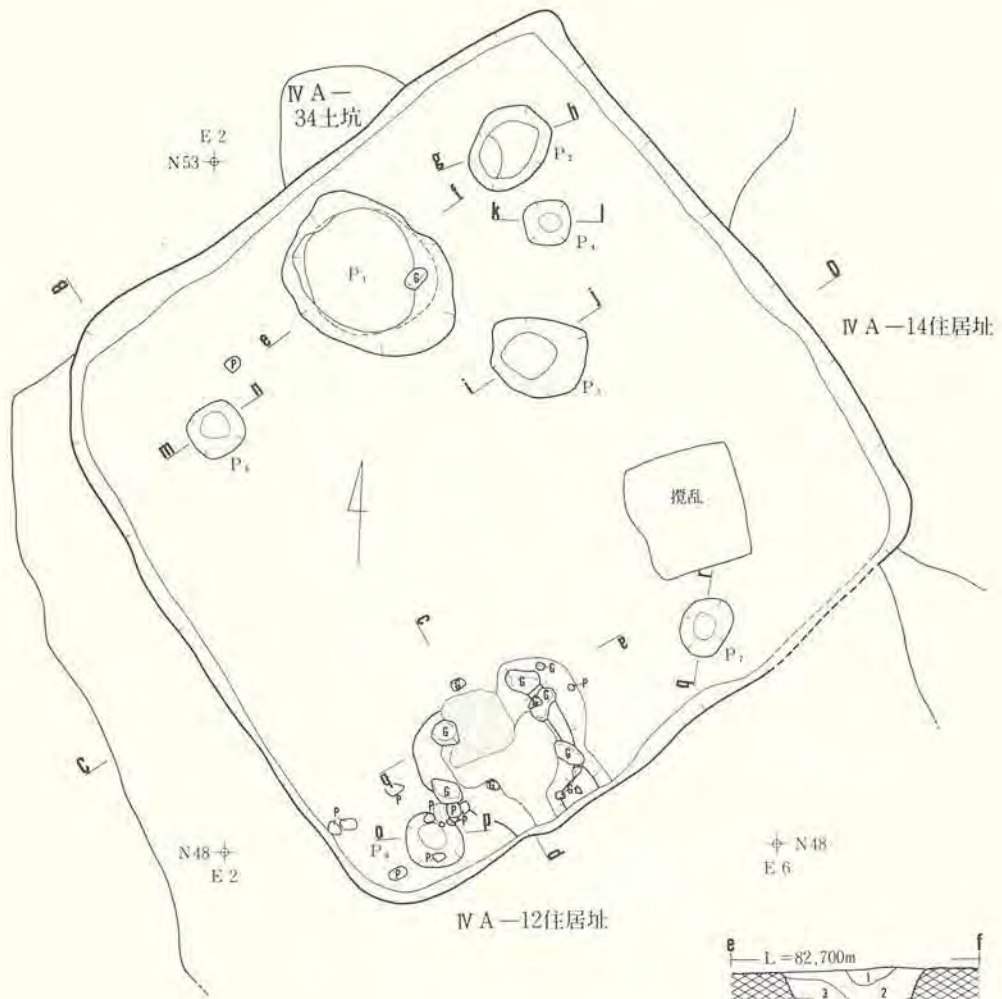
住居は暗褐色シルト層を掘り込んで構築されている。床面は平坦でしまっている。柱穴はP₂（径40cm、深さ61cm）、P₄（径14cm、深さ21cm）、P₅（径20cm、深さ38cm）、P₆（径21cm、深さ21cm）、P₇（径20cm、深さ16cm）の5個が検出されている。柱穴の掘り方は規模がそれぞれ長径67cm、34cm、40cm、44cm、41cmで、形状が円形ないし楕円形をなしている。位置から推定するとP₂、P₅、P₆が支柱穴を構成していたと思われる。P₇も支柱穴にすると配置的に無理があるので、3個のほかに東隅に1個あり、それで四角形の柱穴配置となしていたと考えられる。配置はカマド寄りである。周溝は検出されていない。

カマドは南東壁中央部西寄りに設けられている。カマドの残存状態は非常に悪く、僅かに袖の下端部が原位置を保っているのみである。袖部は長径18~24cmの垂角礫を芯にしてつくられていたと思われる。袖部の幅は132cmである。燃烧部の使用面はやや浅皿状をなし火熱により赤変している。焼土の規模は径46cm×52cm、層厚9cmである。煙道は燃烧部から緩く立ち上がり屋外に出るものであると思われる。カマドの全長は1.1mである。

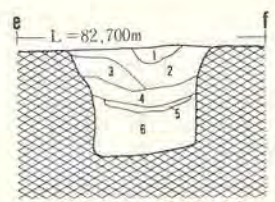
北西壁中央部から東側にかけてP₁（径100cm×134cm、深さ78cm）、P₃（径56cm×72cm、深さ35cm）の円形状の土坑が2個検出されている。P₁の埋土は上部層が住居址埋土から連続する十和田a降下火山灰をブロックで混じる黒褐色シルト層、中部層が焼失時に形成された炭化材、焼土を含む黒褐色シルト層、下部層が暗褐色シルトのブロックや礫を混じる極暗褐色砂質シルト層である。焼失時にはすでに下部層は堆積しており、土坑は深さ50cm前後の播鉢状のものであったと思われる。

P₃土坑の埋土は上部層が炭化物を含む黒褐色シルト層、下部層が人為的に埋められた褐色シルトをブロックで混じる暗褐色シルト層である。最上部層には焼失時に形成された炭化材が浅皿状に堆積していたことから、P₃土坑は焼失時には僅かに窪んでいたと思われる。

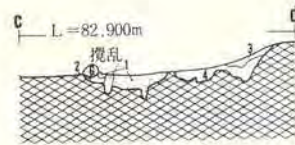
壁際や土坑内を中心にして全体に炭化材、現地性焼土が分布していることから、住居址は焼失住居址である。



- 1. 赤褐色 2.5YR^{5/2} 焼土
- 2. 暗赤褐色 2.5YR^{5/3} 砂質シルト
- 3. 黒褐色 10YR^{5/2} シルト



- 1. 黒褐色 10YR^{5/2} シルト (含十和田a降下火山灰)
- 2. 黒褐色 7.5YR^{5/2} シルト (含十和田a降下火山灰)
- 3. 黒褐色 10YR^{5/2} 粘土質シルト (含十和田a降下火山灰)
- 4. 黒褐色 10YR^{5/2} シルト (含焼土粒・炭化物)
- 5. 黒色 10YR^{4/1} シルト
- 6. 極暗褐色 7.5YR^{5/1} 砂質シルト



- 1. 赤褐色 2.5YR^{5/2} 焼土
- 2. 暗赤褐色 2.5YR^{5/3} 砂質シルト
- 3. 黒褐色 10YR^{5/2} 砂質シルト
- 4. 黒褐色 7.5YR^{5/2} 砂質シルト

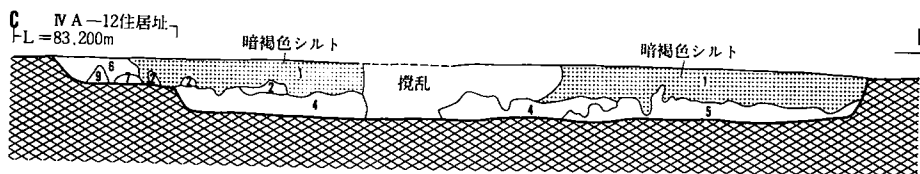
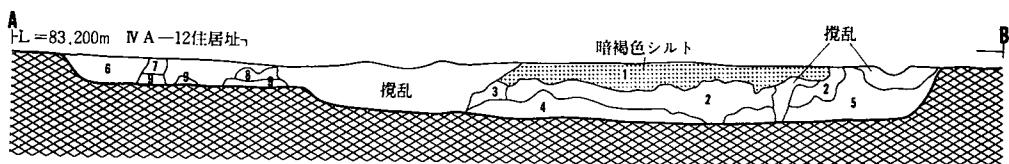


図版54：IV A-17住居址(1)

住居地の主軸方位はE-53.5°-Sである。本住居地はIV A-11・12・14住居地、IV A-35土坑より新しい。

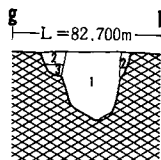
出土遺物 (図版-138・139・140・141・142, 写真図版-119・120・121)

(床面・カマド) 土師器甕形土器-316、318、319は共通した特徴をもっているものである。体部外面に多くの輪積み痕を顕著に残している。口縁は波状をなし不規則な凹凸がある。口縁部は極端に短く外反、部分的に内傾している。胎土に金雲母が幾分混じる。体部上半は主にナデ調整で、下半はヘラケズリ調整で行われている。316は小型の甕である。316、318は底部を欠損している。317、319~323は口縁部が短く体部外面に粗いヘラケズリ調整されている

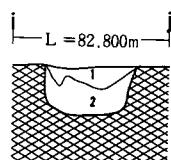


A-B・C-D共通

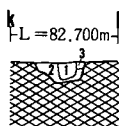
1. 暗褐色 10YR_{7/2} シルト (含黒褐色シルト)
2. 黒褐色 10YR_{7/2} シルト (含暗褐色シルト、炭化物)
3. 黒褐色 10YR_{7/2} シルト (含十和田a降下火山灰)
4. 黒褐色 7.5YR_{7/2} シルト (含十和田a降下火山灰)
5. 黒褐色 10YR_{7/2} シルト (含十和田a降下火山灰)
6. 黒褐色 10YR_{7/2} シルト
7. 暗褐色 10YR_{7/2} シルト (含炭化物)
8. 極暗褐色 7.5YR_{7/2} シルト (含黒褐色シルト)
9. 黒色 10YR_{7/2} 砂質シルト



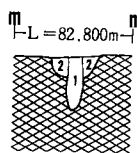
- IV A-17
1. 黒褐色 10YR_{7/2} シルト
2. 黒褐色 10YR_{7/2} シルト
3. 暗褐色 10YR_{7/2} シルト



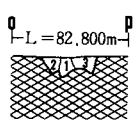
- IV A-17
1. 黒褐色 10YR_{7/2} シルト (含炭化物)
2. 暗褐色 10YR_{7/2} 砂質シルト (含褐色シルト)



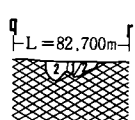
1. 黒褐色 10YR_{7/2} シルト (含炭化物)
2. 黒褐色 10YR_{7/2} シルト (含暗褐色シルト)
3. 暗褐色 10YR_{7/2} シルト



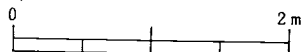
1. 黒褐色 10YR_{7/2} シルト (含十和田a降下火山灰)
2. 黒褐色 10YR_{7/2} シルト
2. 暗褐色 10YR_{7/2} シルト



- IV A-17
1. 黒褐色 10YR_{7/2} シルト
2. 黒褐色 10YR_{7/2} シルト
3. 黒褐色 10YR_{7/2} 砂質シルト



- IV A-17
1. 黒褐色 10YR_{7/2} シルト (含炭化物)
2. 黒褐色 10YR_{7/2} 砂質シルト



図版55: IV A-17住居地(2)

口縁部片である。胎土中に金雲母が混じる。特に323には多く混じる。317、319の内面には炭化物が付着している。319、321は小型である。324は口縁部が極端に短く外反し上位がやや膨らむもので底部が欠損している。最大径は体部上位にある。体部下半の内面に多くの炭化物が付着している。325は口縁部が極端に短く外反し一部内弯しているもので体部が欠損している。胎土に金雲母が混じる。326は外面に輪積み痕が多く残り口縁部が内弯している小破片である。外面は部分的にヘラケズリで調整されている。331は口縁部が短く強く外反している口縁部片で外面ヘラケズリ調整され胎土に金雲母が混じる。322は口縁部が極端に短く外反し外面に輪積み痕を多く残している口縁部片である。体部外面は部分的にナデ状のヘラケズリが粗雑に行われている。332、333は体部片である。332は胎土に雲母が混じる。333は灰褐色を帯びている。327、328、330、334～336) 外面ヘラケズリ調整の底部方である。327、335は胎土に金雲母が混じる。327、334、336の底部外面は木葉圧痕をもつ。

(埋土) 土師器甕形土器—339は口縁部が極端に短く外反し外面ヘラケズリ調整されている破片である。外面に輪積み痕が2本みられる。338は外面に輪積みの凹凸が残る底部片である。

鉄製品 340は刀子の茎の部分と思われる。現存長は1.9cmである。

IVA—18住居址

遺 構 (図版—56, 写真図版—48)

本遺構は調査区北部の東側にあり煙道の一部は調査区域外へのびている。北にIVA—4住居址、南西にIVA—2・3住居址が近接している。住居址はIVA—16土坑、IVA—28土坑を切っている。検出面は中掬浮石混じりの黒褐色砂質シルト層上面である。

埋土は層厚9～19cmで、十和田a降下火山灰をブロックで幾分多く混じり炭化物、焼土を含む黒褐色シルト層で占められている。耕作による攪乱を多く受けている。

住居址は壁中央部で2.9m×3.4mの規模で、長方形の形状をなしている。壁高は北東壁中央部で9cm、南東壁中央部で19cm、南西・北西壁中央部で11cmである。

住居址は黒褐色砂質シルト層を掘り込んでつくられている。床面は凹凸がありカマド周辺がしまっている。床面は東西に走る新しい溝によって攪乱をうけている。柱穴、周溝は検出されていない。

カマドは北東壁中央部南寄りに設けられている。右袖は攪乱を受け、煙道と左袖の一部が残存している。左袖は凝灰岩を芯にしてシルトでまいて構築されていたと推定される。煙道は溝状の半地下式のものであり調整区域外へのびている。検出されている部分での煙道の規模は長さ50cm、幅31～36cm、深さ10～15cmである。煙道は壁際から下降している。

炭化材、焼土が床面に堆積していることから、住居址は焼失住居址である。住居址の主軸方位はN-56.5°-Eである。本住居址はIVA-16・28土坑より新しい。

出土遺物（図版-142, 写真図版-121）

（床面・カマド） 土師器小型土器-341は手づくねの土器で口縁部が内湾している。口縁は凹凸が顕著である。甕形土器-342は口縁部が極端に短く外反し体部中央が僅かながら脹らむ小型のものである。体部は幅の広い（1.4~1.9cm）ヘラケズリで調整されている。胎土中に粒径2.2cmの小石が1個混じる。343は口縁部が極端に短く外反部分的に内湾しているもので底部が欠損している。体部外面調整は上半が主にヘラナデ、下半がヘラケズリである。胎土に小石が多く混じる。南西側の床面より琥珀が1点出土している。

VA-1 住居址

遺構（図版-56, 写真図版-49）

本遺構は調査区北端に位置している。北側半分以上は新しい攪乱を受けている。西のVA-2・3住居址と隣接している。黒褐色砂質シルト層上面で土器のまとまりが一部みえたがプランが不明のため中振浮石層直上近くまで掘り下げて遺構と判明したものである。

埋土は黒色シルト、暗褐色シルトをブロックで混じる黒褐色砂質層で占められている。床面は凹凸がありしまっていない。検出されている部分での壁の長さは南東壁1.2m、南西壁3.5mである。住居址は方形ないし長方形に近い形状をなしていたと思われる。壁高は3~6cmである。住居址と認定したのは形態、規模からである。

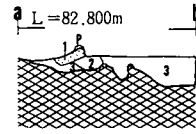
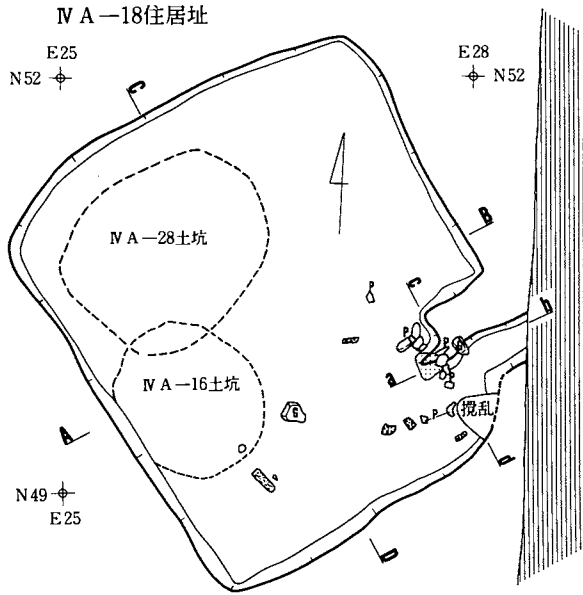
柱穴、周溝、カマドは検出されていない。

出土遺物（図版-143, 写真図版-122）

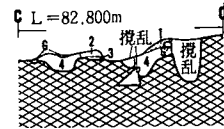
（床面） 土師器甕形土器-344は口縁部が極端に短く強く外反し体部外面ヘラケズリ調整の口縁部片である。345は口縁部が極端に短く外反し外面ヘラケズリ調整のもので体部中央が欠損している。器壁は薄い。

（埋土） 土師器甕形土器-346は外面ヘラケズリ調整の体部片である。348は口縁部が極端に短く強く外反し体部が僅かに脹らむものである。外面は幅の広い（1.6cm~2cm）ヘラケズリ調整である。347は胎土に小石を多く混じり外面を粗いヘラケズリで調整されている底部片である。

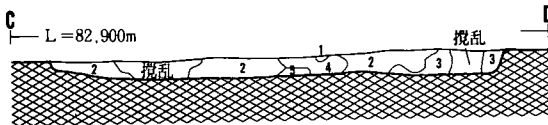
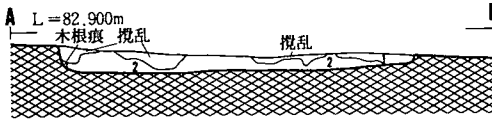
須恵器 壺形土器-349は外面のタタキ目痕の上に自然釉が付着している体部片である。



1. 赤褐色 5YR $\frac{1}{2}$ 焼土
2. 極暗赤褐色 2.5YR $\frac{1}{2}$ シルト
3. 暗褐色 10YR $\frac{1}{2}$ 砂質シルト



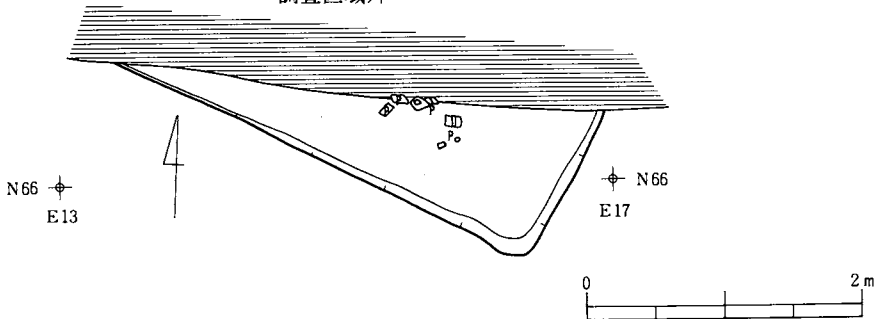
1. 赤褐色 5YR $\frac{1}{2}$ シルト 焼土
2. 暗赤褐色 5YR $\frac{1}{2}$ シルト (含焼土粒)
3. 明赤褐色 5YR $\frac{1}{2}$ 砂質シルト (含焼土)
4. 極暗赤褐色 2.5YR $\frac{1}{2}$ シルト



- A-B, C-D 7.5YR $\frac{1}{2}$
1. 黒褐色 10YR $\frac{1}{2}$ 砂質シルト (含+和田aの降下火山灰)
 2. 黒褐色 10YR $\frac{1}{2}$ シルト (含+和田a降下火山灰・炭化物・焼土粒)
 3. 黒褐色 7.5YR $\frac{1}{2}$ シルト (含+和田a降下火山灰)
 4. 黒褐色 10YR $\frac{1}{2}$ シルト
 5. 暗褐色 シルト

V A-1住居址

調査区域外



図版56 : IV A-18、V A-1 住居址

V A—2 住居址

遺 構 (図版—57, 写真図版—49・50)

本住居址はカマドのみが残存していたものである。調査区北端に位置し、V A—4 住居址と近接している。検出面は中掘浮石層上面である。攪乱及び削平により平面形、規模は不明である。カマド西側の一部はV A—3 住居址に切られている。残存する左袖は凝灰岩を芯にしてつくられている。燃烧部の使用面は平坦で火熱により赤変している。焼土の規模は径50cm×56cm、厚さ5cmである。本住居址はV A—3 住居址より新しい。

出土遺物 (図版—144, 写真図版—122)

(カマド) 土師器甕形土器—350, 351は口縁部が極端に短く外反ヘラケズリ調整の口縁部片である。

V A—3 住居址

遺 構 (図版—57, 写真図版—49・50)

本遺構は調査区北端に位置し、東にV A—1 住居址、北にV A—4 住居址、南西にIV A—16 住居址が隣接している。中掘浮石層上面で検出されている。北西隅をV—1 土坑、西側をV A—2 土坑に、中央部を幅80cmの排水管の溝に切られている。

埋土は遺構に切られたり、耕作などによる攪乱を多く受けたりしている。残存部から埋土は、暗褐色シルトがブロックで混じり焼土を幾分含む黒褐色シルト層で占められている。住居址は2.4m×3.2の規模をもち、東西に長い長方形の形状をなしている。壁高は6~17cmである。

住居址は暗褐色シルト層を掘り込んでつくられている。床面は西側をV A—2 土坑に切られているため、東側の一部が残存するにすぎない。床面は凹凸がありしまっていない。

カマドは南壁中央部東寄りに設けられている。カマドは左袖 排水管の溝に、右袖がV A—2 土坑に切られているため、僅かに燃烧部の一部が残っている。燃烧部使用面は浅皿状をなし、火熱により赤変している。焼土の規模は径24cm (推定) ×34cm、厚さ3cmである。

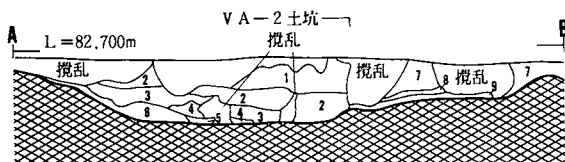
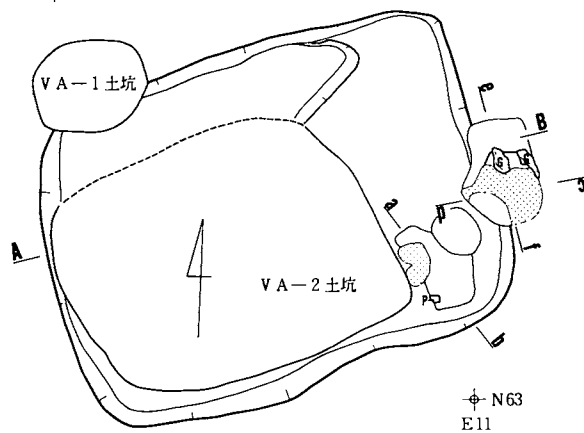
住居址の主軸方位はE—69°—Sである。本遺構はV A—1・2 土坑より古く、V A—2 住居址より新しい。

出土遺物 (図版—144, 写真図版—122)

(カマド) 土師器甕形土器—352は外面ナデ状のヘラケズリ調整がなされている体部下半の破片である。二次的の火熱を受けて赤味帯びている。

(埋土) 鉄製品 鉄鏃—353は茎の先端部分が欠損しているがほぼ完形のもので、現存長15.8cm、最大幅1.1cmである。根先はやや外張る三角をなす。354は根先と茎の両先端が欠損し

E 8
N66



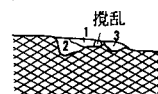
1. 黒 褐色 10YR $\frac{2}{6}$ シルト
2. 黒 褐色 7.5YR $\frac{2}{6}$ シルト (含十和田a降下火山灰)
3. 黒 褐色 10YR $\frac{2}{6}$ 砂質シルト (含十和田a降下火山灰)
4. 黒 褐色 10YR $\frac{2}{6}$ 砂質シルト (含十和田a降下火山灰)
5. 黒 褐色 7.5YR $\frac{2}{6}$ 砂質シルト (含十和田a降下火山灰)
6. 極 暗 褐色 7.5YR $\frac{2}{6}$ シルト (含十和田a降下火山灰)
7. 黒 褐色 10YR $\frac{2}{6}$ 砂質シルト
8. 黒 褐色 10YR $\frac{2}{6}$ 砂質シルト (含焼土粒暗褐色シルト)
9. 黒 褐色 7.5YR $\frac{2}{6}$ シルト

a L=82.700m b



1. にぶい赤褐色 5YR $\frac{2}{6}$ 焼土
2. 極 暗 褐色 7.5YR $\frac{2}{6}$ 砂質シルト (含焼土粒)
3. 黒 褐色 7.5YR $\frac{2}{6}$ 砂質シルト (含十和田a降下火山灰)

c L=82.700m d



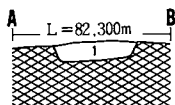
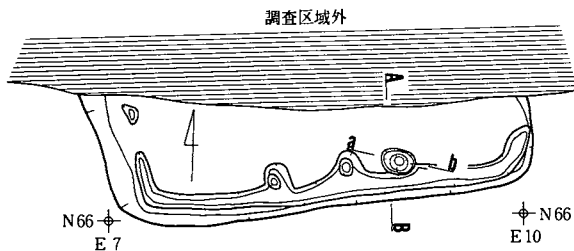
1. にぶい赤褐色 5YR $\frac{2}{6}$ 砂質シルト (含焼土)
2. 極 暗 褐色 7.5YR $\frac{2}{6}$ 砂質シルト (含焼土)
3. 極 暗 赤褐色 5YR $\frac{2}{6}$ 砂質シルト (含焼土塊焼土粒)

e L=82.700m f



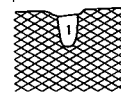
1. にぶい赤褐色 5YR $\frac{2}{6}$ 焼土
2. 黒 褐色 7.5YR $\frac{2}{6}$ 砂質シルト (含焼土粒)
3. にぶい 橙 色 7.5YR $\frac{2}{6}$ 浮石層
4. 黒 褐色 7.5YR $\frac{2}{6}$ 砂質シルト

VA-4 住居址

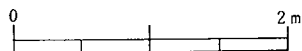


1. 黒褐色 10YR $\frac{2}{6}$ シルト

a L=82.300m b



1. 黒褐色 10YR $\frac{2}{6}$ シルト



図版57：VA-2・3・4住居址

ているが、353と同じ大きさ、形状のものであったと思われる。現存長11.2cmである。

VA-4 住居址

遺構（図版—57, 写真図版—51）

本遺構は調査区北端に位置し、南のVA-3住居址と近接している。検出面は中礫浮石層の上面である。検出された部分は南側の一部である。

埋土は十和田a降下火山灰がブロックで混じる黒褐色シルト層である。住居址は一辺3m前後の規模をもち、方形の形状をなしていたと思われる。壁高は10~18cmである。床は暗褐色シルト層を掘り込んでつくられている。床面は平坦でしまっている。柱穴はPi（径24cm、深さ27cm）が1個検出されている。周溝（11~15cm、深さ4~7cm）は一部途切れるが全体に巡っている。カマドは検出されていない。

本住居址は昭和57年に府金橋遺跡として発掘調査して、検出されたK I j 7住居址の南側の一部にあたるものと思われる。

出土遺物はない。

3 土坑・墓壇

本遺構から検出された土坑は100基で、ほぼ遺跡全体に分布している。平面形で分類すると円形44基、楕円形25基、隅丸方形9基、隅丸長方形15基、不整形7基である。墓壇は2基検出されている。

IIA-1 土坑（図版—58, 写真図版—52）

本土坑は調査区南側の南西端部に位置し、南1.5mにIIA-5土坑が隣接する。

全体の形状は皿状で、平面形は開口部・底部共に不整な隅丸長方形を呈する。規模は開口部205cm×170cm、底部160cm×120cmで、深さは最大30cmである。長軸の方向は北-南方向を示している。底面は起伏がみられ、中央付近が低く、東壁側が段差がついて若干高くなる。埋土は7層に細別され、埋土上部からおもに褐灰色土・黒色土・黒褐色土及び暗褐色土で構成される。ほぼ全体に十和田a降下火山灰がブロック状で混入する。全体に人為的な埋め戻しの様相を呈する。出土遺物はない。

IIA-2 土坑（図版—58, 写真図版—52）

本土坑は調査区南側の中央南西寄りに位置し、南西2mにIIA-1土坑、北15mにIIA-1方形周溝跡が隣接する。検出面は基本層序第IV層である。

全体の形状は浅い皿状で、平面形は開口部・底部共に不整な楕円形を呈する。規模は開口部130cm×100cm、底部110cm×80cmで、深さは10cmである。長軸の方向は北西—南東方向を示している。底面は起伏がみられる。埋土は中振浮石が混じる黒褐色土で構成される。出土遺物はない。

II A—3 土坑 (図版—58・59, 写真図版—52)

本土坑は調査区南側のはぼ中央部に位置する。検出面は基本層序第IV層である。本土坑はII A—4 土坑を切っている。

平面形は開口部120cm×110cm・底部110cm×95cmの不整な隅丸長方形を呈し、深さは35cmである。長軸の方向は北西—南東方向を示している。底面はほぼ水平かつ平坦である。壁は底面から内弯気味に直立する。埋土は暗褐色シルトがブロックで混じる黒褐色土で構成される。

遺物は底面直上から土師器坏形土器(502、503)、埋土から土師器甕形土器(504~506)が出土している。501は体部下半片である。502はロクロ使用の台付内黒坏の底部片である。503はロクロ不使用の丸底と思われる内黒坏の底部片である。504、505は外面ヘラケズリ調整されている底部片である。506は口縁部が極端に短く外反している口縁部片である。内面の口縁部と体部の境に軽い段をもつ。

II A—4 土坑 (図版—58・59, 写真図版—52)

本土坑は調査区南側の中央部に位置し、北西にII A—1 方形周溝跡、北にII A—3 住居址が近接する。検出面は基本層序第IV層である。本土坑はII A—3 土坑に切られている。

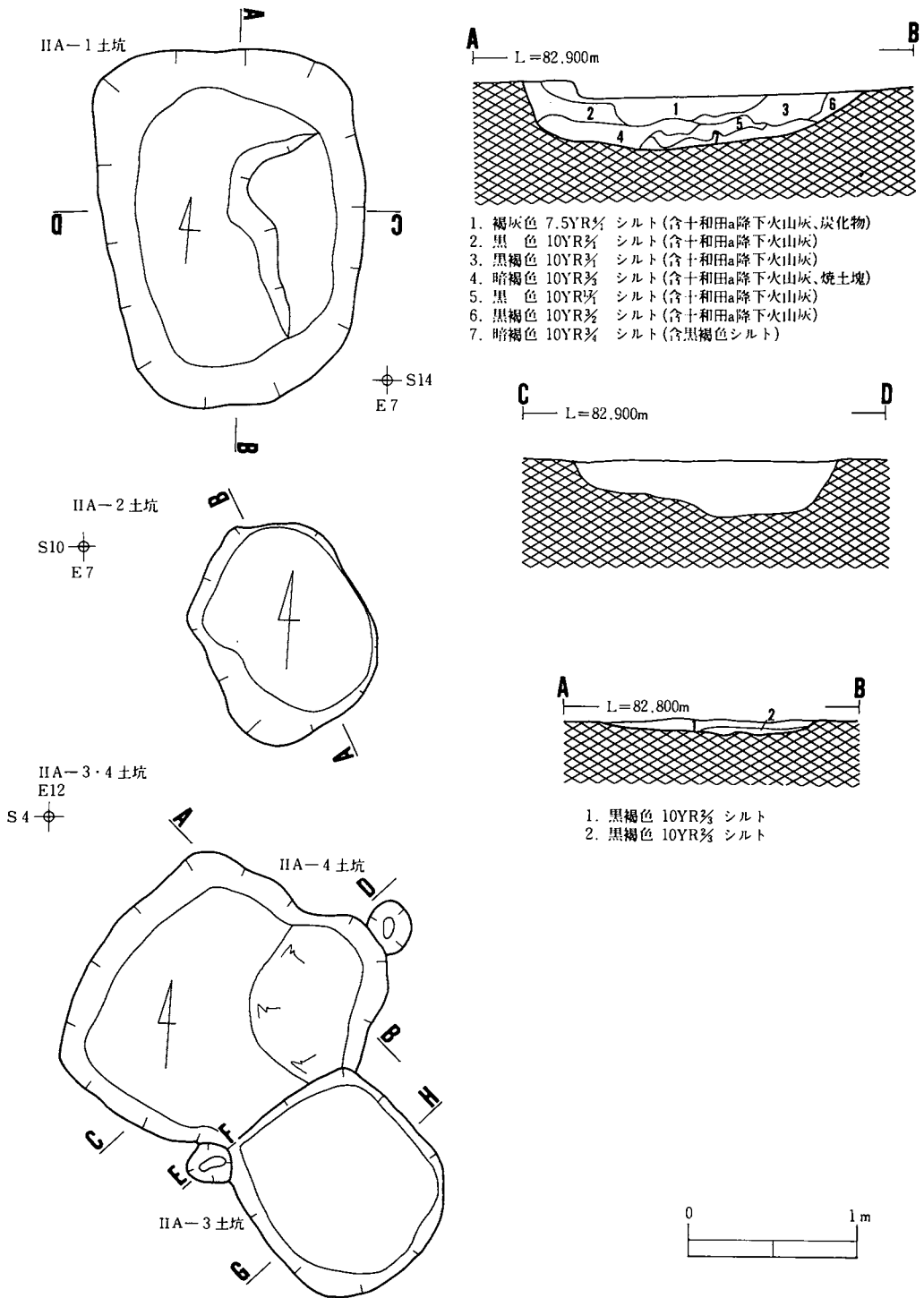
一部攪乱を受けているが、平面形は開口部・底部共にほぼ隅丸方形と推定される。規模は開口部一辺160cm・底部一辺140cmで、深さは30cmである。底面はほぼ水平かつ平坦である。壁は底面からやや外傾して立ち上がる。埋土は7層に細別され、おもに黒褐色土で構成される。

遺物は埋土から胎土に金雲母が混じる甕形土器の体部小破片が出土している。

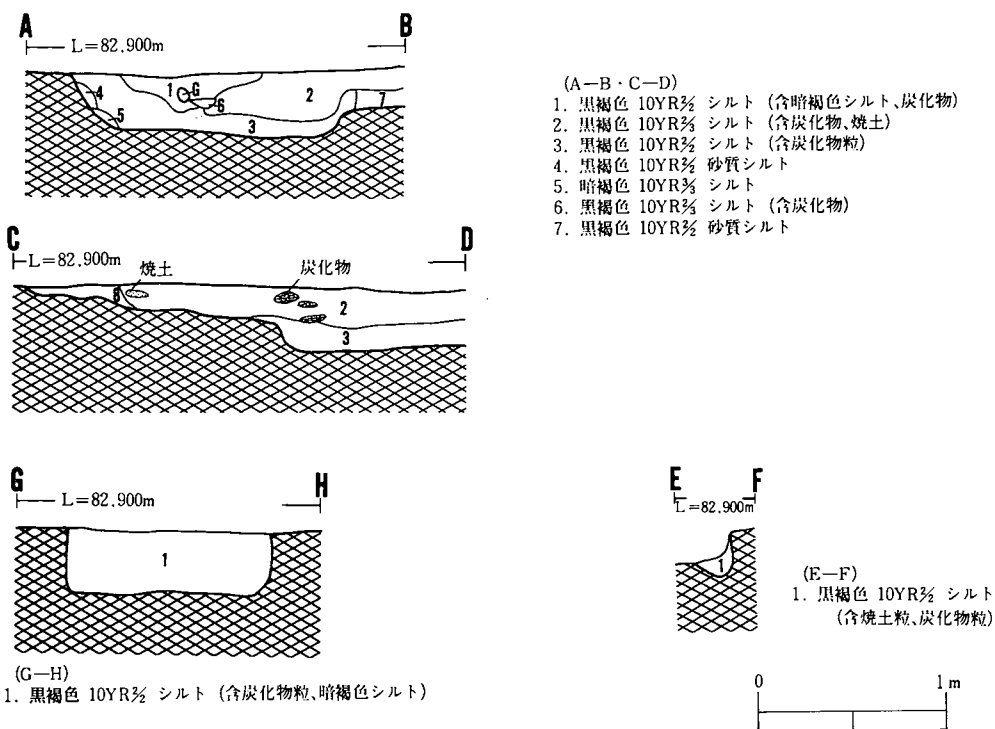
II A—5 土坑 (図版—60, 写真図版—53)

本土坑は調査区南側の南西部に位置し、北1.5mにII A—1 土坑が隣接する。検出面は基本層序第IV層である。

本土坑は壁の一部が削平されているが、残存部の形状から平面形は開口部・底部共に不整な円形と推定される。規模は開口部径160cm・底部径140cmで、深さは10cmである。底面は若



図版58：II A-1・2・3・4 土坑



図版59：ⅡA-1・2・3・4土坑

干起伏がみられる。壁は底面から外傾して立ち上がる。埋土は黒褐色上の単層で構成される。

遺物は埋土から土師器甕形土器の口縁部片 (507)、体部片 (509)、底部片 (508、510) が出土している。509は外面を粗いヘラケズリで調整され胎土に砂粒が多く混じるものである。510は底部外面をヘラケズリで調整されているが一部木葉圧痕が残っているものである。

ⅡA-6土坑 (図版-60, 写真図版-53)

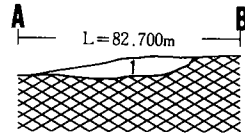
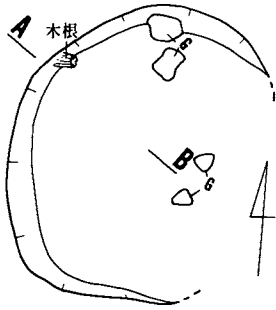
本土坑は調査区南側の南西端部に位置し、北0.3mにⅢA-7土坑が隣接する。検出面は基本層序第Ⅳ層である。本土坑はⅡA-4住居址を切っている。

平面形は開口部160cm×120cm、底部120×85cmの楕円形を呈し、深さは30cmである。長軸の方向は東-西方向を示している。底面はほぼ水平かつ平坦である。底面北壁際の柱穴状小土坑は本土坑より新しい。壁は底面から内湾気味に外傾して立ち上がる。埋土は4層に細別され、おもに黒褐色土及び黒色土で構成される。ほぼ全体に十和田a降下火山灰がブロック状で混入する。

遺物は口縁部が極端に外反する土師器甕形土器の口縁部片が出土している。511は小型の甕

E 7
S15

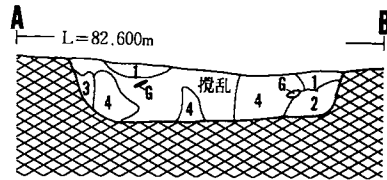
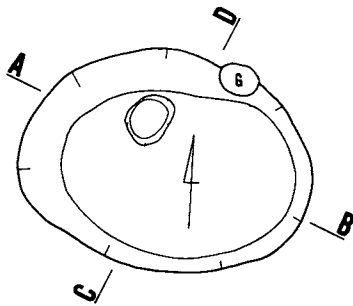
IIA-5 土坑



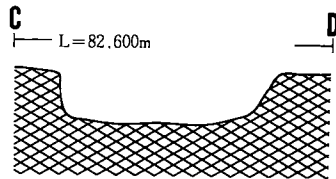
1. 黒褐色 10YR $\frac{2}{5}$ シルト (含焼土粒、炭化物、暗褐色土)

IIA-6 土坑

E 4
S20

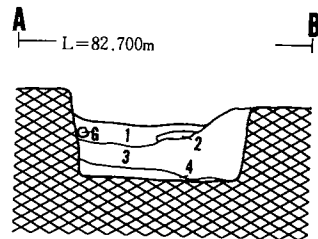
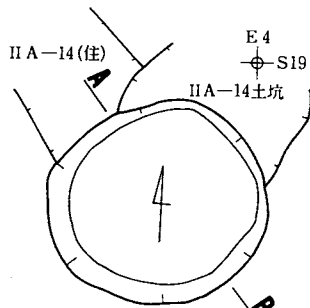


1. 黒褐色 10YR $\frac{2}{5}$ シルト (含十和田a降下火山灰)
2. 黒褐色 10YR $\frac{2}{5}$ シルト (含黒色シルト)
3. 黒褐色 10YR $\frac{2}{5}$ シルト
4. 黒色 10YR $\frac{2}{5}$ シルト (含炭化物、焼土粒、十和田a降下火山灰)



IIA-7 土坑

E 4
S19



1. 黒褐色 10YR $\frac{2}{5}$ シルト (含十和田a降下火山灰)
2. 黒褐色 10YR $\frac{2}{5}$ シルト (含暗褐色土)
3. 黒褐色 10YR $\frac{2}{5}$ シルト (含暗褐色土)
4. 暗褐色 10YR $\frac{2}{5}$ シルト



図版60：IIA-5・6・7 土坑

で外面ヘラケズリで調整されている。512は外面ナデ状のヘラケズリ調整で輪積み痕が残る。

II A—7 土坑 (図版—60, 写真図版—53)

本土坑は調査区南側の南西端部に位置し、南0.3mにII A—6 土坑が隣接する。本土坑はII A—4 住居址及びII A—14土坑を切っている。

平面形は開口部径110m・底部径90mの円形を呈し、深さは45cmである。底面はほぼ水平かつ平坦である。壁は底面からやや外傾して立ち上がる。埋土は4層に細別され、上部からおもに黒褐色土と暗褐色土で構成される。埋土上部には十和田a 降下火山灰がブロックで混入する。全体に人為的な埋め戻しの様相を呈する。

遺物は埋土から口縁部が極端に短く外反している土師器甕形土器の口縁部片(513)と外面ヘラケズリ調整の体部片が出土している。

II A—8 土坑 (図版—61, 写真図版—54)

本土坑は調査区南側の南西端部に位置する。本土坑はII A—5 住居址及びII A—10土坑を切っている。

全体の形状は皿状で、平面形は開口部・底部共にほぼ隅丸長方形を呈する。規模は開口部210cm×150cm、底部200cm×145cmで、深さは20~25cmである。長軸の方向は北西—南東方向を示している。底面はほぼ平坦であるが、東壁側が若干高くなる。底面中央北寄りの柱穴状小土坑は本土坑より新しい遺構である。壁は底面からやや外傾して立ち上がる。埋土は黒褐色土の単層で構成され、十和田a 降下火山灰がブロック状で混入する。

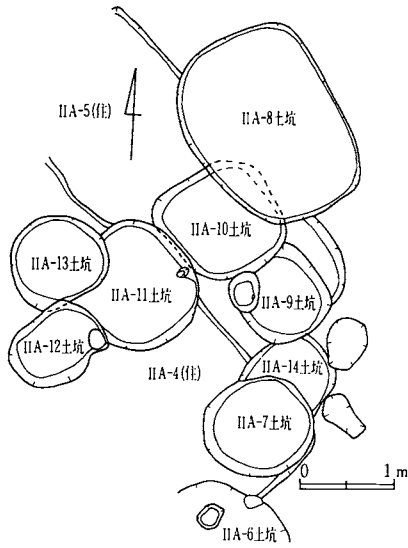
遺物は埋土上部から口縁部が極端に短く外反し外面を粗いヘラケズリ調整されている土師器甕形土器の口縁部片(515)が出土している。胎土に砂粒、小石が混じる。

II A—9 土坑 (図版—61, 写真図版—54)

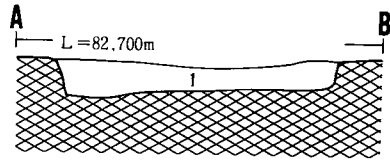
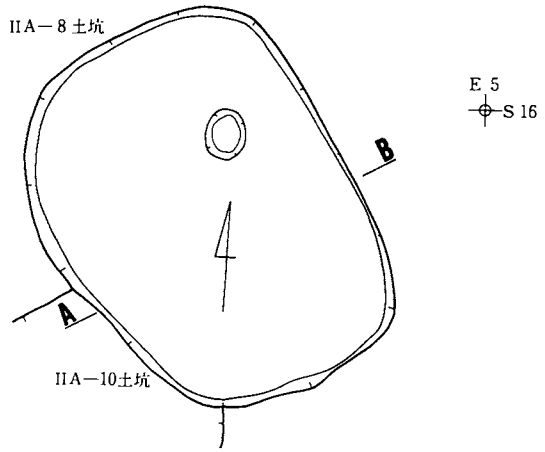
本土坑は調査区南側の南西端部に位置する。本土坑はII A—5 住居址及びII A—10・14土坑を切っている。

平面形は開口部が隅丸方形で、底部は不整な円形を呈する。規模は開口部一辺100cm・底部径80cmで、深さは中央付近で20cmである。底面及び壁の形状は舟底状を呈する。底面南壁際から垂角礫が集中して出土している。埋土は褐色シルトのブロックが混じる黒褐色土で構成される。

遺物は埋土から外面を粗いヘラケズリで調整されている土師器甕形土器体部片(516)が出土している。胎土に砂粒、小石が混じる。器壁が薄い。

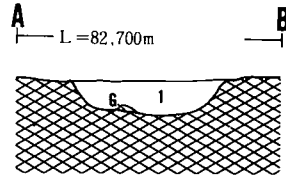
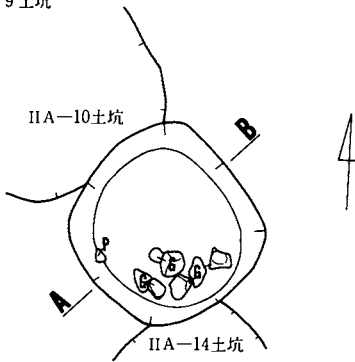


E 4
S 17



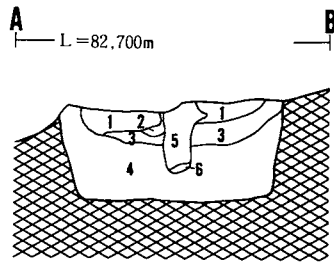
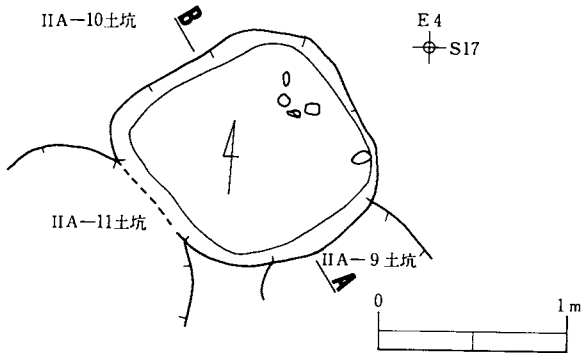
1. 黒褐色 10Y R% シルト (含炭化物粒、十和田a降下火山灰)

II A-9土坑



1. 黒褐色 10Y R% シルト (含炭化物粒、褐色シルト)

II A-10土坑



1. 黒褐色 10Y R% シルト (含暗褐色シルト)
2. 暗褐色 10Y R% シルト (含暗褐色シルト)
3. 黒褐色 10Y R% シルト (含十和田a降下火山灰、焼土塊、炭化物)
4. 暗褐色 10Y R% シルト (含暗褐色シルト、炭化物)
5. 黒褐色 10Y R% シルト (含暗褐色シルト)
6. 黒褐色 10Y R% シルト (含暗褐色シルト)

図版61：II A-8・9・10土坑

II A—10土坑 (図版—61, 写真図版—54)

本土坑は調査区南側の南西端部に位置する。本土坑はII A—5住居址床面の下位から検出されたもので、II A—8・9・11土坑に切られている。

平面形は開口部・底部共にほぼ隅丸方形で、断面形は逆台形を呈する。規模は開口部一辺115cm・底部一辺100cmで、深さは50cmである。底面はほぼ水平かつ平坦である。壁は底面からやや外傾して立ち上がる。埋土は6層に細別され、埋土上部からおもに黒褐色土及び暗褐色土で構成される。埋土中部には十和田a降下火山灰がブロック状で混入する。全体に人為的な埋め戻しの様相を呈する。

遺物は埋土から土師器小型甕形土器の底部片(517)、刀子(518)が出土している。517は底部外面に直線状の短い刻線(8本)がある。518は刃部側が欠損している。現存長は8.9cmで最大厚0.5cmである。

II A—11土坑 (図版—62, 写真図版—55)

本土坑は調査区南側の南西端部に位置する。本土坑はII A—4住居址及びII A—13土坑に切られ、II A—10土坑を切っている。

平面形は開口部がほぼ円形で、底部は隅丸方形を呈する。規模は開口部径130cm・底部一辺115cmで、深さは40cmである。底面はほぼ平坦であるが、東壁側が若干高くなる。壁は底面から外傾して立ち上がる。埋土は黒褐色土の2層で構成され、埋土上部には十和田a降下火山灰がブロック状で混入する。埋土下部は暗褐色土が混じり、人為的な埋め戻しの様相を呈する。

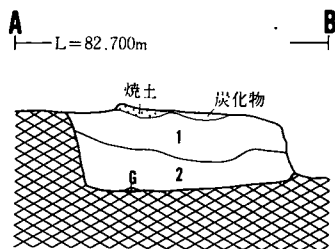
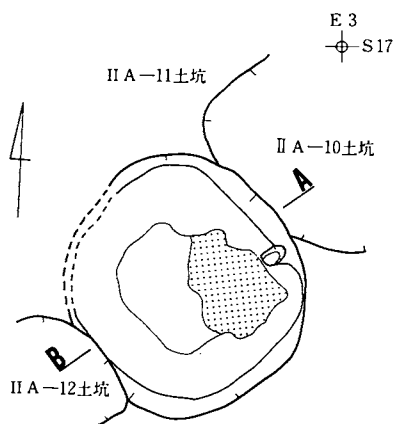
遺物は埋土からロクロ使用の土師器環形土器の体部片(519)が出土している。内面はヘラミガキ後、黒色処理が施されている。

II A—12土坑 (図版—62, 写真図版—55)

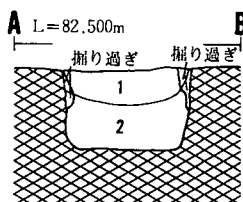
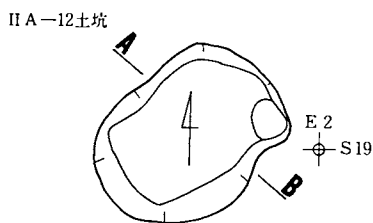
本土坑は調査区南側の南西端部に位置する。本土坑はII A—4住居址に切られ、II A—13土坑を切っている。

平面径は開口部・底部共に不整な長方形で、短軸の断面径はU字状を呈する。規模は開口部100×80cm、底部88cm×60cmで、深さは40cmである。底面はほぼ水平かつ平坦である。壁は底面からほぼ直立する。埋土は上部から黒色土及び黒褐色土の2層で構成され、埋土上部には十和田a降下火山灰がブロック状で混入する。全体に人為的な埋め戻しの様相を呈する。

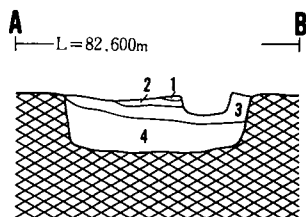
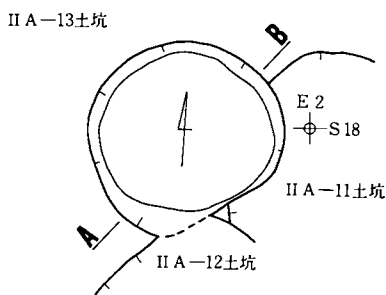
遺物は埋土から土師器甕形土器の口縁部片(520)が出土している。口縁部は極端に短く外



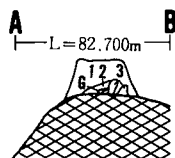
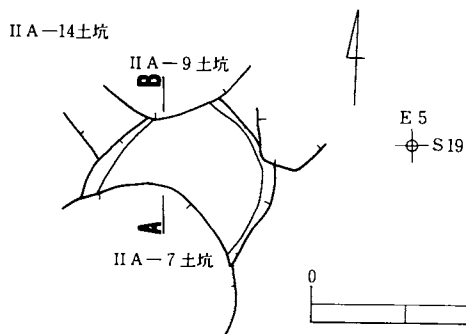
1. 黒褐色 10YR $\frac{2}{5}$ シルト (含十和田a降下火山灰、炭化物)
2. 黒褐色 10YR $\frac{2}{5}$ シルト (含暗褐色土)



1. 黒色 10YR $\frac{2}{5}$ シルト (含十和田a降下火山灰、暗褐色シルト)
2. 黒褐色 10YR $\frac{2}{5}$ シルト (含暗褐色シルト)



1. 黒褐色 10YR $\frac{2}{5}$ シルト (含十和田a降下火山灰、炭化物、焼土粒)
2. 黒褐色 7.5YR $\frac{2}{5}$ シルト (含十和田a降下火山灰、炭化物、暗褐色シルト)
3. 黒褐色 10YR $\frac{2}{5}$ シルト (含十和田a降下火山灰、暗褐色シルト)
4. 黒褐色 10YR $\frac{2}{5}$ シルト (含十和田a降下火山灰、暗褐色土)



1. 黒褐色 10YR $\frac{2}{5}$ シルト (含暗褐色土・炭化物)
2. 黒褐色 10YR $\frac{2}{5}$ シルト
3. 黒褐色 10YR $\frac{2}{5}$ シルト (含暗褐色土)

図版62：II A-11・12・13・14土坑

反している。外面は粗いヘラケズリ調整で胎土に砂粒が混じる。

II A—13土坑 (図版—62, 写真図版—55)

本土坑は調査区南側の南西端部に位置する。本土坑はII A—4住居址及びII A—12土坑に切られ、II A—11土坑を切っている。

平面形は開口部径100cm・底部径80cmの円形を呈し、深さは30cmである。底面はほぼ水平かつ平坦である。壁は底面からやや外傾して立ち上がる。埋土は4層に細別され、おもに黒褐色土で構成される。埋土全体に十和田a降下火山灰がブロック状で混入する。全体に人為的な埋め戻しの様相を呈する。出土遺物はない。

II A—14土坑 (図版—62, 写真図版—56)

本土坑は調査区南側の南西端部に位置する。本土坑はII A—7・9土坑に切られ、II A—4住居址を切っている。

全体の形状は不明で、残存部の最大幅は開口部85cm・底部80cmで、深さは18cmである。底面はほぼ水平かつ平坦である。壁は底面からやや外傾して立ち上がる。埋土は3層に細別され、おもに黒褐色土で構成される。

遺物は埋土から外面ヘラケズリ調整されている土師器甕形土器の体部小破片が出土している。

III A—1土坑 (図版—63, 写真図版—56・60)

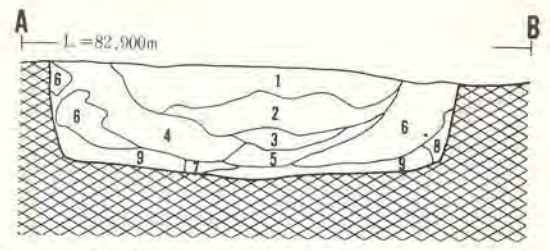
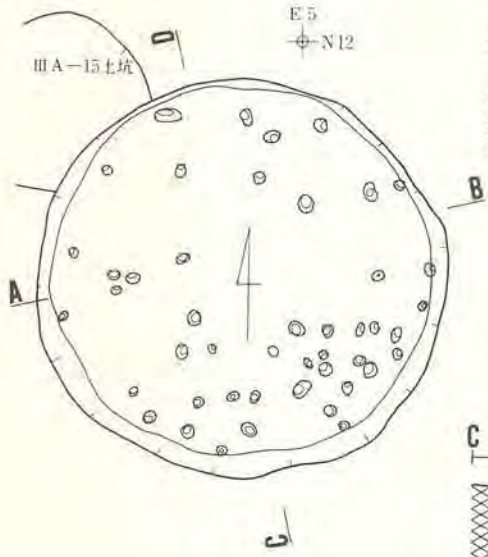
本土坑は調査区中央部の南西端部に位置し、南にIII A—11住居址及びII A—102大溝跡が隣接する。検出面は基本層序第IV層である。本土坑はIII A—15土坑を切っている。

全体の形状は浅いピーカー状で、平面形は開口部径220cm・底部径200cmの円形を呈し、深さは60cmである。底面は壁際がやや高く、中央付近が浅く凹んでいる。底面全体から径4cm～10cm・深さ3cm～30cm程の小穴が多数検出されている。穿孔の方向、径、深さそれぞれ多様であり、その機能等は不明である。壁は底面からやや外傾して立ち上がる。埋土は9層に細別され、埋土上部からおもに黒褐色土・黒色土及び黒褐色土で構成される。埋土上部～中部下位には十和田a降下火山灰がブロック状で混入する。層位状況から1・2層は人為堆積層で、その下位は自然堆積と考えられる。出土遺物はない。

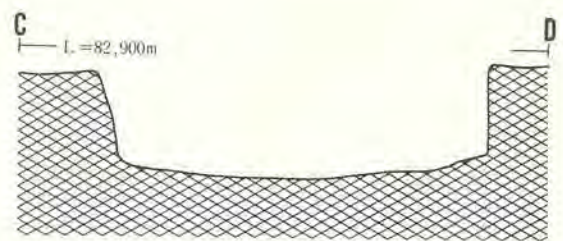
III A—2土坑 (図版—63, 写真図版—56)

本土坑は調査区中央部の南西側に位置し、南西約3mにII A—1・15土坑がある。検出面は

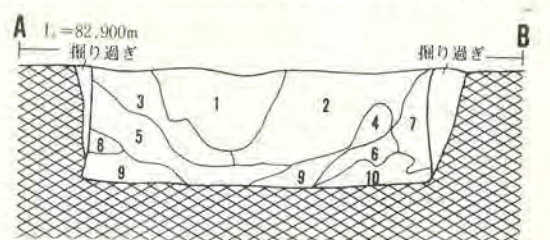
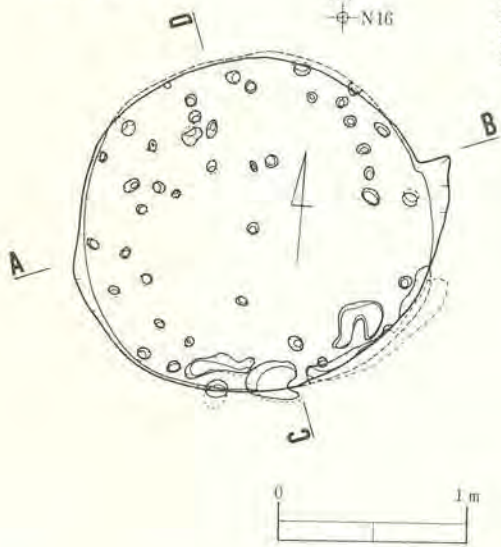
ⅢA-1 土坑



- (A-B)
- 1. 黒褐色 10YR 号 砂質シルト (含暗褐色シルト)
 - 2. 黒褐色 10YR 号 シルト (含黒色シルト)
 - 3. 黒色 10YR 号 シルト (含黒褐色シルト)
 - 4. 黒褐色 10YR 号 シルト (含十和田a降下火山灰)
 - 5. 黒褐色 10YR 号 シルト (含十和田a降下火山灰)
 - 6. 黒色 10YR 号 粘土質シルト (含黒褐色シルト)
 - 7. 黒褐色 10YR 号 シルト (含黒褐色シルト)
 - 8. 黒褐色 10YR 号 シルト (含黒褐色シルト)
 - 9. 黒褐色 10YR 号 シルト (含暗褐色シルト)



ⅢA-2 土坑



- (A-B)
- 1. 黒褐色 7.5YR 号 シルト (含十和田a降下火山灰、黒色シルト)
 - 2. 黒褐色 10YR 号 シルト (含暗褐色シルト)
 - 3. 黒褐色 10YR 号 シルト (含十和田a降下火山灰)
 - 4. 黒褐色 7.5YR 号 シルト
 - 5. 黒色 10YR 号 シルト (含十和田a降下火山灰)
 - 6. 黒褐色 10YR 号 シルト (含暗褐色と黒褐色シルト)
 - 7. 黒色 10YR 号 シルト (含黒褐色シルト)
 - 8. 黒褐色 10YR 号 シルト
 - 9. 黒褐色 10YR 号 シルト (含暗褐色シルト、黒褐色シルト)
 - 10. 黒褐色 10YR 号 シルト (含暗褐色シルト)



図版63：ⅢA-1・2 土坑

基本層序第IV層である。

平面形は開口部径175cm・底部径180cmの円形を呈し、深さは60cmである。底面はほぼ水平かつ平坦である。底面全体から径4cm～10cm・深さ3cm・18cm程の小穴が多数検出されている。また南壁際には長さ90cm・深さ10cmの溝状の落ち込みや不整形の落ち込みが認められる。これら小穴や落ち込みの機能等については不明である。壁は底面から内傾して立ち上がる。埋土は10層に細別され、おもに黒褐色土及び黒色土で構成される。埋土には十和田a降下火山灰がブロック状で混入する。層位状況から、1・2層は人為堆積層で、その下位は自然堆積と考えられる。

遺物は埋土からロクロ不使用の土師器坏形土器の口縁部片(521)が出土している。口縁部は口唇部近くが直上するものである。内面はやや粗いヘラミガキ調整され更に内面は黒色処理されている。

III A—3 土坑 (図版—64, 写真図版—57)

本土坑は調査区中央部の南寄りに位置し、南1.2mにII A—102大溝跡、東0.5mにIII A—6土坑が隣接する。検出面は基本層序第IV層である。

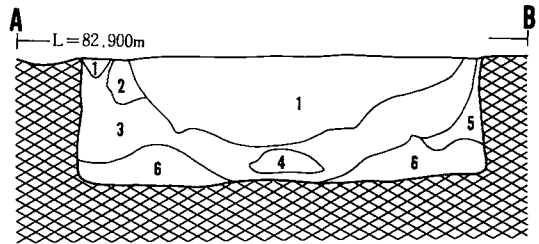
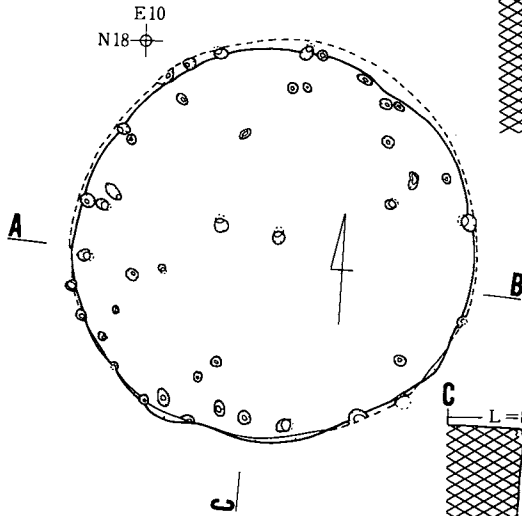
平面形は開口部径210cm・底部径215cmの円形を呈し、深さは65cmである。底面はほぼ平坦である。底面全体から径4cm～10cm・深さ3cm～14cm程の小穴が多数検出されているが、その機能等は不明である。壁は底面から内傾して立ち上がる。埋土は6層に細別され、おもに黒褐色土及び黒色土で構成される。埋土全体に十和田a降下火山灰がブロック状で混入する。層位状況から1・2層は人為堆積層で、その下位は自然堆積と考えられる。出土遺物はない。

III A—4 土坑 (図版—64, 写真図版—57)

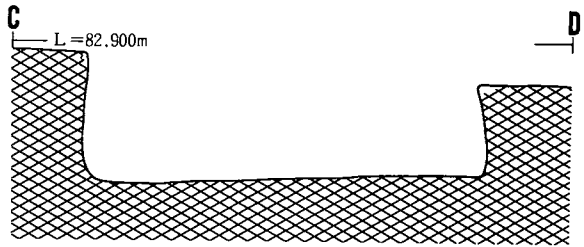
本土坑は調査区中央部の中央南寄りに位置し、北にIII A—18住居址、南にIII A—5住居址が隣接する。検出面は基本層序第IV層である。

平面形は開口部径210cm・底部径200cmの円形を呈し、深さは65cmである。底面は掘りすぎ部分はあるがほぼ平坦で、東端側が若干上がるように傾斜している。底面全体から径4cm～12cm・深さ2cm～16cm程の小穴が検出されており、壁下部に穿たれるものもみられるが、その機能等は不明である。壁は底面からやや外傾して立ち上がる。埋土は7層に細別され、埋土上部からおもに黒褐色土・黒色土・黒褐色土及び暗褐色土で構成される。埋土下部の一部を除いてほぼ全体に十和田a降下火山灰がブロック状で混入する。層位状況から1層は人為堆積で、その他は自然堆積と考えられる。出土遺物はない。

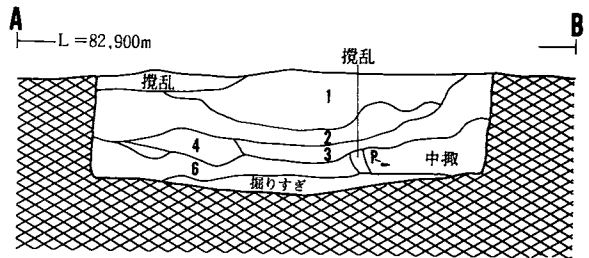
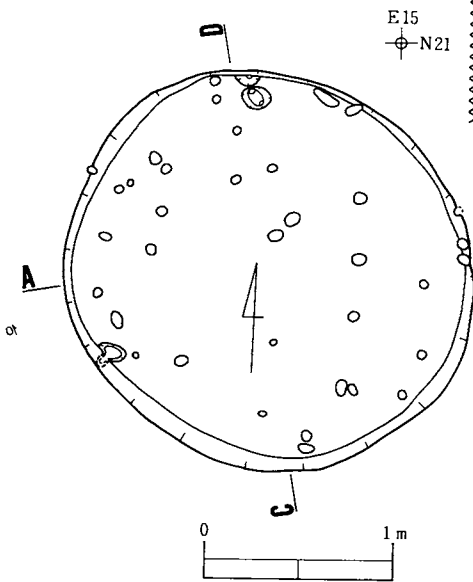
ⅢA-3 土坑



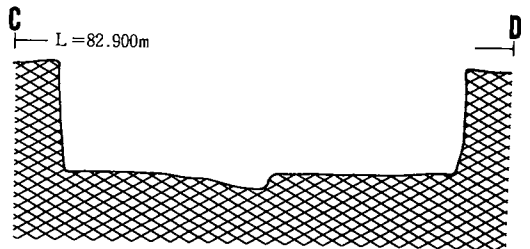
1. 黒褐色 10YR 矽 シルト (含暗褐色シルト、十和田a降下火山灰、木炭)
2. 黒褐色 10YR 矽 シルト (含十和田a降下火山灰)
3. 黒色 10YR 矽 シルト (含十和田a降下火山灰、黒褐色シルト)
4. 黒褐色 10YR 矽 シルト (含十和田a降下火山灰)
5. 黒色 10YR 矽 シルト (含十和田a降下火山灰)
6. 黒褐色 10YR 矽 シルト (含暗褐色シルト、十和田a降下火山灰)



ⅢA-4 土坑



1. 黒褐色 10YR 矽 シルト (含十和田a降下火山灰、炭化物、粒)
2. 黒褐色 10YR 矽 シルト (含炭黒色、十和田a降下火山灰、炭化物)
3. 黒色 10YR 矽 シルト (含十和田a降下火山灰)
4. 黒褐色 10YR 矽 シルト (含暗褐色シルト、十和田a降下火山灰)
5. 黒褐色 10YR 矽 粘土質シルト
6. 黒褐色 7.5YR 矽 粘土質シルト (含十和田a降下火山灰、暗褐色シルト)



図版64：ⅢA-3・4 土坑

ⅢA—5 土坑 (図版—65, 写真図版—57)

本土坑は調査区中央部のほぼ中央に位置し、北にⅢA—20住居址、南にⅢA—5住居址が隣接する。検出面は基本層序第Ⅳ層である。本土坑はⅢA—8土坑に切られている。

平面形は開口部径160cm・底部径140cm程の不整な円形を呈し、深さは30~40cmである。底面は起伏がみられ、中央付近が浅く凹む。壁は底面からやや外傾して立ち上がる。埋土は5層に細別され、おもに黒褐色土及び暗褐色土で構成される。層位状況から1層は人為堆積層で、その他は自然堆積と考えられる。出土遺物はない。

ⅢA—6 土坑 (図版—65, 写真図版—58)

本土坑は調査区中央部の中央南寄りに位置し、東にⅢA—5住居址、西にⅢA—3土坑が隣接する。検出面は基本層序第Ⅳ層である。本土坑はⅡA—102大溝跡に切られている。

本土坑は南側が遺存しないが、平面形は開口部径230cm前後・底部径220cm前後の円形と推定され、深さは30cmである。底面はほぼ水平かつ平坦である。底面全体から径4cm~10cm・深さ1cm~19cm程の小穴が多数検出されているが、その機能等は不明である。壁は底面からほぼ直立する。埋土は7層に細別され、中央部は十和田a降下火山灰ブロックや暗褐色シルトのブロックが混じる黒褐色土で構成され、壁際及び下部は暗褐色シルトのブロックが混じる黒褐色土で構成される。全体に人為的な埋め戻しの様相を呈する。

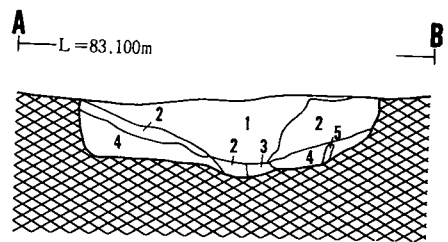
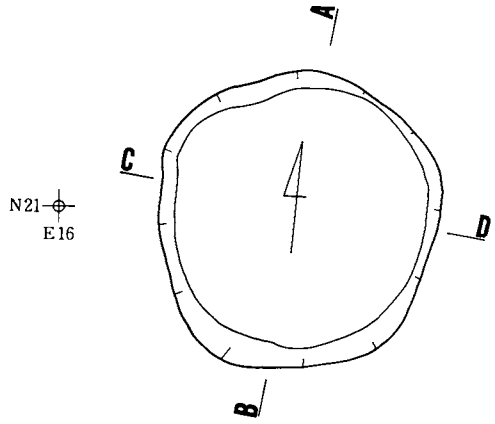
遺物は埋土から土師器甕形土器の口縁部片(522)、体部片(524)、底部片(523)が出土している。522は口縁部が極端に短く外反するもので二次的火熱を受けている。524は外面を粗いヘラケズリ調整され、輪積み痕がみられるものである。

ⅢA—7 土坑 (図版—66, 写真図版—58)

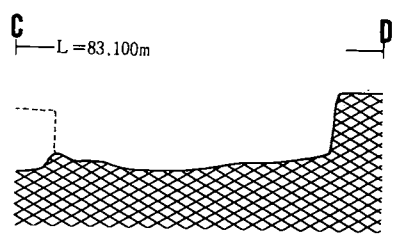
本土坑は調査区中央部の中央東寄りに位置し、北2mにⅢA—101大溝跡、南2.5mにⅡA—102大溝跡がある。検出面は基本層序第Ⅳ層である。

全体の形状はフラスコ状で、平面形は開口部径205cm・底部径200cmの円形を呈し、深さは80cmである。底面はほぼ平坦であるが、壁際が若干上がる。底面から径6cm~15cm・深さ3cm~25cm程の小穴が検出されているが、その機能等は不明である。壁は底面から内傾して立ち上がった後、中位付近から外反する。埋土は11層に細別され、埋土上部~中部はおもに十和田a降下火山灰が粒・ブロック状で混入する黒褐色土・暗褐色土及び黒色土で構成され、人為的な埋め戻しの様相を呈する。埋土下部及び壁際はおもに黒色及び暗褐色土で構成される。

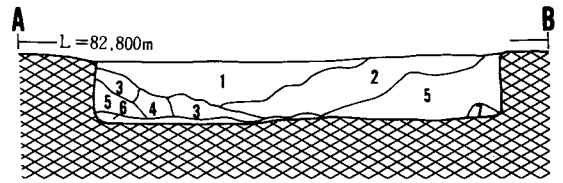
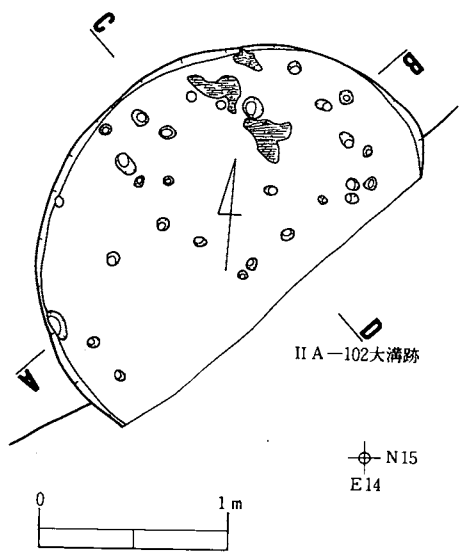
ⅢA-5 土坑



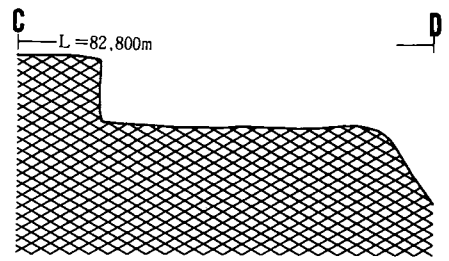
- (A-B)
- 1. 黒褐色 10YR $\frac{5}{2}$ シルト
 - 2. 黒褐色 10YR $\frac{5}{2}$ シルト
 - 3. 黒褐色 10YR $\frac{5}{2}$ シルト
 - 4. 黒褐色 10YR $\frac{5}{2}$ シルト
 - 5. 暗褐色 10YR $\frac{5}{2}$ シルト



ⅢA-6 土坑



- (A-B)
- 1. 黒褐色 10YR $\frac{5}{2}$ シルト (含十和田a降下火山灰、暗褐色シルト)
 - 2. 黒褐色 10YR $\frac{5}{2}$ シルト (含十和田a降下火山灰)
 - 3. 黒褐色 10YR $\frac{5}{2}$ シルト (含暗褐色シルト)
 - 4. 黒褐色 10YR $\frac{5}{2}$ シルト (含暗褐色シルト)
 - 5. 黒褐色 10YR $\frac{5}{2}$ シルト (含黒色、暗褐色シルト)
 - 6. 黒褐色 10YR $\frac{5}{2}$ シルト (含暗褐色シルト)
 - 7. 黒褐色 10YR $\frac{5}{2}$ シルト (含暗褐色シルト)



図版65：ⅢA-5・6土坑

遺物は埋土から土師器甕形土器の口縁部片（525、526）、石製品（527）が出土している。526は肩部に段をもつものである。527は長径6.6cmの小判状の扁平な石製品である。ほぼ中央に径2.9cm、深さ1.4cmの播鉢状の凹みがある。その底面に同心円状の擦痕がみられる。裏面には刃物で刻んだ跡が3ヶ所にみられる。石質は白色細粒凝灰岩である。用途については不明である。

ⅢA—8 土坑 （図版—66, 写真図版—57・58）

本土坑は調査区中央部のほぼ中央に位置し、北にⅢA—20住居址、西にⅢA—4土坑が隣接する。検出面は基本層序第Ⅳ層である。本土坑はⅢA—5土坑を切っている。

平面形は開口部150×120cm・底部115cm×100cmの不整な楕円形を呈し、深さは30cmである。長軸の方向は北北西—南南東方向を示している。底面は若干起伏がみられる。壁は底面から外傾して立ち上がる。埋土は6層に細別され、おもに黒褐色土と十和田a降下火山灰が小ブロック状で混入する黒色土で構成される。出土遺物はない。

ⅢA—9 土坑 （図版—66, 写真図版—59）

本土坑は調査区中央部の中央東寄りに位置し、北20cmにⅢA—101大溝跡、南東40cmにⅢA—7土坑が隣接する。検出面は基本層序第Ⅳ層である。

全体の形状は皿状で、平面形は開口部・底部共に楕円形を呈する。規模は開口部90cm×75cm、底部80cm×62cmで、深さは15cmである。長軸の方向は北東—南西方向を示している。底面はほぼ水平かつ平坦である。埋土は黒褐色土の単層で構成される。出土遺物はない。

ⅢA—10土坑 （図版—67, 写真図版—59）

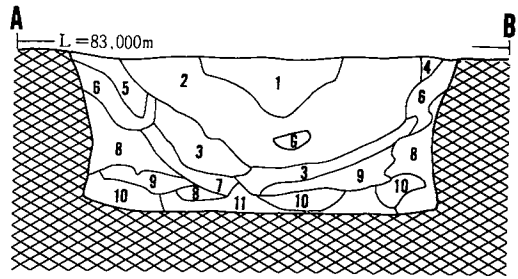
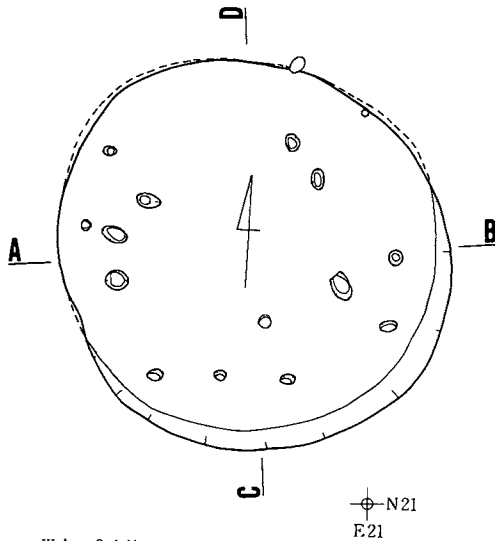
本土坑は調査区中央部の東端に位置し、北2mにⅢA—101大溝跡、南0.5mにⅢA—11土坑がある。検出面は基本層序第Ⅳ層である。

全体の形状は皿状で、平面形は開口部が円形で、底部は楕円形を呈する。規模は開口部径110cm・底部90cm×75cmで、深さは18cmである。底面はほぼ水平かつ平坦である。壁は底面からなだらかに外傾して立ち上がる。埋土は黒色シルトが混入する黒褐色土で構成される。出土遺物はない。

ⅢA—11土坑 （図版—67, 写真図版—59）

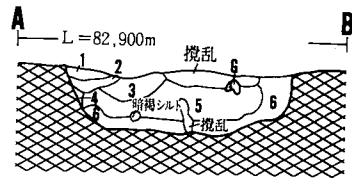
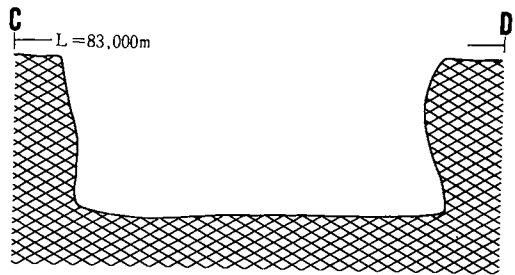
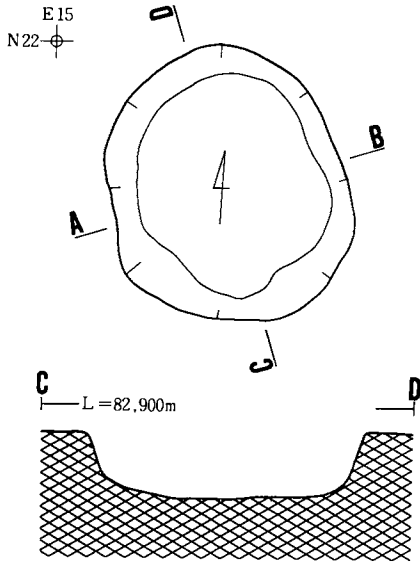
本土坑は調査区中央部の東端に位置し、北西0.3mにⅢA—12土坑、北0.5mにⅢA—10土坑が隣接する。検出面は基本層序第Ⅳ層である。

ⅢA-7 土坑



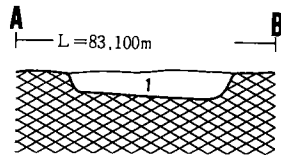
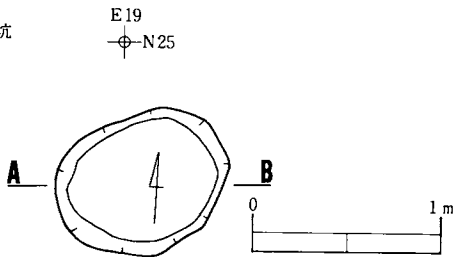
- (A-B)
1. 黒褐色 10YR $\frac{2}{6}$ シルト (含十和田a降下火山灰、焼土粒、炭化材)
 2. 黒褐色 10YR $\frac{2}{6}$ シルト (含十和田a降下火山灰、暗褐色砂質シルト)
 3. 暗褐色 10YR $\frac{2}{6}$ シルトと黒褐色10YR $\frac{2}{6}$ シルトの混合土
 4. 黒褐色 10YR $\frac{2}{6}$ シルト (含十和田a降下火山灰)
 5. 黒褐色 10YR $\frac{2}{6}$ シルト (含十和田a降下火山灰)
 6. 黒色 10YR $\frac{2}{6}$ シルト (含十和田a降下火山灰)
 7. 黒褐色 10YR $\frac{2}{6}$ シルト (含十和田a降下火山灰、黒色シルト、暗褐色シルト)
 8. 黒色 10YR $\frac{2}{6}$ シルト (含暗褐色シルト)
 9. 黒褐色 10YR $\frac{2}{6}$ 砂質シルト (含黒色シルト、暗褐色シルト)
 10. 暗褐色 10YR $\frac{2}{6}$ シルトと黒褐色10YR $\frac{2}{6}$ シルトの混合土
 11. 黒色 10YR $\frac{2}{6}$ シルト

ⅢA-8 土坑



- (A-B)
1. 黒褐色 10YR $\frac{2}{6}$ シルト (含黒色シルト)
 2. 黒褐色 10YR $\frac{2}{6}$ シルト
 3. 黒褐色 10YR $\frac{2}{6}$ シルト
 4. 黒褐色 10YR $\frac{2}{6}$ シルト
 5. 黒色 10YR $\frac{2}{6}$ シルト (含暗褐色シルト、炭化物、十和田a降下火山灰)
 6. 黒褐色 10YR $\frac{2}{6}$ 砂質シルト (含暗褐色シルト)

ⅢA-9 土坑



1. 黒褐色 10YR $\frac{2}{6}$ シルト

図版66：ⅢA-7・8・9 土坑

平面形は開口部105cm×75cm・底部85cm×60cmの不整な長方形を呈し、深さは15cm～30cmである。長軸の方向は東—西方向を示している。底面は西側約2分の1が逆台形状に15cm程落ちこんでいる。壁は底面から外傾して立ち上がる。埋土は4層に細別され、埋土上部～中部は黒褐色土と暗褐色土で、落ちこみ部分は黒褐色土で構成される。出土遺物はない。

ⅢA—12土坑 (図版—67, 写真図版—60)

本土坑は調査区中央部の東側に位置し、北東0.5mにⅢA—10土坑、南東0.3mにⅢA—11土坑が隣接する。検出面は基本層序第IV層である。

平面形は開口部・底部共に不整な円形で、断面形はU字状を呈する。規模は開口部径60cm～65cm・底部径42cm～50cmで、深さは30cmである。底面はほぼ水平かつ平坦である。埋土は黒褐色土の単層で構成される。出土遺物はない。

ⅢA—13土坑 (図版—67, 写真図版—60)

本土坑は調査区中央部の南東側に位置する。本土坑はⅢA—6住居址の埋土を切ってつくられており、基礎コンクリートによって東側が切られている。

残存する壁の状況から、平面形は開口部径130cm前後・底部径110cm前後の円形と推定され深さは20cmである。底面はやや起伏がみられる。壁は底面から外傾して立ち上がる。埋土は暗褐色シルトで構成され、人為的な埋め戻しの様相を呈する。出土遺物はない。

ⅢA—14土坑 (図版—68, 写真図版—60)

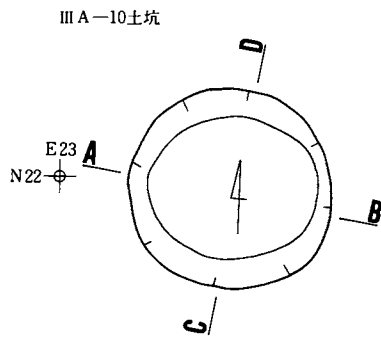
本土坑は調査区中央部の南東側に位置し、北0.6mにⅢA—13土坑、西0.4mにⅢA—34土坑が隣接する。本土坑はⅢA—6住居址の埋土を切ってつくられている。

掘りすぎのため東側が遺存せず、残存形の形状は不整形である。開口部最大巾65cm・底部最大巾45cmで、深さは最大20cmである。底面は起伏がみられる。壁は底面から外傾して立ち上がる。埋土は炭化物が混入する黒褐色土で構成される。出土遺物はない。

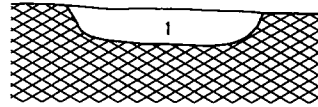
ⅢA—15土坑 (図版—68, 写真図版—60・61)

本土坑は調査区中央部の南西端に位置する。検出面は基本層序第IV層である。本土坑はⅢA—1土坑に切られている。

平面形は開口部・底部共に不整な隅丸長方形を呈する。規模は開口部100cm×80cm・底部85cm×65cmで、深さは20cmである。底面はほぼ水平かつ平坦である。壁は底面から外傾して立ち上がる。埋土は暗褐色シルト及び十和田a降下火山灰が混入する黒褐色土で構成され

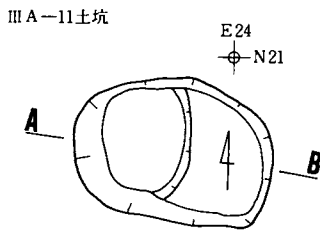
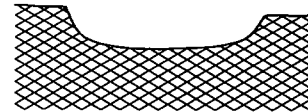


A — L = 83,000m — B

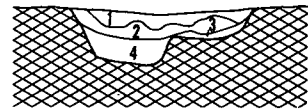


1. 黒褐色 10YR $\frac{2}{5}$ シルト (含黒色シルト)

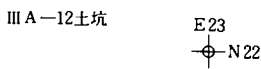
C — L = 83,000m — D



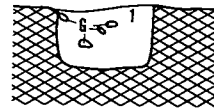
A — L = 83,000m — B



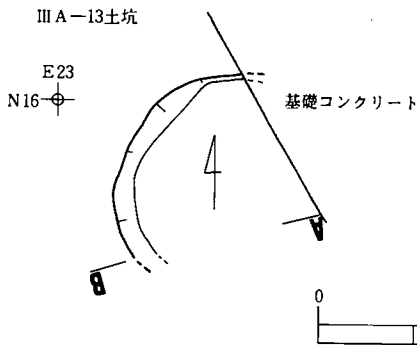
1. 黒褐色 10YR $\frac{2}{5}$ シルト
 2. 暗褐色 10YR $\frac{2}{5}$ 砂質シルト
 3. 黒褐色 10YR $\frac{2}{5}$ シルト
 4. 黒褐色 10YR $\frac{2}{5}$ シルト



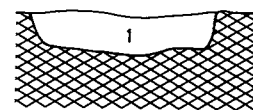
A — L = 83,000m — B



1. 黒褐色 10YR $\frac{2}{5}$ シルト



A — L = 83,100m — B



1. 暗褐色 10YR $\frac{2}{5}$ シルト (含黒褐色シルト、褐色シルト)



図版67：III A-10・11・12・13土坑

る。 出土遺物はない。

ⅢA—16土坑 (図版—68, 写真図版—61)

本土坑は調査区南側の中央北寄りに位置する。本土坑はⅢA—31土坑、ⅡA—101大溝跡及びⅢA—7住居址を切り、ⅢA—23土坑に切られている。

平面形は開口部・底部共に不整な隅丸長方形を呈する。規模は開口部210cm×130cm・底部200cm×116cmで、深さは56cmである。長軸の方向は北西—南東方向を示している。底面はほぼ平坦であるが、南東端から北西端に向かって緩やかに下がる。壁は底面から内弯気味に立ち上がる。埋土は3層に細別され、暗褐色シルト及び十和田a降下火山灰がブロックで混入する黒褐色土で構成される。人為的な埋め戻しの様相を呈する。

遺物は埋土中位から土師器小型甕形土器(528、530)、甕形土器(529)、刀子(531)が出土している。528は口縁部が極端に短く外反する破片で外面へラケズリ調整されている。内外面は黒色帯びている。529は外面へラケズリ調整で一部に粘土が付着している。口縁部が欠損している。底部外面には木葉圧痕をもつ。530は口縁部が極端に短く外反し体部外面がへラケズリ調整のものである。体部中位が欠損している。531は刃と茎が「くの字」状につながる形態のものである。茎の先端が欠損している。刃部は長さ9.5cm、最大幅1.5cm、最大厚0.2cm、茎部は現存長5.7cm、最大厚0.3cmで木質が錆している。

ⅢA—17土坑 (図版—69, 写真図版—61)

本土坑は調査区南側の最北西端部に位置し、東0.2mにⅢA—21土坑が隣接する。検出面は基本層序第Ⅳ層である。

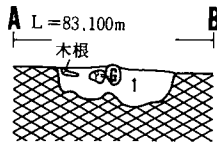
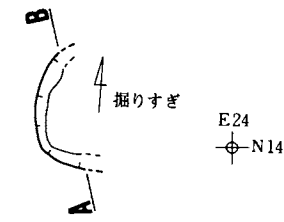
遺構は大半が調査区外に伸びていることから全容は不明であるが、平面形は底部径220cm以上の円形と推定される。深さは検出面から50cmであるが、埋土断面からは70cm程と考えられる。底面はほぼ水平かつ平坦である。壁は底面から外傾して立ち上がる。埋土は11層に細別され、壁際下部は自然堆積と考えられる黒色土で構成され、他は人為的な埋め戻しと考えられる黒褐色土で構成される。ほぼ全体に十和田a降下火山灰がブロック状で混入する。

遺物は埋土から口縁部が極端に短く外反している土師器甕形土器の口縁部片(532、533)が出土している。533には一部粘土が付着している。

ⅢA—18土坑 (図版—69, 写真図版—61)

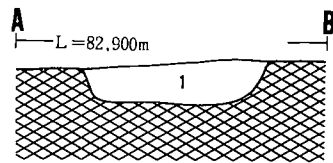
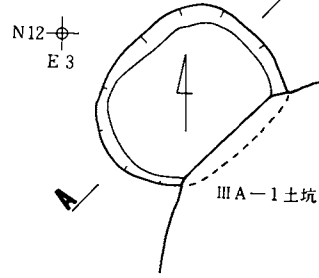
本土坑は調査区中央部の南側に位置し、東0.5mにⅢA—4住居址が隣接している。本土坑はⅢA—3住居址を切り、ⅡA—102大溝跡に切られている。

III A-14土坑



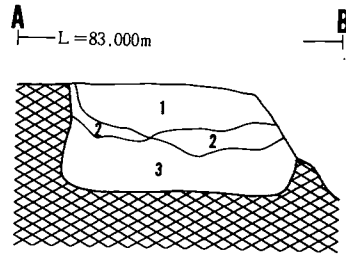
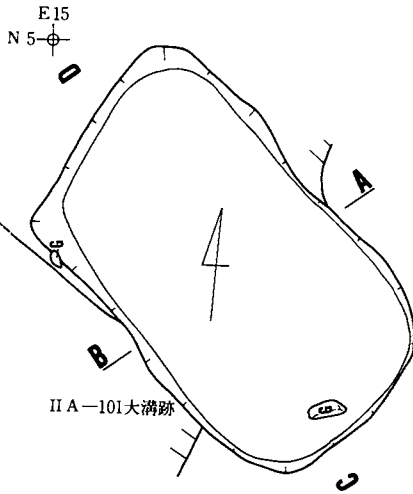
1. 黒褐色 10YR $\frac{7.5}{2}$ シルト (含炭化物)

III A-15土坑

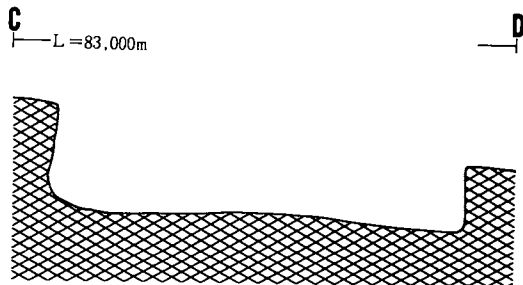
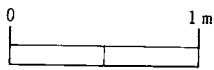


1. 黒褐色 10Y R $\frac{7.5}{2}$ シルト (含炭化物、暗褐色シルト、十和田 α 降下火山灰)

III A-16土坑



1. 黒褐色 10YR $\frac{7.5}{2}$ シルト (含暗褐色シルト、十和田 α 降下火山灰)
2. 黒褐色 10YR $\frac{7.5}{2}$ シルト (含暗褐色シルト、十和田 α 降下火山灰)
3. 黒褐色 10YR $\frac{7.5}{2}$ シルト (含暗褐色シルト、十和田 α 降下火山灰)



図版68： III A-14・15・16土坑

残存部から平面形は開口部・底部共に不整な円形と推定される。残存部の最大幅は開口部145cm・底部120cmで、深さは30cm程である。底面は起伏がみられる。壁は底面から外傾して立ち上がる。埋土は黒色シルト及び暗褐色シルトが混入する黒褐色土で構成される。

出土遺物はない。

ⅢA—19土坑（図版—69，写真図版—62）

本土坑は調査区南側の北東端部に位置し、北東0.6mにⅡA—101大溝跡、南西0.8mにⅢA—20土坑が隣接する。

平面形は開口部・底部共にほぼ楕円形を呈する。規模は開口部130cm×110cm、底部120cm×90cmで、深さは35cmである。長軸の方向は北西—南東方向を示している。底面は若干起伏がみられ、北西端から南東端に向かって緩やかに下がる。壁は底面から内湾して立ち上がる。埋土は6層に細別され、おもに人為的な埋め戻しと考えられるブロック状の褐色シルトが混入する黒褐色土で構成される。

遺物は埋土から土師器甕形土器の体部片（534）と砥石（535）が出土している。535は一端が欠損している。中央部がすばまり4面に使用痕をもつ。その1面には刃を立てて擦り付けた細刻線状の痕跡がある。石質は細砂質凝灰岩である。

ⅢA—20土坑（図版—70，写真図版—62）

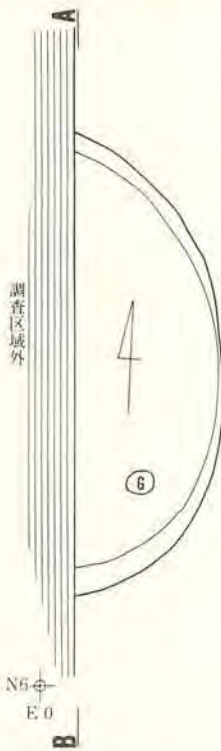
本土坑は調査区南側の北東端部に位置し、北東0.8mにⅢA—19土坑、東0.2にⅢA—15住居址が隣接する。

平面形は開口部径130cm・底部径125cmの円形を呈し、深さは45cmである。底面は中央付近が浅く凹む形状を示す。壁は底面から一部内傾するが、ほぼ外傾して立ち上がる。埋土は4層に細別され、上部は十和田a降下火山灰がブロックで混じる黒色土で構成され、中部～下部は人為的な埋め戻しと考えられる黒褐色土で構成され、十和田a降下火山灰がブロック状で混入する。出土遺物はない。

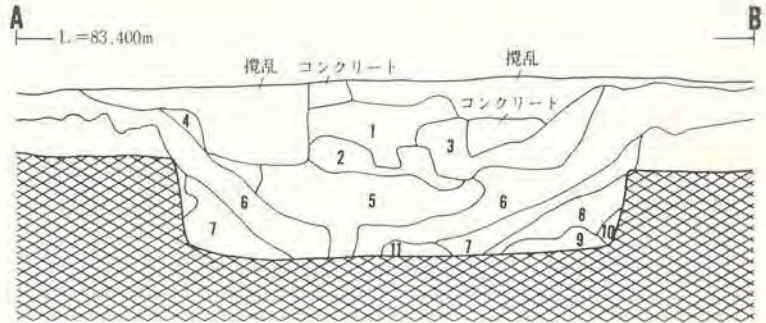
ⅢA—21土坑（図版—70，写真図版—62）

本土坑は調査区南側の北西端部に位置し、西0.2mにⅢA—17土坑、南0.6mにⅡA—101大溝跡が隣接する。

全体の形状は皿状で、平面形は開口部・底部共にほぼ楕円形を呈する。規模は開口部140cm×120cm・底部115cm×98cmで、深さは15cm～25cmである。長軸の方向は北東—南西方向を示している。底面は中央付近に段があり、北西側が5～6cm程高くなる。壁は底面か

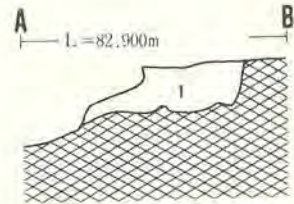


Ⅲ A-17土坑



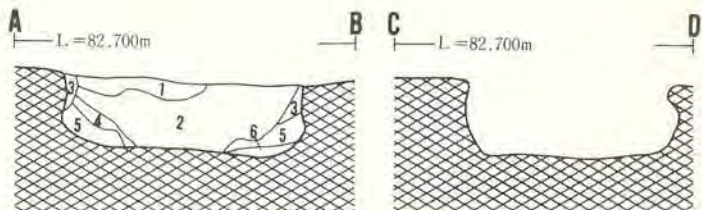
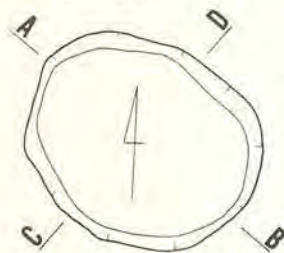
- | | |
|---|--|
| 1. 黒褐色 10YR $\frac{3}{5}$ シルト | 6. 黒褐色 10YR $\frac{3}{5}$ シルト (含十和田a降下火山灰) |
| 2. 黒色 10YR $\frac{3}{5}$ シルト (含十和田a降下火山灰) | 7. 黒色 10YR $\frac{3}{5}$ シルト (含十和田a降下火山灰) |
| 3. 黒褐色 10YR $\frac{3}{5}$ シルト | 8. 黒色 10YR $\frac{3}{5}$ シルトと黒褐色 10YR $\frac{3}{5}$ シルトの混合土 (含十和田a降下火山灰) |
| 4. 黒褐色 7.5YR $\frac{3}{5}$ シルト | 9. 黒褐色 10YR $\frac{3}{5}$ シルト |
| 5. 黒褐色 7.5YR $\frac{3}{5}$ シルト (含十和田a降下火山灰、焼土塊) | 10. 黒褐色 10YR $\frac{3}{5}$ シルト |
| | 焼土粒 11. 黒褐色 7.5YR $\frac{3}{5}$ シルト (含暗褐色シルト) |

Ⅲ A-18土坑



1. 黒褐色 10YR $\frac{3}{5}$ シルト (含暗褐色シルト)

Ⅲ A-19土坑



- | |
|---|
| 1. 黒褐色 10YR $\frac{3}{5}$ シルト (含十和田a降下火山灰、炭化物、焼土塊、暗褐色シルト) |
| 2. 黒褐色 10YR $\frac{3}{5}$ シルト |
| 3. 黒褐色 10YR $\frac{3}{5}$ シルト |
| 4. 黒色 10YR $\frac{3}{5}$ シルト (含褐色シルト) |
| 5. 黒褐色 10YR $\frac{3}{5}$ シルト |
| 6. 暗褐色 10YR $\frac{3}{5}$ シルト (含黒褐色シルト) |

N 2
E 25



図版69：Ⅲ A-17・18・19土坑

ら外傾して立ち上がる。埋土は上部から黒色土及び黒褐色土で構成される。出土遺物はない。

ⅢA—22土坑（図版—70，写真図版—62）

本土坑は調査区中央部の南西端部に位置し、西1.2mにⅢA—1土坑が隣接する。本土坑はⅢA—11住居址を切り、ⅡA—102大溝跡に切られている。

残存部から平面形は開口部径170cm以上、底部径160cm以上の円形と推定され、深さ40cmである。底面は平坦で、壁は底面から外傾して立ち上がる。埋土はおもに人為的な埋め戻しと考えられる黒褐色土で構成され、埋土中部～下部には十和田a降下火山灰がブロック状で混入する。出土遺物はない。

ⅢA—23土坑（図版—71，写真図版—63）

本土坑は調査区南側の中央北寄りに位置する。本土坑はⅡA—101大溝跡、ⅢA—7住居址及びⅢA—16土坑を切っている。

平面形は開口部径150cm～170cm・底部径130cm～140cmの不整円形を呈し、深さは38cmである。底面はほぼ水平かつ平坦である。底面中央付近から径20cm前後、深さ11cm～12cmの柱穴状小土坑が2基検出されているが、これらは本土坑より新しいものである。壁は底面から外傾して立ち上がるが、一部内弯する。埋土は人為的な埋め戻しの様相を呈し、おもに黒色土及び黒褐色土で構成される。埋土上部の一部を除いてほぼ全体に十和田a降下火山灰がブロック状で混入する。出土遺物はない。

ⅢA—24土坑（図版—71，写真図版—63）

本土坑は調査区南側の中央北寄りに位置し、北東1mにⅢA—7住居址が隣接する。本土坑はⅡA—3住居址を切り、ⅡA—101大溝跡に切られている。

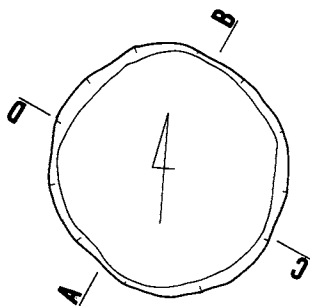
一部掘りすぎや攪乱があるが、平面形は開口部径75cm・底部65cmの円形を呈し、深さは70cmである。底面はほぼ水平かつ平坦である。壁は底面からほぼ直立する。埋土は5層に細別され、おもに黒褐色土及び褐色土で構成される。埋土上部には十和田a降下火山灰がブロック状で混入する。全体に人為的な埋め戻しの様相を呈する。出土遺物はない。

ⅢA—25土坑（図版—71，写真図版—63）

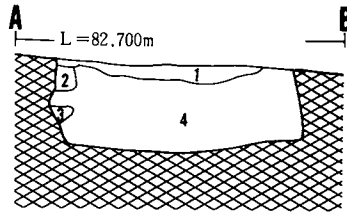
本土坑は調査区中央部の北端に位置し、東にⅢA—2・7住居址が隣接する。本土坑はⅡA—101大溝跡に切られている。ⅢA—12住居址とも重複するが、新旧は不明である。

全体の形状は柱穴状で、平面形は開口部・底部共に不整な円形を呈し、断面形は不整な細長

III A-20土坑



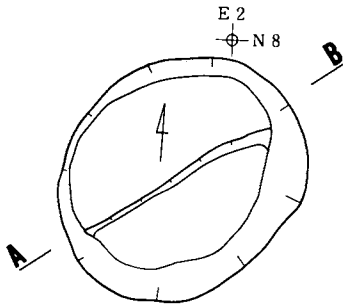
E 24
N 3



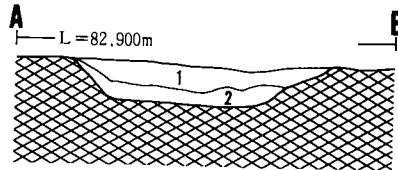
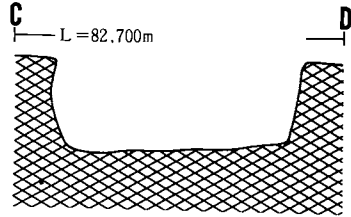
(A-B)

1. 黒色 10YR 矽 シルト (含炭化物、十和田a降下火山灰)
2. 黒褐色 10YR 矽 シルト
3. 褐色 10YR 矽 砂質シルト
4. 黒褐色 10YR 矽 シルト (含炭化物、十和田a降下火山灰、暗褐色シルト)

III A-21土坑

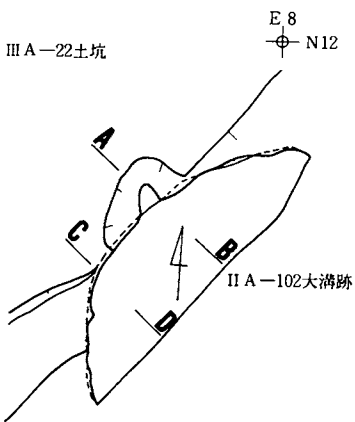


E 2
N 8

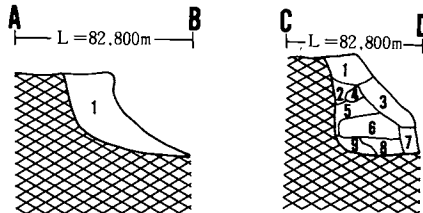


1. 黒色 10YR 矽 シルト (含黒褐色シルト)
2. 黒褐色 10YR 矽 シルト

III A-22土坑



E 8
N 12

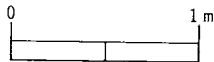


(A-B)

1. 黒褐色 10YR 矽 シルト (含暗褐色シルト、黒色シルト)

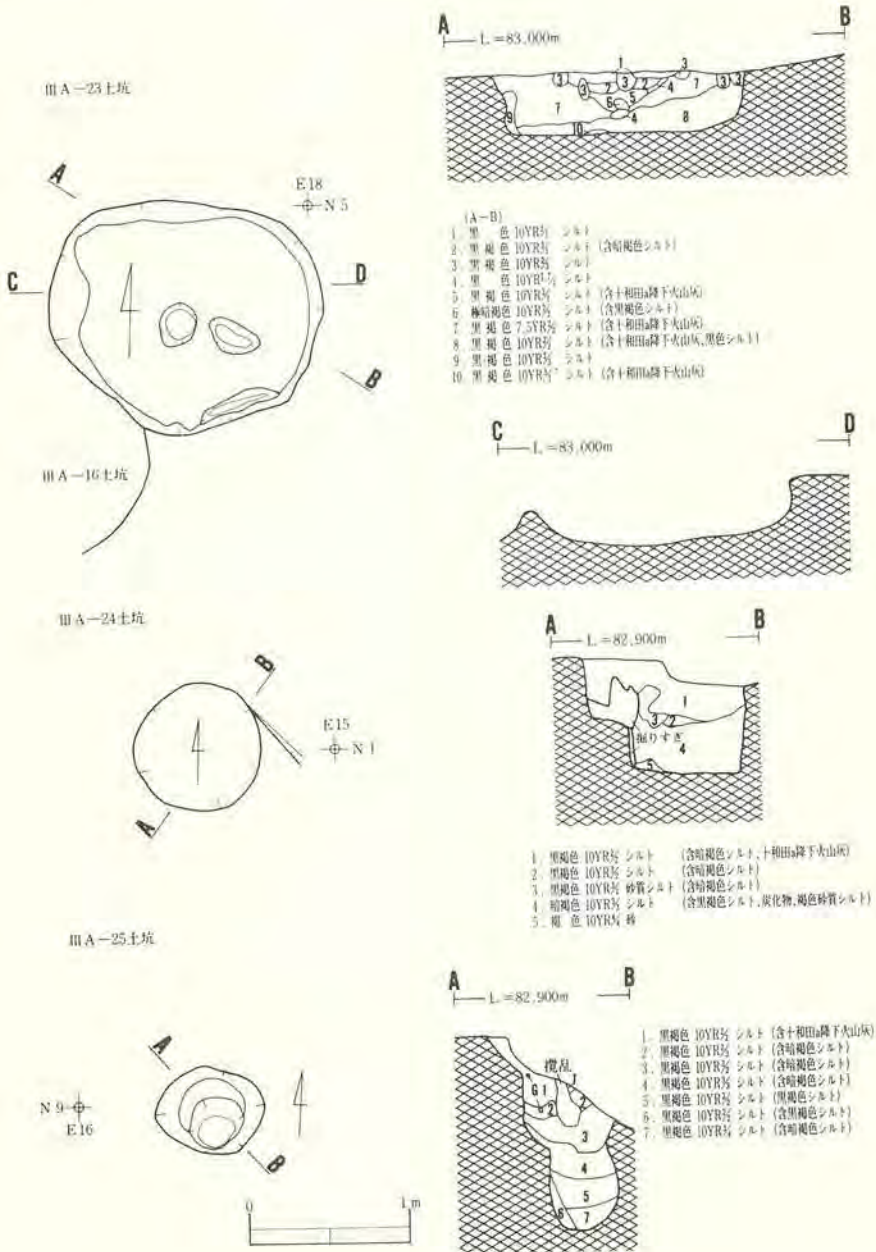
(C-D)

1. 黒褐色 10YR 矽 シルト (含暗褐色シルト)
2. 黒褐色 10YR 矽 シルト
3. 黒褐色 10YR 矽 シルト (含黒褐色シルト、十和田a降下火山灰)
4. 黒褐色 10YR 矽 シルト
5. 黒褐色 10YR 矽 シルト (含暗褐色シルト)
6. 黒褐色 10YR 矽 シルト (含十和田a降下火山灰)
7. 黒褐色 10YR 矽 シルト (含十和田a降下火山灰)
8. 黒褐色 10YR 矽 シルト
9. 黒褐色 10YR 矽 シルト (含暗褐色シルト)



図版70： III A-20・21・22土坑

いU字状である。規模は開口部径60cm・底部径20cmで、深さは最大120cmである。埋土は7層に細別され、おもに暗褐色シルトが混入する黒褐色土で構成される。埋土上部には十和田a降下火山灰が混入する。出土遺物はない。



図版71：ⅢA-23・24・25土坑

ⅢA—27土坑 (図版—72, 写真図版—64)

本土坑は調査区南側の北東端部に位置し、北0.4mにⅡA—101大溝跡が隣接する。本土坑はⅢA—9住居址及びⅢA—33土坑を切っている。

全体の形状はフラスコ状で、平面形は開口部・底部ともにほぼ楕円形を呈する。規模は開口部150×130cm・底部135cm×115cmで、深さは80cm～92cmである。底面は若干起伏がみられる。壁は底面から内弯して立ち上がり、中位付近から外傾する。埋土は上部～中部が十和田a降下火山灰小ブロックが混入する黒褐色土、下部が褐色土で構成される。全体に人為的な埋め戻しの様相を呈する。出土遺物はない。

ⅢA—28土坑 (図版—72, 写真図版—64)

本土坑は調査区南側の北東端部に位置し、南西0.6mにⅢA—19土坑が隣接する。本土坑はⅡA—101大溝跡を切っている。

全体の形状はフラスコ状で、平面形は開口部・底部共に不整な楕円形を呈する。規模は開口部140cm×120cm・底部110cm×100cmで、深さは85cm～90cmである。底面は起伏がみられ、南東壁際が浅く凹む。壁は底面から内弯気味に立ち上がり、開口部付近で外反する。埋土は暗褐色シルトがブロックで混入する黒褐色土で構成され、人為的な埋め戻しの様相を呈す。

遺物は埋土から円盤状の石製品(537)が出土している。石質は凝灰質砂岩である。用途は不明である。両面とも割れて大部分が原形をとどめていない。

(ⅢA—29欠番)

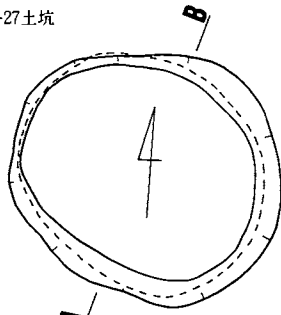
ⅢA—30土坑 (図版—72, 写真図版—64)

本土坑は調査区南側の中央北東寄りに位置し、西1mにⅢA—7住居址及びⅢA—32土坑が隣接する。検出面は基本層序第Ⅲ層である。本土坑はⅢA—15住居址を切っている。

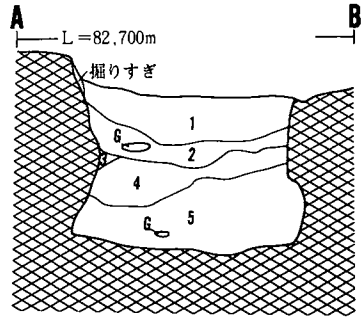
平面形は開口部一辺160cm・底部一辺150cmの隅丸方形を呈し、深さは最大70cmである。底面は若干起伏がみられ、南西端から北東端に向かって緩やかに上がる。北側の壁隅部から径9cm・深さ10cmの小穴が1基、西側の壁隅部から径5cm～8cm・深さ3cm～6cmの小穴が3個検出されている。杭跡とも考えられるが、南及び東側からは検出されておらず、詳細は不明である。壁は底面から内傾気味に立ち上がる。埋土は11層に細別され、上部がおもに暗褐色シルトがブロックで混入する黒褐色土、下部は褐色シルトがブロックで混入する暗褐色土で構成される。全体に人為的な埋め戻しの様相を呈する。

遺物は底面直上から青銅製(鑑定・分析—秋田大学—松枝大治助教授)の薄い板状のものが

Ⅲ A-27土坑

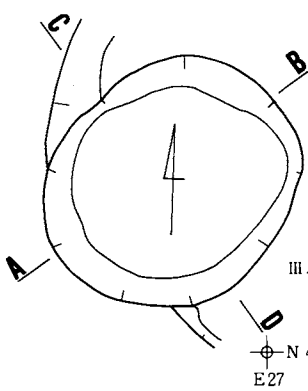


E 23
N 7



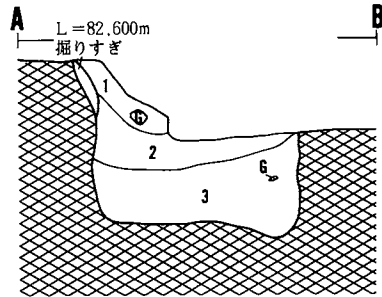
1. 黒褐色 10YR $\frac{5}{2}$ シルト (含十和田a降下火山灰、燻土粒)
2. 黒褐色 7.5YR $\frac{5}{2}$ シルト (含十和田a降下火山灰、燻土粒)
3. 褐色 10YR $\frac{5}{2}$ 粘土質シルト
4. 黒褐色 10YR $\frac{5}{2}$ 砂質シルト (含十和田a降下火山灰、暗褐色シルト)
5. 褐色 10YR $\frac{5}{2}$ 砂 (含黒褐色シルト、褐色粘土質シルト)

Ⅲ A-28土坑

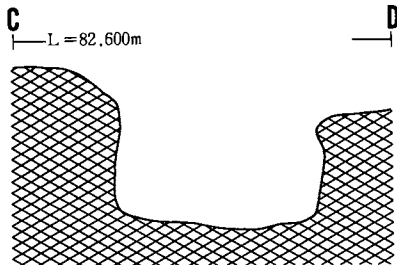


Ⅲ A-9 (住)

N 4
E 27



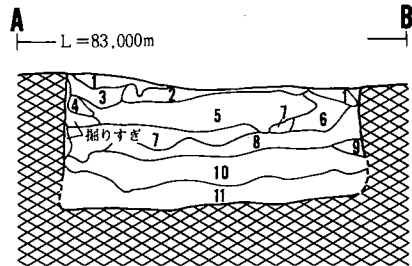
- (A-B)
1. 黒褐色 10YR $\frac{5}{2}$ シルト
 2. 黒褐色 10YR $\frac{5}{2}$ シルト (含暗褐色シルト、炭化物)
 3. 黒褐色 10YR $\frac{5}{2}$ 砂質シルト (含暗褐色シルト、炭化物)



Ⅲ A-30土坑



E 21
N 4



1. 黒褐色 10YR $\frac{5}{2}$ シルト (含炭化物)
2. 黒褐色 10YR $\frac{5}{2}$ シルト (含暗褐色シルト)
3. 黒褐色 7.5YR $\frac{5}{2}$ シルト (含炭化物、暗褐色シルト)
4. 黒褐色 7.5YR $\frac{5}{2}$ シルト (含暗褐色シルト)
5. 黒褐色 10YR $\frac{5}{2}$ シルト (含黒色シルト)
6. 黒褐色 10YR $\frac{5}{2}$ シルト (含暗褐色シルト)
7. 暗褐色 7.5YR $\frac{5}{2}$ シルト (含炭化物)
8. 黒褐色 10YR $\frac{5}{2}$ シルト
9. 黒褐色 7.5YR $\frac{5}{2}$ シルト
10. 黒褐色 10YR $\frac{5}{2}$ シルト (含黒色シルト)
11. 暗褐色 10YR $\frac{5}{2}$ シルト (含褐色シルト)

図版72：Ⅲ A-27・28・30土坑

検出されている。

ⅢA—31土坑 (図版—73, 写真図版—65)

本土坑は調査区南側の中央部北寄りに位置し、東にⅢA—32土坑が隣接する。本土坑はⅢA—7住居址及びⅢA—16土坑に切られている。

残存部から平面形は開口部径70cm 前後、底部径60cm 前後の円形と推定され、深さは20cm 程度である。底面はほぼ平坦で、壁は底面から外傾して立ち上がる。埋土は十和田a 降下火山灰のブロックと暗褐色シルトのブロックが混入する黒褐色土で構成される。出土遺物はない。

ⅢA—32土坑 (図版—73, 写真図版—65)

本土坑は調査区南側の中央部北寄りに位置し、西にⅢA—31土坑が隣接する。本土坑はⅢA—7住居址及びⅢA—23土坑に切られている。

残存部から平面形は開口部・底部共に隅丸長方形と推定される。規模は開口部長辺115cm・底部100cm×70cm で、深さは40cm である。長軸の方向は北東—南西方向を示している。底面はほぼ平坦である。壁は底面から外傾して立ち上がる。埋土はおもに人為的な埋め戻しと考えられる十和田a 降下火山灰のブロックと暗褐色シルトのブロックが混入する黒褐色出土で構成される。出土遺物はない。

ⅢA—33土坑 (図版—73, 写真図版—65)

本土坑は調査区南側の北東端部に位置する。本土坑はⅢA—27土坑に切られている。またⅢA—9住居址及びⅢA—15住居址と重複関係にあるが、その新旧は不明である。

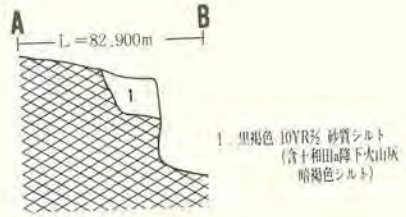
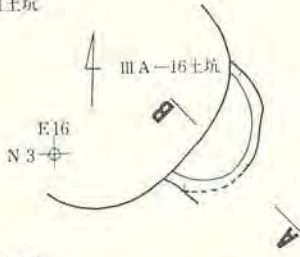
残存部の形状は不整形で、最大幅は開口部80cm・底部60cm で、深さは20cm である。底面はほぼ平坦である。壁は底面から外傾して立ち上がる。埋土は十和田a 降下火山灰がブロックで混入する黒褐色土で構成される。出土遺物はない。

ⅢA—34土坑 (図版—73, 写真図版—66)

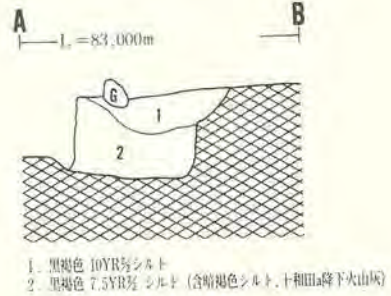
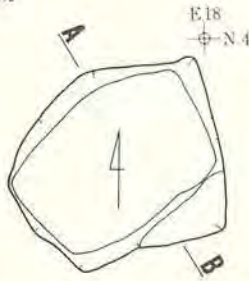
本土坑は調査区中央部の南東側に位置し、東0.4mにⅢA—14土坑が隣接する。本土坑はⅡA—102大溝跡及びⅢA—6住居址によって切られている。

残存部から平面形は開口部径150cm 前後・底部径140cm 前後の円形と推定され、深さは40cm である。底面はほぼ水平かつ平坦である。壁は底面からやや外傾して立ち上がる。埋土はおもに黒褐色土及び黒色土で構成され、中央下部付近には十和田a 降下火山灰がブロックで混

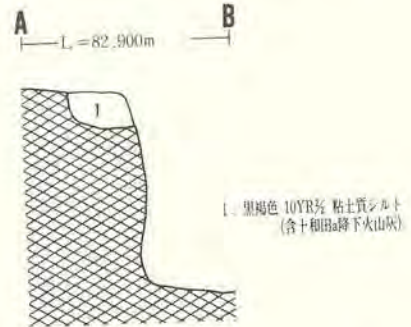
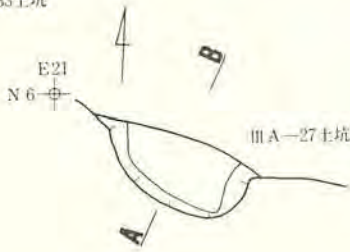
Ⅲ A-31土坑



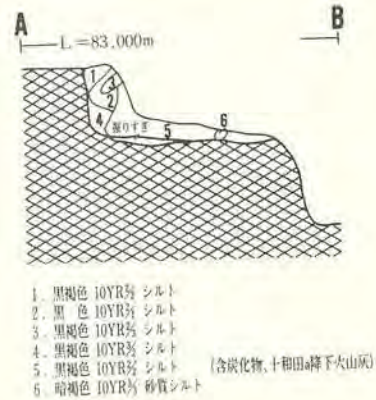
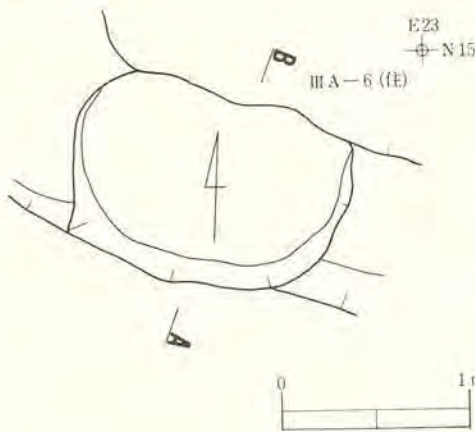
Ⅲ A-32土坑



Ⅲ A-33土坑



Ⅲ A-34土坑



図版73：Ⅲ A-31・32・33・34土坑

入する。全体に人為的な埋め戻しの様相を呈する。 出土遺物はない。

ⅢA—35土坑 (図版—74, 写真図版—66)

本土坑は調査区中央部の中央南西寄りに位置し、北0.4mにⅢA—40土坑が隣接する。検出面は基本層序第Ⅲ層である。本土坑はⅢA—101大溝跡に切られている。

残存部から平面形は開口部径160cm、底部径120cmの円形と推定され、深さは75cmである。底面はほぼ水平かつ平坦である。底面から径4cm～10cm・深さ3cm～12cm程の小穴が多数検出されているが、その機能等は不明である。壁は底面から外傾して立ち上がる。埋土は11層に細別され、埋土上部からおもに黒褐色土、黒色土で構成される。埋土上部～中部に十和田a 降下火山灰がブロック状で混入し、埋土最下部にも若干含まれる。 出土遺物はない。

ⅢA—36土坑 (図版—74, 写真図版—66)

本土坑は調査区中央部のほぼ中央に位置し、南0.8mにⅢA—38土坑が隣接する。本土坑はⅢA—19住居址を切り、ⅣA—101大溝跡に切られている。

残存部から平面形は開口部・底部共に不整な楕円形と推定される。規模は長軸方向が不明で短軸は開口部170cm・底部140cmで、深さは55cmである。長軸の方向は北北東—南南東方向を示している。底面はほぼ水平かつ平坦である。壁は底面から外傾して立ち上がる。埋土は4層に細別され、上部は人為的な埋め戻しと考えられる黒褐色土、下部は十和田a 降下火山灰が粒状で混入する黒褐色土で構成される。

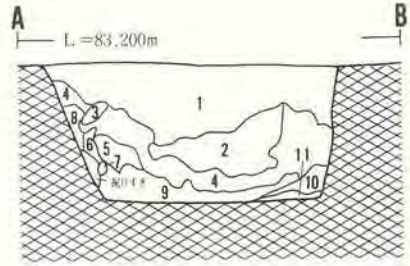
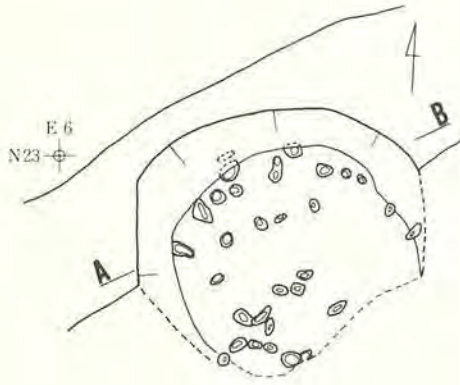
遺物は埋土から土師器環形土器の口縁部片(539)、甕形土器の口縁部片(540、541)が出土している。539はロクロ使用で内外面ヘラミガキ調整されている。内面のミガキは放射状に行われている。内外面黒色処理されていたものが二次的火熱により黒色が焼失したものである。540、541は口縁部が極端に短く外反し外面ヘラケズリ調整されているものである。540の外面には輪積み痕がみられる。

ⅢA—37土坑 (図版—75, 写真図版—67)

本土坑は調査区中央部の西端に位置し、東1mにⅢA—35土坑が隣接する。検出面は基本層序第Ⅲ層である。

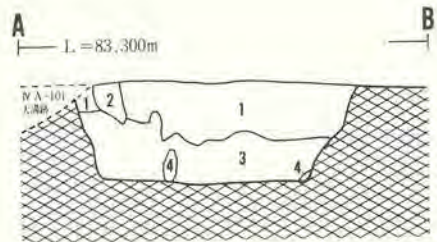
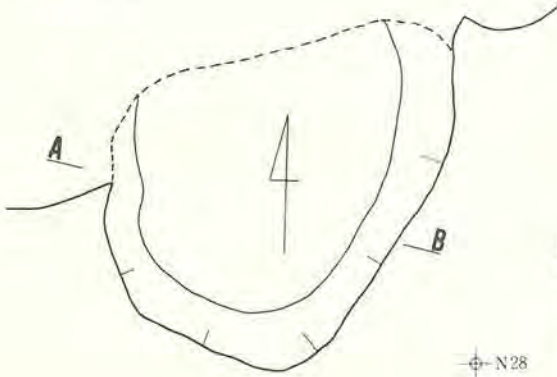
本土坑は大部分が調査区外にのびていることから、全容は不明であるが、残存部から平面形は隅丸方形と推定され、深さは60cmである。埋土は人為的な埋め戻しの様相を呈し、おもに十和田a 降下火山灰が粒状、小ブロック状で混入する黒褐色土で構成される。 出土遺物はない。

Ⅲ A—35土坑



1. 黒褐色 10YR₅ シルト (含十和田a降下火山灰)
2. 黒褐色 10YR₅ シルト (含十和田a降下火山灰)
3. 極暗褐色 7.5YR₅ シルト
4. 黒色 10YR₅ 粗いシルト (含十和田a降下火山灰)
5. 黒褐色 7.5YR₅ シルト (含十和田a降下火山灰)
6. 黒褐色 10YR₅ シルト
7. 暗褐色 10YR₅ シルト
8. 黒褐色 7.5YR₅ 砂質シルト
9. 黒色 7.5YR₅ シルト
10. 黒褐色 10YR₅ 砂質
11. 黒褐色 10YR₅ 砂質シルト (含十和田a降下火山灰)

Ⅲ A—36土坑



1. 黒褐色 10YR₅ シルト (含炭化物)
2. 黒褐色 7.5YR₅ シルト
3. 黒褐色 10YR₅ シルト (含十和田a降下火山灰)
4. 暗褐色 10YR₅ シルト



図版74：Ⅲ A—35・36土坑

ⅢA—38土坑 (図版—75, 写真図版—67)

本土坑は調査区のほぼ中央に位置し、南西にⅢA—39土坑、北0.5mにⅢA—36土坑が隣接する。検出面は基本層序第Ⅳ層である。

平面形は開口部径160cm・底部径140cmの円形を呈し、深さは28cmである。底面はほぼ水平かつ平坦である。壁は底面から外傾して立ち上がる。埋土は十和田a降下火山灰がブロック状で混入する黒褐色土で構成される。出土遺物はない。

ⅢA—39土坑 (図版—75, 写真図版—67)

本土坑は調査区のほぼ中央に位置し、北東にⅢA—38土坑が隣接する。本土坑はⅢA—101大溝跡に南壁の一部が切られている。

平面形は開口部径210cm・底部径190cmの円形を呈し、深さは60cmである。底面は若干起伏がみられる。底面壁際から径4cm～12cm・深さ2cm～13cmの程の小穴が12個検出されている。壁は東壁側が内傾するが、他は底面から外傾して立ち上がる。埋土は二度にわたる人為的な埋め戻しを受けた様相を呈し、上部はおもに十和田a降下火山灰がブロック状で混入する黒褐色土と黒色土、下部は黒褐色の砂質土で構成される。出土遺物はない。

ⅢA—40土坑 (図版—76, 写真図版—68)

本土坑は調査区中央部の西側に位置し、南0.4mにⅢA—35土坑、西1mにⅢA—37土坑が隣接する。検出面は基本層序第Ⅳ層である。

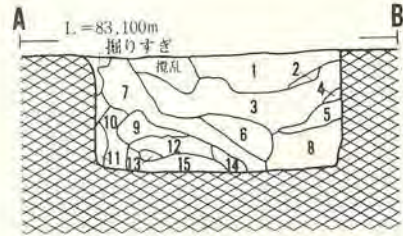
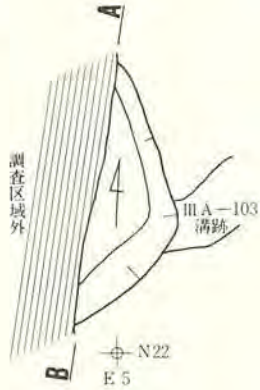
平面形は開口部・底部共にほぼ楕円形を呈する。規模は開口部110cm×90cm・底部88cm×66cmで、深さは35cmである。底面はほぼ水平かつ平坦である。壁は底面から外反気味に立ち上がる。埋土は十和田a降下火山灰が粒状で混入する黒褐色土で構成される。出土遺物はない。

ⅢA—41土坑 (図版—76, 写真図版—68)

本土坑は調査区中央部の東端に位置し、北1mにⅣA—101大溝跡、南1mにⅢA—101大溝跡がある。検出面は基本層序第Ⅳ層である。

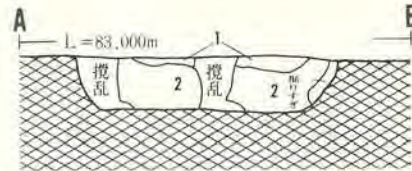
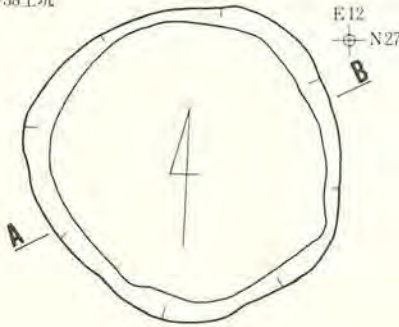
平面形は開口部一辺160cm・底部一辺140cmの隅丸方形を呈し、深さは35cmである。底面はほぼ水平かつ平坦である。底面壁際各隅部から径5cm～10cm・深さ2cm～14cm程の小穴が3～5個ずつ検出されている。配列状況等から杭跡とも考えられるが詳細は不明である。埋土はおもに黒褐色土及び暗褐色土で構成され、埋土中部には十和田a降下火山灰がブロック

Ⅲ A—37土坑



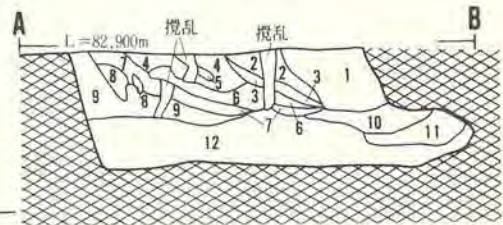
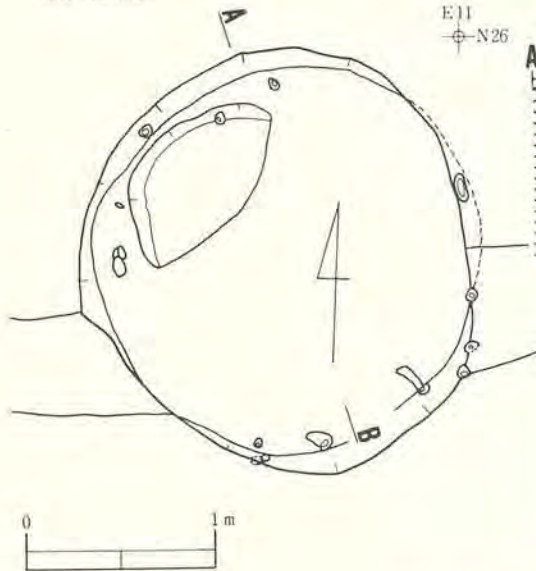
1. 黒褐色 10YR_{5/2} 砂質シルト (含十和田降下火山灰)
2. 黒色 10YR_{5/1} シルト (含十和田降下火山灰)
3. 黒褐色 7.5YR_{5/2} 砂質シルト (含十和田降下火山灰)
4. 暗褐色 10YR_{5/3} 砂質シルト (含十和田降下火山灰)
5. 黒褐色 7.5YR_{5/2} 砂質シルト (含十和田降下火山灰)
6. 黒褐色 10YR_{5/2} 砂質シルト (含十和田降下火山灰)
7. 黒褐色 7.5YR_{5/2} 砂質シルト (含十和田降下火山灰)
8. 黒褐色 10YR_{5/2} 砂質シルト (含十和田降下火山灰)
9. 暗褐色 7.5YR_{5/2} 砂質シルト
10. 黒褐色 7.5YR_{5/2} シルト (含十和田降下火山灰)
11. 黒褐色 7.5YR_{5/2} 砂質シルト
12. 黒褐色 7.5YR_{5/2} シルト
13. 黒色 10YR_{5/1} 砂質シルト
14. 暗褐色 10YR_{5/3} シルト
15. 黒褐色 10YR_{5/2} シルト

Ⅲ A—38土坑



1. 黒褐色 10YR_{5/2} 砂質シルト (含十和田降下火山灰、黄土粒)
2. 黒褐色 10YR_{5/2} 砂質シルト (含十和田降下火山灰、炭化物)

Ⅲ A—39土坑



1. 黒褐色 10YR_{5/2} 砂質シルト (含十和田降下火山灰)
2. 黒褐色 10YR_{5/2} 砂質シルト (含十和田降下火山灰)
3. 黒色 10YR_{5/1} シルト (含十和田降下火山灰)
4. 黒褐色 7.5YR_{5/2} シルト (含十和田降下火山灰、暗褐色砂質シルト)
5. 暗褐色 10YR_{5/3} シルト
6. 黒褐色 10YR_{5/2} 粘土質シルト (含十和田降下火山灰)
7. 黒褐色 10YR_{5/2} 砂質シルト (含暗褐色砂質シルト)
8. 黒褐色 10YR_{5/2} 砂質シルト
9. 黒褐色 7.5YR_{5/2} 砂質シルト (含十和田降下火山灰、暗褐色シルト)
10. 黒褐色 10YR_{5/2} 砂質シルト (含十和田降下火山灰、暗褐色シルト)
11. 黒色 7.5YR_{5/2} 砂質シルト (含十和田降下火山灰)
12. 黒褐色 10YR_{5/2} 砂質シルト (含暗褐色砂質シルト)

図版75：Ⅲ A—37・38・39土坑

状で混入する。人為的な埋め戻しの様相を呈する。 出土遺物はない。

IVA—1 土坑 (図版—76, 写真図版—68)

本土坑は調査区中央部の中央北東寄りに位置する。本土坑はⅢA—19住居址及びIVA—101大溝跡を切っている。

平面形は開口部166cm×86cm・底部150cm×60cmの細長い楕円形を呈し、深さは最大17cmである。長軸の方向は北北西—南南東方向を示している。底面はほぼ水平かつ平坦である。壁は底面から外傾して立ち上がる。埋土は黒褐色シルトの単層である。 出土遺物はない。

IVA—2 土坑 (図版—76, 写真図版—69)

本土坑は調査区中央部の北北西端に位置し、南西0.2mにIVA—8住居址、東1.2mにIVA—6住居址が隣接する。本土坑はIVA—21住居址及びIVA—17土坑を切っている。

全体の形状は皿状で、平面形は開口部径160cm、底部径140cmの円形を呈し、深さは16cmである。底面はほぼ水平かつ平坦である。埋土は十和田b降下火山灰が混入する黒褐色土で構成される。

遺物は埋土から土師器小型壺形土器の口縁部片(543)で内外面をヘラミガキ調整後、両面黒色処理が施されている。

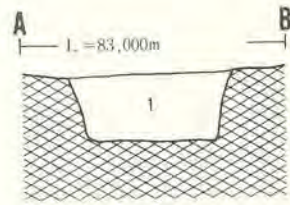
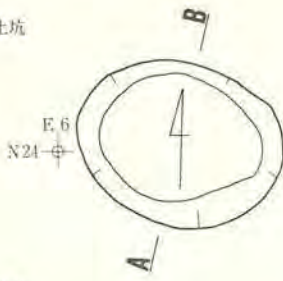
IVA—3 土坑 (図版—77, 写真図版—69)

本土坑は調査区中央部の中央南東寄りに位置し、北東0.5mにIVA—4・49土坑が隣接する。検出面は基本層序第Ⅲ層である。

平面形は開口部118cm×110cm・底部80cm×70cmの不整な長方形を呈し、深さは42cmである。長軸の方向は北東—南西方向を示している。底面は中央付近が下がる舟底状を呈する。埋土は4層に細別されるが、上部はおもににぶい褐色土及び黒褐色土、中部～下部は十和田a降下火山灰が若干混入する極暗褐色土で構成される。

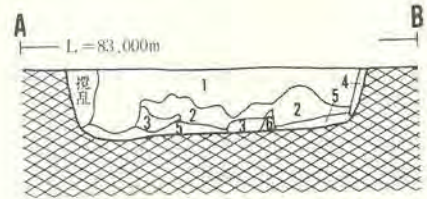
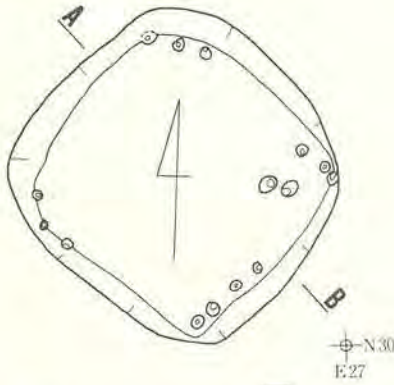
遺物は埋土から土師器坏形土器の体部片(543)と土製の紡錘車(544)が出土している。543は体部に段をもち内面ヘラミガキ後黒色処理されているものである。544は半分欠損しているもので、上面径4.1cm、下面径4.8cm、厚さ1.9cm、内孔径0.7cm、重さ21gである。完形の場合は重さ40g程度であったと推定される。全体をヘラミガキで調整されている。

ⅢA-40土坑



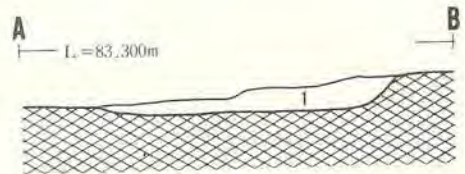
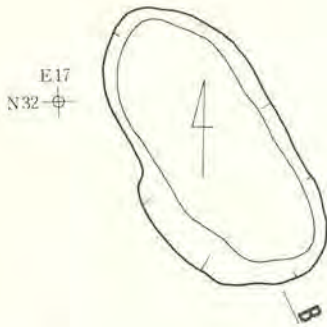
1. 黒褐色 10YR 矽 シルト (含土和田a降下火山灰、暗褐色シルト)

ⅢA-41土坑



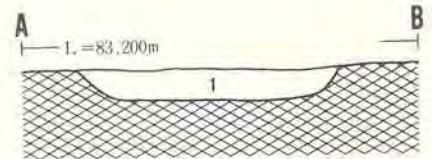
1. 黒褐色 10YR 矽 シルト (含暗褐色シルト)
2. 黒褐色 7.5YR 矽 シルト (含土和田a降下火山灰)
3. 暗褐色 7.5YR 矽 シルト (含暗褐色シルト)
4. 黒色 10YR 矽 シルト
5. 暗褐色 10YR 矽 粘土質シルト
6. 褐色 10YR 矽 砂質シルト

ⅣA-1土坑

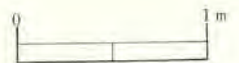


1. 黒褐色 10YR 矽 シルト

ⅣA-2土坑



1. 黒褐色 10YR 矽 砂質シルト (含炭化物)



図版76：ⅢA-40・41 ⅣA-1・2土坑

IV A—4 土坑 (図版—77, 写真図版—69)

本土坑は調査区北側の中央南東寄りに位置し、北西0.5mにIV A—10土坑、北東0.5mにIV A—5土坑、南西0.5mにIV A—3 住居址が隣接する。本土坑はIV A—49土坑を切っている。

平面形は開口部径100cm 前後・底部径80cm 前後の不整な円形を呈し、深さは最大27cmである。底面は壁際が³や上がり、壁は底面から丸味をもって立ち上がる。埋土は3層に細別され、おもに十和田 a 降下火山灰が粒状及びブロック状で混入する極暗褐色土及び黒褐色土で構成される。

遺物は底面直上から土師器甕形土器口縁部片 (546)、埋土から土師器坏形土器の底部片 (545)、甕形土器 (216、325) が出土している。546は口縁部が極端に短く外面に輪積み痕がみられる。外面調整はナデである。525はIV A—101大溝跡埋土出土のものと接合している。丸底で内面ヘラミガキ後、黒色処理されている。216はIV A—8 住居址カマド、325はIV A—17住居址カマド出土のものと接合している。実測図は住居址出土遺物の図版に載せている。

IV A—5 土坑 (図版—77, 写真図版—70)

本土坑は調査区北側の中央南東寄りに位置し、西0.5mにIV A—10土坑、南にIV A—49土坑が隣接する。検出面は基本層序第Ⅲ層である。

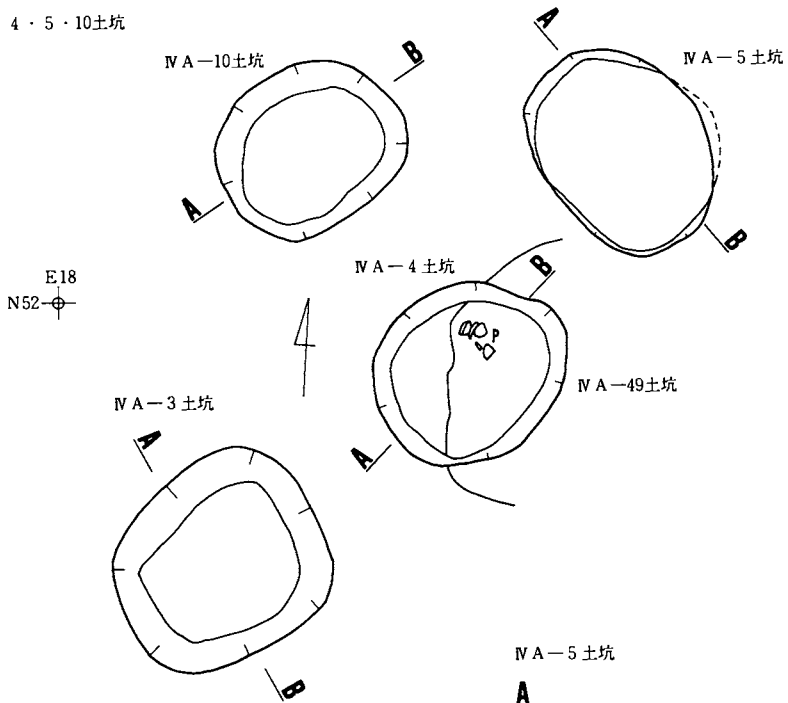
平面形は開口部115cm×90cm、底部105cm×86cmの楕円形を呈し、深さは50cmである。長軸の方向は北西—南東方向を示している。底面はほぼ水平かつ平坦である。壁は北東側の壁の一部が内傾するが、他は底面からほぼ直立する。埋土は黒褐色土の2層で構成され、上部層には十和田 a 降下火山灰がブロック状で混入する。出土遺物はない。

IV A—6 土坑 (図版—78, 写真図版—70)

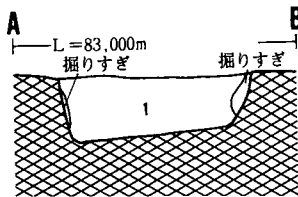
本土坑は調査区中央部の西端に位置し、南東にIV A—7 住居址、南西にIV A—12土坑が隣接する。本土坑はIV A—9 住居址を切り、IV A—11土坑に切られている。

平面形は開口部一辺200cm・底部一辺180cmの隅丸方形を呈し、深さは70cmである。底面はほぼ水平かつ平坦である。南東側を除く底面壁際から径5cm~12cm・深さ1cm~10cm程の小穴が検出されており、壁中部に穿たれるものもある。杭跡とも考えられるが、詳細は不明である。壁は底面から外傾して立ち上がる。埋土はおもに十和田 a 降下火山灰がブロック状で混入する黒褐色土で構成される。出土遺物はない。

IV A-3・4・5・10土坑

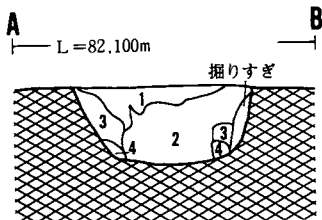


IV A-10土坑



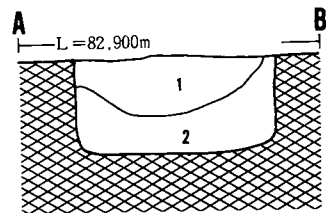
1. 暗褐色 10YR% シルト

IV A-3土坑



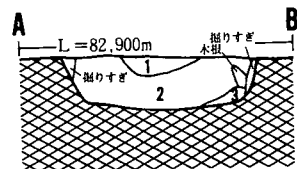
1. にぶい褐色 10YR% シルト
2. 極暗褐色 7.5YR% シルト (含十和田a降下火山灰、暗褐色シルト)
3. 黒褐色 10YR% シルト (含暗褐色シルト)
4. 黒褐色 7.5YR% 砂質シルト

IV A-5土坑



1. 黒褐色 10YR% シルト (含十和田a降下火山灰)
2. 黒褐色 7.5YR% シルト (含暗褐色シルト)

IV A-4土坑



1. 極暗褐色 7.5YR% 砂質シルト (含十和田a降下火山灰)
2. 黒褐色 10YR% シルト (含十和田a降下火山灰、暗褐色シルト)
3. 黒色 10YR% 砂質シルト



図版77：IV A-3・4・5・10土坑

IV A—7 土坑 (図版—78, 写真図版—70)

本土坑は調査区北側の南寄りに位置し、南東1.4mにIV A—6住居址、南西0.8mにIV A—21住居址が隣接する。本土坑はIV A—11住居址及びIV A—42土坑を切っている。

平面形は開口部一辺155cm・底部一辺140cm程の隅丸方形を呈し、深さは40cmである。底面はほぼ水平かつ平坦である。壁は底面から外傾して立ち上がる。埋土はおもに十和田a降下火山灰が粒状及びブロック状で混入する黒褐色土で構成され、全体に人為的な埋め戻しの様相を呈する。

遺物は埋土から外面ヘラケズリ調整で口縁部が外反する土師器甕形土器の口縁部片が出土している。

IV A—8 土坑 (図版—78, 写真図版—71)

本土坑は調査区北側の中央南寄りに位置し、西にIV A—19・20土坑が隣接する。

平面形は開口部径115cm・底部径110cmのほぼ円形を呈し、深さは26cmである。底面は一部攪乱されているが、ほぼ平坦で、南東壁際が若干上がる。壁は底面から外傾して立ち上がる。

埋土は黒褐色土と暗褐色土との混土で、人為的な埋め戻しの様相を呈する。

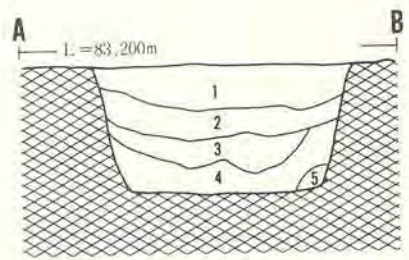
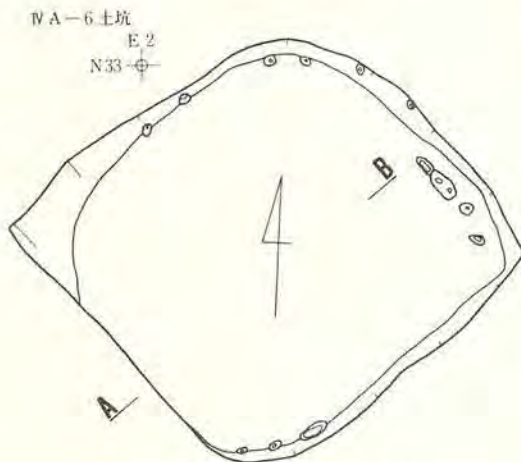
遺物は埋土から土製の紡錘車(548)が出土している。III A—5 f Q₃ III層出土のものと接合している。一部欠損しているが、断面は側面がややすぼまる台形をなしている。上面、側面はヘラケズリ、ナデ後ヘラミガキ、下面はナデで調整されている。上面径4.2cm、下面径5.1cm、厚さ2cm、内孔径0.8~1.0cm、重さ40gである。

IV A—9 土坑 (図版—79, 写真図版—71)

本土坑は調査区北側の南西部に位置する。本土坑はIV A—10・12住居址を切っている。三者の新旧関係は古い順にIV A—10住居址→IV A—12住居址→IV A—9土坑となる。

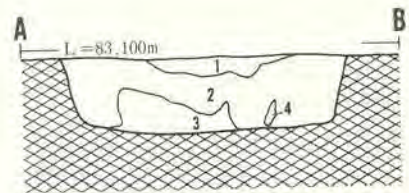
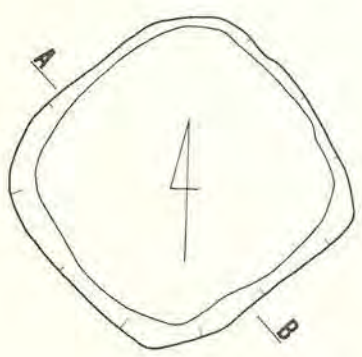
平面形は開口部・底部ともに隅丸長方形を呈する。規模は開口部210cm×190cm・底部190cm×165cmで、深さは50cmである。底面はほぼ平坦であるが、南東壁側が若干低くなる。壁は底面から外傾して立ち上がる。埋土は上部が中振浮石の混入する黒褐色土、下部は十和田a降下火山灰が混入する黒色土と黒褐色土で構成される。下部の一部を除いて人為的な埋め戻しの様相を呈する。

遺物は埋土から土師器坏形土器(235、282、549~551)、甕形土器(288、552、553)が出土している。235はIV A—10住居址床面、282はIV A—5・14住居址床面、288はIV A—14住居



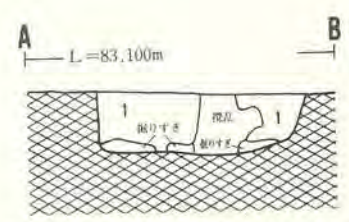
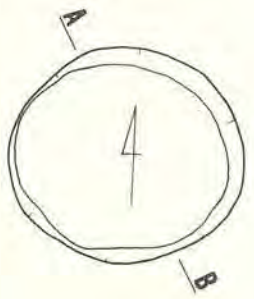
1. 黒褐色 10YR 弱シルト (含十和田降下火山灰)
2. 黒褐色 10YR 弱シルト (含十和田降下火山灰, 暗褐色シルト)
3. 黒褐色 10YR 弱シルト (含十和田降下火山灰, 暗褐色シルト)
4. 黒褐色 7.5YR 弱砂質シルト (含十和田降下火山灰, 暗褐色シルト)
5. 黒色 10YR 弱砂質シルト (含十和田降下火山灰)

IV A-7 土坑
E 11
N 44

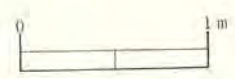


1. 極暗褐色 7.5YR 弱シルト (含十和田降下火山灰, 暗褐色シルト)
2. 黒褐色 10YR 弱砂質シルト (含十和田降下火山灰)
3. 黒褐色 10YR 弱シルト
4. 黒褐色 10YR 弱シルト

IV A-8 土坑
E 17
N 48



1. 黒褐色 10YR 弱 暗褐色 10YR 弱シルト



図版78: IV A-6・7・8 土坑

址埋土出土のものと接合しており、実測図は住居址遺物図版に載せている。549、550は体部に段をもつ口縁部片である。550は内外面ヘラミガキ後、両面を黒色処理している。549は外面が上半をヨコナデ、段より下半をヘラケズリで調整されている。内面に軽い稜をもつ。内面はヘラミガキ後、黒色処理されている。551は外面に段、内面に沈線状の区切りをもつ内黒の体部片である。段下に外面はヘラケズリ後、部分的にヘラミガキ調整されている。552、553は外面ヘラケズリ調整の底部片で底部外面に木葉圧痕をもつ。底面は幾分外方に張り出す。

552はIVA-14住居址床面出土のものと、553はIVA-19土坑埋土出土のものと接合している。

IVA-10土坑 (図版-77, 写真図版-71)

本土坑は調査区北側の中央東寄りに位置し、東0.5cmにIVA-5土坑、北0.8mにIVA-13住居址、南東0.5mにIVA-4・49土坑が隣接する。検出面は基本層序第III層である。

平面形は開口部100cm×85cm・底部80cm×60cmの楕円形を呈し、深さは最大34cmである。長軸の方向は北東-南西方向を示している。底面はほぼ平坦であるが、北東端から南西端に向かって傾斜して下がる。壁は底面から内弯気味に立ち上がり、開口部付近で外反する。埋土は人為的な埋め戻しの様相を呈し、中振浮石が混入する暗褐色土の単層である。出土遺物はない。

IVA-11土坑 (図版-79, 写真図版-72)

本土坑は調査区中央部の西側に位置し、東にIVA-7住居址、西0.5mにIVA-12土坑が隣接する。本土坑はIVA-6土坑の埋土を切ってつくられている。

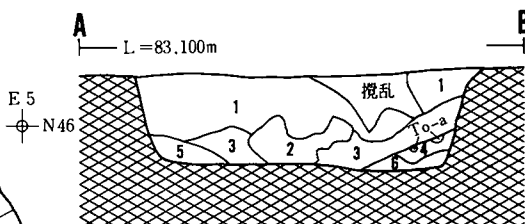
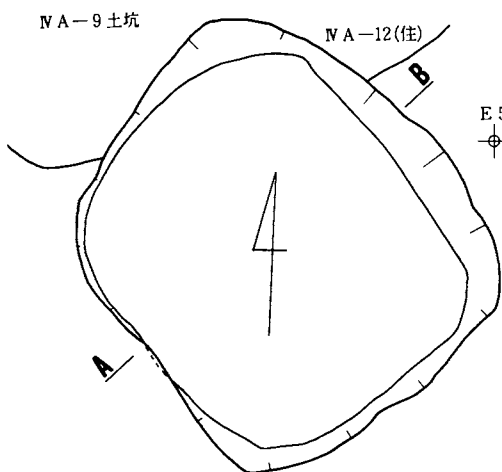
平面形は開口部が100cm×50cmの不整な楕円形で、深さは最大30cmである。長軸の方向は北東-南西方向を示している。底面は椀状に丸味を呈する。埋土は黒褐色土で構成され、下部には灰や炭化材が含まれている。出土遺物はない。

IVA-12土坑 (図版-79, 写真図版-72)

本土坑は調査区の西端に位置し、北東にIVA-6土坑、南西にIVA-24土坑が隣接する。本土坑はIVA-9住居址の埋土を切ってつくられている。

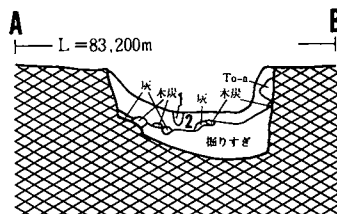
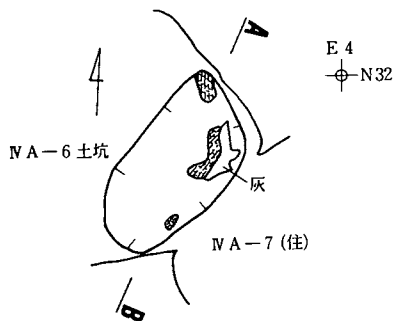
平面形は開口部形70cm・底部径60cmのほぼ円形を呈し、深さは最大20cmである。底面はほぼ平坦であるが、東端から西端に向かって緩やかに下がる。壁は底面から外傾して立ち上がる。埋土は十和田a降下火山灰がブロック状で混入する黒褐色土で構成される。

遺物は埋土から土師器甕形土器体部片(555)が出土している。



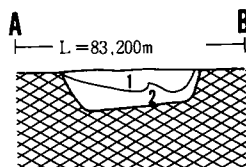
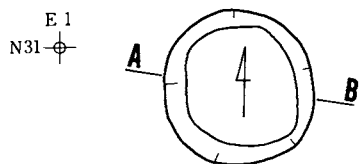
1. 黒褐色 10YR% 砂質シルト (含暗褐色シルト)
2. 黒褐色 10YR% 砂質シルト (含暗褐色シルト)
3. 黒褐色 7.5YR% シルト (含暗褐色シルト)
4. 黒褐色 10YR% シルト (含十和田a降下火山灰)
5. 極暗褐色 7.5YR% シルト (含暗褐色シルト)
6. 黒褐色 10YR% 砂質シルト

IV A-11 土坑



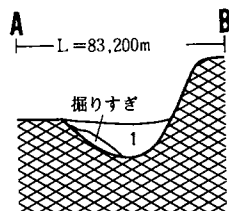
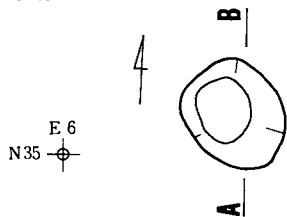
1. 黒褐色 10YR% シルト (含焼土粒)
2. 黒褐色 7.5YR% シルト

IV A-12 土坑



1. 黒褐色 10YR% シルト (含十和田a降下火山灰)
2. 黒褐色 7.5YR% シルト (含十和田a降下火山灰、暗褐色シルト)

IV A-13 土坑



1. 黒褐色 10YR% シルト (含焼土粒、炭化物、暗褐色シルト)



図版79：IV A-9・11・12・13土坑

IVA-13土坑 (図版-79, 写真図版-72)

本土坑は調査区中央部の北西側に位置し、IVA-8住居址の南東壁際中央付近の床面から検出されたものである。本土坑はIVA-8住居址に切られている。

全体の形状は浅い柱穴状で、平面形は開口部径50cm~60cm・底部径30cm前後の不整な円形を呈し、深さは最大16cmである。埋土は焼土粒や炭化物が混入する黒褐色土で構成される。

遺物は底面直上から外面粗いヘラケズリ調整されている土師器甕形土器体部上半片(556)が出土している。胎土に多くの砂粒が混じる。

IVA-14土坑 (図版-80, 写真図版-73)

本土坑は調査区北側の南西部に位置し、東0.2mにIVA-30土坑、北0.4mにIVA-17住居址が隣接する。本土坑はIVA-12住居址に切られている。

全体の形状は皿状で、平面形は開口部・底部共に不整な長方形を呈する。規模は開口部190cm×110cm・底部170cm×85cmで、深さは中央付近で20cmである。長軸の方向は北東-南西方向を示している。底面は若干起伏がみられる。埋土は6層に細別され、おもに中礫浮石が混入する黒褐色土・黒色及び極暗褐色土で構成される。出土遺物はない。

IVA-15土坑 (図版-80, 写真図版-73・75)

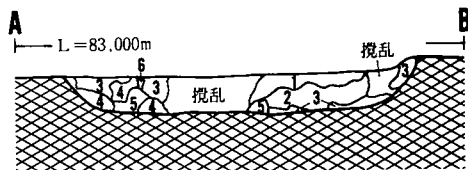
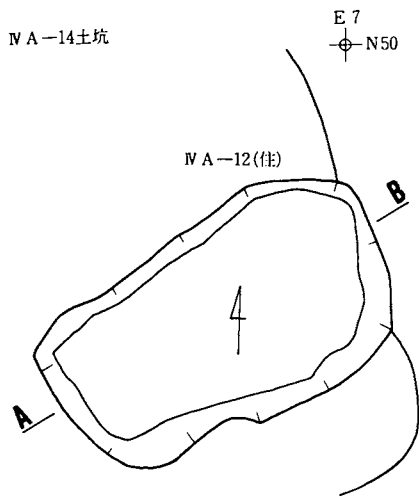
本土坑は調査区北側の中央南西寄りに位置し、北西にIVA-12住居址、南にIVA-7・42土坑が近接する。本土坑はIVA-11住居址・IVA-26土坑を切っている。

平面形は開口部176cm×120cm・底部158cm×98cmの隅丸長方形を呈し、深さは最大30cmである。長軸の方向は北東-南西方向を示している。底面は北西壁側が段差がついて高くなる。低い部分はほぼ平坦である。壁は底面から外傾して立ち上がる。埋土は上部が黒褐色土・下部が極暗褐色土で構成されている。出土遺物はない。

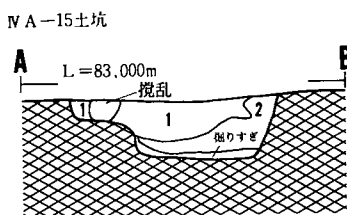
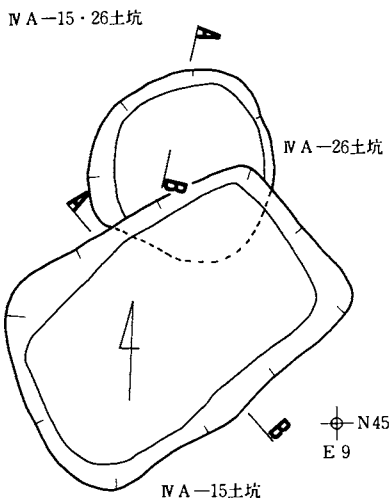
IVA-16土坑 (図版-80, 写真図版-73)

本土坑は調査区北側の東端に位置し、IVA-18住居の南西壁際中央付近の床面から検出されたものである。本土坑はIVA-28土坑を切り、IVA-18住居址に切られている。

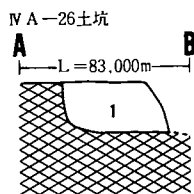
平面形は開口部116cm×100cm・底部94cm×78cmの楕円形を呈し、深さは中央付近で35cmである。長軸の方向は北西-南東方向を示している。底面はほぼ水平かつ平坦である。壁は底面から外傾して立ち上がる。埋土は4層に細別され、おもに暗褐色シルトがブロック状で



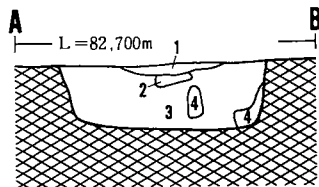
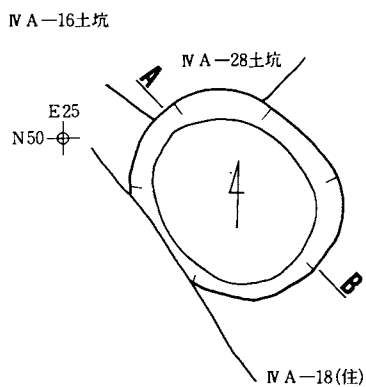
1. 黒褐色 10YR $\frac{7}{5}$ 砂質シルト
2. 黒色 10YR $\frac{7}{5}$ シルト
3. 黒色 7.5YR $\frac{7}{5}$ 砂質シルト
4. 極暗褐色 7.5YR $\frac{7}{5}$ 砂質シルト
5. 明褐色 7.5YR $\frac{7}{5}$ 浮石
6. 黒褐色 10YR $\frac{7}{5}$ シルト



1. 黒褐色 10YR $\frac{7}{5}$ シルト (含暗褐色シルト)
2. 極暗褐色 7.5YR $\frac{7}{5}$ 砂質シルト



1. 黒褐色 10YR $\frac{7}{5}$ シルト (含暗褐色シルト)



1. 黒褐色 10YR $\frac{7}{5}$ 砂質シルト (含十和田 α 降下火山灰)
2. 黒褐色 10YR $\frac{7}{5}$ シルト (含十和田 α 降下火山灰)
3. 黒褐色 10YR $\frac{7}{5}$ シルト (含炭化物)
4. 暗褐色 10YR $\frac{7}{5}$ シルト



図版80：IV A-14・15・16・26土坑

混入する黒褐色土で構成される。埋土上部中央には十和田a降下火山灰が小ブロックで混入する。全体に人為的な埋め戻しの様相を呈する。

遺物は埋土から土師器甕形土器の口縁部片(557)、鉄鏃(558)、が出土している。557は口縁部が極端に短く外反し外面ヘラケズリで調整されている。558は根先が鑿形をなすものである。長さ15.3cm、最大幅1.5cm、最大厚0.3cmである。

IVA-17土坑 (図版-81, 写真図版-74)

本土坑は調査区中央部の北西側に位置し、IVA-8住居址及びIVA-2土坑に切られている。

残存部から平面形は開口部・底部共に楕円形と推定され、深さは20cmである。底面はほぼ平坦である。壁は底面から外傾して立ち上がる。埋土は4層に細別され、おもに灰や炭化物が混入する黒褐色土で構成される。人為的な埋め戻しの様相を呈する。出土遺物はない。

IVA-18土坑 (図版-81, 写真図版-74)

本土坑は調査区中央部の中央北にし寄りに位置し、東0.8cmにIVA-5住居址が隣接する。本土坑はIVA-7住居址及びIVA-101大溝跡に切られている。三者の新旧関係は古い順にIVA-18土坑→IVA-7住居址→IVA-101大溝跡となる。

平面形は開口部短径220cm・底部短径210cmの楕円形と推定され、深さは40cmである。底面はほぼ水平かつ平坦で、中央付近に径20cm、深さ3cm程の浅い副穴が認められる。壁は北側の一部が内傾するが、他は底面からやや外傾して立ち上がる。埋土は3層に細別され、上部は暗褐色シルトのブロック、十和田a降下火山灰が若干混入する黒褐色土で、下部は黒褐色砂質シルトと黒褐色シルトの混土で構成される。人為的な埋め戻しの様相を呈する。出土遺物はない。

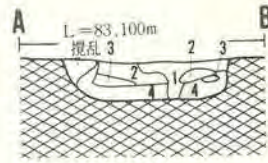
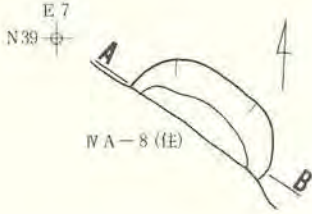
IVA-19土坑 (図版-81, 写真図版-74)

本土坑は調査区北側の中央南寄りに位置し、東0.2mにIVA-8土坑が隣接する。検出面は基本層序第IV層である。本土坑はIVA-20土坑を切っている。

平面形は開口部径120cm、底部径95cmの不整な円形を呈し、深さは30cmである。底面はほぼ平坦であるが、南東壁際が若干上がる。壁は底面から外傾して立ち上がる。埋土は中振浮石が混入する黒褐色土で構成される。

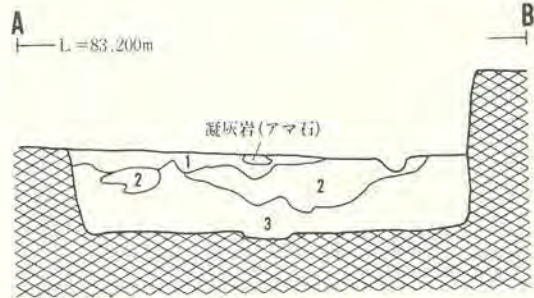
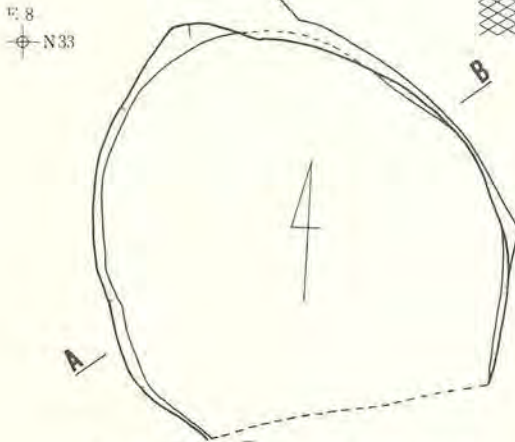
遺物は埋土から土師器坏形土器口縁部片(559)、甕形土器の体部片(561)、底部片(553、560)が出土している。559は外面に段をもち内外面をヘラミガキ後、黒色処理してい

IV A-17土坑



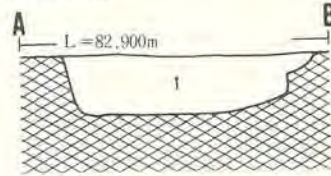
1. 黒褐色 10YR_{2/2}
2. 黒褐色 10YR_{2/2} (含灰)
3. 黒褐色 10YR_{2/2} (含炭化物)
4. 黒褐色 10YR_{2/2} (含炭化材、灰)

IV A-18土坑



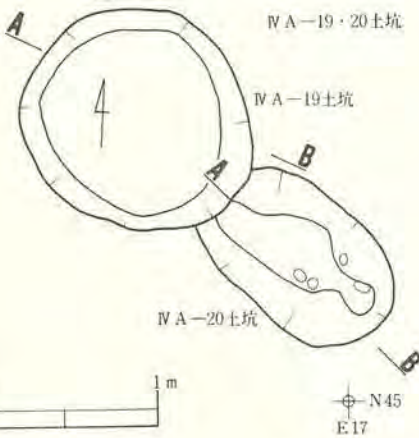
1. 黒褐色 10YR_{2/2} 砂質シルト (含炭化物)
2. 黒褐色 10YR_{2/2} シルト (含十和田湖降下火山灰、暗褐色シルト)
3. 黒褐色 10YR_{2/2} 砂質シルトと黒褐色10YR_{2/2}シルトの混合土

IV A-19土坑

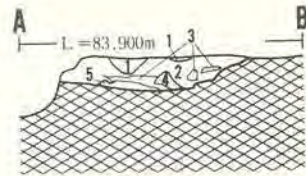


1. 黒褐色 10YR_{2/2} シルト

IV A-19・20土坑



IV A-20土坑



1. 黒褐色 10YR_{2/2} 砂質シルト
2. 黒色 10YR_{2/2} シルト
3. 暗赤褐色 5YR_{2/2} 砂質シルト (含硬土、炭化物)
4. 暗褐色 10YR_{2/2} シルト
5. 極暗赤褐色 5YR_{2/2} シルト (含硬土、炭化物)

図版81：IV A-17・18・19・20土坑

る。561は外面をヘラケズリ後、ヘラミガキ調整しているものである。560は底部外面に木葉圧痕をもつ。底部内形は卵形をなす。

IV A—20土坑 (図版—81, 写真図版—75)

本土坑は調査区北側の中央南寄りに位置する。検出面は基本層序第IV層である。本土坑はIV A—19土坑に切られている。

平面形は開口部が $110\text{cm} \times 70\text{cm}$ の楕円形で、底部は最大巾 30cm の不整な溝状を呈し、深さは最大 20cm である。底面は中央付近が若干下がり、壁は底面からなだらかに立ち上がる。埋土は5層に細別され、おもに黒色土及び黒褐色土で構成され、十和田b降下火山灰や焼土が混入する。出土遺物はない。

(IV A—21・22・23は欠番)

IV A—24土坑 (図版—82, 写真図版—75)

本土坑は調査区中央部の西端に位置し、東にIV A—6・11・12土坑が隣接する。本土坑はIV A—9住居址の壁の一部を切っている。

遺構は調査区外にのびており、全容は不明であるが、平面形は開口部径 200cm 前後・底部径 180cm 前後の円形と推定される。埋土断面から深さは 80cm 程である。底面はほぼ水平かつ平坦である。壁は底面から直立・外傾して立ち上がる。埋土は5層に細別され、おもに黒褐色土及び極暗褐色土で構成される。埋土下部を除いて十和田a降下火山灰がブロック状で混入する。全体に人為的な埋め戻しの様相を呈する。

遺物は埋土から口縁部が極端に短く外反し外面ヘラケズリ調整の土師器甕形土器の口縁部片が出土している。

IV A—25土坑 (図版—82, 写真図版—75)

本土坑は調査区北側の北西部に位置し、北西 0.6m にIV A—16住居址、南東 0.6m にIV A—22住居址、南西 1m にIV A—37土坑が隣接する。検出面は基本層序第IV層である。

平面形は開口部が径 60cm の不整円形で、底部は $40\text{cm} \times 15\text{cm}$ の不整長方形を呈し、断面形はV字状で、深さは 60cm である。埋土は3層に細別され、上部はおもに十和田b降下火山灰が混入する黒色土、下部は黒褐色の砂質シルトで構成される。出土遺物はない。

IV A—26土坑 (図版—80, 写真図版—75)

本土坑は調査区北側の中央南西寄りに位置し、北にIV A—30・41土坑、南にIV A—7・42土坑が近接する。本土坑はIV A—11住居址を切り、IV A—15土坑に切られている。

残存部から平面形は開口部径100cm・底部80cmの円形と推定され、深さは30cmである。底面はほぼ平坦である。壁は底面から丸味をおびて立ち上がる。埋土は中振浮石が混入する黒褐色土で構成される。出土遺物はない。

IV A—27土坑 (図版—82, 写真図版—76)

本土坑は調査区北側の南東端に位置し、西にIV A—2・3・20住居址が隣接する。検出面は基本層序第IV層である。本土坑はIV A—38土坑を切っている。

平面形は開口部が100cm×80cmの楕円形で、底部は不整形を呈し、深さは最大36cmである。底面は中央付近が柱穴状に落ち込んでいる。埋土は3層に細別され、おもに十和田b降下火山灰や中振浮石が混入する黒色土と黒褐色土で構成される。出土遺物はない。

IV A—28土坑 (図版—83, 写真図版—76)

本土坑は調査区北側の東端に位置する。検出面はIV A—18住居址の床面である。本土坑はIV A—18住居址及びIV A—16土坑に切られている。

平面形は開口部152cm×124cm・底部140cm×116cmの不整な楕円形を呈し、深さは中央付近で70cmである。長軸の方向は北東—南西方向を示している。底面はほぼ平坦であるが、壁際が若干上がる。壁は北西側の壁の一部が内傾するが、他は底面からほぼ直立する。埋土は8層に細別され、下部は人為的な埋め戻しと考えられる暗褐色シルトが大ブロックで混入する黒褐色土、上部はおもに十和田a降下火山灰が粒状で混入する黒褐色土と極暗褐色土で構成される。

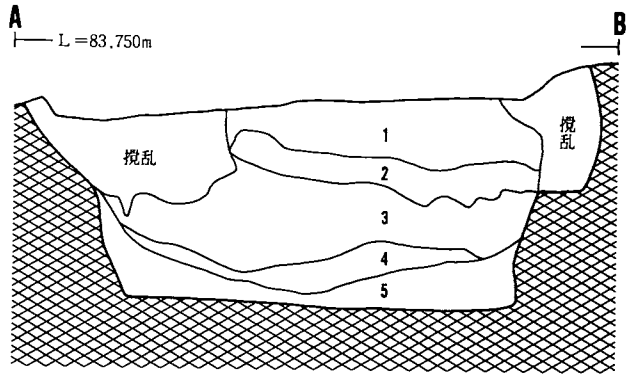
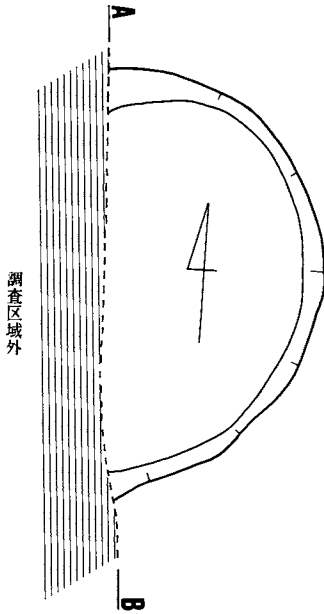
遺物は埋土から外面ナデ調整の土師器甕形土器の体部上半片(564)が出土している。

IV A—29土坑 (図版—83, 写真図版—76)

本土坑は調査区北側の中央南東寄りに位置し、南にIV A—3住居址、南西にIV A—8土坑、北にIV A—3土坑が近接する。検出面は基本層序第IV層である。

平面形は開口部90cm×38cm・底部80cm×30cmの楕円形を呈し、深さは10cmである。長軸の方向は北西—南東方向を示している。底面はほぼ水平かつ平坦である。壁は底面から外傾して立ち上がる。埋土は十和田b降下火山灰が混入する黒色土と中振浮石が混入する黒色土で

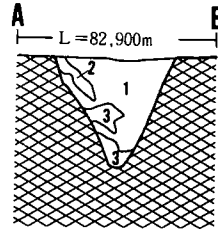
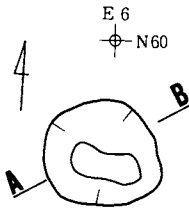
IV A-24土坑



⊕ N29
E 2

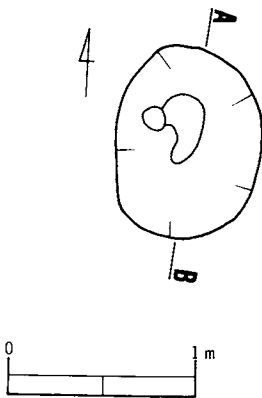
1. 黒褐色 10YR $\frac{2}{6}$ 砂質シルト (含十和田a降下火山灰)
2. 黒褐色 7.5YR $\frac{2}{6}$ (含十和田a降下火山灰, 暗褐色シルト)
3. 極暗褐色 7.5YR $\frac{2}{6}$ 粘土質シルト (含十和田a降下火山灰, 暗褐色シルト)
4. 黒褐色 7.5YR $\frac{2}{6}$ 砂質シルト (含十和田a降下火山灰, 暗褐色シルト, 炭化物)
5. 極暗褐色 7.5YR $\frac{2}{6}$ 粘土質シルト (含褐色シルト)

IV A-25土坑

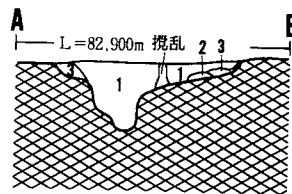


1. 黒色 10YR $\frac{2}{1}$ シルト
2. 黒褐色 10YR $\frac{2}{1}$ シルト
3. 黒褐色 10YR $\frac{2}{1}$ 砂質シルト (含暗褐色シルト)

IV A-27土坑



⊕ N43
E 27



1. 黒色 10YR $\frac{2}{1}$ シルト
2. 黒色 10YR $\frac{2}{1}$ 砂質シルト
3. 黒褐色 10YR $\frac{2}{1}$ シルト

図版82: IV A-24・25・27土坑

構成される。 出土遺物はない。

IV A—30土坑 (図版—83, 写真図版—77)

本土坑は調査区北側の中央南東寄りに位置し、東にIV A—41土坑、西にIV A—14土坑、北にIV A—14住居址が隣接する。本土坑はIV A—11住居址に切られている。

平面形は開口部径90cm・底部径60cmの不整な円形を呈し、深さは30cmである。底面はほぼ平坦であるが壁際が若干上がる。壁は底面から丸味をおびて立ち上がる。埋土は中振浮石が混入する黒褐色土で構成される。 出土遺物はない。

IV A—31土坑 (図版—83, 写真図版—77)

本土坑は調査区北側の南東部に位置する。IV A—3住居址内土坑P₃の下位から検出されたものである。 平面形は開口部135cm×120cm・底部110cm×75cmの隅丸長方形を呈し、深さはIV A—3住居址内土坑P₃の底面から30cmである。長軸の方向は北東—南西方向を示している。底面はほぼ水平かつ平坦である。壁は底面からほぼ直立する。埋土は人為的な埋め戻しの様相を呈し、褐色シルト及び黒褐色シルトが粒状、ブロック状で混入する暗褐色土で構成される。 出土遺物はない。

IV A—32土坑 (図版—84, 写真図版—77)

本土坑は調査区北側の西寄りに位置し、西にIV A—15住居址、南にIV A—36土坑、北にIV A—16住居址が隣接する。検出面は基本層序第IV層である。本土坑はIV A—37土坑を切っている。

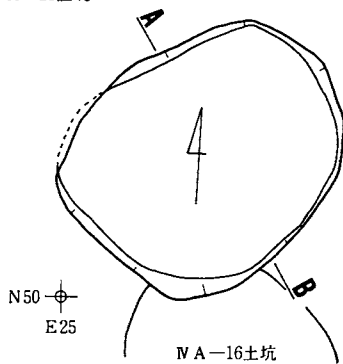
平面形は開口部径125cm・底部径105cmのほぼ円形を呈し、深さは20cmである。底面はほぼ水平かつ平坦である。壁は底面から外傾して立ち上がる。埋土は中振浮石が混入する黒褐色土で構成される。 出土遺物はない。

IV A—33土坑 (図版—84, 写真図版—78)

本土坑は調査区北側の西端に位置し、南東にIV A—17住居址、北にIV A—15住居址が隣接する。検出面は基本層序第IV層である。

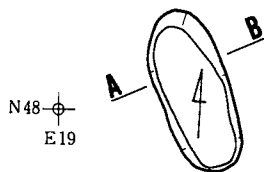
遺構は調査区外にのびていることから規模等全容は不明であるが、残存部から平面形は開口部短辺55cm、底部短辺30cm程の隅丸長方形と推定される。底面はほぼ平坦である。壁は底面から外傾して立ち上がる。埋土はおもに黒褐色土で構成され、中振浮石が混入する。 出土遺物はない。

IV A—28土坑

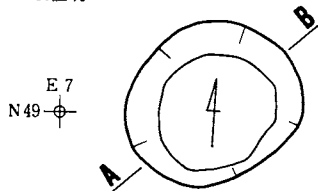


IV A—16土坑

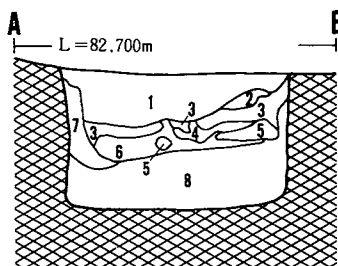
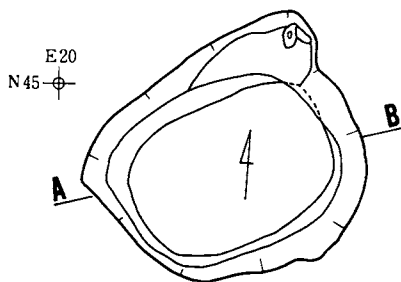
IV A—29土坑



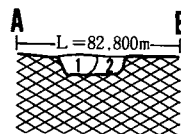
IV A—30土坑



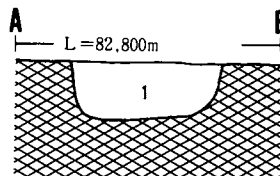
IV A—31土坑



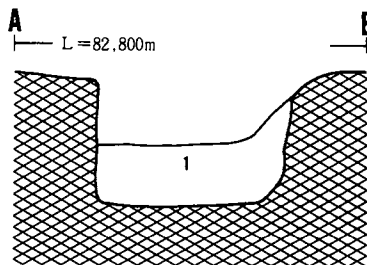
1. 黒褐色 10YR_{2/2} 砂質シルト (含十和田a降下火山灰)
2. 黒褐色 7.5YR_{2/2} 砂質シルト
3. 極暗褐色 7.5YR_{2/2} シルト (含暗褐色シルト)
4. 黒褐色 7.5YR_{2/2} 粘土質シルト (含暗褐色シルト)
5. 黒褐色 10YR_{2/2} 砂質シルト
6. 黒褐色 10YR_{2/2} 砂質シルト (含十和田a降下火山灰)
7. 黒褐色 10YR_{2/2} シルト (含暗褐色シルト)
8. 黒褐色 10YR_{2/2} 砂質シルト (含暗褐色粘土質シルト)



1. 黒色 10YR_{2/1} シルト
2. 黒褐色 10YR_{2/2} シルト



1. 黒褐色 10YR_{2/2} シルト (含暗褐色シルト)



1. 暗褐色 10YR_{2/2} シルト

図版83：IV A—28・29・30・31土坑

IV A—34土坑 (図版—84, 写真図版—78)

本土坑は調査区北側の西寄りに位置し、北東にIV A—40土坑、西にIV A—33土坑が近接する。検出面は基本層序第IV層である。本土坑はIV A—17住居址に切られている。

平面形は開口部径110cm・底部径40cm程の不整な円形と推定され、深さは中央付近で40cmである。底面は中央部に向かって落ち込む形状を示す。埋土は上部が十和田b降下火山灰と中振浮石が混入する黒色土、下部は中振浮石が混入する黒褐色土で構成される。出土遺物はない。

IV A—35土坑 (図版—84, 写真図版—78)

本土坑は調査区北側の西端に位置し、南西にIV A—33土坑、南東にIV A—34土坑が近接する。検出面は基本層序第IV層である。本土坑はIV A—15住居址に切られている。

残存部から平面形は開口部径60cm、底部径40cm程の円形と推定され、深さは20cmである。底面は起伏がみられる。埋土は3層に細別され、中振浮石が混入する黒色土・黒褐色土及び褐色土で構成される。出土遺物はない。

IV A—36土坑 (図版—85, 写真図版—79)

本土坑は調査区北側の西寄りに位置し、西にIV A—15住居址、北にIV A—32住居址、南にIV A—40土坑が隣接する。検出面は基本層序第IV層である。

平面形は開口部径60cm～80cm・底部径30cm～50cmの不整形を呈し、深さは最大20cmである。底面は平坦であるが、南東端に向かって緩やかに下がる。壁は底面から外傾した立ち上がる。埋土は黒色土及び中振浮石が混入する黒褐色土で構成される。出土遺物はない。

IV A—37土坑 (図版—84, 写真図版—79)

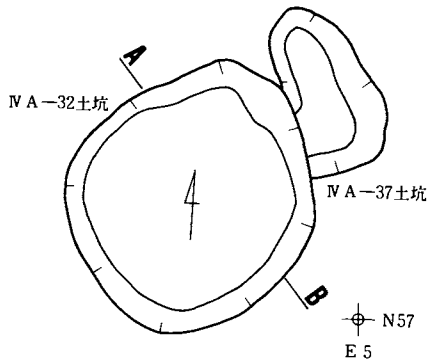
本土坑は調査区北側の西寄りに位置し、北にIV A—16住居址、東にIV A—22住居址が近接する。検出面は基本層序第IV層である。本土坑はIV A—32土坑に切られている。

平面形は開口部90cm×45cm・底部70cm×20cm程の不整な長楕円形を呈し、深さは15cm～24cmである。底面は起伏がみられる。壁は底面から外傾して立ち上がる。埋土はおもに黒褐色土で構成され、中振浮石が混入する。出土遺物はない。

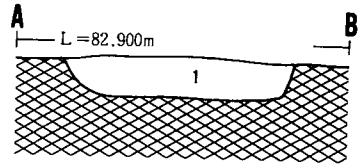
IV A—38土坑 (図版—85, 写真図版—79)

本土坑は調査区北側の南西端に位置する。検出面は基本層序第IV層である。本土坑はIV A

IV A-32・37土坑

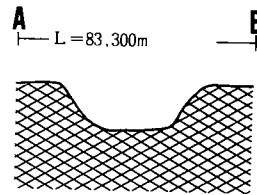


IV A-32土坑

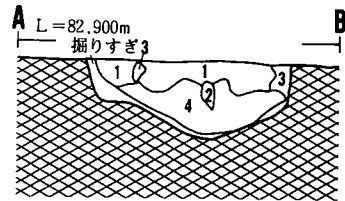
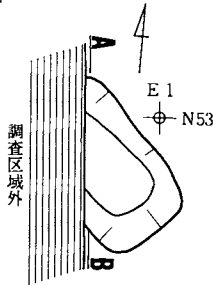


1. 黒褐色 10YR_{2/2} 砂質シルト (含暗褐色シルト)

IV A-33土坑

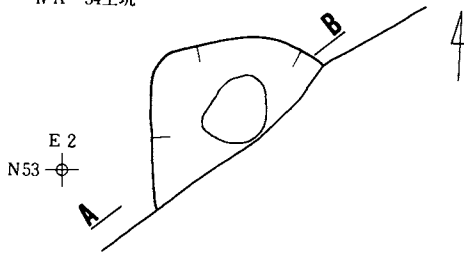


IV A-33土坑

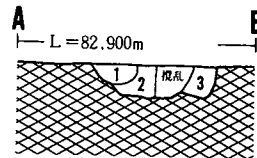
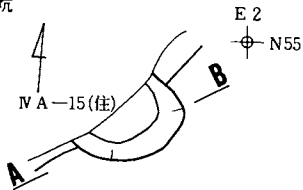


1. 黒色 10YR_{2/1} シルト
2. 黒褐色 10YR_{2/2} シルト
3. 極暗褐色 7.5YR_{2/1} 粘土質シルト
4. 黒褐色 10YR_{2/2} 砂質シルト

IV A-34土坑



IV A-35土坑



1. 黒色 10YR_{2/1} 砂質シルト
2. 黒褐色 10YR_{2/2} 砂質シルト
3. 暗褐色 10YR_{2/2} 砂質シルト



図版84：IV A-32・33・34・35・37土坑

—20住居址を切り、IVA—27土坑に切られている。

平面形は開口部径60cm・底部径30cm程の不整な円形を呈し、深さは40cmである。断面形は開口部が開くU字状を呈する。底面はほぼ平坦である。埋土は6層に細別され、上部はおもに十和田b降下火山灰が混入する黒色土、下部はおもに暗褐色土で構成される。出土遺物はない。

(IVA—39は欠番)

IVA—40土坑 (図版—85, 写真図版—80)

本土坑は調査区北側の西寄りに位置し、南にIVA—17住居址、南東にIVA—14住居址が隣接する。検出面は基本層序第IV層である。

全体の形状は浅皿状で、平面形は開口部径80cmの円形を呈し、深さは最大16cmである。壁及び底面は弧状を呈する。埋土は十和田b降下火山灰が混入する黒褐色土で構成される。出土遺物はない。

IVA—41土坑 (図版—85, 写真図版—80)

本土坑は調査区北側の中央南西寄りに位置し、北にIVA—14住居址、西1mにIVA—30土坑が隣接する。本土坑はIVA—11住居址に切られている。

平面形は開口部100cm×70cm・底部80cm×50cmの不整な楕円形を呈し、深さは最大15cmである。長軸の方向は北西—南東方向を示している。底面は起伏がみられる。壁は底面から外傾して立ち上がる。埋土は中振浮石が混入する黒褐色土で構成される。出土遺物はない。

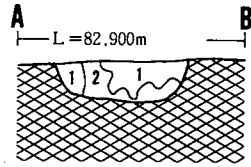
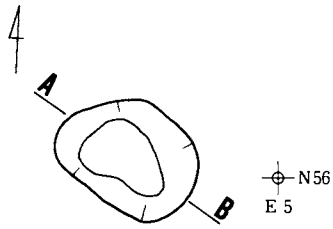
IVA—42土坑 (図版—86, 写真図版—80)

本土坑は調査区北側の中央南西寄りに位置し、北西にIVA—15・26土坑、南西にIVA—21住居址が近接する。本土坑はIVA—7土坑に切られている。

平面形は開口部・底部に共に不整な三角形を呈し、規模は最大幅が開口部90cm・底部70cmで、深さは16cmである。底面はほぼ平坦であるが、南西壁際がやや下がる。壁は底面から外傾して立ち上がる。埋土は十和田b降下火山灰が混入する黒色土と黒褐色土で構成される。出土遺物はない。

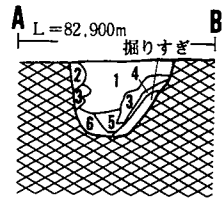
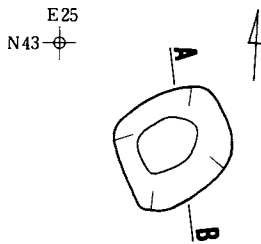
(IVA—43は欠番)

IV A-36土坑



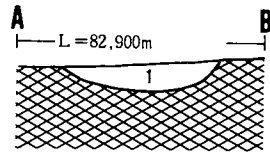
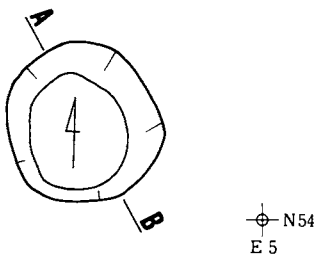
1. 黒色 10YR $\frac{6}{1}$ 粘土質シルト
2. 暗褐色 10YR $\frac{4}{1}$ 砂質シルト

IV A-38土坑



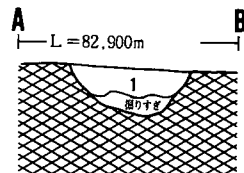
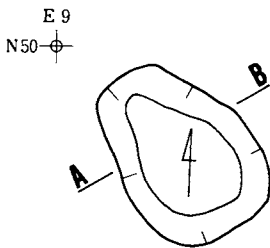
1. 黒色 10YR $\frac{6}{1}$ 砂質シルト
2. 黒褐色 10YR $\frac{4}{1}$ 砂質シルト
3. 黒褐色 7.5YR $\frac{6}{1}$ 砂質シルト
4. 黒褐色 10YR $\frac{6}{1}$ 砂質シルト
5. 極暗褐色 7.5YR $\frac{4}{1}$ 砂質シルト
6. 暗褐色 10YR $\frac{4}{1}$ 粘土質シルト

IV A-40土坑

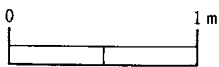


1. 黒褐色 10YR $\frac{4}{1}$ シルト

IV A-41土坑



1. 黒褐色 10YR $\frac{4}{1}$ 砂質シルト



図版85：IV A-36・38・40・41土坑

IV A—44土坑 (図版—86, 写真図版—81)

本土坑は調査区中央部の中央北寄りに位置し、東にIV A—1・2号方形周溝跡、南にIII A—19住居址が近接する。検出面はIV A—5住居址の南東隅床面である。本土坑はIV A—5住居址及びIV A—101大溝跡に切られている。

残存部から平面形は開口部径75cm・底部径50cm程の円形と推定され、深さは40cmである。断面形はほぼU字状を呈する。底面はやや起伏がみられる。埋土はおもに炭化物が混入する黒褐色土で構成される。出土遺物はない。

IV A—45土坑 (図版—86, 写真図版—81)

本土坑は調査区中央部の北西端に位置し、西にIV A—47土坑、南東にIV A—8住居址が隣接する。検出面は基本層序第IV層である。

全体の形状はフラスコ状で、平面形は開口部径130・底部径145cmの円形を呈し、深さは中央付近で50cmである。底面はほぼ水平かつ平坦である。壁は底面から内傾して立ち上がる。埋土は4層に細別され、壁際は黒褐色砂質シルト、中央部がおもに中礫浮石や炭化物が混入する黒色土で構成される。出土遺物はない。

IV A—46土坑 (図版—87, 写真図版—81)

本土坑は調査区中央部の中央北寄りに位置し、東にIV A—2方形周溝跡、南にIV A—101大溝跡が近接する。検出面は基本層序第IV層である。本土坑はIV A—5住居址に切られている。

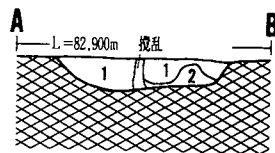
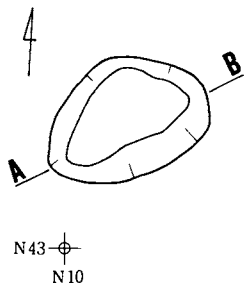
一部の残存であり、形状・規模等全容は不明である。残存部の最大幅は開口部75cm・底部55cmで、深さは最大28cmである。底面は中央付近が凹んでいる。埋土は十和田b降下火山灰が混入する黒色土で構成される。出土遺物はない。

IV A—47土坑 (図版—86, 写真図版—81)

本土坑は調査区中央部の北西端に位置し、東にIV A—45土坑・IV A—8住居址が近接する。検出面は基本層序第IV層である。本土坑は調査区外にのびていることから全容は不明であるが、残存部から形状は深さ45cm程のピーカー状と推定される。底面は壁際が若干上がり、壁は底面から外傾して立ち上がる。埋土は4層に細別され、おもに中礫浮石が混入する黒色土で構成される。出土遺物はない。

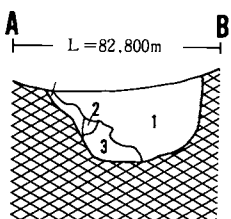
IV A—48土坑 (図版—87, 写真図版—82)

IV A-42土坑



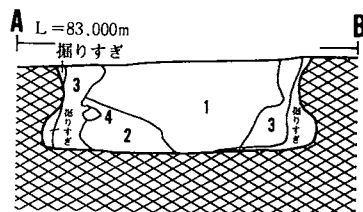
- 1. 黒色 10YR $\frac{2}{6}$ 砂質シルト
- 2. 黒褐色 10YR $\frac{2}{6}$ 砂質シルト

IV A-44土坑



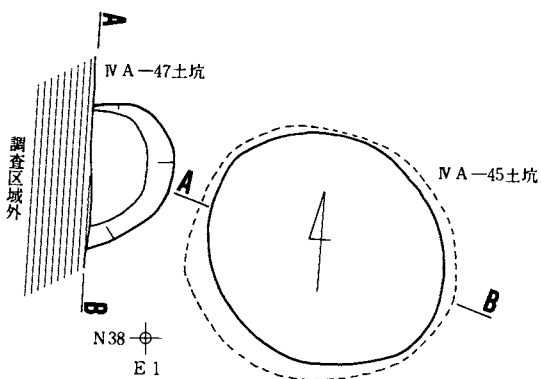
- 1. 黒褐色 10YR $\frac{2}{6}$ シルト (含炭化物、暗褐色シルト)
- 2. 暗褐色 10YR $\frac{2}{6}$ 粘土質シルト
- 3. 黒褐色 10YR $\frac{2}{6}$ シルト (含暗褐色シルト)

IV A-45土坑

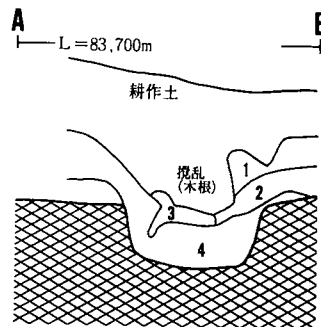


- 1. 黒色 10YR $\frac{2}{6}$ 砂質シルト (含炭化物、暗褐色シルト)
- 2. 黒褐色 10YR $\frac{2}{6}$ 砂質シルト
- 3. 黒褐色 7.5YR $\frac{2}{6}$ 砂質シルト
- 4. 暗褐色 10YR $\frac{2}{6}$ シルト

IV A-45・47土坑



IV A-47土坑



- 1. 黒褐色 10YR $\frac{2}{6}$ シルト
- 2. 黒褐色 7.5YR $\frac{2}{6}$ シルト
- 3. 暗褐色 10YR $\frac{2}{6}$ シルト
- 4. 黒色 10YR $\frac{2}{6}$ シルト



図版86：IV A-42・44・45・47土坑

本土坑は調査区中央部の中央北寄りに位置し、東にIV A—50土坑、西にIV A—7住居址が隣接する。検出面は基本層序第IV層である。本土坑はIV A—5住居址に切られている。

残存部から形状は深さ16cmの皿状と推定され、残存部の最大巾は開口部120cm・底部100cmである。底面はほぼ平坦で、壁は底面から外傾して立ち上がる。埋土は黒色土の単層である。出土遺物はない。

IV A—49土坑 (図版—87, 写真図版—82)

本土坑は調査区北側の中央西寄りに位置し、北にIV A—5・10土坑、南西にIV A—3土坑が隣接する。本土坑はIV A—4土坑に切られている。

平面形は開口部200cm×145cm・底部145cm×110cmの不整な長方形を呈し、深さは中央付近で32cmである。長軸の方向は東—西方向を示している。底面は壁際が若干上がり、壁は底面から外傾して立ち上がる。埋土は中振浮石が混入する黒褐色土で構成される。

遺物は底面から土師器甕形土器(565)と台石(566、567)が出土している。565は口縁部が外反して口唇部近くで直上し、肩部に段をもち体部が中央でやや脹らむものである。底部は外面が外側に張り出し底部内形が卵形をなしている。口縁部内面はヨコナデ後ヘラミガキ調整されている。体部外面はヘラケズリ後、密ではないがヘラミガキ調整が行われている。体部内面はヨコ方向のハケメ調整後タテ方向のヘラナデが行われている。566は2面に、567は1面に使用痕をもつものである。石質は輝石安山岩である。

IV A—50土坑 (図版—88, 写真図版—82)

本土坑は調査区中央部の中央北寄りに位置し、西にIV A—48土坑、南にIV A—101大溝跡が隣接する。本土坑はIV A—5住居址に切られている。

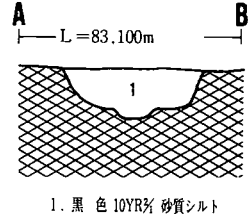
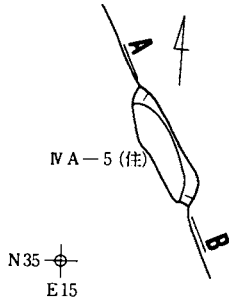
平面形は開口部径165cm・底部径155cmの円形を呈し、深さは検出面から40cmである。底面はほぼ水平かつ平坦である。壁は底面から内弯気味に立ち上がり、開口部付近で外反する。埋土は6層に細別され、おもに黒褐色土及び黒色土で構成される。全体に人為的な埋め戻しの様相を呈する。出土遺物はない。

V A—1土坑 (図版—88, 写真図版—75)

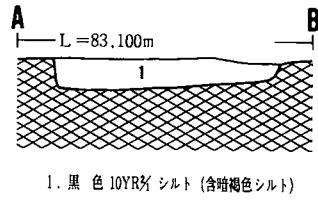
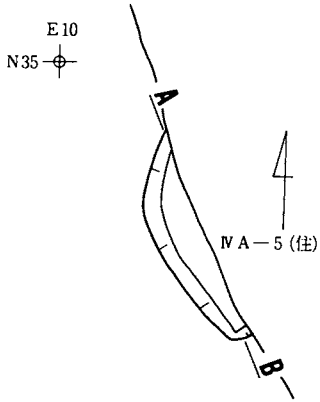
本土坑は調査区の北端に位置し、南にV A—2土坑、北にV A—4住居址、西にIV A—16住居址が隣接する。検出面は基本層序第IV層である。本土坑はV A—3住居址を切っている。

平面形は開口部80cm×60cm・底部60cm×40cmの不整な楕円形を呈し、深さは20cmである。長軸の方向は東—西方向を示している。底面はほぼ水平かつ平坦である。壁は底面から外

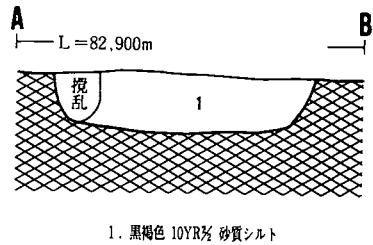
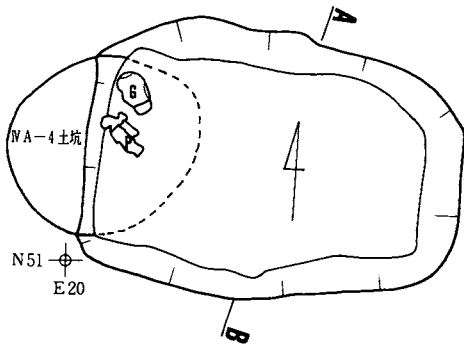
IV A-46土坑



IV A-48土坑



IV A-49土坑



図版87：IV A-46・48・49土坑

傾して立ち上がる。埋土は上部が十和田 a 降下火山灰の小ブロックが混入する黒色土、下部が黒褐色の砂質シルトで構成される。

遺物は埋土からシルト不使用の土師器甕形土器の口縁部片 (568)、坏形土器の体部片 (569) が出土している。内外面はハケメ調整後ヘラケズリが行われている。569は内外面ヘラミガキ調整後、内面に黒色処理が施されている。

V A—2 土坑 (図版—88)

本土坑は調査区の北端に位置し、南にV A—1 土坑、V A—4 住居址、西にIV A—16住居址が隣接する。本土坑はV A—3 住居址を切り、北側が排水管の溝に切られている。

残存部から平面形は開口部一辺190cm 前後、底部一辺180cm 前後の隅丸方形と推定され、深さは45cm 程度である。底面はほぼ水平かつ平坦である。壁は底面から外傾して立ち上がる。埋土は6層に細別され、おもに十和田 a 降下火山灰が混入する黒褐色土及び黒色土で構成される。下部の一部を除いて人為的な埋め戻しの様相を呈する。

III A—1 墓壙 (図版—89)

本遺構は調査区中央部の南西寄りに位置し、南にIII A—6 住居址、北にIII A—11・12土坑が隣接する。

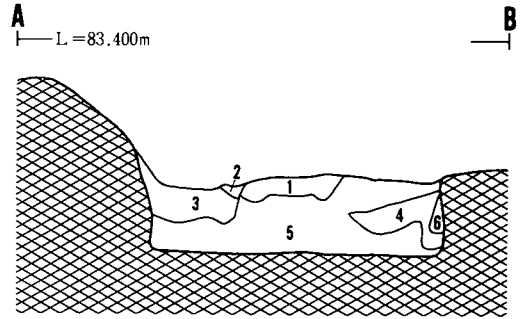
形状は開口部50cm×45cm・底部45cm×38cmの隅丸長方形を呈し、深さは34cm～38cmである。断面形はU字状を呈する。底面は起伏がみられ、壁は底面から丸味を帯びて立ち上がる。埋土は黒褐色シルトで構成され、暗褐色シルトのブロックや十和田 a 降下火山灰及び炭化物粒が混入する。出土した人骨は頭蓋骨の一部である。

III A—2 墓壙 (図版—89)

本遺構は調査区中央部の南東端に位置し、南西にIII A—13土坑が隣接する。本遺構はIII A—6 住居址の埋土を切ってつくられている。

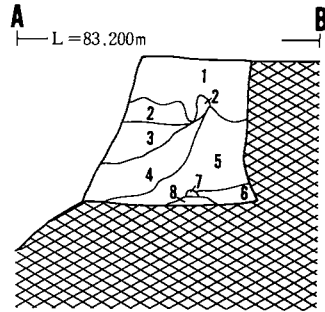
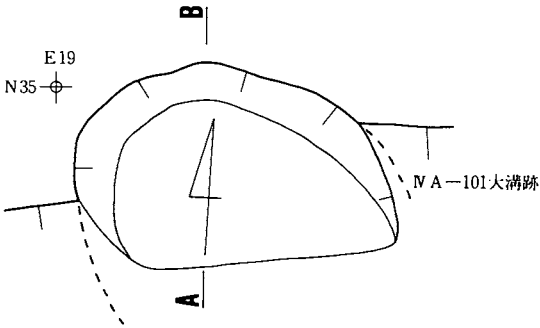
形状は開口部110cm×50cmの長方形と推定され、深さは最大28cmである。断面形は浅皿状を呈し、底面は起伏が著しい。埋土はやわらかい黒褐色シルトで構成される。埋土から骨片、底面から多量の炭化物が出土している。

IV A-50土坑



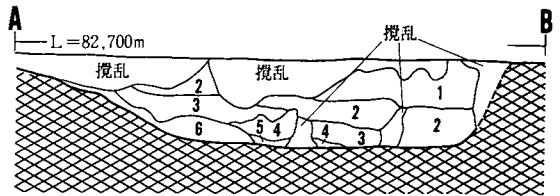
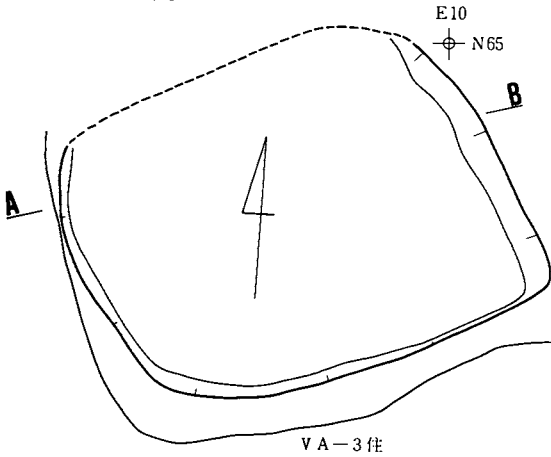
1. 黒色 10YR¹/2 砂質シルト
2. 黒褐色 10YR¹/2 砂質シルト
3. 黒色 10YR¹/2 シルト
4. 黒褐色 10YR¹/2 砂質シルト
5. 黒褐色 10YR¹/2 シルト
6. 暗褐色 7.5YR¹/2 シルト

IV A-51土坑



1. 黒褐色 10YR¹/2 シルト
2. 黒褐色 10YR¹/2 シルト
3. 黒褐色 7.5YR¹/2 シルト (含褐色10YR¹/2 砂土)
4. 黒褐色 10YR¹/2 シルト (含炭化粒、焼土粒)
5. 黒褐色 7.5YR¹/2 シルト (含十和田a降下火山灰)
6. 黒色 10YR¹/2 シルト (含十和田a降下火山灰)
7. 暗褐色 10YR¹/2 シルト
8. 黒褐色 10YR¹/2 シルト

V A-2土坑

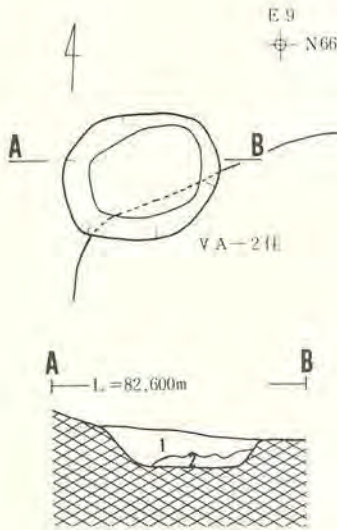


1. 黒褐色 10YR¹/2 シルト
2. 黒褐色 7.5YR¹/2 シルト (含十和田a降下火山灰)
3. 黒色 10YR¹/2 砂質シルト (含十和田a降下火山灰)
4. 黒褐色 10YR¹/2 砂質シルト (含十和田a降下火山灰)
5. 黒褐色 7.5YR¹/2 砂質シルト
6. 極暗褐色 7.5YR¹/2 シルト (含十和田a降下火山灰)



図版88：IV A-50・51 V A-2土坑

V A-1 土坑

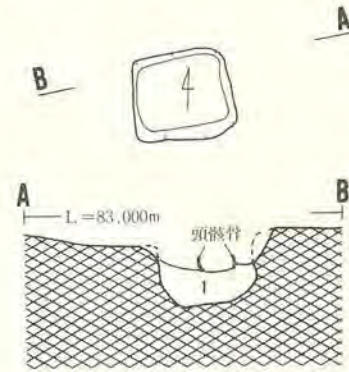


- 1. 黒色 10YR 矽ト (含十和田a降下火山灰)
- 2. 黒褐色 10YR 矽ト 砂質矽ト

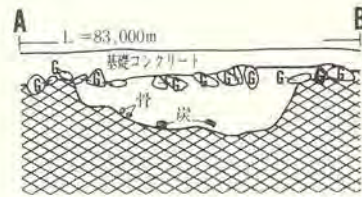


Ⅲ A-1 墓壇

N18
E. 22



- 1. 黒褐色 10Y R 矽ト (含炭化物、暗褐色矽ト、十和田a降下火山灰)



- 1. 黒褐色 10Y R 矽ト

図版89：V A-1 土坑 Ⅲ A-1・2 墓壇

4 溝跡・大溝跡

大溝跡4条、溝跡4条が検出されている。大溝跡4条は調査区南側にあり、すべて両端が東西の調査区域外にのびている。溝跡4条はいずれも他の遺構に切れたり、調査区域外にのびたりしている。

大溝跡

大溝跡4条は南側の2条と北側の2条とがセットになる。南側の2条は少なくとも1回以上の改修が行われている。空中写真から大溝跡は調査区域外の西側で北に90°曲がってのびている。大溝跡は平安時代の竪穴住居址と切ったり、切られたりする重複関係にある。

II A—101大溝跡

遺 構 (図版—90・91, 写真図版-83)

本遺構は調査区南側で検出されている4条の大溝跡のうち最も南側にあるものである。検出面は黒褐色砂質シルト層上面である。II A—1・3住居址、III A—1・2・10・12住居址を切り、III A—7・8・9住居址、II A—1号方形周溝跡、III A—23土坑に切られている。

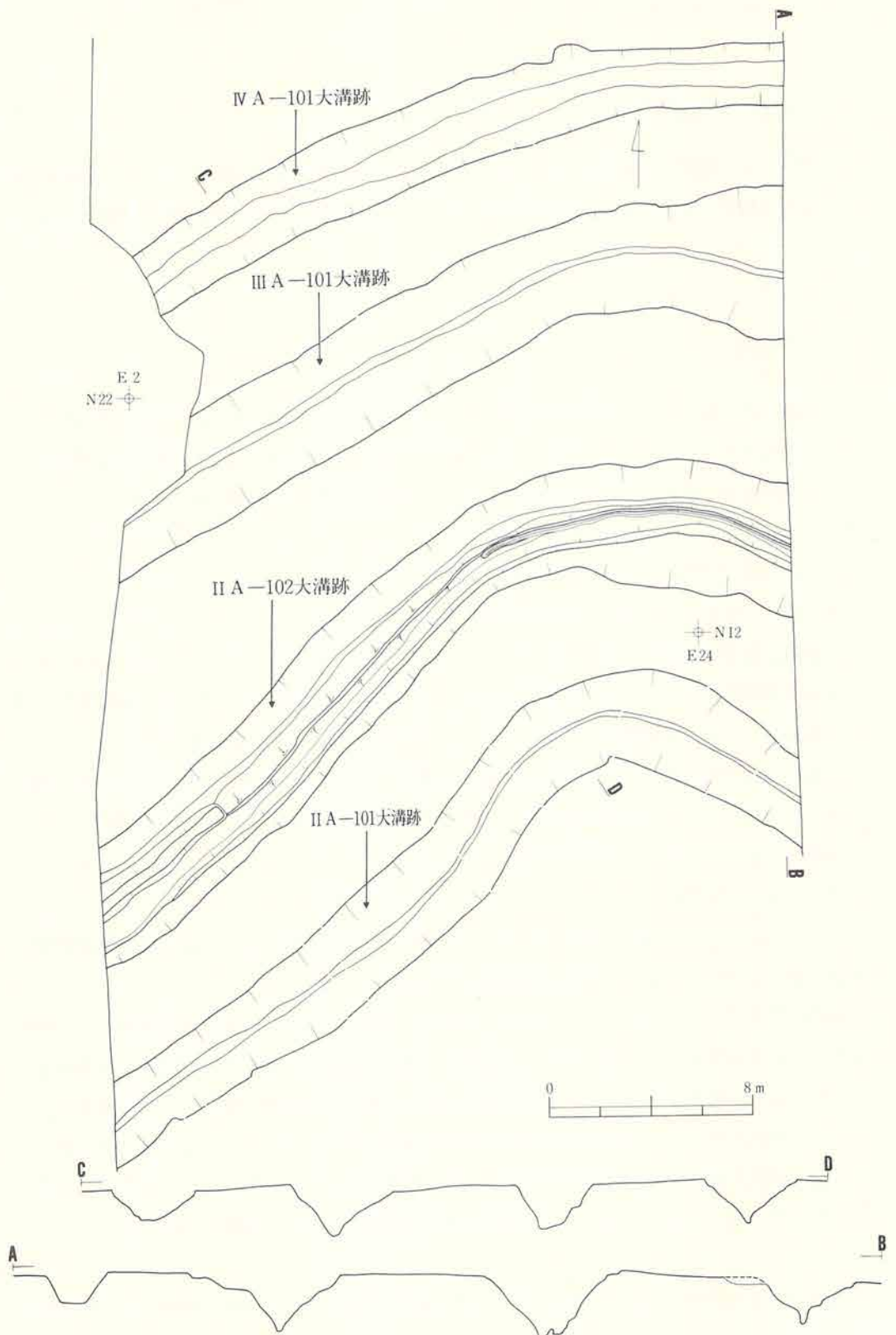
大溝跡は西側で南西—北東方向に走り中央部東寄りで北西—南東方向に曲がっている。両端は調査区域外へのびる。大溝跡は少なくとも1回の改修が認められる。新しい方をII A—101 a大溝跡、古い方をII A—101 b大溝跡と呼ぶ。

II A—101 a大溝跡

幅2.8m～3.2m、深さ130～10cmを測り、断面は「V」字形を呈すが一部更に底部が箱形の溝状に掘られている。溝底部の幅は10～20cmである。

溝跡中央部での埋土は大きく3つに分けられる。上部層は溝全体にレンズ状に堆積し、十和田 a 降下火山灰をブロックで幾分混じり暗褐色シルト、褐色シルトをブロックで混じる黒褐色シルト層である。最下位層が自然堆積の様相を呈する。中部層は南側に幾分片寄った堆積をしている。十和田 a 降下火山灰を中位に多く混じり暗褐色シルト、褐色シルトをブロックで多く含む黒色～黒褐色シルト層である。下部層は中位に暗褐色シルト層を狭み十和田 a 降下火山灰を小ブロックで混じる黒褐色シルト層である。埋土は自然堆積と人為堆積とが入り混じっている。

溝下半の北側の壁面の傾きは40°～50°、南側の傾きは30°～40°と北側の壁面の方が急な角度で立ち上がっている。



图版90：II A-101·II A-102·II A-101·IV A-101大溝跡

II A—101 b 大溝跡

溝は新しい溝に切られていめため、最下部のみ残存し形態はII A—101 a 大溝跡と類似している。深さ14～30cm、溝底部の幅150～180cmである。埋土は暗褐色シルト、砂質シルトが混じる黒褐色シルト層で占められている。十和田 a 降下火山灰をブロックで混じるのは土層面を実測した6カ所のうち1カ所だけである。壁から崩壊して堆積している部分が多い。

出土遺物（図版—154～160,写真図版129～133）

（埋土）

土師器坏形土器、台付坏形土器、甕形土器、須恵器坏形・壺形土器、鉄釘、手斧、刀子、鉄鍬、石製品、石器類が埋土から出土している。

土師器坏形土器

701はロクロ使用の台付の底部片である。外面はヘラミガキ、内面はヘラミガキ後黒色処理されている。底部外面にはヘラ書きが一部みられる。702はロクロ不使用の内外面ヘラミガキ調整された体部片である。段をもつもので段を境にして割れている。内面は黒色処理されたものと思われる。703はロクロ使用の口縁部片である。内面はヘラミガキ調整されている。

742はロクロ使用の高台付坏の底部片である。

土師器小型甕形土器

704は口縁部が内湾し体部外面がヘラケズリ調整されているもので6地区の埋土上部から出土した。胎土に砂粒のほかに金雲母も僅かながら混じる。内面は全体黒色を帯びている。

土師器甕形土器

705～730は口縁部片である。705～710・715・716は口縁部がかなり短く外反しているものである。706は肩部に段をもち内面に区切りをもち内面黒色を帯びている。711～714・717～721・723～725・729は口縁部が極端に外反しているものである。711、723、729の外面には輪積み痕が残る。722、726、727は口縁部が内湾ないし内傾しているものである。728、730は口縁部が緩く外反しているものである。728は口唇部断面が角張るものである。これらは体部外面を主にタテ方向のヘラケズリで調整されている。730のみヨコ方向のヘラケズリで調整されている。

733は口縁部が直上気味に外傾しているもので、外面がヨコナデ、ヘラケズリ、内面がヘラケズリで調整されているものである。

731、732、735は外面がヘラケズリ調整されている体部片である。

734、739は体部下半・底部で外面ヘラケズリ調整されているものである。734は底部が外方に張り出している。739には補修孔が2個ある。

736～738、740、741、743～751は外面をヘラケズリ調整されている底部片である。744、748は

底部外面が外方に張り出している。底部外面に727、751は木葉圧痕、747は笹の葉圧痕がみられる。

須恵器坏形土器

752は口縁部片、753は体部下半である。753の底部は僅かなために、ロクロからの切り離しは不明である。752の外面のロクロ痕は顕著である。

須恵器壺形土器

754～760は体部片である。ロクロナデ後、外面はヘラケズリ調整されているものが多い。

鉄製品

761は折頭釘である。折り曲げられているのがのばせば12cm程の長さになると思われる。762は手斧である。刃部の幅3.1cm、長さ7.3cmである。木柄に装着するために袋状の折り返しがある。763は管状の鉄製品である。外径1.1cm、長さ1.5cm、厚さ0.1cmである。目釘孔と思われるものが1カ所みられる。764は刀子と思われるもので茎の先端が欠損している。身は弯曲している。現存長9.5cm、刃部最大幅1.1cm、刃部最大厚0.3cmである。765は刀子の身の部分である。現存長8.1cm、最大厚0.3cmである。766は鉄鏃で身の先端側が大半欠損している。現存長5.9cm、茎の長さ4.1cmである。767は用途不明の鉄製品で断面が四角である。現存長は7.2cmである。

石製品・石器類

768は半分欠損しているが円板状の石製品と思われる。石質は凝灰質シルト岩である。769～771は形態が楕円状のもので、石質が白色細粒凝灰岩である。769は半分欠損しているが、両面に大小の凹、擦痕をもつものである。770は片側の面が欠損しているが、ヨコ、ナナメ方向の擦痕をもつものである。771は両面に擦痕、削痕などの使用痕をもつものである。772は両面に敲打痕などの使用痕をもつ円形の台石で、石質は輝石安山岩である。

II A—102大溝跡

遺 構 (図版—90・91, 写真図版—83・84)

本遺構は南側4条の大溝跡のうちで南から2本目の溝跡である。II A—101大溝跡とは4～5mの間隔を保って西側では南西—北東方向、東側では北西—南東方向に走り両端が調査区域外にのびている。II A—2住居址、III A—1・3・4・5・11住居址を切り、III A—6住居址に切られている。本大溝跡はII A—101大溝跡と同様に少なくとも1回の改修があり、新しい溝跡をII A—102 a 大溝跡、古い溝跡をII A—102 b 大溝跡と呼ぶ。

II A—102 a 大溝跡

幅3.2～3.9m、深さ1.7～2.1mを測り、断面は「V」字形をなしている。溝底部の幅は10～20

cm と狭い。両壁面に段がある。北側壁面の傾きは上半が $50^{\circ}\sim 60^{\circ}$ 、下半が $60^{\circ}\sim 70^{\circ}$ 、南側の壁面は上半が $40^{\circ}\sim 50^{\circ}$ 、下半が $20^{\circ}\sim 40^{\circ}$ である。北側の壁面が急な角度で立ち上がる。

東側での埋土は大きく3つに分けられる。上部層はレンズ状に堆積し十和田a 降下火山灰が全体に混じるが特に下位に多く、暗褐色シルトがブロックで混じる黒色～黒褐色シルト層である。中部層は黒色シルト層や暗褐色シルト層の薄層を挟み十和田a 降下火山灰を下位に多く混じり、暗褐シルトをブロックで散在する黒褐色シルト層である。下部層は壁からの崩壊土である暗褐色シルト・砂質シルト層や黒褐色シルト層で占められている。最上部層に人為的に埋め戻された暗褐色シルト層が堆積している。人為堆積と自然堆積が繰り返行われている。

西側ではII A-102 b 大溝跡を切った部分に壁が崩れないようにするために、暗褐色シルト、褐色シルトで厚さ6～12cm程に張りつけられている。

II A-102 b 大溝跡

溝の大半はII A-102 a 大溝に切られ底部のみが残存しているところが多い。1番多く残存している西側の部分から溝の幅を推定すると3m前後であったと思われる。深さ1.3～2.1mで断面は「V」字形をなしている。底部の幅は10～30cmである。底部の一部は更に深く箱形の溝状をなしている。

埋土は壁からの崩壊土である暗褐色・褐色砂質シルト層や褐色シルト層をブロックで混じる黒褐色シルト層などで構成されている。十和田a 降下火山灰ブロックで混じるところも一部にみられる。

出土遺物（図版-161～167、写真図版-134～138）

（埋土）

土師器坏形土器

773～783は口縁部片で内面すべてヘラミガキ調整されている。776～778、781はロクロ不使用、そのほかはロクロ使用のものである。773～775、781、782は黒色処理が焼失しないで残っている。776、777、780は小型のものである。783、785はロクロ使用の坏の底部片である。783は回転糸切りで体部下端がヘラケズリにより再調整されている。785は体部下端、底部外面に手持ヘラケズリで再調整されている。

土師器高坏形土器

784は内外面ヘラミガキ調整されているロクロ不使用の身の底部片である。内面は黒色処理されている。

土師器小形土器

786は外面に粘土接合痕が残り内面がヨコ方向のナデで調整されている体部片である。

788は埋土最下部（II A—102 b 大溝跡）から出土したものである。口縁部は僅かながら内弯し体部下端がややすばまる。外面はヘラナデ後一部ヘラケズリ、内面はヘラナデで調整されている。外面に輪積み痕が顕著に残る。787は外面ヘラケズリ調整、内面ナデ調整で口縁部が直上気味に立ち上がるものである。

土師器甕形土器

789～812、814は甕の口縁部片である。789、790、806は口縁部が短く外反しているものである。790は肩部に緩い段をもつ。806は内面に5本の直線状のヘラ書きをもつ。792、802、804、805は口縁部が外反しているものである。793は口唇部が角張り中央に溝状の沈線をもつ。792、804の体部外面はヘラミガキ調整である。

797、799、802、803、814は口縁部が内弯ないし内傾しているものである。803は体部外面がヨコ方向のヘラケズリで調整されている。814は小型のもので器壁が薄い。792、793～796、798、801は口縁部が極端に短く外反し、外面ヘラケズリで調整されているものである。795は外面に輪積み痕が残り、内外面が黒色を帯びている。807～812は口縁部が緩く外反し外面を主にヘラケズリ調整で行われているものである。809は口唇部が肥厚している。810は胎土に金雲母が混じる。

811、813、815～824は底部片である。820の底部外面に笹の葉圧痕、821の外面に木葉圧痕がある。820は器壁が薄く胎土、形態から口縁部が内弯している814と同一個体と思われる。813、818、821、823は体部下端がややすばまる器形をなしている。

須恵器甕形土器

825～827は外面にタタキ目痕、内面に当て貝痕をもつ体部片で同一個体のものと思われる。

土製品

829は轆の羽口の破片で両端が欠損している。推定最大外径5.9cm、推定最大孔径2.3cm。

鉄製品

830、831は鉄鏃の一部である。830は頸部、茎が欠損し、根先の形態が柳葉形をなしている。現存長6.1cm、最大幅2.1cm、最大厚0.5cmである。831は茎が欠損し、根先が切出し形をなす。現存長9.8cm、根先の厚さ0.3cmである。832は台形状の金具である。下端の左右に孔があり、中位のやや右側には釘がそのまま付いて残っている。上部中央にも突き出た形で孔があったと推定される。長さ5.1cm、最大幅3.6cm、最大厚0.4cmである。833は刀子の茎の一部と思われる。現存長は6.1cm、最大厚0.5cmである。

石製品

834は片面の中央に径3.4cm、深さ1.8cmの楕円状の窪みをもち壁面に擦痕がみられる。他の面には切削痕があり、片側頂部は刃物で削られ断面がV字状をなしている。石質は白色細粒

凝灰岩である。835、836、838～840は石質が白色凝灰岩であ板状のものである。片面または両面に擦痕及び切削痕をもつ。840は両面に使用痕をもつ。837は834と同じように片面の中央に径2.1cm、深さ0.5cmのくぼみをもつものである。石質は白色細粒凝灰岩である。841は楕円形の板状のもので右上端に径0.4～0.9cmの孔が片面から抉られている。842は片面にタテ・ナメ方向の擦痕をもつものである。石質は白色細粒凝灰岩である。

III A—101大溝跡

遺 構 (図版—90・92, 写真図版—85・88)

本遺構は調査区南側で検出された4条の大溝跡のうちで南から3番目のものである。検出面は中礫浮石混じりの黒褐色砂質シルト層上面である。III A—16・18・20住居址、III A—35・39土坑を切っている。

大溝跡は西側で南西—北東方向、中央部東寄りから東側で東西方向に曲がって走る。両端は調査区域外にのびる。

幅3.5～4.3m、深さ1.4～2.1mを測り、断面は「V」字形をなす。溝底部の幅は12～60である。埋土は大半が人為的に埋め戻された暗褐色～褐色砂土で占められ、下部に十和田a降下火山灰がブロックで幾分混じる黒色～黒褐色シルトや壁から崩れた小礫混じりの暗褐色砂土が自然堆積している。溝は東側が深く底部溝が狭い。

溝壁面の北側で上半部50°前後、下半部50°～60°、南側で上半部が30°～50°、下半部が50°～60°程度であり、南側の上半部が最も緩い傾斜をなしている。

東側の溝最下部に幅8～12cm、長さ2.2mと幅10cm、長さ1.4mの炭化材が堆積していた。

出土遺物 (図版—92, 写真図版—139・140)

(埋土)

土師器甕形土器

843は口縁部が欠損し体部中央が幾分脹らみ、外面がヘラケズリで調整されている。底部外面に木葉圧痕がある。体部内外面の一部に輪積み痕がみられる。最下部から出土している。

845は外面がヘラケズリ調整されている底部片である。846は口縁部が内湾ないし内傾し、胎土に多くの金雲母が混じるもので底部が欠損している。外面はヘラケズリ調整である。

把手付土器

844は把手の部分である。把手は中空で横断面が円形をなし外面がヘラケズリ調整である。

石製品

847は両端及び左側側面が欠損している。使用面は4面ありすべて浅皿状をなしている。4面のうち1面は荒い使用痕を残す。石質は細粒凝灰岩である。

IV A—101大溝跡

遺構 (図版—90・92, 写真図版—86・87)

調査区南側で検出された4条のうち大溝うちの1番北側のものである。検出面は中礫浮石混じりの黒褐色シルト層である。III A—19住居址、IV A—5・7・9住居址、IV A—1・2号方形周溝跡、IV A—36土坑、IV A—18・51土坑を切り、IV A—1土坑に切られている。

大溝跡は西側で南西—北東方向、東側で東西方向に曲り、南側のIV A—101大溝跡と4m前後の間隔で並行に走っている。両端は更に調整区域外にのびている。

幅2.4~2.8mを測り、深さ1~1.2m、溝底部の幅0.6~0.8mを測り、断面が逆台形をなしている。溝底面は東端が15cm程低い段をなしているほかは平坦である。

東端の埋土は最上部層が中礫浮石混じりの黒色シルト層、上部層が十和田a降下火山灰を小ブロックで混じる黒褐色シルト層、中部層が人為的に埋め戻されたと推定される暗褐色粘土及び暗褐色砂層(最大層厚23cm)、下部層が十和田a降下火山灰がブロックで多く混じり暗褐色砂が小ブロックで幾分混じる黒色~黒褐色シルト層である。中央部及び西側の埋土は人為的に埋め戻された暗褐色砂と黒褐色シルトの混合土(層厚100cm)で大半が占められ、最下部に黒褐色シルトが堆積している。

出土遺物 (図版—92, 写真図版—140~142)

(埋土)

土師器坏形土器

858は内黒で平底の底部片である。口径20cm前後の大きい坏と思われる。

土師器甕形土器

849はロクロ使用で口縁部が外反し口唇部断面が角張るものである。体部下半の一部が欠損している。850は口縁部が極端に外反、851~853は口縁部が内湾ないし内傾し、854は口縁部が緩く外反し、ともに外面をヘラケズリ調整されている口縁部片である。851、854は内外面の凹凸が大きく器壁も厚く粗雑なつくりである。856、857、859~861は外面を主にヘラケズリ調整されている底部片である。862は底部外面に木葉圧痕をもつ。

須恵器壺形土器

855は体部上半と思われ、ロクロ整形後、外面をヘラケズリで調整している。

酸化焰焼成の須恵器坏形土器

848は内外面がロクロ調整され、ロクロから切り離しが回転糸切りである。胎土に小石が混じる。

鉄製品・石製品類

863は刀子、864～866、870、871は鉄鏃、867～869は手鎌である。871は雁股の鉄鏃である。861は目釘式の手鎌である。872は風化しているが石質が輝石安山岩である磨石である。

ⅢA—102溝跡（図版—90, 写真図版—86）

調査区中央部西側にあり、東側がⅢA—101大溝跡、ⅢA—101大溝跡、ⅢA—103溝跡に切られ、西側がⅢA—36土坑に切られている。検出されている溝の規模は長さ1.1cm、幅40～50cm、深さ10～20cmである。埋土は中礫浮石混じりの黒褐色砂質シルト層で占められている。出土遺物はない。

ⅢA—103溝跡（図版—90, 写真図版—86）

調査区中央西側に位置し、ⅢA—102溝跡を切り、東端をⅢA—101溝跡に切られている。検出されている部分での規模は長さは6.4m、幅40～64cm、深さは20～26cmである。埋土は灰白色浮石を混じる黒褐色砂質シルト層である。出土遺物はない。

ⅣA—102溝跡

遺構（図版—93, 写真図版—88）

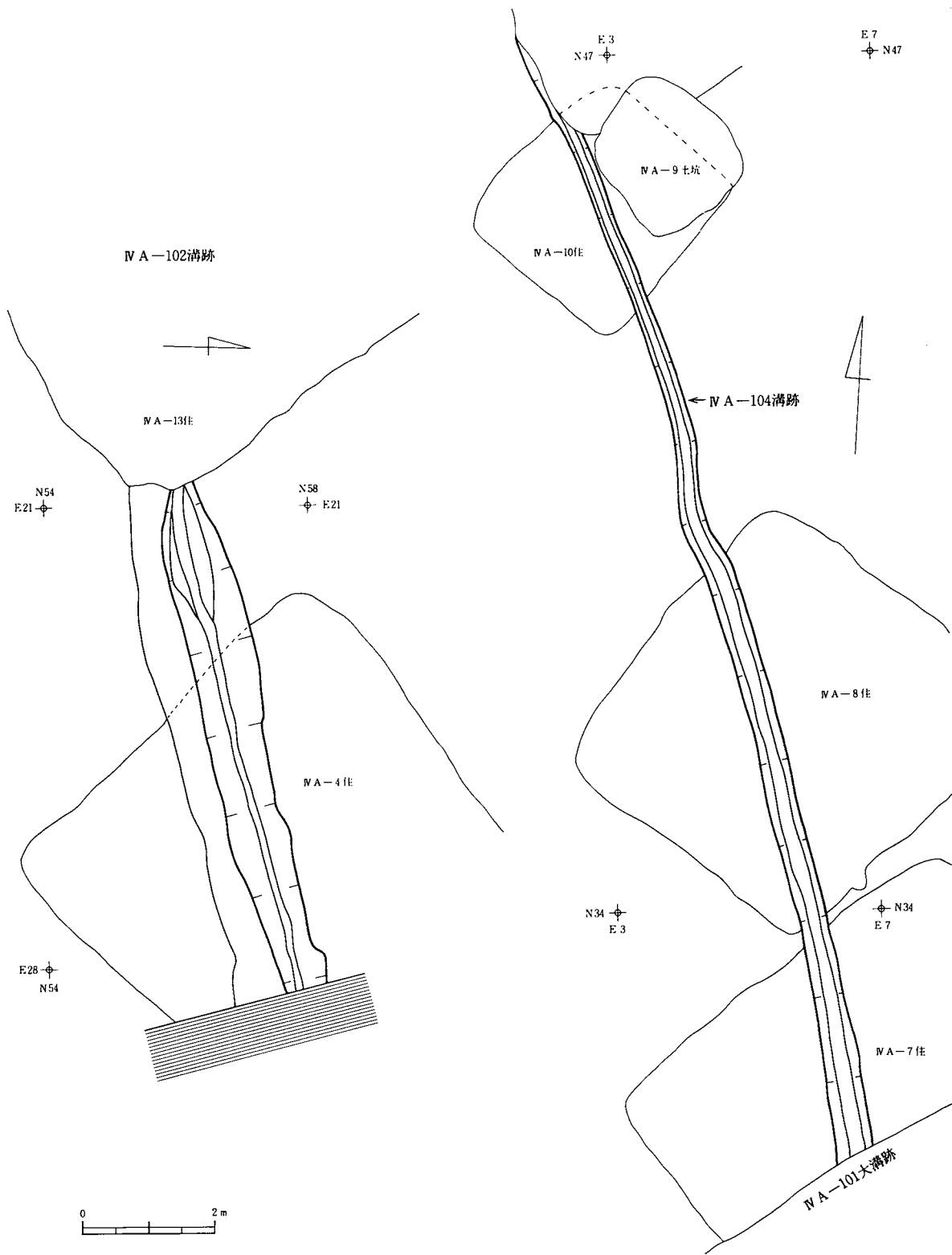
調査区北端東側に位置しⅣA—4住居址を切ってつくられている。ⅣA—13住居址とは重複関係にあるがその新旧は不明である。東側は調査区域外へのび、西側は調査区中央部で検出されておらず、西側が先細りをなすことから、ⅣA—13住居址の南東隅付近で止まっていたと思われる。

溝は東西方向に走り、幅94～100cm、深さ50～60cmを測り、断面が「V」字形をなすものである。溝底部の幅は12～18cmである。

埋土は上部層が暗褐色シルトをブロックで多く混じる黒褐色シルト層、中部層が黒褐色シルトをブロックで多く混じる暗褐色シルト層、下部層が部分的に十和田a 降下火山灰を僅かながら含む黒色シルト層である。

出土遺物（図版—171, 写真図版—142）

873は口縁部が短く外反し体部がほとんど脹らまず体部下位ですばまる器形をなす土師器小型甕形土器である。体部外面はナデ状のヘラケズリで調整され、口縁部は幅5cmと広い範囲ヨコナデで調整されている。胎土に0.5～1cmの小石が幾分混じる。輪積み痕がヘラケズリをされてない部分に残っている。焼成はあまり良くない。



図版93：IV A — 102・104溝跡

IV A—104溝跡 (図版—93, 写真図版—89)

調査区北半の西側を南東—北西方向に走る幅26cmの浅い溝である。IV A—7・8・10住居址を切っている。断面は「U」字形をなしている。埋土は十和田a降下火山灰を小ブロックで混じる黒褐色シルト層である。出土遺物はない。

5. 方形周溝跡

3基検出されているうち、南側の1基は大溝跡を切り、他の2基は同じ場所で切り合っている。前者の埋土には灰白色火山灰、後者の埋土には十和田a降下火山灰のブロックが混じる。

II A—1号方形周溝跡 (図版—94, 写真図版—90)

本遺構は調査区南側の中央西寄りに位置し、西にII A—2住居址、南西にII A—1住居址、東にII A—3・4土坑が隣接する。本遺構はII A—3住居址・III A—1・13住居址、II A—101大溝跡を切っている。

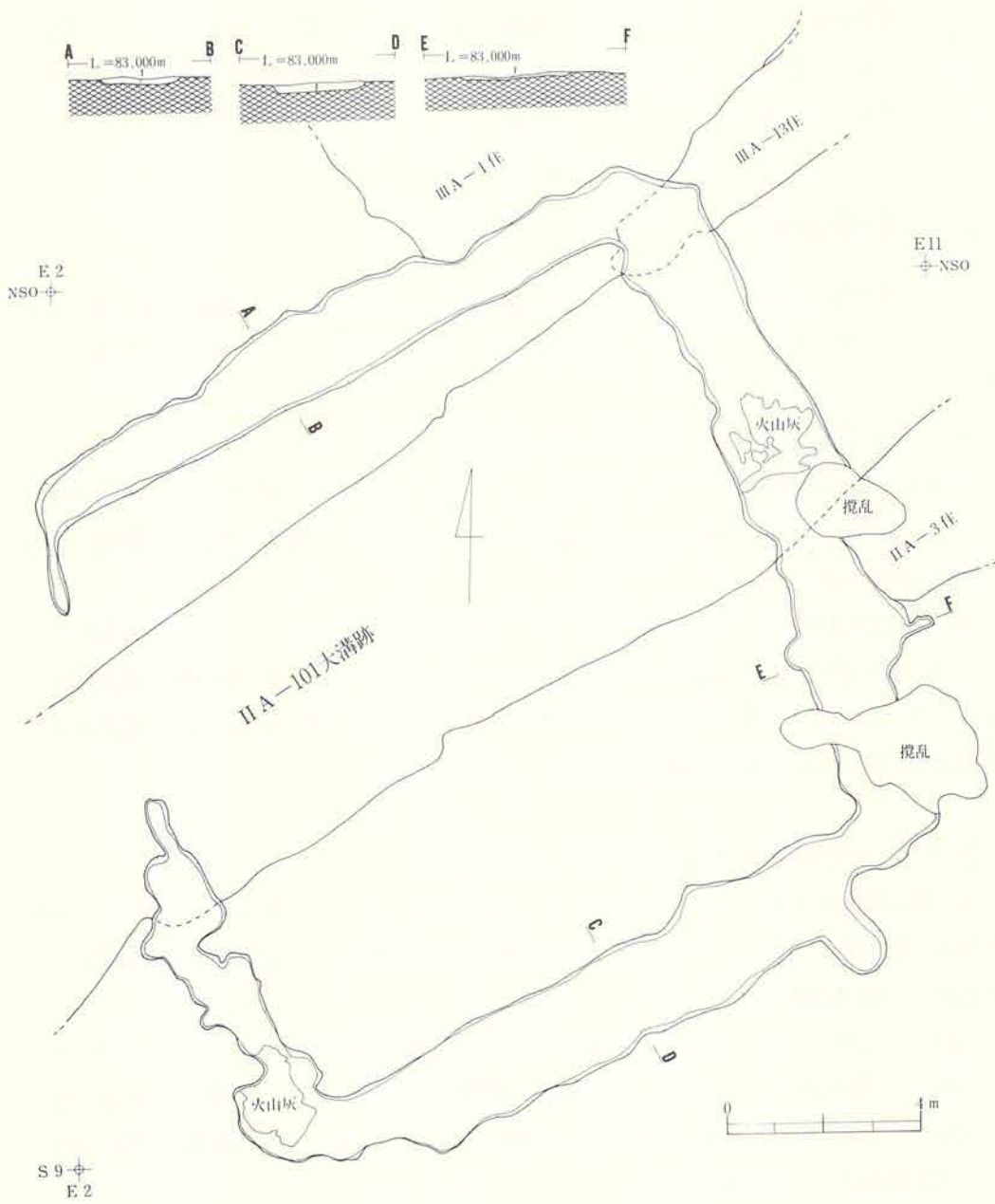
形状は外径8.1m～8.2mの方形を呈し、南西辺の北側が2m程切れている。溝幅は開口部15cm～120cm、底部10cm～110cmで、深さは3cm～10cmである。溝の横断面形は浅皿状である。埋土は十和田a降下火山灰が薄い帯状、粒状、小ブロック状で混入する黒褐色シルトで構成され、中礫浮石や炭化物が若干混入する。出土遺物はない。

IV A—1号方形周溝跡 (図版—95, 写真図版—91)

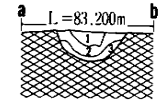
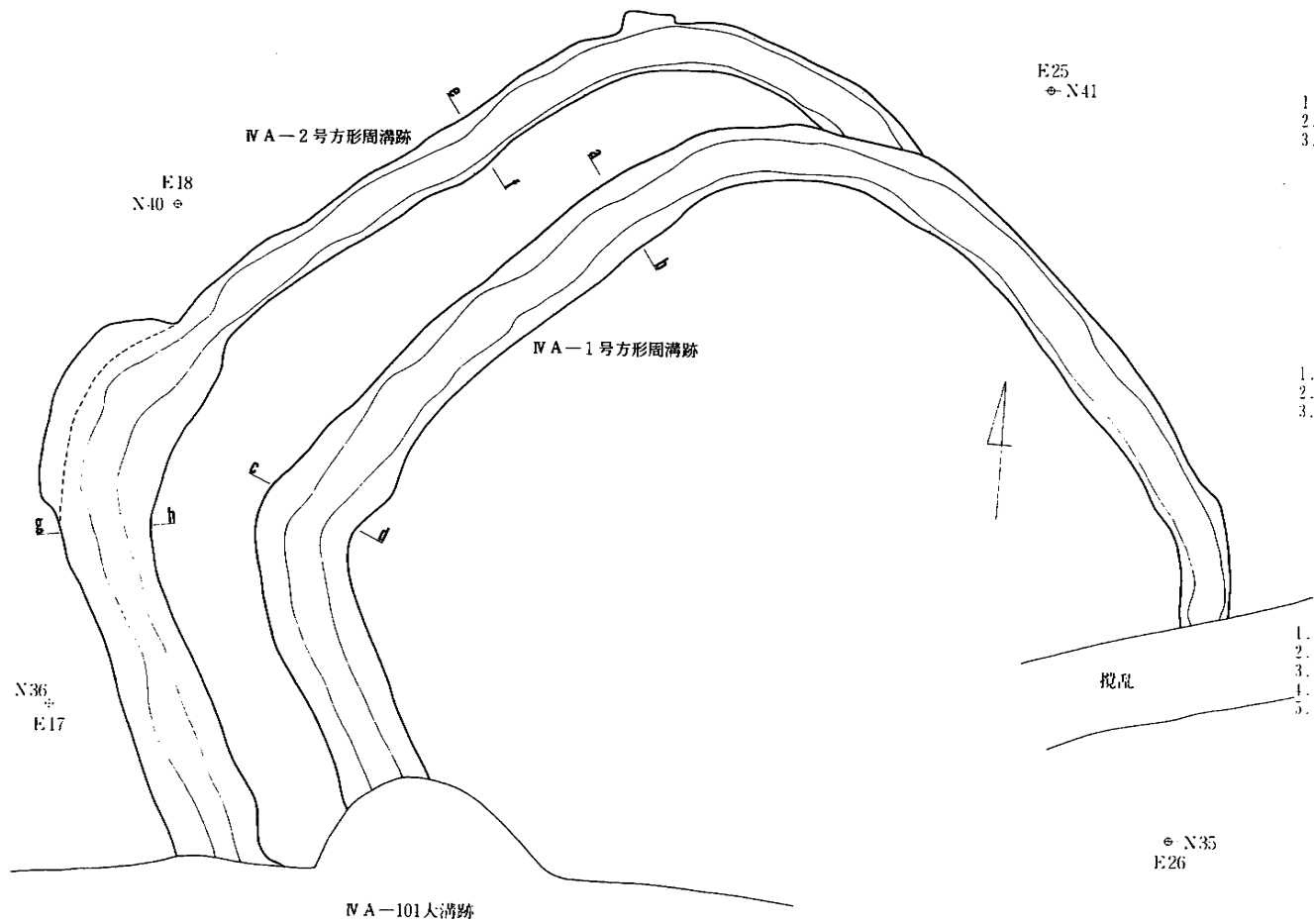
本遺構は調査区中央部の北東端に位置し、北にIV A—2・3・20住居址、西にIV A—5・6住居址が隣接する。検出面は基本層序第III層である。本遺構はIV A—2方形周溝跡を切り、南側をIV A—101大溝跡に切られている。

残存部から形状は外径7.2m前後の方形と推定され、溝幅は開口部50cm～60cm・底部20cm～35cmで、深さは10cm～40cmである。溝の横断面形は半円状またはu字状を呈する。埋土は上部が十和田a降下火山灰がブロック状で混入する黒色～黒褐色土、下部は中礫浮石の混入する黒褐色砂質シルトで構成される。

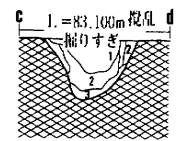
埋土からロクロ不使用の土師器坏形土器の口縁部片(874)と甕形土器の底部片が出土している。874は内外面がヘラミガキ調整され更に内面を黒色処理しているものである。体部に段をもつものと思われる。875は外面がヘラケズリ調整されたものである。



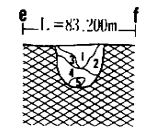
图版94：II A-1号方形周溝跡



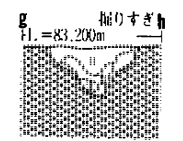
- 1. 黒褐色 10YR 7.5 シルト (含土和山降下火山灰)
- 2. 黒色 10YR 5 砂質シルト (含土和山降下火山灰)
- 3. 黒褐色 7.5YR 7 砂質シルト



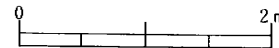
- 1. 黒褐色 10YR 7 砂質シルト (含土和山降下火山灰)
- 2. 黒褐色 7.5YR 7 砂質シルト (含土和山降下火山灰)
- 3. 黒褐色 10YR 7 砂質シルト



- 1. 黒褐色 10YR 7 シルト (含土和山降下火山灰)
- 2. 黒褐色 7.5YR 7 砂質シルト (含土和山降下火山灰)
- 3. 黒褐色 7.5YR 7 砂質シルト
- 4. 黒褐色 10YR 7 砂質シルト
- 5. 黒色 10YR 7 砂質シルト (含土和山降下火山灰)



- 1. 黒褐色 10YR 7 シルト (含土和山降下火山灰)
- 2. 黒色 10YR 7 砂質シルト (含土和山降下火山灰)
- 3. 黒褐色 10YR 7 砂質シルト



図版95：IV A-1・2方形周溝跡

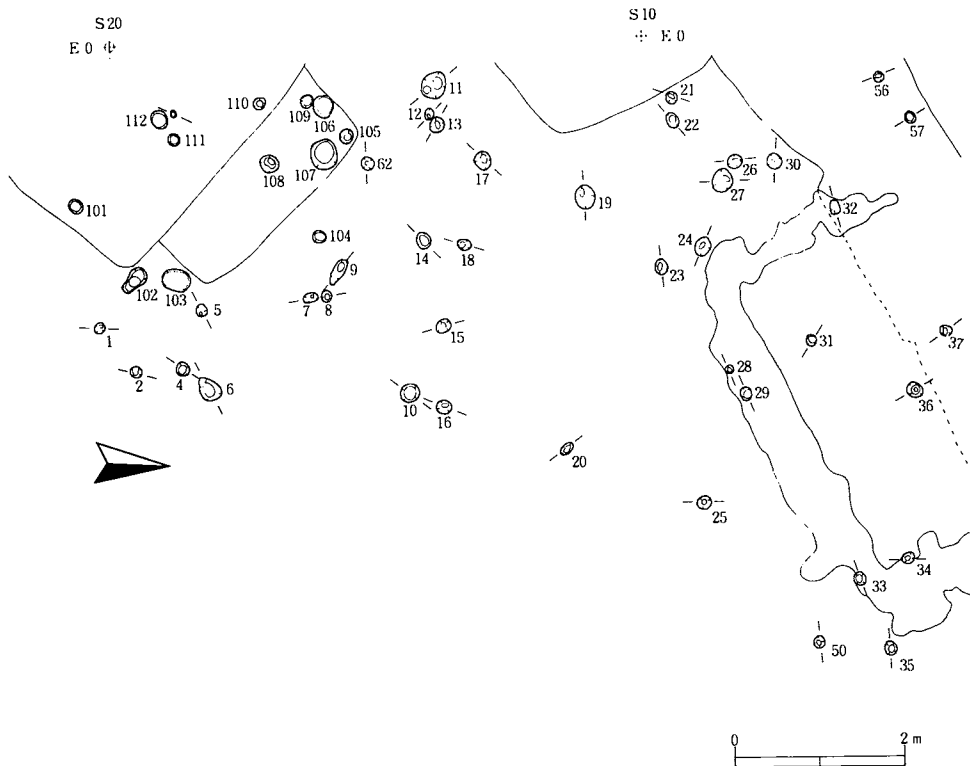
IV A—2号方形周溝跡 (図版—95, 写真図版—91)

本遺構は調査区中央部の北東端に位置する。検出面は基本層序第III層である。本遺構は東側をIV A—1号方形周溝跡に切れ、南側をIV A—101大溝跡に切られている。

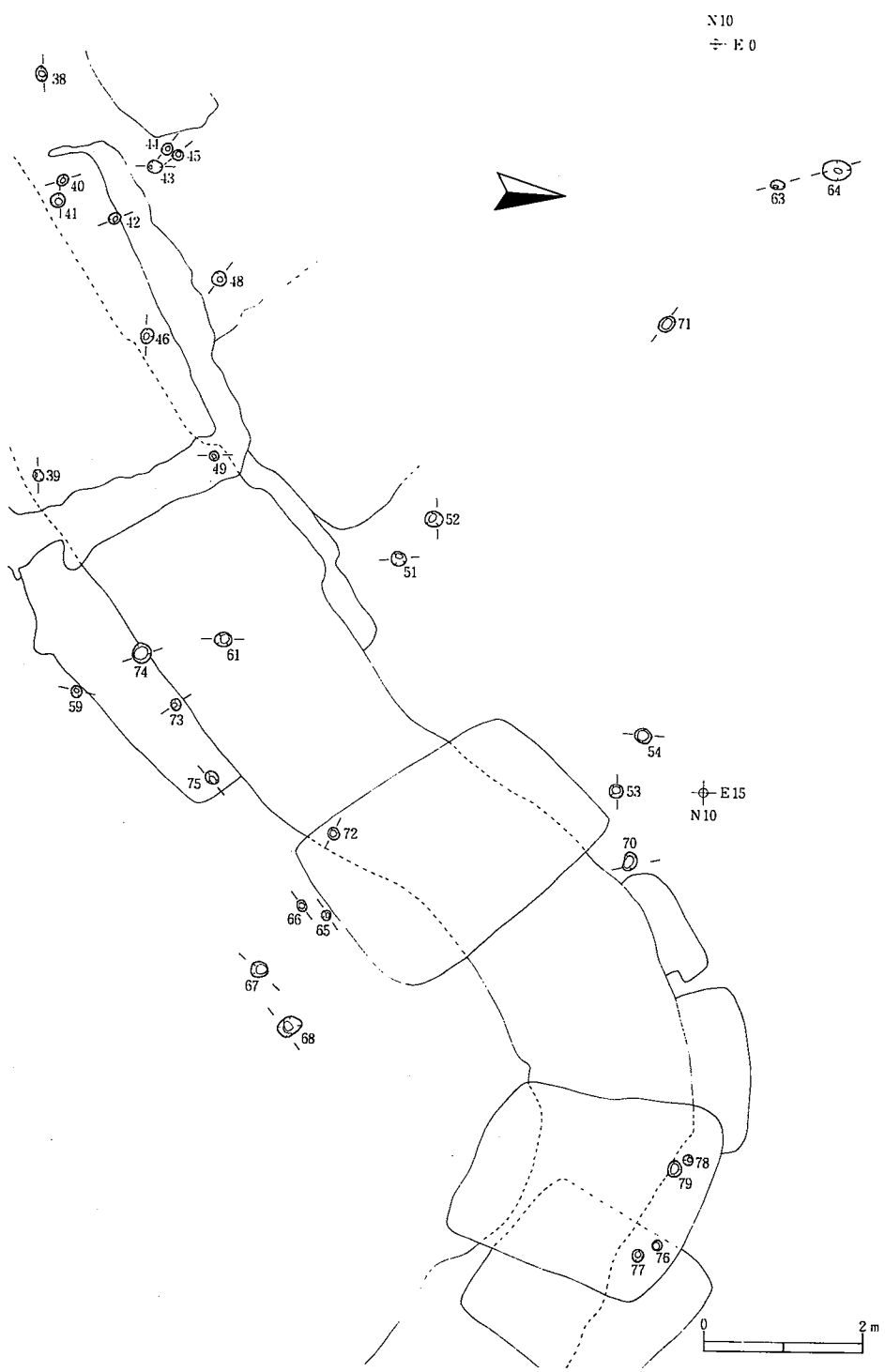
残存部から形状は外径8.4m前後の方形と推定され、溝幅は開口部40cm~70cm、底部20cm~30cmで、深さは10cm~45cmである。溝の横断面形はV字状、U字状または半円状を呈する。埋土は上部が十和田a 降下火山灰がブロック状で混入する黒色~黒褐色土、下部は中礫浮石が混入する黒褐色砂質シルトで構成される。出土遺物はない。

6. 柱穴群

調査区南側の西半分に多くの柱穴状ピットが検出されている。径20~40cm、深さ20~50cmの規模である。所属する時期は平安時代後期以降から近代までのものと思われる。掘立柱建物跡をなすようなまとまった柱穴配置をもつものは見つけれなかった。



図版96：Ⅱ・Ⅲ区柱穴群(1)



图版97：Ⅱ·Ⅲ区柱穴群(2)

V 遺構外出土遺物

縄文時代の土器、石器、古代の土師器、須恵器、古代・中世の鉄製品、近世の貨幣などが出土している。明らかに古代と考えられる遺構から出土した縄文時代の土器、石器は、遺構外出土の縄文時代の遺物といっしょに取り扱った。縄文土器は縄文時代後期、晩期に属するものが中心である。土師器、鉄器は平安時代のものが大半である。

縄文時代の土器（図版—172・173、写真図版—143・144）

901・902は沈線で区画された帯縄文をもち、下位の無文の地文に弧状の沈線が施文されている体部片である。903・904は単節の斜縄文の地文に横位の沈線が施されている口縁部片と体部片である。905は無文の地文にS字状の沈線文が施されている体部片、906は無文の地文に平行沈線文を施し沈線上にボタン状の貼り付け瘤がみられる体部片である。907は壺形土器の体部片で楕円状の平行沈線が施文されている。908・909は半肉彫りの文様が施されている口縁部片である。910～916は網目状撚糸文が施されている深鉢形土器の口縁部片、体部片である。917～923は単節斜縄文（917・918・923はRL、そのほかはLR）を地文とする粗製深鉢形土器の口縁部片である。924、925は羽状縄文が施されている口縁部片である。926～929は底部片で、地文は927が無文、926・928・929が単節（LR）斜縄文である。

901～906、910～916は縄文後期前葉、907～909は晩期中葉、924・925は後期、917～923は晩期に位置づけられると思う。

古代の土器（図版—174・175、写真図版—144～146）

930～954は土師器、934、955～958は須恵器である。ロクロ使用のものは934、954・958のみである。930、932、933、945は奈良時代、931、934～958は平安時代に属するものと思われる。

930は体部上位に軽い段をもつ口縁部片で、外面はヘラナデ、ヘラケズリ後ヘラミガキ、内面はヘラミガキ後、黒色処理されている。932は口縁部がやや内弯している破片である。931は外面をヘラケズリ後、一部ヘラミガキ、内面をヘラナデで施されている。933は高環形土器の脚部である。外面はヘラケズリ後ヘラミガキ、内面はヘラミガキで調整されている。環部内面はヘラナデ調整である。

934は須恵器環形土器の口縁部片である。外面はロクロ痕は凹凸が顕著である。936は口縁部が内弯している土師器小型甕形土器である。外面は口縁部周辺を以外はタテ方向のヘラケズリで調整されている。935、937～940、942は口縁部が極端に短く外反している破片である。外

面はヘラケズリで調整されている。937、939は胎土に金雲母が多く混じる。941は短く外反している口縁部片である。943は外面が粗いヘラケズリで調整されている体部片である。

944～952は土師器甕形土器の底部片である。945は内面がヘラミガキ後、黒色処理されている坏形土器の底部片と思われる。946～952は土師器甕形土器の底部片である。948、949の底部外面には木葉圧痕がみられる。

953は把手付土器の体部片である。把手の先端部分が欠損している。把手は体部内面が出張る程押し込む形で付着している。把手も、体部内外面も凹凸があり粗いつくりである。二次的に火熱を受けている。外面は粗いヘラケズリで調整されている。954はロクロ使用の土師器小型壺形土器である。口縁部上半が欠損している。ロクロからの切り離しは回転糸切りである。体部外面及び口縁部内外面は丁寧なヘラミガキで調整され、色調が赤褐色を帯びている。

955～958は須恵器である。955～957は外面に叩き目痕をもつ甕形土器の体部片である。957は格子目状の叩き目である。958は壺形土器の体部片で内外面に緩いロクロ痕をもつ。

鉄製品（図版—175・176，写真図版—146）

959は刀子で両端が欠損している。両関造りである。茎に木質部が錆着している。径1.5mmの目釘孔を1個もつ。茎の残存長8.1cm、刀身の残存長6.7cmである。

960は片側が欠損している細長い板状の鉄製品である。残存長15.2cm、最大幅0.5cm、最大厚0.7cmである。

961は両関造りの鉄鏃である。茎の長さ10.8cm、最大幅1.1cm、最大厚0.6cm、残存する身の長さ4.1cm、最大幅1.7cm、最大厚0.6cmである。身の先端は左右非対称の三角状をなしている。

962は直径4.2cmの鉄環である。接合部が2mm程づれてつながっている。環の内径は1.7cmである。用途については不明である。

963・964は穂摘み用手鎌である。963は両端に1個ずつ止め具孔を6つ。刃は使用のために磨滅して凹み状をなしている。長さ9.8cm、最大幅1.9cm、最大厚0.4cmである。964は片側端部で錆のため不明瞭であるが孔を1個もつ。

965は鉄鏃で先端部が欠損している。茎の長さ4.4cm、最大幅0.5cm、最大厚0.4cm。身は曲がっているが、引き伸ばした長さで6.5cmである。最大幅0.7cm、最大厚0.6cm。

966～968、970～972は鉄釘である。969、973は細長い板状の鉄を折重ねられているもので、加工する途中の段階のものであったと思われる。

石器（図版—176・177，写真図版—147・148）

974、975は有柄の石鏃である。石質はチャート質粘板岩である。平安時代の竪穴住居址の埋

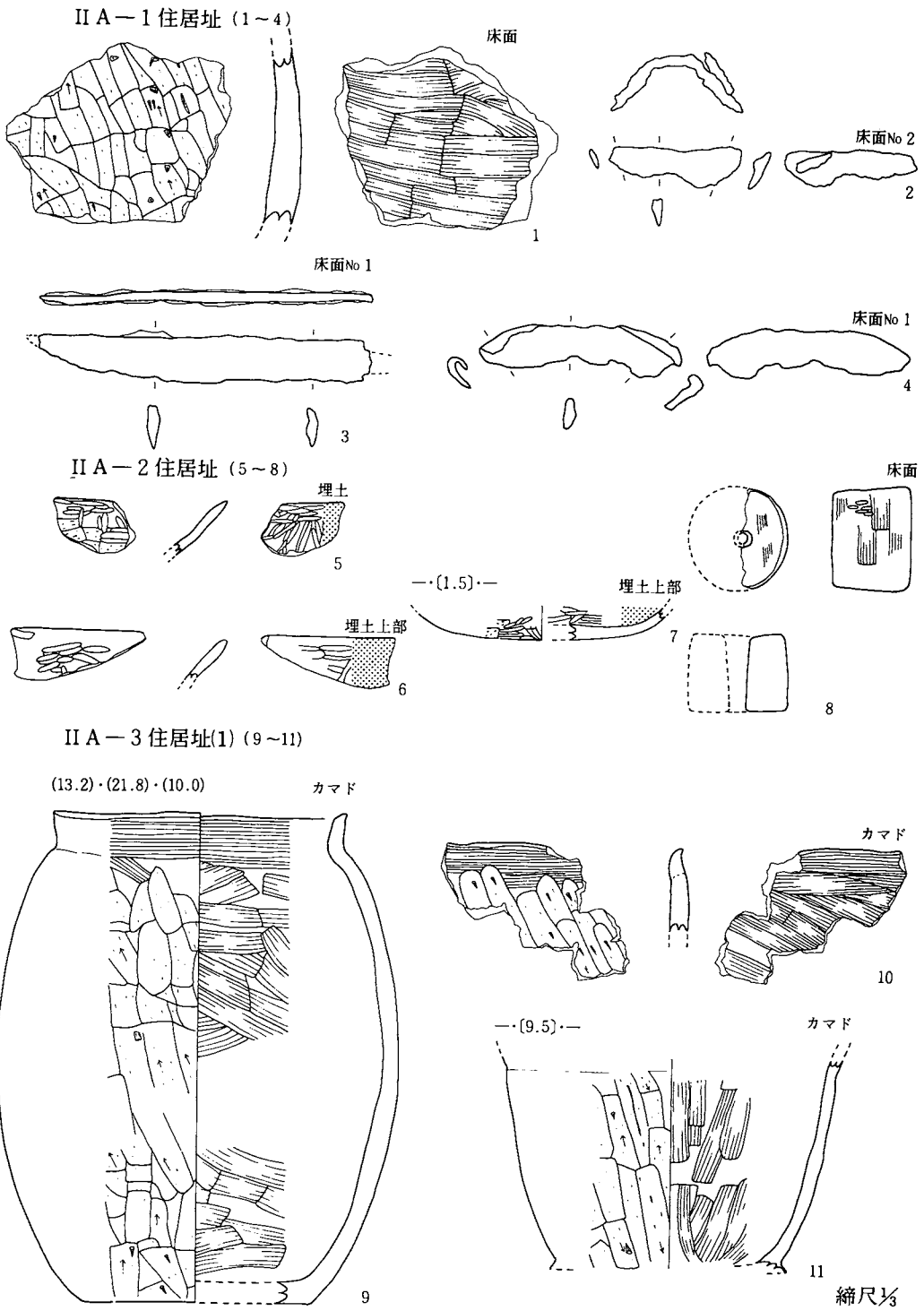
上から出土している。

976はノッチ状の石器である。一縁を両面から調整加工している。977～978は一縁に調整痕のある剥片石器である。石質は3点ともチャート質粘板岩である。

979、981、982は磨石である。石質は輝石安山岩である。980は打製石斧で、石質は輝石粉岩である。

古銭（図版—177，写真図版—148）

983は調査区北側のIV A—10住居址北壁近くの遺構外のII層から出土した「寛永通宝」である。



図版98：遺構内出土遺物

IIA-3住居址2) (12~23)

(6.0)・(4.2)・

埋土下部



12

カマド脇埋土下部



13

埋土上部



14

埋土下部



15

埋出し口埋土



埋土

16



17

埋土上部



18

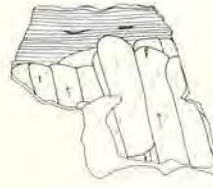
一(1.5)・(6.4)

埋土下部



19-a

埋土下部



20



19-b

埋土上部



21

埋土上部



23

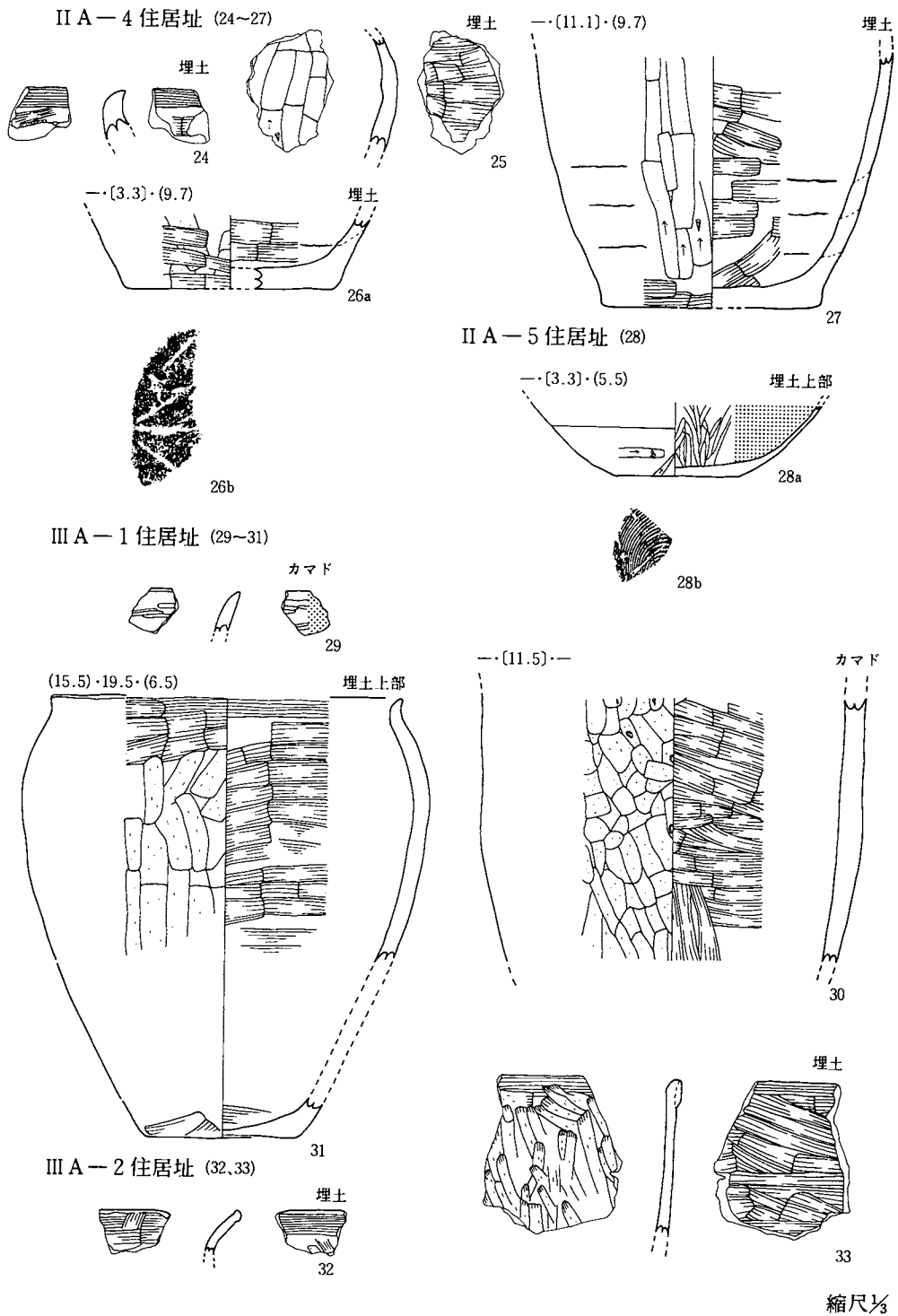
床面



22

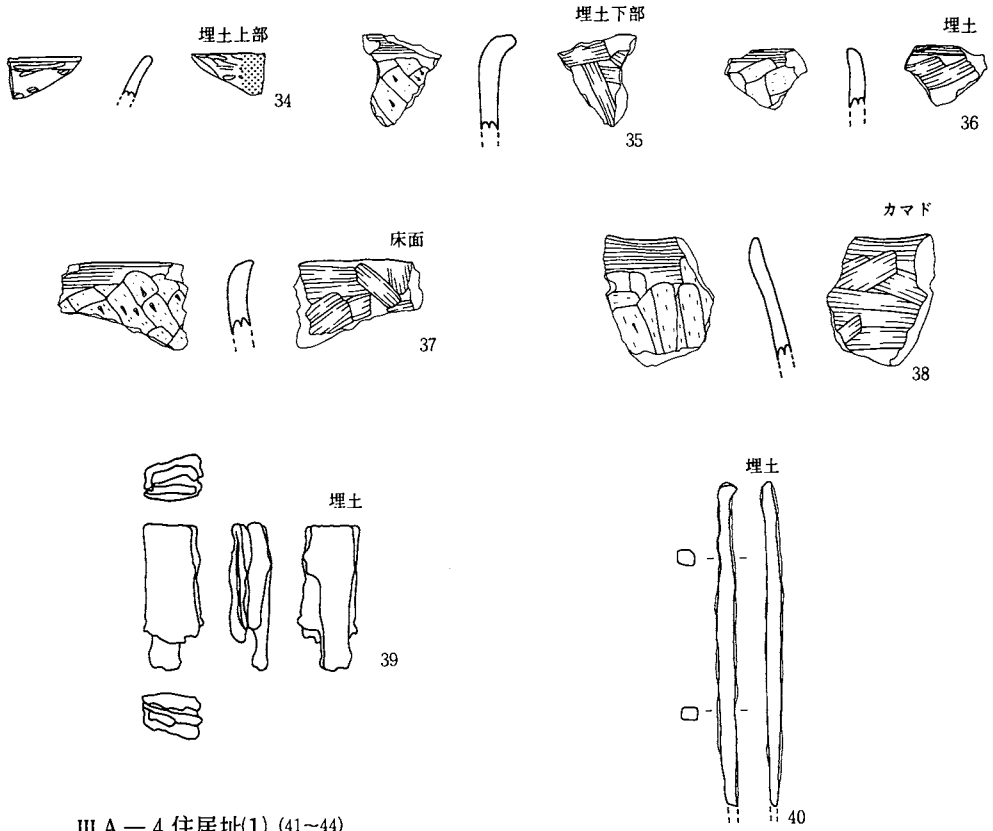
縮尺1/4

図版99：遺構内出土遺物

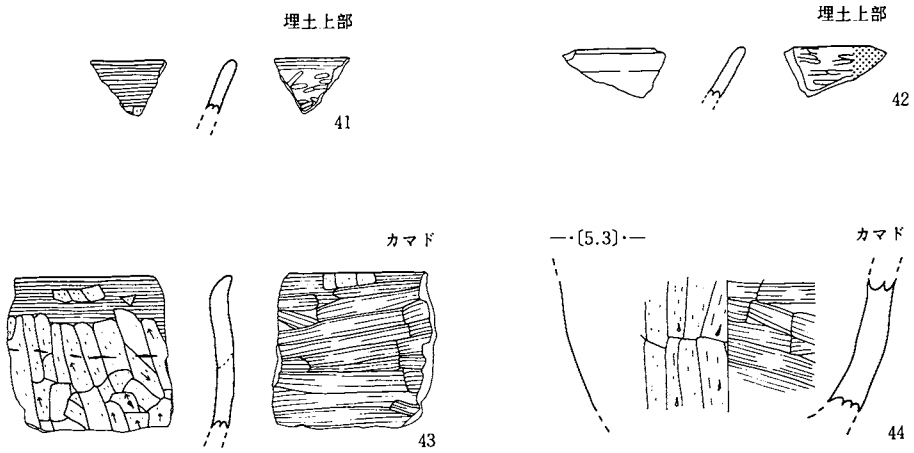


図版100：遺構内出土遺物

III A — 3 住居址 (34~40)



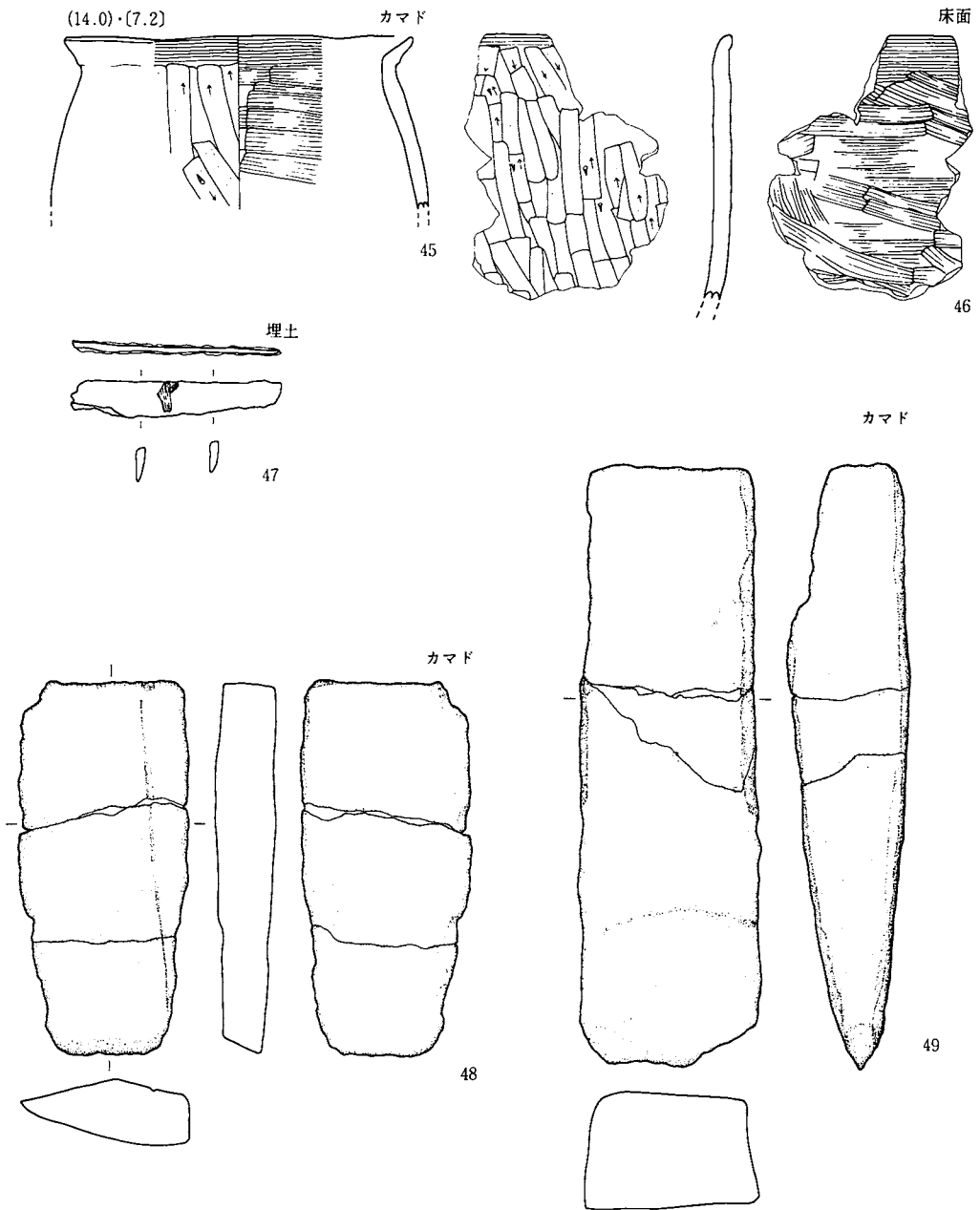
III A — 4 住居址(1) (41~44)



縮尺 $\frac{1}{3}$

図版101：遺構内出土遺物

III A-4 住居址(2) (45~49)

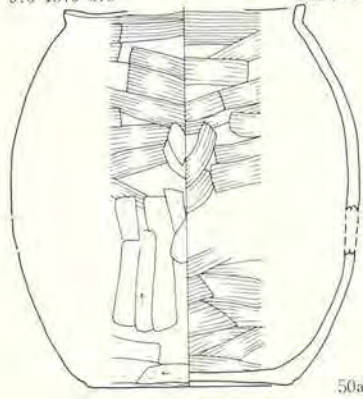


縮尺 $\frac{1}{2}$

図版102：遺構内出土遺物

Ⅲ A - 5 住居址 (50-53)

9.6・15.0・8.0 埋土下部

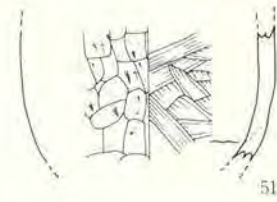


50a



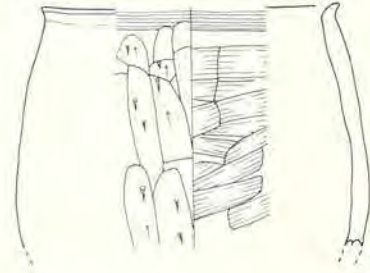
50b

—[5.3]— カマド



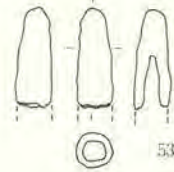
51

(11.8)・(9.6)・— カマド



52

カマド



53

Ⅲ A - 6 住居址(1) (54-57)

床面



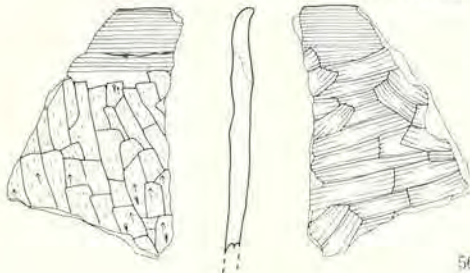
54

カマド脇床面



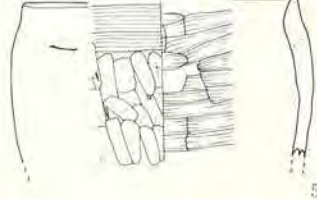
55

カマド脇床面



56

(10.8)・[6.3]— カマド脇床面

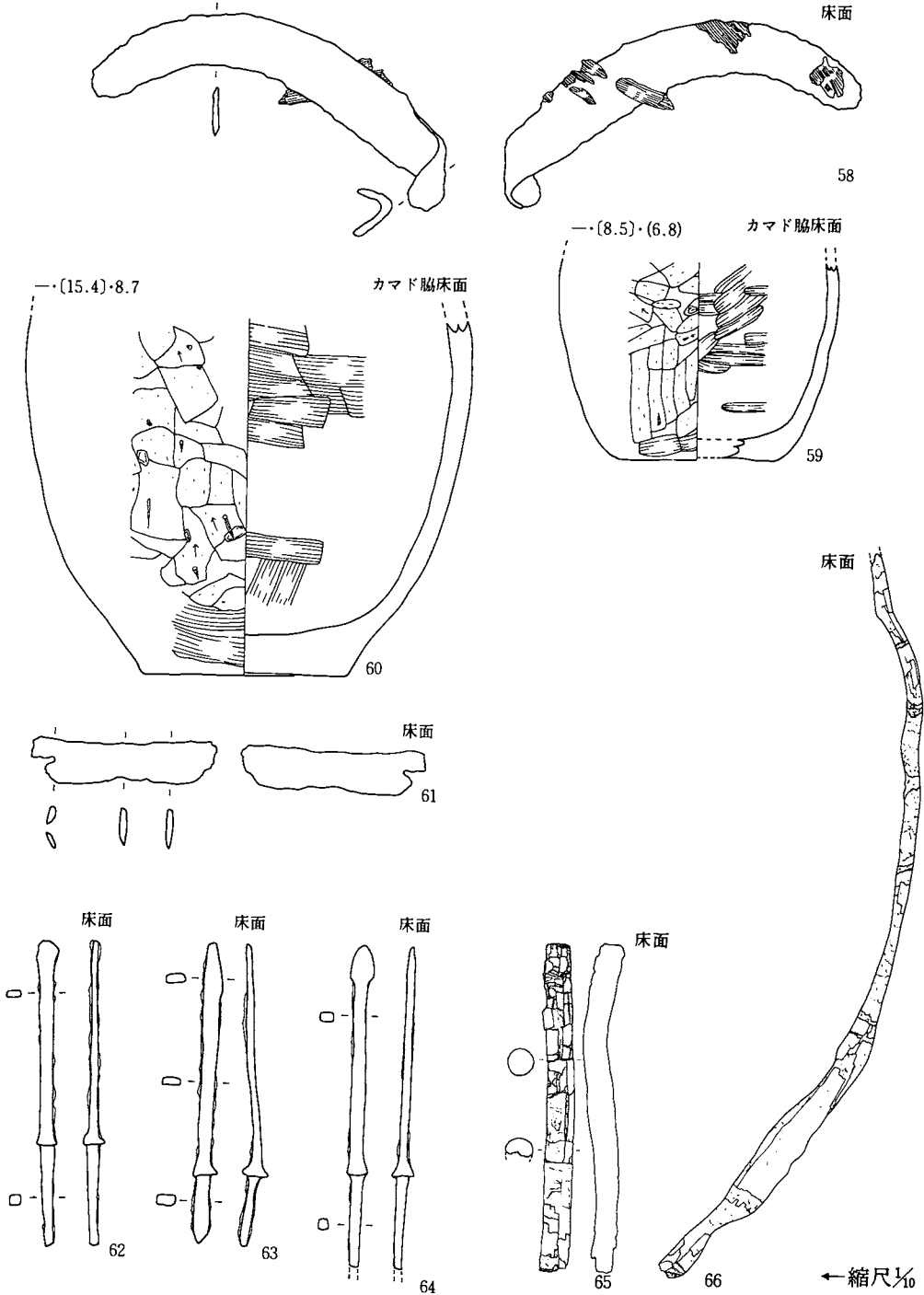


57

縮尺 $\frac{1}{2}$

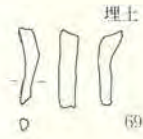
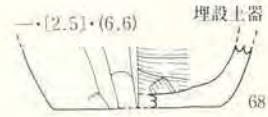
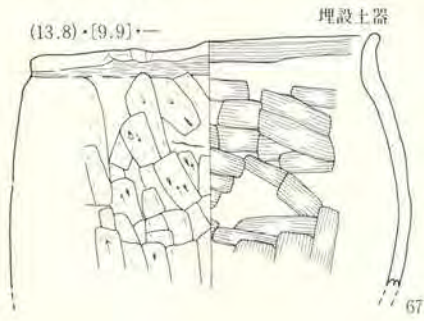
図版103：遺構内出土遺物

III A — 6 住居址(2) (58~66)

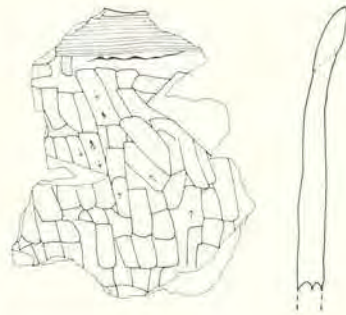
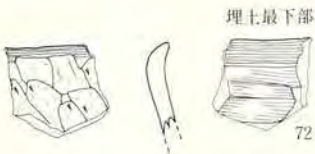
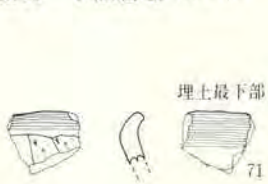


図版104：遺構内出土遺物

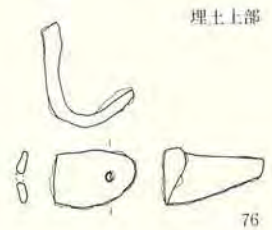
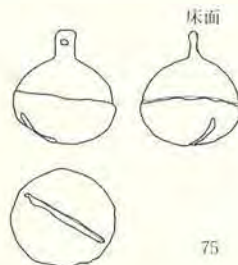
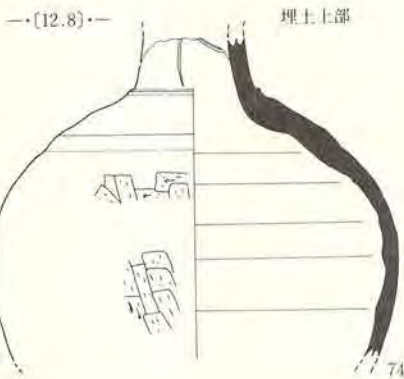
III A—7 住居址 (67~70)



III A—8 住居址 (71~76)



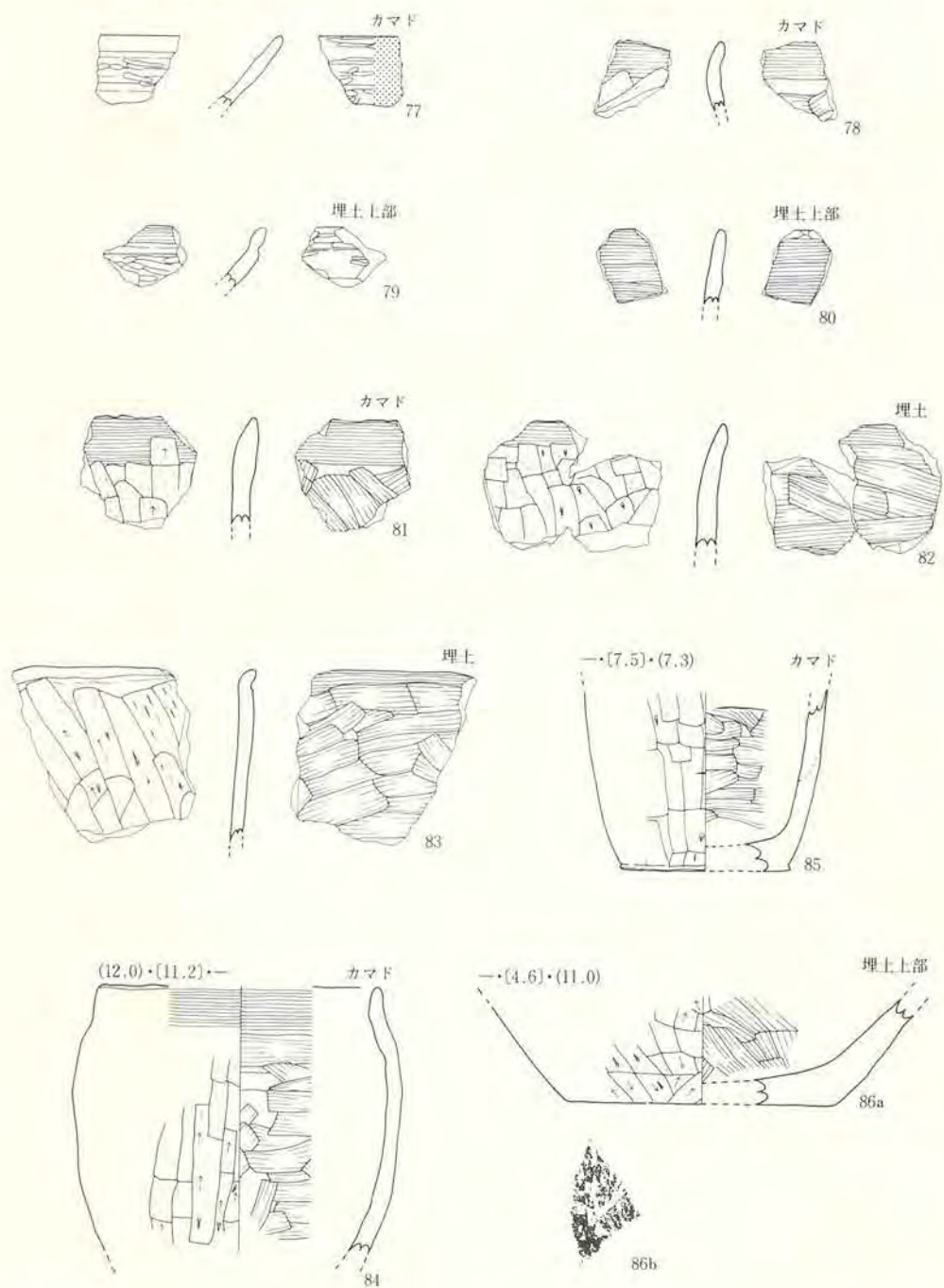
埋土最下部



縮尺 $\frac{1}{3}$

図版105：遺構内出土遺物

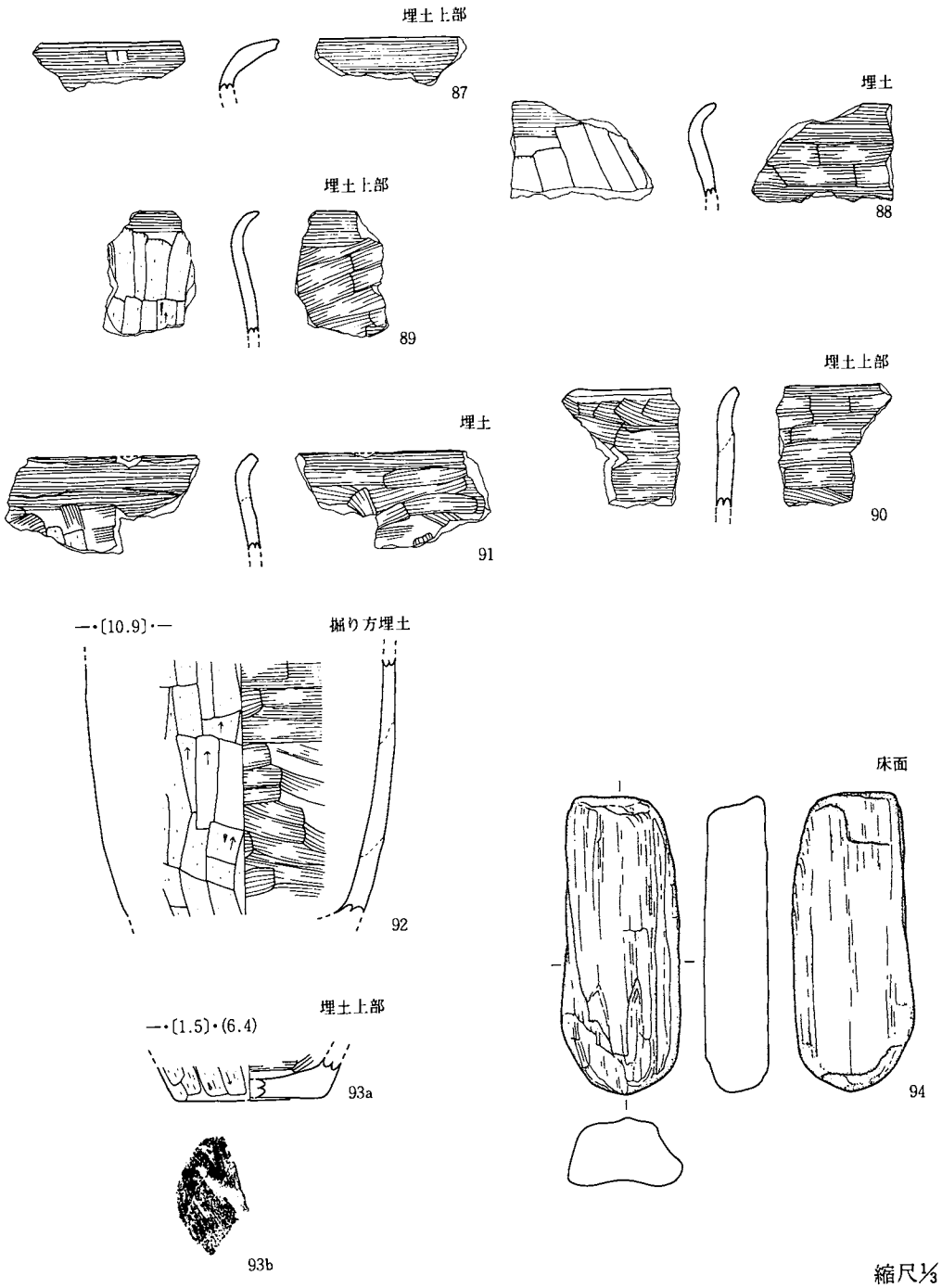
ⅢA-9 住居址(1) (77~86)



縮尺 $\frac{1}{2}$

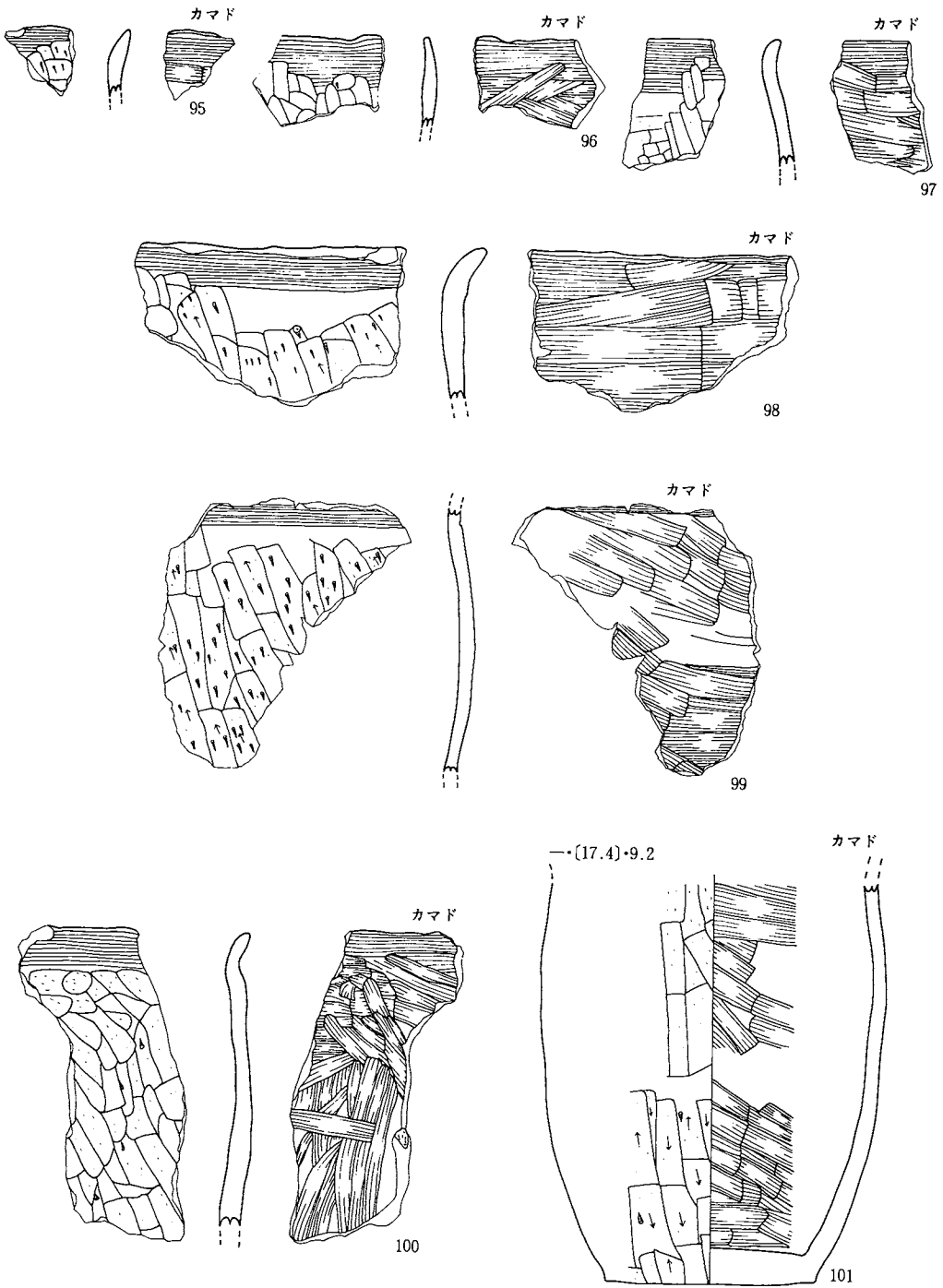
図版106：遺構内出土遺物

III A — 9 住居址(2) (87~94)



図版107：遺構内出土遺物

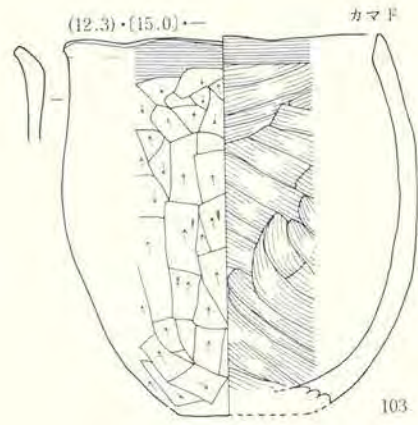
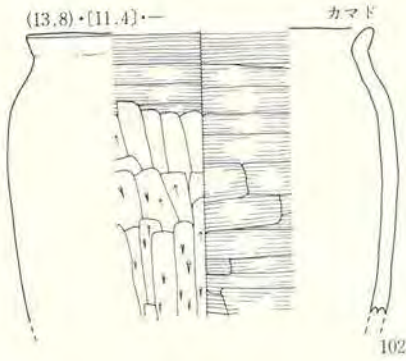
III A—11住居址(1) (95~101)



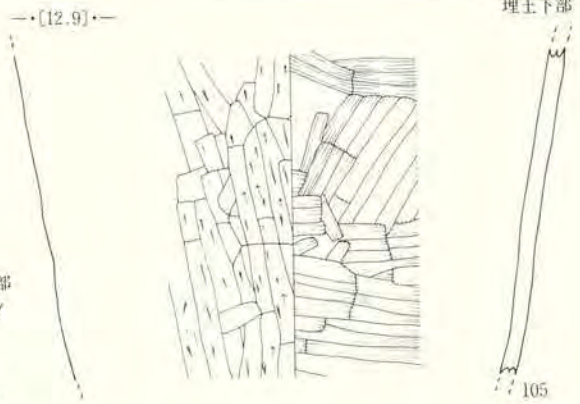
縮尺 $\frac{1}{3}$

図版108：遺構内出土遺物

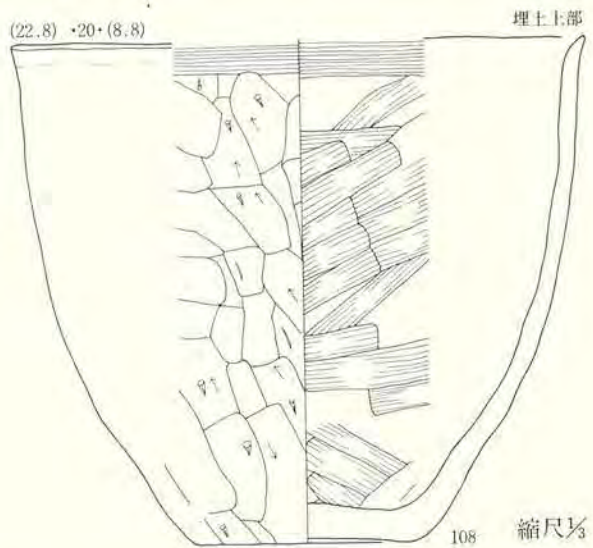
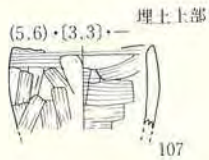
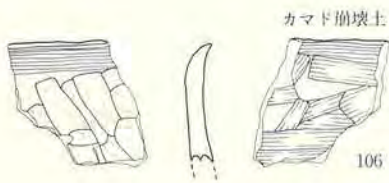
III A—11住居址(2) (102,103)



III A—13住居址 (104,105)

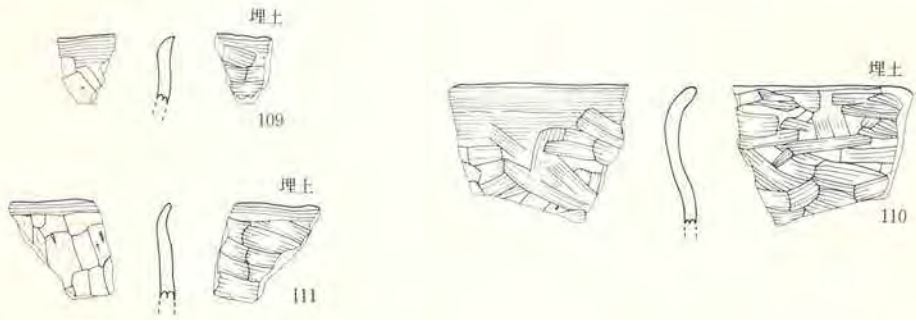


III A—15住居址 (106—108)

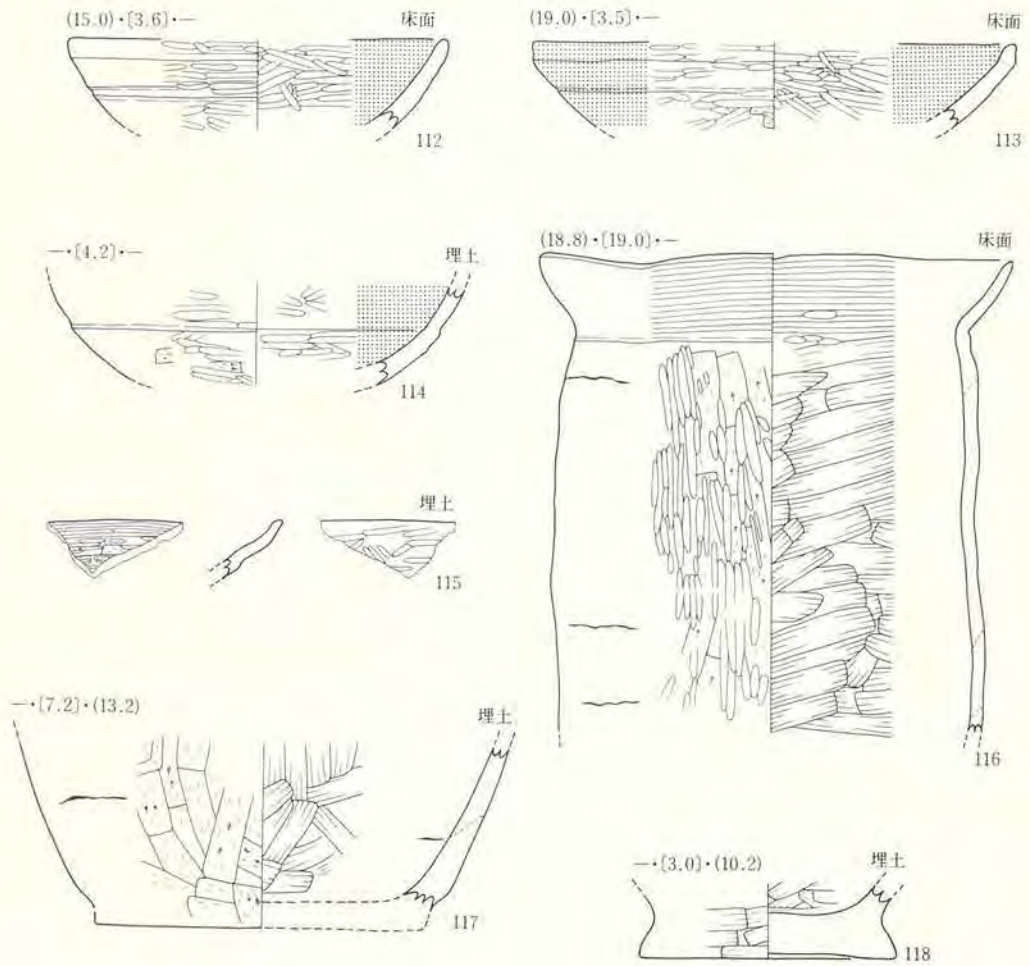


図版109：遺構内出土遺物

III A—16住居址 (109~111)



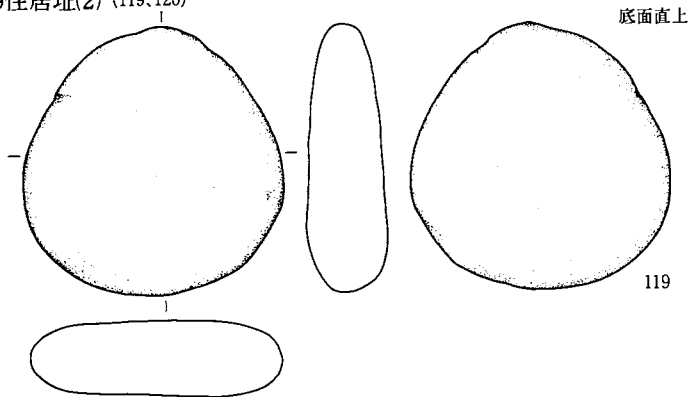
III A—19住居址(1) (113~118)



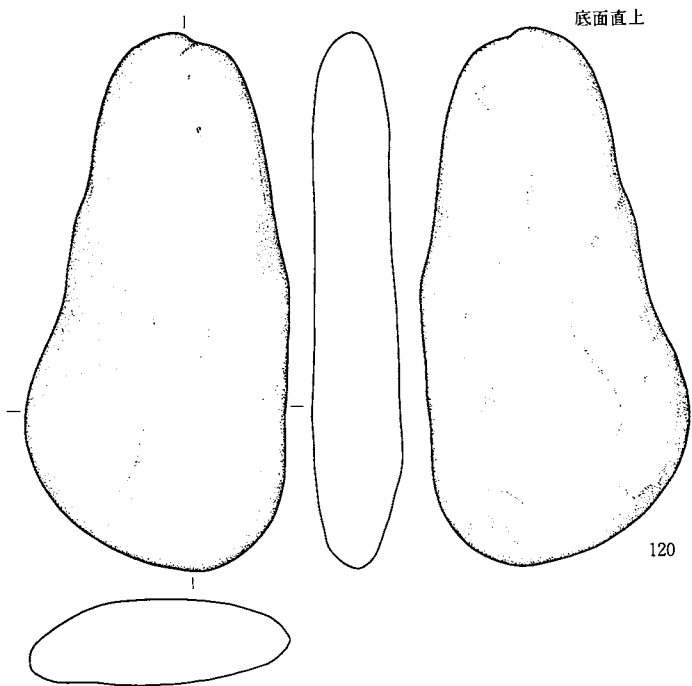
縮尺 $\frac{1}{3}$

図版110：遺構内出土遺物

III A—19住居址(2) (119,120)

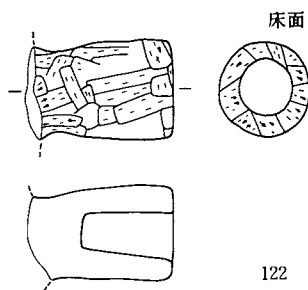


119



120

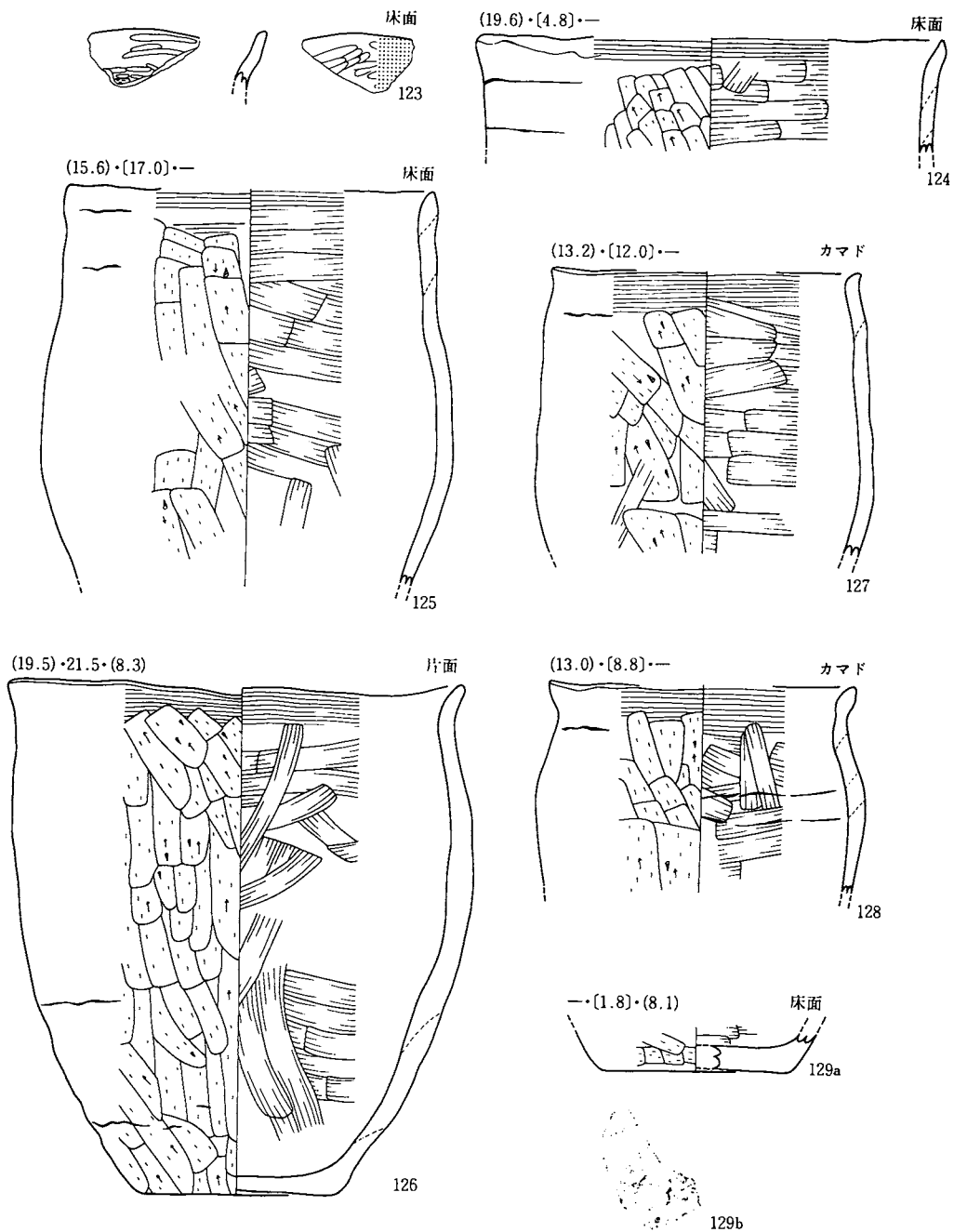
IV A—2住居址 (121,122)



縮尺 $\frac{1}{3}$

図版111：遺構内出土遺物

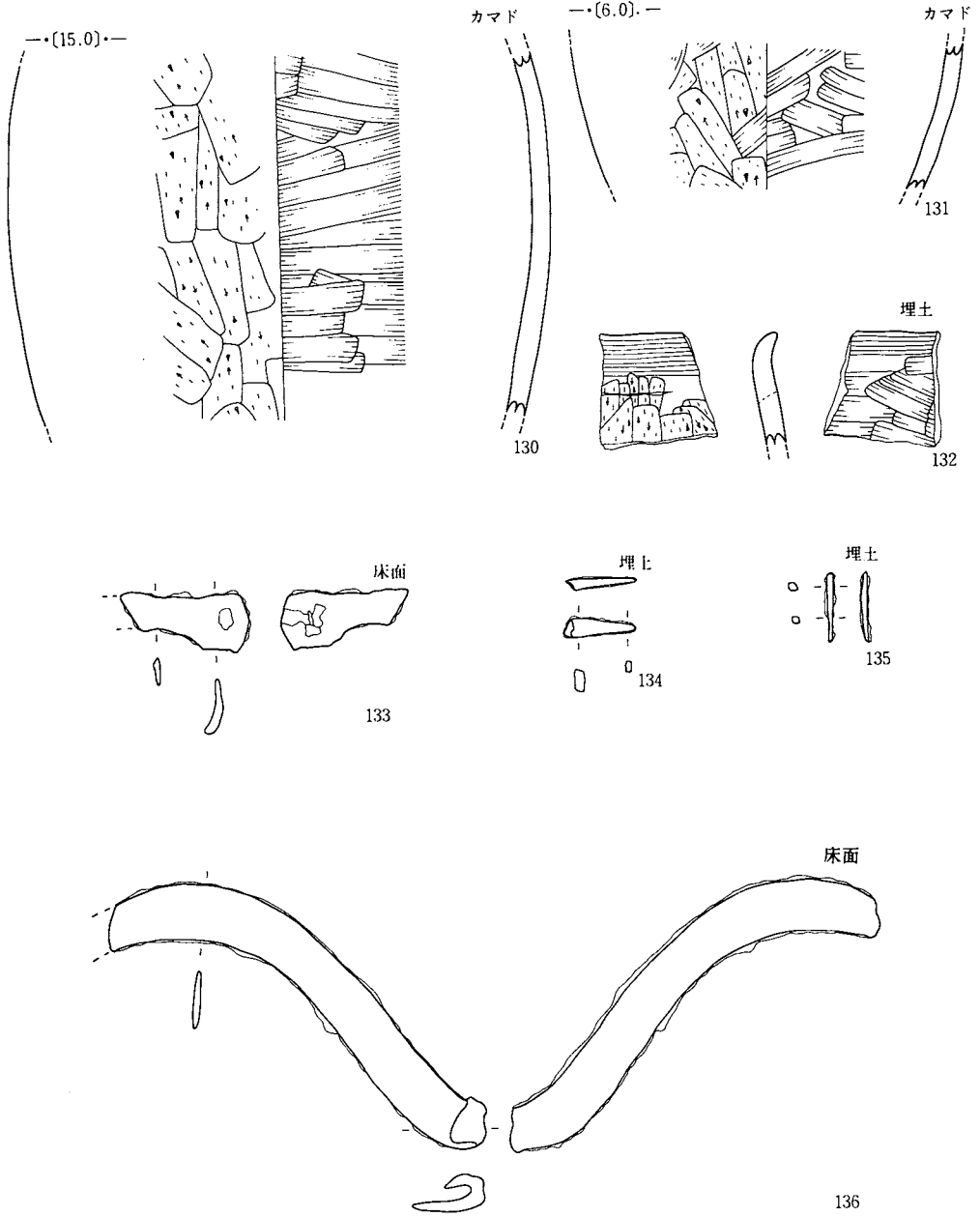
IV A - 3 住居(1) (123~129)



縮尺 $\frac{1}{2}$

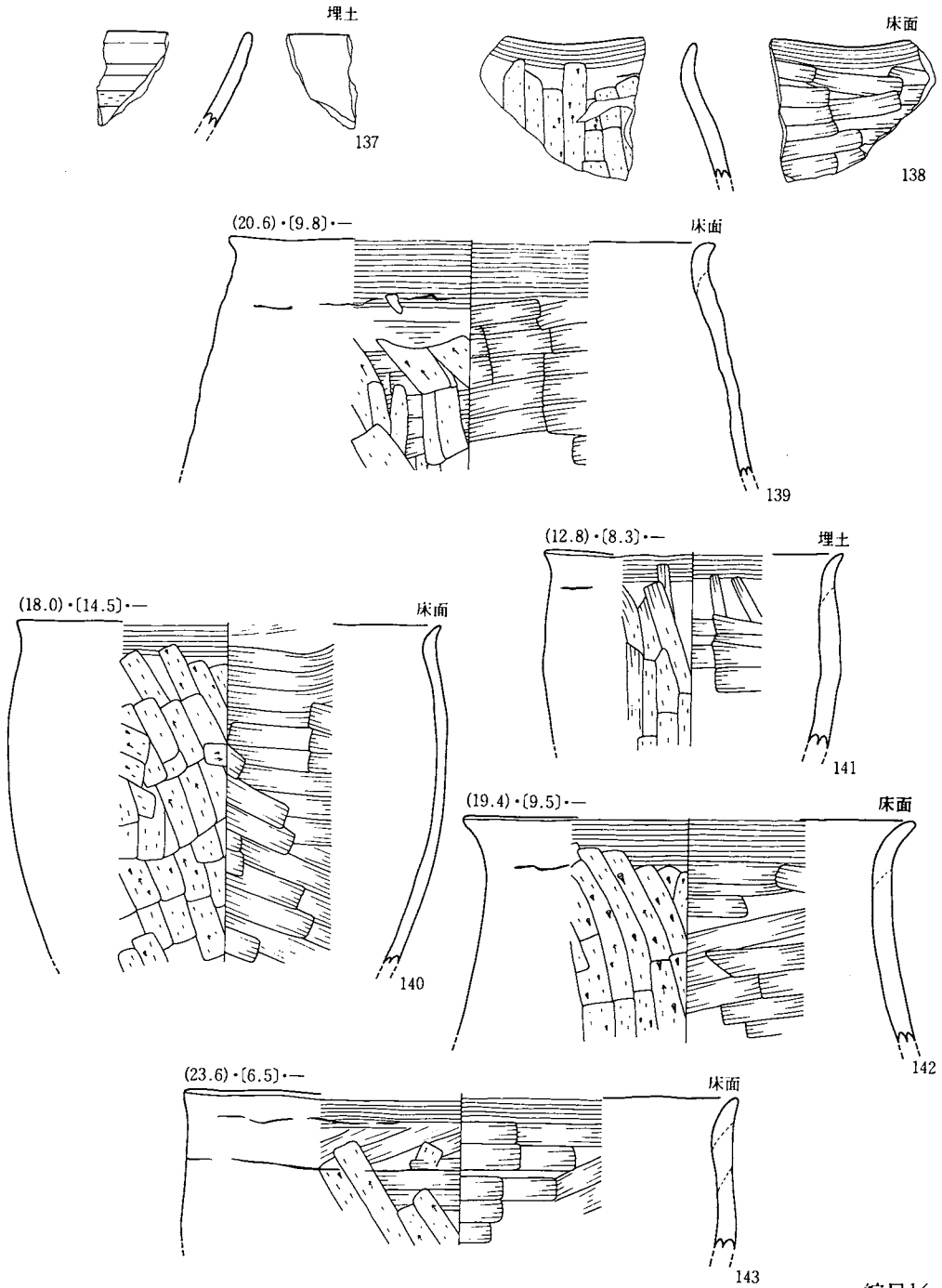
図版112：遺構内出土遺物

IV A - 3 住居址(2) (130~136)



図版113：遺構内出土遺物

IV A—4 住居址 (137~143)

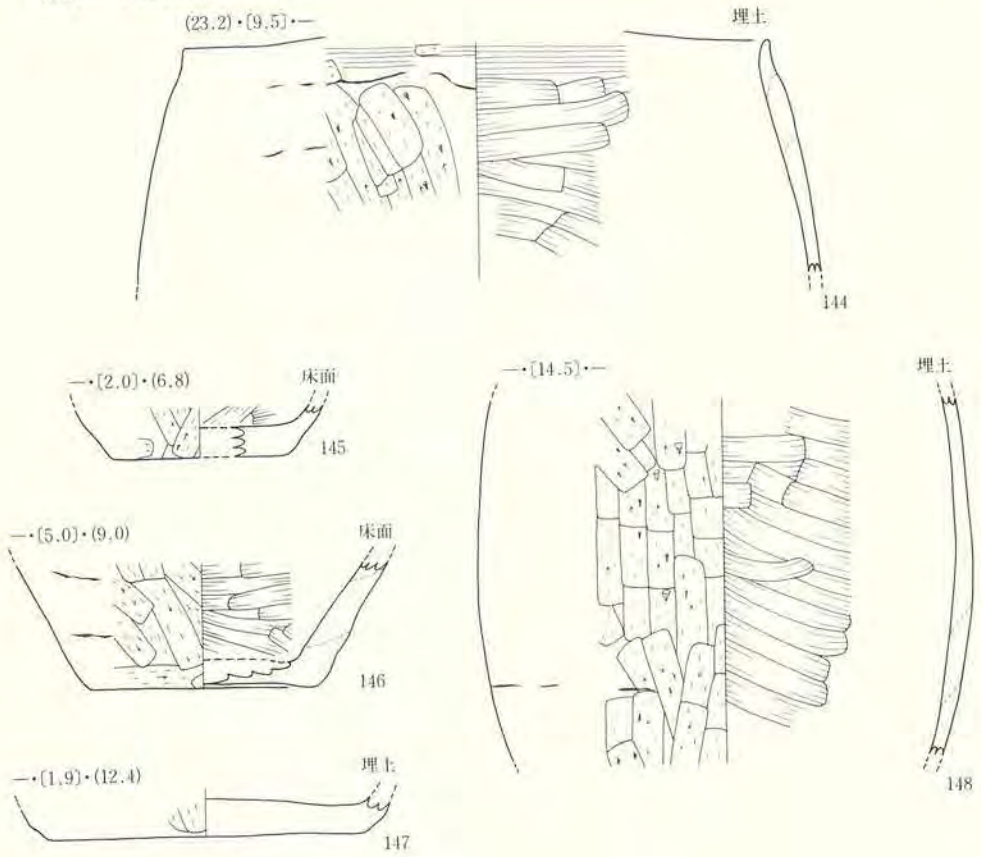


縮尺 $\frac{1}{3}$

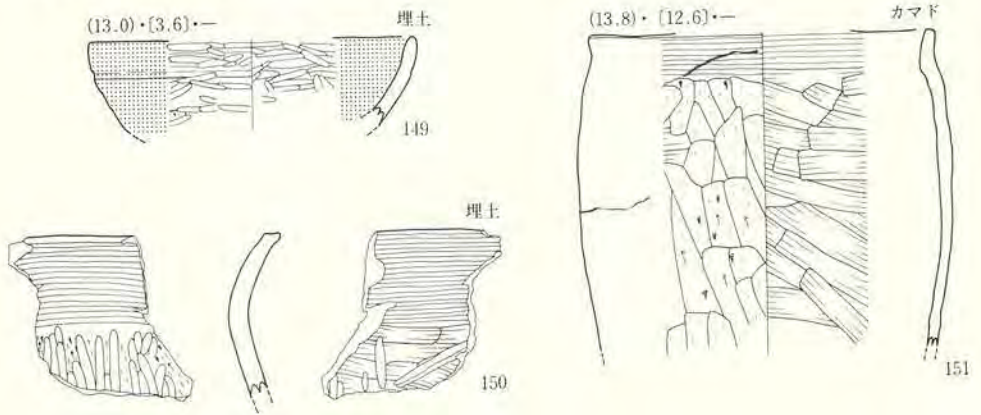
図版114：遺構内出土遺物

IV A - 4 住居址(2) (144-148)

(23.2)・(9.5)・-



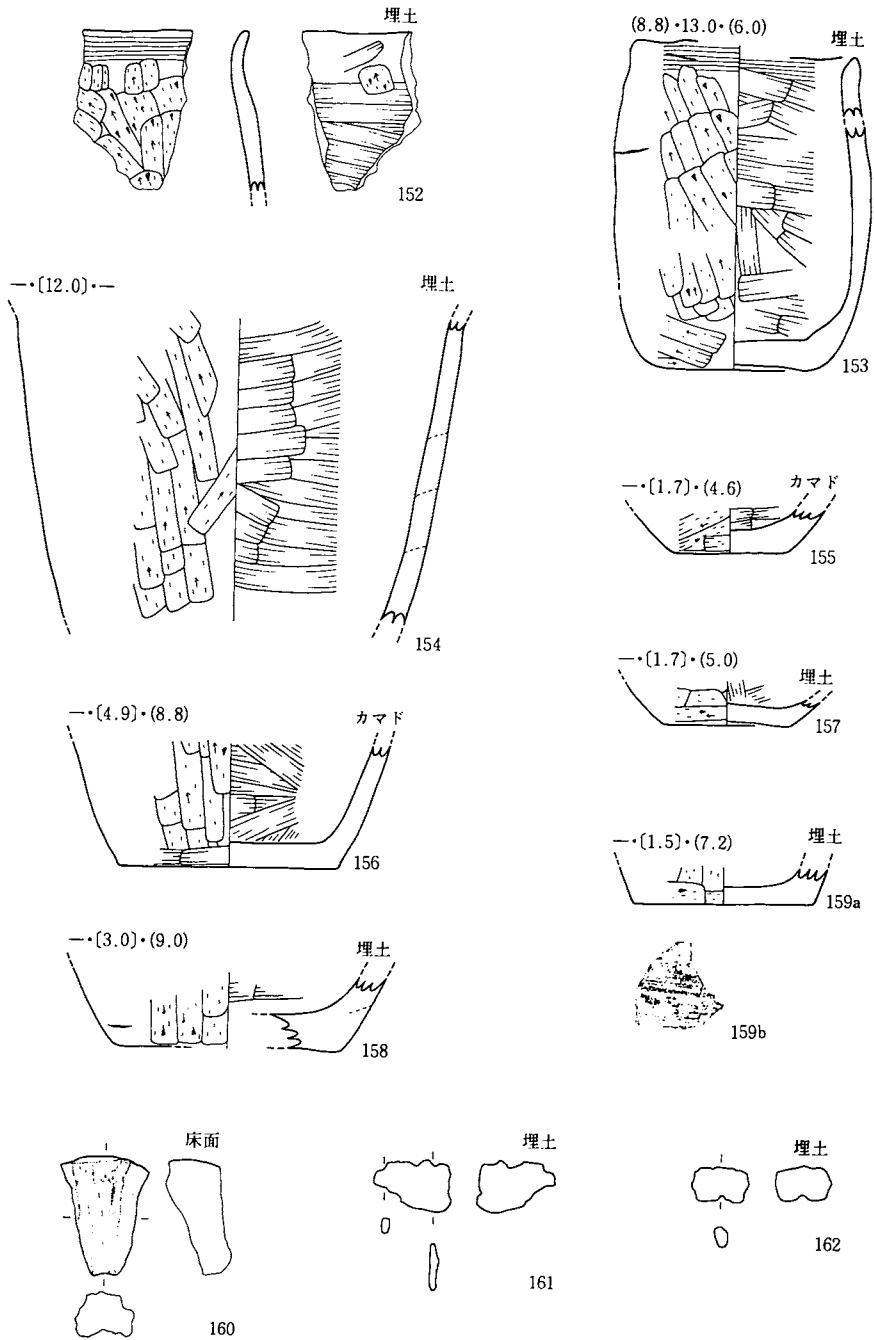
IV A - 5 住居址(1) (149-151)



縮尺 $\frac{1}{3}$

図版115：遺構内出土遺物

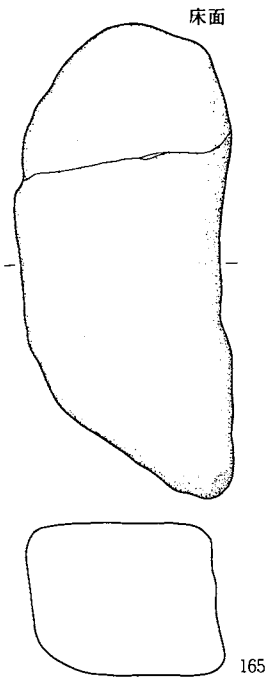
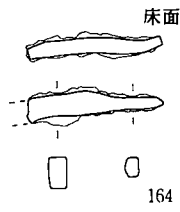
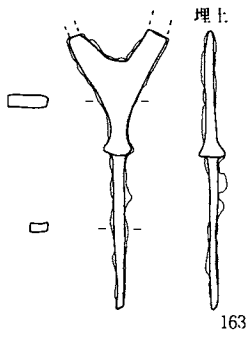
IV A - 5 住居址(2) (152~162)



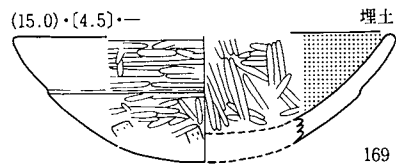
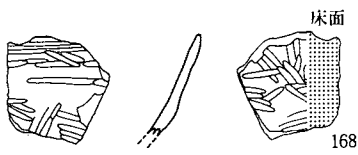
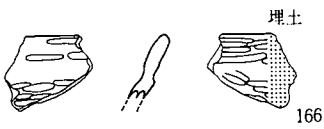
縮尺 $\frac{1}{3}$

図版116：遺構内出土遺物

IV A — 5 住居址(3) (163~165)



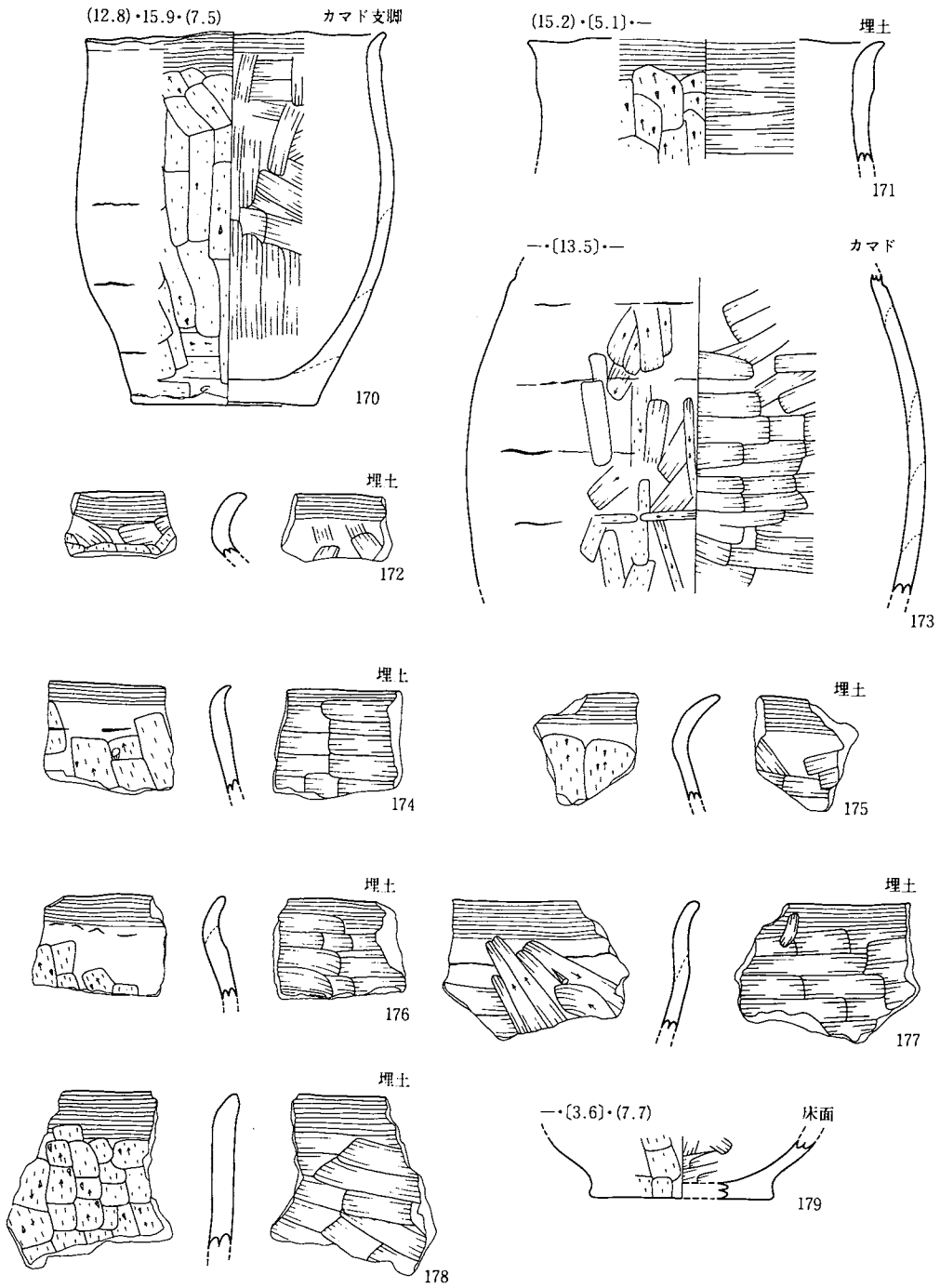
IV A — 6 住居址(1) (166~169)



縮尺 $\frac{1}{3}$

図版117：遺構内出土遺物

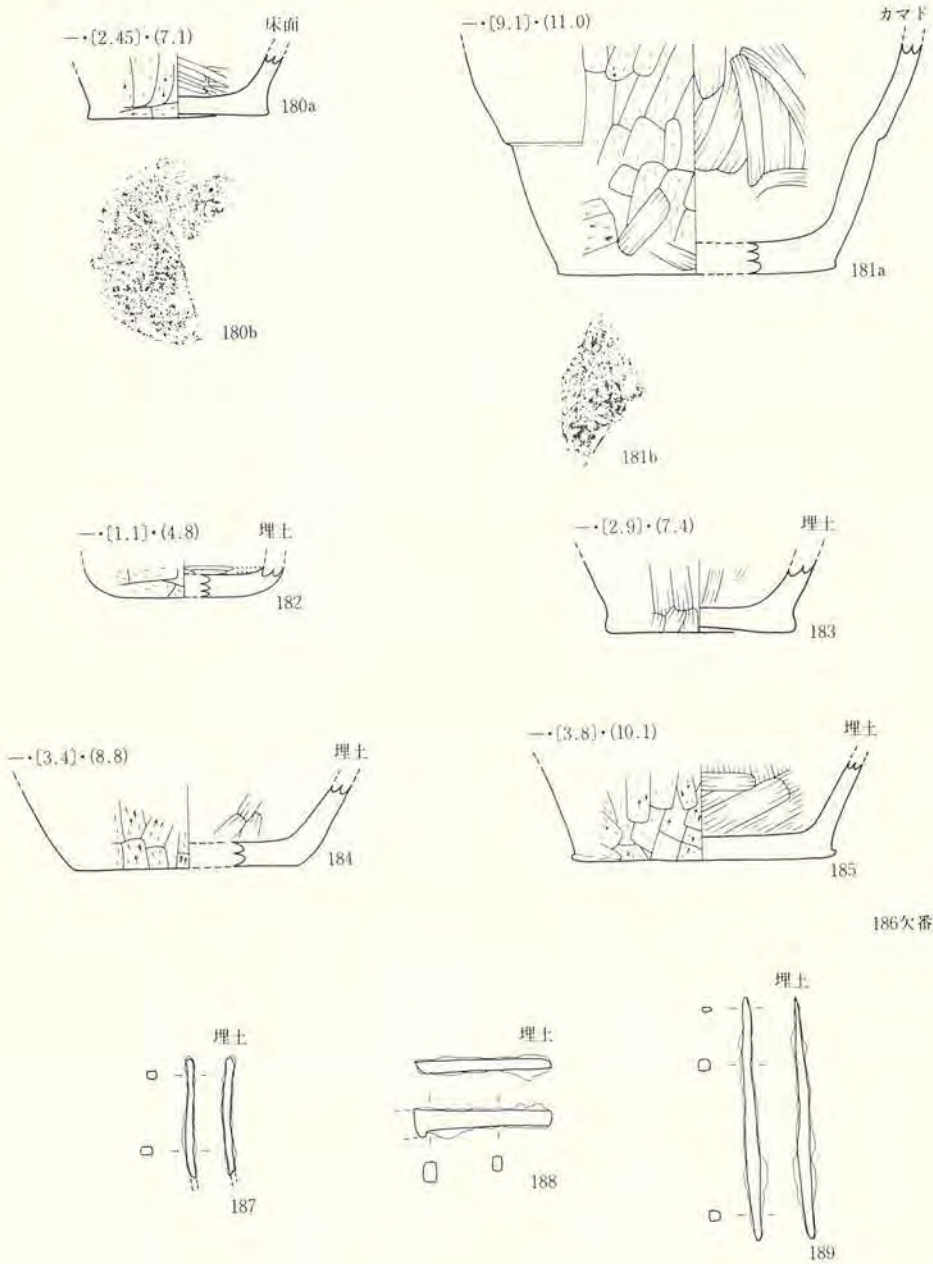
IV A - 6 住居(2) (170~179)



縮尺 $\frac{1}{2}$

図版118：遺構内出土遺物

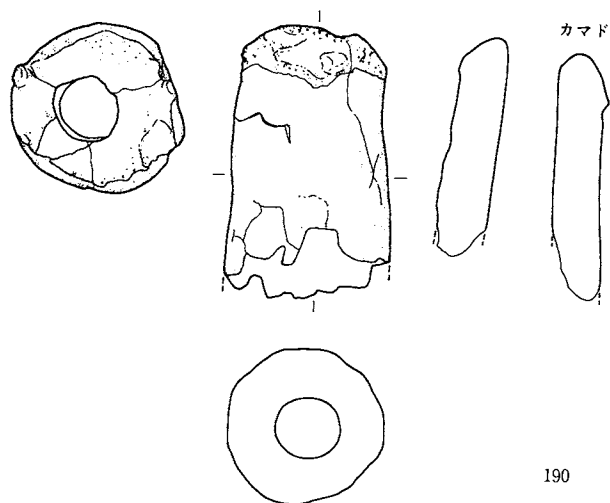
IV A—6 住居址(3) (180—189)



縮尺 1/5

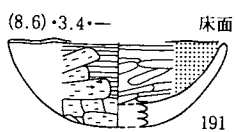
図版119：遺構内出土遺物

IV A—6 住居址(4) (191)

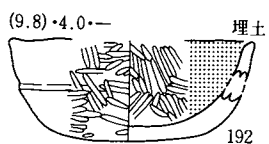


190

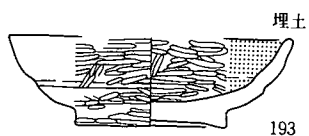
IV A—7 住居址(1) (191~195)



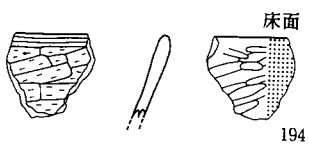
191



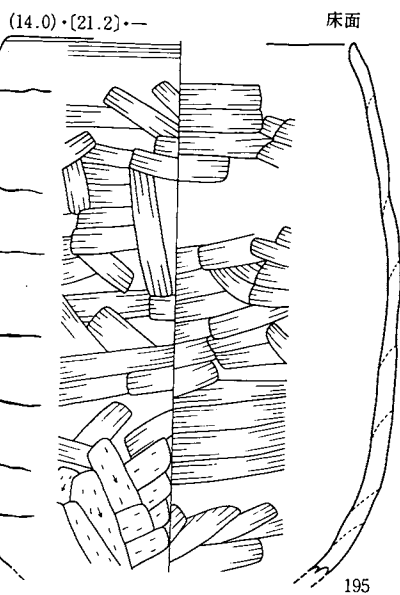
192



193



194

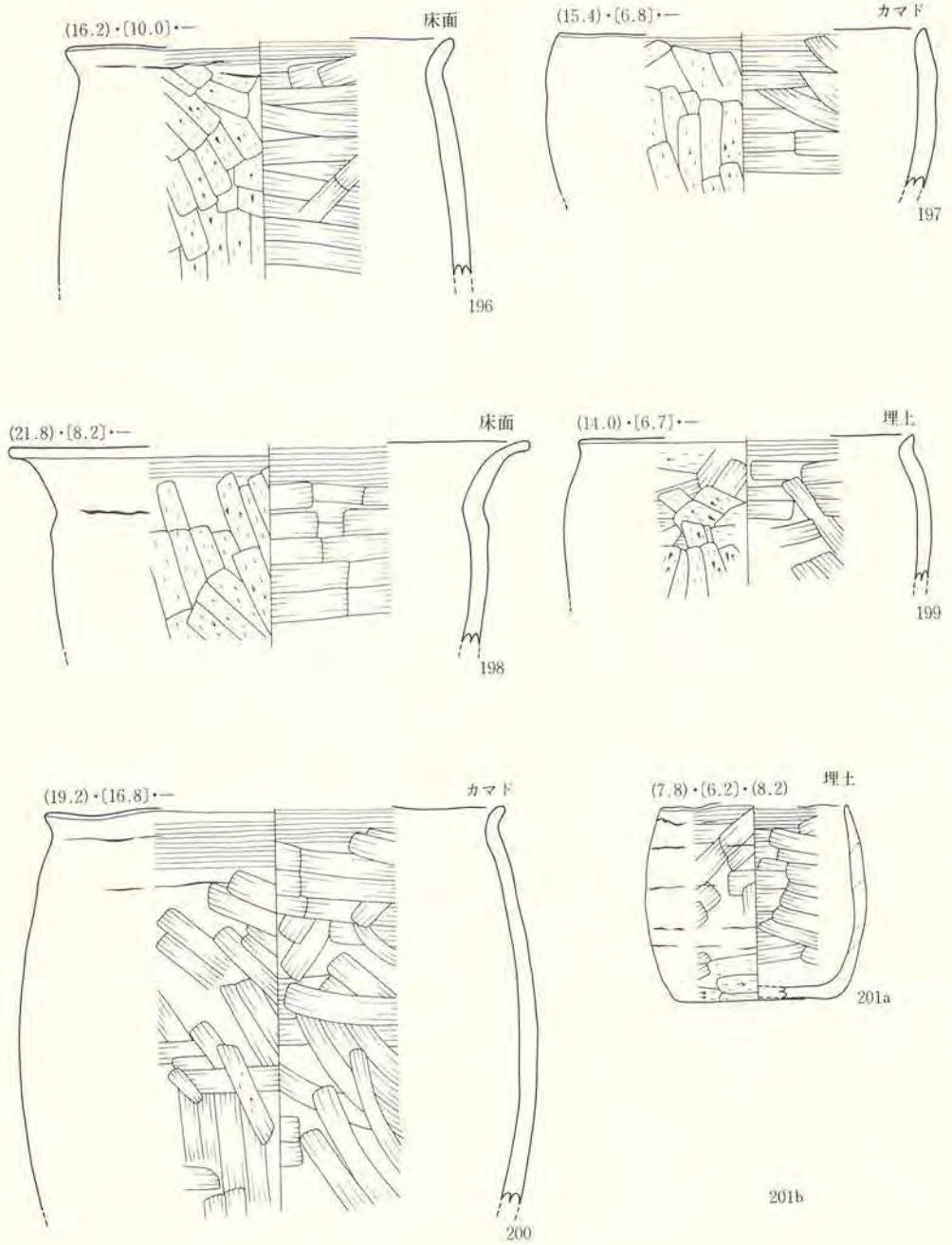


195

縮尺 $\frac{1}{3}$

図版120：遺構内出土遺物

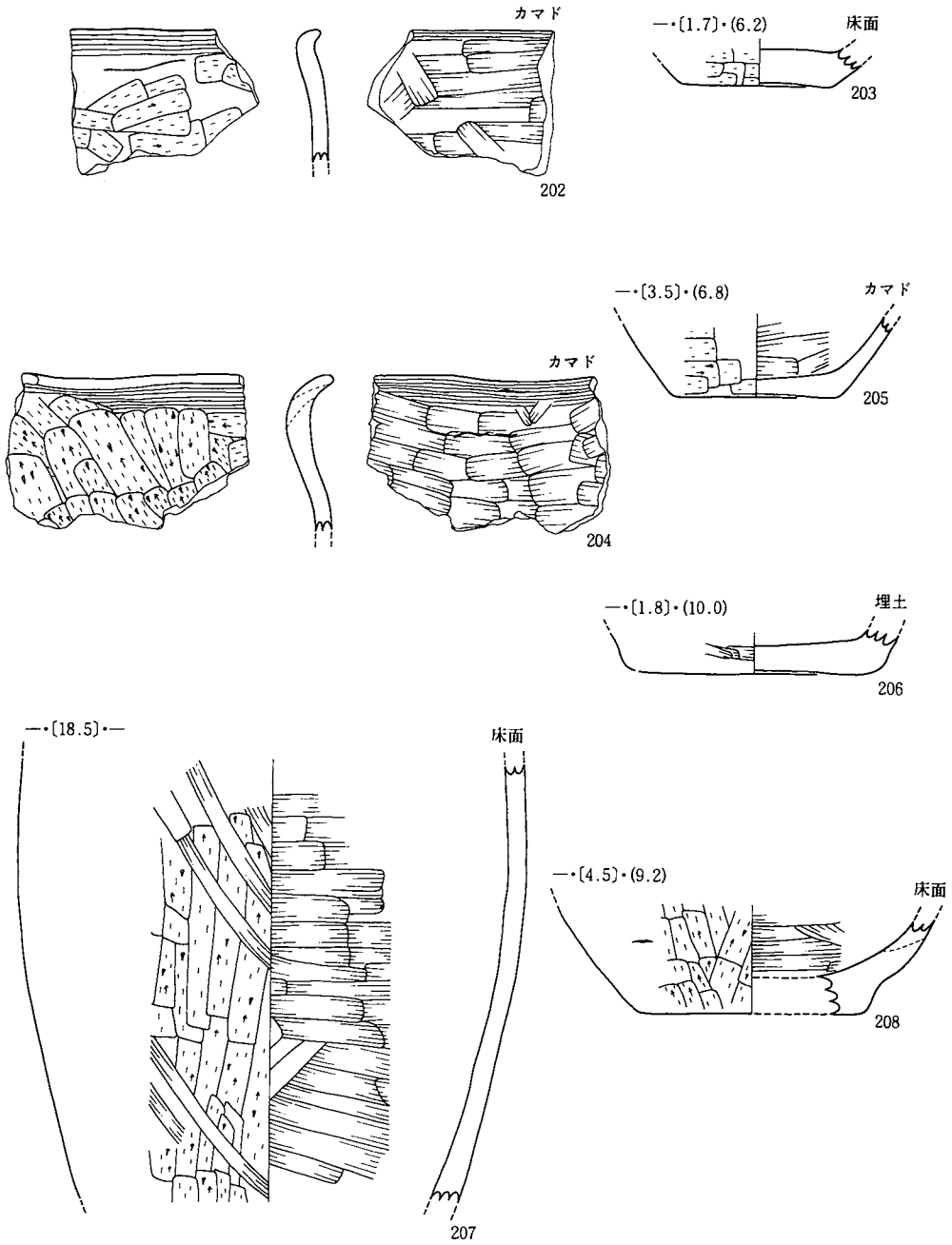
IV A—7 住居址(2) (196~201)



縮尺 $\frac{1}{3}$

図版121：遺構内出土遺物

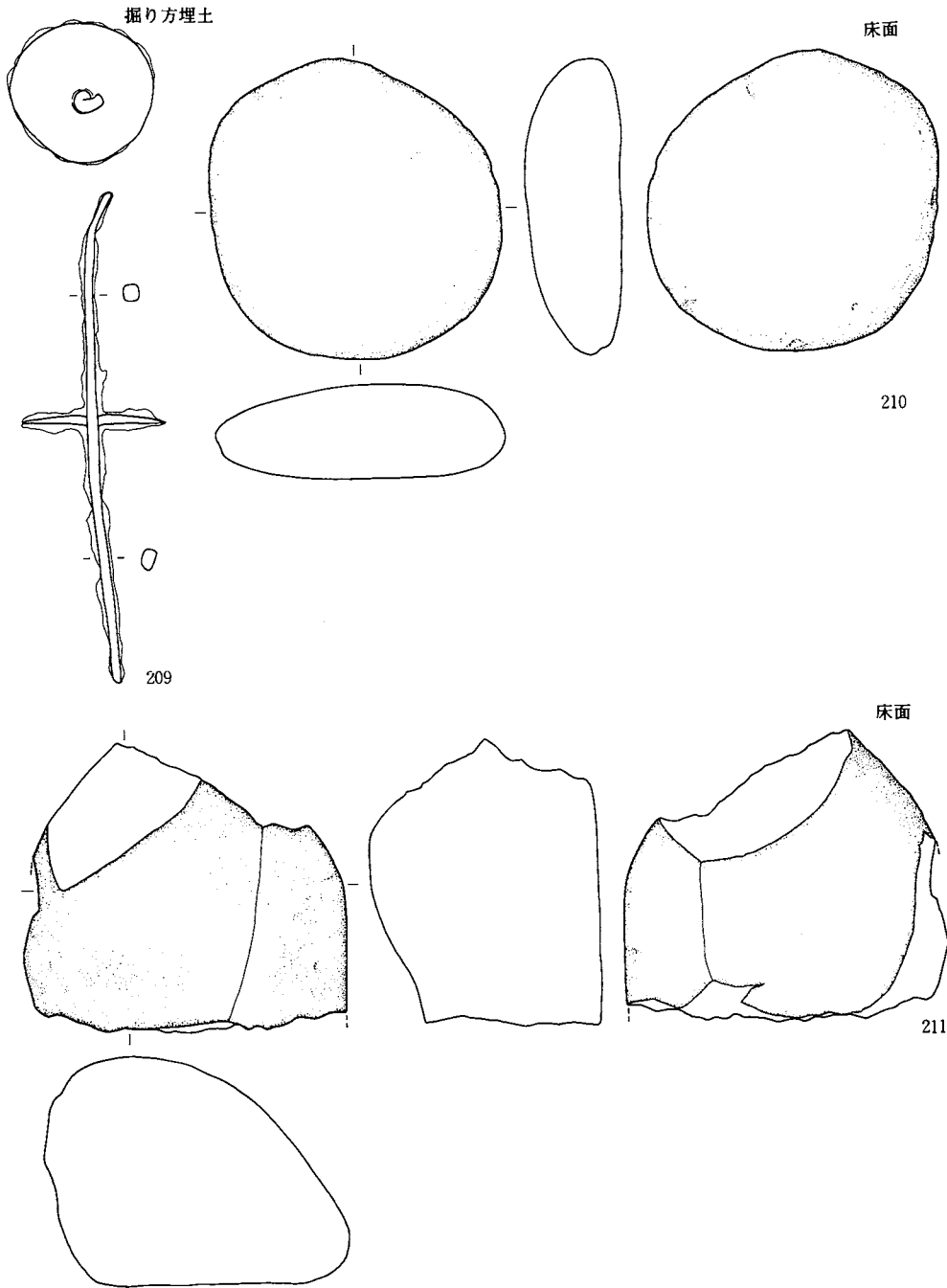
IV A - 7 住居址(3) (202~208)



縮尺 $\frac{1}{3}$

図版122：遺構内出土遺物

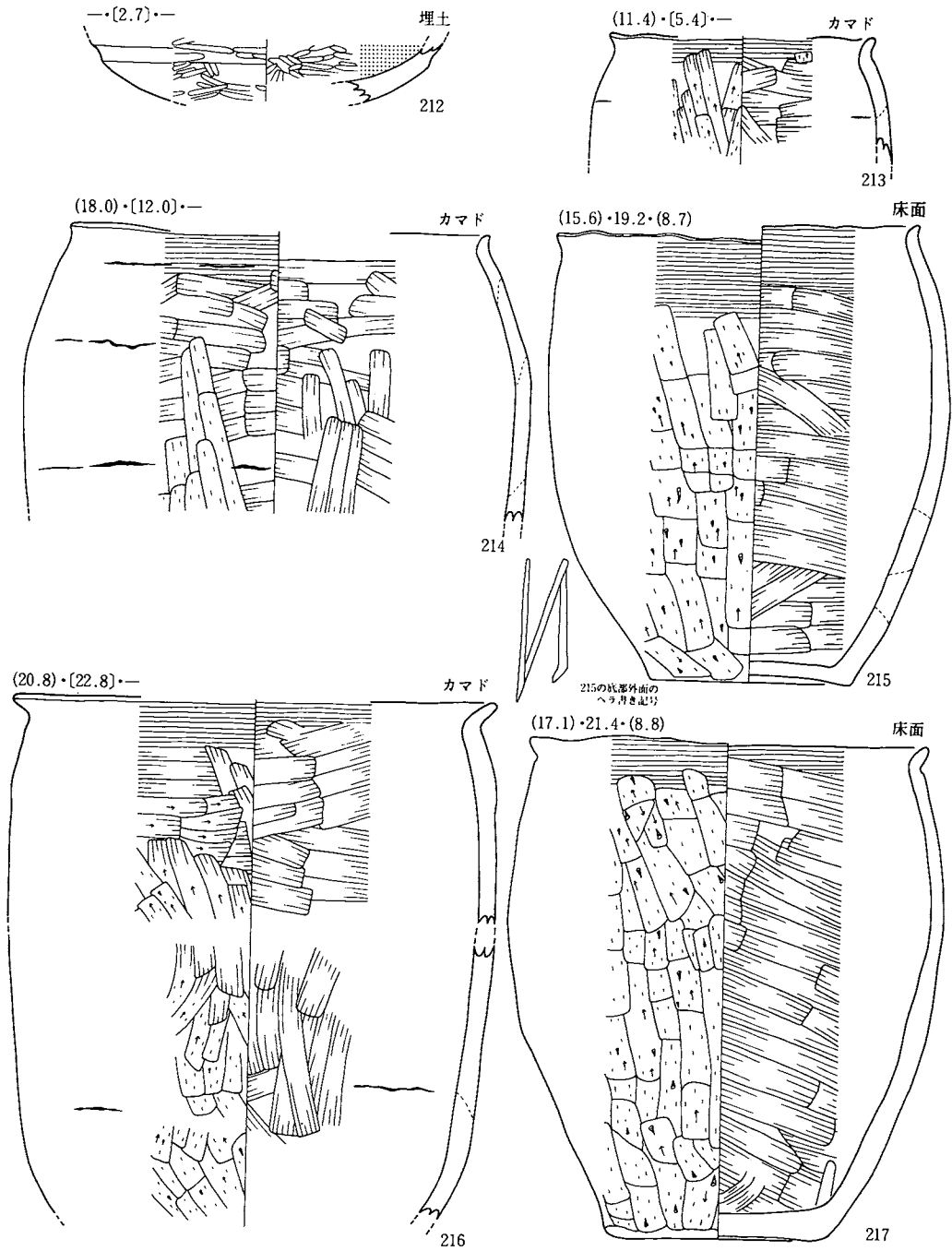
VI A-7 住居址(4) (209-211)



縮尺 $\frac{1}{3}$

図版123：遺構内出土遺物

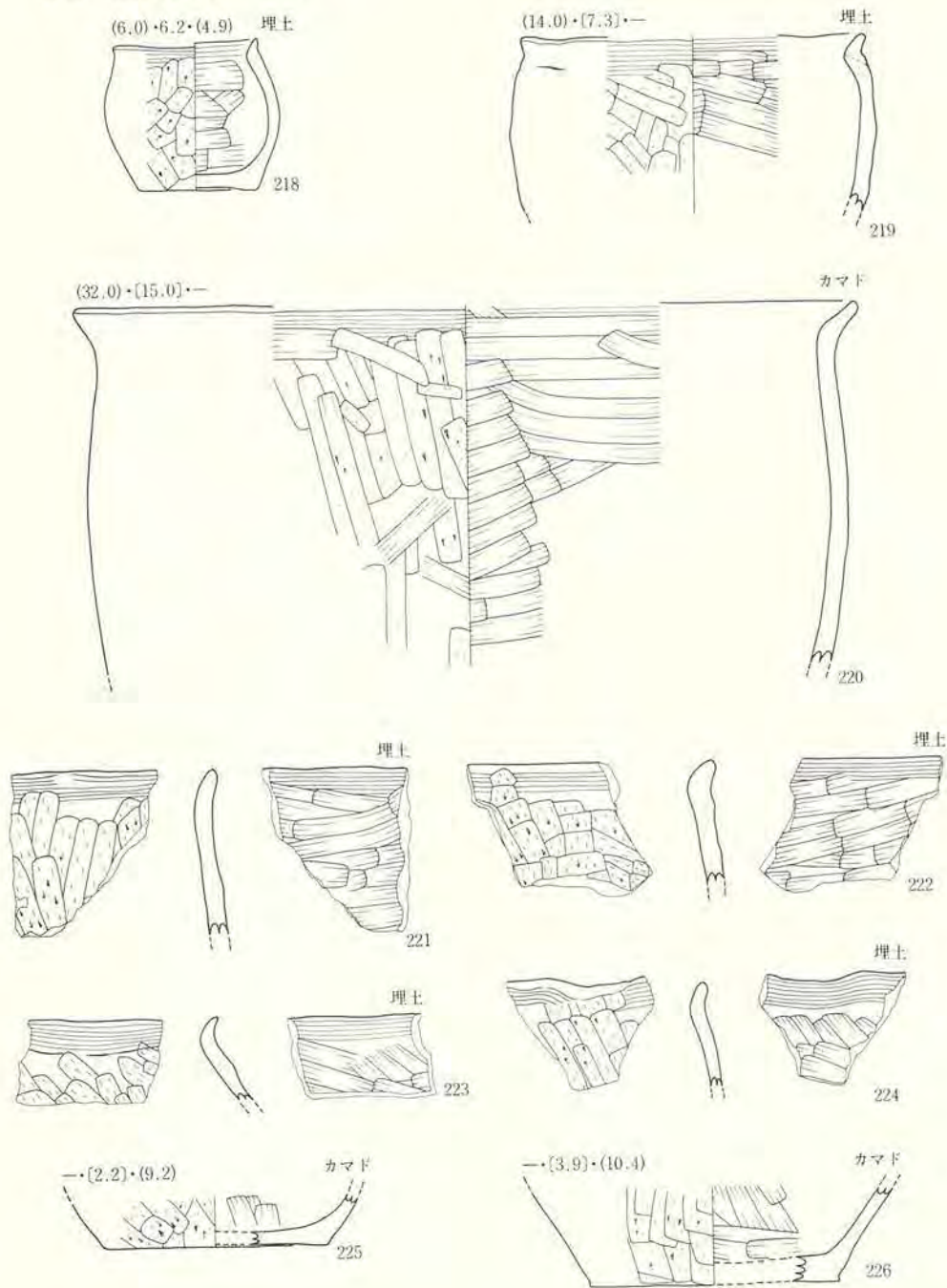
VI A — 8 住居址(1) (212~217)



縮尺 $\frac{1}{3}$

図版124：遺構内出土遺物

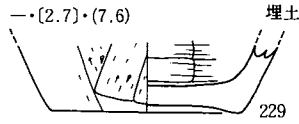
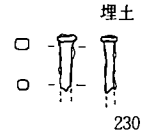
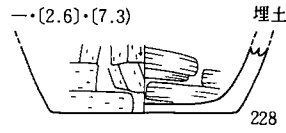
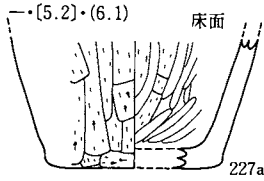
IV A—8 住居址(2) (218~226)



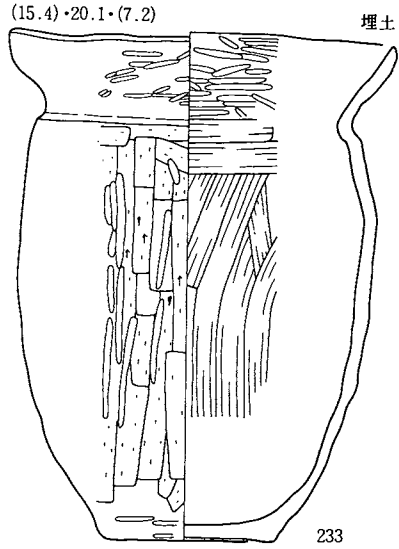
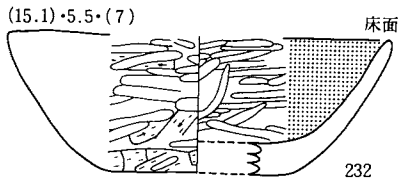
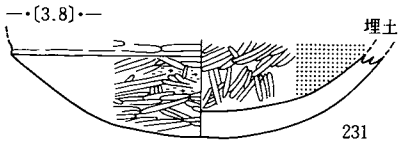
縮尺 $\frac{1}{2}$

図版125：遺構内出土遺物

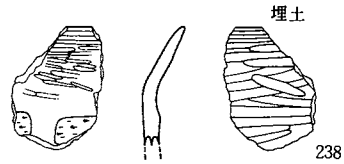
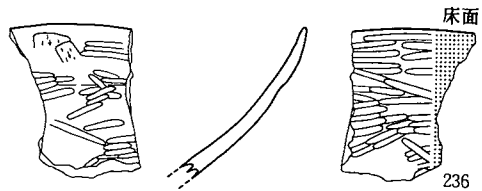
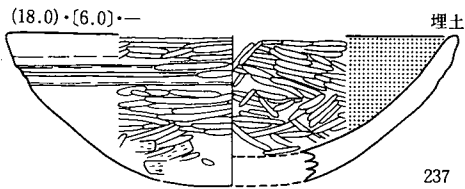
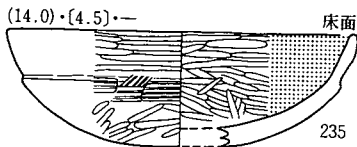
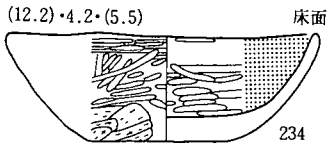
IV A - 8 住居址(3) (227~230)



IV A - 9 住居址 (231~233)



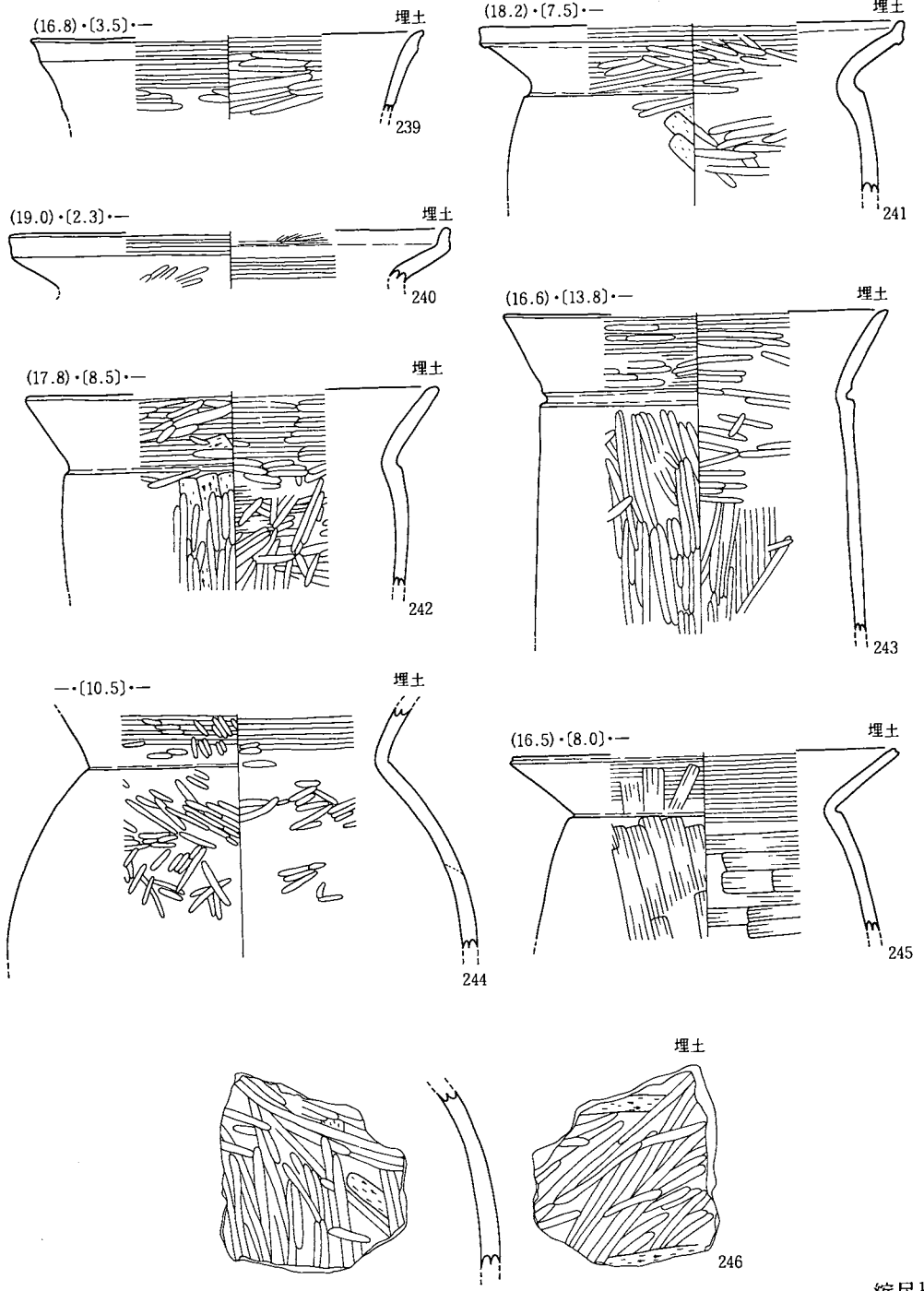
IV A - 10 住居址(1) (234~238)



縮尺 $\frac{1}{3}$

図版126：遺構内出土遺物

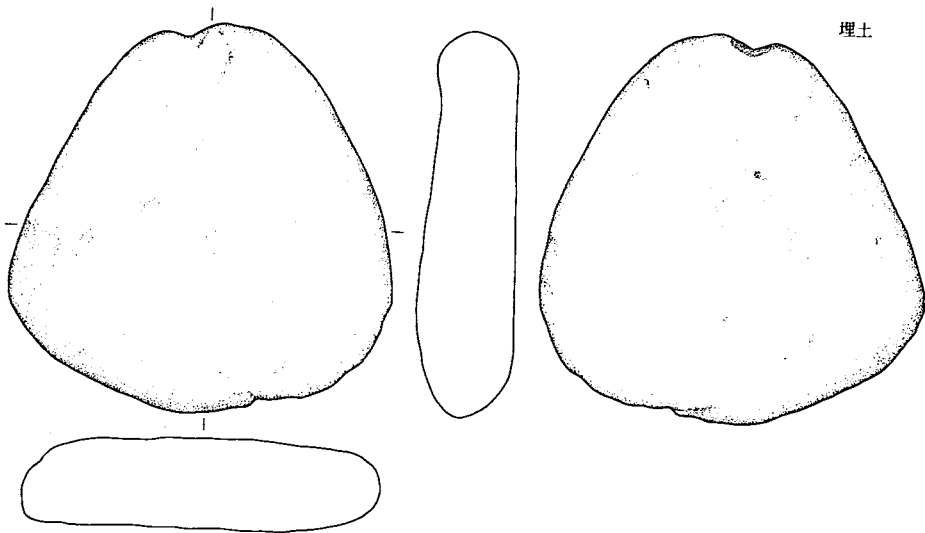
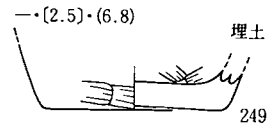
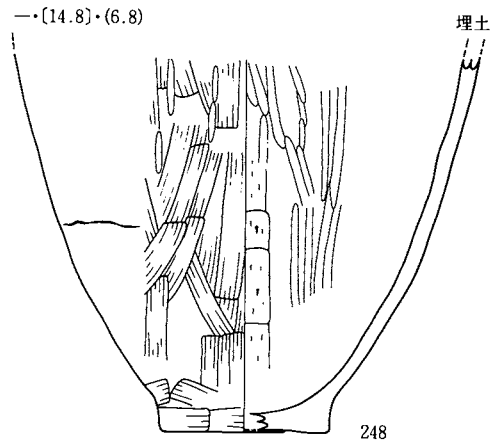
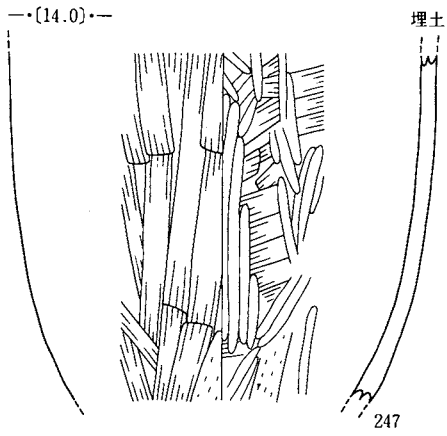
IV A—10住居址(2) (239~246)



縮尺 $\frac{1}{3}$

図版127：遺構内出土遺物

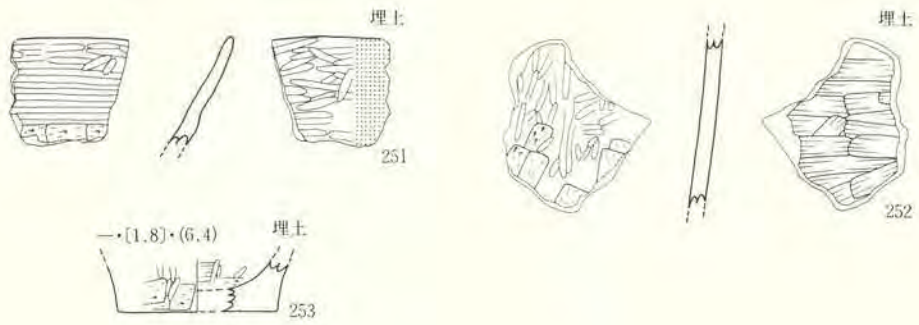
IV A—10住居址(3) (247~250)



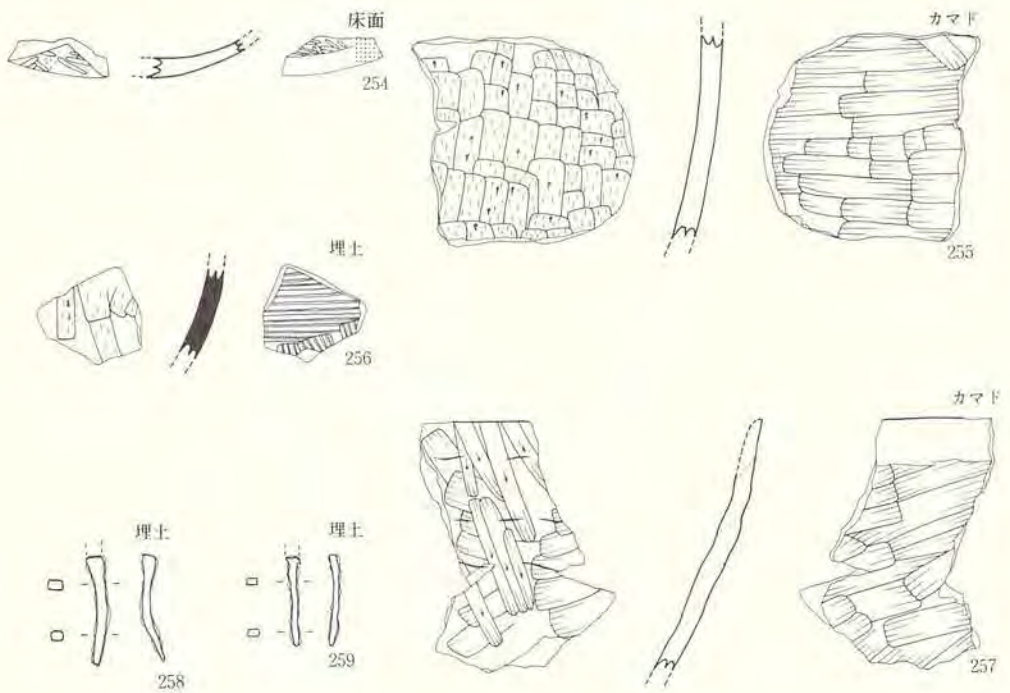
縮尺 $\frac{1}{3}$

図版128：遺構内出土遺物

IV A—11住居址 (251—253)



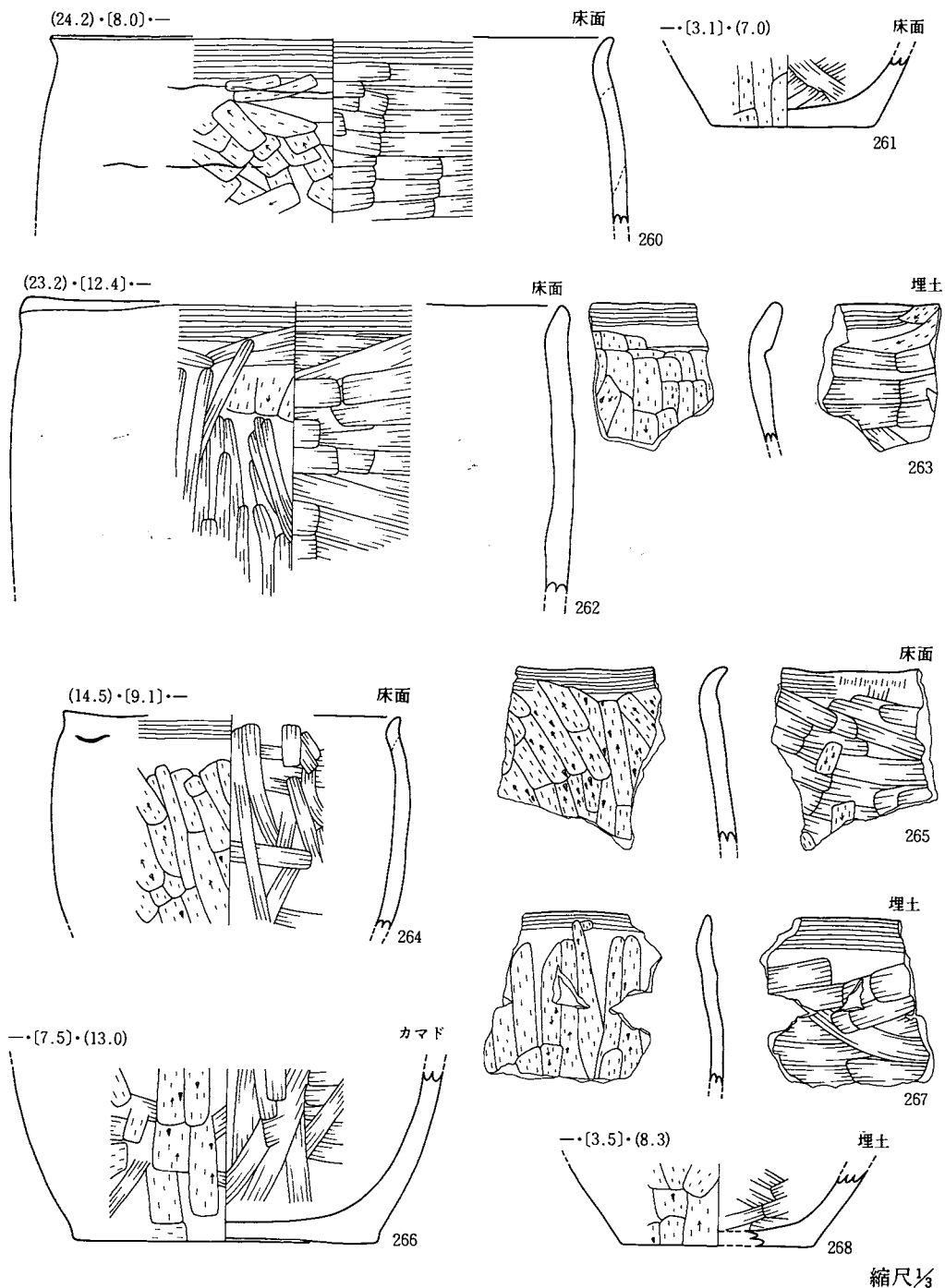
IV A—12住居址 (254—259)



縮尺 $\frac{1}{2}$

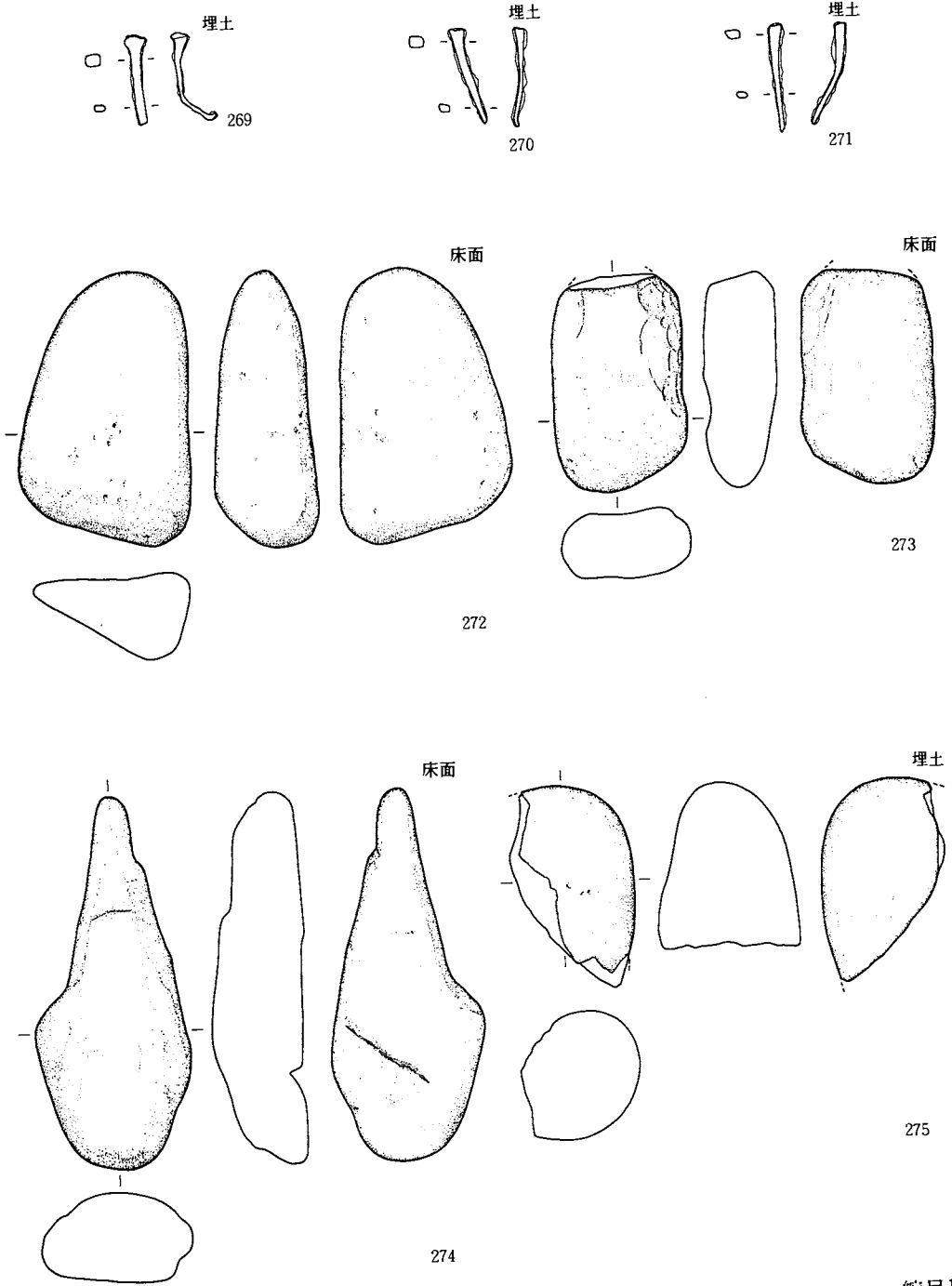
図版129：遺構内出土遺物

IV A—13住居址(1) (260~268)



図版130：遺構内出土遺物

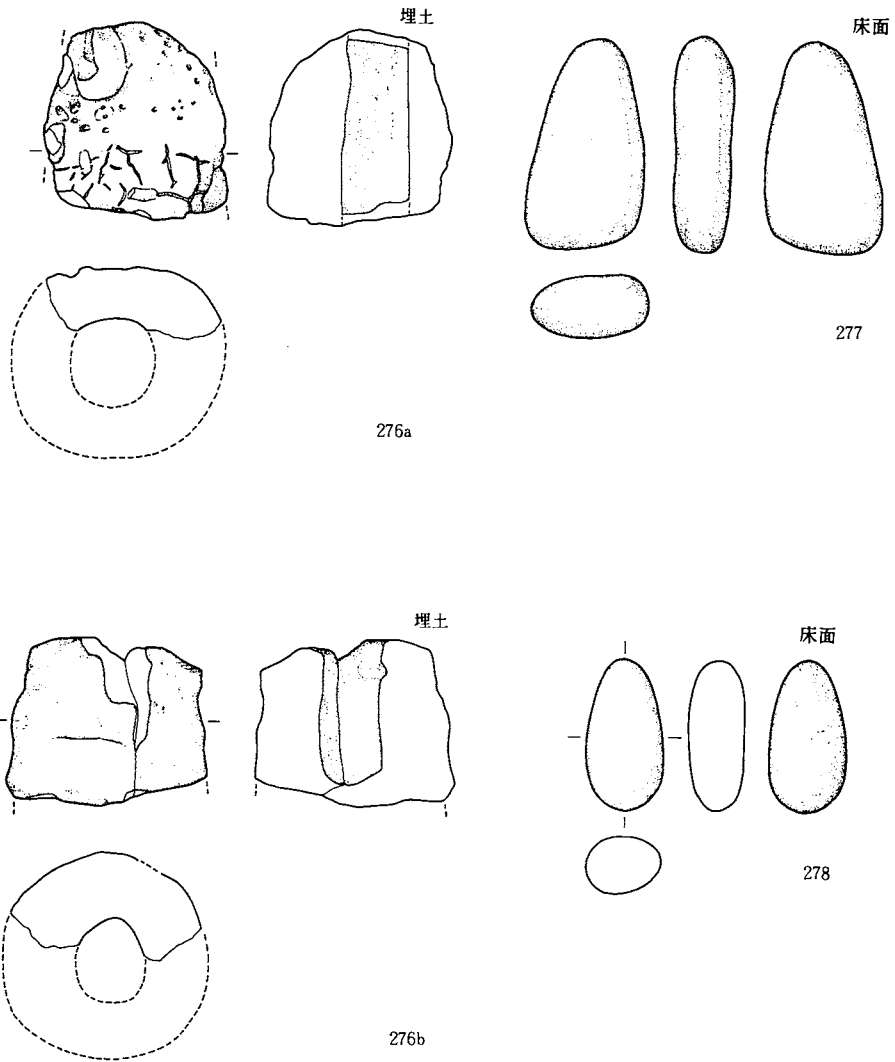
IV A-13住居址(2) (269~275)



縮尺 $\frac{1}{3}$

図版131：遺構内出土遺物

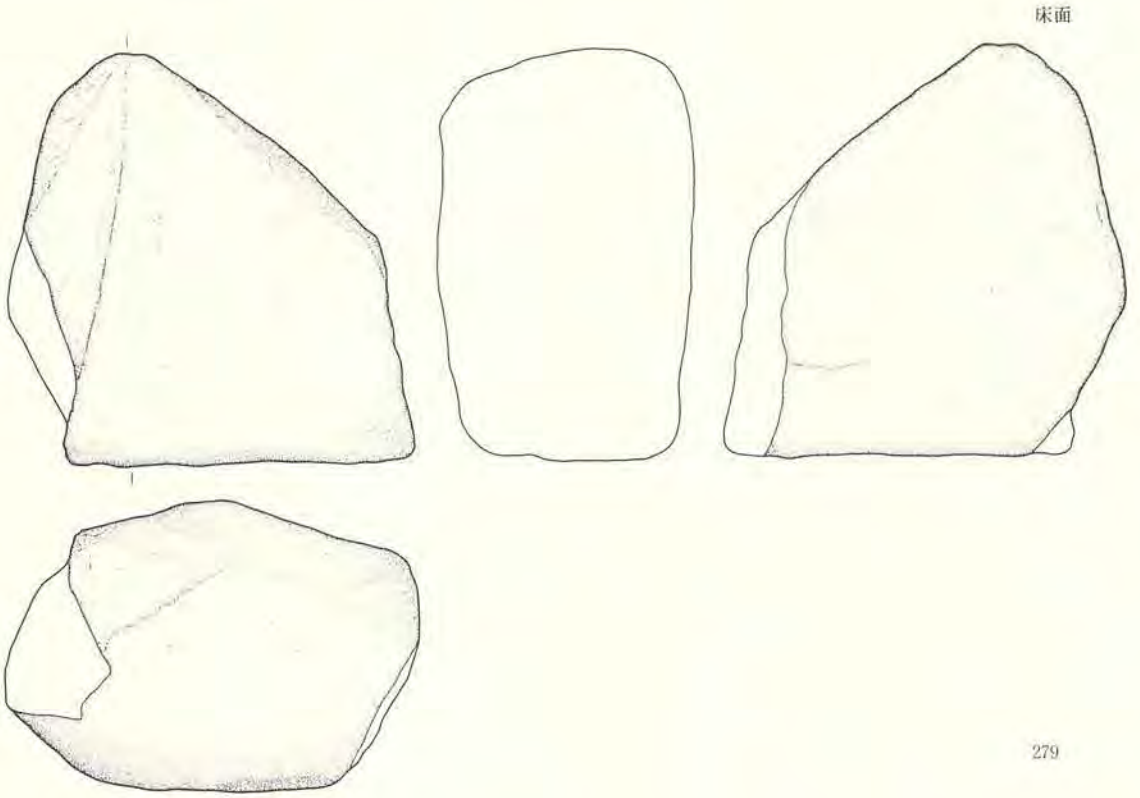
IV A—13住居址(3) (276~278)



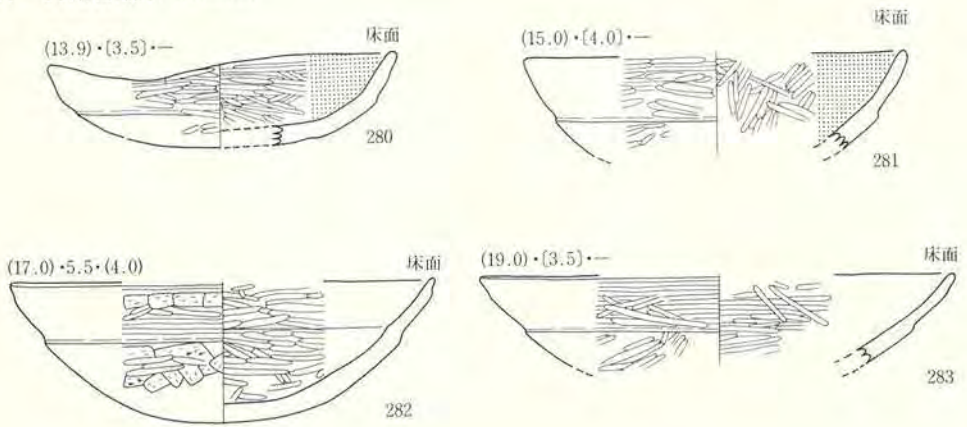
縮尺 $\frac{1}{3}$

図版132：遺構内出土遺物

IV A—13住居址(4) (279)



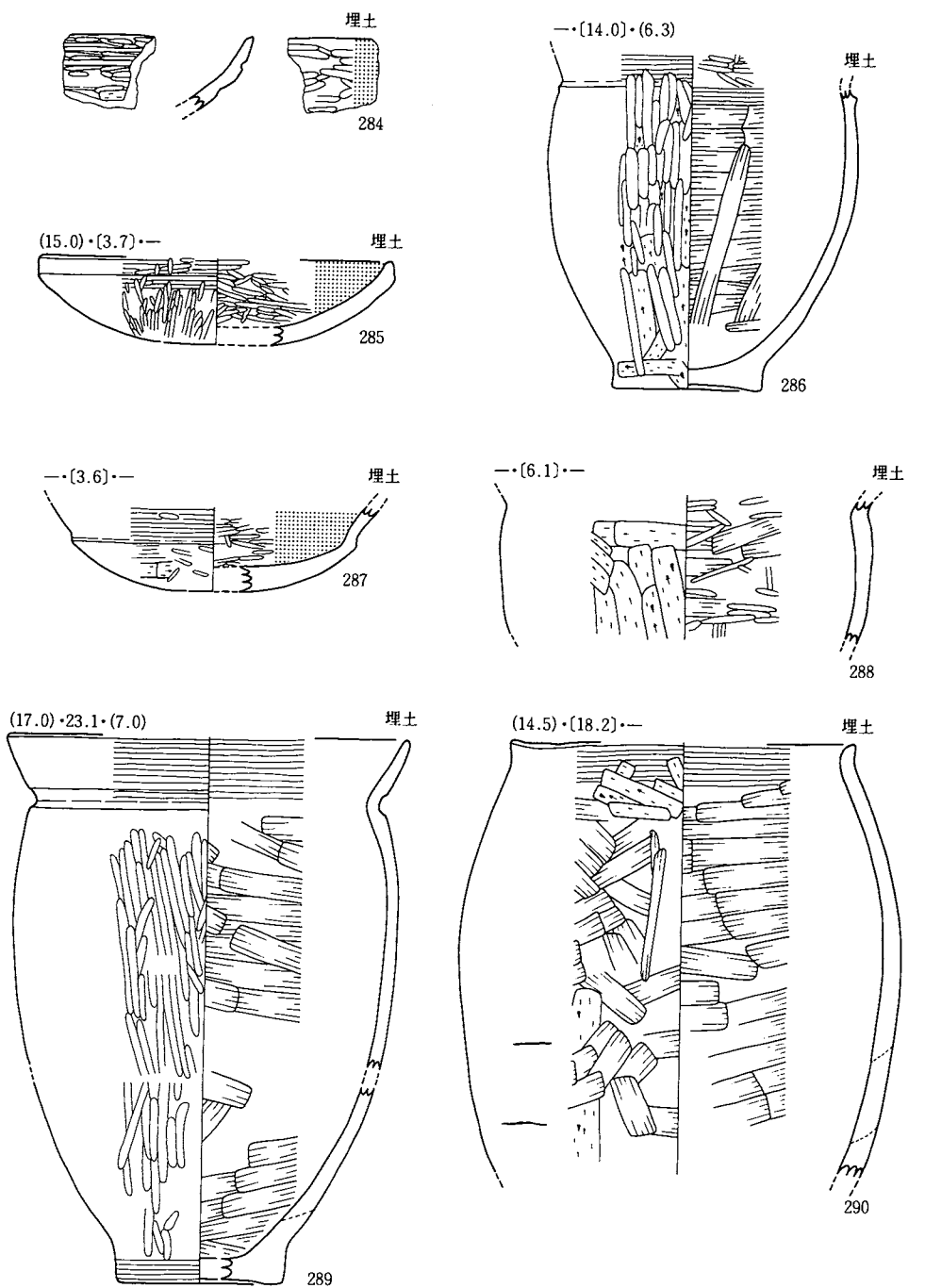
IV A—14住居址(1) (280~283)



縮尺 $\frac{1}{2}$

図版133：遺構内出土遺物

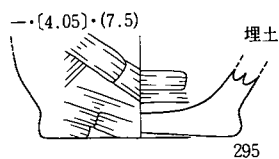
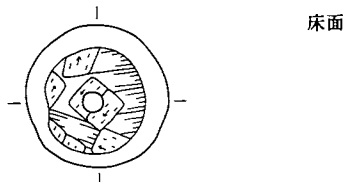
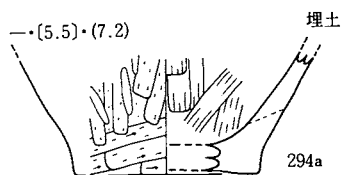
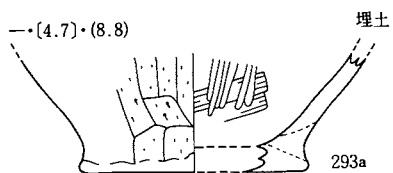
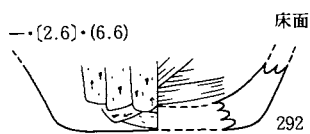
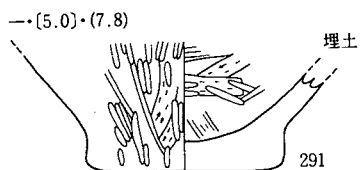
IV A—14住居址(2) (284~290)



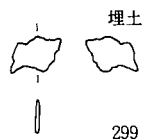
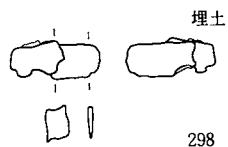
縮尺 $\frac{1}{3}$

図版134：遺構内出土遺物

IV A—14住居址(3) (291—299)



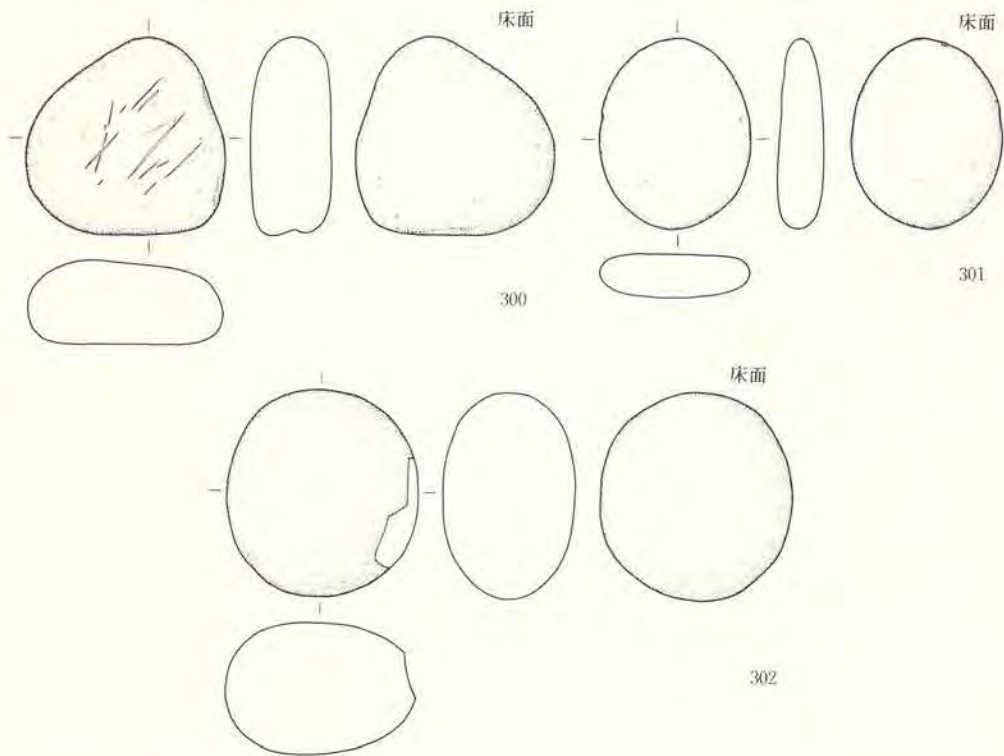
297欠番



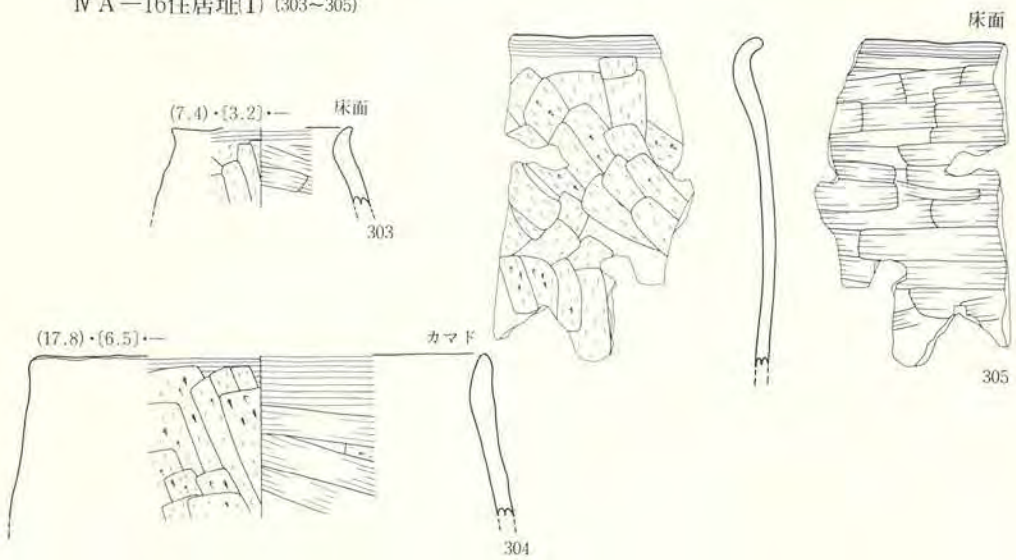
縮尺 $\frac{1}{3}$

図版135：遺構内出土遺物

IV A—14住居址(4) (300~302)



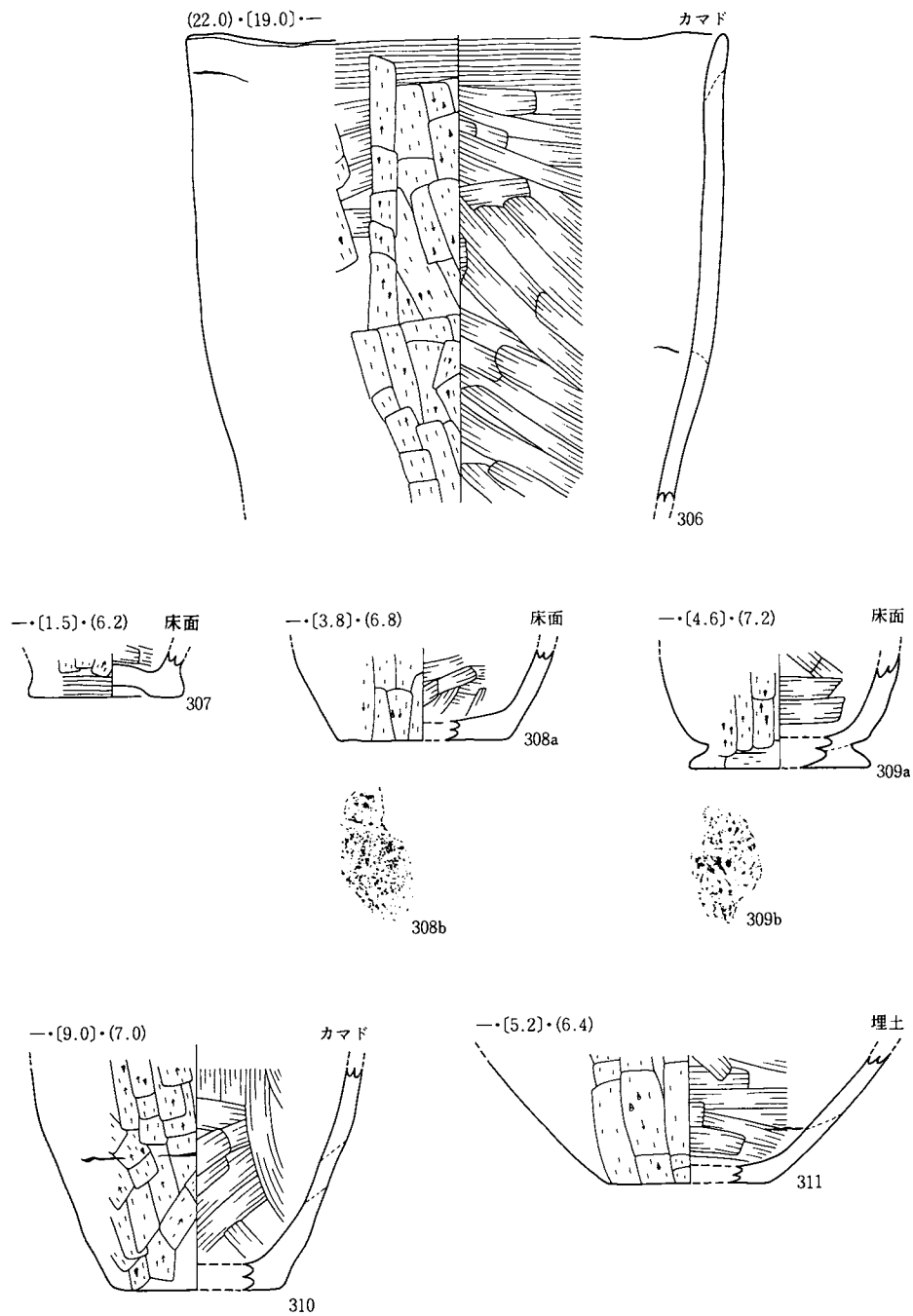
IV A—16住居址(1) (303~305)



縮尺 $\frac{1}{3}$

図版136：遺構内出土遺物

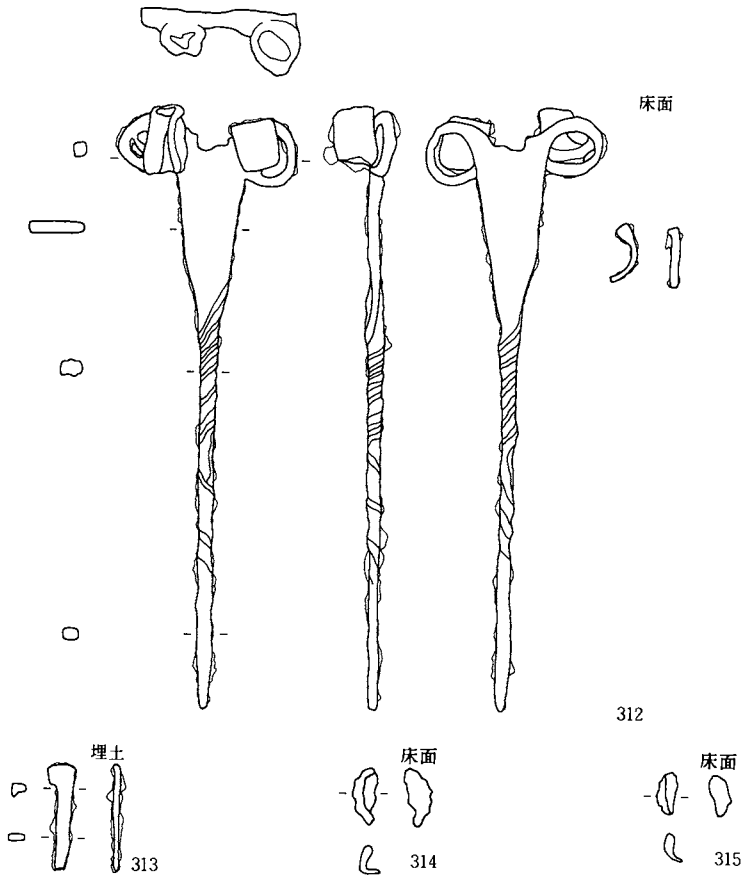
IV A—16住居址(2) (306~311)



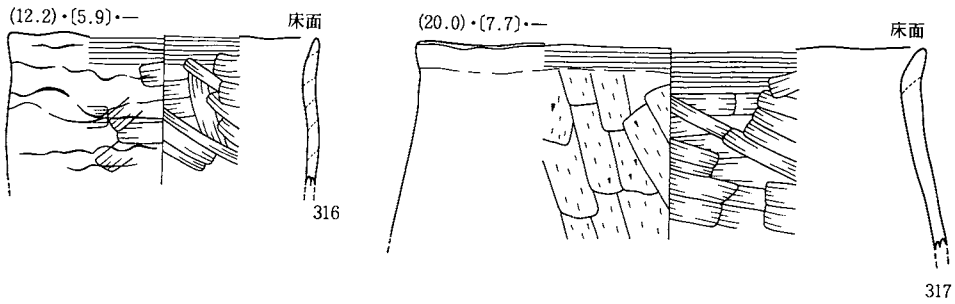
縮尺 $\frac{1}{3}$

図版137：遺構内出土遺物

IV A—16住居址(3) (312~315)



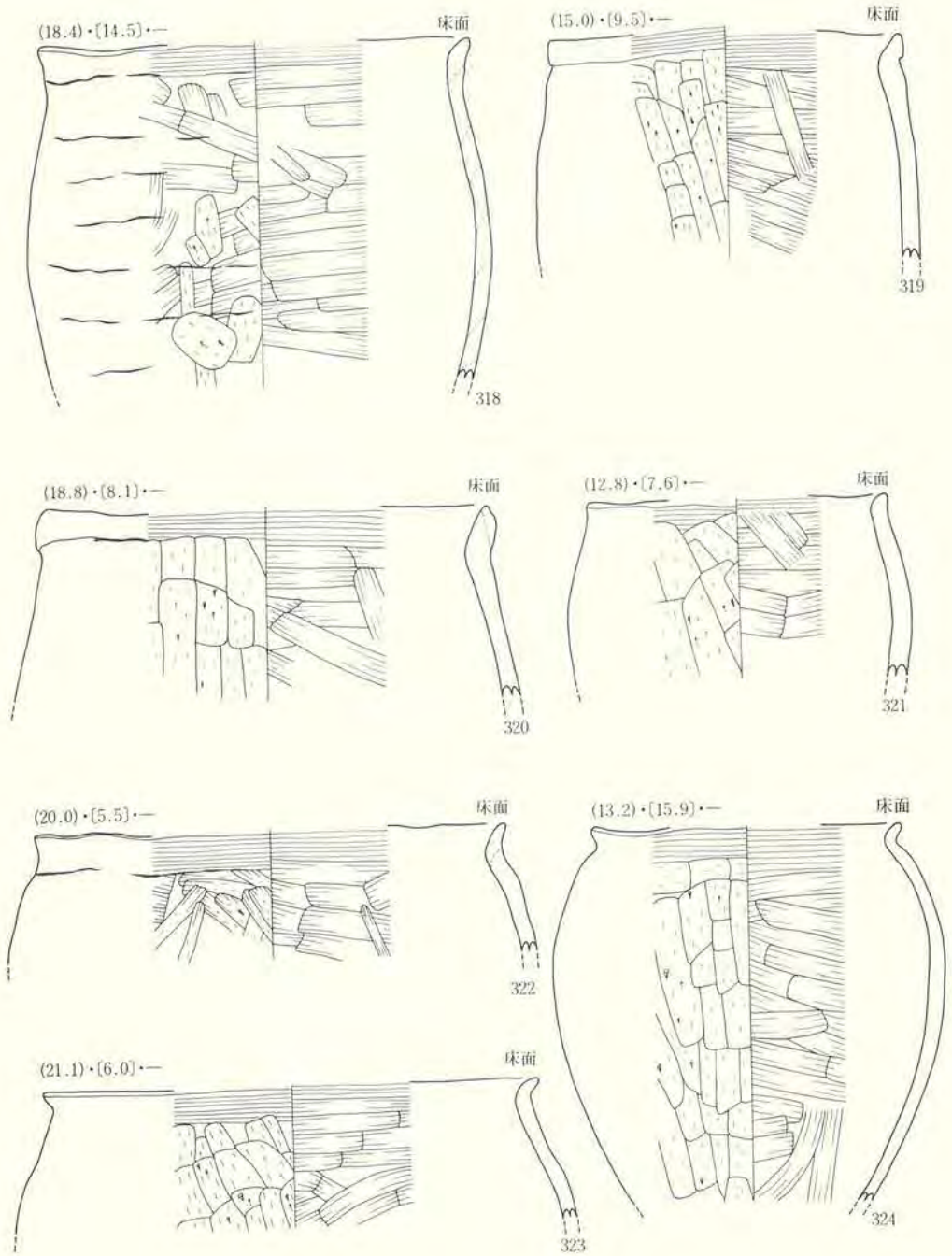
IV A—17住居址(1) (316, 317)



縮尺 $\frac{1}{3}$

図版138：遺構内出土遺物

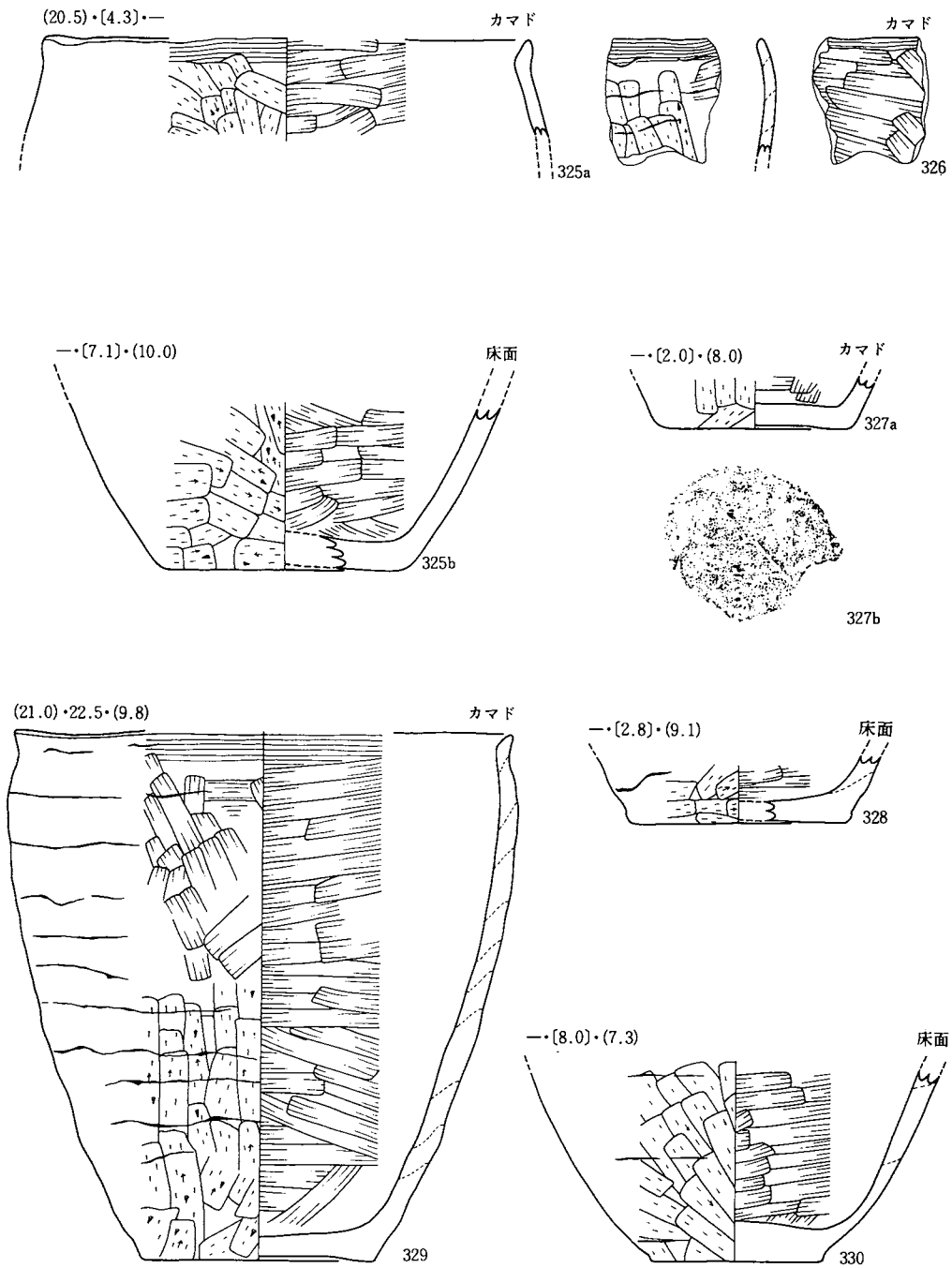
IV A—17住居址(2) (318~324)



縮尺 $\frac{1}{3}$

図版139：遺構内出土遺物

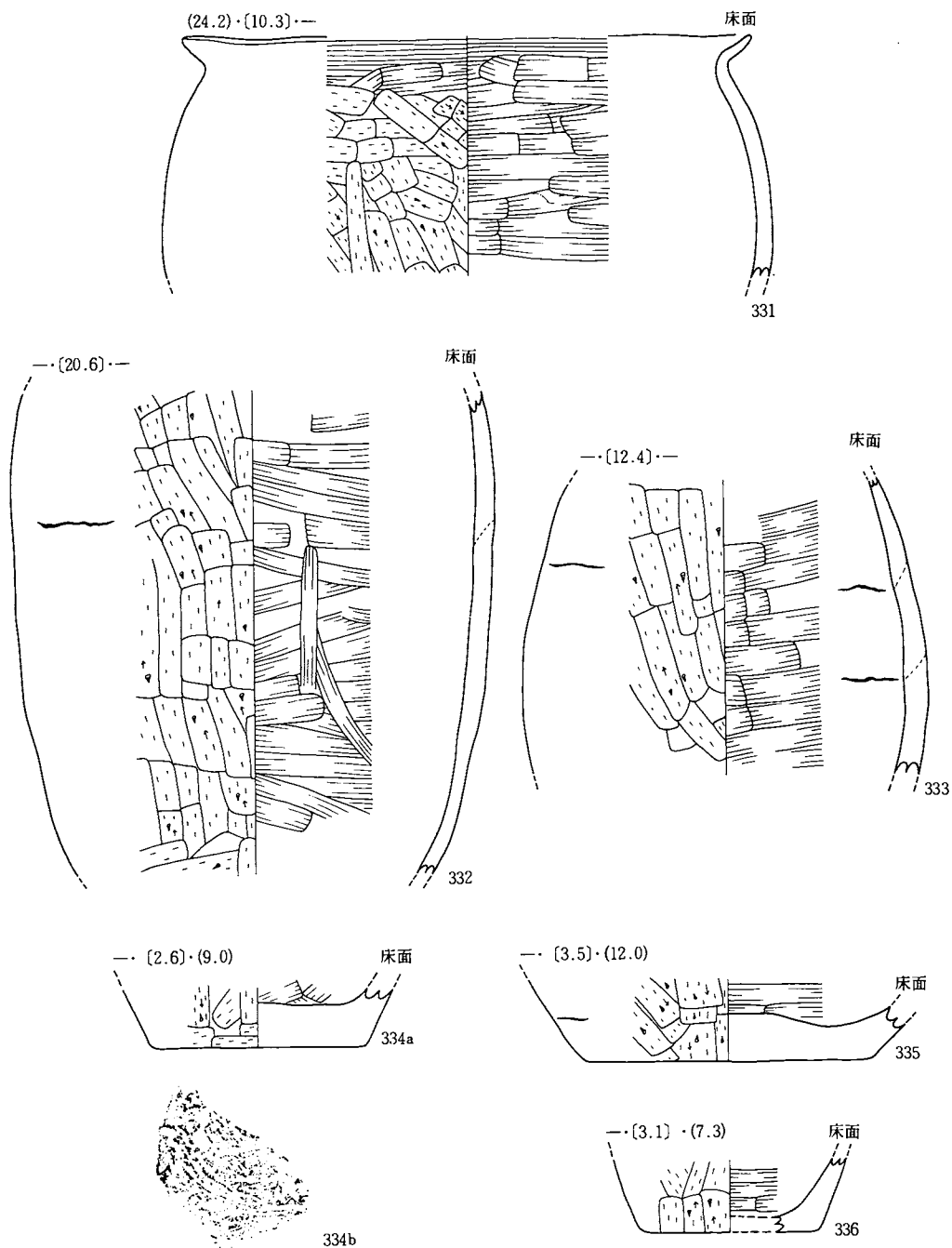
IV A -17住居址(3) (325~330)



縮尺 $\frac{1}{3}$

図版140：遺構内出土遺物

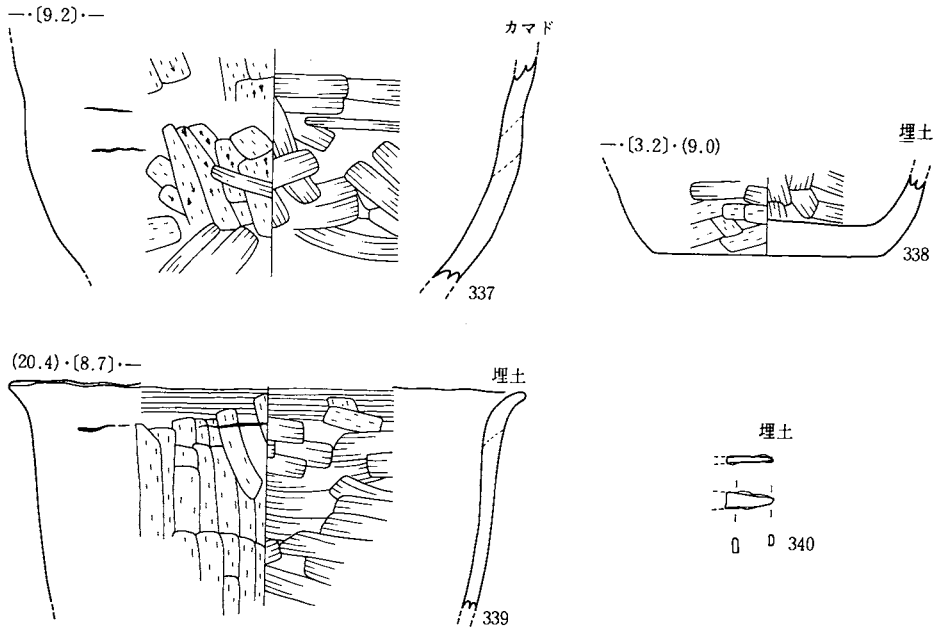
IV A—17住居址(4) (331~336)



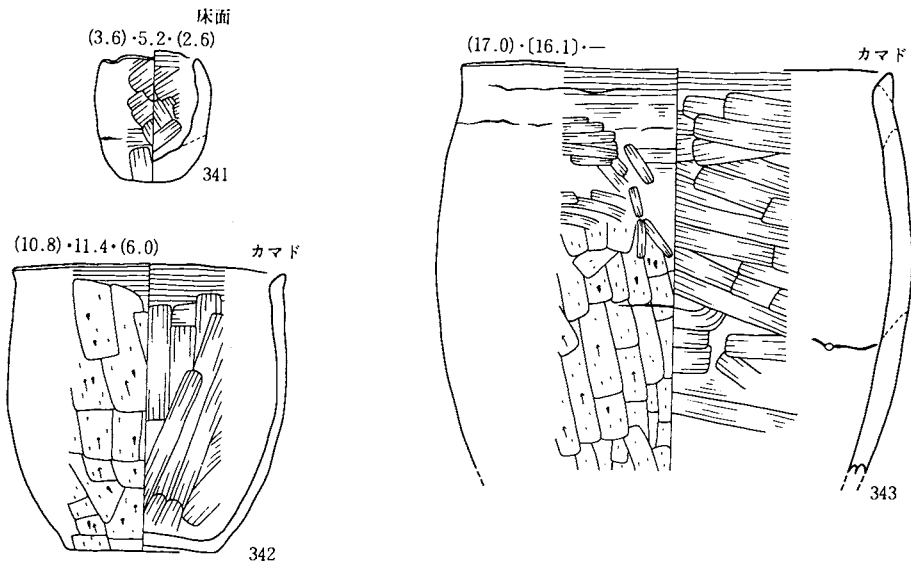
縮尺 $\frac{1}{3}$

図版141：遺構内出土遺物

IV A—17住居址(5) (337~340)



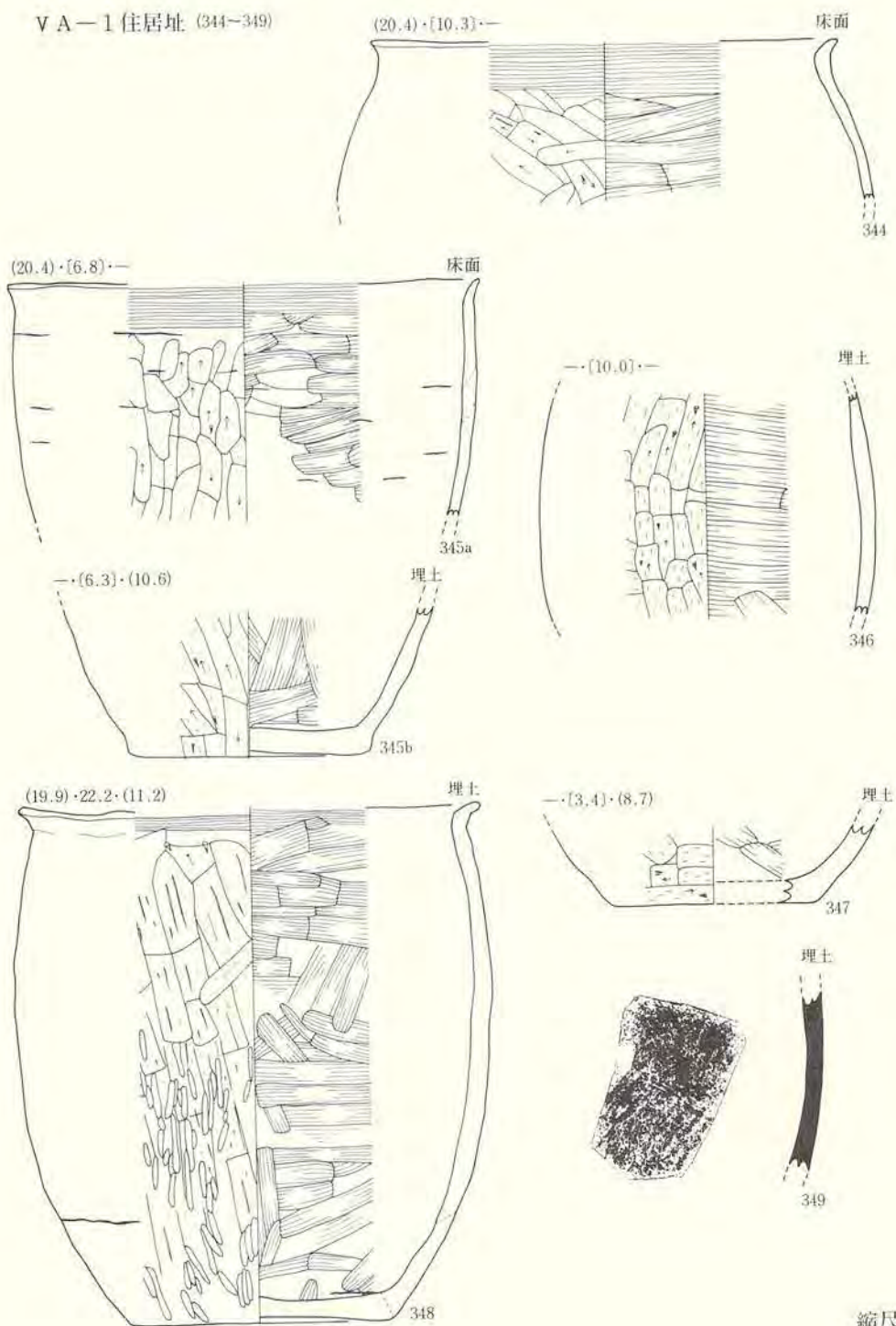
IV A—18住居址 (341~343)



縮尺 $\frac{1}{3}$

図版142：遺構内出土遺物

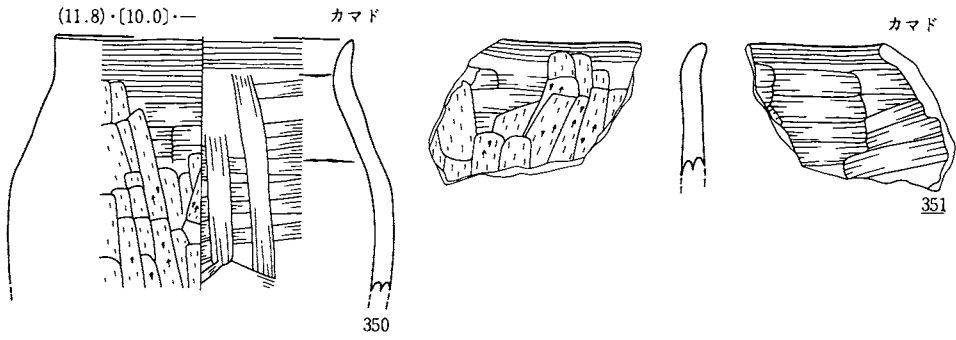
V A—1 住居址 (344~349)



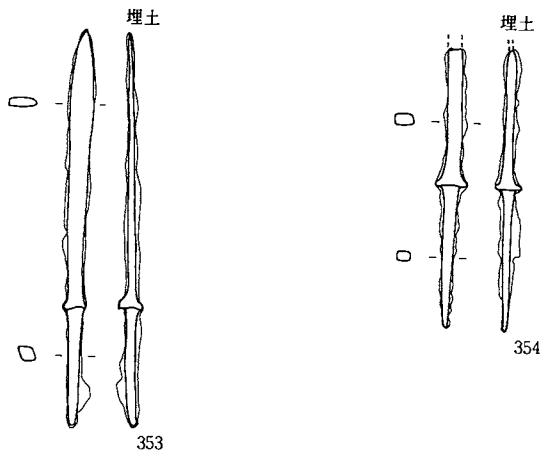
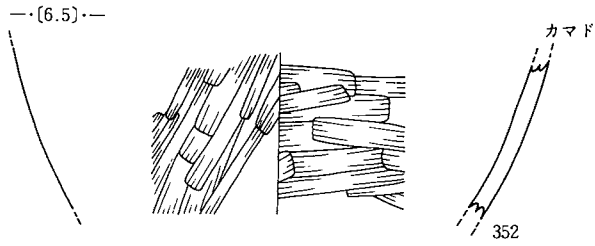
縮尺 $\frac{1}{2}$

図版143：遺構内出土遺物

V A — 2 住居址 (350~351)



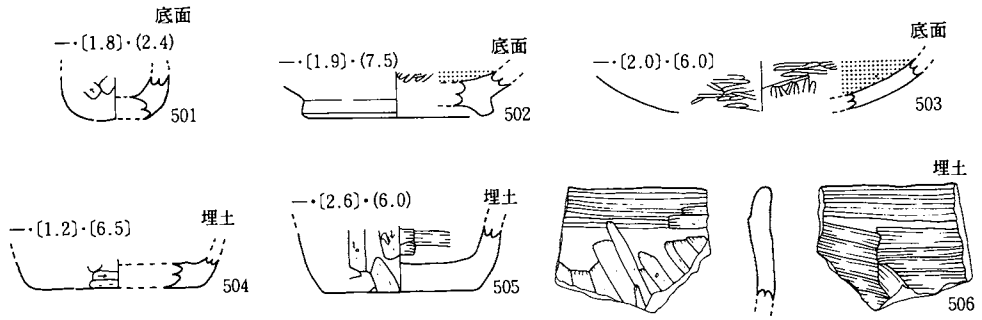
V A — 3 住居址 (352~354)



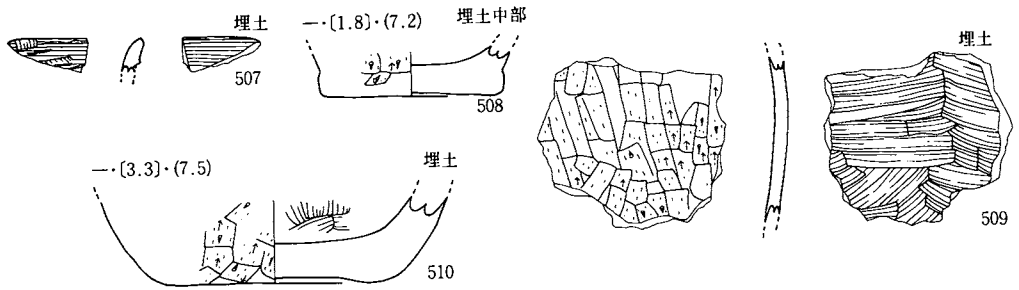
縮尺 $\frac{1}{3}$

図版144：遺構内出土遺物

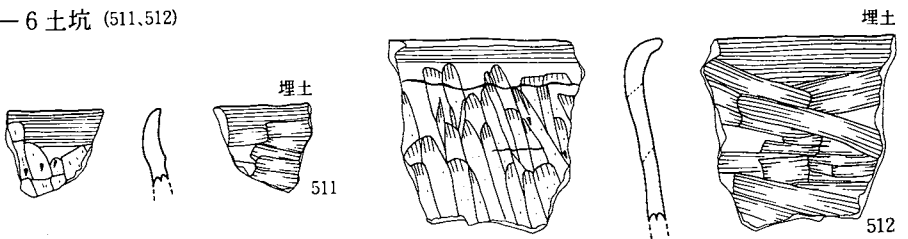
II A-3 土坑 (501~506)



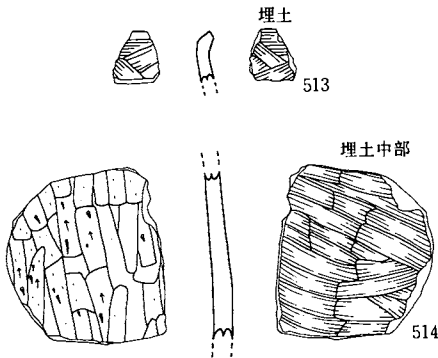
II A-5 土坑 (507~510)



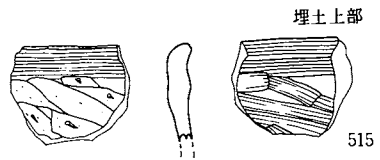
II A-6 土坑 (511,512)



II A-7 土坑 (513,514)



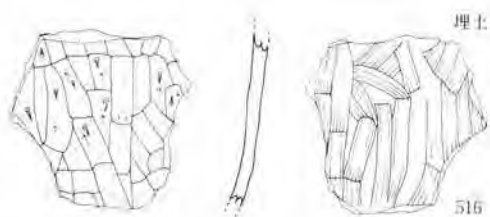
II A-8 土坑 (515)



縮尺 $\frac{1}{2}$

图版145：遺構内出土遺物

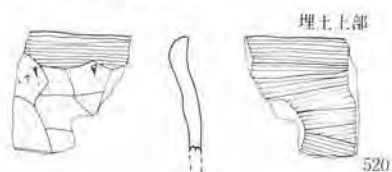
II A-9 土坑 (516)



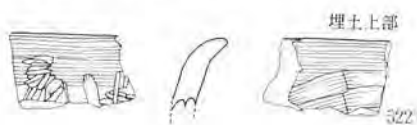
II A-11 土坑 (519)



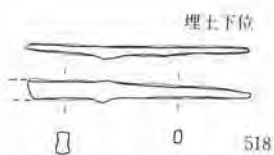
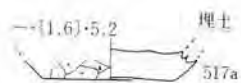
II A-12 土坑 (520)



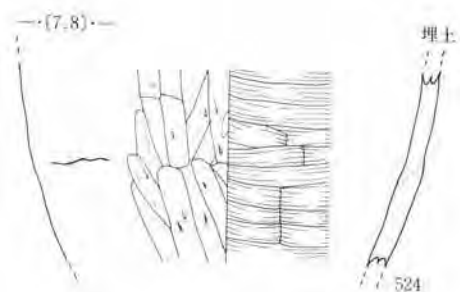
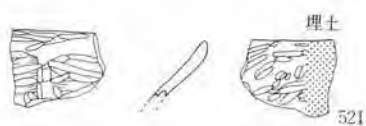
III A-6 土坑 (522~524)



II A-10 土坑 (517, 518)



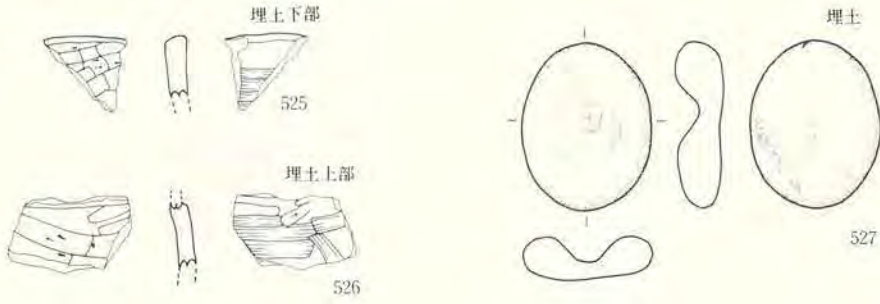
III A-2 土坑 (521)



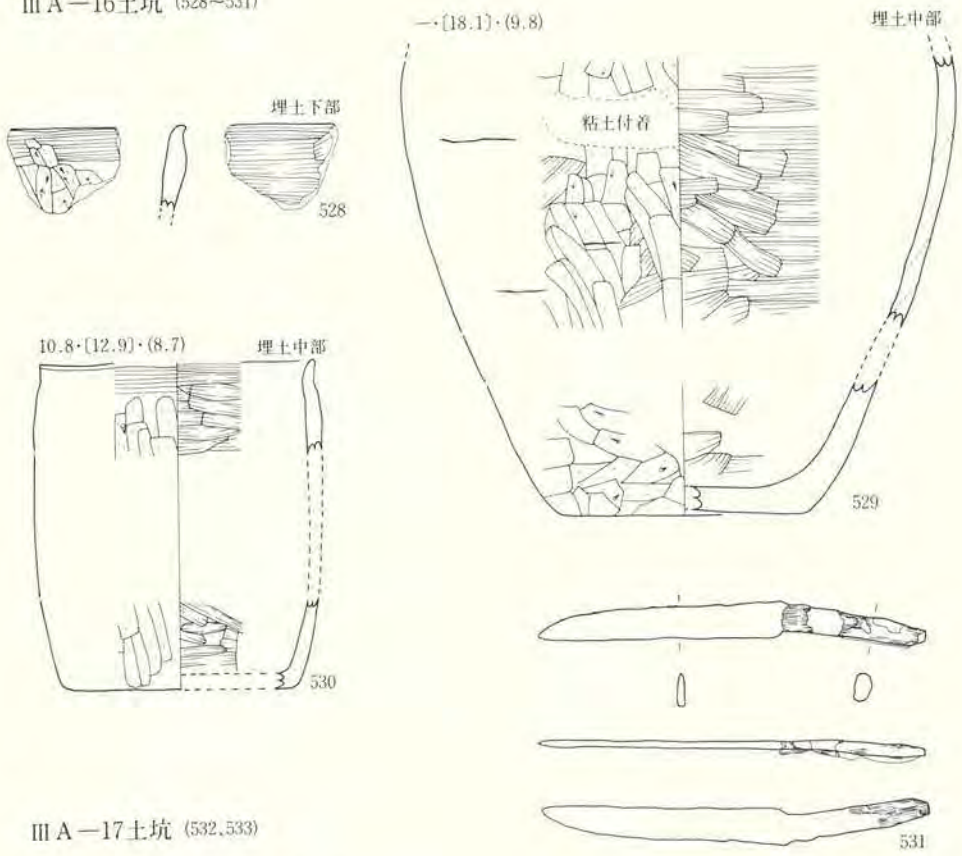
縮尺另

图版146：遺構内出土遺物

III A-7 土坑 (525~527)



III A-16 土坑 (528~531)

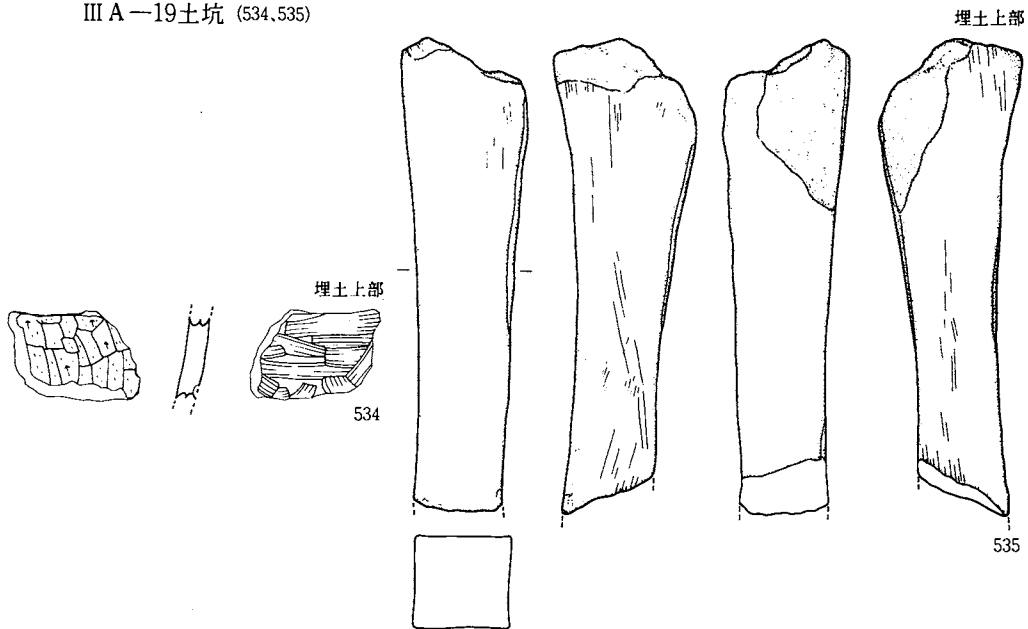


III A-17 土坑 (532, 533)

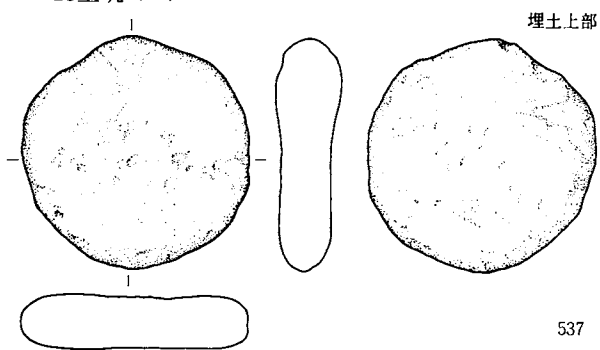


図版147：遺構内出土遺物

III A—19土坑 (534, 535)

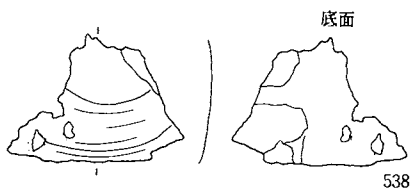


III A—28土坑 (537)



536欠番

III A—30土坑 (538)

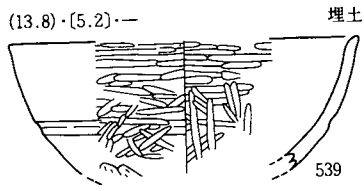


縮尺 $\frac{1}{3}$

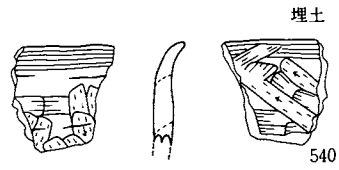
図版148：遺構内出土遺物

III A—36土坑 (539~541)

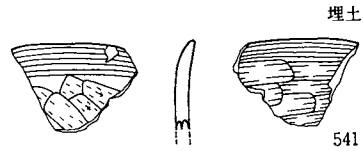
(13.8)·(5.2)·—



539



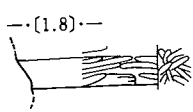
540



541

IV A—2土坑 (542)

—(1.8)—



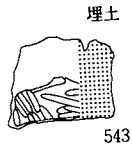
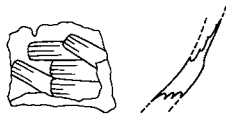
542

IV A—4土坑 (545, 546)

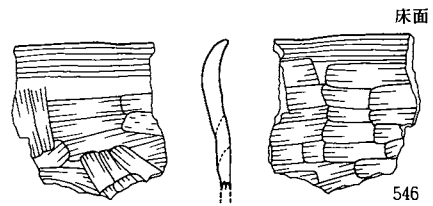


545

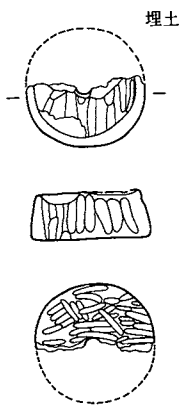
IV A—3土坑 (543, 544)



543

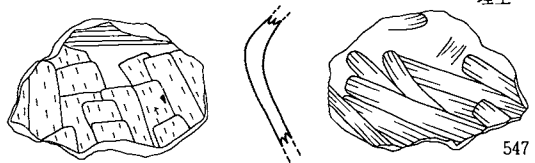


546



544

IV A—7土坑 (547)

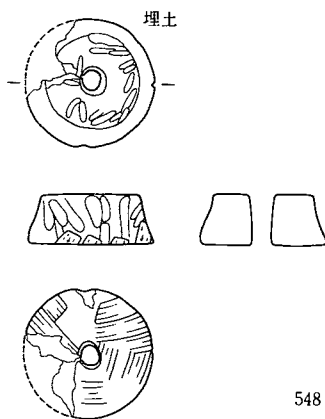


547

縮尺 $\frac{1}{2}$

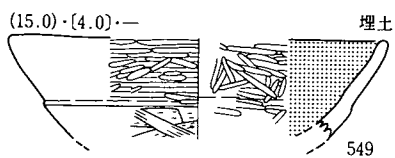
图版149：遺構内出土遺物

IV A — 8 土坑 (548)

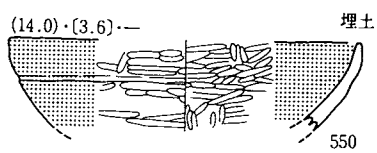


548

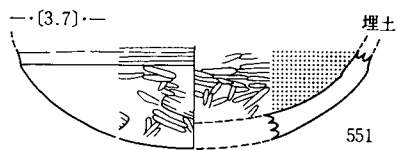
IV A — 9 土坑 (549~553)



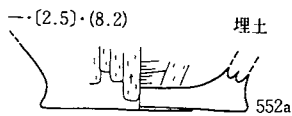
549



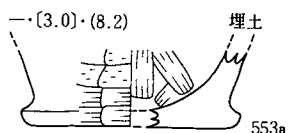
550



551



552a



553a



552b



553b

554欠番

IV A — 12 土坑 (555)

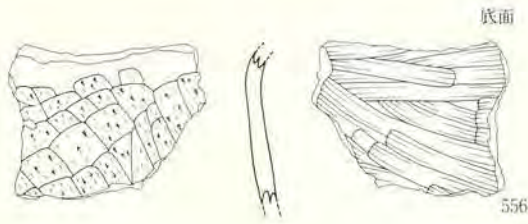


555

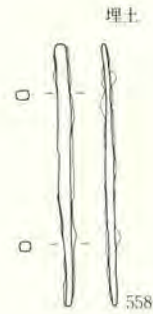
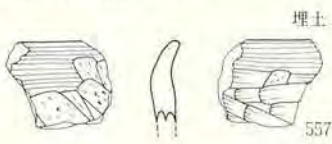
縮尺 1/3

図版150：遺構内出土遺物

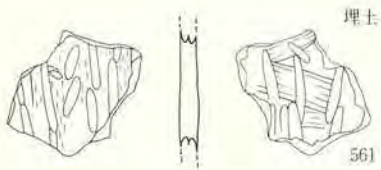
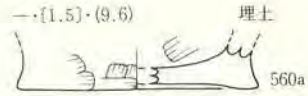
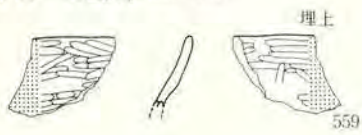
IV A-13土坑 (556)



IV A-16土坑 (557, 558)

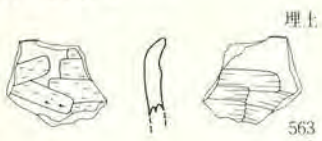


IV A-19土坑 (559-561)

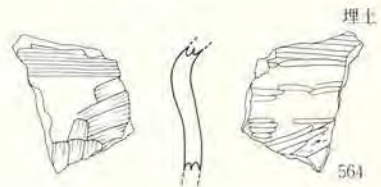


562欠番

IV A-24土坑 (563)



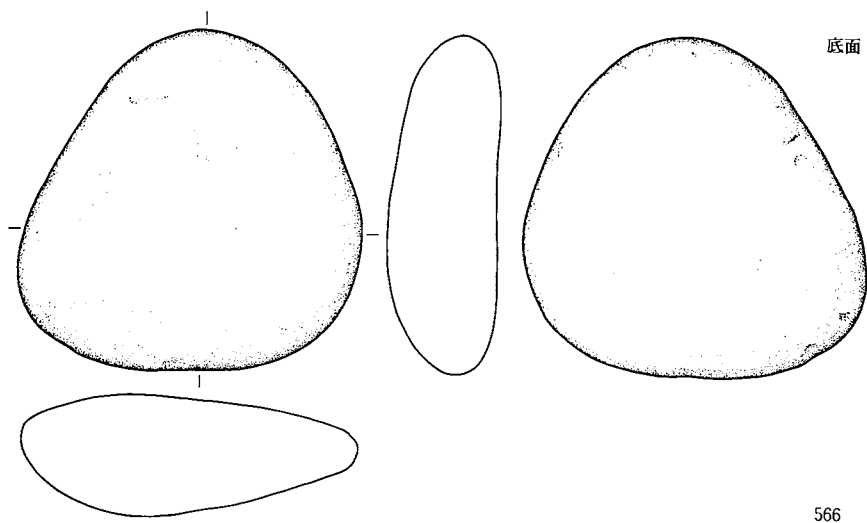
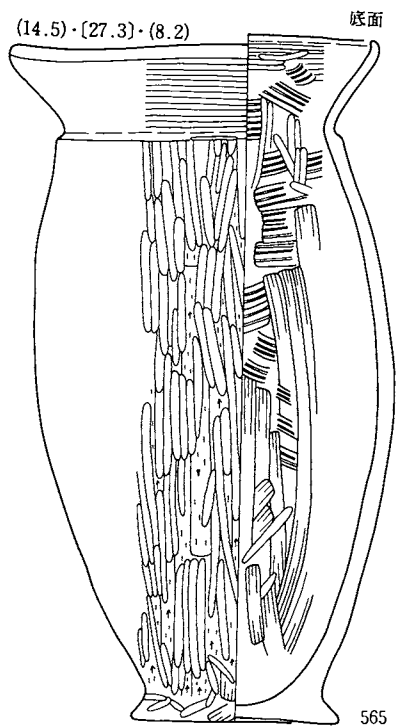
IV A-28土坑 (564)



縮尺 $\frac{1}{3}$

図版151：遺構内出土遺物

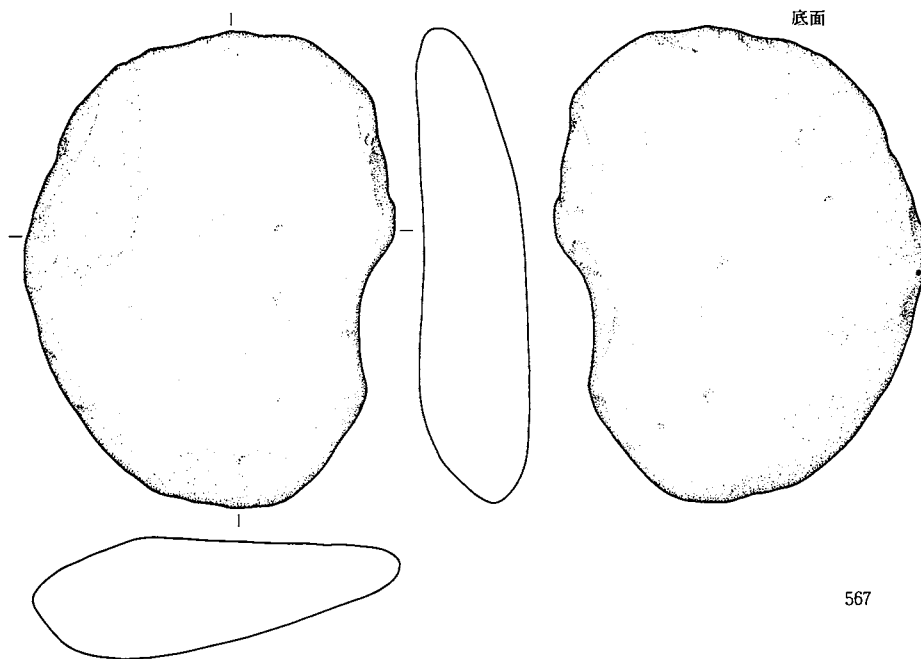
IV A—49土坑 (565、566)



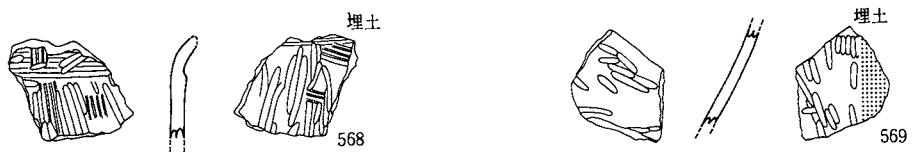
縮尺 $\frac{1}{3}$

图版152：遺構内出土遺物

IV A—49土坑(2) (567)



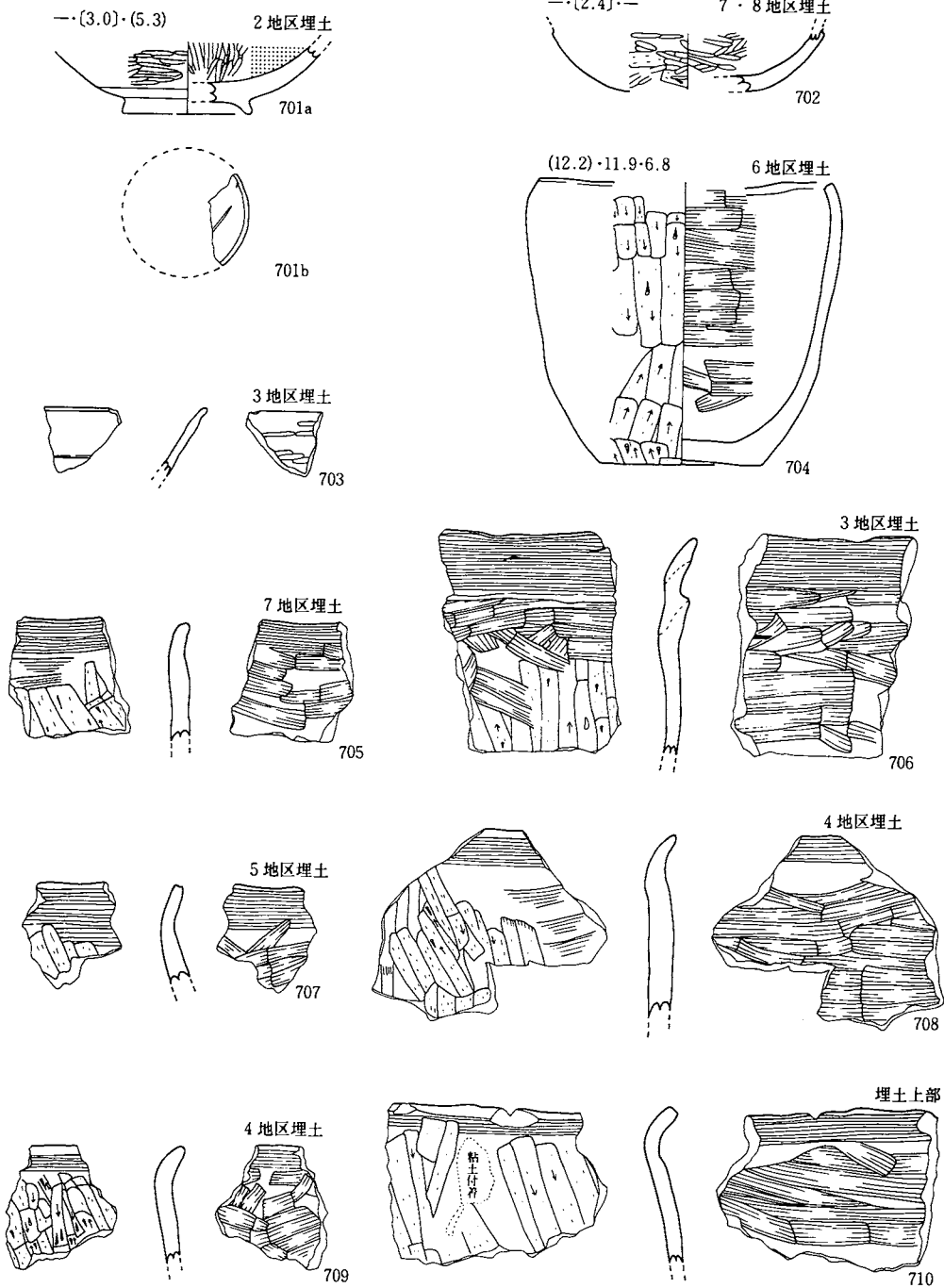
V A—1 土坑 (568, 569)



縮尺 $\frac{1}{3}$

图版153：遺構内出土遺物

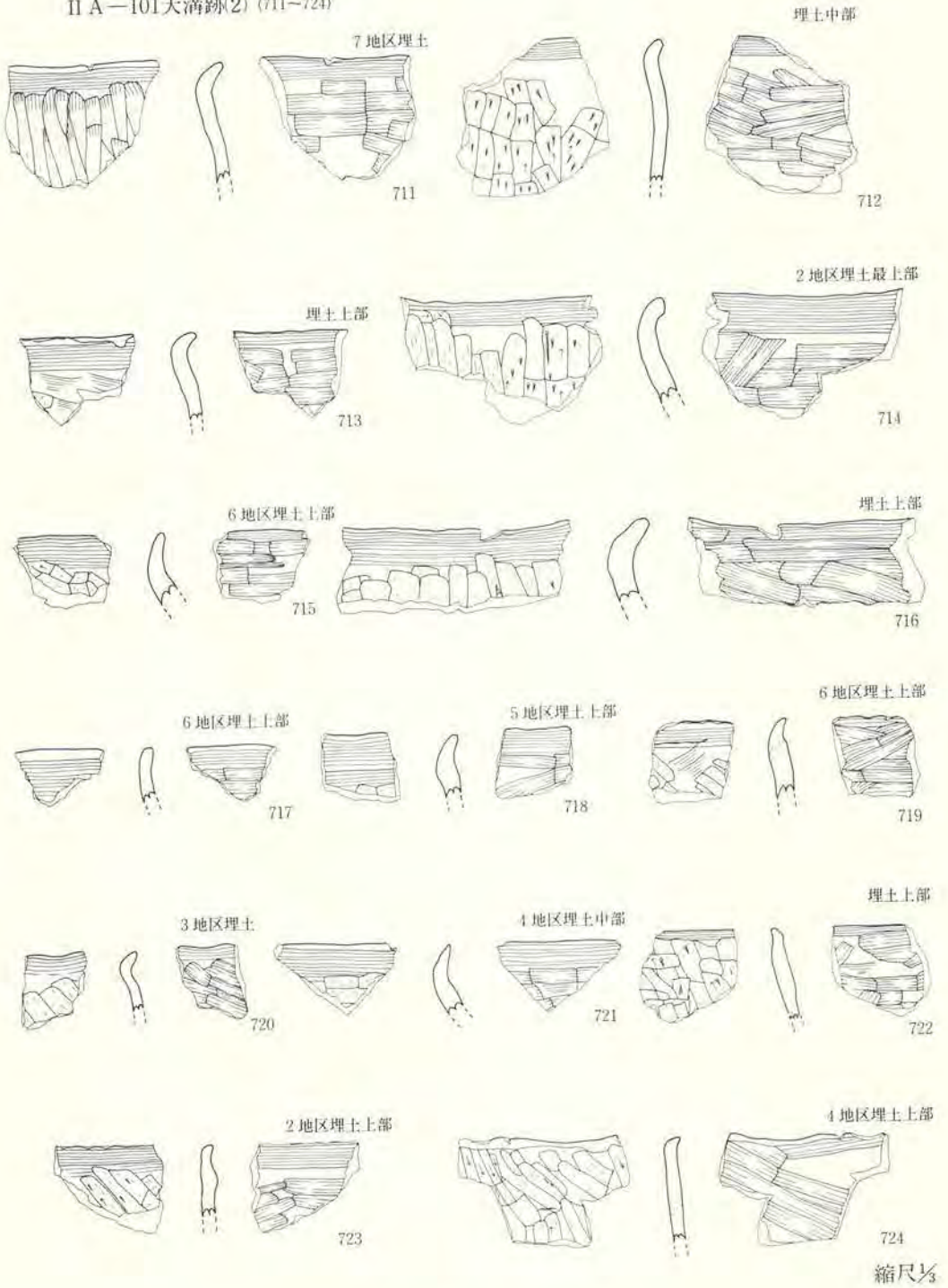
II A—101大溝跡(1) (701~710)



縮尺 $\frac{1}{3}$

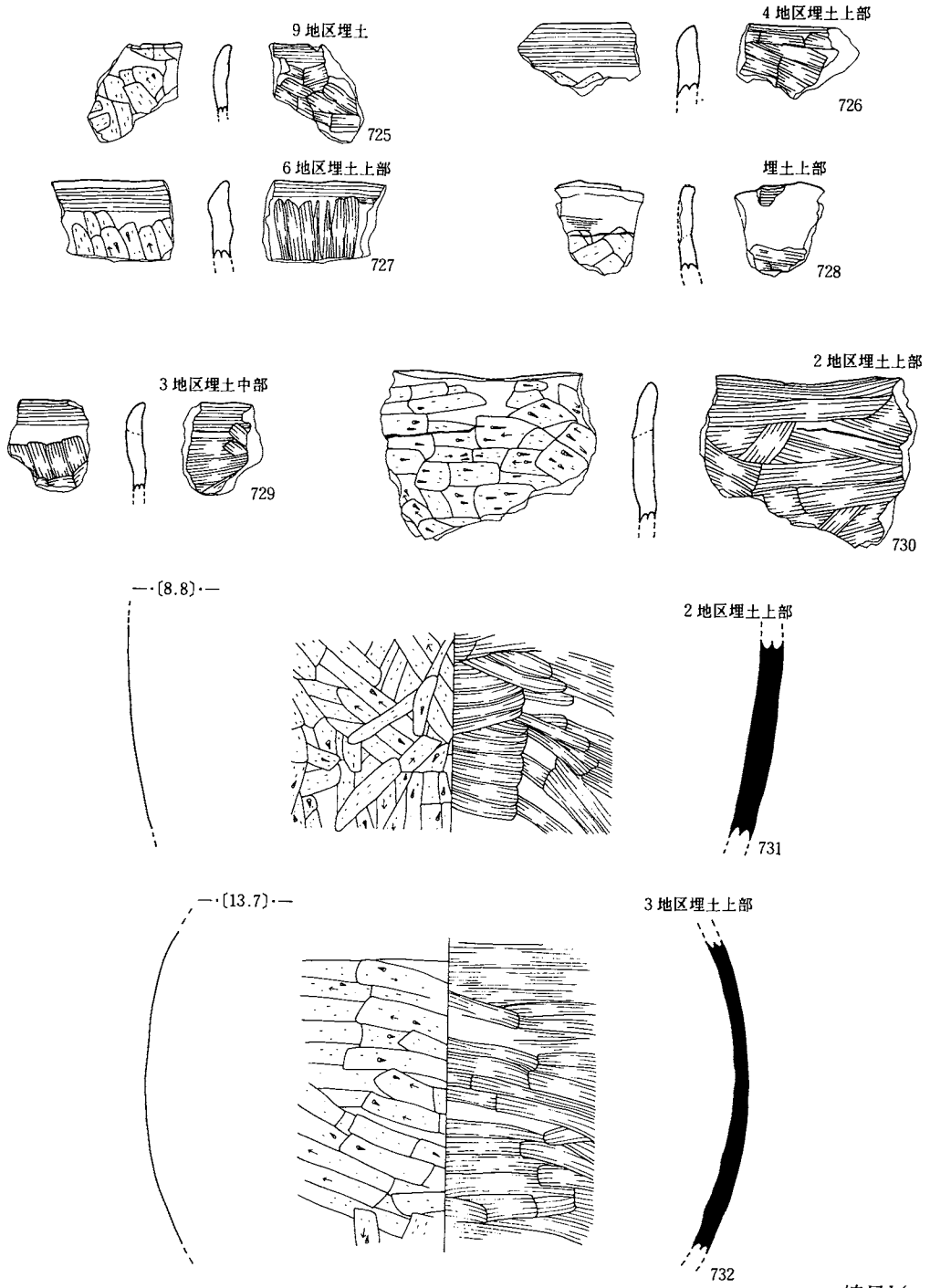
图版154：遺構内出土遺物

II A—101大溝跡2) (711—724)



图版155：遺構内出土遺物

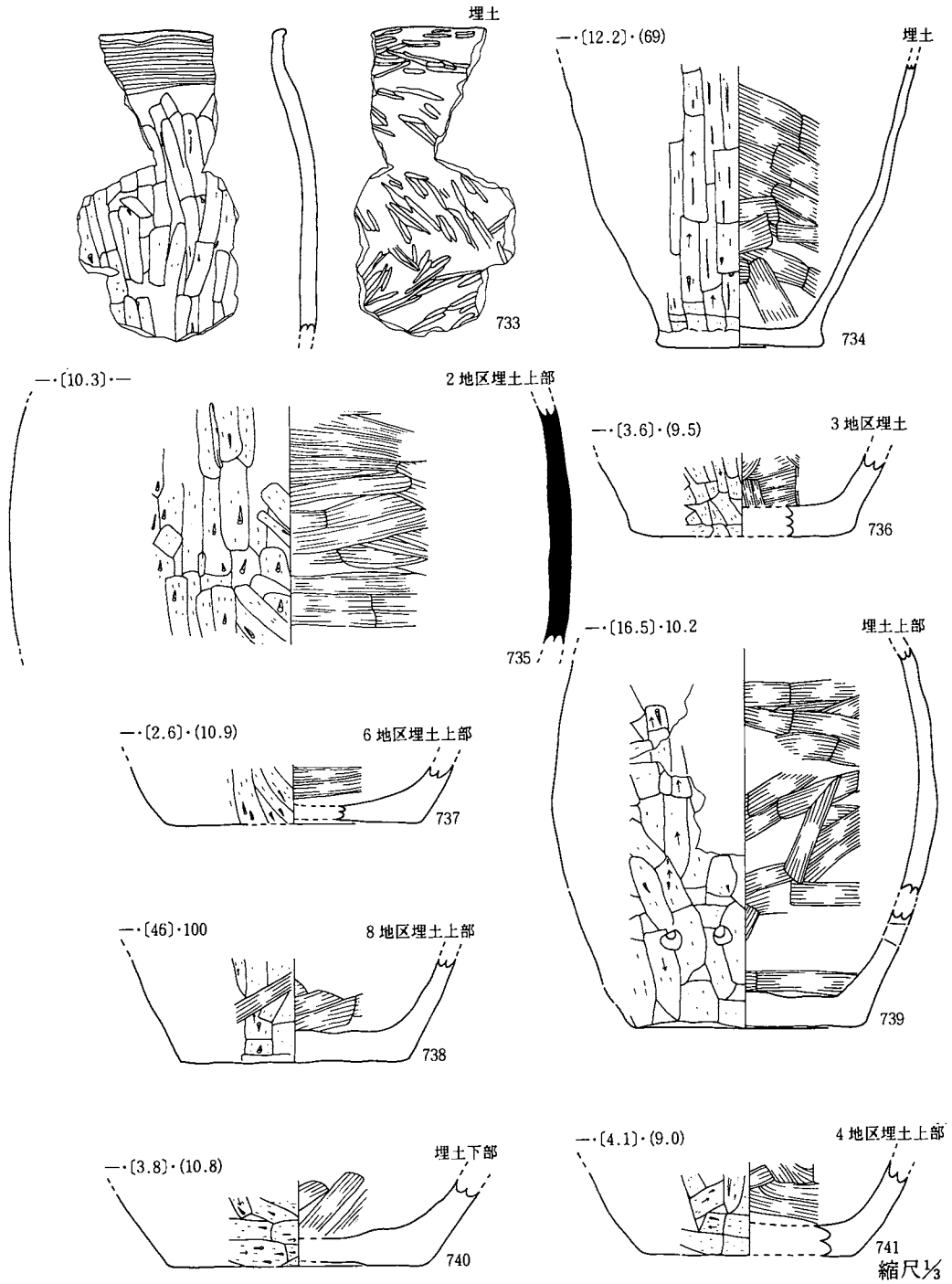
II A—101大溝跡(3) (725~732)



縮尺 $\frac{1}{3}$

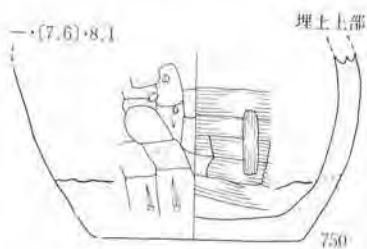
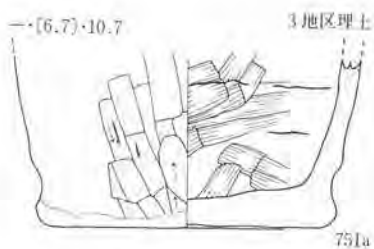
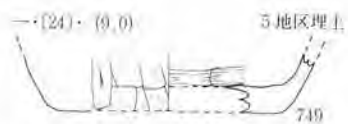
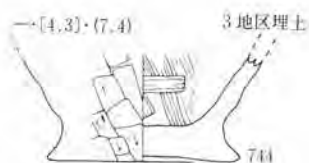
图版156：遺構内出土遺物

II A—101大溝跡(4) (733~741)



图版157：遺構内出土遺物

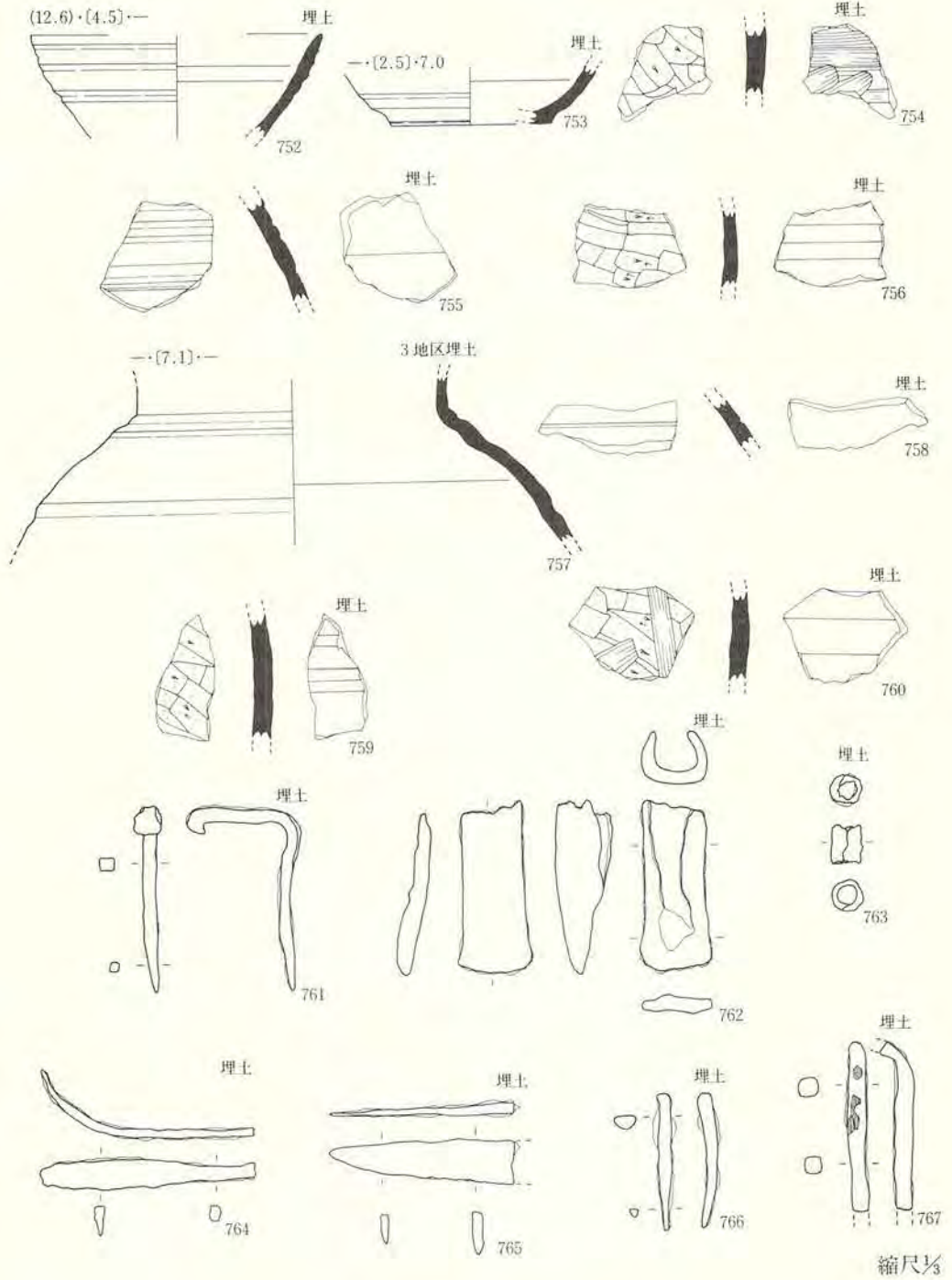
II A-101大溝跡(5) (742~751)



縮尺 $\frac{1}{3}$

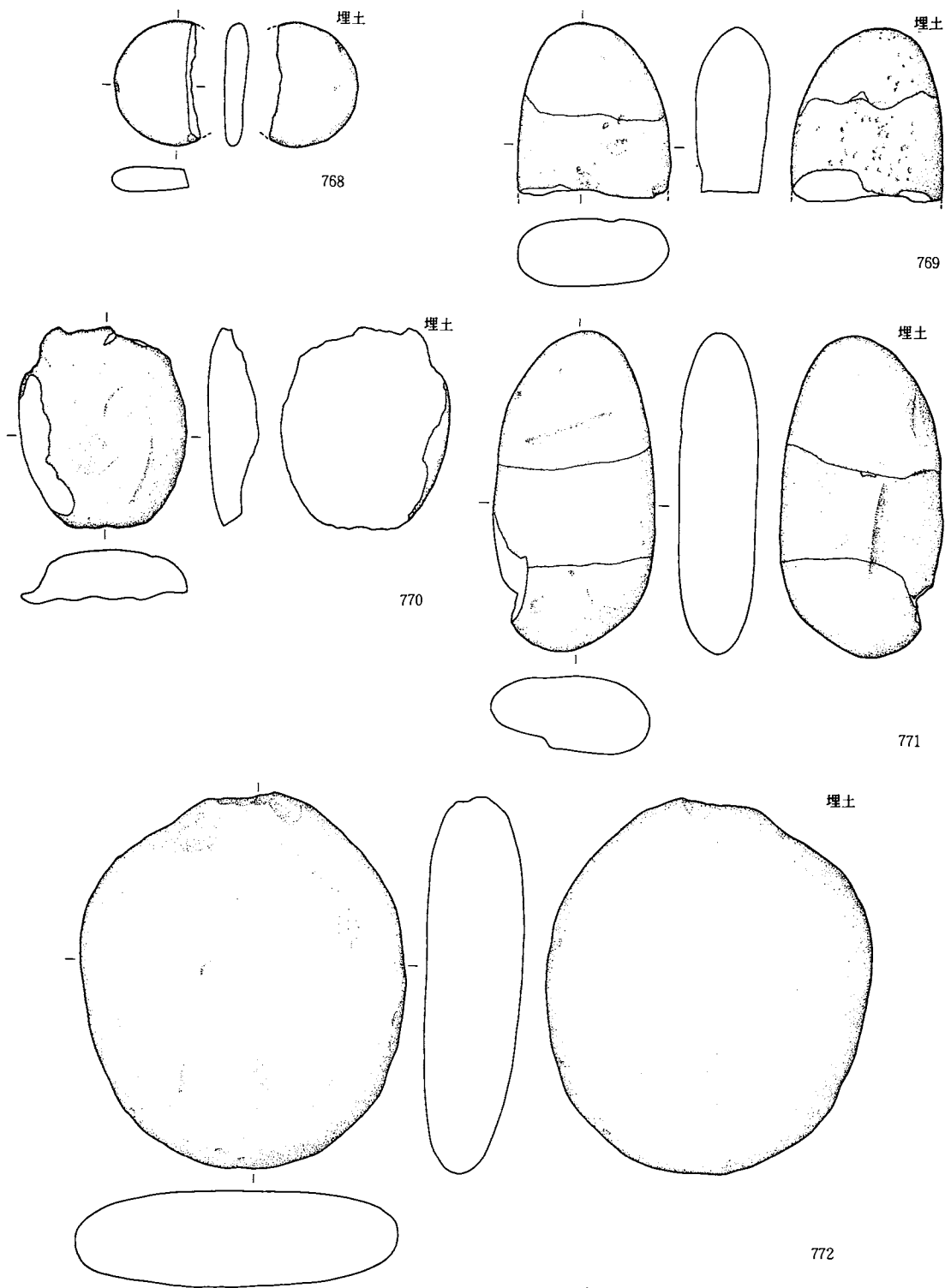
図版158：遺構内出土遺物

II A—101大溝跡(6) (752~767)



図版159：遺構内出土遺物

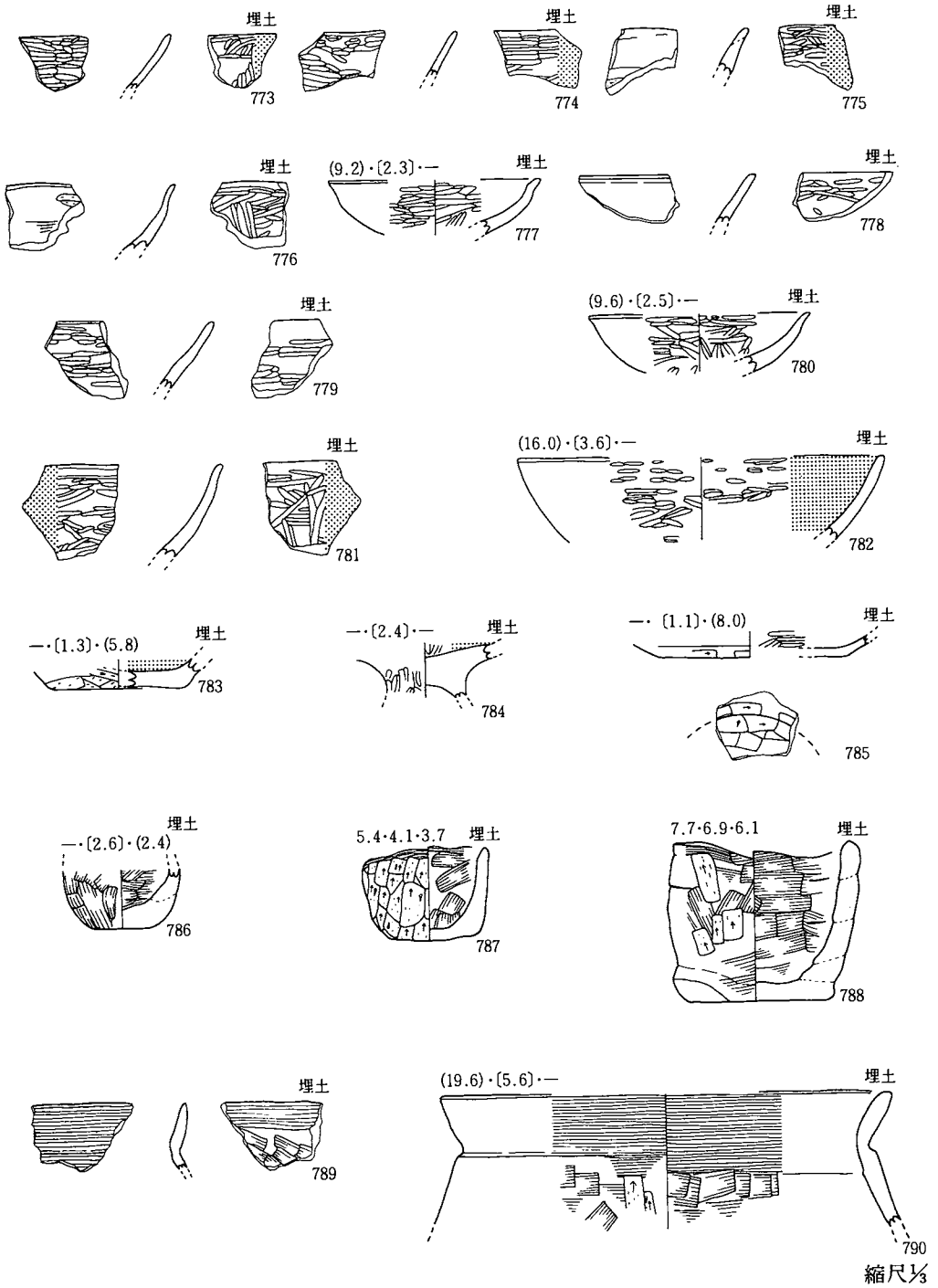
II A-101大溝跡(7) (768~772)



図版160：遺構内出土遺物

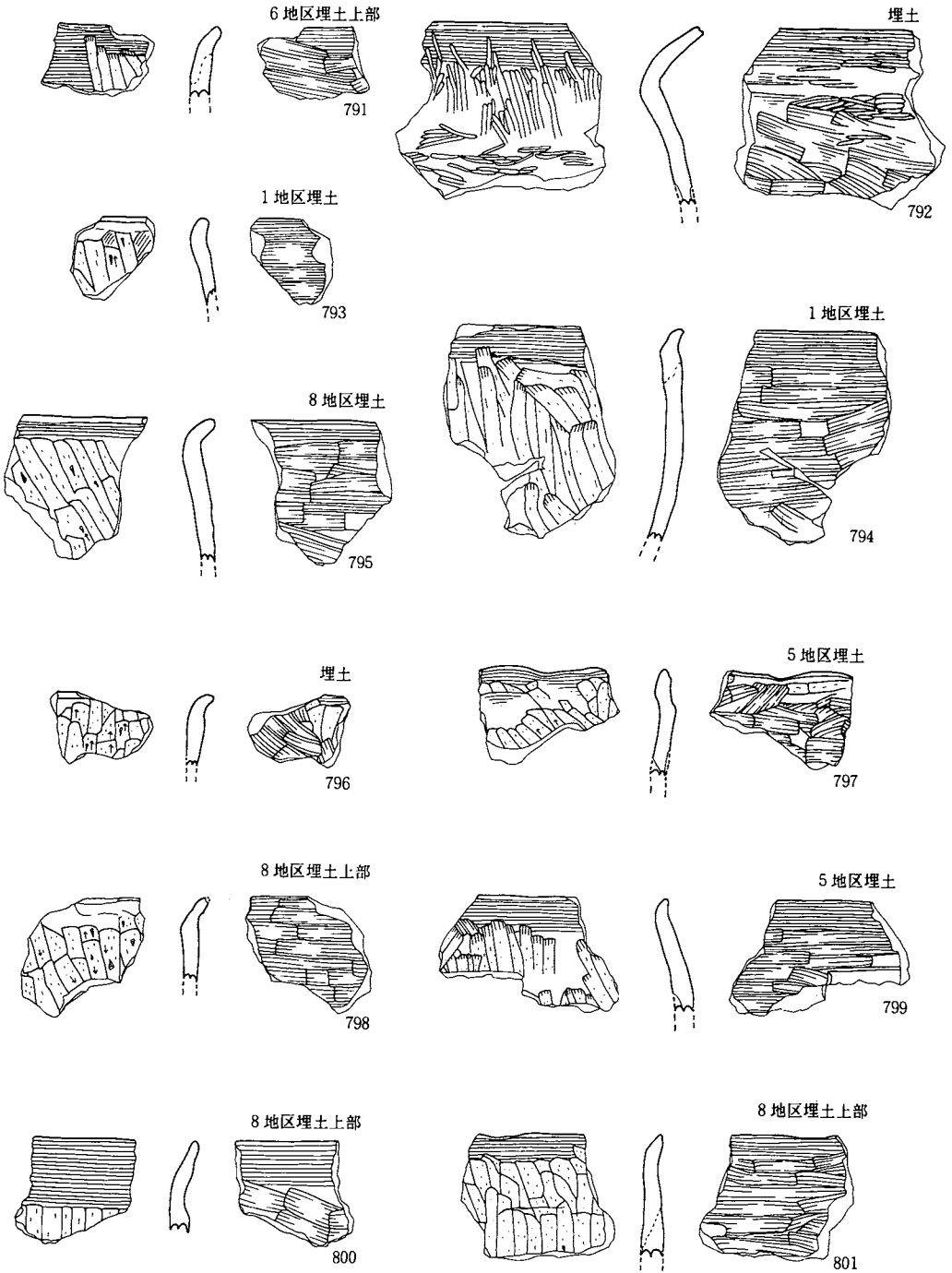
縮尺 $\frac{1}{3}$

II A—102大溝跡(1) (773~790)



圖版161：遺構內出土遺物

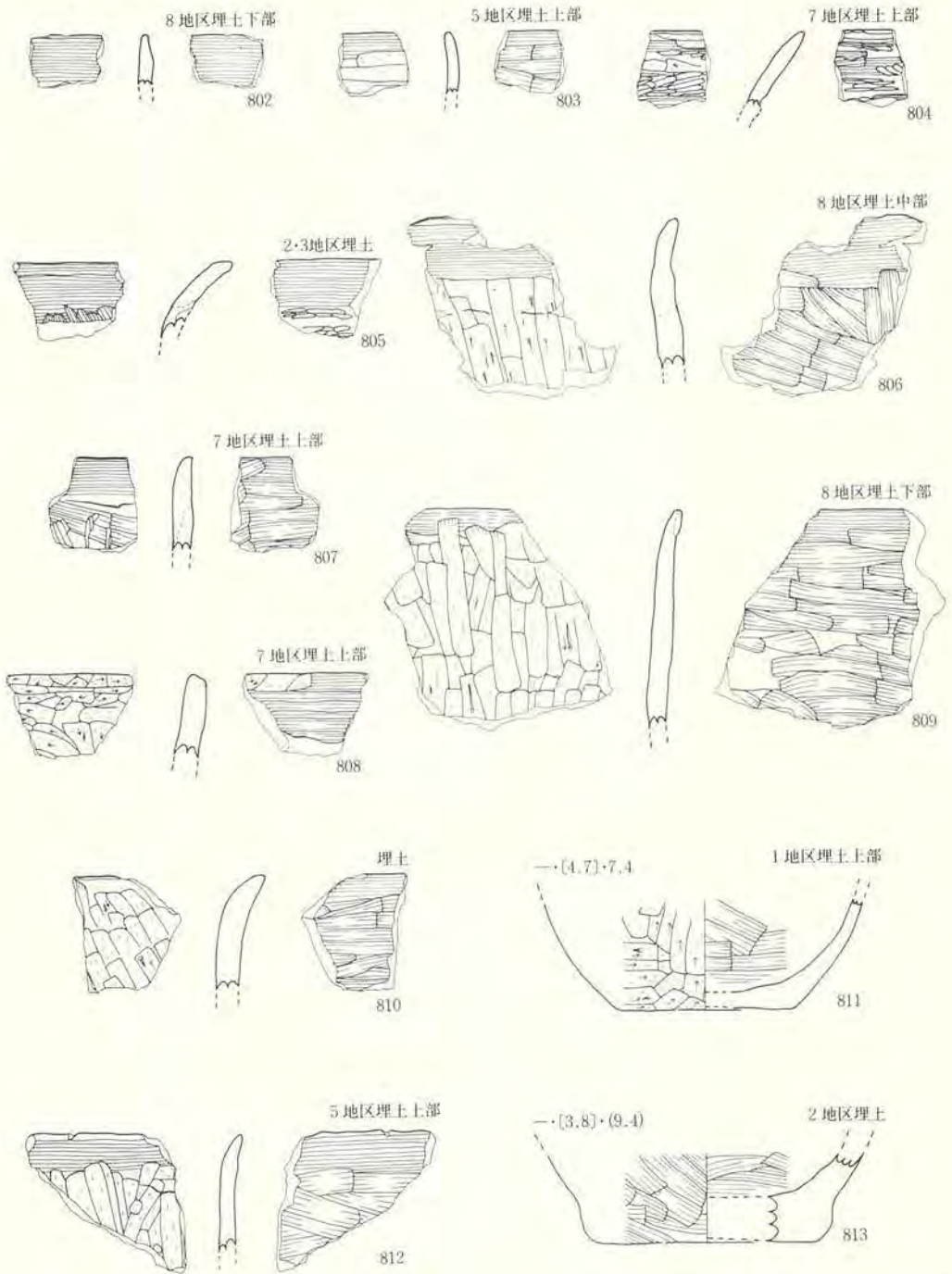
II A—102大溝跡(2) (791~809)



縮尺 $\frac{1}{2}$

图版162：遺構内出土遺物

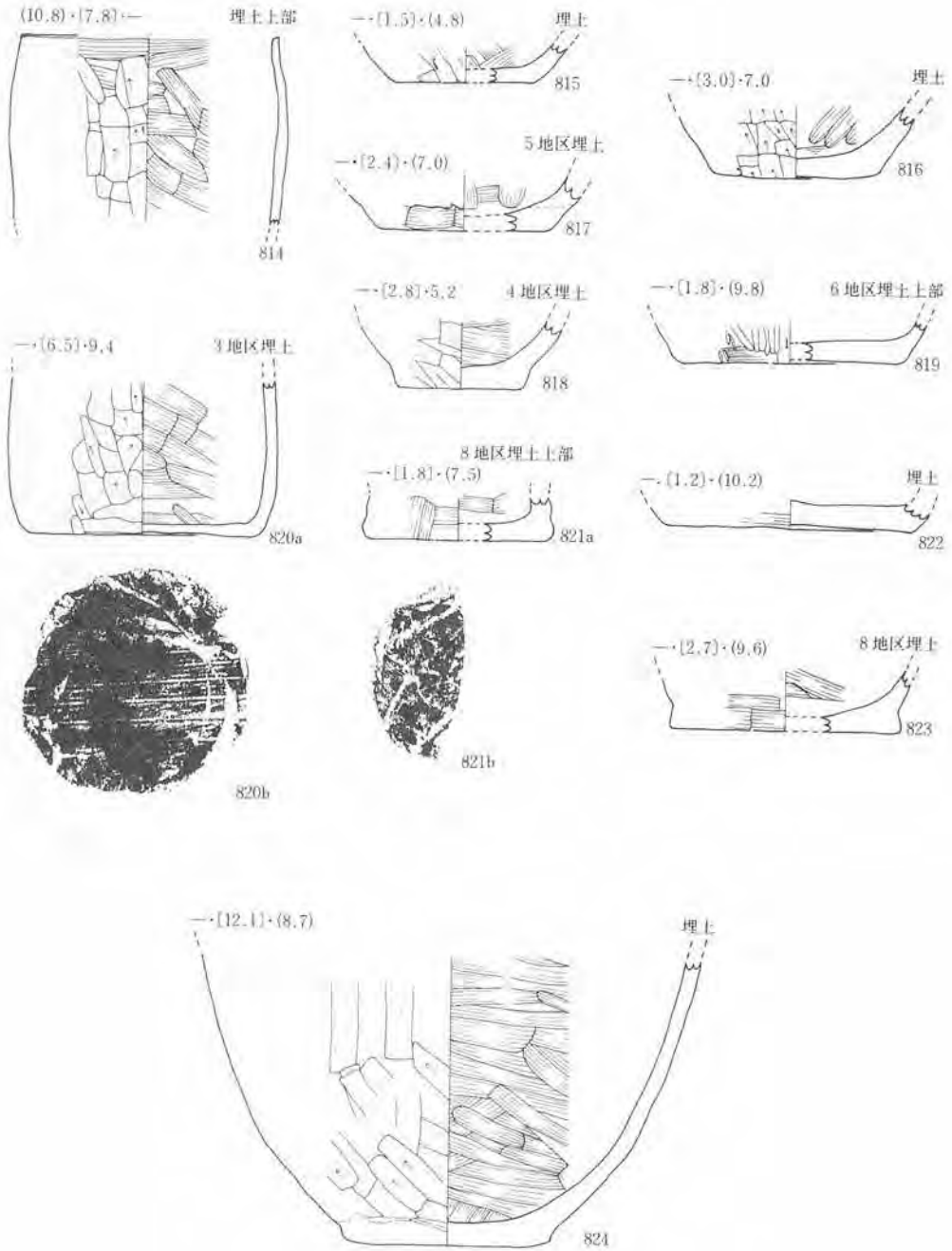
II A-102大溝跡(3) (802~813)



縮尺 $\frac{1}{3}$

図版163：遺構内出土遺物

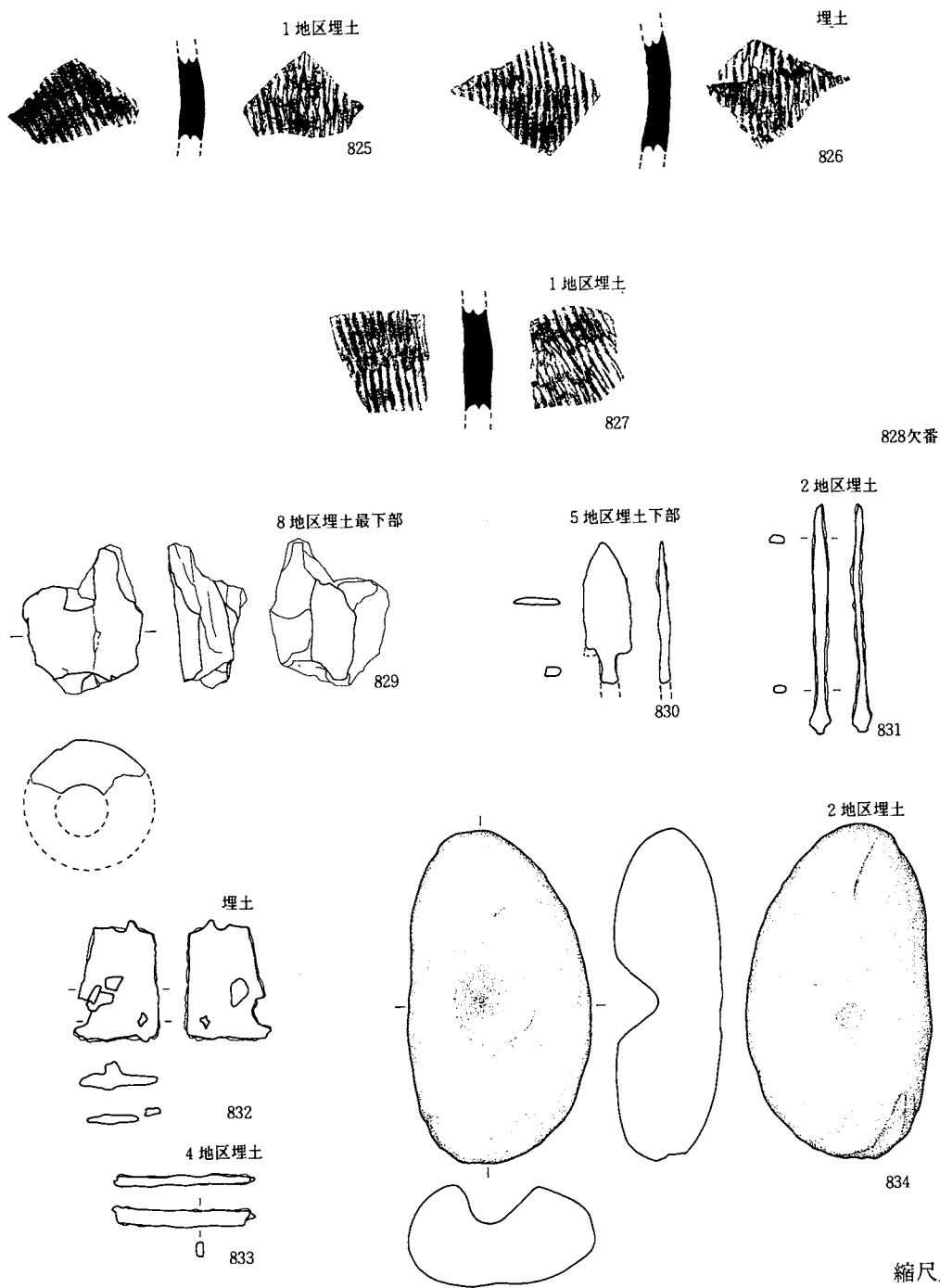
II A—102大溝跡4) (814~824)



縮尺 $\frac{1}{3}$

図版164：遺構内出土遺物

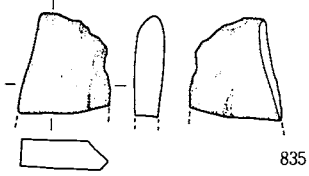
II A - 102大溝跡(5) (825~834)



図版165：遺構内出土遺物

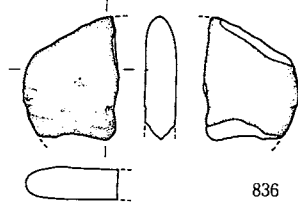
II A—102大溝跡(6) (835~841)

8地区埋土



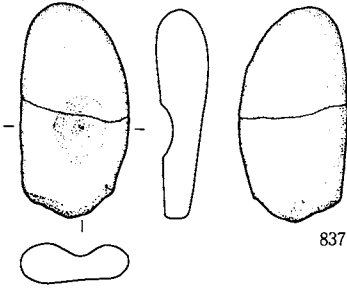
835

2地区埋土



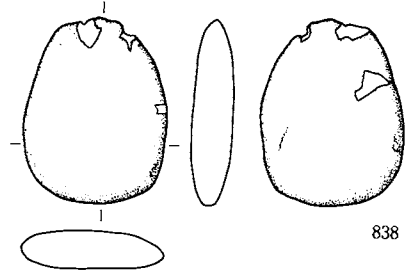
836

2地区埋土



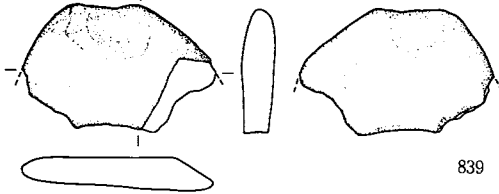
837

2地区埋土



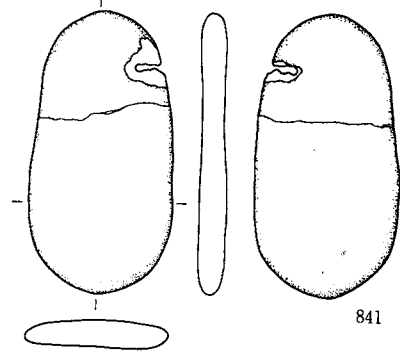
838

2地区埋土



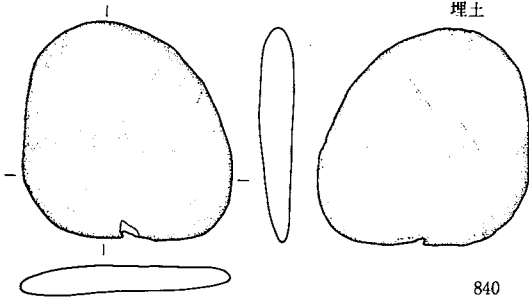
839

2地区埋土



841

埋土

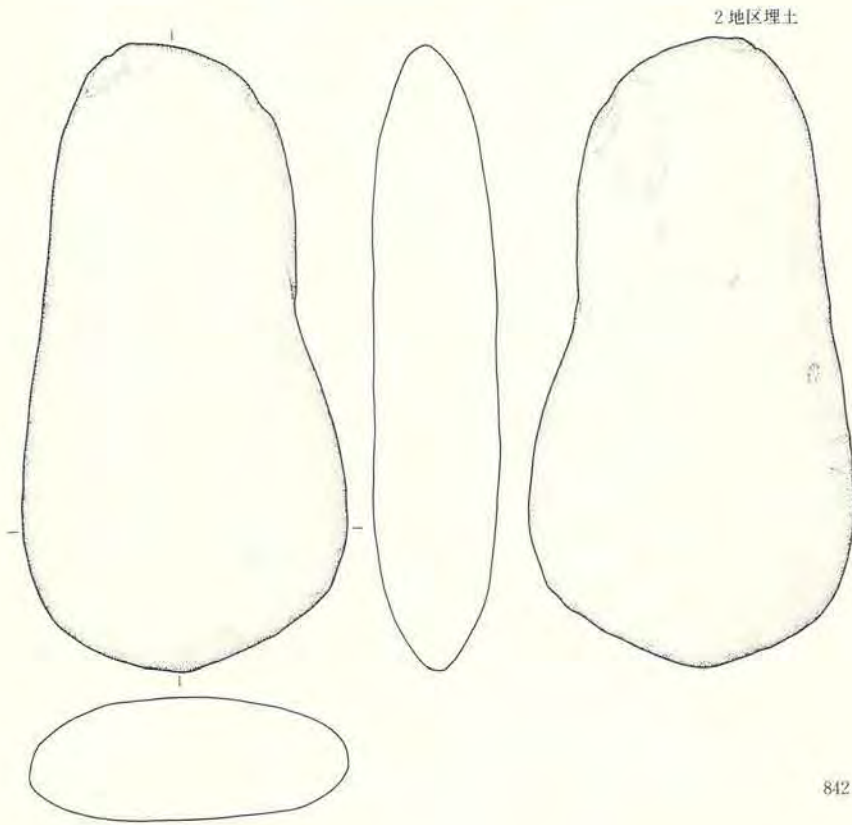


840

縮尺 $\frac{1}{3}$

図版166：遺構内出土遺物

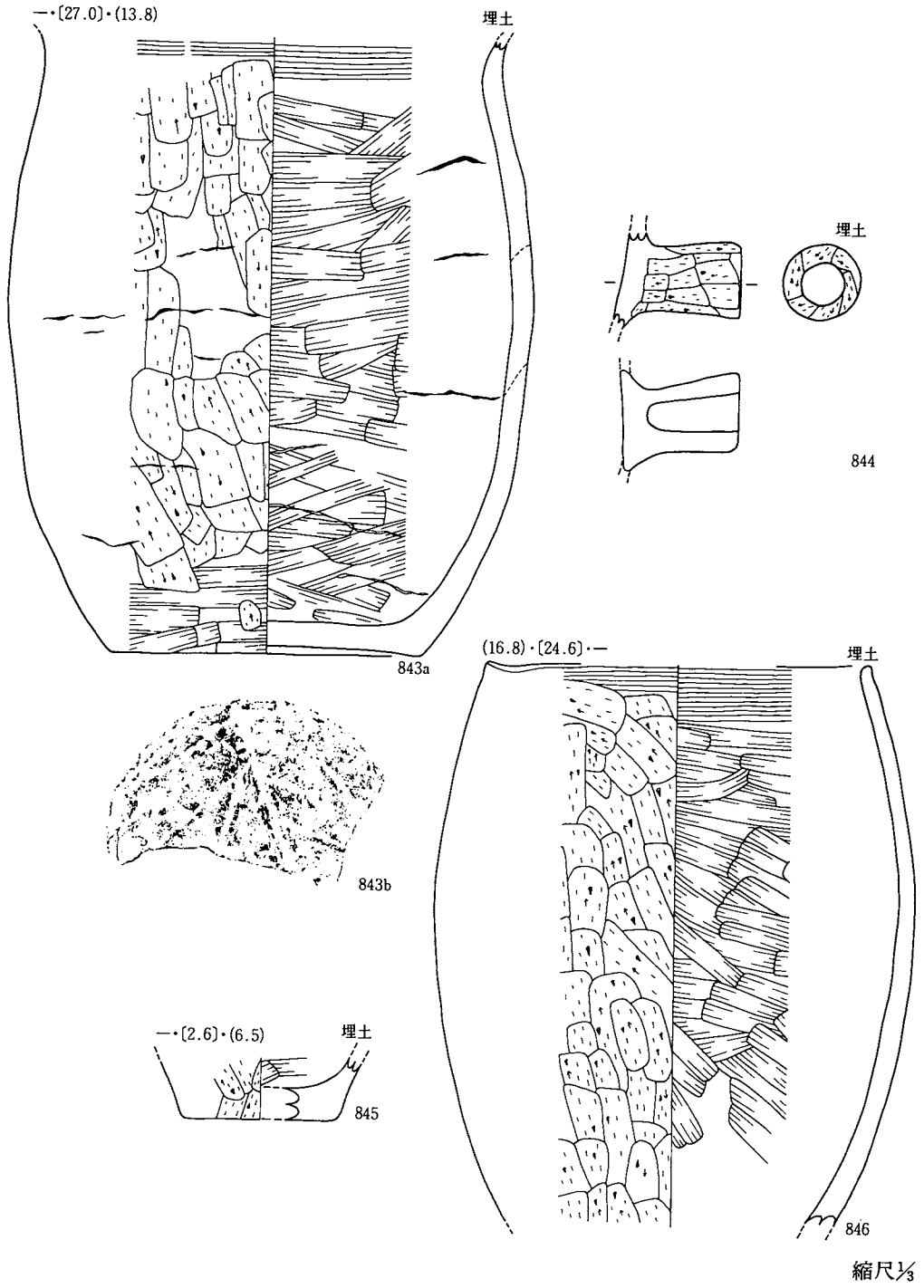
II A—102大溝跡7) (842)



縮尺

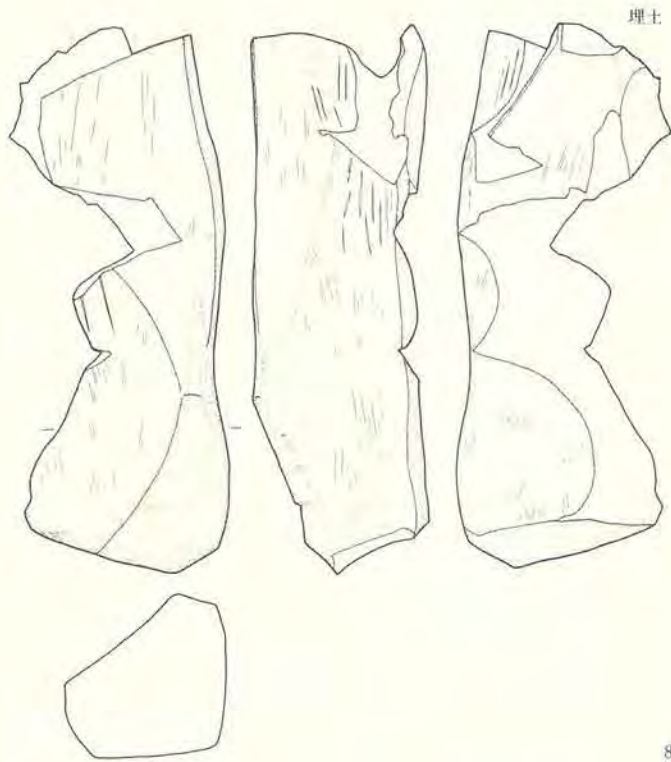
図版167：遺構内出土遺物

III A-101大溝跡(1) (844~846)



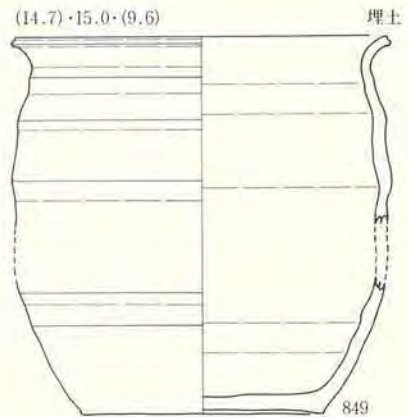
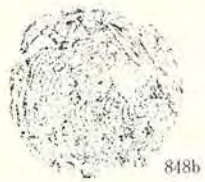
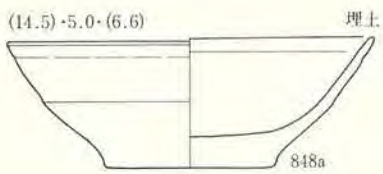
図版168：遺構内出土遺物

III A-101大溝跡2) (847)



847

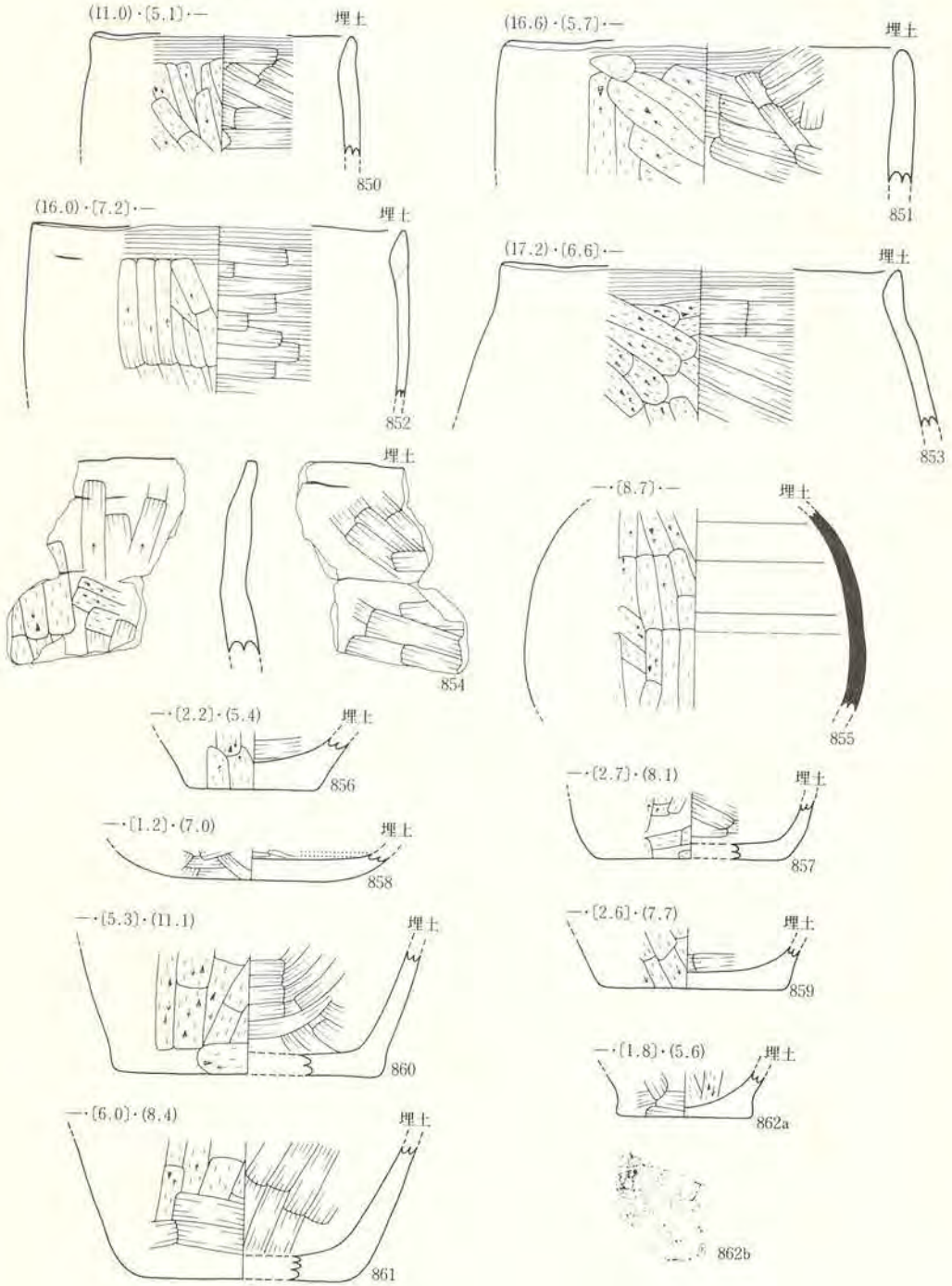
IV A-101大溝跡1) (848, 849)



縮尺 $\frac{1}{3}$

図版169 遺構内出土遺物

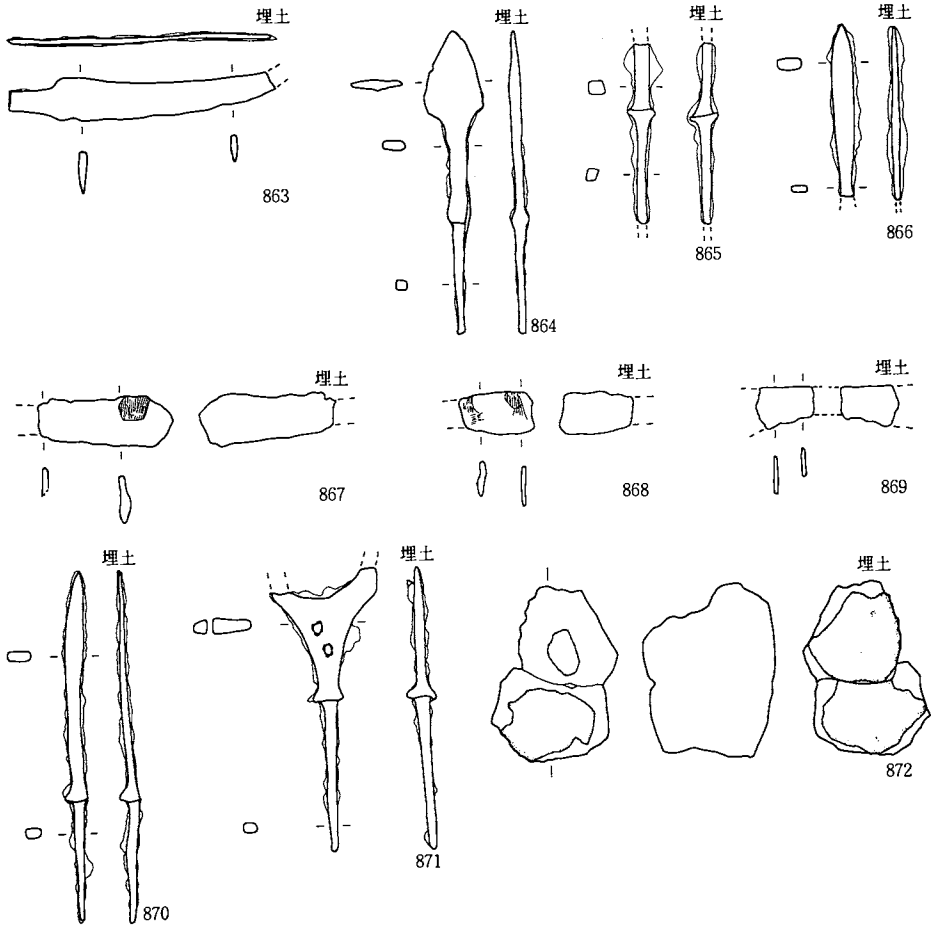
IV A 101—大溝跡(2) (850—862)



縮尺 $\frac{1}{3}$

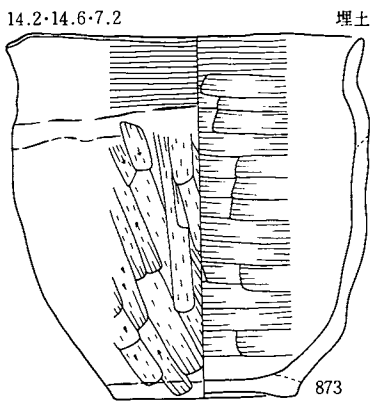
図版170：遺構内出土遺物

IV A—101大溝跡(3) (863~872)

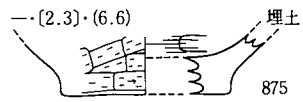
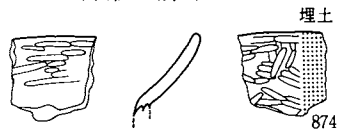


IV A—102溝跡 (873)

14.2·14.6·7.2



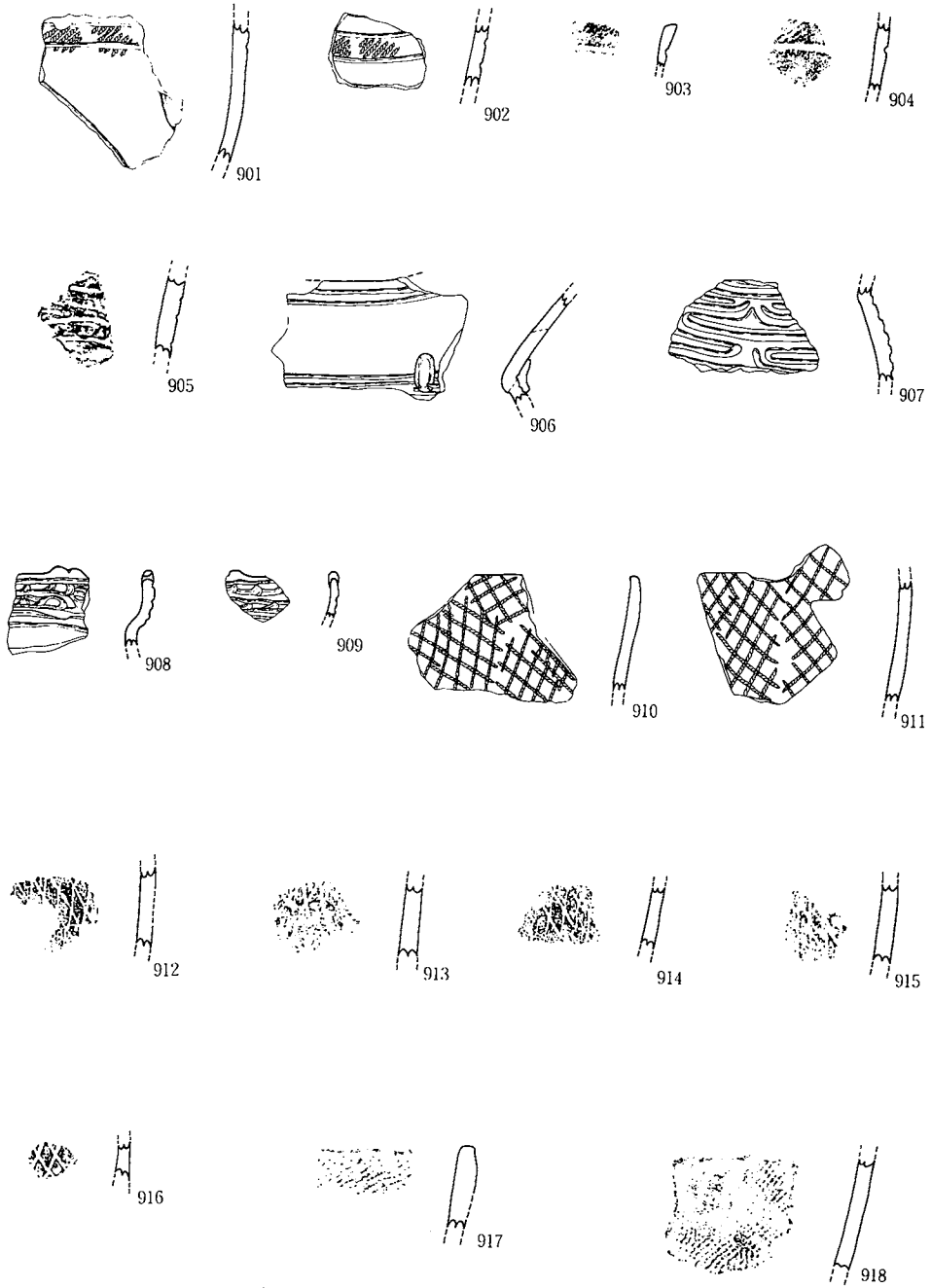
IV A—1·2方形周溝跡 (874·875)



縮尺 $\frac{1}{3}$

図版171：遺構内出土遺物

遺構外(1)
繩文時代 (901~929)

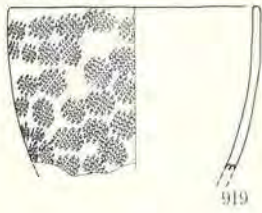


縮尺 $\frac{1}{2}$

図版172：遺構外出土遺物

遺構外(2) (919~929)

(9.6)・[6.5]・—

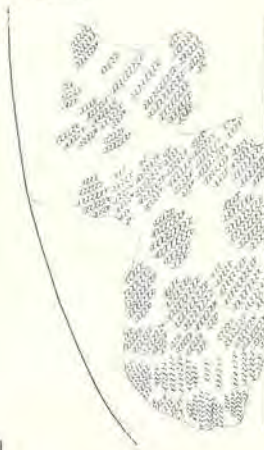


919



920

—[16.5]・—



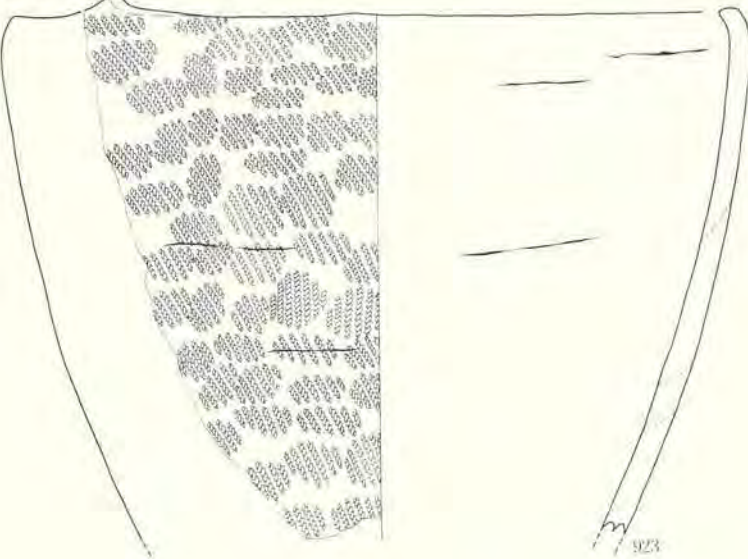
922

(15.7)・[5.5]・—



921

(28.6)・[20.8]・—



923



924



925

—[0.5]・[5.8]



926

—[2.8]・[6.0]



927

—[2.4]・[7.0]



928

—[2.2]・[10.0]



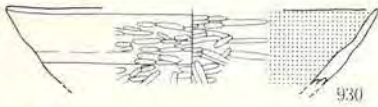
929

縮尺 $\frac{1}{4}$

図版173：遺構外出土遺物

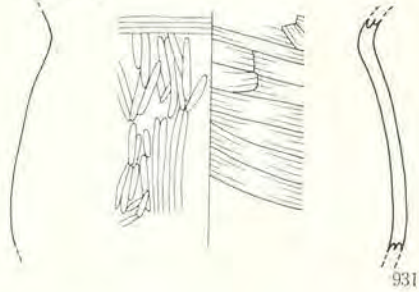
遺構外(3) 古代 (930~973)

(14.8)·(63.0)·—



930

—[9.3]·—



931

(18.4)·(3.5)·—



932

—(2.2)·(6.2)



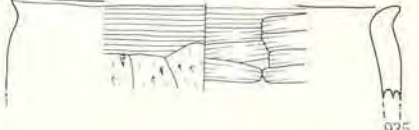
933

(12.3)·(3.9)·—



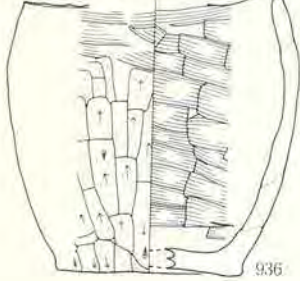
934

(15.4)·(3.6)·—



935

(12)·11.2·(7.2)



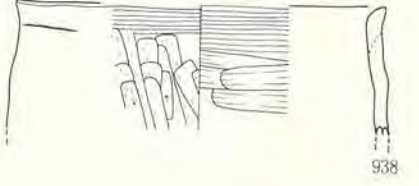
936

(8.4)·(4.3)·—



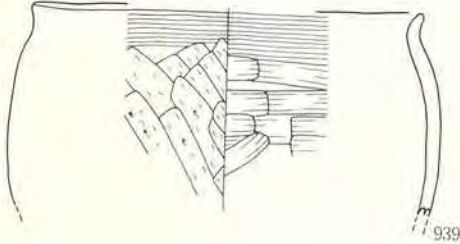
937

(14.6)·(5.1)·—



938

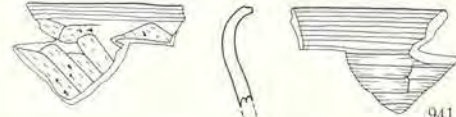
(15.6)·(8.0)·—



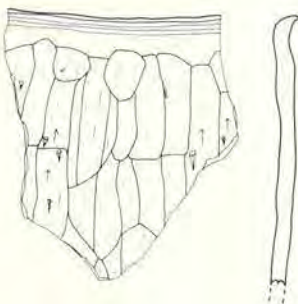
939



940



941



942

—[4.8]·—

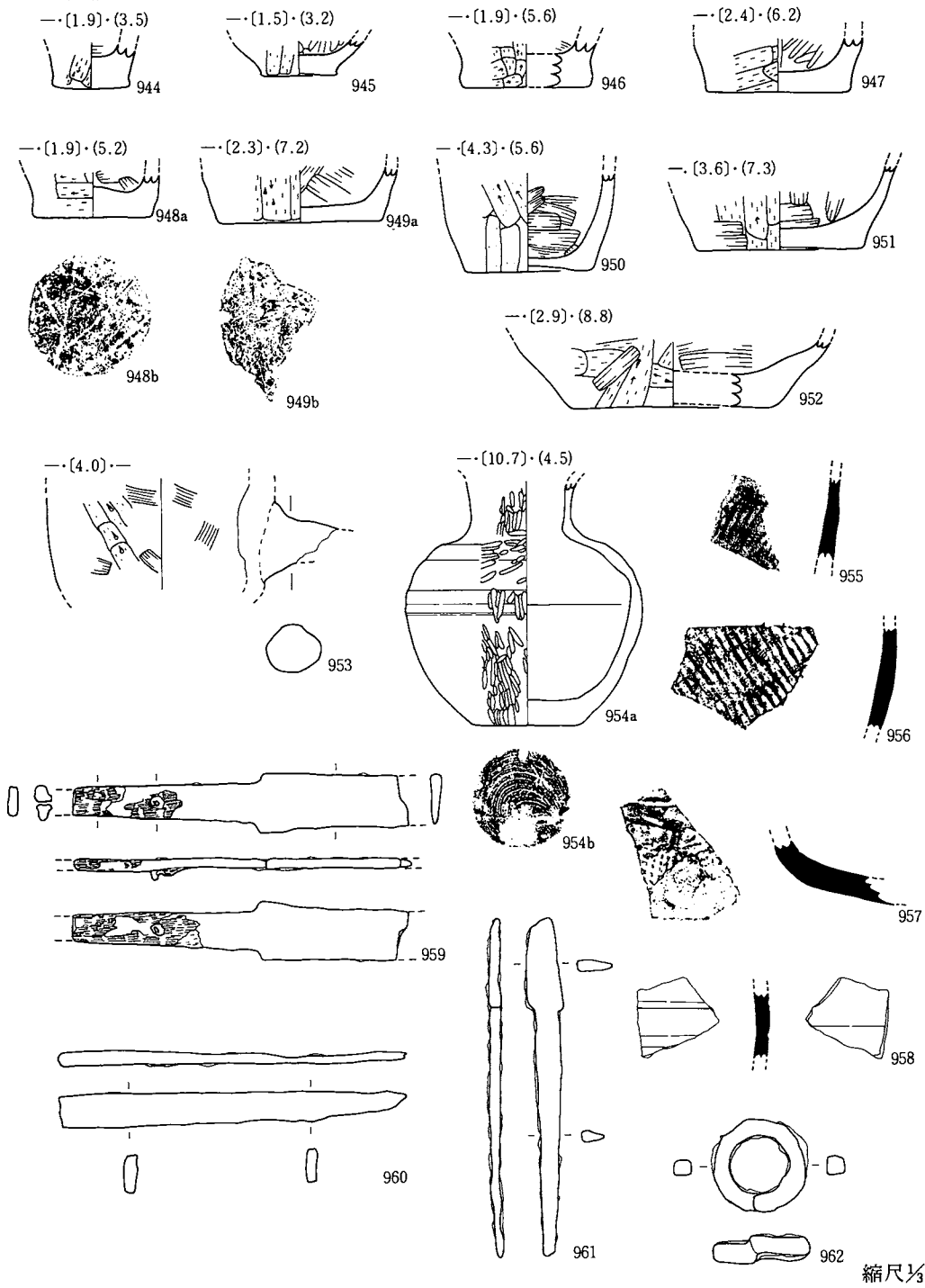


943

縮尺 $\frac{1}{3}$

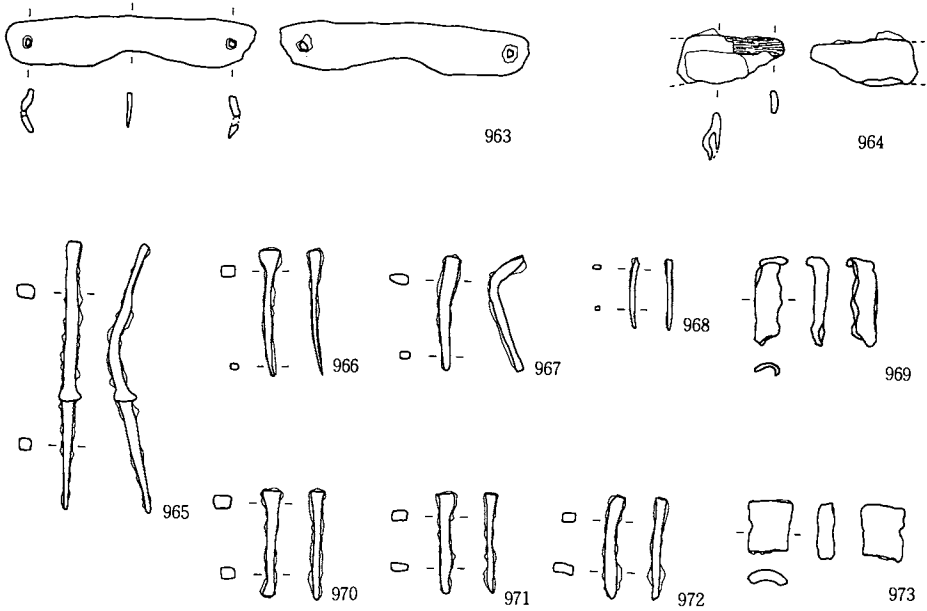
図版174：遺構外出土遺物

遺構外(4) (944~962)

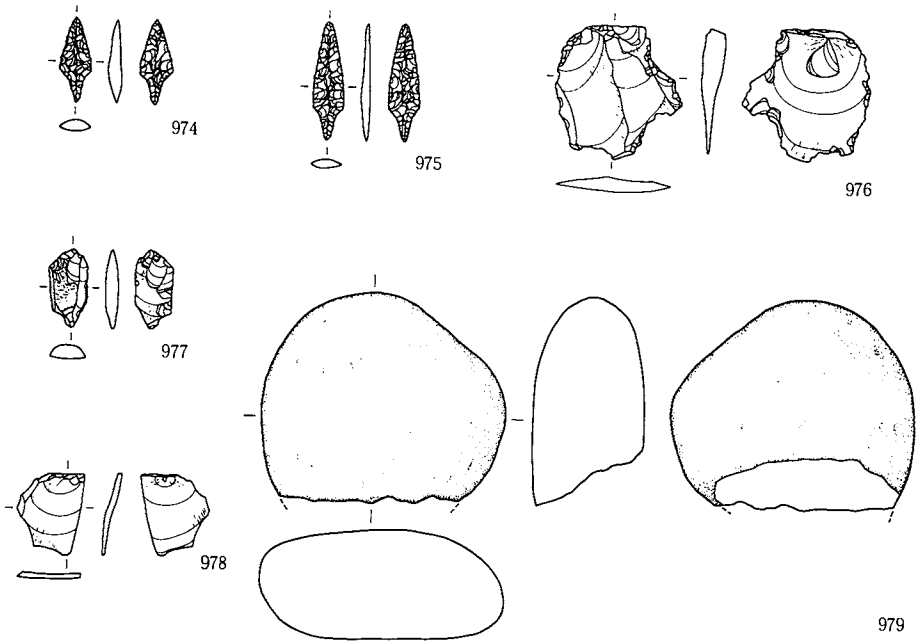


図版175：遺構外出土遺物

遺構外(5) (963~979)



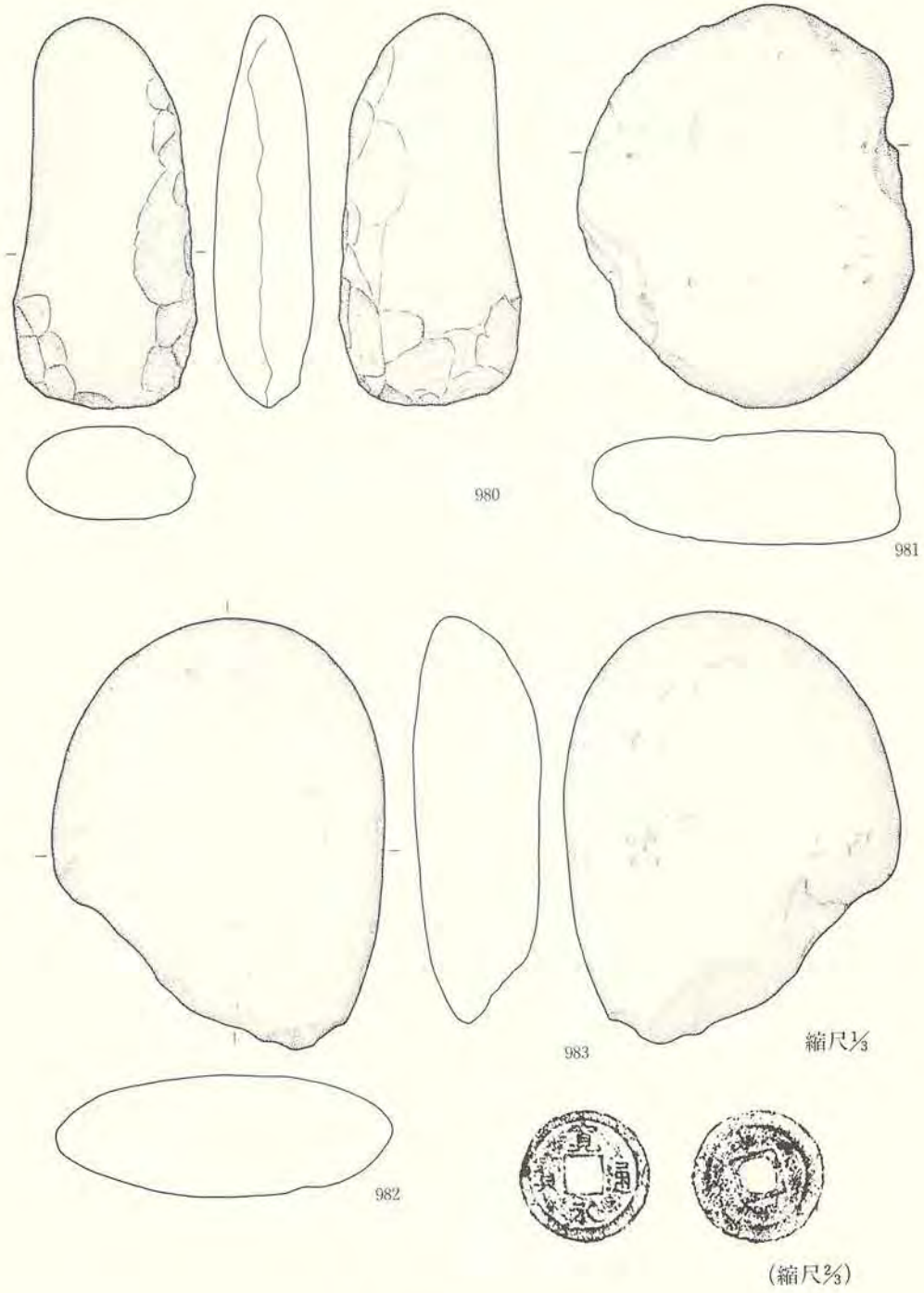
縄文時代 (974~982)



縮尺 $\frac{1}{3}$

図版176：遺構外出土遺物

遺構外(6) (980~983)



図版177：遺構外出土遺物

VI 出土遺物の分類と考案

1. 古代の土器

土師器、須恵器、酸化焰焼成の須恵器（須恵系土器）が出土している。大多数は土師器である。土師器の器種は甕形土器、小型甕形土器、鉢形土器、壺形土器、長頸壺形土器、坏型土器、小型土器である。須恵器は長頸壺形土器、甕形土器の器種のみである。酸化焰焼成の須恵器の器種は坏形土器だけである。

(1) 土師器

I. 奈良時代～平安時代（十和田a降下火山灰の降下以前）

器種は坏形、甕形土器ですべてロクロ不使用である。甕、高坏形土器は検出されていない。甕形土器

すべて肩部に段、稜をもつ。口縁部の形態は外反している（IA）、外反し口唇部近くで直上している（IB）ものがある。口縁部の調整は内外面にヘラミガキ（IA-1・IB-1）、外面のみヘラミガキ（IA-2・IB-2）、内外面をヨコナデがなされている（IA-3・IB-3）、ヘラケズリ後一部ヘラミガキ（IA-4・IB-4）ものがある。内外面ヘラミガキ調整されているものが奈良時代でも古く位置づけられると思われる。

体部外面調整は丁寧なヘラミガキ調整のもの（a類）と、ヘラケズリ後、一部ヘラミガキ調整のもの（b類）、ヘラナデのもの（c類）とがある。前者が古く位置づけられる。

底部は外方にのびている形のものとうでないものがある。時代が新しくなるにつれて、前者の形態のものが減少していく傾向にある。底部の内形は卵形のものと同丸逆台形のものがあり前者は奈良時代の時期から多くあり古く位置づけられるものである。

坏形土器

すべて内面はヘラミガキ後、黒色処理が施されている。二次的の火熱を受け黒色が消失しているものも分類上内黒の坏に入れる。底部の形態から丸底のものと平底のものに大きく分類した。

丸底の内黒坏（IA類）

口径が15cm以上を越える大きい坏はない。体部内外面の特徴から分けられる。

（IA-1類）体部外面に稜・段をもち、内外面に区切りのあるもの

（IA-2類）体部外面に稜・段をもち、内外面に区切りをもたないもの

（IA-3類）体部外面に稜・段をもたないもの

体部外面はヘラミガキで調整されているが、（IA-3類）の中にはヘラケズリで調整され

ているものがある。一般的に内面に区切りのある（I A—1類）の丸底坏が古い特徴をもっているといえる。大型の坏でないことなどから、どの位まで古くさかのぼれるか、この遺跡では確証することができない。

平底の内黒坏（I B類）

口径が10～12cmの坏である。

（I B—1類）外面に段・稜をもつもの

（I B—2類）外面に段・稜をもたないもの

とがあり、（I B—1類）の体部下半の外面調整はヘラミガキのもので、（I B—2類）の調整は（I B—1類）調整のほかに、ヘラケズリ後、一部ヘラミガキのものがある。

（I B—2類）の平底の内黒坏で特に外面調整がヘラケズリ調整のものは9世紀代に位置づけられるものである。

黒色の杯（I C類）

体部外面に軽い段をもち、両面ヘラミガキ後、黒色処理が施されているものである。

坏類は小型が中心であり、調整や形態などがバリエーションに富み、時期を決定することは坏のみからでは困難である。北上川中流域では8世紀後半には平底の内黒坏が主体を占めるとされている。

II. 平安時代（十和田 a 降下火山灰の降下以後）

器種は甕形、坏形、小型土器、壺形土器がある。甕形、坏形土器はロクロ使用のものと不使用のものがあり、小型土器はロクロ不使用のみ、壺形土器はロクロ使用のみである。

甕形土器

ロクロ使用の甕形土器は1点（III類）（849）で、小型のものである。上半から下半までロクロ調整されている。IV A—101大溝跡の砂層の中から出土している。

ロクロ不使用の甕形土器が土器の中で最も多い。口縁部の形態は（II A）外反している、（II B）口縁部が短く外反しているもの、（II C）口縁部が極端に短く直上ないし外反しているもの、（II D）口縁部が内弯しているもの、（II E）口縁部が緩く外反ないし真直に立ち上がっているものがある。本遺跡で出土している甕形土器は（II A）、（II B）のものが少なく、（II C）、（II D）、（II E）が圧倒的に多数を占め、中でも（II C）、（II D）が主体を占めている。

体部外面の調整は大半がヘラケズリで調整されているもの（1類）であり、数は少ないが体部上半を不規則な方向のヘラナデで調整されているもの（2類）がある。ヘラケズリも幅広く短く削るものと、一定の幅で底部から口縁部方向に長く削るものがある。少数であるが削るというより押しなでて粘土をとる形の調整もあり、ナデ状ヘラケズリとして扱ったものもある。

胎土も砂粒が多く、しかもかなり大きい粒が混じるものと、砂粒があまり混じらないものがあり前者が一般的である。また、胎土中に金雲母が多く含むものもあり、ある時期の土器の特徴と関係があるかと考えて、形態、調整痕などを調べてみたが、一貫性のあるものを把握することはできなかった。

輪積み痕がそのまま残っている小型の甕形土器が出土している。器形や調整などから、青森県などで称せられる製塩土器と類似するものである。一応本遺跡では土器調整の粗悪化、簡略化ということとらえておきたい。

本遺跡の大多数を占める口縁部が極端に短く、外反、直上、内弯している甕形土器はロクロ使用の内黒坯を伴うことが少なく、内黒坯の減少から消滅にかけての時期のものと思われる。坏形土器に代わって木製品が多用されたことであろう。また、これらの甕形土器はこれ以前のものと比較して、口径、器高とも小さくかなり小型化している傾向にあると思われる。

内黒の坯を伴わない（II C）、（II D）、（II E）の甕形土器は、周辺では、九戸村嶽II遺跡、浄法寺町沼久保遺跡、二戸市府金橋遺跡などから出土している。この形態の甕形土器が最終末の形態であると思われる。北上川中流域では煮沸土器としての甕形土器がその他の形態の土器や鉄製のものに移行していた時期に、二戸地方、青森県では煮沸具として土師器甕形土器を使用していたと考えられる。

絶対年代は推測の域をでないが10世紀後半から11世紀代に位置づけられると思われる。

坏形土器

ロクロ使用で内面へラミガキ後、黒色処理が施されている。ロクロからの切り離しは回転糸切りである。切り離した後、底部外面への再調整はみられない。出土量はきわめて少ない。10世紀前半に位置づけられるものである。

小型土器

口縁部が極端に短く外反、直上、内弯するものとほぼ真直ないし緩く外反するものがある。体部が僅かに脹らむ器形のものが多い。体部外面調整は大半がへラケズリであるが中には上半をナデ調整であるものも出土している。

把手付土器

3点出土している。従来から鍛冶に関係する土器であるといわれてきたものである。本遺跡ではその事実を確認することはできなかった。

把手が中空のものが、IVA—1大溝跡、IVA—2住居址から各1点で計2点、中空でないものが遺構外から1点出土している。青森県では、この把手付土器は平安後期の遺跡から多く出土しており（埋文研究紀要IIを参照）、11世紀代（三浦、1982）に位置づけられている。県内では、出土例が少なく、石鳥谷町小森林館遺跡から1点出土している。

(2) 須恵器

出土している器種は、長頸壺、甕、坏である。遺構内からのものは、II A-3 (住) から壺破片1点(21)、甕破片1点(22)、III A-8 (住) から長頸壺1点(74)、V A-1 (住) から壺破片1点(350) II A-101大溝跡から坏2点(752, 753)、広口壺1点(757)、壺破片6点(754~756, 758~760)、II A-102大溝跡から甕3点、IV A-101大溝跡から壺1点(855)である。

III A-8 (住) 出土の長頸壺は口唇部、体部下半が欠損、頸部に縦に直線状のヘラ記号が残っているものである。頸部と肩部の境に隆帯をもち、器形的にも五所川原窯跡群のものと類似する。胎土分析からも、五所川原窯跡群のものと同定され、ほぼまちがいないであろう。周辺遺跡では、浄法寺町五庵I遺跡から1点出土している。

五所川原窯群の須恵器年代については、桑原滋郎氏(1986)が、多賀城の調査成果と比較して、9世紀後半~10世紀前半ごろとし、菊池徹夫氏(1980)も確証はないとしながらも10~11世紀代としている。長頸壺出土のIII A-8 (住) は十和田a降下火山灰より新しい。その降下年代は9世紀後葉~10世紀前葉とされ、長頸壺の年代は10~11世紀が妥当と思われる。

胎土分析した8点のうち、五所川原窯群産のもの1点〔前述の74〕、五所川原窯群産の可能性のあるもの3点〔II A-3 (住) の壺破片(21)、II A-101大溝跡の壺破片(757)、II A-102大溝跡の壺破片(825)〕、岩手県、宮城県産のもの2点〔II A-101大溝跡の坏2点(21, 22)〕、不明1点〔II A-102大溝跡の甕片(825)〕である。壺類は五所川原窯産と推定されるものが多く、坏は瀬谷子窯跡群以外の岩手県、宮城県産で、器種で産地が異なっている。

(3) 酸化焰焼成の須恵器(須恵系土器)

IV A-101大溝跡埋土から坏が1点(848)出土している。ロクロからの切り離しは回転糸切りである。体部がやや内湾しながら立ち上がる。口径は14.5cmである。十和田a降下火山灰がブロックで混じる埋土をもつ住居址より新しいこと、器形、法量から10世紀後半以降のものであると思われる。

2. 土製紡錘車

4点出土している。II A-2 (住)、IV A-14 (住)、IV A-3 土坑、IV A-8 土坑から各1点づつ(8, 293, 544, 548)出土している。形態は横断面形が(A)長方形のもの、(B)底面が広く側面がすぼまる台形のものに分けられる。(A)は8の1点、(B)は293, 544, 548の3点である。(B)には(B I)厚型(293)と(B II)薄型(544, 548)がある。完形

のものは293だけである。そのほか、残在部分から全体の重さを推定してみると、8が60g、293が80g、544が55g、548が40gである。(A)、(B I)は60~80g、(B II)は40~60gである。(A)の8と(B I)の293は奈良時代の竪穴住居址からの出土である。

3. 鞆の羽口

IV-6 (住) 1点 (190)、IV A-13 (住) 2点 (276a、276b)、II A-102大溝跡 1点 (829) から出土している。出土状況はIV A-6 (住) のものがカマド右脇の壁に直立した形で、IV A-13 (住) が鉄滓とともに埋土最下部から、II A-102大溝跡のものが埋土最下部から出土している。276が住居址に伴うもの、190が住居址に伴うもの、190が再利用されている可能性のものと思われる。飛鳥台地 I 遺跡では羽口が59点出土しており、カマドの支脚に転用されている例もある。190、276 aは鉄滓が多く付着していることから、炉側の部分と思われる。

4. 鉄製品

鉄製品の種類は武器である鉄鏃、雁股、工具の刀子、手斧、農具である鎌、手鎌などのほか、紡錘車、鈴、釘、用途不明のものがある。

(1) 鉄鏃

23点出土している。III A-3 (住) 1点 (40)、III A-6 (住) 3点 (62~64)、IV A-3 (住) 2点 (35・354)、II A-10土坑 1点 (518)、IV A-16土坑 1点 (558)、II A-101大溝跡 (766・767)、II A-102大溝跡 2点 (830・831)、IV A-101大溝跡 4点 (864~866・871)、遺構外 5点 (961・965、函版179) である。

III A-6 (住) から出土したものは2点が完形、1点が茎側の先端が一部欠損しているがほぼ完形に近いものである。そのほかの完形は189、353、864、870、961、965の6点である。

形態は小川貴司氏 (1980) が仮称する (A) - 長頸のみ根式のもの 7点 (40、62、188、558、766、965、函版179)、(B) - 長頸尖根式のもの 8点 (63、64、189、354、866、870、函版179) である。Bの先端の形態には、三角状 (B I)、柳葉状 (B II)、錐状 (B III) の3つがみられる。(A)、(B) の形態のほかに、(C) - (A)、(B) より頸部が短く、先端の側の三角形が大きい形態のものが2点 (830、864) 出土している。

全長は (A) が10.5~13cm (B) が9.7~15.8cm [(B I) 14cm、(B II) 14.1cm~15.8cm、(B III) 9.7cm]、(C) が12cmである。全体で筥被と茎との境に段をもつもの13点、もたないもの8点、不明2点である。(A) で段をもつもの3点、もたないもの2点、不明2点、(B) でもつもの7点、不明1点、(C) でもつもの1点、不明1点である。(B)、(C) は段をもつものが主体であると思われる。

周辺の遺跡で形態のわかる鉄鎌が出土している遺跡は、二戸市長瀬B遺跡（B I）—2点、長瀬C遺跡（A）—2点、長瀬D遺跡（B1）—1点、上田面遺跡（A）—2点、府金橋遺跡（B II）—1点、浄法寺町五庵I遺跡（A）—1点、（C）—2点、飛鳥台地I遺跡—（A）—3点、（B）—3点、九戸村江刺家遺跡（B2）—2点、（C）—1点である。

平安時代の住居址92棟検出されている飛鳥台地I遺跡で形態不明の鉄鎌を含めて総数は10点である。本遺跡は20点と他遺跡と比較して圧倒的に出土数が多く、時代と共に遺跡の性格が反映しているものと思われる。

（2）雁股式鎌

IVA—5（住）から1点（163）、IVA—101大溝跡から1点（871）出土している。2点とも篋被と茎との境に段をもつ。両端が一部欠損している。871が出土したIVA—101大溝跡の埋土からは、鉄鎌が4点〔（B II）型—2点、（C）型—1点、不明1点〕が検出されている。周辺の遺跡で雁股が出土しているのは安代町上ノ山VII遺跡（2点）である。2点とも住居址から出土し、茎との境に段をもたないものである。鉄鎌の出土量に比較して少ない。

（3）紡錘車

IVA—7（住）から1点（209）、遺構外から1点（図版179）出土している。全長20.3cm、紡輪（円盤）の直径5.95cmである。浄法寺町飛鳥台地I遺跡では6住居址から7点出土している。紡輪の直径4.8～6.1cmである。そのほか周辺では、浄法寺町広沖遺跡1点、桂平遺跡2点、安比内遺跡2点、二戸市青ノ久保遺跡2点、安代町上ノ山VII遺跡1点である。すべて住居址から出土している。紡輪の大きさをみると、桂平、青ノ久保遺跡出土のものは小型で、広沖、安比内、江刺家遺跡出土のものは大型である。本遺跡のものは大型のものといえる。

（4）鎌

IIIA—6（住）の床面から1点（58）、IVA—3（住）の床面から1点（136）の合計2点が出土している。全長15.8cmと17.9cmである。身の最大幅は2.7cmと2.4cmである。2点とも、土井義夫氏（1971）が分類した、身全体が大きく弯曲するC類にあたる。その中でも、身が折り返し部から著しく上方に大きくのび、刃部が折り返しに対して鈍角ないし直角であるC2類ないしC3類に相当すると思われる。類似した形態の鎌が出土している周辺の遺跡には、浄法寺町飛鳥台地I遺跡3点、二戸市長瀬B遺跡1点がある。土井氏によると、これらの形態の鎌は関東地方では、9世紀後半から10世紀にかけて定着したとされている。

（5）手鎌

（A）—両端に目釘をもつものと、（B）—両端（上方）に折り返しをもつものがある。（A）を目釘式手鎌（小川、1980）、（B）を装着式手鎌と呼ぶ。（A）は従来から「穂摘具」などと呼ばれていたものである。（B）は最初に飛鳥台地I遺跡で2点発見されており、

装着式手鎌という名称を使っているので、ここではそれに従った。合計で12点出土している。

(A) 一目釘式手鎌 II A-1 (住)、III A-6 (住)、IV A-8 (住)、IV A-101大溝跡、遺構内から各1点ずつ(2、61、76、867、963) 合計5点出土している。長さは6.3~9.8cm、幅は1.5~2.1cmである。2、76の2点は緩いU字状に曲がった状態で検出されている。

(B) 装着式手鎌 II A-1 (住) から1点(4) 出土し、長さは8.9cm、幅2.0cmである。形態不明の手鎌はIV A-3 (住) 1点(133)、IV A-5 (住) 2点(161、162)、IV A-101大溝跡2点(868、869) 遺構外1点(964) の合計6点である。

形態のわかる6点のうち(A) 一目釘式-5点、(B) 装着式-1点である。II A-1 (住) の床面からは(A) タイプ、(B) タイプが各1点ずつ出土しており、2つのタイプは時間的に重なっている。

周辺遺跡では飛鳥台地I遺跡13点(A-11点、B-2点)、安代町有矢野遺跡1点(A)、二戸中曾根II遺跡2点(A)、長瀬C遺跡2点(A)、上田面遺跡6点(A) である。

(6) 刀子

住居址から7点(3、39、47、134、298、299、340)、大溝跡から4点(764、765、833、863)、遺構外2点(959、960) の合計13点である。完形のものII A-1 (住) 出土のもの(3) で長さ15.7cm、刃部の最大幅2.1cm、II A-101大溝跡出土のもの(764) で、長さ9.3cm、刃部の最大幅1.3cmである。

両関であるものは5点ある。刃部の棟が彎曲しているものは1点(863) である。III A-3 (住) 出土の39は三つ折りされており、何かに加工しようとしていた途中のものと思われる。

(7) 手斧

II A-101大溝跡から1点(762) 出土している。長さ7.5cm、幅3.2cmのものである。類似する形態のものが青森県大鰐町大平遺跡の住居址から2点出土している。共伴出土遺物から10世紀代のものと思われる。

(8) 鉄鈴

III A-8 (住) から1点出土している。つり下げのための把手のついた長径4.3cm、短径3.6cmのもので、上半分と下半分の接合である。五所川原窯群産の長頸壺と共伴していることから、10~11世紀に位置づけられると思われる。青森県では古館遺跡、砂沢遺跡、高館遺跡、蓬田大館遺跡から各2点出土している。

(9) 用途不明の鉄製品

312はIV A-14 (住) から出土している長さ23.8cm、最大幅7.3cmの細長い三角状の鉄製品である。身、頸部、茎に分けられ、身には筒状のものが左右につけられ、頸部は上半が左まき、下半が右まきにねじられている。

酷似する形態のものは、秋田県鹿角市高市向館から2点出土している。2点とも頸部にねじれをもつものである。茎の先端が一部欠損していて、現存長20.5cmであるから、本遺跡のものとはほぼ同じ大きさといえる。報告書は火箸としている。

類似しているものは青森県六ヶ所村弥栄平(4)遺跡から5点出土している。頸部にねじれをもたないが、身に筒状のものを両面につけている。岩手県では宮古市長根I遺跡から1点出土している。そのほか、青森県蓬田村蓬田大館遺跡からも似た形状の鉄製品が出土している。

用途については鏃の一種あるいは錫杖状鉄器など考えられるが断定できない。

(10) 鉄滓

IVA-13(住)の埋土下部から、韃の羽口と共に鉄滓(18g)が出土している。住居が焼失した時に推積したものである。

IVA-16(住)の用途不明の三角状の鉄製品が出土した埋土から鉄滓(39g)が出土している。また、IVA-17(住)の埋土下部からも鉄滓(59g)が出土している。これらは、住居址に伴うものでないと思われる。

(11) その他

焼失住居址の埋土下部から床面にかけて、埋土を炭化穀類を発見するためにすべて篩にかけて。その結果、埋土の中から鍛冶作業で発生した直径1~3mmの粒状滓や長径2~7mmの鍛造薄片が多数検出された住居址がある。粒状滓や鍛造薄片が多く検出されている住居址はIVA-3(住)、IVA-13(住)である。IVA-13(住)はカマドのほかに炉も検出されており、羽口、鉄滓も出土していることから、小鍛冶が行われていたと考えられる。

5. 砥石

IVA-14(住)、IIIA-19土坑、IIIA-101大溝跡から各1点(300、535、847)出土している。300は扁平な三角状の流紋岩の両面を使用している。片面に刃による切り傷痕を多数もつ。奈良時代のものである。535、847は中央がすぼまる長方形をなし、4面を使用している。そのうち1面は刃を立てて擦り付けた細刻線が多くみられる。2点とも平安時代のものである。石質は535が細砂質凝灰岩、847が流紋岩である。

6. その他の石製品

楕円状の扁平な白色細粒凝灰石の1面の中央に径2.1~2.9m、深さ0.5~1.8cmの楕円状の凹みをもつものが3点出土している。IIIA-7土坑から1点(527)、IIA-102大溝跡から2点(834、837)である。凹の面上には同心円状の擦痕をもち、側面や反対側の面に刃物で刻んだ

線が数ヶ所みられる。使用痕から砥石の一種であると推定される。

楕円形の板状は白色細粒凝灰岩の1ヶ所に径0.4mmの孔が挟られている石製品がIIA-102大溝跡埋土から検出されている。孔に紐を通してかけるか、つり下げて使用したものと思われる。用途については不明である。

7. その他の遺物

(1) 炭化穀類

焼失住居址などの遺構の埋土下部から床面にかけたの土を篩にかけた結果、多くの炭化穀類を見つけることができた。鑑定の結果、住居址からのものはイネ、オオムギ類が多く、豆類が僅かであった。穀類が発見された住居址はIVA-3・6・7・8・17(住)、VA-2・3(住)である。特にIVA-3・6・8(住)、VA-2・3(住)から多く検出されている。また、IIA-7土坑やIIA-101大溝跡から、アワが含まれるエノコログサ属類似種が多く検出されている。IVA-3(住)からは鑑定以外に豆類、米が多く出土している。

ほぼ同時期である浄法寺町五庵I遺跡の住居址群からアワを多量に検出され、ヒエも僅か出ている。米のほか、大麦、小豆、粟を含む穀類の組み合わせは中世的であると指摘(佐藤敏也、1986)している。

(2) 動物遺存体

住居址カマド内の焼土や灰の中から検出されている骨片類や遺構の埋土から出土している骨類を同定していただいた。同定の結果、カマド内から出土しているものには、サケ、ウグイ、アナグマ、シカ、イノシシが出ている。ウグイが多い。土坑から偶蹄目(ウシカウマカ)の歯片、大溝跡からヒト(焼けている)、シカ、イノシシのものが出土している。

(3) 炭化材樹種

焼失住居址に残存する炭化材の樹種を鑑定していただいた。多くの炭化材が検出された住居址を中心に樹種をみている。(炭化材樹種一覧表を参照)

時代	遺構名	総数	カヤ	クリ	ソネ	ナラ	ケヤキ	広葉樹	紫式部	スギ	コナラ	針葉樹	タモ
奈良時代	III A-19(住)	12		12									
	IV A-14(住)	9		6		2	1						
平安時代	III A-6(住)	28	11	6	1	3	2	2	2	1	1		
	IV A-3(住)	10		3			2					4	1
	IV A-7(住)	9	6	2								1	
	IV A-13(住)	20		7		2	7					3	1

奈良時代の住居址はクリが中心で、平安時代の住居址になると、クリのほかにケヤキ、針葉樹やその他の樹種が増加してくる。

VII 検出された遺構の分類と考察

1. 遺 構

検出されている遺構は、縄文時代の竪穴住居址状遺構3棟、古代の竪穴住居址45棟、大溝跡4条、溝跡2条、方形周溝跡3基、土坑100基、墓塚2基である。

(1) 古代の竪穴住居址

a. 形状・面積

45棟のうち、半数近くは調査区域外にあったり、他の遺構に切られたりして完全な形で検出されていない。推定を含めて、形状、面積がわかる住居址は24棟である。

形状別にみると、隅丸方形4棟、方形7棟、長方形10棟、台形2棟、不整四角形1棟である。長方形、次いで方形が最も多い。隅丸方形のものはすべて奈良時代～平安時代前葉（A期）、そのほかはすべて平安時代中葉～後葉（B期）のものである。

面積の分布をみると、17～23㎡の間にあるものが最も多い。そのことから、面積の階級度数の幅を6㎡にして、住居址の面積分布をみると、(イ)5～11㎡のもの3棟、(ロ)11～17㎡のもの6棟、(ハ)17～23㎡のもの10棟、(ニ)23～29㎡のもの2棟、(ホ)29～35㎡のもの3棟である。最も多い(ハ)を標準型にすると、(イ)は小型、(ロ)はやや小型、(ニ)はやや大型、(ホ)は大型ということになる。奈良時代中心のA期の住居址4棟は、(イ)～(ニ)に各棟1棟でありまあまりがみられない。

平安時代後半中心のB期の住居址を形状別に面積の分布をみると、下の表のとおりである。面積では(ロ)、(ハ)のやや小型、標準型の規模のものが8割を占めている。正方形を基準にすると、一辺が3.3m～4.4mの規模のものである。小型の住居址は長方形、大型の住居址は長方形、方形の形状のものにみられる。平安時代の住居址を多く検出している浄法寺町飛鳥台地I遺跡では面積が測定できる69棟のうち、(イ)22棟、(ロ)18棟、(ハ)9棟、(ニ)8棟、(ホ)2棟5㎡未満2棟、35㎡以上7棟で、(イ)、(ロ)の小型、やや小型のものが6割近くを占めており、本遺跡と様相を異にしている。

B期の形状別面積分布

	(イ)5～11㎡	(ロ)11～17㎡	(ハ)17～23㎡	(ニ)23～29㎡	(ホ)29～35㎡
長方形	2	2	4	1	1
方形		3	3		1
台形			2		
不整四角形		1			
合計	2	6	9	1	2

b. 主軸方位

カマドの位置がわかり主軸方位が決定できた住居址は28棟である。方位を8等分した場合、主軸の方位の分布は北、西を除く6つに分けられる。(1)北西—2棟、(2)北東—4棟、(3)東—3棟、(4)南東—13棟、(5)南—2棟、(6)南西—4棟、である。南西にもつものが半数近く占める奈良時代中心のA期の住居址の主軸方位は北西である。

c. カマド

(構成礫) カマドが検出されている28棟のうち、袖の芯として礫が使われたものは21棟、不明が7棟である。カマド本体の袖の芯に (1)扁平な硬質凝灰岩を使用している住居址16棟、(2)安山岩質の垂円～円礫を使用している住居址5棟である。(1)の場合 長さ20～30cm、幅15～25cm、厚さ7～13cmの平板な凝灰岩を使用しているものが多いが、III A—2(住)、III A—3(住)のように長さ50～88cmと大きい凝灰岩を使用しているものもある。(2)の場合の住居址はII A—3(住)、II A—4(住)、III A—2(住)、III A—11(住)、IV A—17(住)である。

(つくり替え) カマドをつくり替えている住居址は3棟である。(1)ほぼ同じ位置に重なる形でつくり替えているものは、II A—3(住)、IV A—7(住)の2棟、(2)隣の壁につくり替えているものは、II A—4(住)の1棟である。

(煙道) (1)掘抜式のものII A—3(住)旧煙道、IV A—16(住)、の2棟、(2)半地式のものII A—3(住)新煙道、II A—7(住)旧煙道、IV A—9(住)、IV A—13(住)、IV A—18(住)の5棟である。そのほかは、壁際で立ち上がり、そのまま屋外にのびるものと思われる。煙道の検出されている奈良時代の住居址は、(2)が2棟である。

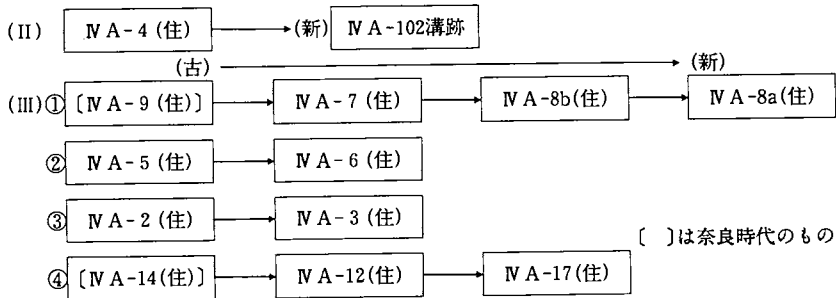
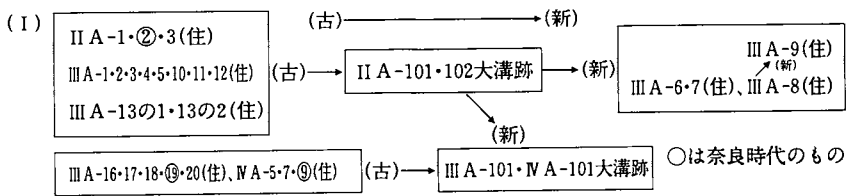
d. 付属土坑

貯蔵穴に類する機能をもつと考えられる土坑をもつ住居址は6棟である。主軸方位はすべて南東である。土坑の形状は (1)円形のものIV A—3(住)、IV A—13(住)、IV A—17(住)の3棟、(2)隅丸長方形のものIV A—5(住)、IV A—8 a(住)、IV A—8 b(住)の3棟である。円形の土坑は位置が一定していないが、隅丸長方形のものはカマドに向かって左側の壁際に設けられている。

e. 重複関係

奈良時代の遺構同士の切り合いはない。平安時代の遺構間に限って重複関係をみることにする。埋土、出土遺物、位置関係から、II A—101大溝跡とII A—102大溝跡やIII A—101大溝跡は2条で1つのセットと考えられる。また、前者は後者より古いことから、下図のような重複関係が成り立つ。

住居址と溝跡、住居址同士の切り合いから、次の重複関係が成り立つ。



f. 住居址の群別と年代

十和田 a 降下火山灰の時期以前の住居址を A 群、火山灰降下以後の時期の住居址を B 群とする。

A 群

住居址の埋土に十和田 a 降下火山灰の再堆積層をもつものである。カマドは北西壁中央部に設けられている。出土遺物から 2 つに分けられる。

A-1 類～IV A-14 住居址、A-2 類～III A-19 住居址、IV A-9 住居址が該当する。A-2 群の出土遺物には丸底のほか、体部に段をもたない平底の坏が混在する。甕形土器では口唇部近くで外傾する口縁部をもち、体部外面調整がヘラケズリ後、一部ヘラミガキのものがみられる。IV A-10 住居址状遺構は A-1 群と A-2 群との中間的要素をもつ甕形土器が出土しているが 2 群に近いものであろう。A 群には II A-2 住居址が入るが、出土遺物が少なく分類できない。A-2 群は奈良時代後半～平安時代に位置づけられる。

B 群

住居址から出土する土器は大半が口縁部が極端に短く、外反、直上、内弯する甕形土器で占められている。しかも、坏形土器の出土量は少ない。周辺の遺跡である浄法寺町桂平・広沖・沼久保遺跡、九戸村江刺家・嶽 II 遺跡と比較し、本遺跡出土遺物、重複関係、埋土の状況などから 3 つに分けられる。

B-1 類 ロクロ不使用の坏形土器を伴うもので IV A-7 住居址がその代表である。甕形土器は口縁部が外反するものや内弯するものが伴っている。カマドの位置は北東壁である。

B-2 類 南側 2 条の大溝跡より古い住居址で口縁部が短く外反する甕形土器を伴うものである。II A-3 住居址、III A-4・5 住居址が本類に入る。南東壁にカマドをもつものが多い。

B-3類 北側2条の大溝跡より古い住居址でIVA-2・4・8・13・17住居址が該当する。貯蔵穴をもち、南東壁にカマドを設けているものが多い。口縁部が極端に短く外反する甕形土器が中心で、小型土器も伴っている。

B-4類 北側2条の大溝跡の埋土のように埋土上半部を暗褐色砂質シルト層で人為的に埋め戻されている住居址で、IVA-6・9住居址がその代表である。甕形土器は口縁部が緩く外反するものや極端に短く外反しているものが伴う。カマドの位置は南東壁が多い。

B-5類 B-3類の住居址を切っている住居址でIVA-6住居址が本類に入る。貯蔵穴はもたず、カマドが南西壁に設けられている。把手付土器が伴っている。甕形土器は口縁部が極端に短く外反するものや緩く外反するものである。

南側2条の大溝跡より古い住居址はB-1・2類、新しい住居址はB-4・5類、北側の大溝跡2条より古い住居址はB-1・2・3類、新しい住居址はB-5類である。

大きな流れは、一部重なり合う部分があるとしても、B-1・2類→B-3・4類→B-5類と推移したと思われる。住居址のカマドの位置は北東壁・南東壁→南東壁→南東壁・南西壁に変化したと考えられる。内部に貯蔵穴をもつものはB-3類の住居址に多くみられ、貯蔵穴無→貯蔵穴有→貯蔵穴無と推移したものと考えられる。土師器では、B-1類の住居址の時期にはロクロ不使用の内黒の坏、口縁部が外反する、短く外反するものや内湾する甕形土器を中心に伴う。B-4・5類の住居址の時期になると坏形土器は僅少で、口縁部が極端に短く外反するものや、真直ないし緩く外反する甕形土器が中心になるとと思われる。

B群の住居址はある程度の時間幅をもったものである。根拠となる資料が少なく、裏づけのない分類のための分類になることをさけた。須恵器、鉄器などの周辺の資料が充実してきた段階で、この時期の明確な住居址の変遷が考えられよう。B群は9世紀後半～11世紀代、と考えられる。

2. 土坑

本遺跡から検出された土坑は100基で、ほぼ遺跡全体に分布している。平面形で分類すると円形44基、楕円形25基、隅丸方形9基、隅丸長方形15基、不整形7基である。規模は開口部径（長径）及び1辺（長辺）が100cm未満が33基、101～150cmが28基、151～200cmが21基、201cm以上が14基、不明4基である。

本遺跡が古代を主体とする集落であることから、該期に属すると考えられる土坑は、埋土の状況、出土遺物、重複関係等からみて、IIA-1・3・6～14土坑、IIIA-1～4・6～8・15～20・22～24・27・30～41土坑、IVA-2・4～7・9・12・13・16・18・19・24・26・28・49土坑の57基である。

これらのうちで、ⅣA-2・9・49土坑は、埋土に十和田a降下火山灰が含まれず、火山灰降下以前に埋没していた状況を示すこと、また底面直上及び埋土から出土した土師器の特徴からみて、奈良時代に属するものと考えられる。

平安時代に属すると考えられる54基は形状・規模等多様であるが、これらのうちで、形状や規模、埋土の状況等がほぼ同様のあり方を示すもので、平面形が円形を呈するものと、隅丸方形（隅丸長方形を含む）を呈するものについて若干記述する。

円形のもの、ⅢA-1~4・6・7・17・22・35・39土坑、ⅣA-24土坑の11基で、遺跡のほぼ中央部に集中して分布している。これらは壁へ若干内傾するものもあるが、全体の形状はピーカー状に近く、開口部径が170~228cmで、200cm以上が8基と大半を占める。埋土には十和田a降下火山灰がブロック状及び粒状で混入しており、いずれも人為的な埋め戻しを受けている。8基の底面から小穴が多数に検出されている。径・深さ・方向等に規則性は認められず、その機能等については不明である。これら11基は検出面や埋土の状況等からはほぼ同時期のものと推定され、ⅣA-24土坑が奈良時代の住居址内に堆積した十和田a降下火山灰を切って構築されていることと合わせ、十和田a降下火山灰の降下後に構築され、ⅡA-101大溝跡やⅢA-101大溝跡が作られる以前に廃棄されたものと考えられる。

隅丸方形のものは、ⅢA-30・41土坑、ⅣA-6・7・9土坑、ⅤA-2土坑の6基で、散在する。1辺が160~210cmで、深さは40~70cmである。埋土には十和田a降下火山灰がブロック状及び粒状で混入しており、いずれも人為的な埋め戻しを受けている。3基の底面から数個ずつの小穴が検出されている。ⅢA-30土坑は2ヶ所の壁隅部、ⅢA-41土坑は4ヶ所の壁隅部、ⅣA-6土坑は3ヶ所の壁隅部にあり、配置状況からは上屋が存在した可能性が考えられるが、その他の資料は得られておらず不明である。これら6基は埋土の状況から十和田a降下火山灰の降下後に構築されたものと考えられる。円形、隅丸方形含めて、同様の遺構は飛鳥台地Ⅰ遺跡や上の山Ⅶ遺跡からも検出されており、方形のものは上の山Ⅶ遺跡の「小屋址」とされたものにその形状や規模が類似している。

古代に属する土坑としてあげた以外の43基のうち、検出面や埋土の状況から縄文時代のものと推定されるのは、ⅣA-25・27・34~36・38・40~42・44~47土坑で、形状、規模等多様であるが、遺跡の北半に分布する傾向を示している。また、ⅢA-13・14・18土坑、ⅣA-1・15土坑は平安時代の遺構を切っていることから、平安時代も含めてそれ以降の時期のものと考えられる。その他の土坑については時期を推定する資料が得られず不明であるが、大半は縄文時代~古代の時期に含まれるものと考えられる。

3. 大溝跡

大溝跡はII A—101大溝跡、II A—102大溝跡、III A—101大溝跡、IV A—101大溝跡の4条が検出されている。これらの大溝跡は埋土の状況、出土遺物、位置関係から南2条のII A—101大溝跡と102大溝跡、その北にあるIII A—101大溝跡とIV A—101大溝跡とがセットで同時併存していた可能性が強いと考えられる。

前者2条（南側2条）は埋土に十和田a降下火山灰がブロック状に混じるのに対し、後者2条（北側2条）は埋土全体が人為的に埋め戻されたと考えられる暗褐色の砂層で占められている。溝の配置をみるとわかるように、南側2条と北側2条とは溝の巡り方が異なる。それぞれ2条同士がほぼ等間隔で並んでめぐっている。

出土遺物をみると、南側2条からはロクロ使用の内黒の坏形土器、北側2条からは把手付土器、酸化焰焼成の須恵器（須恵系土器）の坏形土器が出土しており、北側と南側では若干の時間差があると考えられ、南側が古いと推定される。

南側2条は6ヶ所の埋土断面の土層観察から、少なくとも2回以上の改修が行われていたと考えられる。北側2条は壁際に埋土が三角状に堆積した後に、暗褐色の砂で一期に埋められている。

南側2条に大溝跡の埋土は十和田a降下火山灰がブロックで混じるものである。これは十和田a降下火山灰混じりの周辺の土（盛土）がくずれて堆積したと考えられる様相を呈しており、溝間に土盛りがされていたと推定される。

南側2条の形態はともに薬研堀の形をなし、北のII A—102大溝跡の南壁中央に段をもつ。北側2条はIV A—101大溝跡の断面が逆台形をなし、他の1つが薬研堀の形をなし深い。

土器以外の出土遺物をみると、北側2条から長頸式、平根式、雁股式の鉄鏃、手鎌、刀子、南側の2条からも手斧、刀子、鉄鏃が出土している。武器、工具が多い。

大溝跡の年代は南側2条がこの溝跡を切っているIII A—8住居址から青森県五所川原産の長頸壺を出土しており、須恵器の年代が10～11世紀と考えられ、また十和田a降下火山灰の降下時期より新しいことから、10世紀後半～11世紀代に位置づけられる。

北側の2条は南側の2条より新しく、IV A—5・7住居址を切ってつくられていることから、同じく10世紀後半～11世紀代に位置づけられると考えられる。

大溝跡は東側、南側が10～15mの段差のある崖をなす段丘を東西に仕切る形で走っている。調査区域外の西側の畑に南北に走る2条の大溝跡が空中写真より確認でき、北側か南側かの2条は調査区域外の西側で南北方向に曲がり北に伸びている可能性がある。

平安後期に防衛的意味の濃い大溝跡がつくられていることは、この時代の性格や武器の出土

量が増加することからも裏付けられるように、戦乱の多い不安定な時代であったことを物語っているように思われる。

4. 方形周溝跡

方形周溝跡は3基検出されている。調査区南西端部から1基、東端部から2基である。

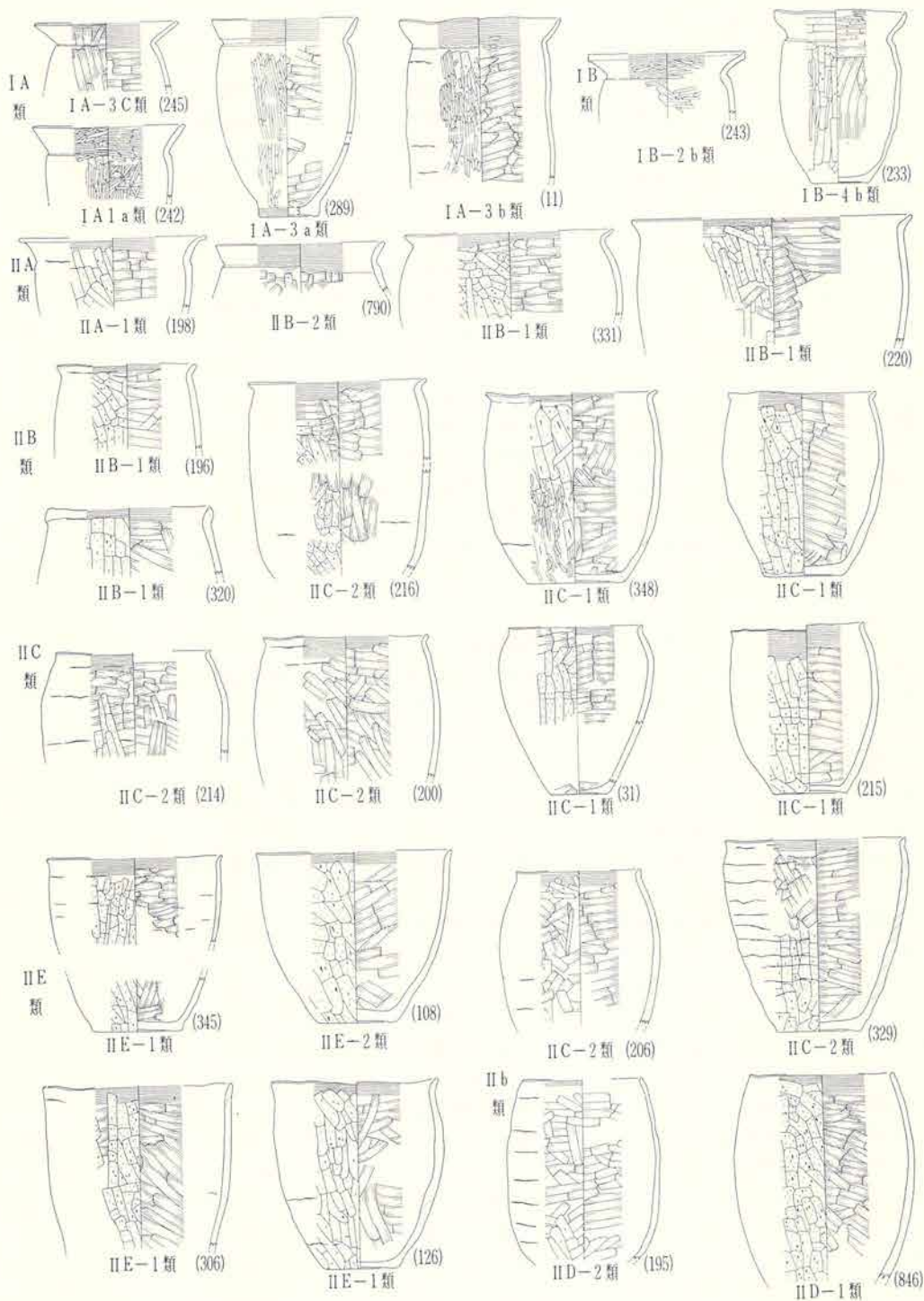
II A-1号周溝跡は南西辺の北側で溝が切れるもので、外径8.2m、溝底部幅10~100cmである。IVA-1号周溝跡とIVA-2号周溝跡は南側がIVA-101大溝跡に切られていることから全容は不明であるが、外径7.2m・8.4m、溝底部幅20~35cm前後である。II A-1号周溝跡と他の2基とは形状や溝幅が若干異なるものの、遺構の機能そのものには差がないものと考えられる。遺構の時期は溝の埋土にいずれも十和田a降下火山灰が薄い帯状、粒状及びブロック状で混入していることや重複関係から平安時代のものと考えられる。しかし、IVA-1号周溝跡がIVA-2号周溝跡を切っていることから両者の間には時期差が認められる。また、II A-1号周溝跡は、平安時代の住居址や溝を切っていることから、平安時代後期のものと考えられ、形状の違いや重複関係から、3者は同時存在ではないものと考えられる。

遺構の性格や機能については、いずれも溝に取り囲まれた内側の部分から人為的な施設等は検出されておらず、不明な点が多い。同様の遺構は岩手県内の多くの遺跡で検出されており、二戸市内での例をみると、上田面遺跡（円形1、古墳の周溝の可能性）、大淵遺跡（方形1、墳墓類の周溝の可能性）、火行塚遺跡（円形5、方形1、墳墓的なもの）長瀬B遺跡（円形1、馬蹄形1、性格不明）、上里遺跡（円形5、方形5、墳墓に関連する区画溝）、堀野遺跡（円形2、古墳の周溝の可能性）等があげられ、これらはいずれも古代の時期に位置づけられている。本遺跡のものは、形状、規模等が大淵遺跡や上里遺跡の方形周溝跡に類似しており、決定的な資料は得られていないが、上記の例からみて墳墓類に関連するものと考えられる。

参考・引用文献

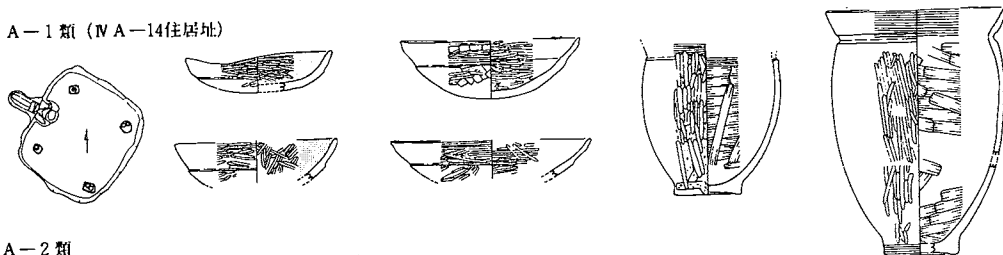
- (1) 松山 力 (1981) : “自然的環境”, 「中曾根II遺跡」, P11~P29, 二戸市教育委員会
- (2) 大池昭二・中川久夫・七崎修・松山力・米倉伸之 (1966) : “馬淵川中・下流沿岸の段丘と火山灰”, 第四紀研究, 第5巻第1号
- (3) 岩手県 (1972) : 北上山系開発地域 土地分類基本調査 「一戸」
- (4) 草間俊一 (1965) : 「堀野遺跡」 福岡町教育委員会
- (5) 二戸市教育委員会 (1978) : 「中曾根遺跡」
- (6) " (1981) : 「中曾根II遺跡」
- (7) " (1982) : 「堀野遺跡」
- (8) " (1983) : 「駒焼場遺跡」

- (9) 岩手県埋蔵文化財センター (1978) : 「沢内遺跡」, 岩埋文報告書第4集
- (10) " (1978) : 「沢内B遺跡」, 岩埋文報告書第7集
- (11) " (1981) : 「長瀬C遺跡・長瀬D遺跡」, 岩埋文報告書第22集
- (12) " (1981) : 「上田面遺跡・大淵遺跡・火行塚遺跡」, 岩埋文報告書第23集
- (13) " (1982) : 「家ノ上遺跡・長瀬A遺跡」, 岩埋文報告書第35集
- (14) " (1982) : 「長瀬B遺跡」, 岩埋文報告書第36集
- (15) " (1983) : 「吠屋敷II遺跡」, 岩埋文報告書第47集
- (16) " (1983) : 「長瀬C遺跡」, 岩埋文報告書第51集
- (17) " (1983) : 「上里遺跡」, 岩埋文報告書第55集
- (18) " (1983) : 「上村遺跡・下村A遺跡・下村B遺跡」, 岩埋文報告書第56集
- (19) " (1983) : 「荒谷A遺跡」, 岩埋文報告書第57集
- (20) " (1983) : 「吠屋敷I a遺跡」, 岩埋文報告書第61集
- (21) " (1983) : 「君成田IV遺跡」, 岩埋文報告書第62集
- (22) " (1983) : 「府金橋遺跡」, 岩埋文報告書第72集
- (23) " (1983) : 「平船III遺跡」, 岩埋文報告書第76集
- (24) " (1986) : 「駒板遺跡」, 岩埋文報告書第98集
- (25) " (1986) : 「大日向II遺跡」, 岩埋文報告書第100集
- (26) 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター (1987) : 「親久保I遺跡・親久保II遺跡」, 岩埋文報告書第116集
- (27) " (1987) : 「青ノ久保遺跡」, 岩埋文報告書第118集
- (28) " (1987) : 「飛鳥台地I遺跡」, 岩埋文報告書第120集
- (29) " (1988) : 「大久保遺跡・西久保遺跡」, 岩埋文報告書第121集
- (30) " (1988) : 「馬立II遺跡」, 岩埋文報告書第122集
- (31) " (1988) : 「馬立I遺跡・太田遺跡」, 岩埋文報告書第123集
- (32) 菊池徹夫 (1980) 擦文文化の終末年代「古代探叢」滝口宏先生古稀記念考古学論集
- (33) 小川貴司 (1980) 出土鉄製品とその問題点「古館遺跡発掘調査報告書」青森県教育委員会
青森県埋蔵文化財調査報告書第54集
- (34) 新谷武一 (1981) 五所川原市周辺の須恵器窯跡出土の長頸壺について 弘前大学考古学研究
第1号
- (35) 桑原滋郎 (1986) 律令時代「発掘が語る日本史」新人物往来社
- (36) 青森県教育委員会 (1977) 黒石市高館遺跡発掘調査報告書 青森県埋蔵文化財調査報告書第
40集
- (37) " (1980) 「砂子平遺跡」青森県埋蔵文化財調査報告書第53集
- (38) " (1980) 「大平遺跡」青森県埋蔵文化財調査報告書第52集
- (39) " (1987) 「弥栄平遺跡(4)5遺跡」青森県埋蔵文化財調査報告書第106集
- (40) 桜井清彦・菊池徹夫 (1987) 「蓬田村蓬田大館遺跡」六興出版
- (41) 秋田県鹿角市教育委員会 (1982) 「高市向館発掘調査報告書」鹿角市文化財調査資料2
- (42) 岩手県埋蔵文化財センター (1982) 「有矢野・上ノ山X遺跡」岩埋文報告書第39集
- (43) " (1982) 平安期の山間部集落「紀要II」
- (44) " (1983) 「上ノ山VII遺跡」岩埋文報告書第60集
- (45) " (1983) 「江刺家遺跡」岩埋文報告書第70集
- (46) " (1983) 「小森林館遺跡」岩埋文報告書第73集
- (47) " (1983) 「嶽II遺跡」岩埋文報告書第78集
- (48) " (1983) 「五庵I遺跡」岩埋文報告書第97集
- (49) " (1986) 「安比内遺跡」岩埋文報告書第106集



圖版178：土師器 甕形土器分類図

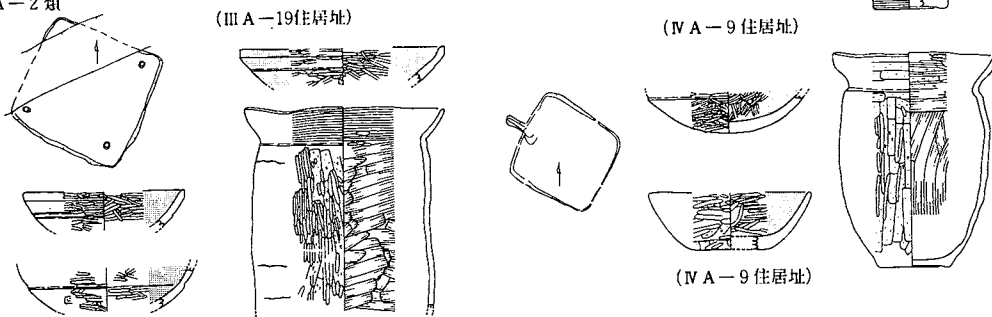
A-1 類 (IV A-14住居址)



A-2 類

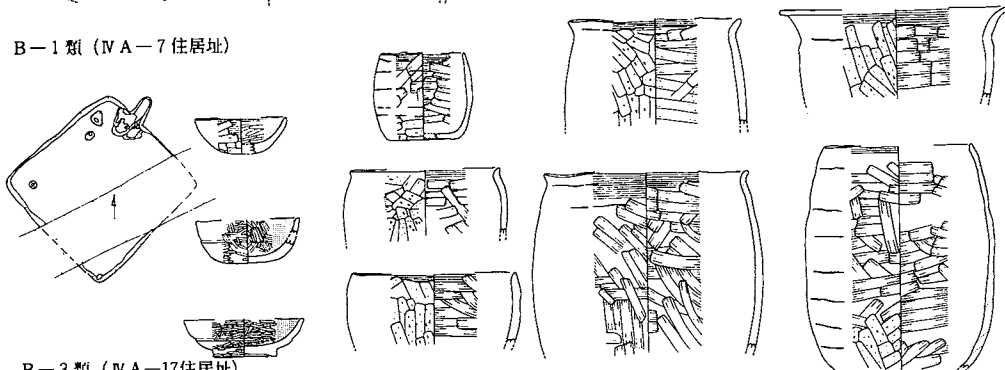
(III A-19住居址)

(IV A-9住居址)

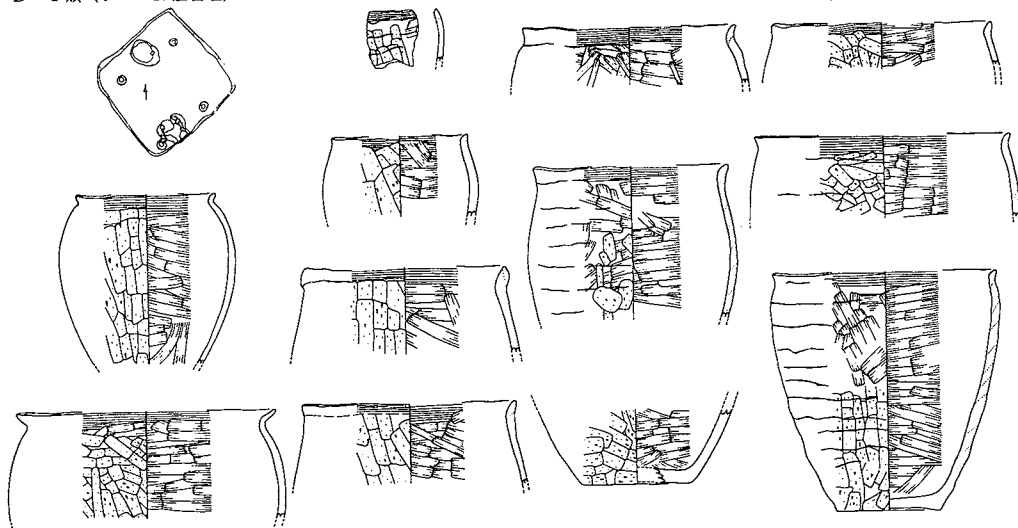


(IV A-9住居址)

B-1 類 (IV A-7住居址)



B-3 類 (IV A-17住居址)



図版180：土師器A群・B群

鑑定・分析

3) 駒焼場遺跡出土の動物遺存体種同定

大船渡市立博物館 佐藤 正彦
東北学院大学 学生 熊谷 賢

1. 駒焼場遺跡動物遺存体まとめ

- ・出土した動物遺存体は脊椎動物硬骨魚綱1種、哺乳綱4種である。
- ・出土した動物遺存体の約6割が焼けて白色化、あるいは炭化している。
- ・破碎の著しい細片資料が多く、種不明の骨片も多い。

2. 駒焼場遺跡出土動物遺存体種名表

- I. 脊椎動物 VERTEBRATE
- i. 硬骨魚綱 OSTEICHTHYES
1. ウグイ Tribolodon hakonensis (GUTHER)
- ii. 哺乳綱 MAMMALIA
1. アナグマ Meles meles (LINNE)
2. 偶蹄目の一種 Artiodactyla fam.indet.
3. イノシシ Sus scrofa (LINNE)
4. シカ Cervus nippon (TEMMINCK)

種不明の動物遺存体の種同定に際しては、国立歴史民俗博物館助教授西本豊弘氏よりご教示いただいた。

駒焼場遺跡の同定できたもの

魚 類				哺 乳 類										
	尾椎	その他	最少個体数			下顎骨	尺骨	脛骨	骨	中足骨		その他	最少個体数	
				ANA	(左)	(右)	(左)	(右)	(左)	(右)		焼けている	1	
K Y-86 No 3 ⅣA-101大溝跡	ウグイ	1	焼けている	1	ヒト							部位不明 1	焼けている	1
K Y-86 No 5 ⅢA-11(住) カマド内	ウグイ	3	焼けている	1	イノシシ							歯種不明 歯片3	1	
K Y-86 No 8 ⅢA-9(住) カマド内	ウグイ	2	焼けている	1	イノシシ	1						M ₂ M _a を 伴う	1	
K Y-86 No 11 ⅢA-4(住) カマド内	ウグイ	4	焼けている	1	シカ					1		焼けている	1	
					シカ						1	焼けている	1	
					偶蹄目の 一種							歯片少量		

No 1 KY-86 IIA-3住居址Q3カマド内

サケの椎骨片と思われる骨片が1点、種同定不可能な哺乳類の小骨片が数片出土している。ほとんどの骨片が焼けていて白色化している。

No 2 KY-86 IIIA-10住居址焼土中

哺乳類の中手、中足骨と思われる骨片が数片出土している。予想される種としてはシカ、カモシカなどが挙げられる。骨片はすべて焼けていて白色化している。

破碎が著しい。

No 3 KY-86 IVA-101大溝跡埋土

ウグイの雄椎が1点、種同定不可能な哺乳類の小骨片が数片出土している。

ウグイの尾椎及び小骨片中の1点は焼けていて白色化している。

No 4 KY-86 IIIA-5 i 盛土

種同定不可能な頭骨片1点と骨片が少量出土している。

骨片は部位の形状をとどめる程度の破碎をうけている。しかし、種及び部位の同定基準となる部分が欠損しているため種及び部位は不明である。

頭骨片は縫合の部分が残存している。この縫合は冠状縫合、あるいは前頭冠縫合と思われ、頭骨片は頭骨頂部のものと考えられるが細片資料であるため種不明である。予想される種としてシカ、カモシカなどが挙げられる。骨片はすべて焼けていて白色化している。

No 5 KY-86 IIIA-11住居址カマド内

ウグイの尾椎が3点と、破碎が著しく種同定不可能な魚骨と思われる骨片が少量出土している。

小型陸獣骨の混入も考えられる。骨片はすべて焼けていて白色化している。

No 6 KY-86 IIIA-6住居址カマド内

焼けて白色化したアナグマの左尺骨1点と小型陸獣骨のものと思われる骨片が少量出土している。

アナグマの左尺骨は、現生骨格標本と完全に一致するわけではないが、尺骨の関節部上部が近似する。焼けて変形している可能性もある。近位関節部がまだ癒着していない点や大きさからみて若獣のものと思われる。

No 7 KY-86 IVA-101大溝跡埋土

種及び部位同定不可能な哺乳類のものと思われる骨片が少量、焼けて白色化している骨片が数片出土しているのみである。

No 8 KY-86 IIIA-9住居址カマド内

ウグイの尾椎が2点、種及び部位同定不可能な小型陸獣のものと思われる骨片が少量出土し

ている。数片の魚骨の混入もみられる。骨片はすべて焼けて白色化している。

No10 KY-86 IIA-6 土坑埋土

種及び部位同定不可能な哺乳類のものと思われる骨片が3点出土しているのみである。

No11 KY-86 IIIA-4 住居址カマド内

ウグイの尾椎が4点、種不明の魚類の尾椎1点、種及び部位同定不可能な魚骨片が少量出土している。

出土した魚骨はすべて焼けて白色化している。

No12 KY-86 IIIA-28 土坑

焼けて白色化した種及び部位同定不可能な哺乳類のものと思われる骨片が少量出土しているのみである。

No13 KY-86 IIA-3 住居址埋土

歯種不明のイノシシの歯片が3片出土しているのみである。

No14 KY-86 IIIA-2 墓壇埋土

焼けて白色化した種及び部位同定不可能な哺乳類のものと思われる骨片が少量出土しているのみである。

No15 KY-86 IIIA-2 墓壇埋土

焼けて白色化した種及び部位同定不可能な哺乳類のものと思われる骨片が少量出土しているのみである。

No17 KY-86 IVA-101 大溝跡埋土

イノシシのM2、M3を伴った左下顎骨が1点出土している。M2は歯槽に歯根部が残存するのみである。大きさからみて成獣のものと思われる。

No18 KY-86 IVA-101 大溝跡埋土

シカの右脛骨が1点出土している。残存部は近位端の関節部である。関節は内側顆が残存し、外側顆は欠損している。内側顆間結節も残存し、外側顆間結節はわずかに残存する。脛骨粗面部は欠損している。大きさからみて成獣のものと思われる。

No19 KY-87 IVA-14 住居址カマド内

焼けて白色化したシカの左中足骨1点が出土している。遠位端の滑車部分が残存し、左滑車部分には骨体が伴っていた。遠位端と骨体の癒着が見られないことから若獣のものと思われる。

No20 KY-87 IVA-9 土坑埋土

ウシ科かウマ科と思われる偶蹄目の一種の臼歯片が少量出土している。破片資料であるため種及び歯種は不明である。偶蹄目の一種に留めたが、ウシの可能性が高い。

駒焼場遺跡出土人骨

No 9 KY-86 IVA-101大溝跡埋土

部位不明の小骨片1点が出土している。表面の質感、内面の海綿質の感じからみて人骨と思われる。

焼けて白色化している。

No16 KY-87 IIA-101大溝跡埋土

種及び部位同定不可能な骨片が少量と、人骨の右脛骨1点が出土している。右脛骨は、近位遠位両端が欠損し、近位部の前縁が残存する。

5) 駒焼場遺跡出土試料種子同定報告書

パリノ・サーヴェイ株式会社

貴、財団法人 岩手県文化振興事業団殿より御依頼のありました駒焼場遺跡出土試料の種子同定が終了致しましたので、その結果をご報告申し上げます。

1 試料

試料は、駒焼場遺跡から採取された合計13試料 (No 1~13) である。13の試料は、既に洗別抽出された単体種子 (1~59個体あるいは100個体以上) から成る。No 1・2を除く12試料は、平安時代後期のものとされる住居址と大溝跡から検出されたものである。No12の検出された土坑は所属する時代が不明である。

同定試料の実数は、各試料の個体数の合計 (表1) に示したが、種子でないものや性格な個体数が不明なものなどが含まれていたため、依頼時に種子と判断された数とは異なる。

2 方法

試料を実体顕微鏡下で観察し、同定した。同時に写真図版 (図版1) も作成した。

3 結果

試料はいずれも炭化種子であり、確実な同定ができないものや種類不明のものもあったが、以下の2科4種類 (Taxa) が同定された (表1)。

GRAMINEAE (イネ科) Cf. *Setaria* sp. (エノコログサ属類似種)

Oryza sativa (イネ科)

Cf. *Hordeum* sp. (オオムギ属類似種)

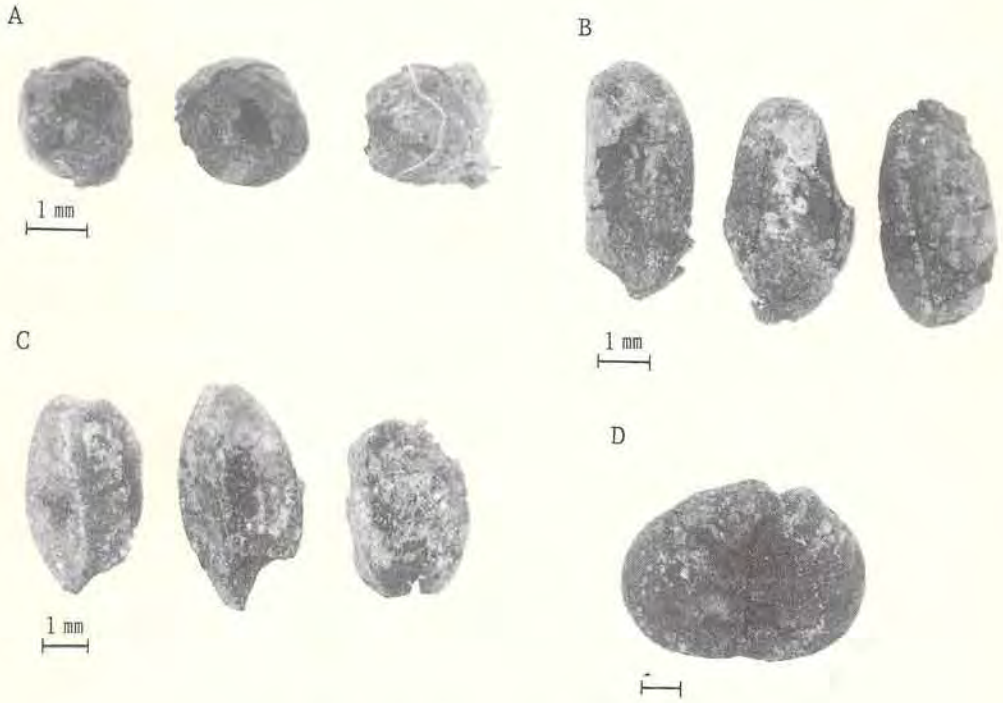
LEGUMINOSAE (マメ科) *Leguminosae* sp. (マメ科の一種)

表1 駒焼場遺跡出土種子の種類と個体数

試料 No.	出土遺構	種類**					合計
		A	B	C	D	不明	
1	ⅣA-3住居址		1			2	3
2	ⅣA-6住居址		4	13			17
3	ⅣA-6住居址		2	11			13
4	ⅣA-7住居址			1		1	2
5	ⅣA-8住居址		23	36			59
6	ⅣA-8住居址		11	23			34
7	ⅣA-13住居址					1	1
8	ⅣA-17住居址		1	1		2	4
9	ⅣA-23住居址		7	17			24
10	ⅣA-23住居址		2	20	1		23
11	ⅣA-23住居址		1	38			39
12	ⅡA-7土坑	多数					多数**
13	ⅡA-101大溝跡	多数					多数**

*: A; エノコログサ類類似種, B; イネ, C; オオムギ類類似種, D; マメ科の一種.

** : 100個以上あるが塊のため実数は不明.



図版1 A: エノコログサ属類似種 No13
 B: イネ No2
 C: オオムギ類似種 No2
 D: マメ科の一種 No10
 スケールは1mm

検出遺構・出土遺物・計測一覧表

表3：古代の住居址一覧表 (1) [] 残存長、()内は推定

No	遺構名	平面形	規模 (m)	壁 高 (cm)	床面積 (㎡)	カマドの位置	主軸方位	貯蔵穴 の有無	柱穴 配置	焼失の 有無
1	ⅡA-1	隅丸方形	[3.28]×[1.94]	北東壁17~22、 南東壁3~16					3	
2	ⅡA-2	やや不整な 隅丸方形	[1.52]×[2.24]	北東壁22~29、 南東壁27~31					—	
3	ⅡA-3	長方形	6.2×(5.0)	北東壁7 南東壁10~14	(27.4)	南東壁中央部西寄り	E-43.5°S		—	
4	ⅡA-4	ほぼ方形	[4.9]×5.1	北東壁8~10 南東壁7~10		北東壁中央部北寄り	N-43°E		—	
5	ⅡA-5	ほぼ方形	4.1×[3.9]	不明		南東壁中央部西寄り 北東壁中央部南寄り	E-43°S N-43°E		8	
6	ⅢA-1	方形	4.8×(4.8)	北東壁4、南東壁3	(17.6)	北東壁	N-41°E		—	有
7	ⅢA-2	隅丸方形	(3.6)×(3.6)	北東壁30~33 南西壁23~26		(北西壁中央部)	W-40.5°N		—	有
8	ⅢA-3	方形	4.0×(4.0)	北東壁9~16、南東壁10 ~13、南西壁10~12		南東壁中央部西寄り	E-59.5°S		2	有
9	ⅢA-4	方形	4.3×(4.3)	北東壁19~22、南東壁17 ~28、南西壁10~13		南東壁中央部東寄り	E-64.5°S		—	有
10	ⅢA-5	方形	4.0×(4.0)	北東壁23~25、南西壁14 ~18、北西壁12~22		(北西壁中央部西寄りまた は南西壁中央部北寄り)	W-63.5°N S-63.5°W		—	
11	ⅢA-6	長方形	3.5×4.5	南西壁81~84	14.6	南東壁中央部南寄り	E-14.5°S		—	有
12	ⅢA-7	長方形	3.8×5.1	南西壁12	19.4	(北西壁中央部東寄りまた は北東壁中央部北寄り)	W-47°N N-47°E		—	有
13	ⅢA-8	ほぼ方形	(3.3)×(4.1)	北東壁中央部32 北西隅26	(13.6)	(南東壁中央部南寄り)	E-39°S		—	
14	ⅢA-9	長方形	4.7×4.1	北東壁31~39、北西壁14~31、 南西壁4~31、南東壁1~11	17.9	南東壁中央部北寄り	E-19°S		6	長方形 有
15	ⅢA-10	やや不整な 方形	3.2×(3.2)	北壁3~9	14.2	北壁中央部東寄りまた は、東壁中央部北寄り			—	
16	ⅢA-11	長方形	(3.1)×(4.2)	北西壁11~13、 南東壁10~25		南東壁中央部東寄り	E-44.5°S		—	
17	ⅢA-12	方形	—×(2.4)	北西壁5~11		不明			—	
18	ⅢA-13	方形	3.6×(3.6)	北西壁22~30		不明			—	
19	ⅢA-15	方形	3.3×(3.3)	北西壁、南西壁2~10		南東壁中央部西寄り	S-30.5°W		—	
20	ⅢA-16	方形または 長方形	3.7×—	南西隅20、南東壁15 南西壁20		不明			—	
21	ⅢA-18	方形または 長方形	3.6×—	西南隅29、南東隅34		不明			—	
22	ⅢA-19	隅丸方形	5.4×(5.4)	南西壁61、南東壁46	(25.3)	北西壁中央部か			3	四角形 有
23	ⅢA-20	不明	[3.1]×—	南東壁29~38		不明			—	
24	ⅣA-2	台形	4.2×5.2	北東壁3、南西壁8、 南東壁3、北西壁5	20.5	(南西壁中央部東寄り)	S-14°W		—	

表4：古代の住居址一覧表 (2)

()内は推定

No	遺構名	平面形	規模 (m)	壁 高 (cm)	床面積 (㎡)	カマドの位置	主軸方位	貯蔵穴 の有無	柱 穴	柱穴 配置	焼失の 有無
25	ⅣA-3	長方形	3.7×4.2	北東壁37、南西壁32、 南東壁、北西壁30	12.1	南東壁中央部西寄り	E-55° S		7	四角形	有
26	ⅣA-4	台形	5.8×〔6.6〕	北隅43、南隅48、北東壁25		南西壁中央部西寄り	E-42° S		5		有
27	ⅣA-5	方形	5.0×(5.0)	北東壁38、北西壁55、 南西壁59	(20.5)	南東壁中央部西寄り	E-66.5° S	有	5		
28	ⅣA-6	方形	4.2×4.4	北東壁36、南西壁37、 南東壁38、北西壁49	14.9	南西壁中央部西寄り	S-34.5° W		2		有
29	ⅣA-7	方形	6.5×(6.5)	北隅44、西隅46、南隅40	(34.6)	北東壁中央部北寄り	N-40° E		4	四角形	有
30	ⅣA-8a	台形	5.0×5.1	北東壁38、南西壁37、 南東壁32、北西壁41	22.2	南東壁中央部南寄り	E-43.5° S	有	3	四角形	有
31	ⅣA-8b	長方形	4.2×5.1		19.5			有			有
32	ⅣA-9	隅丸方形	4.1×(4.1)	北西壁40、北東壁44、 南西壁32	14.9	北西壁中央部	W-26.5° N				
33	ⅣA-10	隅丸方形	2.8×3.1	北西壁16、南東壁13、 南西壁13	7.3						
34	ⅣA-11	長方形	(4.7)×(6.7)	不明		北西壁中央部南寄り					
35	ⅣA-12	長方形	5.6×6.2	南西壁17、南東壁21、 南隅14、東隅13	(30.3)	南東壁中央部西寄り			2	四角形	有
36	ⅣA-13	ほぼ方形	6.2×6.4	北東壁54、南西壁47、 南東壁60、北西壁61	33.9	南西壁中央部西寄り	E-60.5° S		5	長方形	有
37	ⅣA-14	隅丸方形	4.8×5.2	北東壁65、南西壁62、 南東壁61、北西壁66	18.5	北西壁中央部	W-29.5° N		4	四角形	有
38	ⅣA-15	方形または 長方形	(5.0×3.8)	北端20、西端39、東隅27					2		
39	ⅣA-16	方形	4.2×(4.2)	南西壁36、南東壁35、 南隅34、東隅27	19.8	南東壁中央部西寄り	E-39° S				
40	ⅣA-17	方形	5.0×4.9	北東壁34、南西壁15 南東壁14、北西壁40	21.6	南東壁中央部西寄り	E-53.5° S		5	四角形	有
41	ⅣA-18	長方形	2.9×3.4	北東壁9、南東壁19、 南西壁、北西壁11	8.4	北東壁中央部南寄り	N-56.5° E				有
42	ⅤA-1	方形または 長方形	1.2×3.5	南東壁、南西壁3～6							
43	ⅤA-2			不明							
44	ⅤA-3	長方形	2.4×3.2	6～17	6.4	南壁中央部東寄り	E-69° S				
45	ⅤA-4	方形	3.0×(3.0)	10～18					1		

表5 駒焼場遺跡土器観察表(1)

YN-ヨコナデ、HN-ヘラナデ、HK-ヘラケズリ、HM-ヘラミガキ、RN-ロクロナデ、NH-ナデ状ケズリ、H-ハケメ

図版 遺物番号	遺構名	器種	出土地点	外面調整			内面調整			底部 (外面)	法量 (cm)			備考	遺物 番号	写真 番号
				口 縁部	体部 上半	体部 下半	口 縁部	体部 上半	体部 下半		口 径	器 高	底 径			
98-1	IIA-1 (住)	甕	床面		HK			HN						165	-1	
98-2	IIA-1 (住)	鉄製品	床面No. 2										別表参照	鉄20	-2	
98-3	IIA-1 (住)	鉄製品	床面No. 1										別表参照	鉄6	-3	
98-4	IIA-1 (住)	鉄製品	床面No. 1										別表参照	鉄38	-4	
98-5	IIA-2 (住)	坏	埋土	HM	HM, HK		HM	HM					内黒	224	-5	
98-6	IIA-2 (住)	坏	埋土上部	HM	HM		HM	HM					内黒	225	-6	
98-7	IIA-2 (住)	坏	埋土上部			HM, HK			HM	丸底風	1.5		内黒	226	-7	
98-8	IIA-2 (住)	紡錘車	床面										別表参照	12	-8	
98-9	IIA-3 (住)	甕	カマド	YN	HK	HK	YN	HN	HM		13.2	21.8	9.0	41a b	-9	
98-10	IIA-3 (住)	甕	カマド	YN	HK		YN	HN					輪積痕	68	-10	
98-11	IIA-3 (住)	甕	カマド		HK	HK		HN	HM			3.5		36	-11	
99-12	IIA-3 (住)	甕	埋土下部	YN	HK		YN	HN			6.0	1.2		153	-12	
99-13	IIA-3 (住)	甕	カマド埋土下部	YN				HN						71	-13	
99-14	IIA-3 (住)	甕	埋土上部	YN	HK		YN	HN						70	-14	
99-15	IIA-3 (住)	甕	埋土上部	YN	HK		YN	HN						72	-15	
99-16	IIA-3 (住)	甕	埋土	YN	HK		YN	HN						69	-16	
99-17	IIA-3 (住)	甕	煙出し口埋土		HK, HN			HN						197	-17	
99-18	IIA-3 (住)	甕	埋土上部		HK, HN			HN						42	-18	
99-19	IIA-3 (住)	甕	埋土下部							笹の葉痕	1.5	6.4		73	-19	
99-20	IIA-3 (住)	甕	埋土下部	YN	HK		YN	HN					輪積痕	67	-20	
99-21	IIA-3 (住)	須恵器彩土器	埋土上部		HM, HK									504	-21	
99-22	IIA-3 (住)	須恵器彩土器	床面											513	-22	
99-23	IIA-3 (住)	石製品	埋土上部										別表参照	石7	-23	
100-24	IIA-4 (住)	甕	埋土	YN	HN		YN	HN						45	-24	
100-25	IIA-4 (住)	甕	埋土		HK			HN						44	-25	
100-26	IIA-4 (住)	甕	埋土			HN, HK			HN	木葉痕	3.3	9.7	輪積痕	43	-26	
100-27	IIA-4 (住)	甕	埋土		HK	HN		HN	HN	木葉痕	11.1	9.7	輪積痕	26	-27	
100-28	IIA-5 (住)	坏	埋土上部			HK		HM	HM	回転糸切歯			内黒	222	-28	
100-29	IIIA-1 (住)	坏	カマド	HM			HM						内黒	220	-29	
100-30	IIIA-1 (住)	甕	カマド		HK			HN				11.5		164	-30	
100-31	IIIA-1 (住)	甕	埋土	HN	HK		YN	HN	HN		15.5	19.5	6.5	38	-31	
100-32	IIIA-2 (住)	甕	埋土	HN				HN						119	-32	
100-33	IIIA-2 (住)	甕	埋土	YN	NK		YN	HN						118	-33	
101-34	IIIA-3 (住)	坏	埋土上部	HM			HM						口内黒	237	-34	
101-35	IIIA-3 (住)	甕	埋土下部	YN	HK		YN	HN						66	-35	
101-36	IIIA-3 (住)	甕	埋土	YN	HK		YN	HN						65	-36	
101-37	IIIA-3 (住)	甕	床面	YN	HK		HN	HN						64	-37	
101-38	IIIA-3 (住)	甕	カマド	YN	HK		YN	HN						63	-38	
101-39	IIIA-3 (住)	鉄製品	埋土										別表参照	鉄14	-39	
101-40	IIIA-3 (住)	鉄製品	埋土										別表参照	鉄13	-40	
101-41	IIIA-4 (住)	坏	埋土上部	YN			YN, HM						ロクロ使用	116	-41	
101-42	IIIA-4 (住)	坏	埋土上部				HN						口内黒	236	-42	
101-43	IIIA-4 (住)	甕	カマド	YN, HK	HK		YN, HK	HN					輪積痕	114	-43	
101-44	IIIA-4 (住)	甕	カマド		HK			HN				5.3		105	-44	
102-45	IIIA-4 (住)	甕	カマド	YN	HK		YN	HN			14.0	7.2		21	-45	
102-46	IIIA-4 (住)	甕	床面	YN	HK		YN	HN						115	-46	
102-47	IIIA-4 (住)	鉄製品	埋土										別表参照	鉄16	-47	
102-48	IIIA-4 (住)	袖の芯	カマド										別表参照	石2	-48	

表6 駒焼場遺跡土器観察表(2)

Y-N-ヨコナデ、HN-ヘラナデ、HK-ヘラケズリ、HM-ヘラミガキ、RN-ロクロナデ、NK-ナデ状ケズリ、H-ハケメ

図版遺物番号	遺構名	器種	出土地点	外面調整			内面調整			底部 (外面)	法量 (cm)			備考	遺物番号	写真番号
				口縁部	体部上半	体部下半	口縁部	体部上半	体部下半		口	器	底			
											徑	高	徑			
102-49	ⅢA-4 (住)	袖の芯	カマド											別表参照	石1	-49
103-50	ⅢA-5 (住)	甕	埋土下部	YN	HN	HK	YN	HN	HN	木葉痕	9.6	15.0	8.0		20ab	-50
103-51	ⅢA-5 (住)	甕	カマド			HK			HN			5.3		輪積痕	174	-51
103-52	ⅢA-5 (住)	甕	カマド	YN		HK	YN		HN		11.8	9.6			33	-52
103-53	ⅢA-5 (住)	鉄製品	カマド											別表参照	鉄47	-53
103-54	ⅢA-6 (住)	甕	床面	YN		HK		HN	HN						200	-54
103-55	ⅢA-6 (住)	甕	カマド脇床面	YN			YN	HN							113	-55
103-56	ⅢA-6 (住)	甕	カマド脇床面	YN		HK	YN		HN					輪積痕	112	-56
103-57	ⅢA-6 (住)	甕	カマド脇床面	YN		HK		HN	HN		10.8	6.3		輪積痕	210	-57
104-58	ⅢA-6 (住)	鉄製品	床面											別表参照	鉄1	-58
104-59	ⅢA-6 (住)	甕	カマド脇床面			HK	HK、HN		HN	HN		8.5	6.8		209	-59
104-60	ⅢA-6 (住)	甕	カマド脇床面			HK	HN		HN	HN		15.4	8.7		24	-60
104-61	ⅢA-6 (住)	鉄製品	床面											別表参照	鉄2	-61
104-62	ⅢA-6 (住)	鉄製品	床面											別表参照	鉄55	-62
104-63	ⅢA-6 (住)	鉄製品	床面											別表参照	鉄54	-63
104-64	ⅢA-6 (住)	鉄製品	床面											別表参照	鉄53	-64
104-65	ⅢA-6 (住)	棒状木製品	床面													-65
104-66	ⅢA-6 (住)	弓状木製品	床面													-66
105-67	ⅢA-7 (住)	甕	埋設土器	YN		HK		YN	HN		13.8	9.9			2	-67
105-68	ⅢA-7 (住)	甕	埋設土器				HK			HN		2.5	6.6		74	-68
105-69	ⅢA-7 (住)	鉄製品	埋土											別表参照	鉄21	-69
105-70	ⅢA-7 (住)	甕	埋土				HN			木葉痕		1.7	5.5		15	-70
105-71	ⅢA-8 (住)	甕	埋土最下部	YN		HK		YN							48	-71
105-72	ⅢA-8 (住)	甕	埋土最下部	YN		HK		YN	HN						46	-72
105-73	ⅢA-8 (住)	甕	埋土最下部	YN		HK		YN	HN					輪積痕	163	-73
105-74	ⅢA-8 (住)	須恵器壺形土器	埋土上部			HK	HK					12.8			1	-74
105-75	ⅢA-8 (住)	鉄製品(鈴)	床面											別表参照	鉄43	-75
105-76	ⅢA-8 (住)	鉄製品	埋土上部											別表参照	鉄42	-76
106-77	ⅢA-9 (住)	坏	カマド	HM				HM						ロクロ使用	234	-77
106-78	ⅢA-9 (住)	甕	カマド	YN		HK		YN	HN						79	-78
106-79	ⅢA-9 (住)	坏	埋土上部	YN、HM				HM							235	-79
106-80	ⅢA-9 (住)	甕	埋土上部	YN				YN							80	-80
106-81	ⅢA-9 (住)	甕	カマド	YN		HK		YN	HN						81	-81
106-82	ⅢA-9 (住)	甕	埋土	YN		HK		YN	HN						53	-82
106-83	ⅢA-9 (住)	甕	埋土	HK		HK		YN	HN						55	-83
106-84	ⅢA-9 (住)	甕	カマド床面	YN		HK		YN	HN		12.0	11.2			29	-84
106-85	ⅢA-9 (住)	甕	カマド			HK			HN		7.5	7.3		輪積痕	201	-85
106-86	ⅢA-9 (住)	甕	埋土上部			HK			HN	木葉痕	4.6	11.0			51	-86
107-87	ⅢA-9 (住)	甕	埋土上部	YN				YN							76	-87
107-88	ⅢA-9 (住)	甕	埋土	YN		NK		YN	HN						58	-88
107-89	ⅢA-9 (住)	甕	埋土上部	YN		NK		YN	HN						57	-89
107-90	ⅢA-9 (住)	甕	埋土上部	HN		HN		YN	HN					輪積痕	56	-90
107-91	ⅢA-9 (住)	甕	埋土	YN		HN、HK		YN	HN					輪積痕	59	-91
107-92	ⅢA-9 (住)	甕	掘り方埋土			HK	HK		HN	HN		10.9		輪積痕	49	-92
107-93	ⅢA-9 (住)	甕	埋土上部			HK			HN	ヘラケズリ	1.5	6.4		別表参照	石25	-93
107-94	ⅢA-9 (住)	石器	床面													-94
107-95	ⅢA-11 (住)	甕	カマド	YN		HK		YN	HN						90	-95
108-96	ⅢA-11 (住)	甕	カマド	YN		HK		YN	HN						89	-96

表7 駒焼場遺跡土器観察表(3)

YN-ヨコナデ、HN-ヘラナデ、HK-ヘラケズリ、HM-ヘラミガキ、RN-ロクロナデ、NK-ナデ状ケズリ、H-ハケメ

図版 遺物番号	遺構名	器種	出土地点	外面調整			内面調整			底部 (外面)	法量 (cm)			備考	遺物 番号	写真 番号
				口 縁部	体部 上半	体部 下半	口 縁部	体部 上半	体部 下半		口 径	器 高	底 径			
108-97	ⅢA-11(住)	甕	カマド	YN	HK		YN	HN						152	-97	
108-98	ⅢA-11(住)	甕	カマド	YN	HK		YN	HN						88	-98	
108-99	ⅢA-11(住)	甕	カマド	YN	HK		YN	HN						50	-99	
108-100	ⅢA-11(住)	甕	カマド	YN	HK		YN	HN						91	-100	
108-101	ⅢA-11(住)	甕	カマド		HK	HK		HN	HN		17.4	9.2		27	-101	
109-102	ⅢA-11(住)	甕	カマド	YN	HK		YN	HN			13.8	11.4		22	-102	
109-103	ⅢA-11(住)	甕	カマド	YN	HK	HK	YN	HN	HN		12.3	15.0		23	-103	
109-104	ⅢA-13(住)	甕	埋土下部			HK			HN			3.1	12.0		106	-104
109-105	ⅢA-13(住)	甕	埋土下部		HK			HN				12.9			198	-105
109-106	ⅢA-15(住)	甕	カマド崩壊土	YN	HK		YN	HN							60	-106
109-107	ⅢA-15(住)	小型土器	埋土上部	YN	HN		YN	HN			5.6	3.3			154	-107
109-108	ⅢA-15(住)	甕	埋土上部	YN	HK	HK	YN	HN	HN		22.8	20.0	8.8		37	-108
110-109	ⅢA-16(住)	甕	埋土	YN	HK		YN	HN							62	-109
110-110	ⅢA-16(住)	甕	埋土	YN	HK、HN		YN	HN							193	-110
110-111	ⅢA-16(住)	甕	埋土	YN	HK		YN	HN							167	-111
110-112	ⅢA-19(住)	坏	床面	HM	HM		HM	HM			15.0	3.6		内黒	98	-112
110-113	ⅢA-19(住)	坏	床面	HM	HK、HM		HM	HM			19.0	3.5		内黒	100	-113
110-114	ⅢA-19(住)	坏	埋土		HM	HM、HK		HM	HM			4.2		内黒	101	-114
110-115	ⅢA-19(住)	坏	埋土	HK、HM			HM							内黒	222	-115
110-116	ⅢA-19(住)	甕	床面	YN	HM、HK		YN、HM	HN			18.8	19.0		輪積痕	13	-116
110-117	ⅢA-19(住)	甕	埋土			HK			HN			7.2	13.2	輪積痕	56	-117
110-118	ⅢA-19(住)	甕	埋土			HN			HN			3.0	10.2		155	-118
110-119	ⅢA-19(住)	石器	床面											別表参照	石18	-119
111-120	ⅢA-19(住)	石器	床面											別表参照	石17	-120
111-121	ⅣA-2(住)	甕	床面	YN	HK		YN	HM							248	-121
111-122	ⅣA-2(住)	把手付土器	床面		HK	HK					3.6	5.8			172	-122
112-123	ⅣA-3(住)	坏	床面	HM、HK	HM、HK		HM	HM						内黒	214	-123
112-124	ⅣA-3(住)	甕	床面	YN	HK		YN	HN			19.6	4.8		輪積痕	12	-124
112-125	ⅣA-3(住)	甕	床面	YN	HK		YN	HN			15.6	17.0		輪積痕	48	-125
112-126	ⅣA-3(住)	甕	床面	YN	HK	HK	YN	HN	HN		19.5	21.5	8.3	輪積痕	1	-126
112-127	ⅣA-3(住)	甕	カマド	YN	HK、HN		YN	HN			13.2	12.0		輪積痕	140	-127
112-128	ⅣA-3(住)	甕	カマド	YN	HK		YN	HN			13.0	8.8		輪積痕	131	-128
112-129	ⅣA-3(住)	甕	床面			HK			HN	木葉痕		1.8	8.1		136	-129
113-130	ⅣA-3(住)	甕	カマド		HK			HN				15.0			123	-130
113-131	ⅣA-3(住)	甕	カマド		HK、HN			HN				6.0			145	-131
113-132	ⅣA-3(住)	甕	埋土	YN	HK		YN	HN						輪積痕	240	-132
113-133	ⅣA-3(住)	鉄製品	床面											別表参照	鉄25	-133
113-134	ⅣA-3(住)	鉄製品	埋土											別表参照	鉄26	-134
113-135	ⅣA-3(住)	鉄製品	埋土											別表参照	鉄28	-135
113-136	ⅣA-3(住)	鉄製品	床面											別表参照	鉄2	-136
114-137	ⅣA-4(住)	坏	埋土		HK									ロクロ使用	196	-137
114-138	ⅣA-4(住)	甕	床面	YN	HK		YN	HN						輪積痕	238	-138
114-139	ⅣA-4(住)	甕	床面	YN	HK、HN		YN	HN			20.6	9.8		輪積痕	10	-139
114-140	ⅣA-4(住)	甕	床面	YN	HK		YN	HN			18.0	14.5			82	-140
114-141	ⅣA-4(住)	甕	埋土	YN	HK		YN	HN			12.8	8.3		輪積痕	86	-141
114-142	ⅣA-4(住)	甕	床面	YN	HK		YN	HN			19.4	9.5		輪積痕	87	-142
114-143	ⅣA-4(住)	甕	床面	YN	HK、HN		YN	HN			23.6	6.5		輪積痕	89	-143
114-144	ⅣA-4(住)	甕	埋土	YN	HK		YN	HN			23.2	9.5		輪積痕	132	-144

表8 駒焼場遺跡土器観察表(4)

YN-ヨコナデ、HN-ヘラナデ、HK-ヘラケズリ、HM-ヘラミガキ、RN-ロクロナデ、NK-ナデ伏ケズリ、H-ハケメ

図版 遺物番号	遺構名	器種	出土地点	外面調整			内面調整			底部 (外面)	法量 (cm)			備考	遺物 番号	写真 番号			
				口 縁部	体部 上半	体部 下半	口 縁部	体部 上半	体部 下半		口 径	器 高	底 径						
115-145	ⅣA-4 (住)	甕	床 面			HK			HN	ヘラケズリ	2.0	6.8		73	-145				
115-146	ⅣA-4 (住)	甕	床 面			HK			HN		5.0	9.0		81	-146				
115-147	ⅣA-4 (住)	甕	埋 土			HK			HN		1.9	12.4		85	-147				
115-148	ⅣA-4 (住)	甕	埋 土		HK	HK			HN	HN		14.5		輪積痕	90	-148			
115-149	ⅣA-5 (住)	坏	埋 土	HM	HM		HM	HM			13.0	3.6		内 黒	105	-149			
115-150	ⅣA-5 (住)	甕	埋 土	YN	HM, HK		YN	HN, HM							223	-150			
115-151	ⅣA-5 (住)	甕	カマド	YN	HK		YN	HN			13.8	12.6		輪積痕	18	-151			
116-152	ⅣA-5 (住)	甕	埋 土	YN	HK			HN, HK							206	-152			
116-153	ⅣA-5 (住)	甕	埋 土	YN	HK	NK, HK	YN	HN	HN		8.8	13.0	6.0	輪積痕	16	-153			
116-154	ⅣA-5 (住)	甕	埋 土		HK			HN			12.0			巻き上げ痕	130	-154			
116-155	ⅣA-5 (住)	甕	カマド			NK			HN		1.7	4.6			22	-155			
116-156	ⅣA-5 (住)	甕	カマド			HN, HK			HN		4.9	8.8			17	-156			
116-157	ⅣA-5 (住)	甕	埋 土			HK			HN		1.7	5.0			30	-157			
116-158	ⅣA-5 (住)	甕	埋 土			HK			HN		3.0	9.0		輪積痕	20	-158			
116-159	ⅣA-5 (住)	甕	埋 土			HK									21	-159			
116-160	ⅣA-5 (住)	土製品	床 面											笹の葉痕	1.5	7.2		31	-160
116-161	ⅣA-5 (住)	鉄製品	埋 土											別表参照	鉄41	-161			
116-162	ⅣA-5 (住)	鉄製品	埋 土											別表参照	鉄42	-162			
117-163	ⅣA-5 (住)	鉄製品	埋 土											別表参照	鉄4	-163			
117-164	ⅣA-5 (住)	鉄製品	床 面											別表参照	鉄14	-164			
117-165	ⅣA-5 (住)	石 器	床 面											別表参照	石 2	-165			
117-166	ⅣA-6 (住)	坏	埋 土	HM	HM		HM	HM						内 黒	194	-166			
117-167	ⅣA-6 (住)	坏	埋 土	HM	HK, HM		HM	HM						内 黒	217	-167			
117-168	ⅣA-6 (住)	坏	床 面	YN	HM		HM	HM						内 黒	199	-168			
117-169	ⅣA-6 (住)	坏	埋 土	HM, YN	HM, HK		HM	HM			15.0	4.5		内 黒	102	-169			
118-170	ⅣA-6 (住)	甕	カマド支脚	YN	HK	HK	YN	HN	HN		12.8	15.9	7.5	輪積痕	14	-170			
118-171	ⅣA-6 (住)	甕	埋 土	YN	HK		YN	HN			15.2	5.1			11	-171			
118-172	ⅣA-6 (住)	甕	埋 土	YN	HK, HN		YN	HN							242	-172			
118-173	ⅣA-6 (住)	甕	カマド	HM, NK	HM, NK			HN			13.5			輪積痕	152	-173			
118-174	ⅣA-6 (住)	甕	埋 土	YN	HK		YN	HN						輪積痕	203	-174			
118-175	ⅣA-6 (住)	甕	埋 土	YN	HK		YN	HN							205	-175			
118-176	ⅣA-6 (住)	甕	埋 土	YN	HK		YN	HN						輪積痕	228	-176			
118-177	ⅣA-6 (住)	甕	埋 土	YN	NK		YN	HN						輪積痕	243	-177			
118-178	ⅣA-6 (住)	甕	埋 土	YN	HK		YN	HN							241	-178			
118-179	ⅣA-6 (住)	甕	床 面			HK			HN		3.6	7.7			135	-179			
119-180	ⅣA-6 (住)	甕	床 面			HK			HN, HM	木葉痕	2.45	7.1			25	-180			
119-181	ⅣA-6 (住)	甕	カマド		HK	HK, HN		HN	HN	木葉痕	9.1	11.0			147	-181			
119-182	ⅣA-6 (住)	甕	埋 土			HK			HN		1.1	4.8		内 黒	96	-182			
119-183	ⅣA-6 (住)	甕	埋 土			HN			HN		2.9	7.4			134	-183			
119-184	ⅣA-6 (住)	甕	埋 土			HK			HN	木葉痕	3.4	8.8			124	-184			
119-185	ⅣA-6 (住)	甕	埋 土			HK			HN	木葉痕	3.8	10.1			39	-185			
119-186	欠番																		
119-187	ⅣA-6 (住)	鉄製品	埋 土						HN					別表参照	鉄22	-187			
119-188	ⅣA-6 (住)	鉄製品	埋 土											別表参照	鉄15	-188			
119-189	ⅣA-6 (住)	鉄製品	埋土中部											別表参照	鉄12	-189			
120-190	ⅣA-6 (住)	羽 口	カマド											別表参照	190	-190			
120-191	ⅣA-7 (住)	坏	床 面	YN	HK, YN	HK	HM	HM	HM		8.6	3.4		内 黒	97	-191			
120-192	ⅣA-7 (住)	坏	埋 土	HM	HM	HM	HM	HM	HM		9.8	4.0		内 黒	67	-192			

表9 駒焼場遺跡土器観察表(5)

YN-ヨコナデ, HN-ヘラナデ, HK-ヘラケズリ, HM-ヘラミガキ, RN-ロウロナデ, NK-ナデケズリ, H-ハケメ

図版 遺物 番号	遺構名	器種	出土地点	外面調整			内面調整			底部 (外面)	法量 (cm)			備考	遺物 番号	写真 番号
				口 縁 部	体 部 上 半	体 部 下 半	口 縁 部	体 部 上 半	体 部 下 半		口 径	器 高	底 径			
120-193	ⅣA-7(住)	坏	埋土	HM	HM	HM	HM	HM	HM		11.2	3.5	6.0	前黒色処理	71	-193
120-194	ⅣA-7(住)	坏	床面	YN	HK		HM	HM						内黒	198	-194
120-195	ⅣA-7(住)	甕	床面	YN	HK, HN		HN	HN			14.0	21.2		輪積痕	107	-195
121-196	ⅣA-7(住)	甕	床面	YN	HK		YN	HN			16.2	10.0		輪積痕	104	-196
121-197	ⅣA-7(住)	甕	カマド	YN	HK		YN	HN			15.4	6.8		輪積痕	118	-197
121-198	ⅣA-7(住)	甕	床面	YN	HK		YN	HN			21.8	8.2		輪積痕	119	-198
121-199	ⅣA-7(住)	甕	埋土	HK	HK, HN		YN	HN			14.0	6.7			109	-199
121-200	ⅣA-7(住)	甕	カマド	YN	HN		YN	HN			19.2	16.8		輪積痕	127	-200
121-201	ⅣA-7(住)	小型土器	床面	YN	HN	HK	YN	HN	HN	木炭痕	7.8	6.2	8.2	巻き上げ痕	161	-201
122-202	ⅣA-7(住)	甕	カマド	YN	HK		YN	HN							197	-202
122-203	ⅣA-7(住)	甕	埋土			HK						1.7	6.2		128	-203
122-204	ⅣA-7(住)	甕	カマド	YN	HK		YN	HN						巻き上げ痕	210	-204
122-205	ⅣA-7(住)	甕	カマド			HK			HN		3.5	6.8			114	-205
122-206	ⅣA-7(住)	甕	埋土				HN				1.8	10.0			110	-206
122-207	ⅣA-7(住)	甕	床面		HK, HN			HN			18.5				126	-207
122-208	ⅣA-7(住)	甕	床面			HK			HN		4.5	9.2		輪積痕	125	-208
123-209	ⅣA-7(住)	鉄製品	堀り方埋土											別表参照	鉄3	-209
123-210	ⅣA-7(住)	石器	床面											別表参照	石4	-210
123-211	ⅣA-7(住)	石器	床面											別表参照	石3	-211
124-212	ⅣA-8(住)	坏	埋土		HK, HM			HM				2.7		内黒	103	-212
124-213	ⅣA-8(住)	小型甕	カマド	YN	NK		YN	HN			11.4	5.4		輪積痕	40	-213
124-214	ⅣA-8(住)	甕	カマド	YN	HK, HN		YN	HN			18.0	12.0		輪積痕	32	-214
124-215	ⅣA-8(住)	甕	床面	YN	HK	HK	YN	HN	HN	15.6	19.2	8.7			2	-215
124-216	ⅣA-8(住)	甕	カマド	YN	HN, NK	HK, NK	YN	HN	HN	20.8	22.8				35	-216
124-217	ⅣA-8(住)	甕	床面	YN	HK	HK	YN	HN	HN	17.1	21.4	8.8			3	-217
125-218	ⅣA-8(住)	小型土器	埋土	YN	HK	HK	YN	HN	HN	6.0	6.2	4.9			7	-218
125-219	ⅣA-8(住)	甕	埋土	YN	HK		YN	HN			14.0	7.3	9	輪積痕	42	-219
125-220	ⅣA-8(住)	甕	カマド	YN	HN, HK		YN	HN			32.0	15.0			36	-220
125-221	ⅣA-8(住)	甕	埋土	YN	HK		YN	HN							202	-221
125-222	ⅣA-8(住)	甕	埋土	YN	HK		YN	HN							239	-222
125-223	ⅣA-8(住)	甕	埋土	YN	HK		YN	HN						輪積痕	211	-223
125-224	ⅣA-8(住)	甕	埋土	YN	HK		YN	HN							245	-224
125-225	ⅣA-8(住)	甕	カマド			HK		HN			2.2	9.2			41	-225
125-226	ⅣA-8(住)	甕	カマド			HK		HN			3.9	10.4			37	-226
126-227	ⅣA-8(住)	甕	床面			HK		HK, HM	木炭痕		5.2	6.1			46	-227
126-228	ⅣA-8(住)	甕	埋土			HK					2.6	7.3			38	-228
126-229	ⅣA-8(住)	甕	埋土			HK		HN			2.7	7.6			112	-229
126-230	ⅣA-8(住)	鉄製品	埋土下部						HN					別表参照	鉄24	-230
126-231	ⅣA-9(住)	坏	埋土		HM	HM, HK		HM	HM			3.8		内黒	69	-231
126-232	ⅣA-9(住)	坏	床面	HM	HM, HK	HM, HK	HM	HM	HM		15.1	5.5	7.0	内黒	92	-232
126-233	ⅣA-9(住)	甕	埋土	HM	HK, HM	HM	HM	HM	HN		15.4	20.1	7.2		24	-233
126-234	ⅣA-10(住)	坏	床面	HM	HM	HK	HM	HM	HM		12.2	4.2	5.5	内黒	65	-234
126-235	ⅣA-10(住)	坏	床面	HM	H	HM	HM	HM	HM	丸底	14.0	4.5		内黒	68	-235
126-236	ⅣA-10(住)	坏	床面	HM, HK	HM		HM	HM						内黒	200	-236
126-237	ⅣA-10(住)	坏	埋土	HM	HM	HM, HK	HM	HM	HM	丸底	18.0	6.0			78	-237
126-238	ⅣA-10(住)	甕	埋土	YN, HM	HK		YN	HM							213	-238
127-239	ⅣA-10(住)	甕	埋土	YN	HM		YN	HM			16.8	3.5			62	-239
127-240	ⅣA-10(住)	甕	埋土	YN	HM		HM	YN			19.0	2.3			61	-240

表10 駒焼場遺跡土器観察表(6)

YN-ヨコナデ, HN-ヘラナデ, HK-ヘタケグリ, HM-ヘラミガキ, RN-ロクロナデ, NK-ナデ状ケズリ, H-ハケメ

図版 遺物 番号	遺構名	器種	出土地点	外面調整			内面調整			底部 (外面)	法面 (cm)			備考	遺物 番号	写真 番号
				口 縁 部	体 部 上 半	体 部 下 半	口 縁 部	体 部 上 半	体 部 下 半		口 径	器 高	底 径			
127-241	ⅣA-10(住)	甕	埋土	YN, HM	HM, HK		YN, HM	HM			18.2	7.5		60	-241	
127-242	ⅣA-10(住)	甕	埋土下部	YN, HM	HM, HK		YN, HM	HM, HN			17.8	8.5		26	-242	
127-243	ⅣA-10(住)	甕	埋土	HM	HM		HM	HM			16.6	13.8		64	-243	
127-244	ⅣA-10(住)	壺	埋土上部	YN, HM	HM		YN	HM				10.5		23	-244	
127-245	ⅣA-10(住)	甕	埋土	YN, HN	HN		YN	HM			16.5	8.0		53	-245	
127-246	ⅣA-10(住)	壺	埋土		HK, HM			HK, HM						209	-246	
128-247	ⅣA-10(住)	甕	埋土		HN			HK, HM, HN			14.0			51	-247	
128-248	ⅣA-10(住)	甕	埋土		HN, HM	HN		HM	HM, HK		14.8	6.8	輪積痕	63	-248	
128-249	ⅣA-10(住)	甕	埋土			HN			HN		7.5	6.8		59	-249	
128-250	ⅣA-10(住)	石器	埋土											別表参照	石5	-250
129-251	ⅣA-11(住)	坏	埋土上部	YN, HM	YN, HK		HM	HM						内黒	204	-251
129-252	ⅣA-11(住)	甕	埋土		HM, HK			HN							225	-252
129-253	ⅣA-11(住)	甕	埋土			HM, HK			HM, HN		1.8	6.4		111	-253	
129-254	ⅣA-12(住)	坏	床面		HM			HM						内黒	220	-254
129-255	ⅣA-12(住)	甕	カマド		HK			HN							221	-255
129-256	ⅣA-12(住)	甕	埋土		HK			H							212	-256
129-257	ⅣA-12(住)	甕	カマド	NK	NK			HN						輪積痕	195	-257
129-258	ⅣA-12(住)	鉄製品	埋土											別表参照	鉄20	-258
129-259	ⅣA-12(住)	鉄製品	埋土											別表参照	鉄21	-259
130-260	ⅣA-13(住)	甕	床面	YN	HK		YN	HN			24.2	8.0	輪積痕	41	-260	
130-261	ⅣA-13(住)	甕	床面			HK			HN			3.1	7.0		138	-261
130-262	ⅣA-13(住)	甕	床面	YN	HK, HN		YN	HN			23.2	12.4		146	-262	
130-263	ⅣA-13(住)	甕	埋土中部	YN	HK		YN, HK	HN						244	-263	
130-264	ⅣA-13(住)	甕	床面	YN	HK		YN	HN			14.5	9.1	輪積痕	133	-264	
130-265	ⅣA-13(住)	甕	床面	YN	HK		YN	HK, HN						224	-265	
130-266	ⅣA-13(住)	甕	カマド			HK, HN			HN		7.5	13.0		144	-266	
130-267	ⅣA-13(住)	甕	埋土	YN	HK		YN	HN						229	-267	
130-268	ⅣA-13(住)	甕	埋土			HK			HN		3.5	8.3		137	-268	
131-269	ⅣA-13(住)	鉄製品	埋土											別表参照	鉄23	-269
131-270	ⅣA-13(住)	鉄製品	埋土											別表参照	鉄17	-270
131-271	ⅣA-13(住)	鉄製品	埋土											別表参照	鉄16	-271
131-272	ⅣA-13(住)	石器	床面											別表参照	石10	-272
131-273	ⅣA-13(住)	石器	床面											別表参照	石7	-273
131-274	ⅣA-13(住)	石器	床面											別表参照	石11	-274
131-275	ⅣA-13(住)	石器	埋土											別表参照	石9	-275
132-276a	ⅣA-13(住)	羽口	埋土											別表参照	191a	-276a
132-276b	ⅣA-13(住)	羽口	埋土											別表参照	191b	-276b
132-277	ⅣA-13(住)	石器	床面											別表参照	石13	-277
132-278	ⅣA-13(住)	石器	床面											別表参照	石12	-278
133-279	ⅣA-13(住)	石器	床面											別表参照	石8	-279
133-280	ⅣA-14(住)	坏	床面	HM	HM		HM	HM			13.9	3.5	内黒	70	-280	
133-281	ⅣA-14(住)	坏	床面	YN, HM	HK, HM		HM	HM			15.0	4.0	内黒	84	-281	
133-282	ⅣA-14(住)	坏	床面	YN	HK, HM	HK, HM	HM	HM	HM		17.0	5.5	4.0	66	-282	
133-283	ⅣA-14(住)	坏	床面	YN	HM		HM	HM			19.0	3.5	内黒	74	-283	
134-284	ⅣA-14(住)	坏	埋土	HM	HM, HK		HM	HM						内黒	219	-284
134-285	ⅣA-14(住)	坏	埋土	YN, HM	HM	HM	HM	HM	HM		15.0	3.7	内黒	79	-285	
134-286	ⅣA-14(住)	小型甕	埋土	YN	HM, HK	HK	HM	HN	HN		14.0	6.3		19	-286	
134-287	ⅣA-14(住)	坏	埋土		YN, HM	HM, HK		HM	HM		3.6		内黒	83	-287	

表11 駒場焼遺跡土器観察表(7)

YN-ヨコナデ, HN-ヘラナデ, HK-ヘラケズリ, HM-ヘラミガキ, RN-ロクロナデ, NK-ナデ伏ケズリ, H-ハケメ

図版 遺物番号	遺構名	器種	出土地点	外面調整			内面調整			底部 (外面)	法尺 (cm)			備考	遺物 番号	写真 番号	
				口 縁部	体部 上半	体部 下半	口 縁部	体部 上半	体部 下半		口 徑	器 高	底 徑				
134-288	ⅣA-14(住)	甕	埋土		HK			HM, HN			6.1			122	-288		
134-289	ⅣA-14(住)	甕	埋土	YN	HM	HM, YN	YN	HN	HN		17.0	23.1	7.0		27	-289	
134-290	ⅣA-14(住)	甕	埋土	YN	HN, HK		YN	HN			14.5	18.2		輪積痕	121	-290	
135-291	ⅣA-14(住)	甕	埋土			HM, HK			HM, HN			5.0	7.8		129	-291	
135-292	ⅣA-14(住)	甕	床面			HK			HN			2.6	6.6		33	-292	
135-293	ⅣA-14(住)	甕	埋土			HK			HN, HM	木葉痕		4.7	8.8		28	-293	
135-294	ⅣA-14(住)	甕	埋土下部			HK			HN	木葉痕		5.5	7.2		34	-294	
135-295	ⅣA-14(住)	甕	埋土			HN			HN			4.05	7.5		29	-295	
135-296	ⅣA-14(住)	紡錘車	床面												別表参照	52	-296
135-297	欠番																
135-298	ⅣA-14(住)	鉄製品	埋土												別表参照	鉄36	-298
135-299	ⅣA-14(住)	鉄製品	埋土												別表参照	鉄37	-299
136-300	ⅣA-14(住)	石器	床面												別表参照	石14	-300
136-301	ⅣA-14(住)	石器	床面												別表参照	石16	-301
136-302	ⅣA-14(住)	石器	床面												別表参照	石15	-302
136-303	ⅣA-16(住)	甕	床面	YN	HK		YN	HN			7.4	3.2				45	-303
136-304	ⅣA-16(住)	甕	カマド	YN	HK		YN	HN, HK			17.8	6.5				43	-304
136-305	ⅣA-16(住)	甕	床面	YN	HK		YN	HN								193	-305
137-306	ⅣA-16(住)	甕	カマド	YN	HK, HN		YN	HN			22.0	19.0				55	-306
137-307	ⅣA-16(住)	甕	床面			HK, YN			HN			1.5	6.2			54	-307
137-308	ⅣA-16(住)	甕	床面			HK			HN	木葉痕		3.8	6.8			50	-308
137-309	ⅣA-16(住)	甕	床面			HK			HN	木葉痕		4.6	7.2			57	-309
137-310	ⅣA-16(住)	甕	カマド			HK	HK		HN	HN		9.0	7.0	輪積痕		48	-310
137-311	ⅣA-16(住)	甕	埋土			HK			HN			5.2	6.4	輪積痕		59	-311
138-312	ⅣA-16(住)	鉄製品	床面												別表参照	鉄1	-312
138-313	ⅣA-16(住)	鉄製品	埋土												別表参照	鉄19	-313
138-314	ⅣA-16(住)	鉄製品	床面												別表参照	鉄44	-314
138-315	ⅣA-16(住)	鉄製品	床面												別表参照	鉄45	-315
138-316	ⅣA-17(住)	小型甕	床面	YN	HN		YN	HN			12.2	5.9		輪積痕		156	-316
138-317	ⅣA-17(住)	甕	床面	YN	HK		YN	HN			20.0	7.7				164	-317
139-318	ⅣA-17(住)	甕	床面	YN	HN, HK		YN	HN			18.4	14.5		輪積痕		162	-318
139-319	ⅣA-17(住)	小型甕	床面	YN	HK		YN	HN			15.0	9.5		輪積痕		77	-319
139-320	ⅣA-17(住)	甕	床面	YN	HK		YN	HN			18.8	8.1		輪積痕		94	-320
139-321	ⅣA-17(住)	小型甕	床面	YN	HK		YN	HN			12.8	7.6				88	-321
139-322	ⅣA-17(住)	甕	床面	YN	HK, HN		YN	HN			20.0	5.5		輪積痕		9	-322
139-323	ⅣA-17(住)	甕	床面	YN	HK		YN	HN			21.1	6.0				165	-323
139-324	ⅣA-17(住)	甕	床面	YN	HK	HK	YN	HN	HN		13.2	15.9				95	-324
140-325a	ⅣA-17(住)	甕	カマド	YN	HK		YN	HN			20.5	4.3				160a	-325a
140-325b	ⅣA-17(住)	甕	床面			HK			HN			7.1	10.0			160b	-325b
140-326	ⅣA-17(住)	甕	カマド	YN	HK, HN		YN	HN						輪積痕		249	-326
140-327	ⅣA-17(住)	甕	カマド			HK			HN	木葉痕		2.0	8.0			159	-327
140-328	ⅣA-17(住)	甕	床面			HK			HN			2.8	9.1	輪積痕		167	-328
140-329	ⅣA-17(住)	甕	カマド	YN	HN	HK	YN	HN	HN		21.0	22.5	9.8	巻き上げ痕		91	-329
140-330	ⅣA-17(住)	甕	床面			HK			HN			8.0	7.3	輪積痕		157	-330
141-331	ⅣA-17(住)	甕	床面	YN	HK		YN	HN			24.2	10.3				169	-331
141-332	ⅣA-17(住)	甕	床面			HK	HK		HN	HN				輪積痕		106	-332
141-333	ⅣA-17(住)	甕	床面			HK			HN					輪積痕		93	-333
141-334	ⅣA-17(住)	甕	床面			HK			HN	木葉痕		2.6	9.0			166	-334

表12 駒焼場遺跡土器観察表(8)

YN-ヨコナデ、HN-ヘラナデ、HK-ヘラケズリ、HM-ヘラミガキ、RN-ロクロナデ、NK-ナデ状ケズリ、H-ハケメ

図版遺物番号	遺構名	器種	出土地点	外面調整			内面調整			底部 (外面)	法量 (cm)			備考	遺物番号	写真番号	
				口縁部	体部上半	体部下半	口縁部	体部上半	体部下半		口	器	底				
																	径
141-335	ⅣA-17(住)	甕	床面			HK			HM			3.5	12.0		80	-335	
141-336	ⅣA-17(住)	甕	床面			HK			HM	木葉痕		3.1	7.3		168	-336	
142-337	ⅣA-17(住)	甕	カマド		HK、HN			HN				9.2		輪積痕	148	-337	
142-338	ⅣA-17(住)	甕	埋土			HK、HN			HM			3.2	9.0		158	-338	
142-339	ⅣA-17(住)	甕	埋土	YN	HK		YN、HK	HN				20.4	8.7	輪積痕	163	-339	
142-340	ⅣA-17(住)	鉄製品	埋土											別表参照	鉄27	-40	
142-341	ⅣA-18(住)	小型土器	床面	HN	HN	HN	YN	HN	HN			3.6	5.2	2.6		8	-341
142-342	ⅣA-18(住)	小型甕	カマド	YN	HK	HK	YN	HN	HN			10.8	11.4	6.0		5	-342
142-343	ⅣA-18(住)	甕	カマド	YN	HN、HK		YN	HN				17.0	16.1		輪積痕	15	-343
143-344	ⅤA-1(住)	甕	床面	YN	HK		YN	HN				20.4	6.8			30	-344
143-345a	ⅤA-1(住)	甕	床面	YN	HK		YN	HN				20.4	10.3		輪積痕	34	-345a
143-345b	ⅤA-1(住)	甕	埋土			HK			HN			6.3	10.6			31	-345b
143-346	ⅤA-1(住)	甕	埋土		HK			HN				10.0				189	-346
143-347	ⅤA-1(住)	甕	埋土			HK			HN			3.4	8.7			187	-347
143-348	ⅤA-1(住)	甕	埋土	YN	HK	HK、HM	YN	HN	HN			19.9	22.2	11.2	輪積痕	25	-348
143-349	ⅤA-1(住)	須恵器彩色土器	埋土													514	-349
144-350	ⅤA-2(住)	甕	カマド	YN	HK、HN		YN	HN				11.8	10.0			143	-350
144-351	ⅤA-2(住)	甕	カマド	YN	HK、HN		YN	HN							別表参照	216	-351
144-352	ⅤA-3(住)	甕	カマド		HN			HN				6.5				151	-352
144-353	ⅤA-3(住)	鉄製品	埋土												別表参照	鉄7	-353
144-354	ⅤA-3(住)	鉄製品	埋土												別表参照	鉄8	-354
145-501	ⅡA-3土坑	小型土器	床面			HK						1.8	2.4			186	-501
145-502	ⅡA-3土坑	坏	床面						HM			1.9	7.5		ロクロ使用内黒	229	-502
145-503	ⅡA-3土坑	坏	床面			HM			HM			2.0	6.0		内黒	228	-503
145-504	ⅡA-3土坑	甕	埋土			HK						1.2	6.5			183	-504
145-505	ⅡA-3土坑	甕	埋土			HK			HN			2.6	6.0			184	-505
145-506	ⅡA-3土坑	甕	埋土	YN	HK		YN	HN								185	-506
145-507	ⅡA-5土坑	甕	埋土	YN、HN			YN									208	-507
145-508	ⅡA-5土坑	甕	埋土中部			HK						1.8	7.0			207	-508
145-509	ⅡA-5土坑	甕	埋土		HK			HN								206	-509
145-510	ⅡA-5土坑	甕	埋土		N	HK			HN	ヘラケズリ		3.3	7.5			205	-510
145-511	ⅡA-6土坑	小型甕	埋土	YN	HK		YN	HN								170	-511
145-512	ⅡA-6土坑	甕	埋土	YN	NK		YN	HN							輪積痕	169	-512
145-513	ⅡA-7土坑	甕	埋土	HN			HN									176	-513
145-514	ⅡA-7土坑	甕	埋土中部		NK			HN								175	-514
145-515	ⅡA-7土坑	甕	埋土中部	YN	HK		YN	HN								189	-515
146-516	ⅡA-9土坑	甕	埋土		HK			HN								203	-516
146-517	ⅡA-10土坑	小型甕	埋土			HK				木葉痕		1.6	5.2			192	-517
146-518	ⅡA-10土坑	鉄製品	埋土下部												別表参照	鉄37	-518
146-519	ⅡA-11土坑	坏	埋土					HM							ロクロ使用内黒	227	-519
146-520	ⅡA-12土坑	甕	埋土上部	YN	HK		YN	HN								190	-520
146-521	ⅢA-2土坑	坏	埋土	HM	HN、HM		HM	HM							内黒	219	-521
146-522	ⅢA-6土坑	甕	埋土上部	YN	HK、HM		YN	HN								191	-522
146-523	ⅢA-6土坑	甕	埋土			HK			HM、HN			2.6	7.6			179	-523
146-524	ⅢA-6土坑	甕	埋土		HK			HN				7.8			輪積痕	180	-524
147-525	ⅢA-7土坑	甕	埋土下部	HK				HN								182	-525
147-526	ⅢA-7土坑	甕	埋土上部		HK			HN、HK								181	-526
147-527	ⅢA-7土坑	石器	埋土	HM											別表参照	石6	-527

表13 駒焼場遺跡土器観察表(9)

YN-ヨコナテ, HN-ヘラナテ, HK-ヘラケズリ, HM-ヘラミガキ, RN-コクロナテ, NK-ナテケズリ, H-ハケメ

図版 遺物 番号	遺構名	器種	出土地点	外面調整			内面調整			底部 (外面)	法量 (cm)			備考	遺物 番号	写真 番号
				口 縁部	体 部上 半	体 部下 半	口 縁部	体 部上 半	体 部下 半		口 径	器 高	底 径			
147-528	ⅢA-16土坑	小型甕	埋土下部	YN	HK		YN	HN						114	-528	
147-529	ⅢA-16土坑	甕	埋土中部		HN, HK	HK		HN	HN		18.1	9.8	輪積痕	187 188	-529	
147-530	ⅢA-16土坑	小型甕	埋土中部	YN	HK	HK	YN	HN	HN		10.8	12.9	8.7	172 173	-530	
147-531	ⅢA-16土坑	鉄製品												別表参照	鉄4	-531
147-532	ⅢA-17土坑	甕	埋土上部	YN, HN	HK		YN	HN						199	-532	
147-533	ⅢA-17土坑	甕	埋土上部	YN	HK		YN	HN						177	-533	
148-534	ⅢA-19土坑	甕	埋土上部		HK			HN						204	-534	
148-535	ⅢA-19土坑	石器	埋土上部											別表参照	石3	-535
148-536	欠番															
148-537	ⅢA-28土坑	石器	埋土上部											別表参照	石12	-537
148-538	ⅢA-30土坑	青銅製品	底面											別表参照		-538
149-539	ⅢA-36土坑	環	埋土	HM	HN, HK		HM	HM			13.8	5.2		120	-539	
149-540	ⅢA-36土坑	甕	埋土	YN	HN, HK		YN	HN, HK						輪積痕	237	-540
149-541	ⅢA-36土坑	甕	埋土中部	YN	HK		YN	HN						234	-541	
149-542	ⅣA-2土坑	中髷形土器	埋土		HN, HM			HM			1.8			内外面黒色	99	-542
149-543	ⅣA-3土坑	環	埋土		HN			HM						内黒	247	-543
149-544	ⅣA-3土坑	紡錘車	埋土上部											150	-544	
149-545	ⅣA-4土坑	環	埋土			HN		HM						117	-545	
149-546	ⅣA-4土坑	甕	底面	YN	HN, HK		YN	HN						巻き上げ痕	226	-546
149-547	ⅣA-7土坑	甕	埋土		YN, HK			HN						227	-547	
150-548	ⅣA-8土坑	紡錘車	埋土											75	-548	
150-549	ⅣA-9土坑	環	埋土	HM	HN, HK		HM	HM			15.0	4.0		内黒	116	-549
150-550	ⅣA-9土坑	環	埋土	HM	HM		HM	HM			14.0	3.6		内外面黒色	108	-550
150-551	ⅣA-9土坑	環	埋土	YN	HK, HM		HM	HM				3.7		内黒	115	-551
150-552	ⅣA-9土坑	甕	埋土下部			HK			HK, HN	木葉痕	2.5	8.2		139	-552	
150-553	ⅣA-9土坑	甕	埋土			HK, HN			HN	木葉痕	3.0	8.2		149	-553	
150-554	欠番															
151-555	ⅣA-12土坑	甕	埋土上部			NK			HN					201	-555	
151-556	ⅣA-13土坑	甕	底面			HK			HN					208	-556	
151-557	ⅣA-16土坑	甕	埋土	YN	HK		YN	HK, HN						218	-557	
151-558	ⅣA-16土坑	鉄製品	埋土上部											別表参照	鉄11	-558
151-559	ⅣA-19土坑	環	埋土	HM	HM		HM	HM						内黒	215	-559
151-560	ⅣA-19土坑	甕	埋土			HN			HN	木葉痕	1.5	9.6		153	-560	
151-561	ⅣA-19土坑	甕	埋土		HM, HK			HM, HN						207	-561	
151-562	欠番															
151-563	ⅣA-24土坑	甕	埋土	HK	HK		YN	HN						237	-563	
151-564	ⅣA-28土坑	甕	埋土	YN	HN		YN	HM, HK						235	-564	
152-565	ⅣA-49土坑	甕	底面	YN	HM, HK	HM, HK	YN, KM	HN	HN		14.5	27.3	8.2	142	-565	
152-566	ⅣA-49土坑	石器	底面											別表参照	石20	-566
152-567	ⅣA-49土坑	石器	底面											別表参照	石19	-567
153-568	ⅤA-1土坑	甕	埋土		HN, HM			HN, HM						232	-568	
153-569	ⅤA-1土坑	環	埋土		HM			HM						192	-569	
154-701	ⅡA-101大溝跡	環	2地区埋土			HM, RN			HM	小髷形土器	3.0	5.3	埋土	231	-701	
154-702	ⅡA-101大溝跡	環	8地区埋土	HM	HK	HM	HM	HM	HM		11.3	2.4		内黒	233	-702
154-703	ⅡA-101大溝跡	環	3地区埋土					HM						土口使用	221	-703
154-704	ⅡA-101大溝跡	小型甕	6地区埋土	HK	HK	HK	HN	HN	HN		12.2	11.9	6.8	18	-704	
154-705	ⅡA-101大溝跡	甕	7地区埋土	YN	HK		YN	HN						102	-705	
154-706	ⅡA-101大溝跡	甕	3地区埋土	YN	HN, HK		YN	HN						輪積痕	195	-706

表14 駒焼場遺跡土器観察表(10)

Y N-ヨコナデ, H N-ヘラナデ, H K-ヘラケズリ, H M-ヘラミガキ, R N-ロクロナデ, N K-ナデ状ケズリ, H-ハケメ

図版遺物番号	遺構名	器種	出土地点	外面調整			内面調整			底部 (外面)	法量 (cm)			備考	遺物 番号	写真 番号
				口縁部	体部上半	体部下半	口縁部	体部上半	体部下半		口	器	底			
											深	高	径			
154-707	II A-101大溝跡	甕	5地区埋土	Y N	H K		Y N	H N							132	-707
154-708	II A-101大溝跡	甕	4地区埋土	Y N	H K, H N		Y N	H N							160	-708
154-709	II A-101大溝跡	甕	4地区埋土	Y N	H K		Y N	H N							156	-709
154-710	II A-101大溝跡	甕	埋土上部	Y N	H K		Y N	H N							104	-710
155-711	II A-101大溝跡	甕	7地区埋土	Y N	N K		Y N	H N					輪積痕		101	-711
155-712	II A-101大溝跡	甕	埋土中部	Y N	H K		Y N	H N							103	-712
155-713	II A-101大溝跡	甕	埋土上部	Y N	H K, H N		Y N	H N							159	-713
155-714	II A-101大溝跡	甕	2地区埋土最上部	Y N	H K		Y N	H N							85	-714
155-715	II A-101大溝跡	甕	6地区埋土上部	Y N	H K		H N	H N							127	-715
155-716	II A-101大溝跡	甕	埋土上部	Y N	H K		Y N	H N							82	-716
155-717	II A-101大溝跡	甕	6地区埋土上部	Y N			Y N								134	-717
155-718	II A-101大溝跡	甕	5地区埋土上部	Y N, H K			Y N, H N								129	-718
155-719	II A-101大溝跡	甕	6地区埋土上部	Y N	H K, H N		Y N	H N					輪積痕		158	-719
155-720	II A-101大溝跡	甕	3地区埋土	Y N	H K		Y N	H N							133	-720
155-721	II A-101大溝跡	甕	4地区埋土中部	Y N	H K		Y N	H N							131	-721
155-722	II A-101大溝跡	甕	埋土中部	Y N	H K		Y N	H N							60	-722
155-723	II A-101大溝跡	甕	2地区埋土上部	Y N	H K		Y N	H N					輪積痕		84	-723
155-724	II A-101大溝跡	甕	4地区埋土上部	H K	H K		H N	H N							161	-724
156-725	II A-101大溝跡	甕	9地区埋土	H K	H K		Y N	H N							128	-725
156-726	II A-101大溝跡	甕	4地区埋土上部	Y N			H N	H N							162	-726
156-727	II A-101大溝跡	甕	6地区埋土上部	Y N	H K		Y N	H N		木葉圧痕					157	-727
156-728	II A-101大溝跡	甕	埋土上部		H N, H K		Y N	H N					輪積痕		135	-728
156-729	II A-101大溝跡	甕	3地区埋土中部	Y N	H N		Y N	H N					輪積痕		130	-729
156-730	II A-101大溝跡	甕	2地区埋土上部	H K	H K		Y N	H N					輪積痕		83	-730
156-731	II A-101大溝跡	須恵器甕	2地区埋土上部		H K			H N			8.8				501	-731
156-732	II A-101大溝跡	須恵器甕	3地区埋土上部		H K			H N			13.7				502	-732
157-733	II A-101大溝跡	甕	埋土	Y N	H K		H M	H M							171	-733
157-734	II A-101大溝跡	甕	埋土		H K	H K		H N	H N		12.3	6.9			15	-734
157-735	II A-101大溝跡	須恵器甕	2地区埋土上部		H K			H N			10.3				503	-735
157-736	II A-101大溝跡	甕	3地区埋土			H K			H N		3.6	9.5			95	-736
157-737	II A-101大溝跡	甕	6地区埋土上部			H K			H N		2.6	10.9			100	-737
157-738	II A-101大溝跡	甕	8地区埋土上部			H K, H N			H N		4.6	10.0			32	-738
157-739	II A-101大溝跡	甕	埋土上部		H K	H K		H N	H N		16.5	10.2			80	-739
157-740	II A-101大溝跡	甕	埋土下部			H K			H N		3.8	10.8			141	-740
157-741	II A-101大溝跡	甕	4地区域土上部			H K			H N		4.1	9.0			142	-741
158-742	II A-101大溝跡	高環	埋土			H K, H N, H M			H N		3.3	5.9			137	-742
158-743	II A-101大溝跡	甕	2地区埋土			H K, H N			H N		1.8	7.4			86	-743
158-744	II A-101大溝跡	甕	3地区埋土			H K			H N		4.3	7.4			143	-744
158-745	II A-101大溝跡	甕	埋土上部			H N			H N		2.7	9.5			136	-745
158-746	II A-101大溝跡	甕	4地区埋土			H K			H N		3.8	8.1			99	-746
158-747	II A-101大溝跡	甕	4地区埋土			H K			H N	甕の壁面	2.0	9.4			96	-747
158-748	II A-101大溝跡	甕	2地区埋土			H K			H N		2.5	8.9			87	-748
158-749	II A-101大溝跡	甕	5地区埋土			H K			H N		2.4	9.0			98	-749
158-750	II A-101大溝跡	甕	埋土上部		H K	H K		H N	H N		7.6	8.1	輪積痕		17	-750
158-751	II A-101大溝跡	甕	3地区埋土		H K	H K		H N	H N	木葉痕	6.7	10.7	輪積痕		14	-751
159-752	II A-101大溝跡	須恵器環	埋土								12.6	4.5	ロクロ使用		230	-752
159-753	II A-101大溝跡	須恵器環	埋土								2.5	7.0	ロクロ使用		232	-753
159-754	II A-101大溝跡	須恵器壺	埋土		H K			H N							505	-754

表15 駒焼場遺跡土器観察表(11)

YN-ヨコナデ, HN-ヘラナデ, HK-ヘラケズリ, HM-ヘラミガキ, RN-ロクロナデ, NK-ナデ状ケズリ, H-ハケム

図版遺物番号	遺構名	器種	出土地点	土器分類	外面調整			内面調整			底部(外面)	法尺(cm)			備考	遺物番号	写真番号
					口縁部	体部上半	体部下半	口縁部	体部上半	体部下半		口	器高	底径			
159-755	IIA-101大溝跡	須恵器壺	埋土											ロクロ使用	512	-755	
159-756	IIA-101大溝跡	須恵器壺	埋土			HK								ロクロ使用	507	-756	
159-757	IIA-101大溝跡	須恵器壺	3地区埋土									7.1		ロクロ使用	13	-757	
159-758	IIA-101大溝跡	須恵器壺	埋土											ロクロ使用	509	-758	
159-759	IIA-101大溝跡	須恵器壺	埋土			HK								ロクロ使用	518	-759	
159-760	IIA-101大溝跡	須恵器壺	埋土			HK, HN								ロクロ使用	516	-760	
159-761	IIA-101大溝跡	鉄製品	埋土											別表参照	鉄3	-761	
159-762	IIA-101大溝跡	鉄製品	埋土											別表参照	鉄30	-762	
159-763	IIA-101大溝跡	鉄製品	埋土											別表参照	鉄52	-763	
159-764	IIA-101大溝跡	鉄製品	埋土											別表参照	鉄45	-764	
159-765	IIA-101大溝跡	鉄製品	埋土											別表参照	鉄25	-765	
159-766	IIA-101大溝跡	鉄製品	埋土											別表参照	鉄26	-766	
159-767	IIA-101大溝跡	鉄製品	埋土											別表参照	鉄46	-767	
160-768	IIA-101大溝跡	石器	埋土											別表参照	石15	-768	
160-769	IIA-101大溝跡	石器	埋土											別表参照	石13	-769	
160-770	IIA-101大溝跡	石器	埋土											別表参照	石14	-770	
160-771	IIA-101大溝跡	石器	埋土											別表参照	石18	-771	
160-772	IIA-101大溝跡	石器	埋土											別表参照	石21	-772	
161-773	IIA-102大溝跡	坏	埋土		HM			HM						内黒	218	-773	
161-774	IIA-102大溝跡	坏	埋土		HM			HM						内黒	211	-774	
161-775	IIA-102大溝跡	坏	埋土		HK			HM						内黒	213	-775	
161-776	IIA-102大溝跡	坏	埋土		HN, HK			HM							214	-776	
161-777	IIA-102大溝跡	坏	埋土		HM	HM		HM	HM		9.2	2.3			231	-777	
161-778	IIA-102大溝跡	坏	埋土		HM			HM						ロクロ使用	216	-778	
161-779	IIA-102大溝跡	坏	埋土		HM			HM							217	-779	
161-780	IIA-102大溝跡	坏	埋土		HM	HM		HM	HM		9.6	2.5			238	-780	
161-781	IIA-102大溝跡	坏	埋土		HM			HM						内外黒	212	-781	
161-782	IIA-102大溝跡	坏	埋土		HM	HM		HM	HM		16.0	3.6		内黒	240	-782	
161-783	IIA-102大溝跡	坏	埋土		HM		HK					1.3	5.8	ロクロ使用内黒	241	-783	
161-784	IIA-102大溝跡	高坏	埋土				HM		HM			2.4		内黒	242	-784	
161-785	IIA-102大溝跡	坏	埋土				HK		HM	HK		1.1	8.0	ロクロ使用	223	-785	
161-786	IIA-102大溝跡	小型土器	埋土				HN		HN			2.6	2.4		155	-786	
161-787	IIA-102大溝跡	小型土器	埋土		YN	HK	HK	YN	HN	HN		5.4	4.1	3.7		4	-787
161-788	IIA-102大溝跡	小型土器	埋土		YN	HK, HN	HN	YN	HN	HN		7.7	6.7	6.9	輪積痕	3	-788
161-789	IIA-102大溝跡	甗	埋土		YN	YN		YN	HN						178	-789	
161-790	IIA-102大溝跡	甗	埋土		YN	HN		YN	HN		19.6	5.6			9	-790	
162-791	IIA-102大溝跡	甗	6地区埋土下部		YN, NK			HN							120	-791	
162-792	IIA-102大溝跡	甗	埋土		NK	HM		HM	HM						144	-792	
162-793	IIA-102大溝跡	甗	1地区埋土		HK, HN	HK		YN	HN						111	-793	
162-794	IIA-102大溝跡	甗	1地区埋土		HK, HN	NK		YN	HN					輪積痕	110	-794	
162-795	IIA-102大溝跡	甗	8地区埋土		YN	HK		YN	HN						148	-795	
162-796	IIA-102大溝跡	甗	埋土		HK			HN, HK							146	-796	
162-797	IIA-102大溝跡	甗	5地区埋土		YN	HK		HN, HK	HN						125	-797	
162-798	IIA-102大溝跡	甗	8地区埋土上部		HK	HK		HN	HN						147	-798	
162-799	IIA-102大溝跡	甗	5地区埋土		YN	NK		YN	HN						124	-799	
162-800	IIA-102大溝跡	甗	8地区埋土上部		YN	HK		YN	HN						166	-800	
162-801	IIA-102大溝跡	甗	8地区埋土上部		YN	HK		YN	HN					輪積痕	149	-801	
163-802	IIA-102大溝跡	甗	8地区埋土下部		YN			YN							151	-802	

表16 駒焼場遺跡土器観察表(12)

Y N-ヨコナデ、HN-ヘラナデ、HK-ヘラケズリ、HM-ヘラミガキ、RN-ロクロナデ、NK-ナデ状ケズリ-H-ハケメ

図版遺物番号	遺物名	器種	出土地点	外面調整			内面調整			底部 (外面)	法犯 (cm)			備考	遺物番号	写真番号
				口縁部	体部上半	体部下半	口縁部	体部上半	体部下半		口	器	底			
163-803	II A-102大溝跡	甕	5地区埋土上部	YN	HK		YN	HN						126	-803	
163-804	II A-102大溝跡	甕	7地区埋土上部	HK, HM	HM		HN, HM	HM						123	-804	
163-805	II A-102大溝跡	甕	2、3地区埋土	YN	HN		YN	HM						121	-805	
163-806	II A-102大溝跡	甕	8地区埋土中部	YN	HK		YN	HN					輪積痕	196	-806	
163-807	II A-102大溝跡	甕	7地区埋土上部	YN	HN		YN	HN					輪積痕	150	-807	
163-808	II A-102大溝跡	甕	7地区埋土上部	HK	HK		YN, HK	HN						122	-808	
163-809	II A-102大溝跡	甕	8地区埋土下部	YN	HK		YN	HN						117	-809	
163-810	II A-102大溝跡	甕	埋土	HK	HK		YN	HN						145	-810	
163-811	II A-102大溝跡	甕	7地区埋土上部			HK		HN			4.7	7.4		108	-811	
163-812	II A-102大溝跡	甕	5地区埋土上部	YN	HK		YN	HN					輪積痕	168	-812	
163-813	II A-102大溝跡	甕	2地区埋土			HN		HN			3.8	9.4		109	-813	
164-814	II A-102大溝跡	甕	埋土上部	YN	HK		YN	HN			10.8	7.8		35	-814	
164-815	II A-102大溝跡	甕	埋土			HK		HN			1.5	4.8		93	-815	
164-816	II A-102大溝跡	甕	埋土			HK		HN			3.0	7.0		107	-816	
164-817	II A-102大溝跡	甕	5地区埋土			HN		HN			2.4	7.0		92	-817	
164-818	II A-102大溝跡	甕	4地区埋土			HK		HN			2.8	5.2		140	-818	
164-819	II A-102大溝跡	甕	6地区埋土上部			HK, HN					1.8	9.8		97	-819	
164-820	II A-102大溝跡	甕	3地区埋土		HK	HK		HN	HN	笹の葉痕	6.5	9.4		19	-820	
164-821	II A-102大溝跡	甕	8地区埋土上部			HN		HN		木葉痕	1.8	7.5		139	-821	
164-822	II A-102大溝跡	甕	埋土			HN					1.2	10.2		94	-822	
164-823	II A-102大溝跡	甕	8地区埋土			HN		HN			2.7	9.6		138	-823	
164-824	II A-102大溝跡	甕	埋土		HK	HK		HN	HN		12.1	8.7		16	-824	
165-825	II A-102大溝跡	須恵器甕	1地区埋土											518	-825	
165-826	II A-102大溝跡	須恵器甕	埋土											516	-826	
165-827	II A-102大溝跡	須恵器甕	1地区埋土											517	-827	
165-828	欠番															
165-829	II A-102大溝跡	羽口	8地区埋土最下部											10	-829	
165-830	II A-102大溝跡	鉄製品	5地区埋土下部										別表参照	鉄5	-830	
165-831	II A-102大溝跡	鉄製品	2地区埋土										別表参照	鉄15	-831	
165-832	II A-102大溝跡	鉄製品	埋土										別表参照	鉄40	-832	
165-833	II A-102大溝跡	鉄製品	4地区埋土										別表参照	鉄17	-833	
165-834	II A-102大溝跡	石器	2地区埋土										別表参照	石4	-834	
166-835	II A-102大溝跡	石器	2地区埋土										別表参照	石16	-835	
166-836	II A-102大溝跡	石器	2地区埋土										別表参照	石17	-836	
166-837	II A-102大溝跡	石器	2地区埋土										別表参照	石5	-837	
166-838	II A-102大溝跡	石器	2地区埋土										別表参照	石11	-838	
166-839	II A-102大溝跡	石器	2地区埋土										別表参照	石10	-839	
166-840	II A-102大溝跡	石器	埋土										別表参照	石9	-840	
166-841	II A-102大溝跡	石器	2地区埋土										別表参照	石8	-841	
167-842	II A-102大溝跡	石器	2地区埋土										別表参照	石22	-842	
168-843	III A-101大溝跡	甕	埋土下部	YN	HK	HK, HN	YN	HN	HN	木葉痕			輪積痕	4	-843	
168-844	III A-101大溝跡	把手付土器	埋土上部		HK	HK					3.2	5.2		76	-844	
168-845	III A-101大溝跡	甕	埋土			HK		HN			2.6	6.5		170	-845	
168-846	III A-101大溝跡	甕	埋土	YN	HK	HK	YN	HN	HN		16.8	24.6		180	-846	
169-847	III A-101大溝跡	石器	埋土										別表参照	石22	-847	
169-848	IV A-101大溝跡	須恵系坏	埋土							回転糸切痕	14.5	5.0	6.6	ロクロ使用	72	-848
170-849	IV A-101大溝跡	甕	埋土								14.7	15.0	9.6	ロクロ使用	6ab	-849
170-850	IV A-101大溝跡	甕	埋土	YN	HK		YN	HN			11.0	5.1		181	-850	

表17 駒焼場遺跡土器観察表(13)

YN=ヨコナデ、HN=ヘラナデ、HK=ヘラケズリ、HM=ヘラミガキ、RN=ロタロナデ、NK=ナデケズリ、H=ハケメ

河版遺物番号	遺構名	器種	出土地点	土器分類	外面調整			内面調整			底部			備考	遺物番号	写真番号			
					口縁部	体部上半	体部下半	口縁部	体部上半	体部下半	口	器	底				法量 (cm)		
																	径	高	径
170-851	ⅣA-101大溝跡	甕	埋土	YN	HK		YN	HN				16.6	5.7		184	-851			
170-852	ⅣA-101大溝跡	甕	埋土	YN	HK、NK		YN	HN				16.0	7.2	輪積痕	174	-852			
170-853	ⅣA-101大溝跡	甕		YN	HK		YN	HN				17.2	6.6		183	-853			
170-854	ⅣA-101大溝跡	甕	埋土	HK	HK、HN		HN	HN							233	-854			
170-855	ⅣA-101大溝跡	須恵器壺	埋土		HK							8.7		ロクロ使用	186	-855			
170-856	ⅣA-101大溝跡	甕	埋土			HK		HN				2.2	5.4		179	-856			
170-857	ⅣA-101大溝跡	甕	埋土			HK		HN				2.7	8.1		178	-857			
170-858	ⅣA-101大溝跡	甕	埋土			HN		HM				1.2	7.0	内黒	185	-858			
170-859	ⅣA-101大溝跡	甕	埋土			HK		HN				2.6	7.7		170	-859			
170-860	ⅣA-101大溝跡	甕	埋土			HK		HN				5.3	11.1		171	-860			
170-861	ⅣA-101大溝跡	甕	埋土			HK、HN		HN				6.0	8.4		177	-861			
170-862	ⅣA-101大溝跡	甕	埋土			HN		HK	木葉痕			1.8	5.6		175	-862			
171-863	ⅣA-101大溝跡	鉄製品	埋土											別表参照	鉄3	-863			
171-864	ⅣA-101大溝跡	鉄製品	埋土											別表参照	鉄7	-864			
171-865	ⅣA-101大溝跡	鉄製品	埋土											別表参照	鉄10	-865			
171-866	ⅣA-101大溝跡	鉄製品	埋土											別表参照	鉄9	-866			
171-867	ⅣA-101大溝跡	鉄製品	埋土											別表参照	鉄38	-867			
171-868	ⅣA-101大溝跡	鉄製品	埋土											別表参照	鉄39	-868			
171-869	ⅣA-101大溝跡	鉄製品	埋土下部											別表参照	鉄40	-869			
171-870	ⅣA-101大溝跡	鉄製品	埋土最下部											別表参照	鉄5	-870			
171-871	ⅣA-101大溝跡	鉄製品	埋土最上部											別表参照	鉄6	-871			
171-872	ⅣA-101大溝跡	石器	埋土中部											別表参照	石21	-872			
171-873	ⅣA-102溝跡	甕	埋土最下部	YN	NK	NK	YN	HN	HN			14.2	14.6	7.2	輪積痕	173	-873		
171-874	ⅣA-一方形	環	埋土	HM			HM								内黒	246	-874		
171-875	ⅣA-一方形	甕	埋土			HK			HN			2.3	6.6		182	-875			
172-901	遺構外	縄文	ⅣA-14(住)北												950	-901			
172-902	遺構外	縄文	ⅣA-14(住)Q2埋土下部												951	-902			
172-903	遺構外	縄文	ⅢA-7P埋土												705	-903			
172-904	遺構外	縄文	ⅡA-102溝跡												706	-904			
172-905	遺構外	縄文	外												945	-905			
172-906	遺構外	縄文	ⅡA-101大溝埋土												704	-906			
172-907	遺構外	縄文	ⅣA-101溝跡No.1埋土上部												702	-907			
172-908	遺構外	縄文	ⅢA-26P Q1埋土上部												701	-908			
172-909	遺構外	縄文	ⅢA-26P Q3埋土												703	-909			
172-910	遺構外	縄文	ⅣA-13(住)Q3埋土最上部												949 a	-910			
172-911	遺構外	縄文	ⅣA-15(住)付近												949 b	-911			
172-912	遺構外	縄文	ⅡA-101溝跡No.2埋土(上)												708	-912			
172-913	遺構外	縄文	ⅡA-101溝跡												710	-913			
172-914	遺構外	縄文	Ⅱ-1P埋土(中)												707	-914			
172-915	遺構外	縄文	ⅡA-101溝跡埋土中												711	-915			
172-916	遺構外	縄文	ⅡA-102溝跡埋土上No.6												712	-916			
172-917	遺構外	縄文	ⅢA-6P埋土												923	-917			
172-918	遺構外	縄文	ⅣA-8(住)Q3埋土上部												947	-918			
173-919	遺構外	縄文	ⅡA-102溝跡									9.6	6.5		902	-919			
173-920	遺構外	縄文	Ⅳ5-9 a-d表土												924	-920			
173-921	遺構外	縄文	ⅣA-6(住)Q2埋土上部									15.7	5.5		946	-921			
173-922	遺構外	縄文	ⅣA-15(住)Q3埋土最上部									16.5			941	-922			
173-923	遺構外	縄文	ⅣA-8(住)北側外									28.6	20.8		942	-923			

表18 駒焼場遺跡土器観察表(14)

YN-ヨコナデ、HN-ヘラナデ、HK-ヘラケズリ、HM-ヘラミガキ、RN-ロクロナデ、NK-ナデ状ケズリ、H-ハケメ

図版遺物番号	遺構名	器種	出土地点	土器分類	外面調整			内面調整			底部(外面)	法皿(cm)			備考	遺物番号	写真番号		
					口縁部	体部上半	体部下半	口縁部	体部上半	体部下半		口	器	底					
																		径	高
173-924	遺構外	縄文	IIA-102溝No.8埋土中6層												927	-924			
173-925	遺構外	縄文													948	-925			
173-926	遺構外	縄文	IVA-10(注)南段近くIV層									0.5	5.8		943	-926			
173-927	遺構外	縄文										2.8	6.0		913	-927			
173-928	遺構外	縄文	IVA-15(注)埋土上部Q2外									2.4	7.0		944	-928			
173-929	遺構外	縄文										2.2	10.0		928	-929			
174-930	遺構外	坏	VA-3e表土Q4		HM			HM			14.8	3.0			256	-930			
174-931	遺構外	甕	VA-12(注)北側	YN	HM			HN	HN				9.3		113	-931			
174-932	遺構外	甕	IIIAf盛土	YN				YN			18.4	3.5			258	-932			
174-933	遺構外	高坏	VAof表土			HM, HN			HN, HM			2.2	6.2		7	-933			
174-934	遺構外	坏	IIIA区遺構外								12.3	3.9		ロクロ使用	262	-934			
174-935	遺構外	甕	VA-3e表土	YN	HK			YN	HN		15.4	3.6			252	-935			
174-936	遺構外	甕	III-5iQ	YN	HN, HK	HK		YN	HN	HN	12.0	11.2	7.2		5	-936			
174-937	遺構外	甕	IIIA5i表土	YN	HK			YN	HN		8.4	4.3		輪痕	254	-937			
174-938	遺構外	甕	VA-2bQ3II層	YN	HK			YN	HN		14.6	5.1		輪痕	260	-938			
174-939	遺構外	甕	IIICa3表土	YN	HK			YN	HN		15.6	8.0			250	-939			
174-940	遺構外	甕		YN	HK				HN						231	-940			
174-941	遺構外	甕		YN	HK			YN	HN						236	-941			
174-942	遺構外	甕	VA-of表土	YN	HK			YN	HN						39	-942			
174-943	遺構外	甕			HK				HN			4.8			188	-943			
175-944	遺構外	小型土器	VA-5~9-a-d表土			HK			HN		1.9	3.5			259	-944			
175-945	遺構外	坏				HK			HM		1.5	3.2			44	-945			
175-946	遺構外	甕	VA-8(注)付近			HK			HN		1.9	5.6			47	-946			
175-947	遺構外	甕	VA3-9a-d表土			HK			HM		2.4	6.2			253	-947			
175-948	遺構外	甕	粗堀			HK			NH	木葉痕	1.9	3.5			261	-948			
175-949	遺構外	甕	IIA-9e			HK			HN	木葉痕	2.3	7.2			255	-949			
175-950	遺構外	甕	IIf-7			HK			HN		4.3	5.6			28	-950			
175-951	遺構外	甕	VA-3e表土			HK, HN			HN		3.6	7.3			257	-951			
175-952	遺構外	甕	III f			HK, HN			HN		2.9	8.8			251	-952			
175-953	遺構外	把手付土器	VA-10I溝		HK, HN				HN		4.0				11	-953			
175-954	遺構外	壺	IIA-8b		HM	HM								回転糸切痕	10.7	4.5	ロクロ使用	8	-954
175-955	遺構外	須恵器甕	II O 9 b表土												515	-955			
175-956	遺構外	須恵器甕													264	-956			
175-957	遺構外	須恵器甕													263	-957			
175-958	遺構外	須恵器	IIIA区											ロクロ使用	510	-958			
175-959	遺構外	鉄製品												別表参照	鉄9	-959			
175-960	遺構外	鉄製品	南端東側盛土											別表参照	鉄41	-960			
175-961	遺構外	鉄製品												別表参照	鉄10	-961			
175-962	遺構外	鉄製品	IIIA Og表土											別表参照	鉄29	-962			
176-963	遺構外	鉄製品												別表参照	鉄8	-963			
176-964	遺構外	鉄製品	IIIA-5fQ3											別表参照	鉄29	-964			
176-965	遺構外	鉄製品	VA-7gQ3II層											別表参照	鉄13	-965			
176-966	遺構外	鉄製品	VA-6C表土											別表参照	鉄18	-966			
176-967	遺構外	鉄製品	IIIA区北側表土											別表参照	鉄33	-967			
176-968	遺構外	鉄製品	VA-ofQ2II層											別表参照	鉄35	-968			
176-969	遺構外	鉄製品												別表参照	鉄18	-969			
176-970	遺構外	鉄製品	IIIA区北側表土											別表参照	鉄31	-970			
176-971	遺構外	鉄製品	IIIA区北側表土											別表参照	鉄32	-971			

表19 駒焼場遺跡土器観察表(15)

YN-ヨコナテ、HN-ヘラナテ、HK-ヘラケズリ、HM-ヘラミガキ、RN-ロクロナテ、NK-ナテ状ケズリ、H-ハケメ

図版遺物番号	遺構名	器種	出土地点	土器分類	外面調整			内面調整			底部 (外面)	法量 (cm)			備考 参	遺物番号	写真番号
					口縁部	体部上半	体部下半	口縁部	体部上半	体部下半		口	器	底			
176-972	遺構外	鉄製品	VA-01G2II層												別表参照	鉄34	-972
176-973	遺構外	鉄製品	Ⅳ区5-9a~破土												別表参照	鉄35	-973
176-974	遺構外	石器	ⅣA-16(住)外												別表参照	石26	-974
176-975	遺構外	石器	ⅣA-13(住)外												別表参照	石25	-975
176-976	遺構外	石器													別表参照	石29	-976
176-977	遺構外	石器													別表参照	石27	-977
176-978	遺構外	石器													別表参照	石28	-978
176-979	遺構外	石器													別表参照	石23	-979
177-980	遺構外	石器	ⅣA-2C表土												別表参照	石1	-980
177-981	遺構外	石器	ⅣA-10(住)近く												別表参照	石6	-981
177-982	遺構外	石器	ⅣA-10(住)北壁近												別表参照	石24	-982
177-983	遺構外	古銭													別表参照		-983

表20：紡錘車計測一覧表

図版遺物番号	出土地点	層位	調整	上面径 (cm)	下面径 (cm)	内孔径 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	備考	遺物番号	写真遺物番号
98-8	IIA-2 (住)	床面	HN・HM	4.1	4.4	0.8~1.1	3.4	28		12	8
135-296	ⅣA-14(住)	床面	HN・HM・HK	4.1	5.6	0.8~0.9	2.9	80		52	296
149-544	ⅣA-3土坑	埋土上部	HM	4.1	5.7	0.7~0.8	1.9	21		150	544
150-548	ⅣA-8土坑	埋土	HN・HM・HK	3.9	5.0	0.8~1.0	2.0	40		75	548

表21：鞆羽口計測一覧表

図版遺物番号	出土地点	層位	現存長 (cm)	外径 (cm)	内孔径 (cm)	備考	遺物番号	写真図版番号
120-190	ⅣA-6 (住)	カマド	10.6	5.8	2.1		190	190
132-276 a	ⅣA-13 (住)	埋土下部	7.9	7.4(推定)	3.6		191 a	276 a
132-276 b	ⅣA-13 (住)	埋土下部	6.5	8.1(推定)	2.6(推定)		191 b	276 b
165-829	IIA-102大溝跡	8地区 埋土最下部	6.3	5.6(推定)	2.2(推定)		10	829

表22：貨幣計測一覧表

図版遺物番号	出土地点	層位	銭名	測定値						重量 (g)	備考	遺物番号	写真図版番号
				外径 (cm)	外縁幅 (cm)	外縁厚 (cm)	内郭幅 (cm)	孔幅 (cm)	内郭厚 (cm)				
177-983	遺構外		寛永通寶	2.45	0.22	0.12	0.12	0.63	0.12	3.65			983

表23 駒焼場遺跡鉄製品計測表一覧表(1)

図版遺物番号	出土地点	層位	器種	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	備考	登録番号	写真図版番号
98-2	II A-1 (住)	床面No 2	手鎌	8.2	1.5	0.8	右の目釘が遺存している 目釘式	20	2
98-3	II A-1 (住)	床面No 3	刀子	15.7	2.1	0.9		6	3
98-4	II A-1 (住)	床面No 3	手鎌	8.9	2.0	0.8	左右土端を折り返している 装着式	38	4
101-39	III A-3 (住)	埋土	刀子 2点	5.8	2.4	1.7		14	39
101-40	III A-3 (住)	埋土	鉄鎌	12.9	0.8	0.8		13	40
102-47	III A-4 (住)	埋土	刀子	8.8	1.6	0.8		16	47
103-53	III A-5 (住)	カマド 脇埋土	不明	3.9	1.4	1.4		47	53
104-58	III A-6 (住)	床面	鎌	15.8	2.7	0.5		1	58
104-61	III A-6 (住)	床面	手鎌	7.9	1.8	0.3	目釘式	2	61
104-62	III A-6 (住)	床面	鉄鎌	13.2	10.0	10.0		55	62
104-63	III A-6 (住)	床面	鉄鎌	14.0	1.1	0.9		54	63
104-64	III A-6 (住)	床面	鉄鎌	14.0	10.0	0.9		53	64
105-69	III A-7 (住)	Q ₃ 埋土	不明	3.0	0.7	0.6		21	69
105-75	III A-8 (住)	床面	鈴	4.5	4.1	4.0		43	75
105-76	III A-8 (住)	埋土上部	手鎌	4.4	2.1	0.4		42	76
113-133	IV A-3 (住)	床面	手鎌	5.4	2.6	0.2		25	133
113-134	IV A-3 (住)	埋土	刀子	3.0	0.9	0.5		26	134
113-135	IV A-3 (住)	埋土	釘	2.95	0.45	0.4		28	135
113-136	IV A-3 (住)	床面	鎌	17.9	2.4	0.4		2	136
116-161	IV A-5 (住)	ベルト 埋土	手鎌	3.1	2.1	1.1		41	161
116-162	IV A-5 (住)	Q ₃ 埋土 中部	不明	2.23	1.35	0.9		42	162
117-163	IV A-5 (住)	Q ₁ 埋土 下部	雁股鎌	11.1	4.0	1.0		4	163
117-164	IV A-5 (住)	床面	鉄鎌	5.4	1.4	0.9	茎の一部	14	164
119-187	IV A-6 (住)	Q ₃ 埋土 中部	釘	4.8	0.4	0.4		22	187
119-188	IV A-6 (住)	Q ₁ 埋土 中部	刀子	5.5	1.3	0.6		15	188
119-189	IV A-6 (住)	Q ₃ 埋土 中部	鉄鎌	9.7	0.9	0.9		12	189

表24 駒焼場遺跡鉄製品計測表一覽表(2)

図版遺物番号	出土地点	層位	器種	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	備考	登録番号	写真図版番号
123-209	ⅥA-7(住)	堀り方埋土	紡錘車	20.3	5.95	0.5		3	209
126-230	ⅣA-8(住)	Q ₂ 埋土下部	釘	2.2	0.7	0.6		24	230
129-258	ⅣA-12(住)	埋土	釘	4.3	0.8	0.7		20	258
129-259	ⅣA-12(住)	埋土	釘	3.6	0.5	0.4		21	259
131-269	ⅣA-13(住)	埋土	釘	3.8	1.0	0.8	南壁側近く	23	269
131-270	ⅣA-13(住)	Q ₁ 埋土上部	釘	3.9	0.8	0.75		17	270
131-271	ⅣA-13(住)	埋土	釘	4.6	6.5	0.6		16	271
135-298	ⅣA-14(住)	Q ₄ 埋土上部	不明	3.5	1.5	0.9		36	298
135-299	ⅣA-14(住)	Q ₄ 埋土上部	不明	1.7	1.3	0.2		37	299
138-312	ⅣA-16(住)	床面	用途不明	23.8	7.3	3.0		1	312
138-313	ⅣA-16(住)	埋土下部	刀子	4.3	1.2	0.7	カマド脇	19	313
138-314	ⅣA-16(住)	床面	不明	2.3	0.9	0.8		44	314
138-315	ⅣA-16(住)	床面	不明	1.7	0.7	0.8		45	315
142-340	ⅣA-17(住)	Q ₂ 埋土	刀子	1.9	0.7	0.6		27	340
144-353	ⅤA-3(住)	埋土上部	鉄鏃	15.8	1.1	1.0	茎先端欠損	7	353
144-354	ⅤA-3(住)	Q ₁ 埋土上部	鉄鏃	11.2	1.35	1.1	茎先端欠損	8	354
146-518	ⅡA-10土坑	埋土下部	鉄鏃	8.9	0.8	0.5		37	518
147-531	ⅢA-16土坑		刀子	15.3	1.5	0.3		4	531
151-558	ⅣA-16土坑	埋土下部	鉄鏃	10.5	0.7	0.4		11	558
159-761	ⅡA-101大溝	埋土	釘	8.3	1.3	1.2		36	761
159-762	ⅡA-101大溝	埋土	手斧	7.5	3.2	2.6		39	762
159-763	ⅡA-101大溝	埋土	管状	1.7	1.4	1.5		52	763
159-764	ⅡA-101大溝	埋土	刀子	9.3	1.3	0.5		45	764
159-765	ⅡA-101大溝	埋土	刀子	8.3	1.9	0.6		25	765
159-766	ⅡA-101大溝	埋土	鉄鏃	5.9	1.0	0.8		26	766
159-767	ⅡA-101大溝	埋土	不明	8.1	1.0	0.9		46	767

表25 駒焼場遺跡鉄製品計測表一覽表(3)

図版遺物番号	出土地点	層位	器種	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	備考	登録番号	写真図版番号
165-830	II A-102大溝	埋土	鉄鏃	6.1	2.1	0.5		5	830
165-831	II A-102大溝	埋土	鉄鏃	9.8	1.0	0.5		15	831
165-832	II A-102大溝	埋土	不明	5.1	3.6	0.4		40	832
165-833	II A-102大溝	埋土	刀子	6.1	0.8	0.5		17	833
171-863	IV A-101大溝	埋土上部	刀子	10.6	1.7	0.4		3	863
171-864	IV A-101大溝	埋土上部	鉄鏃	12.0	2.4	0.5		7	864
171-865	IV A-101大溝	埋土最上部	鉄鏃	7.2	1.6	1.2		10	865
171-866	IV A-101大溝	埋土最上部	鉄鏃	6.85	1.3	1.0		9	866
171-867	IV A-101大溝	埋土下部	手鎌	5.3	2.1	0.35		38	867
171-868	IV A-101大溝	埋土下部	手鎌	2.95	1.7	0.3		39	868
171-869	IV A-101大溝	埋土下部	手鎌	2.3	1.7	0.2		40	869
171-870	IV A-101大溝	埋土最下部	鉄鏃	14.1	1.0	0.7		5	870
171-871	IV A-101大溝	埋土最上部	雁股鉄鏃	11.2	4.2	1.0		6	871
175-959	遺構外		刀子	14.8	2.6	0.5	目釘孔	9	959
175-960	遺構外		刀子	15.2	0.5	0.7		41	960
175-961	遺構外		鉄鏃	14.4	1.7	0.6		10	961
175-962	遺構外		環	4.1	4.2	1.2		29	962
176-963	遺構外		手鎌	9.8	1.9	0.4		8	963
176-964	遺構外		手鎌	4.2	2.15	0.7		29	964
176-965	遺構外		鉄鏃	10.6	0.9	0.9		13	965
176-966	遺構外		釘	5.1	0.9	0.9		18	966
176-967	遺構外	表土	釘	4.6	0.8	0.6		33	967
176-968	遺構外		不明	2.7	0.3	0.3		35	968
176-969	遺構外		釘	3.5	1.1	0.3		18	969
176-970	遺構外	表土	釘	4.3	0.9	0.7		31	970
176-970	遺構外	表土	釘	4.0	0.8	0.6		32	971

表26 駒焼場遺跡鉄製品計測表一覽表(4)

図版遺物番号	遺構名	出土地点	器種	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	備考	登録番号	写真図版番号
176-972	遺構外	Q ₂ II層	釘	4.1	0.8	0.7		34	972
176-973	遺構外	Q ₂ II層	不明	2.7	0.3	0.3		35	973

表27 青銅製品計測一覽表

図面遺物番号	出土地点	層位	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	備考	遺物番号	写真図版番号
148-538	III A-30土坑	底面	5.2	6.9	0.01	鑑定済		538

表28 炭化材樹種一覽表(1)

No	遺構名	樹種名	備考	No	遺構名	樹種名	備考	No	遺構名	樹種名	備考
1	III A-3 (住)	クリ		14	III A-6 (住) No. 12	カヤ		27	III A-9 (住) No. 3	クリ・朴	
2	III A-4 (住)	ケヤキ、 クリ		15	III A-6 (住) No. 13	ナラ	弓状 木製品	28	III A-9 (住) No. 4	クリ	
3	III A-6 (住) No. 1	カヤ、 (ススキ)		16	III A-6 (住) No. 14	ナラ		29	III A-9 (住) No. 5	クリ	
4	III A-6 (住) No. 2	クリ		17	III A-6 (住) No. 15	クリ		30	III A-9 (住) No. 6	クリ・ 紫式部	
5	III A-6 (住) No. 3	カヤ、 (ススキ)		18	III A-6 (住) No. 16	クリ		31	III A-9 (住) No. 7	スギ	
6	III A-6 (住) No. 4	クリ		19	III A-6 (住) No. 17	紫式部、カ ヤ、ケヤキ、 広葉樹		32	III A-9 (住) No. 8	クリ、 カヤ	
7	III A-6 (住) No. 5	ソネ		20	III A-6 (住) No. 18	広葉樹、カ ヤ、スギ、 ケヤキ		33	III A-9 (住) No. 9	クリ	
8	III A-6 (住) No. 6	カヤ		21	III A-6 (住) No. 19	クリ		34	III A-9 (住) No. 10	クリ	
9	III A-6 (住) No. 7	ナラ	棒状 木製品	22	III A-6 (住) No. 20	カヤ		35	III A-9 (住) No. 11	クリ	
10	III A-6 (住) No. 8	カヤ		23	III A-6 (住) カマド内	コナラ の実		36	III A-19 (住) No. 1	クリ	
11	III A-6 (住) No. 9	カヤ、 クリ		24	III A-8 (住) No. 1	クリ		37	III A-19 (住) No. 2	クリ	
12	III A-6 (住) No. 10	クリ		25	III A-9 (住) No. 1	紫式部、ク リ、カヤ		38	III A-19 (住) No. 3	クリ	
13	III A-6 (住) No. 11	クリ		26	III A-9 (住) No. 2	クリ		39	III A-19 (住) No. 4	クリ	

表29 炭化材樹種一覽表(2)

No	遺構名	樹種名	備考	No	遺構名	樹種名	備考	No	遺構名	樹種名	
40	III A-19(住) No. 5	クリ		63	IV A-4(住) No. 4	カヤ		86	VI A-13(住) No. 9	ケヤキ	
41	III A-19(住) No. 6	クリ		64	IV A-6(住) No. 1	クリ		87	VI A-13(住) No. 10	ケヤキ	
42	III A-19(住) No. 7	クリ		65	IV A-7(住) No. 1	針葉樹		88	VI A-13(住) No. 11	不明	
43	III A-19(住) No. 8	クリ		66	IV A-7(住) No. 2	カヤ		89	VI A-13(住) No. 12	ケヤキ	
44	III A-19(住) No. 9	クリ		67	IV A-7(住) No. 3	カヤ		90	VI A-13(住) No. 13	ケヤキ	
45	III A-19(住) No. 10	クリ		68	IV A-7(住) No. 4	クリ		91	VI A-13(住) No. 14	タモ	
46	III A-19(住) No. 11	クリ		69	IV A-7(住) No. 5	カヤ		92	VI A-13(住) No. 15	クリ	
47	III A-19(住) No. 12	クリ		70	IV A-7(住) No. 6	クリ		93	VI A-13(住) No. 16	ケヤキ	
48	IV A-2(住) No. 1	ナラ		71	IV A-7(住) No. 7	カヤ		94	VI A-13(住) No. 17	ケヤキ	
49	IV A-3(住) No. 1	ケヤキ		72	IV A-7(住) No. 8	カヤ		95	VI A-13(住) No. 18	ケヤキ	
50	IV A-3(住) No. 2	クリ		73	IV A-7(住) No. 9	カヤ		96	VI A-13(住) No. 19	クリ	
51	IV A-3(住) No. 3	クリ		74	IV A-8(住) P. 1	広葉樹		97	VI A-13(住) No. 20	クリ	
52	IV A-3(住) No. 4	ケヤキ		75	IV A-8(住) P. 3	イタヤ・ アオタモ		98	VI A-14(住) No. 4	クリ	
53	IV A-3(住) No. 5	不明		76	IV A-8(住) Q. 1	クリ		99	VI A-14(住) No. 5	クリ	
54	IV A-3(住) No. 6	針葉樹		77	IV A-12(住) Q. 4	針葉樹	床面 2ヶ所	100	VI A-14(住) No. 6	ケヤキ	
55	IV A-3(住) No. 7	針葉樹・ クリ		78	IV A-13(住) No. 1	ナラ		101	VI A-14(住) No. 7	クリ	
56	IV A-3(住) No. 8	針葉樹		79	IV A-13(住) No. 2	針葉樹		102	VI A-14(住) No. 8	クリ	
57	IV A-3(住) No. 9	針葉樹		80	IV A-13(住) No. 3	クリ		103	VI A-14(住) No. 27	クリ	
58	IV A-3(住) No. 10	タモ		81	IV A-13(住) No. 4	針葉樹		104	VI A-14(住) No. 30	ナラ	
59	IV A-3(住)	豆類・ コメ		82	IV A-13(住) No. 5	クリ		105	VI A-14(住) No. 34	ナラ	
60	IV A-4(住) No. 1	クリ		83	IV A-13(住) No. 6	針葉樹		106	VI A-14(住) No. 37	クリ	
61	IV A-4(住) No. 2	不明		84	IV A-13(住) No. 7	ナラ		107	II A-102大溝跡 No. 5	クリ	
62	IV A-4(住) No. 3	カヤ		85	IV A-13(住) No. 8	クリ		108	II A-102大溝跡 No. 7	トチの実	

表30 駒焼場遺跡石器計測表(1)

図版遺物番号	出土地点	層位	器種	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)	石質	備考	遺物番号	写真図 版番号
99-23	IIA-3(住)	埋土上部	不明	11.0	5.1	1.9	60	白色細粒凝灰岩	奥羽山地 新第三系中新統	7	23
102-48	IIIA-4(住)	カマド	袖の芯材	15.5	7.0	2.5	260	凝灰質砂岩	二戸市周辺 新第三系	2	48
102-49	IIIA-4(住)	カマド	袖の芯材	25.0	7.3	4.8	720	凝灰質砂岩	二戸市周辺 新第三系	1	49
107-94	IIIA-9(住)	床面	不明	12.7	4.9	2.7	280	桂化木	二戸市 中新統	25	94
111-119	IIIA-19(住)	床面	磨石	10.6	10.3	3.2	465	輝石安山岩	奥羽山地 中新統	18	119
111-120	IIIA-19(住)	床面	磨石	21.5	10.7	3.5	1,115	輝石安山岩	奥羽山地 中新統	17	120
117-165	IVA-5(住)	床面	台石	38.0	17.4	12.1	13,500	花崗閃緑岩	北上山地 中生界	2	165
123-210	IVA-7(住)	床面	磨石	12.5	12.2	4.1	925	輝石安山岩	奥羽山地 中新統	4	210
123-211	IVA-7(住)	床面	磨石	12.0	13.5	9.5	2,035	輝石安山岩	奥羽山地 中新統	3	211
128-250	IVA-10(住)	埋土	台石	15.4	15.2	3.9	1,145	輝石安山岩	奥羽山地 中新統	5	250
131-272	IVA-13(住)	床面	磨石	11.7	7.4	3.7	390	輝石安山岩	奥羽山地 中新統	10	272
131-273	IVA-13(住)	床面	磨石	9.2	5.7	3.0	305	硬砂岩	北上山地 古生界	7	273
131-274	IVA-13(住)	床面	磨石	15.9	6.6	3.9	450	硬砂岩	北上山地 古生界	11	274
131-275	IVA-13(住)	埋土	磨石	8.6	5.3	6.1	323	輝石安山岩	奥羽山地 中新統	9	275
132-277	IVA-13(住)	床面	磨石	8.4	4.7	2.3	148	輝石安山岩	奥羽山地 中新統	13	277
132-278	IVA-13(住)	床面	磨石	6.0	3.1	2.3	55	輝石安山岩	奥羽山地 中新統	12	278
133-279	IVA-13(住)	床面	台石	16.4	16.0	10.4	3,800	輝石安山岩	奥羽山地 中新統	8	279
136-300	IVA-14(住)	床面	砥石	7.8	7.9	3.7	305	流紋岩	北上山地 中生界	14	300
136-301	IVA-14(住)	床面	不明	7.6	6.0	1.9	135	輝石安山岩	奥羽山地 中新統	16	301
136-302	IVA-14(住)	床面	不明	8.3	7.6	5.2	610	輝石安山岩	奥羽山地 中新統	15	302
147-527	IIIA-7土坑	埋土	不明	6.6	5.2	1.7	50	白色細粒凝灰岩	奥羽山地 新第三系中新統	6	527
148-535	IIIA-19土坑	埋土上部	砥石	18.7	3.8	3.7	580	細砂質凝灰岩 (石質凝灰岩)	奥羽山地 新第三系中新統	3	535
148-537	IIIA-28土坑	埋土上部	円盤状 石製品	9.2	9.0	2.1	150	凝灰質砂岩	二戸市周辺 新第三系	12	537
152-566	IVA-49土坑	底面	台石	13.6	13.7	4.8	1,200	輝石安山岩	奥羽山地 中新統	20	566
152-567	IVA-49土坑	底面	台石	19.0	14.8	4.8	1,690	輝石安山岩	奥羽山地 中新統	19	567
160-768	IIA-101 大溝跡	埋土	円盤状 石製品	5.6	3.6	1.1	20	凝灰質シルト岩	二戸市周辺 新第三系	15	768

表 31 駒焼場遺跡石器計測表(2)

図版遺物番号	出土地点	層位	器種	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)	石質	備考	遺物 番号	写真 図版 番号
160-769	II A-101 大溝跡	埋土	不明	7.5	7.0	3.0	120	白色細粒凝灰岩	奥羽山地 新第三系中新統	13	769
160-770	II A-101 大溝跡	埋土	砥石?	9.1	7.7	2.2	100	白色細粒凝灰岩	奥羽山地 新第三系中新統	14	770
160-771	II A-101 大溝跡	埋土	砥石?	14.9	5.3	3.5	260	白色細粒凝灰岩	奥羽山地 新第三系中新統	18	771
160-772	II A-101 大溝跡	埋土	台石	17.4	15.0	4.5	1,720	輝石安山岩	奥羽山地中新統	21	772
165-834	II A-102 大溝跡	2地区 埋土	凹石	14.2	5.0	4.2	340	白色細粒凝灰岩	奥羽山地 新第三系中新統	4	834
166-835	II A-102 大溝跡	8地区 埋土	円盤状 石製品	3.9	3.5	1.1	15	凝灰質シルト岩	二戸周辺 新第三系	16	835
166-836	II A-102 大溝跡	2地区 埋土	円盤状 石製品	4.8	3.6	1.3	20	凝灰質シルト岩	二戸市周辺 新第三系	17	836
166-837	II A-102 大溝跡	2地区 埋土	凹石	8.5	4.3	1.6	40	白色細粒凝灰岩	奥羽山地 新第三系中新統	5	837
176-838	II A-102 大溝跡	2地区 埋土	石製品	7.3	5.7	1.5	60	白色細粒凝灰岩	奥羽山地 新第三系中新統	11	838
166-839	II A-102 大溝跡	2地区 埋土	石製品	4.9	7.5	1.3	40	白色細粒凝灰岩	奥羽山地 新第三系中新統	10	839
166-840	II A-102 大溝跡	埋土	石製品	8.5	8.3	1.1	70	白色細粒凝灰岩	奥羽山地 新第三系中新統	9	840
166-841	II A-102 大溝跡	2地区 埋土	石製品	11.3	5.6	1.0	100	白色細粒凝灰岩	奥羽山地 新第三系中新統	8	840
167-842	II A-102 大溝跡	2地区 埋土	石製品	24.7	12.7	4.9	1,100	白色細粒凝灰岩	奥羽山地 新第三系中新統	22	842
169-847	III A-101 大溝跡	埋土	砥石	21.8	8.5	6.5	1,052	流紋岩	北上山地 中生界	22	847
171-872	IV A-101 大溝跡	埋土 中部	磨石	7.0	5.0	5.3	275	石英安山岩	北上山地 中界(?)	21	872
176-974	遺溝外	IV A-16 (住)外	石鏃	3.4	1.3	0.5	1.45	チャート	北上山地 中生界	26	974
176-975	遺溝外	IV A-13 (住)外	石鏃	4.7	1.2	0.4	1.5	チャート質粘板岩	北上山地 中生界	25	975
176-976	遺溝外		ノッチ 状石器	5.3	5.0	0.9	17.05	チャート質粘板岩	北上山地 中生界	29	976
176-977	遺溝外		切器	3.1	1.5	0.5	2.9	チャート質粘板岩	北上山地 中生界	27	977
176-978	遺溝外		切器	3.2	2.7	0.3	2.45	チャート質粘板岩	北上山地 中生界	28	978
176-979	遺溝外		磨石	8.4	9.8	4.5	513	輝石安山岩	奥羽山地 中新統	23	979
177-980	遺溝外	IV A-2 C表土	打製 石斧	16.7	7.8	4.0	810	輝石玢岩	北上山地 中生界	1	980
177-981	遺溝外	IV A-10 (住)近	磨石	16.2	14.4	4.9	1,758	輝石安山岩	奥羽山地 中新統	6	981
177-982	遺溝外	IV A-10 (住)北壁近	磨石	18.5	14.3	5.5	1,720	輝石安山岩	奥羽山地 中新統	24	982

写真図版



a. 遺跡全景

写真図版 1



a. 遺跡遠景 (東→)



b. 遺跡遠景 (南→)



北
↑

a. 合成空中写真
1986(下)、1987(上)



a. 発掘調査状況

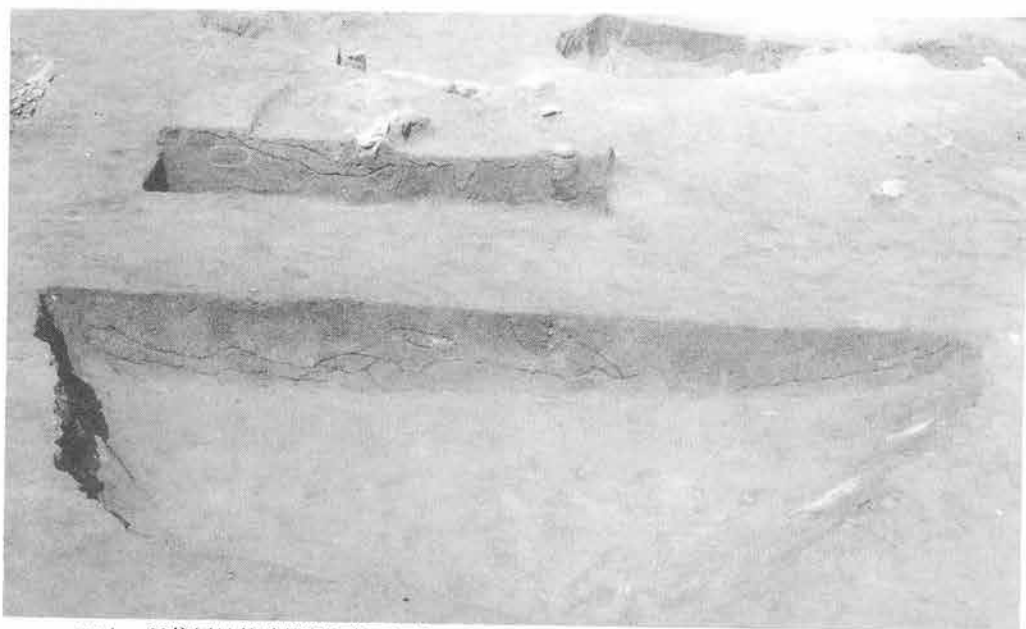


b. 発掘調査状況

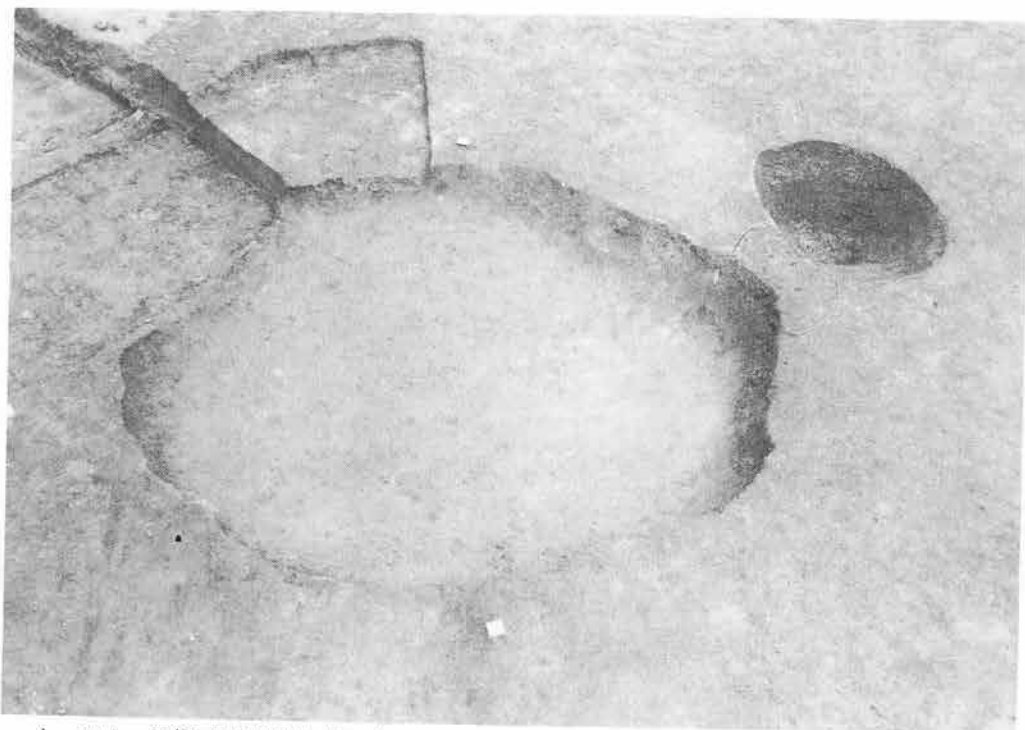


c. 現地説明会

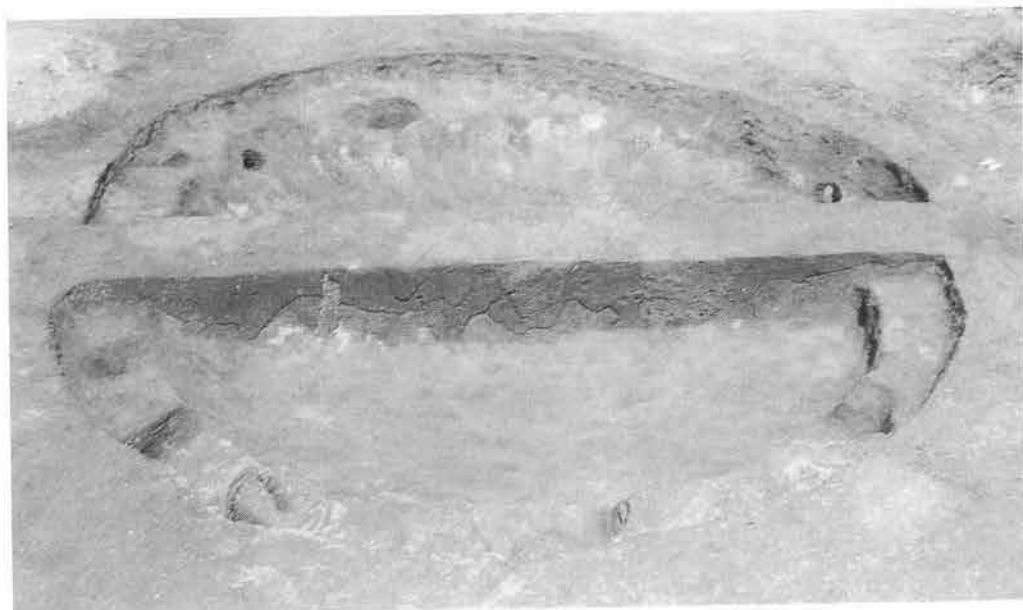
写真図版 4



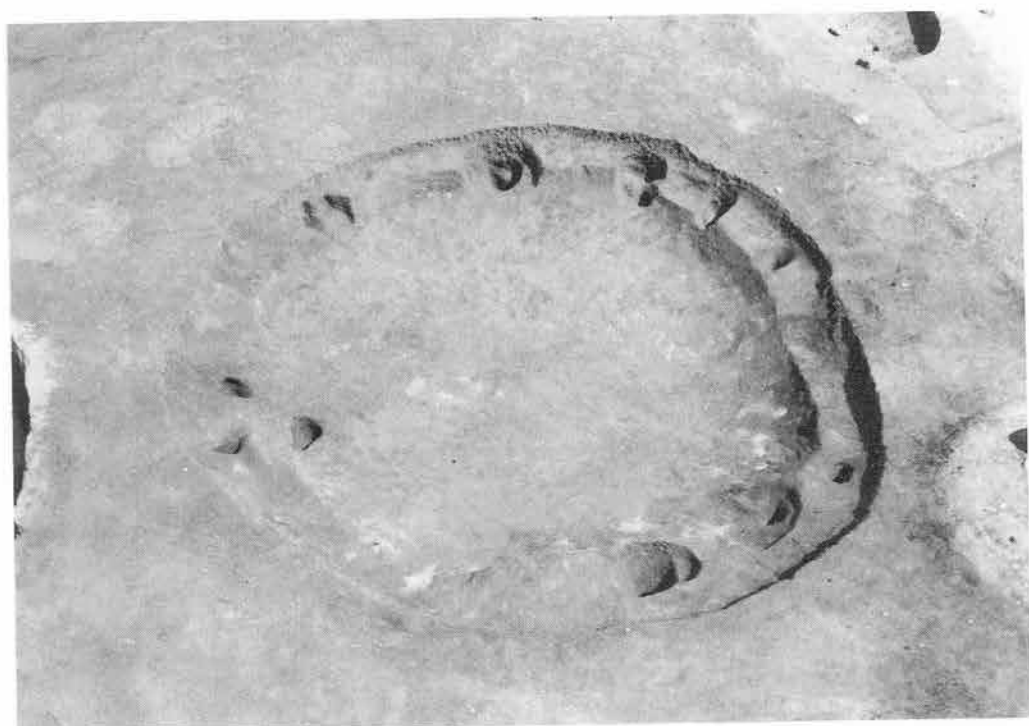
a. IV A—20住居址状遺構埋土断面（東→）



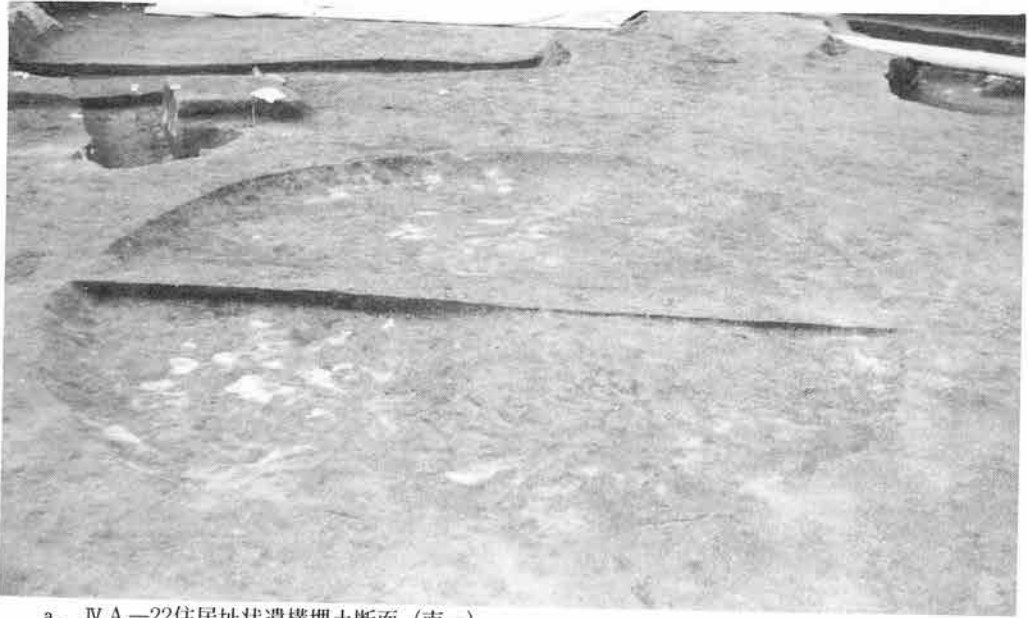
b. IV A—20住居址状遺構（南→）



a. IV A—21住居址状遺構埋土断面（南→）



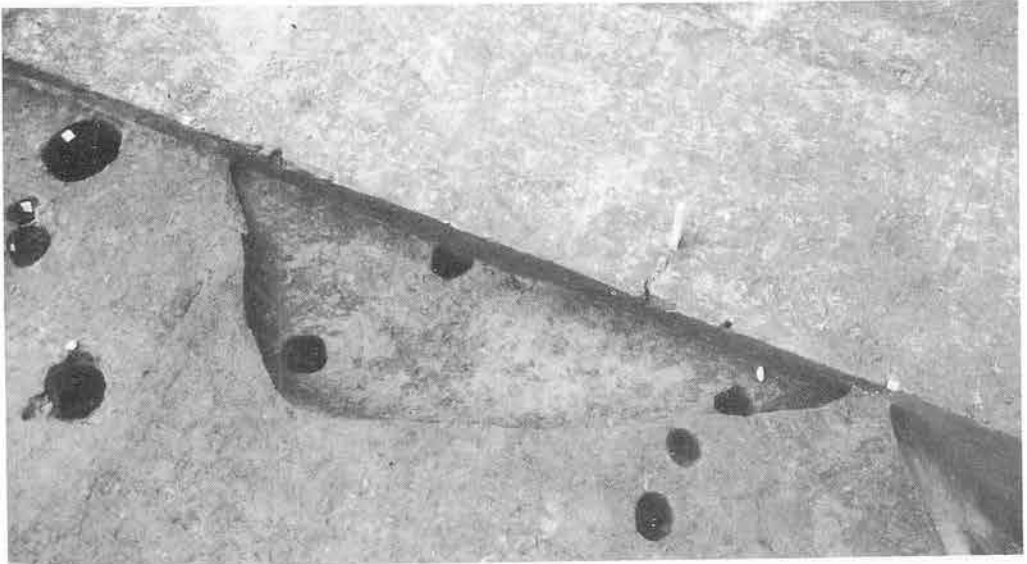
b. IV A—21住居址状遺構（南西→）



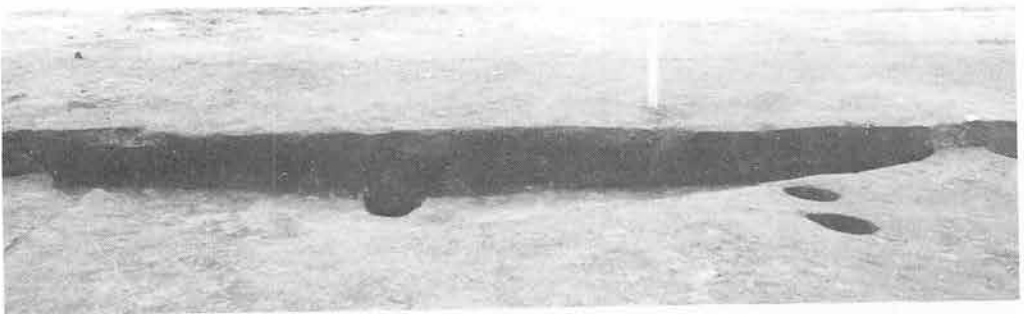
a. IV A-22住居址状遺構埋土断面 (南→)



b. IV A-22住居址遺構 (西→)



a. II A-1 住居址 (東→)



b. II A-1 住居址埋土断面 (東→)



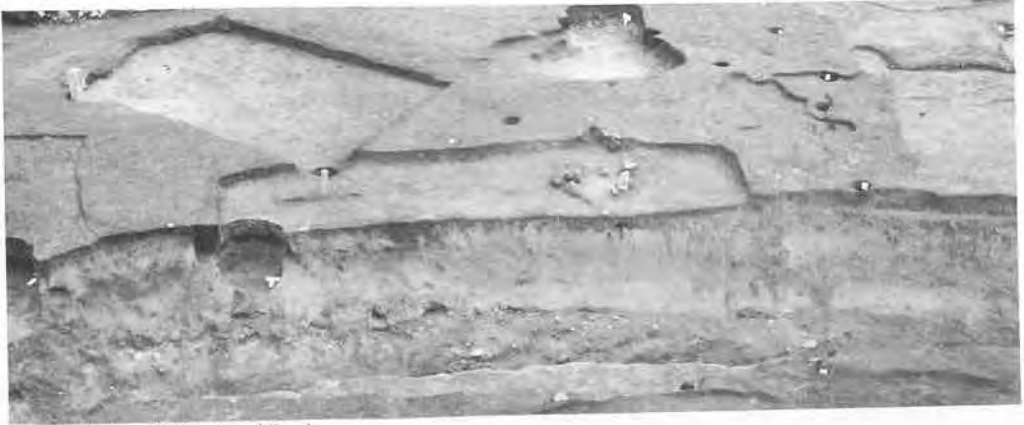
c. II A-1 住居址鉄器出土状況



a. II A-2 住居址 (東→)



b. II A-2 住居址埋土断面 (南→)



a. II A-3 住居址 (北→)



b. II A-3 住居址埋土断面 (北→)



c. II A-3 住居址カマド



d. II A-3 住居址カマド左袖断面



e. II A-3 住居址煙道断面



f. II A-3 住居址カマド右袖断面



a. II A-4・5住居址(北西→)



b. II A-5住居址1号カマド断面



c. II A-5住居址2号カマド断面



d. II A-4住居址カマド断面



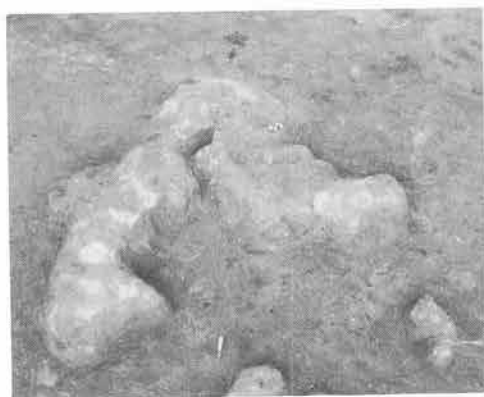
e. II A-5住居址埋土断面(南→)



f. II A-4住居址埋土断面(南→)



a. III A-1 住居址 (西→)



b. III A-1 住居址カマド (南→)



c. III A-1 住居址カマド断面



d. III A-2 住居址埋土断面 (南→)



a. III A-2 住居址 (南東→)



b. III A-2 住居址埋土断面 (南西→)



a. III A-3 住居址 (北→)



b. III A-3 住居址埋土断面 (南→)



c. III A-3 住居址カマフ断面



d. III A-3 住居址右袖断面



a. III A-4 住居址 (北→)



b. III A-4 住居址埋土断面 (南→)



c. III A-4 住居址カマド



d. III A-4 住居址カマド袖断面



a. III A-5 住居址 (南→)



b. III A-5 住居址埋土断面



c. III A-5 住居址カマド



d. III A-5 住居址カマド断面



a. III A-6 住居址・II A-102大溝跡 (北→)



b. III A-6 住居址・II A-102大溝跡埋土断面 (西→)



a. III A-6 住居址出入口状施設埋土断面 (西→)



b. III A-6 住居址カマド



c. III A-6 住居址カマド断面



d. III A-6 住居址鉄製品出土状況



e. III A-6 住居址鉄器出土状況



a. III A-7 住居址 (南→)



b. III A-7 住居址埋土断面 (南西→)



c. III A-7 住居址カマド断面



a. ⅢA-8住居址(北→)



b. ⅢA-8・9住居址埋土断面(西→)



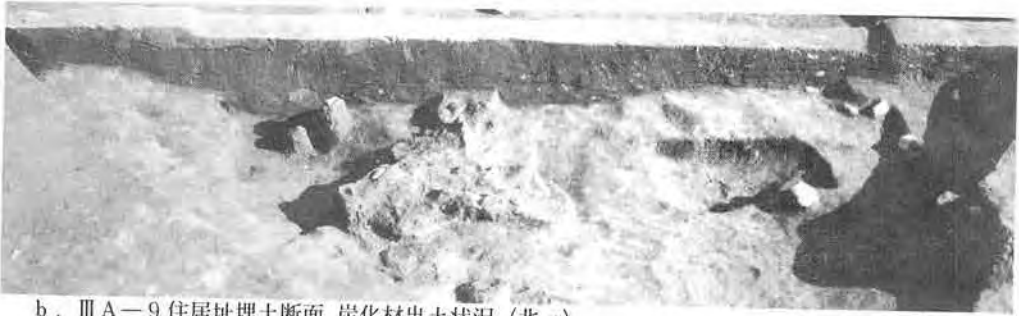
c. ⅢA-8住居址カマド



d. ⅢA-8住居址カマド断面



a. III A-9 住居址 (北→)



b. III A-9 住居址埋土断面、炭化材出土状況 (北→)



c. III A-9 住居址カマド



d. III A-9 住居址カマド断面



a. III A-10住居址 (南→)



b. III A-12住居址 (南東→)



a. III A-11住居址 (南→)



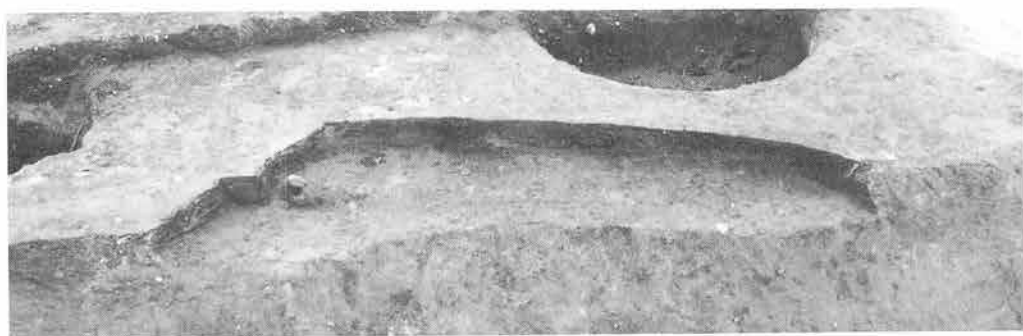
b. III A-11住居址カマド (南→)



c. III A-11住居址埋土断面 (南西→)



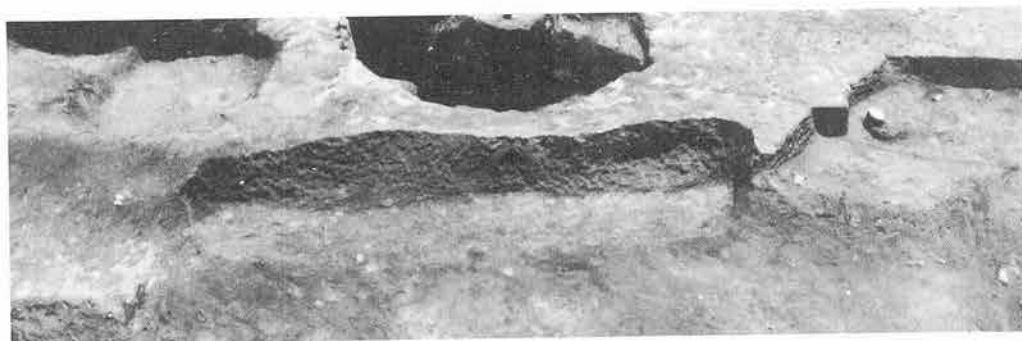
d. III A-11住居址カマド断面



a. Ⅲ A—16住居址



b. Ⅲ A—16住居址埋土断面



c. Ⅲ A—18住居址 (北→)



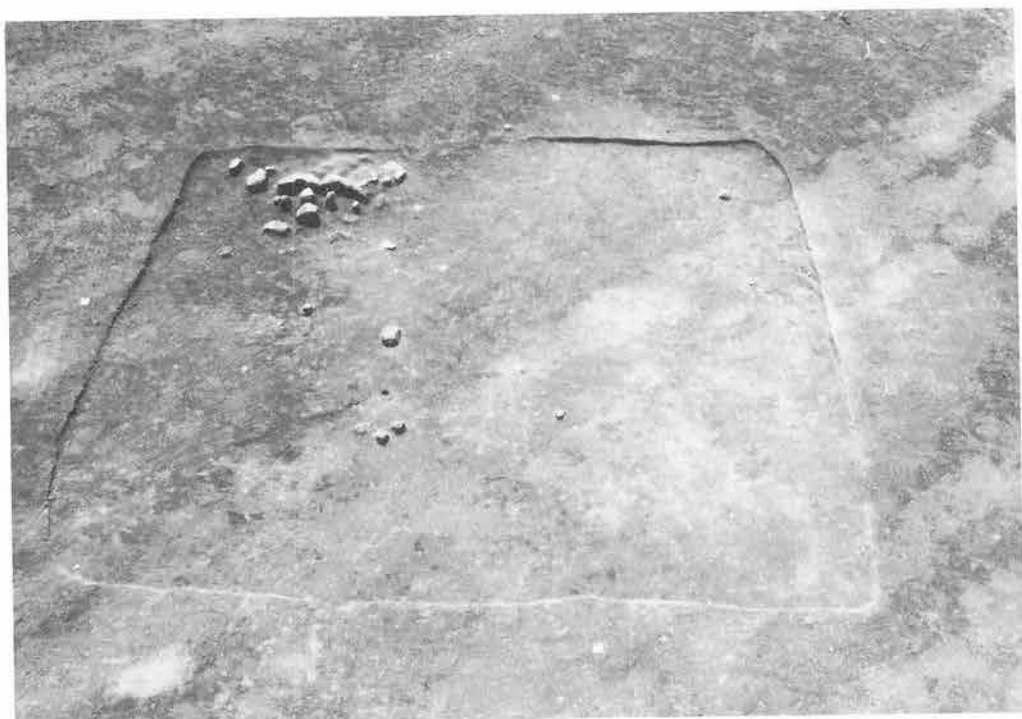
d. Ⅲ A—18住居址埋土断面 (北→)



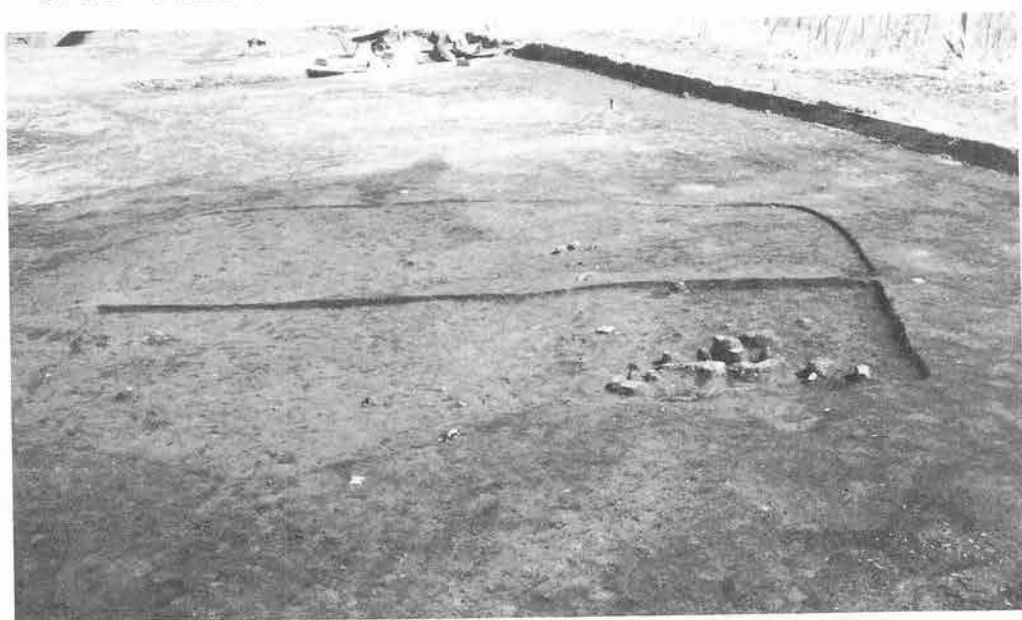
a. Ⅲ A—19住居址 (南東→)



b. Ⅲ A—19住居址埋土断面



a. IV A-2 住居址 (北東→)



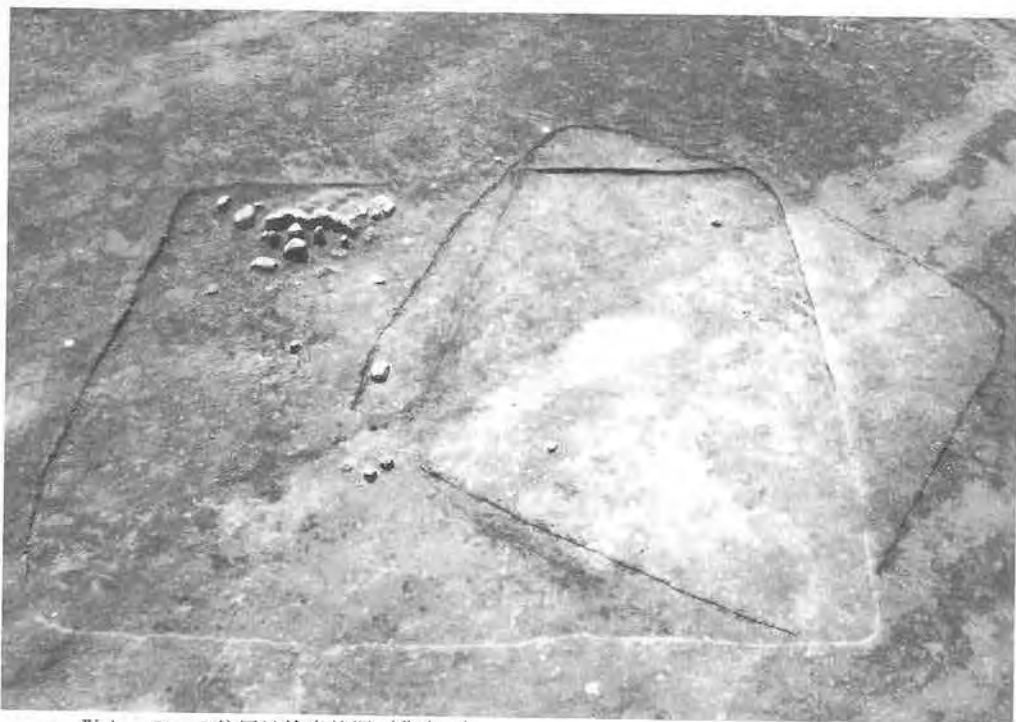
b. IV A-2 住居址埋土断面 (南→)



a. IV A-2 住居址カマド (北→)



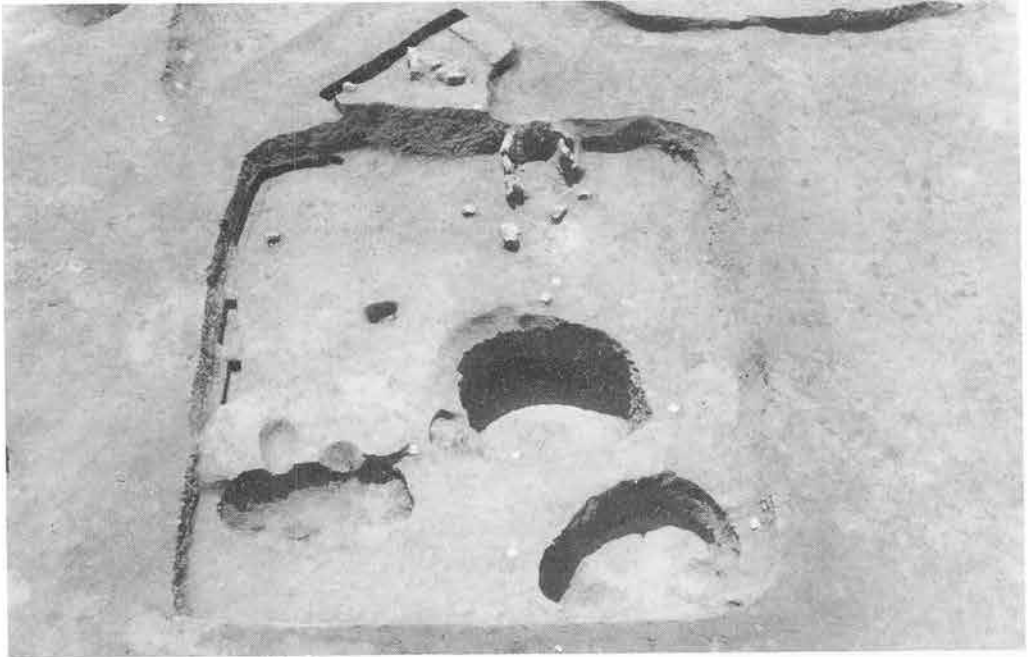
b. IV A-2 住居址カマド断面 (南東→)



c. IV A-2・3 住居址検出状況 (北東→)



d. IV A-3 住居址埋土断面 (北→)



a. IV A-3 住居址 (北西→)



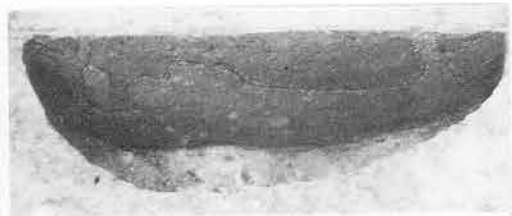
b. IV A-3 住居址カマド (北西→)



c. IV A-3 住居址 右袖断面 (北西→)



d. IV A-3 住居址カマド断面 (西→)



e. IV A-3 住居址ピットP3埋土断面 (南→)



a. IV A-4 住居址 (北→)



b. IV A-4 住居址埋土断面 (西→)



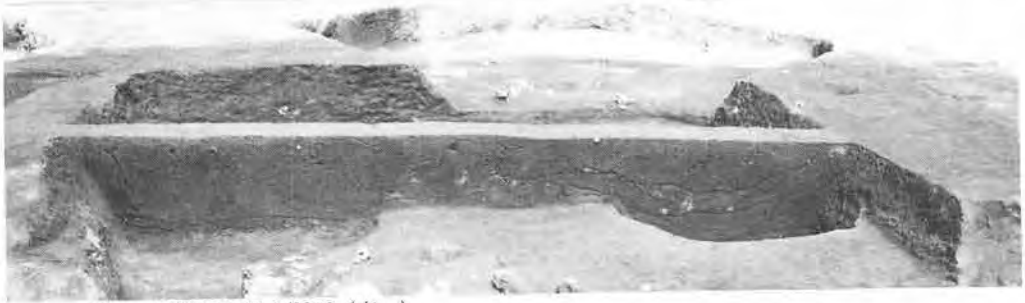
c. IV A-4 住居址カマド (北→)



d. IV A-4 住居址カマド断面 (北→)



a. IV A-5 住居址 (北北西→)



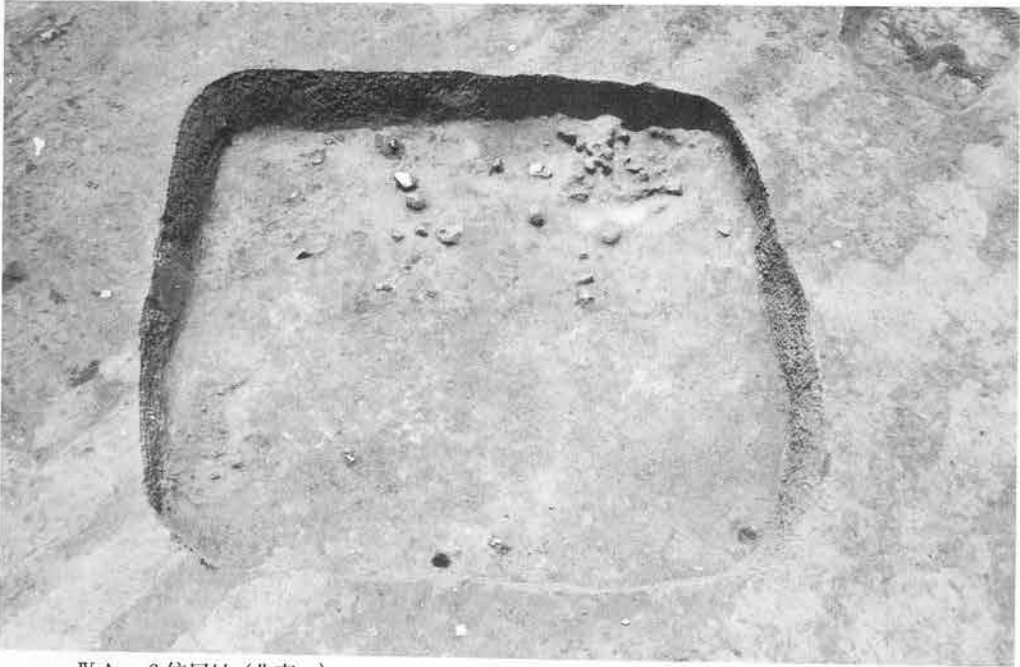
b. IV A-5 住居址埋土断面 (南→)



c. IV A-5 住居址カマド (北→)



d. IV A-5 住居址カマド右袖断面 (北→)



a. IV A-6 住居址 (北東→)



b. IV A-6 住居址埋土断面 (北東→)



c. IV A-6 住居址カマド (北東→)



d. IV A-6 住居址右袖断面 (北東→)



a. IV A-6 住居址カマド断面 (北東→)



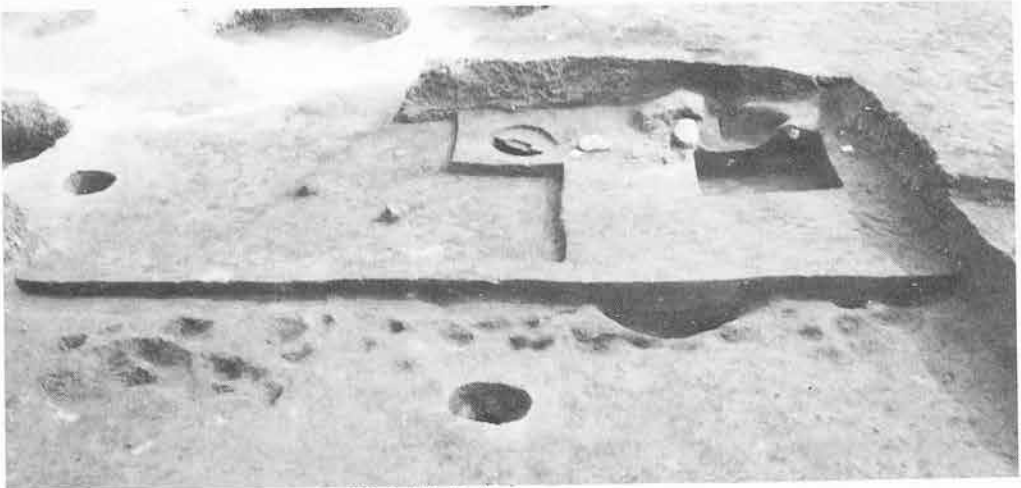
b. IV A-6 住居址カマド断面 (北東→)



c. IV A-6 住居址羽口出土状況 (北東→)



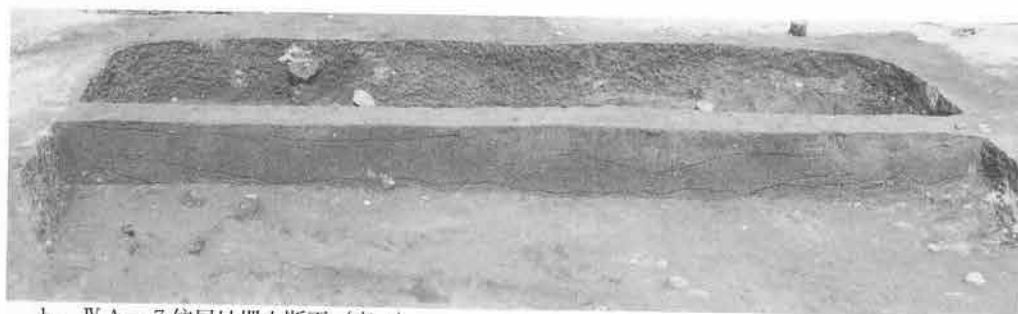
d. IV A-6 住居址羽口出土状況 (北西→)



e. IV A-6 住居址掘り方埋土断面 (北東→)



a. IV A-7 住居址 (南東→)



b. IV A-7 住居址埋土断面 (南→)



c. IV A-7 住居址カマド (南西→)



d. IV A-7 住居址左袖断面 (南西→)

写真図版33



a. IV A-7 住居址カマド断面



b. IV A-7 住居址柱穴P2断面 (南→)



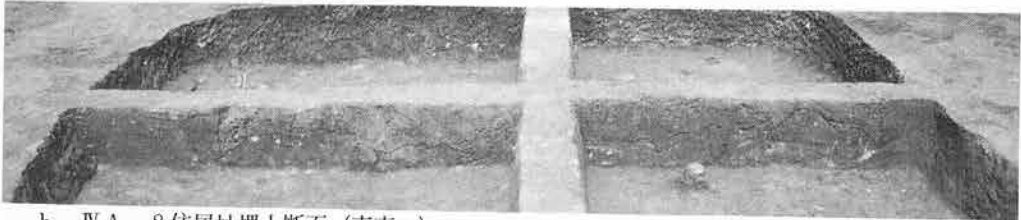
c. IV A-7 住居址掘り方埋土断面 (北→)



d. IV A-7 住居址掘り方



a. IV A-8 住居址 (北西→)



b. IV A-8 住居址埋土断面 (南東→)



c. IV A-8 住居址カマド (北西→)



d. IV A-8 住居址カマド断面 (北西→)



a. IV A-8 住居址貯藏穴P₅ (左)·P₁ (左)



b. IV A-8 住居址P₅埋土断面 (南→)



c. IV A-9 住居址 (南東→)



d. IV A-9 住居址埋土断面 (東→)



a. IV A—10住居址状遺構 (南東→)



b. IV A—10住居址状遺構埋土断面 (南西→)



c. VI A—10住居址状遺構土器出土状況



d. IV A—10住居址状遺構焼土断面 (北東→)



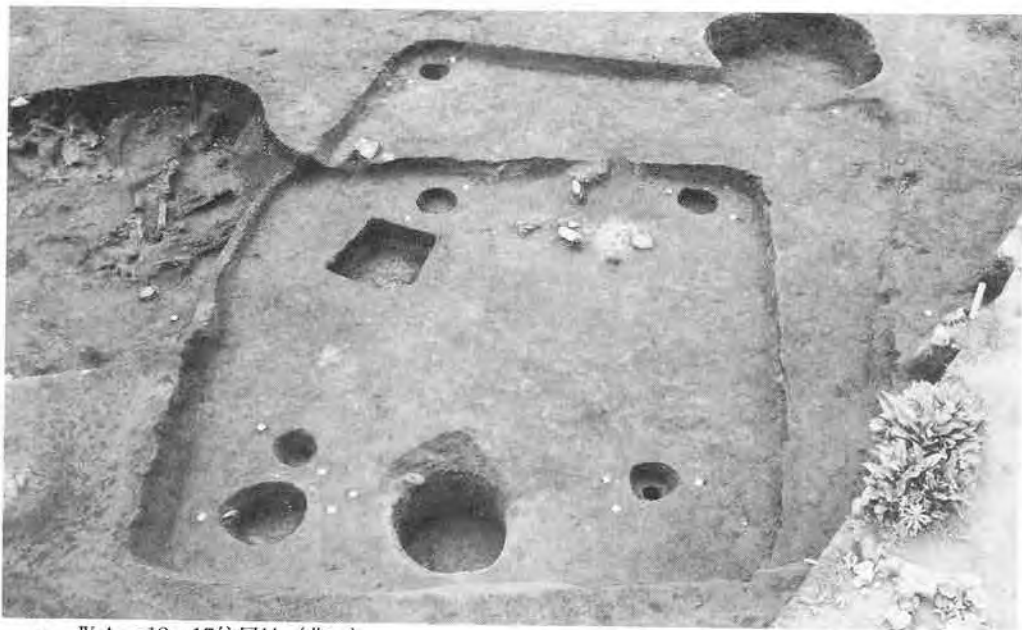
a. IV A—11住居址 (北西→)



b. IV A—12·17住居址埋土断面 (南東→)



d. IV A—12·17住居址埋土断面 (北東→)



a. IV A—12・17住居址 (北→)



b. IV A—17住居址カマド (北西→)



c. IV A—17住居址柱穴断面 (南東→)



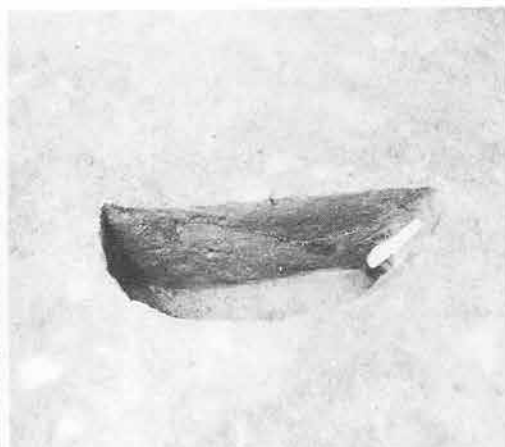
d. IV A—17住居址カマド断面 (西→)



e. IV A—17住居址左袖断面 (北→)



a. IV A-17住居貯蔵穴P₁埋土断面 (北→)



b. IV A-17住居ピットP₂埋土断面 (南→)



c. IV A-13住居址 (北西→)



d. IV A-13住居址埋土断面 (西→)



a. IV A-13住居址カマド (北西→)



b. IV A-13住居址左袖断面 (北→)



c. IV A-13住居址煙道埋土断面 (北→)



d. IV A-13住居址右袖断面 (北→)



e. IV A-13住居址鉄製品出土状況



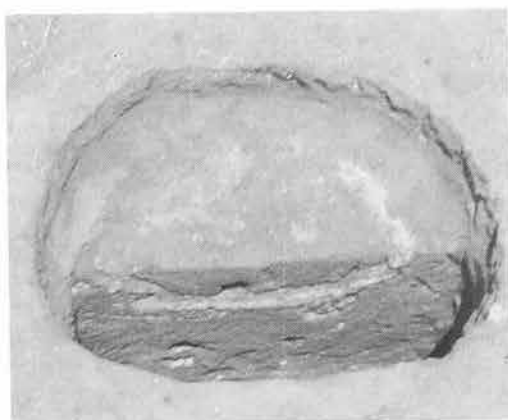
f. IV A-13住居址カマド断面 (西→)



a. IV A-13住居址柱穴断面 (北→)



b. IV A-13住居址烧土断面 (南→)



c. IV A-13住居址ピットP₃埋土断面 (西→)



d. IV A-13住居址貯蔵穴P₁埋土断面 (北→)



e. IV A-13住居址掘り方埋土断面 (南西→)



a. IV A—14住居址炭化材出土状況（南東→）



b. IV A—14住居址（南東→）



a. IV A-14住居址埋土断面 (南西→)



b. IV A-14住居址カマド (南東→)



c. IV A-14住居址カマド断面 (西→)



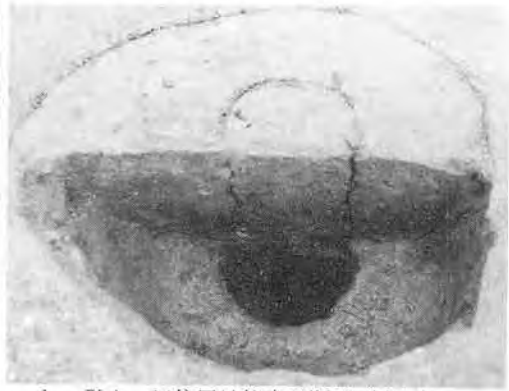
d. IV A-14住居址左袖断面 (南東→)



e. IV A-14住居址右袖断面 (南→)



a. IV A—14住居址柱穴断面 (南東→)



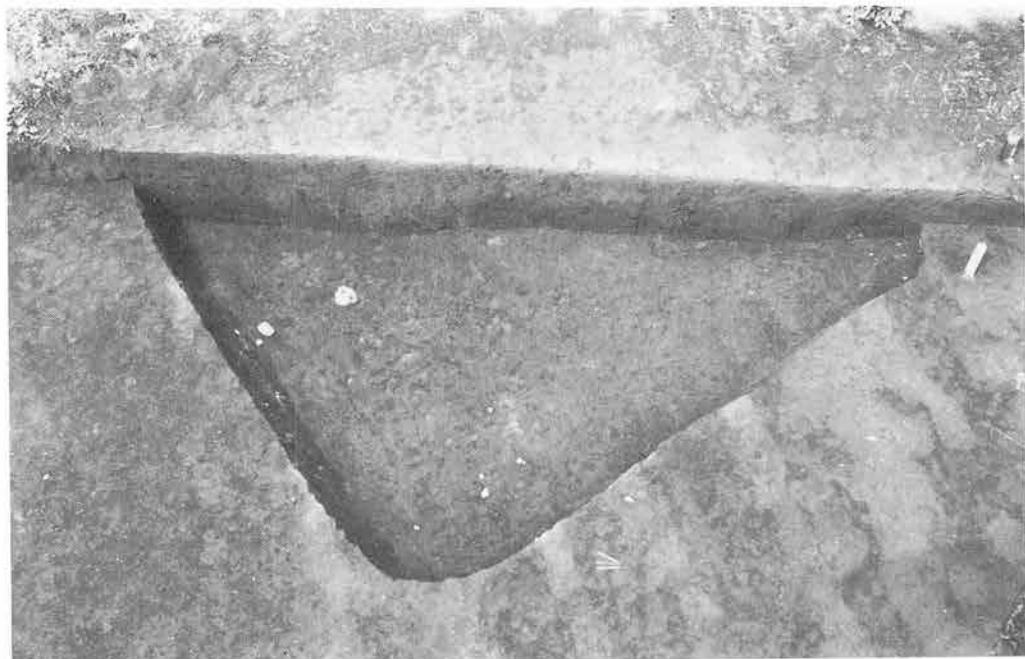
b. IV A—14住居址柱穴3断面 (南→)



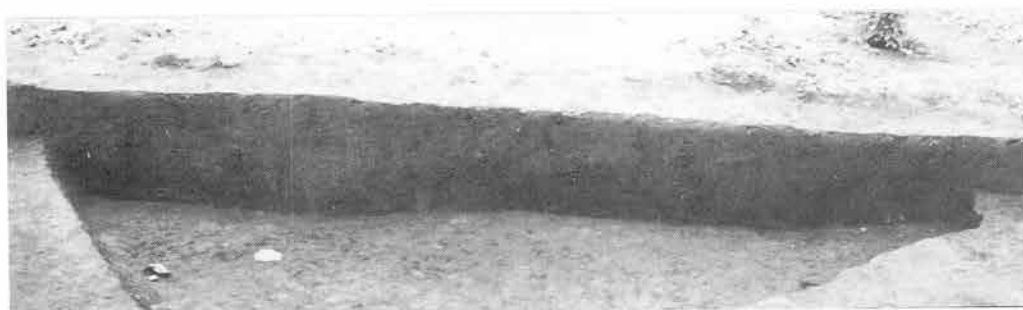
c. IV A—14住居址掘り方埋土断面



d. IV A—14住居址掘り方 (南東→)



a. IV A—15住居址 (東→)



b. IV A—15住居址埋土断面 (東→)



c. IV A—16住居址埋土断面 (南東→)



a. IV A-16住居址 (北→)



b. IV A-16住居址カマド (北西→)



c. IV A-16住居址右袖断面



d. IV A-16住居址鉄製品出土状況

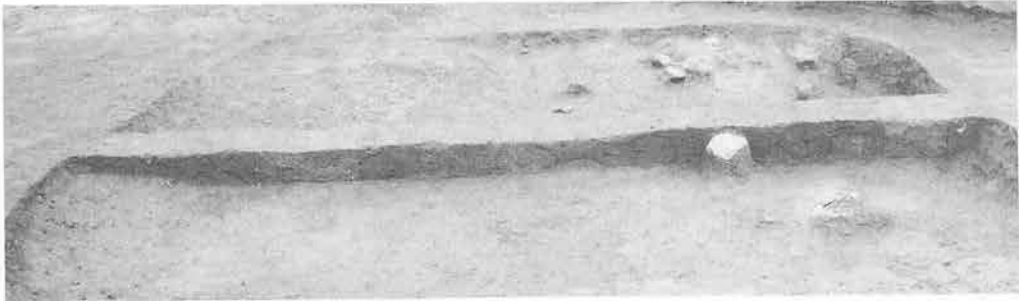


e. VI A-16住居址カマド断面 (南西→)

写真図版47



a. IV A-18住居址 (西→)



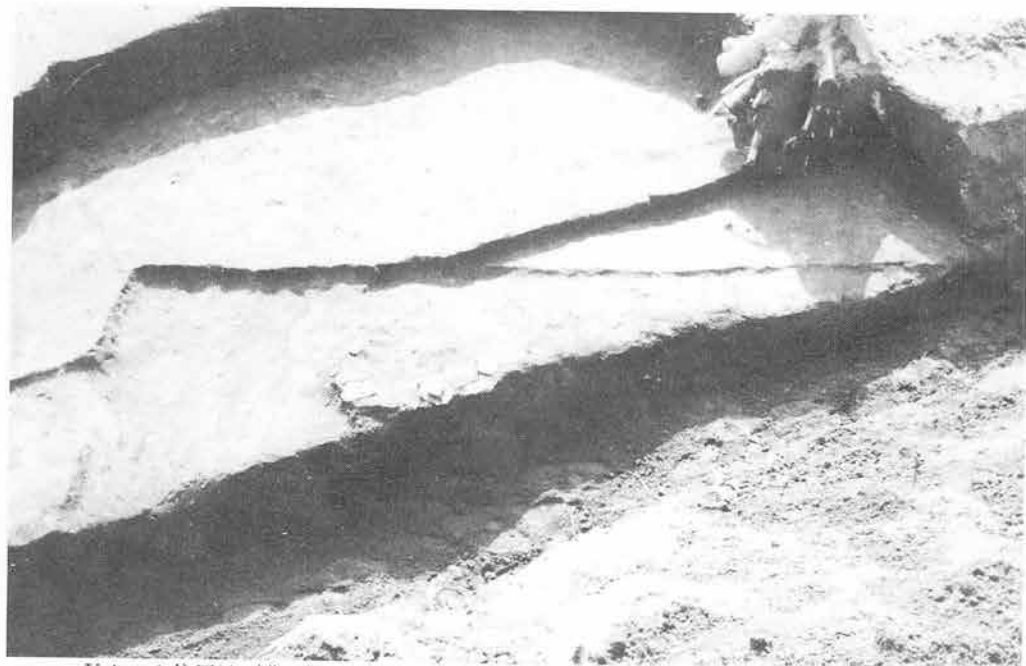
b. IV A-18住居址埋土断面 (南西→)



c. IV A-18住居址琥珀出土状況 (西→)



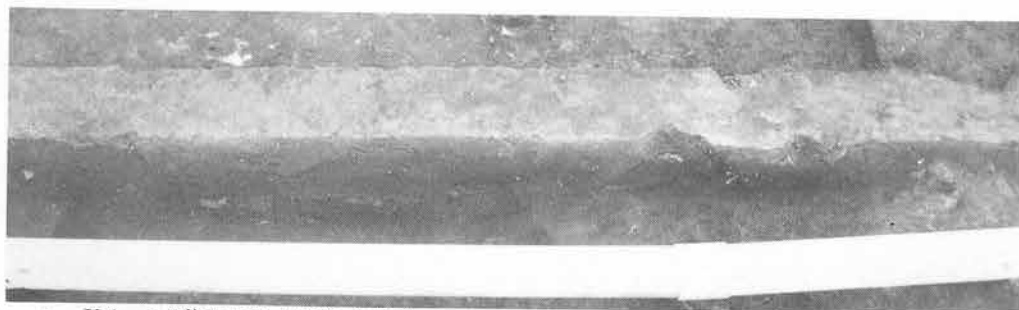
d. IV A-18住居址カマド断面 (西→)



a. VA-1住居址(北→)



b. VA-1住居址埋土断面(南→)



c. VA-2.3住居址埋土断面(南→)



a. VA-2・3住居址 (西→)



b. VA-2住居址カマド (西→)



c. VA-2住居址鉄鏝出土状況 (東→)



d. VA-2住居址左袖断面 (西→)



e. VA-3住居址カマド (西→)



a. VA-4 住居址埋土断面 (東→)



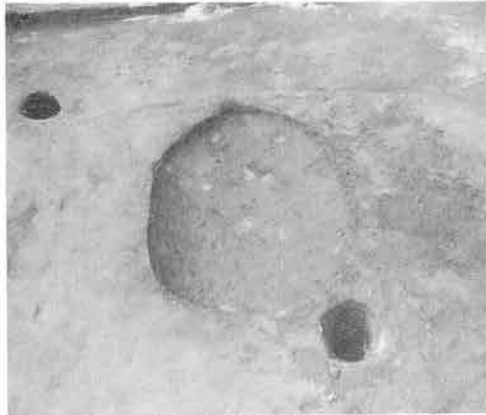
b. VA-4 住居址 (東→)



a. II A-1 土坑 (南→)



b. II A-1 土坑埋土断面 (西→)



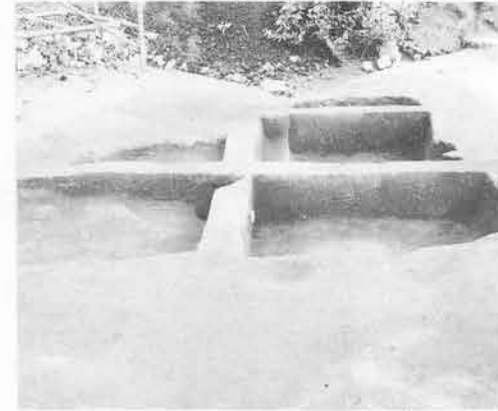
c. II A-2 土坑 (南→)



d. II A-2 土坑埋土断面 (西→)



e. II A-3 土坑 (西→)



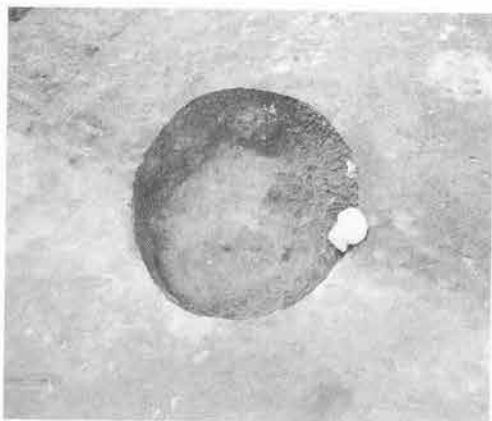
f. II A-3·4 土坑埋土断面 (西→)



a. II A-5 土坑 (東→)



b. II A-5 土坑埋土断面 (南→)



c. II A-6 土坑 (東→)



d. II A-6 土坑埋土断面 (南→)



e. II A-7 土坑 (南東→)



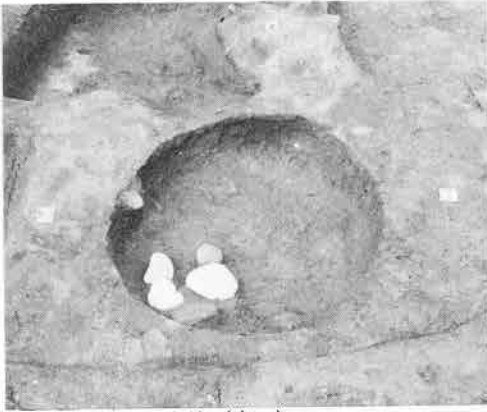
f. II A-7 土坑埋土断面 (南→)



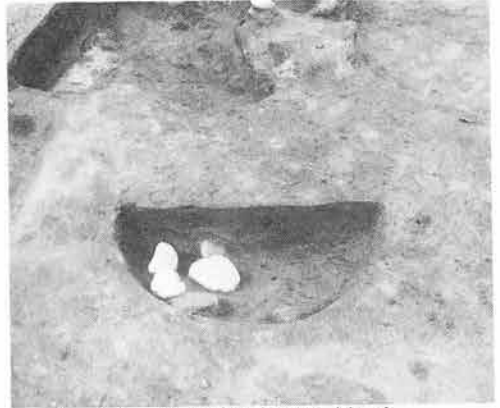
a. II A-8 土坑 (南東→)



b. II A-8 土坑埋土断面 (南→)



c. II A-9 土坑 (南→)



d. II A-9 土坑埋土断面 (南→)



e. II A-10 土坑 (北西→)



f. II A-10 土坑埋土断面 (北→)



a. II A-11土坑 (北西→)



b. II A-11土坑埋土断面 (西→)



c. (右) II A-12土坑·(左) II A-13土坑 (西→)



d. II A-12土坑埋土断面 (南→)



e. II A-13土坑埋土断面 (西→)



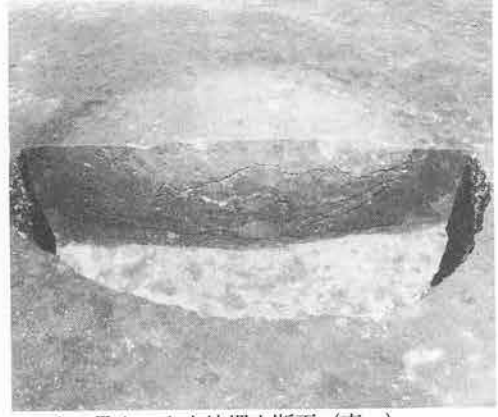
a. II A-14土坑 (東→)



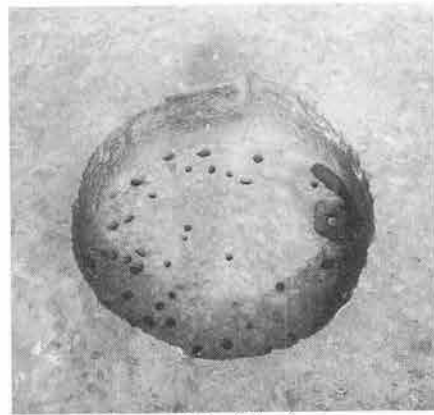
b. II A-14土坑埋土断面 (東→)



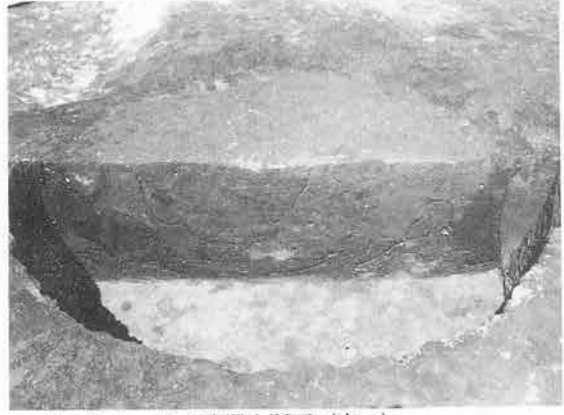
c. III A-1土坑 (南西→)



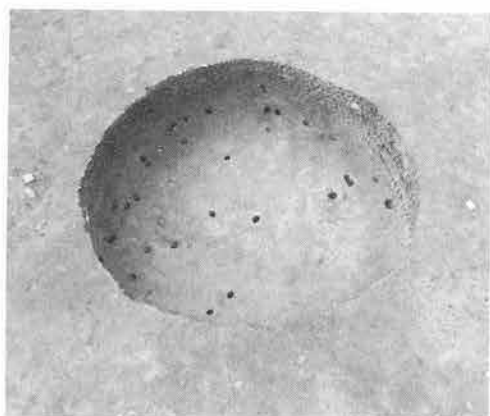
d. III A-1土坑埋土断面 (南→)



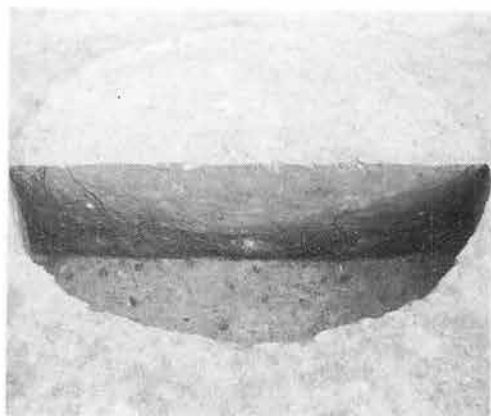
e. III A-2土坑 (西→)



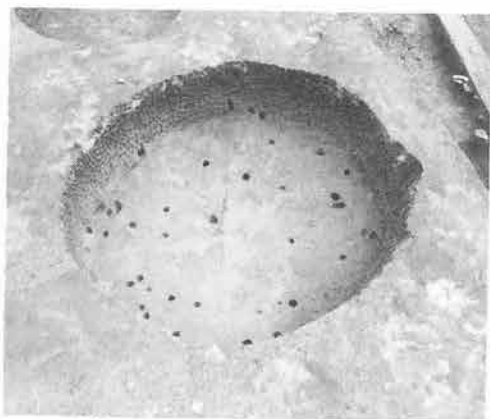
f. III A-2土坑埋土断面 (南→)



a. III A-3 土坑 (南→)



b. III A-3 土坑埋土断面 (南→)



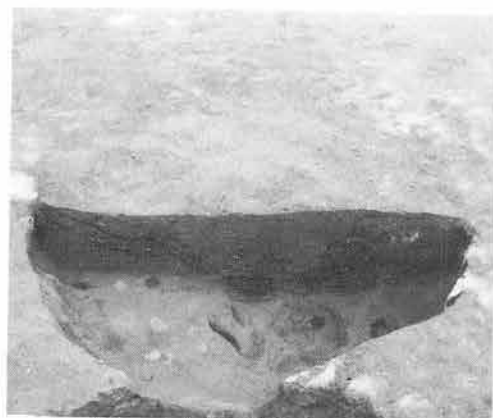
c. III A-4 土坑 (西→)



d. III A-4 土坑埋土断面 (南→)



e. III A-5·8 土坑 (北西→)



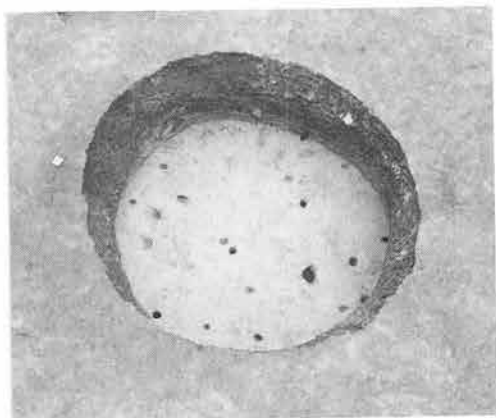
f. III A-5 土坑埋土断面 (西→)



a. III A-6 土坑 (西→)



b. III A-6 土坑埋土断面 (西→)



c. III A-7 土坑 (南→)



d. III A-7 土坑埋土断面 (南→)



e. III A-8 土坑 (南→)



f. III A-8 土坑埋土断面 (南→)



a. III A-9 土坑 (南→)



b. III A-9 土坑埋土断面 (南→)



c. III A-10 土坑 (西→)



d. III A-10 土坑埋土断面 (南→)



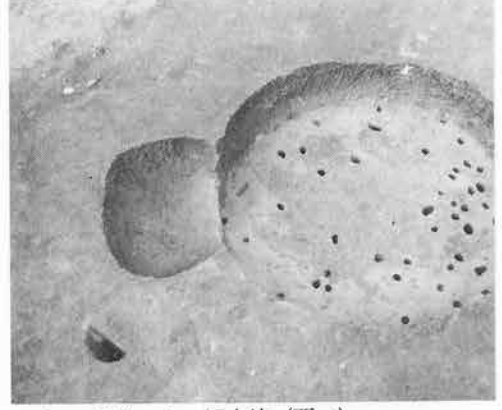
e. III A-11 土坑 (南→)



f. III A-11 土坑埋土断面 (南→)



a. III A-12土坑 (南→)



b. III A-1·15土坑 (西→)



c. III A-13土坑 (南→)



d. III A-13土坑埋土断面 (南→)



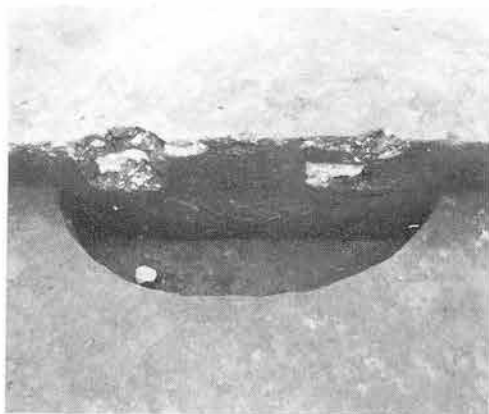
e. III A-14土坑 (西→)



f. III A-14土坑埋土断面 (東→)



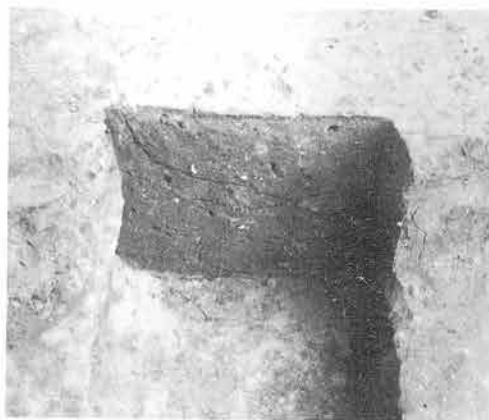
a. III A—15土坑埋土断面 (南東→)



b. III A—17土坑埋土断面 (東→)



c. III A—16土坑 (東→)



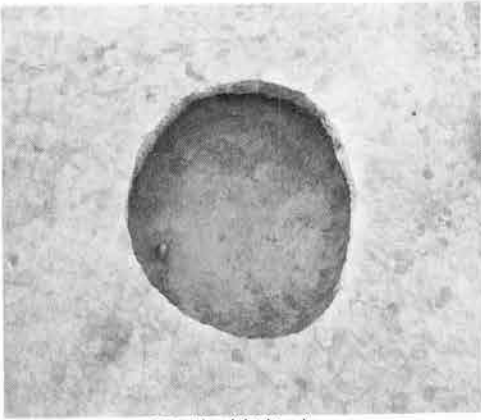
d. III A—16土坑埋土断面 (北→)



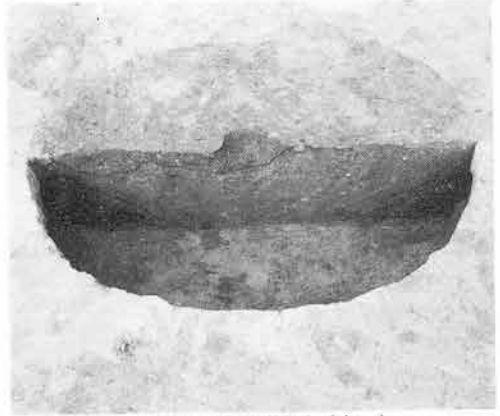
e. III A—18土坑 (南→)



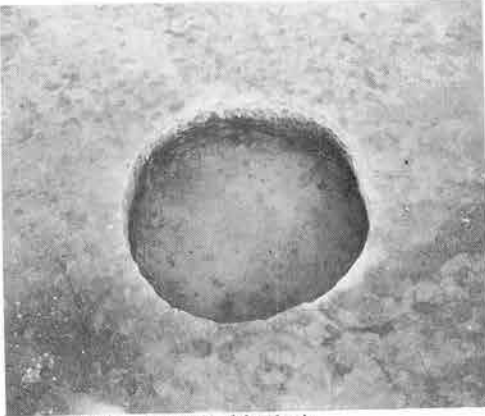
f. III A—18土坑埋土断面 (南→)



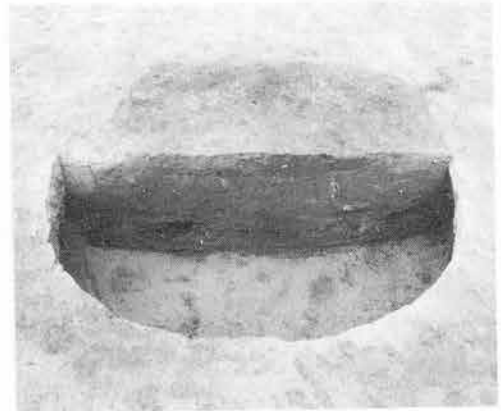
a. III A—19土坑 (南東→)



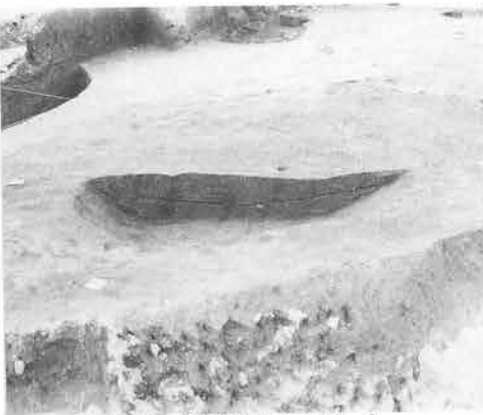
b. III A—19土坑埋土断面 (南→)



c. III A—20土坑 (南西→)



d. III A—20土坑埋土断面 (南→)



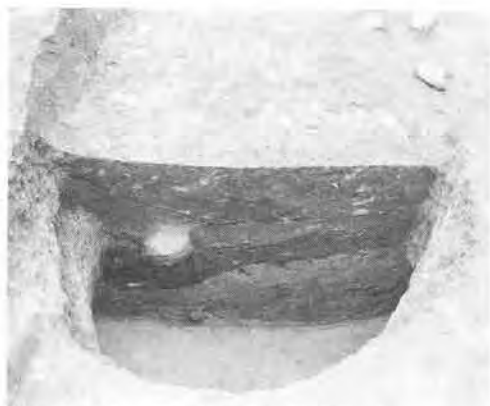
e. III A—21土坑埋土断面 (南→)



f. III A—22土坑埋土断面 (西→)



a. III A—23土坑 (北→)



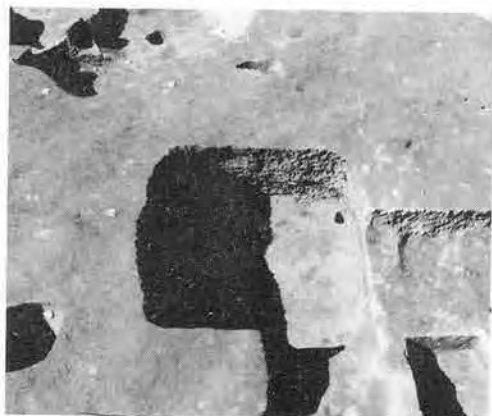
b. III A—23土坑埋土断面 (西→)



c. III A—24土坑 (北西→)



d. III A—24土坑埋土断面 (西→)



e. III A—30土坑 (東→)



f. III A—30土坑埋土断面 (西→)



a. III A-27土坑 (北←)



b. III A-27土坑埋土断面 (東→)



c. III A-28土坑 (東→)



d. III A-28土坑埋土断面 (東→)



e. III A-25土坑 (南東→)



f. III A-25土坑埋土断面 (東→)



a. III A-31土坑 (東→)



b. III A-31土坑埋土断面 (南→)



c. III A-32土坑 (西→)



d. III A-32土坑埋土断面 (北→)



e. III A-33土坑 (北→)



f. III A-33土坑埋土断面 (東→)



a. III A-34土坑 (南→)



b. III A-34土坑埋土断面 (西→)



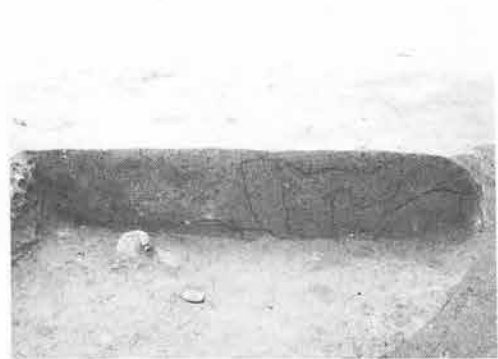
c. III A-35土坑 (南→)



d. III A-35土坑埋土断面 (南→)



e. III A-36土坑 (北→)



f. III A-36土坑埋土断面 (北東→)



a. III A-38土坑 (西→)



b. III A-38土坑埋土断面



c. III A-37土坑埋土断面 (南→)



d. III A-39土坑小ピット (西→)



e. III A-39土坑 (西→)



f. III A-39土坑埋土断面 (西→)

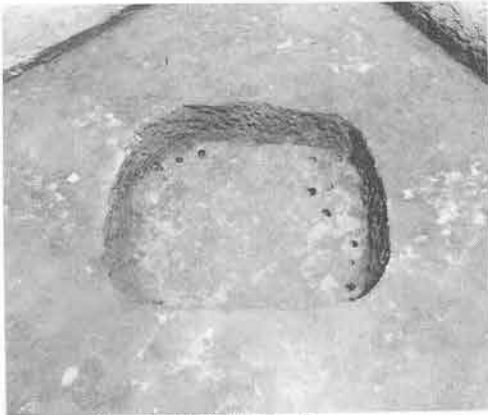
写真図版67



a. III A-40土坑 (北→)



b. III A-40土坑埋土断面



c. III A-41土坑 (南西→)



d. III A-41土坑埋土断面 (南西→)



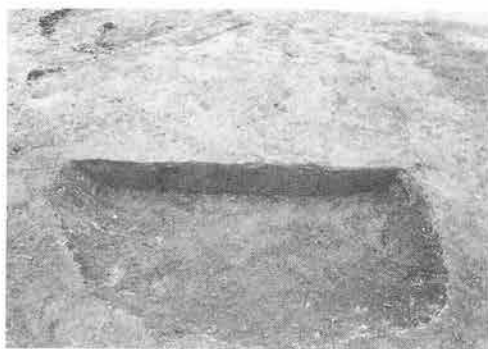
e. IV A-1土坑 (西→)



f. IV A-1土坑埋土断面 (西→)



a. IV A-2 土坑 (北→)



b. IV A-2 土坑埋土断面 (東→)



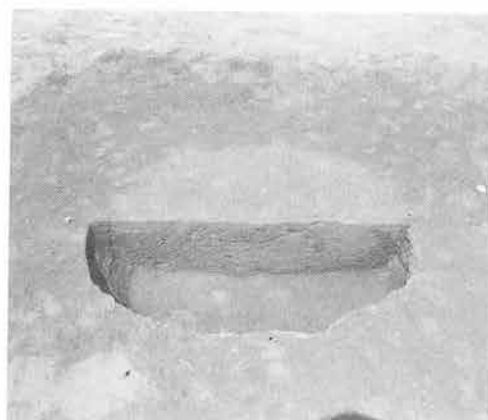
c. IV A-3 土坑 (東→)



d. IV A-3 土坑埋土断面 (東→)



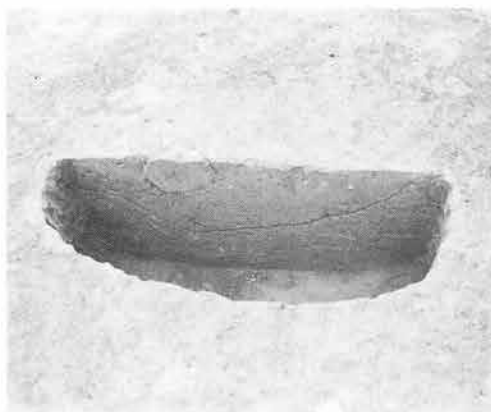
e. IV A-4 土坑



f. IV A-4 土坑埋土断面 (北東→)



a. IVA-5 土坑 (東南→)



b. IVA-5 土坑埋土断面 (西→)



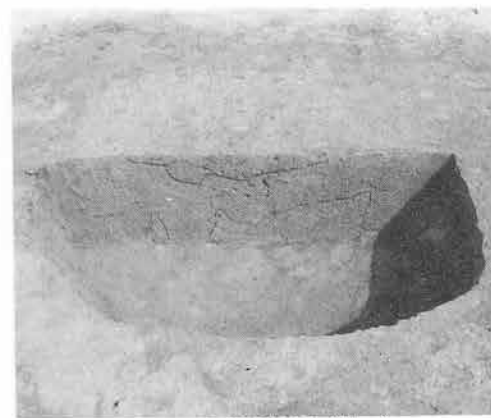
c. IVA-6 土坑 (北西→)



d. IVA-6 土坑埋土断面 (北西→)



e. IVA-7 土坑 (北→)



f. IVA-7 土坑埋土断面 (北→)



a. IV A-8 土坑 (西→)



b. IV A-8 土坑埋土断面 (西→)



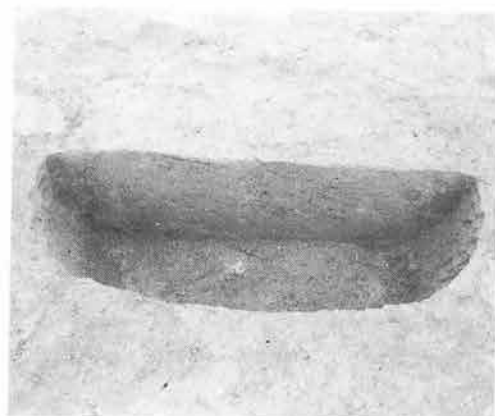
c. IV A-9 土坑 (南東→)



d. IV A-9 土坑埋土断面 (南→)



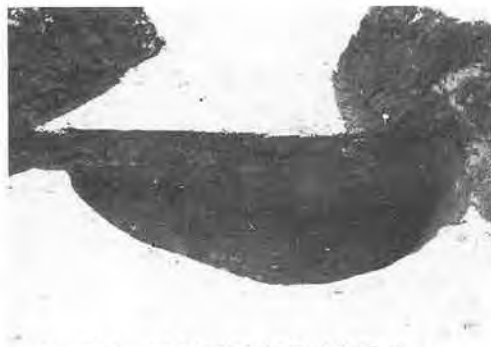
e. IV A-10 土坑 (西→)



f. IV A-10 土坑埋土断面 (東南→)



a. IV A-11土坑 (北西→)



b. IV A-11土坑埋土断面 (北西→)



c. IV A-12土坑 (北→)



d. IV A-12土坑埋土断面 (南西→)



e. IV A-13土坑 (北東→)



f. IV A-13土坑埋土断面 (北東→)



a. IV A-14土坑



b. IV A-14土坑埋土断面 (南→)



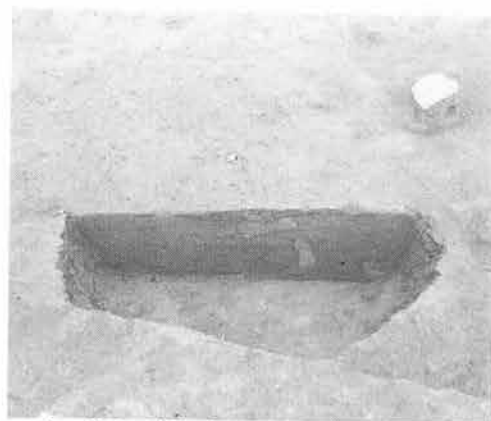
c. IV A-15土坑 (北西→)



d. IV A-15土坑埋土断面 (西→)



e. IV A-16土坑



f. IV A-16土坑埋土断面 (南西→)



a. IV A-17土坑 (南→)



b. IV A-17土坑埋土断面 (南西→)



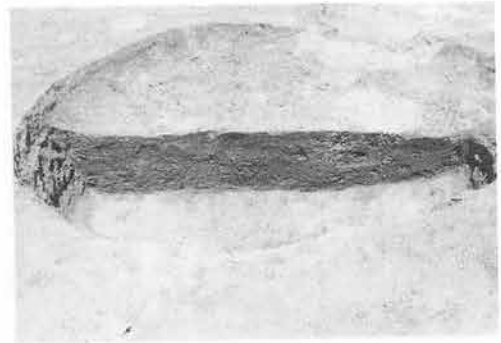
c. IV A-18土坑 (南東→)



d. IV A-18土坑埋土断面 (南東→)



e. IV A-19土坑 (西→)



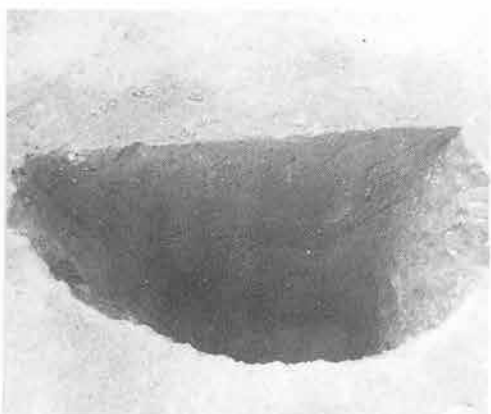
f. IV A-19土坑埋土断面



a. IV A-20土坑 (西→)



b. IV A-24土坑埋土断面 (東→)



c. IV A-25土坑埋土断面 (南→)



d. VA-1土坑埋土断面 (南→)



e. IV A-15.26土坑 (南→)



f. IV A-26土坑埋土断面 (南東→)



a. IV A—27土坑 (北→)



b. IV A—27土坑埋土断面 (西→)



c. IV A—28土坑 (西→)



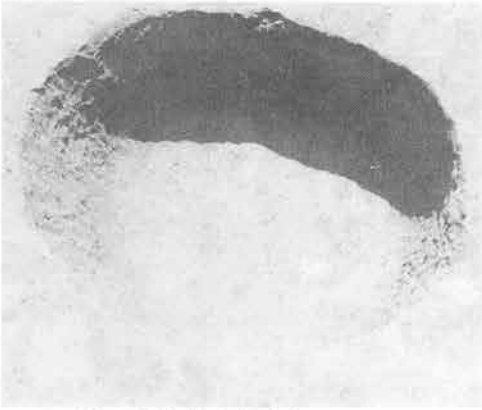
d. IV A—28土坑埋土断面 (西→)



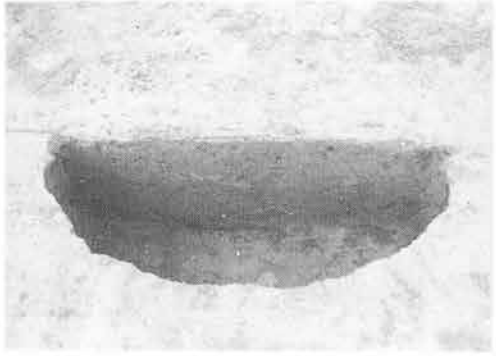
e. IV A—29土坑 (南西→)



f. IV A—29土坑埋土断面 (南→)



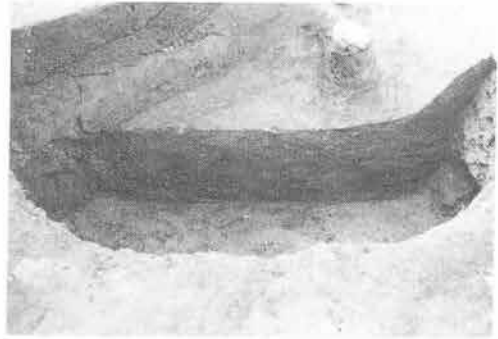
a. IV A-30土坑 (南西→)



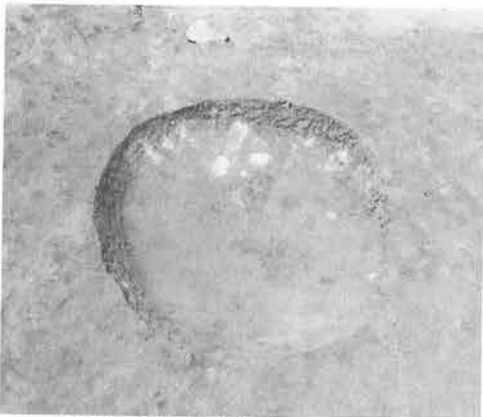
b. IV A30土坑埋土断面 (南東→)



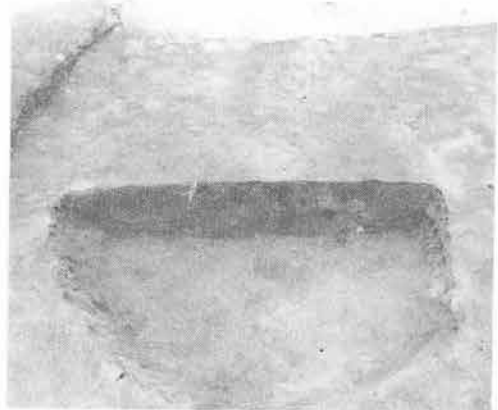
c. IV A-31土坑



d. IV A-31土坑埋土断面 (南→)



e. IV A-32土坑 (東→)



f. IV A-32土坑埋土断面 (東→)



a. IV A—33土坑 (南東→)



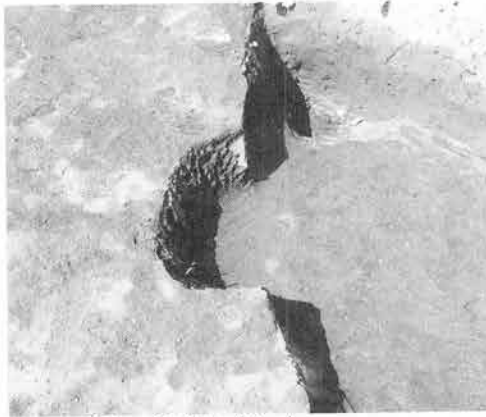
b. IV A—33土坑檢出狀況 (東→)



c. IV A—34土坑 (東→)



d. IV A—34土坑埋土断面 (南→)



e. IV A—35土坑 (東→)



f. IV A—35土坑埋土断面 (北→)



a. IV A—36土坑 (東→)



b. IV A—36土坑埋土断面 (西→)



c. IV A—37土坑 (西→)



d. IV A—37土坑埋土断面 (南→)



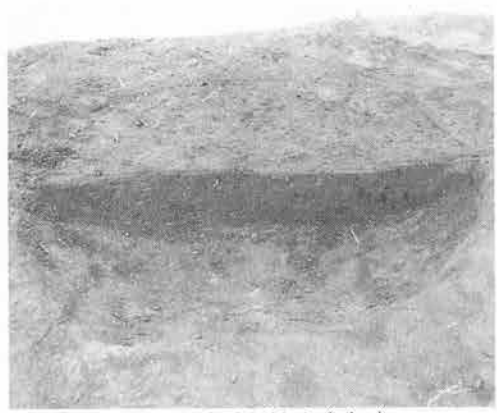
e. IV A—38土坑 (西→)



f. IV A—38土坑埋土断面 (西→)



a. IV A—40土坑 (東→)



b. IV A—40土坑埋土断面 (西→)



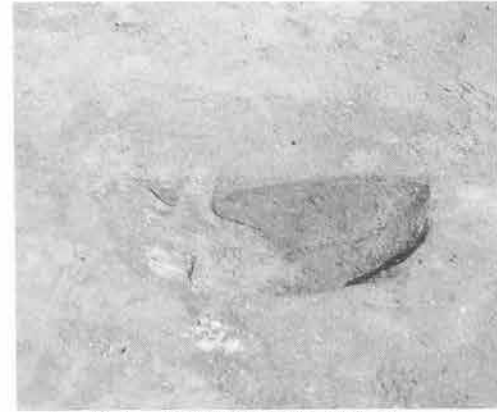
c. IV A—41土坑 (東→)



d. IV A—41土坑埋土断面 (南→)



e. IV A—42土坑 (西→)



f. IV A—42土坑埋土断面 (南→)



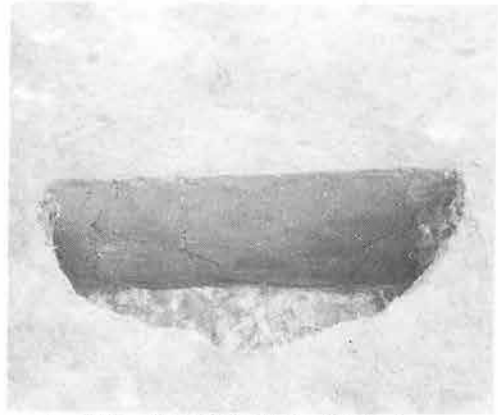
a. IV A-44土坑 (南→)



b. IV A-46土坑埋土断面 (東→)



c. IV A-45土坑 (南→)



d. IV A-45土坑埋土断面 (南東→)



e. IV A-47土坑 (西→)



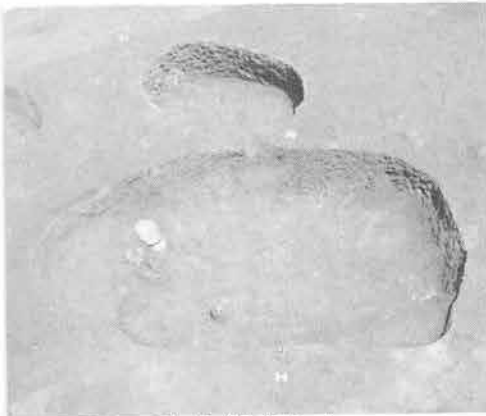
f. IV A-47土坑埋土断面 (西→)



a. IV A—48土坑 (西→)



b. IV A—48土坑埋土断面 (西→)



c. IV A—49土坑 (北北西→)



d. IV A—49土坑埋土断面



e. IV A—50土坑



f. IV A—50土坑埋土断面



a. (左) II A-102 大溝跡, (右) II A-101 大溝跡 (南西→)



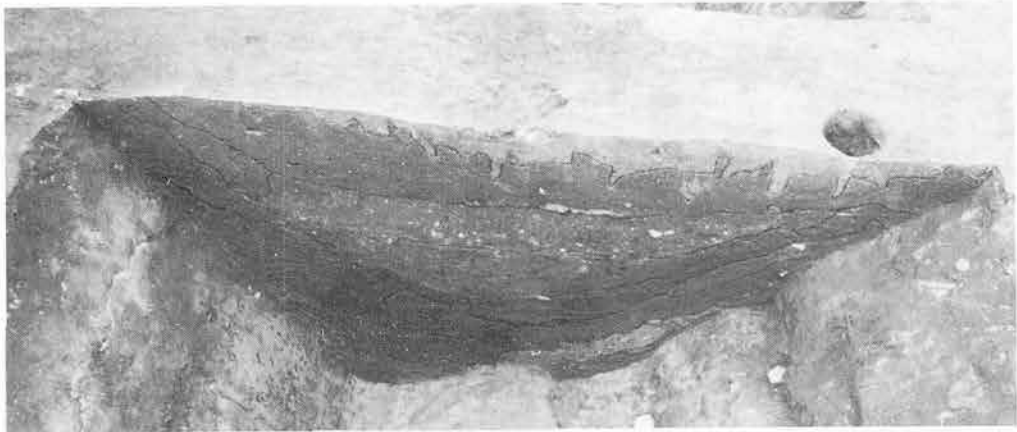
b. II A-101 大溝跡 E-F埋土断面 (西→)



c. II A-101 大溝跡 I-J埋土断面 (西→)



a. II A-102 大溝跡、A-B埋土断面 (東→)



b. II A-102 大溝跡、C-D埋土断面 (南西→)



c. II A-102 大溝跡、E-F埋土断面 (西→)



a. III A-101 大溝跡 (西東→)



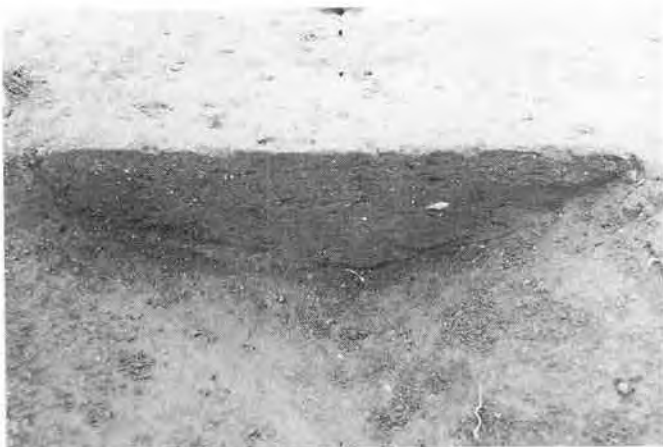
b. III A-101 大溝跡埋土断面 (西→)



a. III A—103 溝跡 (東→)



b. III A—104 溝跡 (西→)



c. III A—103 溝跡埋土断面 (東→)



d. IV A—101 大溝跡
土器出土狀況 (西→)



a. IV A—101 大溝跡



b. IV A—101 大溝跡埋土断面 (西→)



a. IV A—102 溝跡 (西→)



b. III A—101大溝跡 土器出土狀況 (西→)



c. IV A—102溝跡 土器出土狀況 (西→)



a . IV-104 沟迹 (东→)



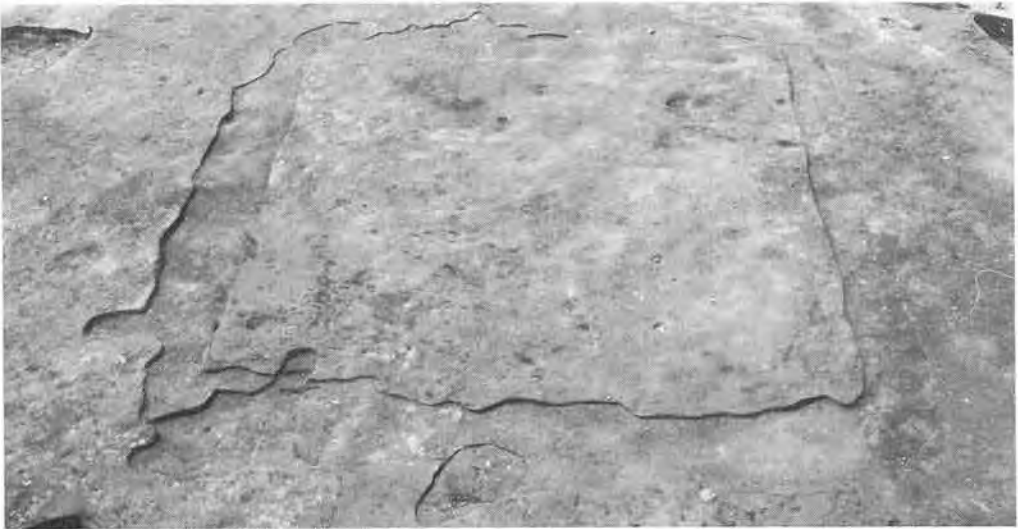
b . IV-104沟迹 埋土断面



c . IV A-104沟迹 埋土2断面



a. II A—1号方形周溝跡 検出状況 (東→)



b. II A—1号方形周溝跡 (東→)



c. II A—1号方形周溝跡 No1.埋土断面



d. II A—1号方形周溝跡 No2.埋土断面



a. IV A—1·2号方形周沟迹 (北东→)



b. IV A—1号方形周沟迹埋土1断面(西→)



c. IV A—1号方形周沟迹埋土2断面(西→)

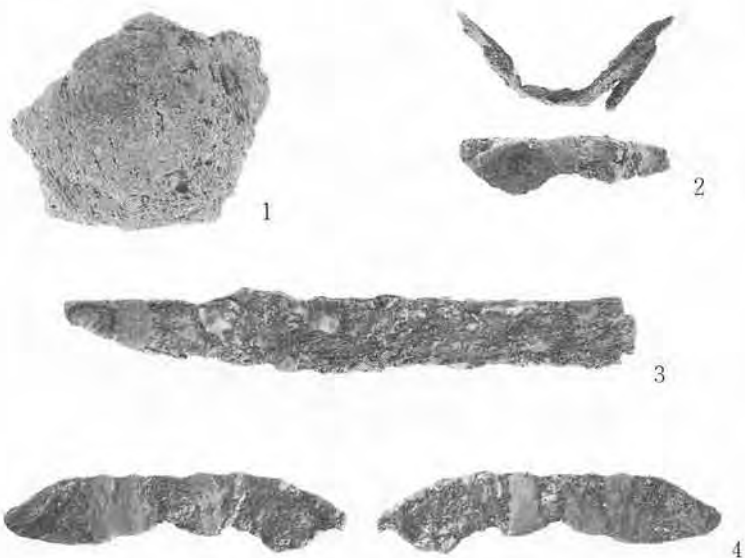


d. IV A—2号方形周沟迹埋土1断面(南→)

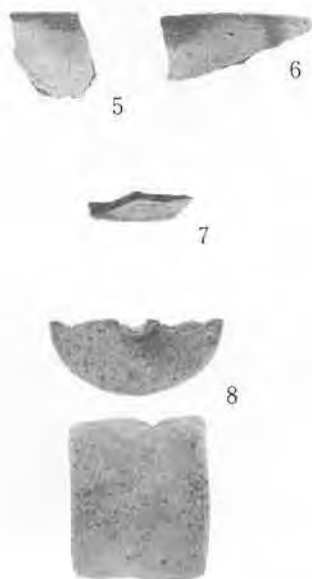


e. IV A—2号方形周沟迹埋土2断面

Ⅱ A-1住居址 (1~4)



Ⅱ A-2住居址 (5~8)

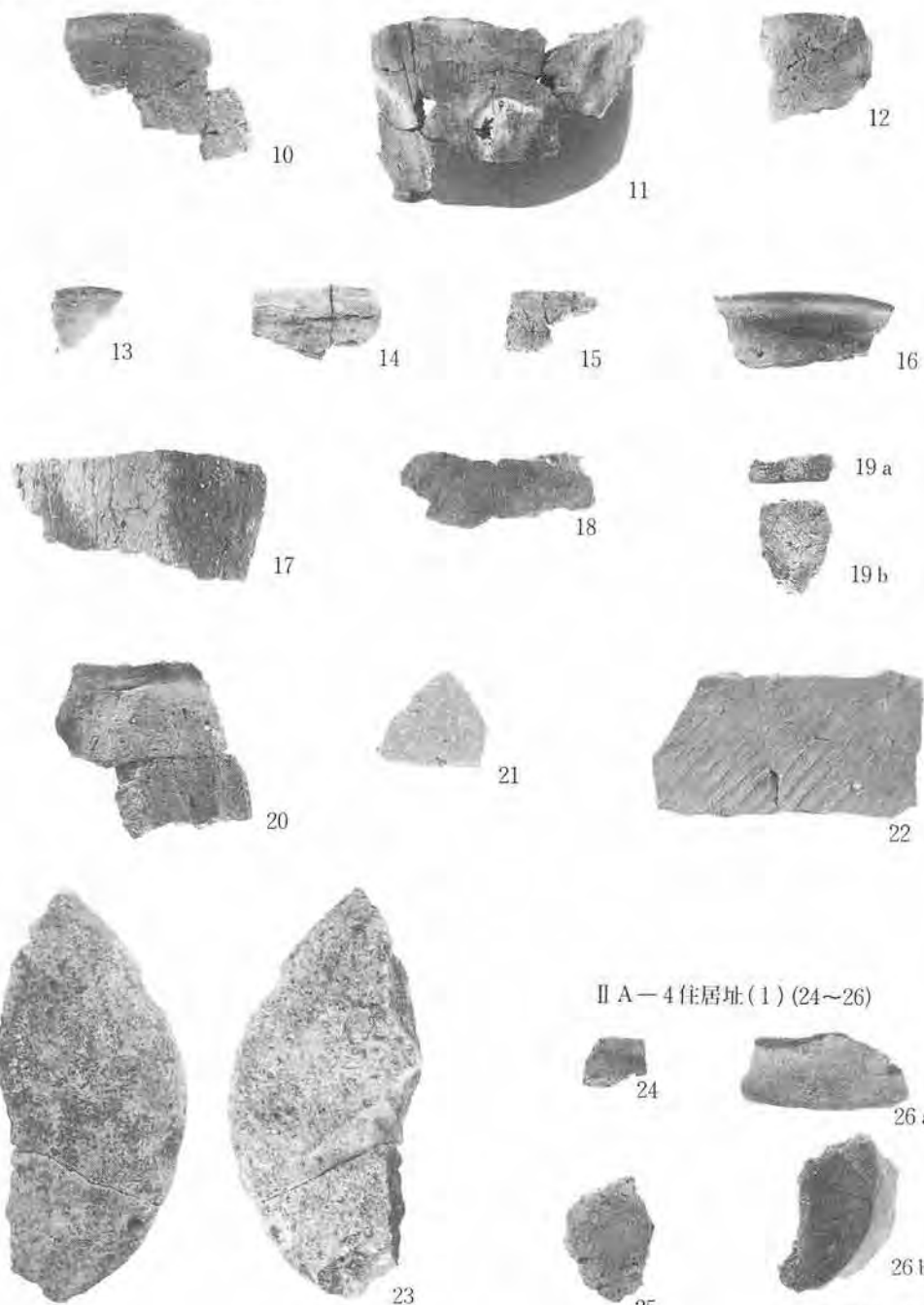


Ⅱ A-3住居址(1) (9)

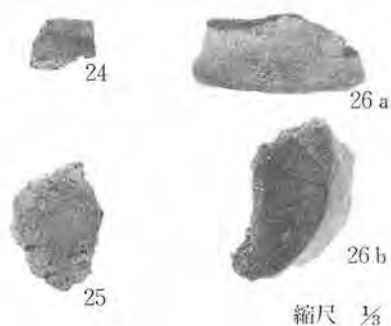


縮尺 1/8

II A—3住居址(2) (10~23)



II A—4住居址(1) (24~26)



縮尺 1/8

Ⅱ A—4 住居址(2) (27)



Ⅱ A—5 住居址(28)



28 a



28 b

Ⅲ A—2 住居址
(32、33)



32



33

Ⅲ A—1 住居址 (29~31)



29



30



31

Ⅲ A—3 住居址 (34~40)



34



35



36



37



38



39

縮尺 1/3



40

写真図版94

Ⅲ A—4 住居址 (41~49)



41



42



43



44



45



47



46



49



48

縮尺 ⅓

Ⅲ A—5 住居址 (50~53)



50 a



50 b



51



52



53

Ⅲ A—6 住居址 (1) (54~60)



54



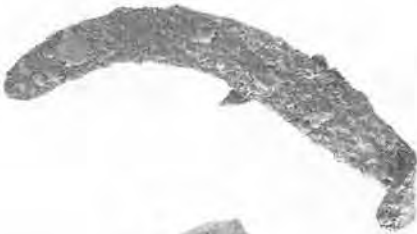
55



56



57



58



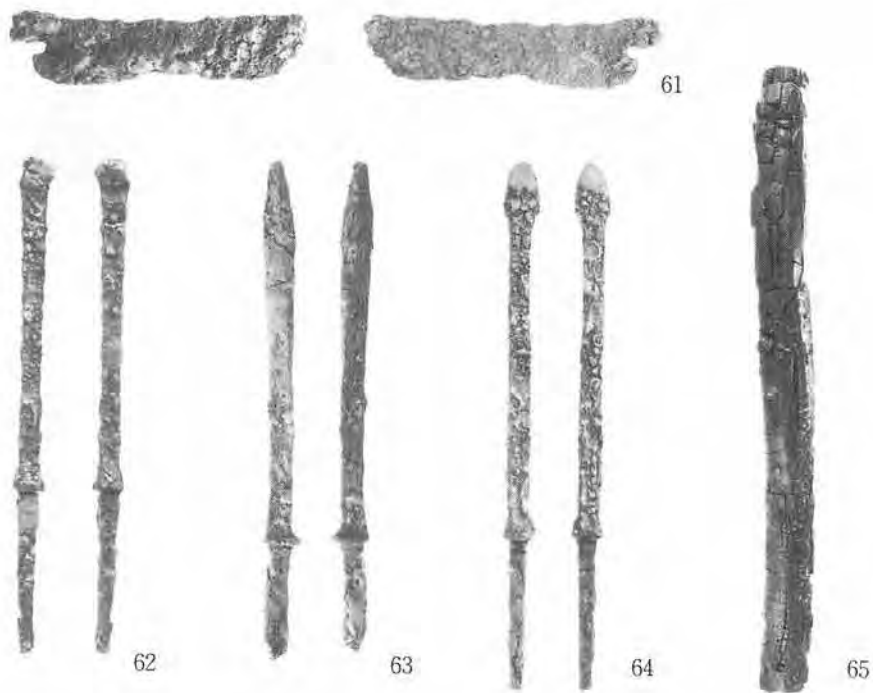
59



60

縮尺 $\frac{1}{3}$

Ⅲ A—6 住居址(2) (61~65)



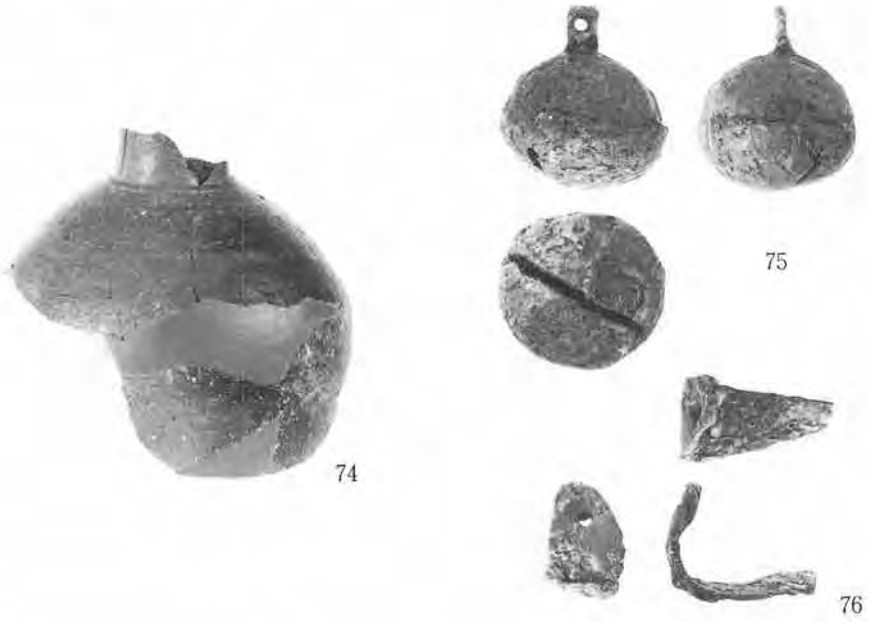
Ⅲ A—7 住居址 (67~70)



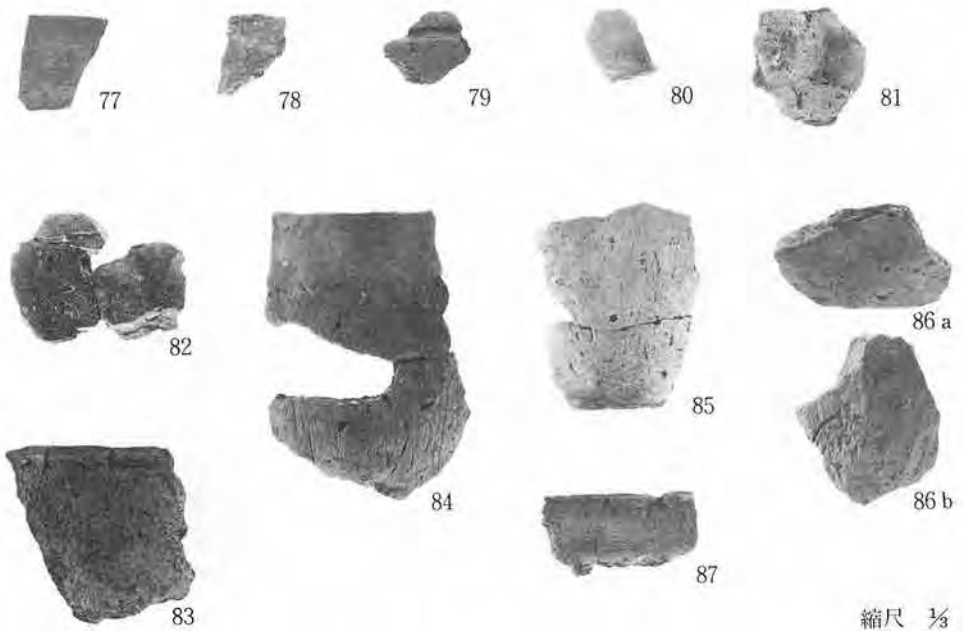
Ⅲ A—8 住居址(1) (71~73)



Ⅲ A—8住居址(2)(74~76)



Ⅲ A—9住居址(1)(77~87)



写真図版98

Ⅲ A—9住居址(2)(88~94)



Ⅲ A—11住居址(1)(95~100)



縮尺 1/3

Ⅲ A—11住居址(2)(101~103)



101



102



103

Ⅲ A—13住居址(104、105)



104



105

Ⅲ A—15住居址(106~108)



106



107



108

Ⅲ A—16住居址(109~111)



109



110



111

縮尺 $\frac{1}{3}$

写真図版100

Ⅲ A—19住居址 (112~120)



112



113



114



116



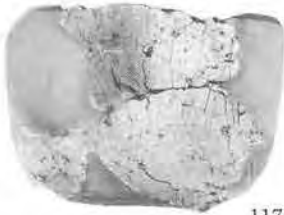
115



117



119



118



120
縮尺 1/3

写真図版101

IV A-2 住居址 (121、122)



121



122

IV A-3 住居址(1) (123~129)



123



124



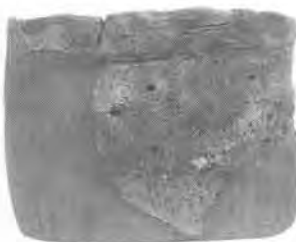
125



126



127



128



129 a



129 b

縮尺 $\frac{1}{3}$

IV A—3 住居址(2) (130~136)



IV A—4 住居址(1) (137~140)



写真図版103

IV A-4 住居址(2) (141~148)



141



142



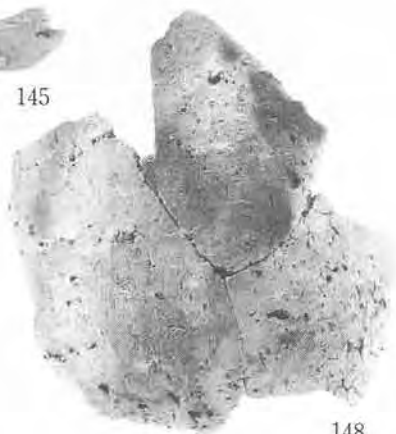
143



144



145



148



146



147

IV A-5 住居址(1) (149~153)



150



152

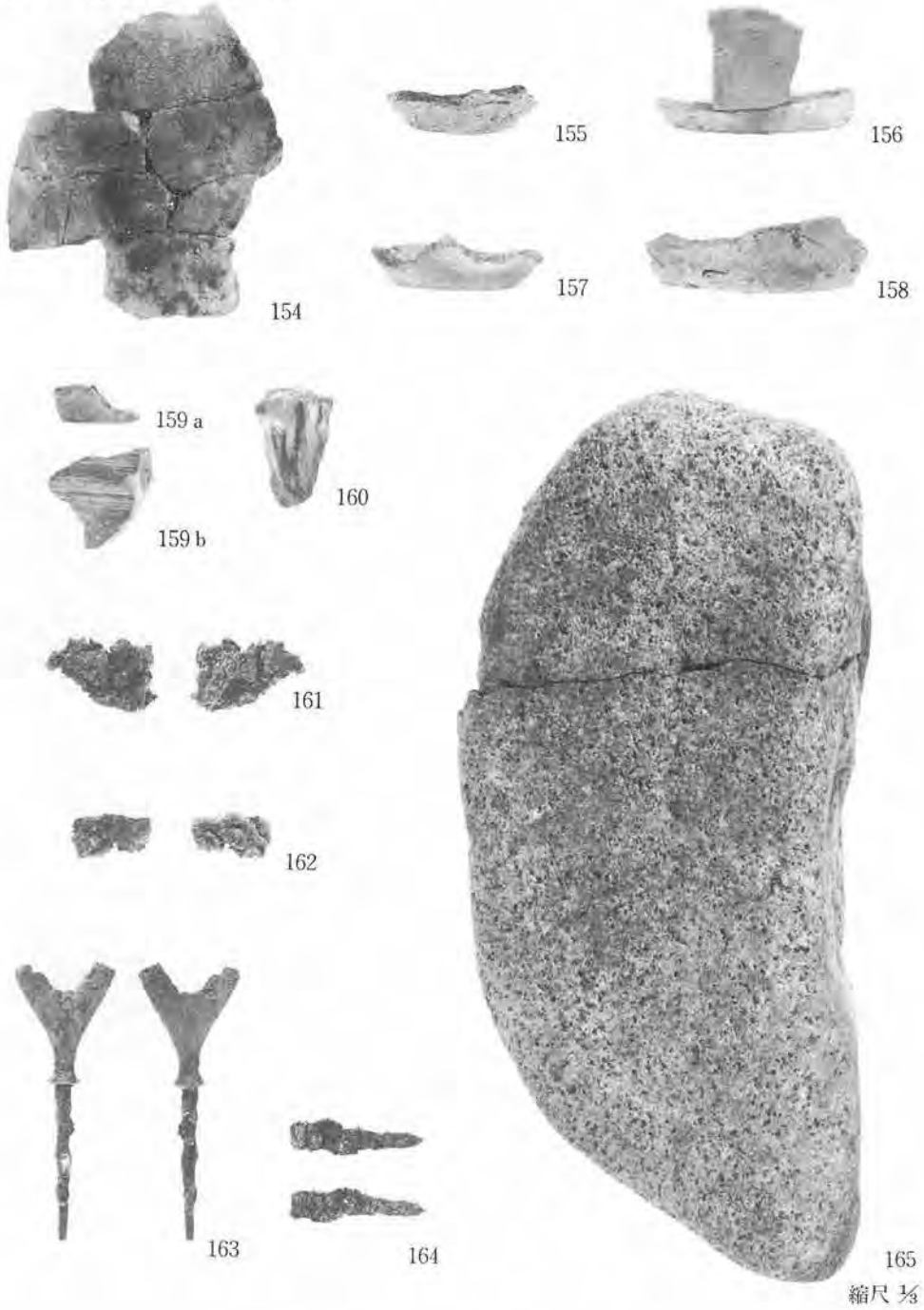


151



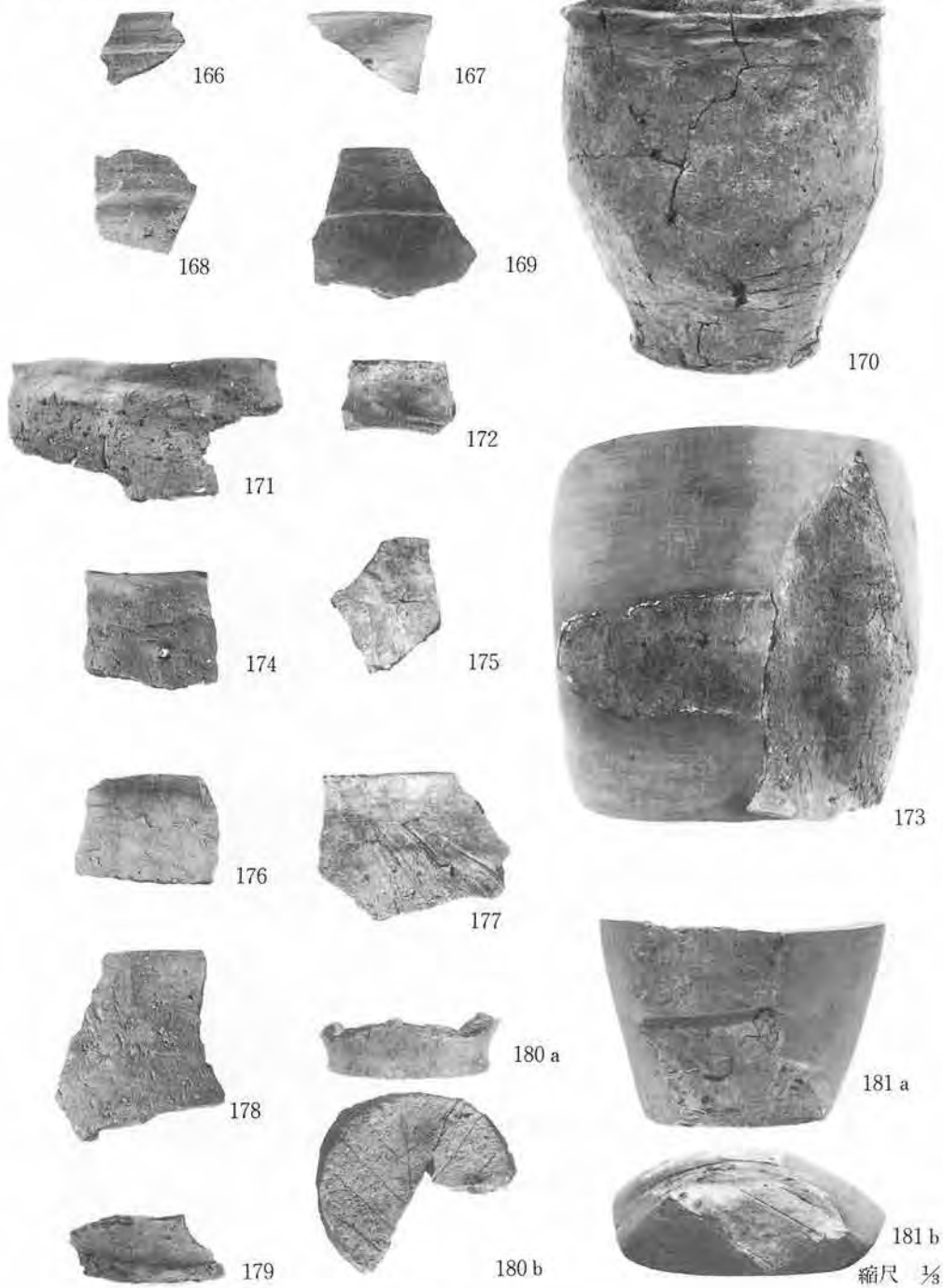
153
縮尺 $\frac{1}{3}$

Ⅳ A—5 住居址(2) (154~165)



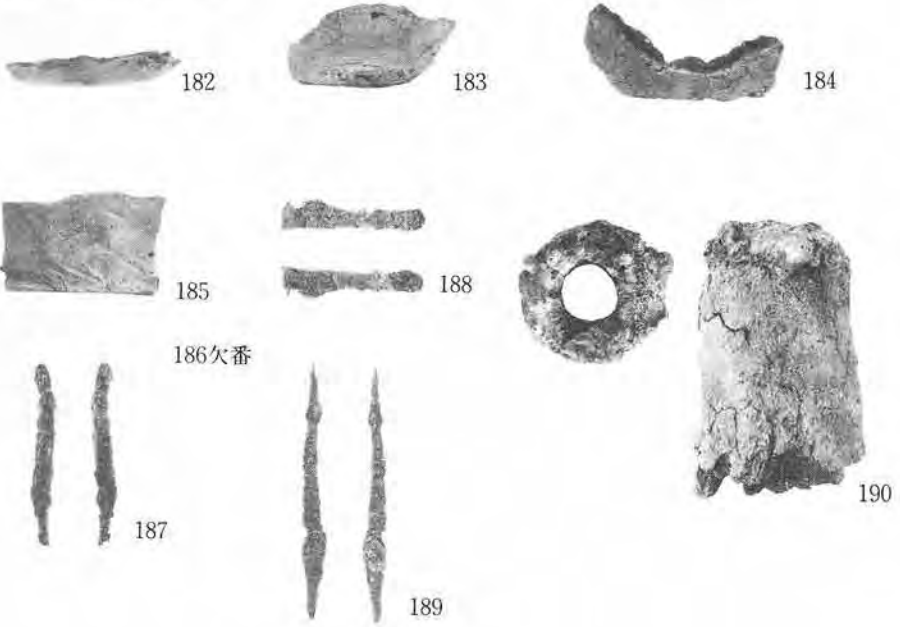
写真図版105

IV A—6 住居址(1) (166~181)

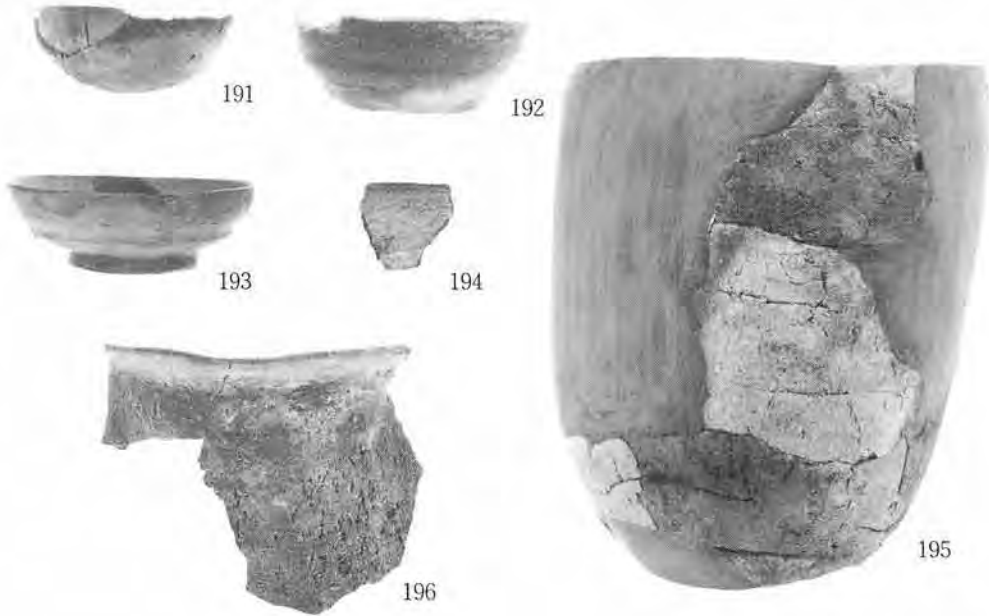


写真図版106

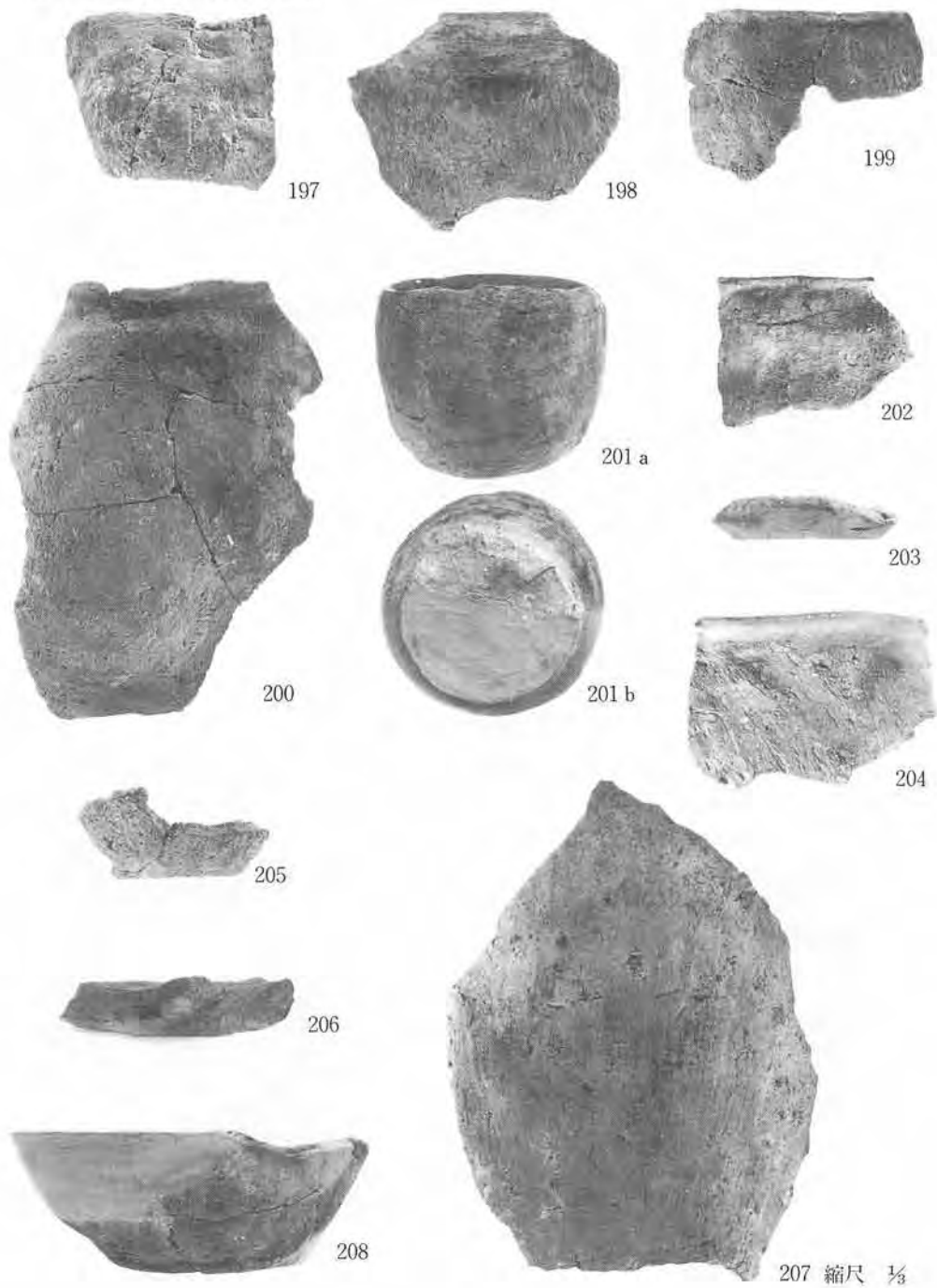
ⅣA-6住居址(2)(182~190)



ⅣA-7住居址(1)(191~196)

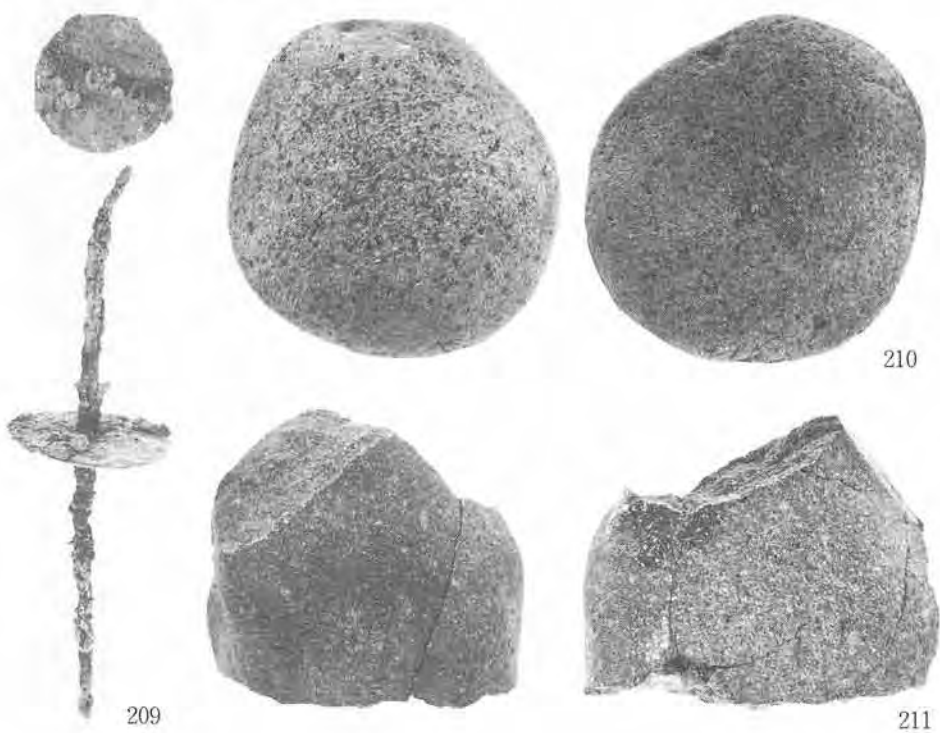


IV A—7 住居址(2) (197~208)

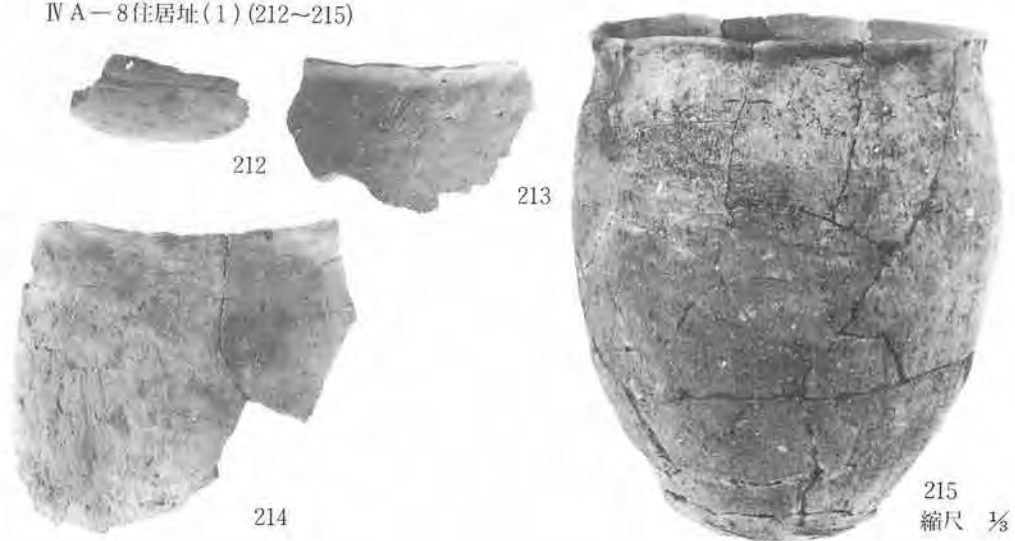


写真図版108

IV A-7住居址(3)(209~211)



IV A-8住居址(1)(212~215)



写真図版109

IV A—8住居址(2)(216~230)



216



217



218



219



220



221



222



223



224



225



226



227 a



228



229



230



227 b

縮尺 $\frac{1}{3}$

写真図版110

IV A—9 住居址 (231~233)



231



232



233

IV A—10 住居址(1) (234~241)



234



235



236



237



238



239



240



241 縮尺 $\frac{1}{3}$

写真図版111

IV A - 10住居址(2)(242~250)



242



243



244



245



246



247



248



249



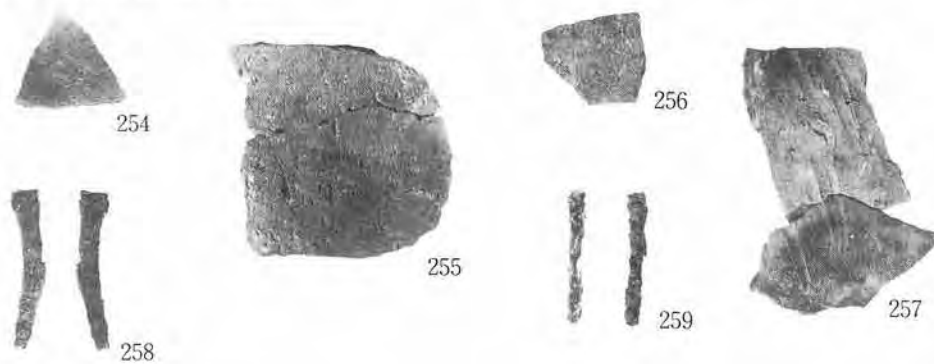
250

縮尺 1/3

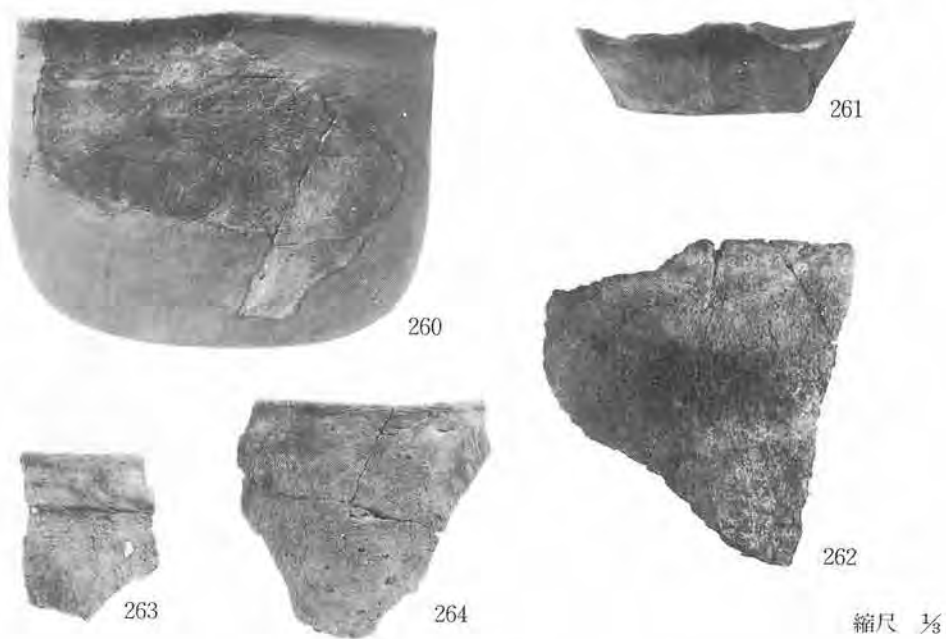
IV A-11住居址 (251~253)



IV A-12住居址 (254~259)



IV A-13住居址(1) (260~264)



縮尺 1/8

IV A-13住居址(2)(265~275)



265



266



267



268



269



270



271



272



273



275

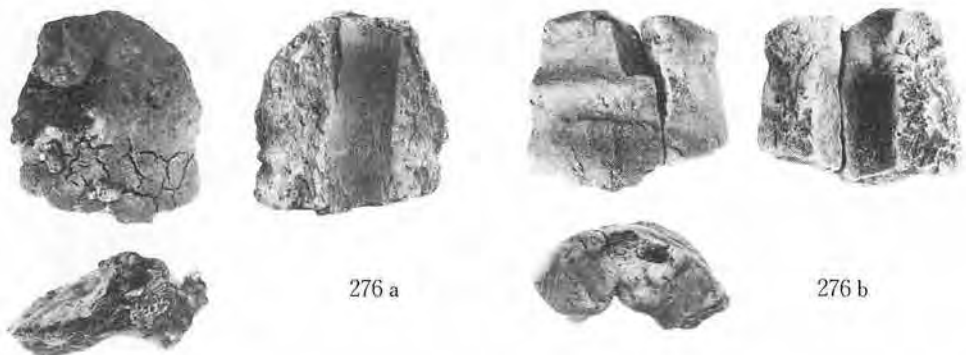


274

縮尺 1/3

写真図版114

IV A—13住居址(3)(276~278)



276 a

276 b



277



278



279

IV A—14住居址(1)(280~282)



280



281



282

縮尺 $\frac{1}{3}$

写真図版115

IV A—14住居址(2)(283~294)



写真図版116

IV A—14住居址(3)(295~302)



295



296



298



299



300



301



302

IV A—16住居址(1)(303~305)



303



304



305

縮尺 1/3

写真図版117

IV A-16住居址(2) (306~312)



306



307



308 a



309 a



308 b



309 b



310



311



312

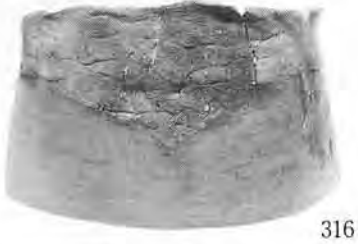
縮尺 1/2

写真図版118

ⅥA-16住居址(3)(313~315)



ⅣA-17住居址(1)(316~322)



縮尺 1/3

写真図版119

IV A-17住居址(2)(323~331)



323



326



324



325 a



325 b



329



327 a



327 b



328



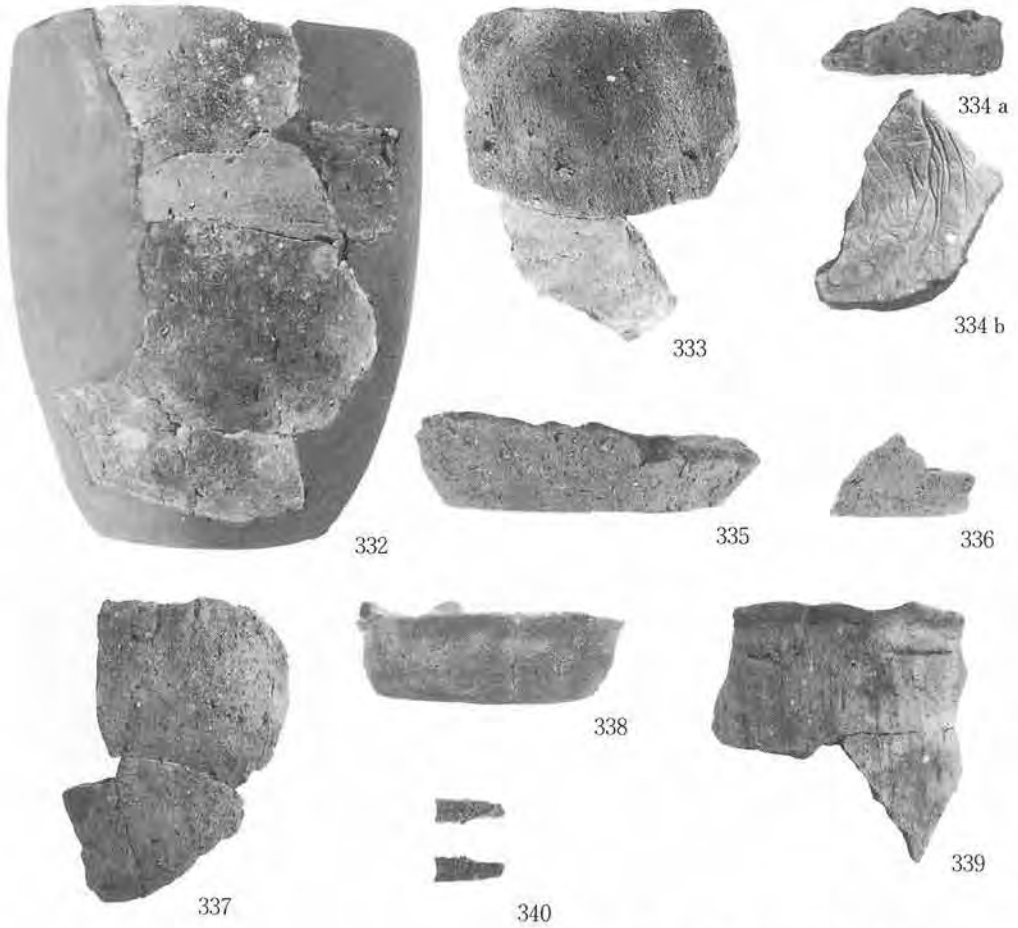
330



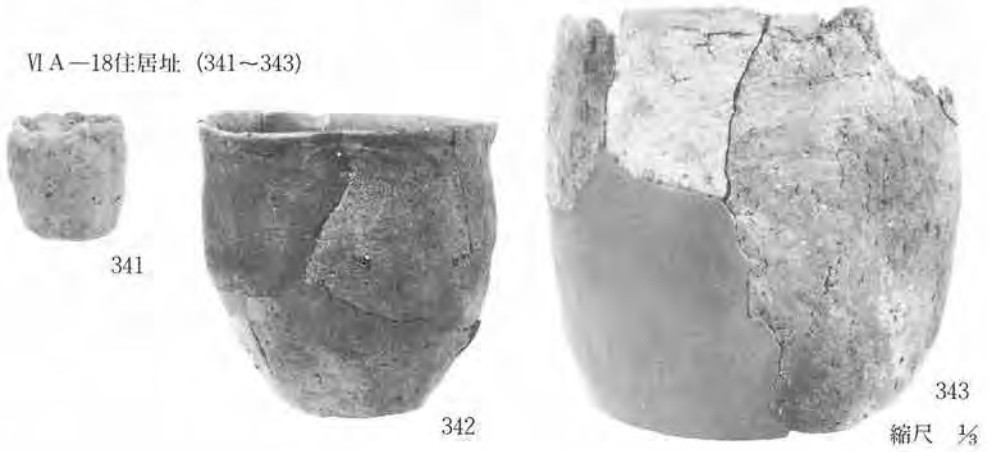
331

縮尺 1/8

IV A—17住居址(3)(332~340)

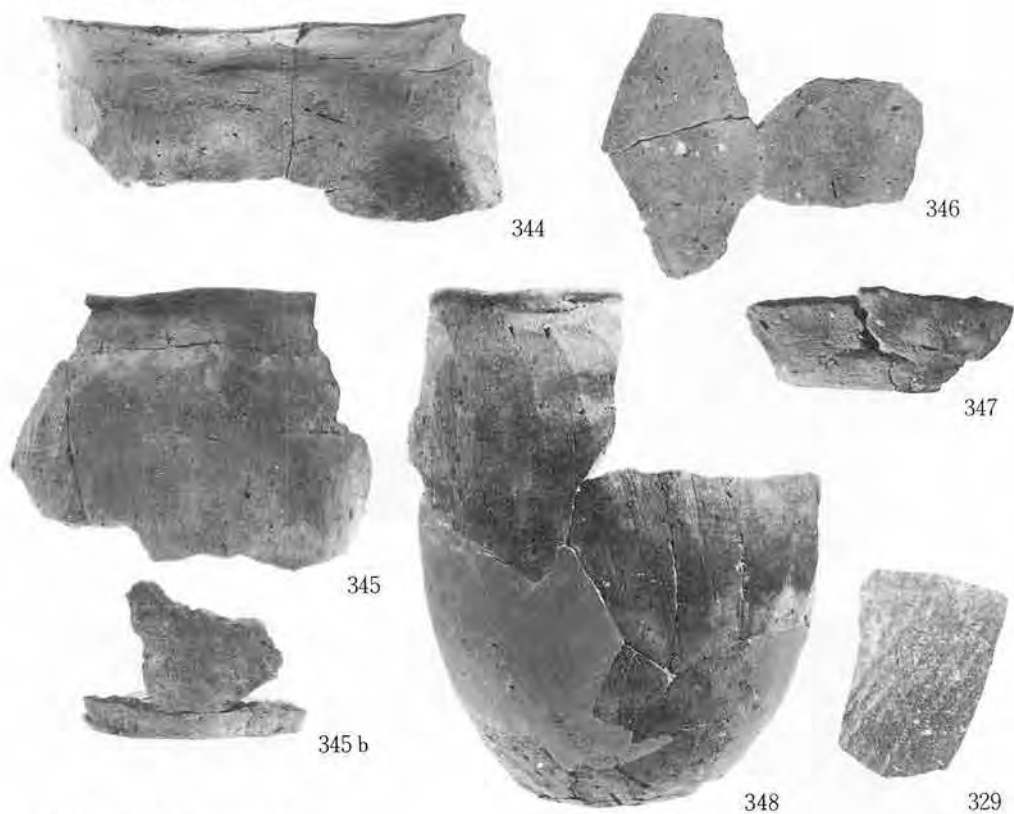


VI A—18住居址(341~343)



写真図版121

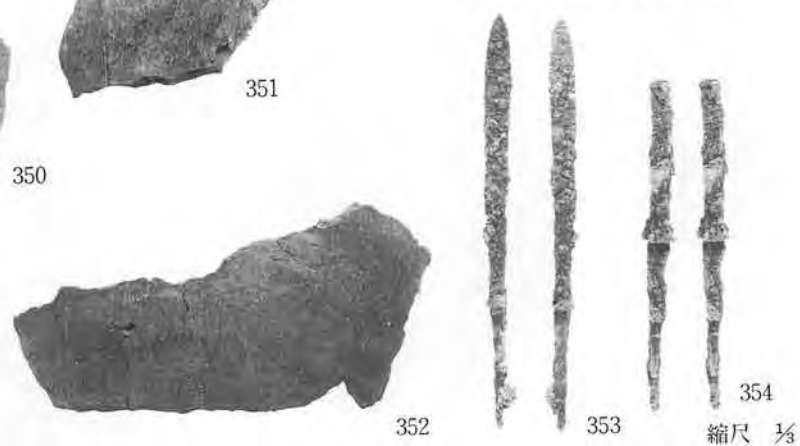
V A—1住居址 (344~349)



V A—2住居址 (350、351)



V A—3住居址 (352~354)



写真図版122

Ⅱ A—3土坑 (501~506)



Ⅱ A—5土坑 (507~510)



Ⅱ A—6土坑 (511、512)



Ⅱ A—7土坑 (513、514)



Ⅱ A—8土坑 (515)



Ⅱ A—9土坑 (516)



Ⅱ A—10土坑 (517、518)



Ⅱ A—11土坑 (519)



Ⅱ A—12土坑 (520)



縮尺 1/5

Ⅲ A—2 土坑 (521)



521

Ⅲ A—6 土坑 (522~524)



522



523



524

Ⅲ A—7 土坑 (525~527)



525



526



527



Ⅲ A—16 土坑 (528~531)



528



Ⅲ A—17 土坑 (532, 533)



530



529



532



533



531

縮尺 1/3

写真図版124

Ⅲ A—19土坑 (534、535)



Ⅲ A—28土坑 (537)

536欠番



Ⅲ A—30土坑 (538)



縮尺 3/8

写真図版125

Ⅲ A—36土坑 (539~541)



539



540



Ⅳ A—2土坑 (542)



542

Ⅳ A—3土坑 (543、544)



543



544

Ⅳ A—7土坑 (547)



547

Ⅳ A—4土坑 (545、546)



545



546

Ⅳ A—8土坑 (548)



Ⅳ A—9土坑(1) (549~552)



549



550



552 a



551



552 b

縮尺 1/3

写真図版126

IV A—9 土坑 (2) (553)



553a



553b

IV A—12 土坑 (555)



555

554 欠番

IV A—13 土坑 (556)



556

IV A—16 土坑 (557、558)



557



558

IV A—19 土坑 (559~561)



559



561

IV A—49 土坑 (1) (565)



560a



560b

562 欠番

IV A—24 土坑 (563)



563

IV A—28 土坑 (564)



565

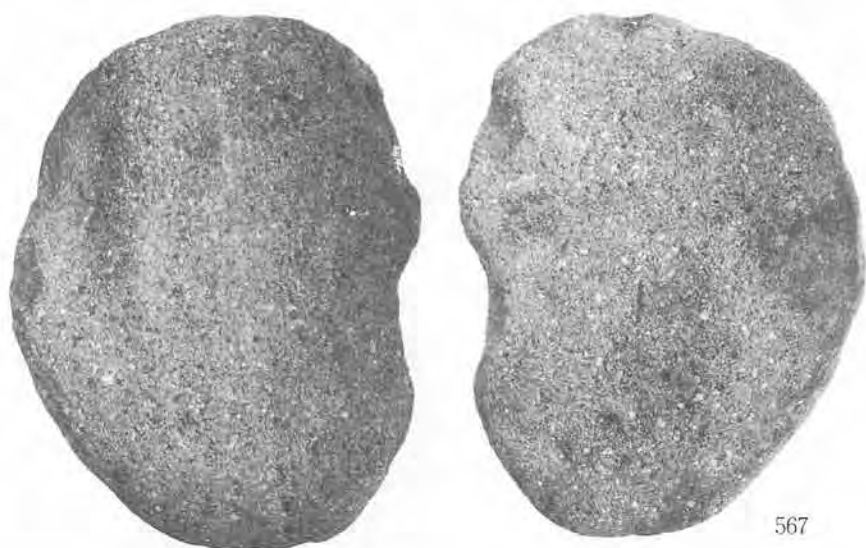
縮尺 1/3

写真図版127

IV A—49土坑(2) (566、567)



566



567

V A—1土坑 (568、569)



568

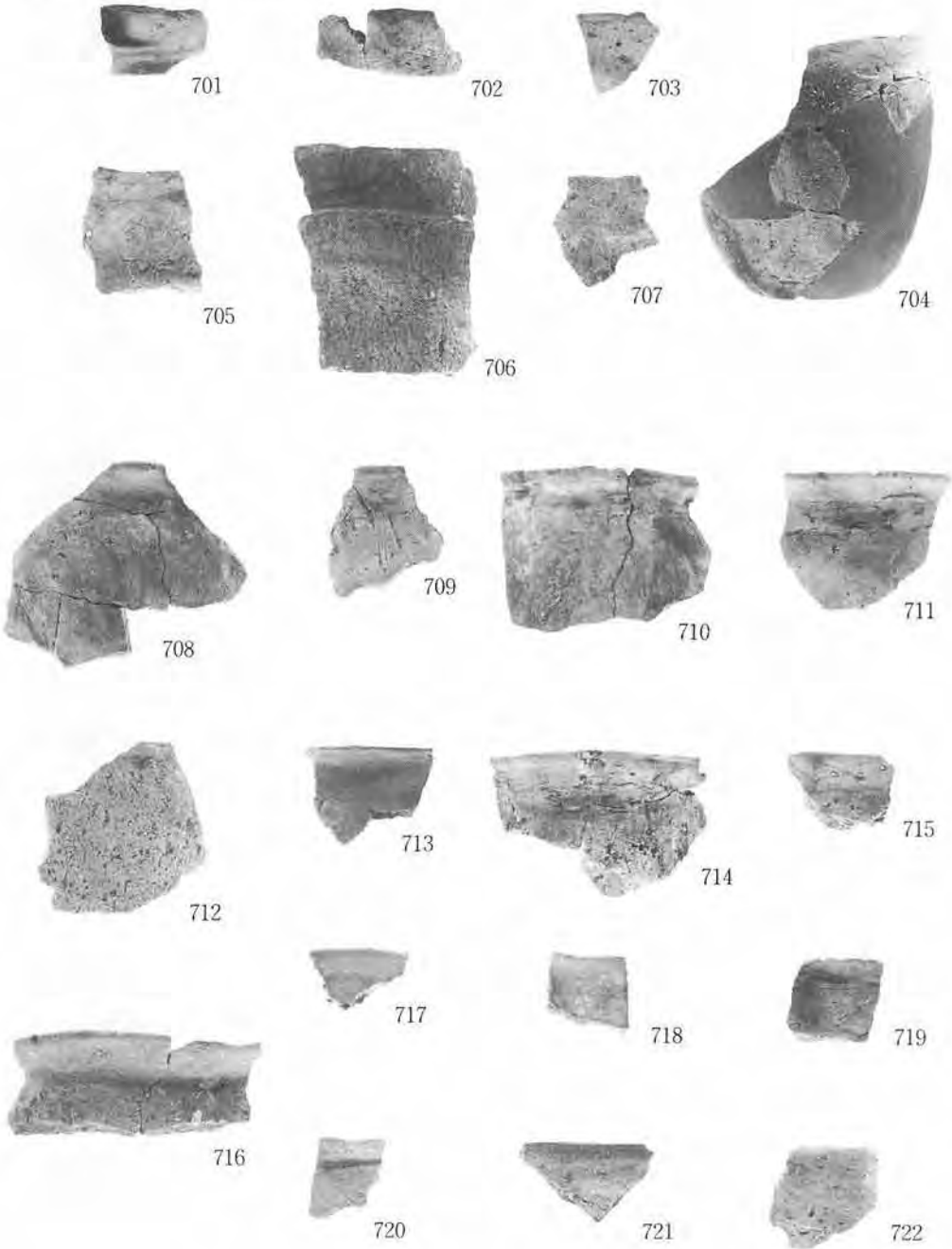


569

縮尺 $\frac{1}{3}$

写真図版128

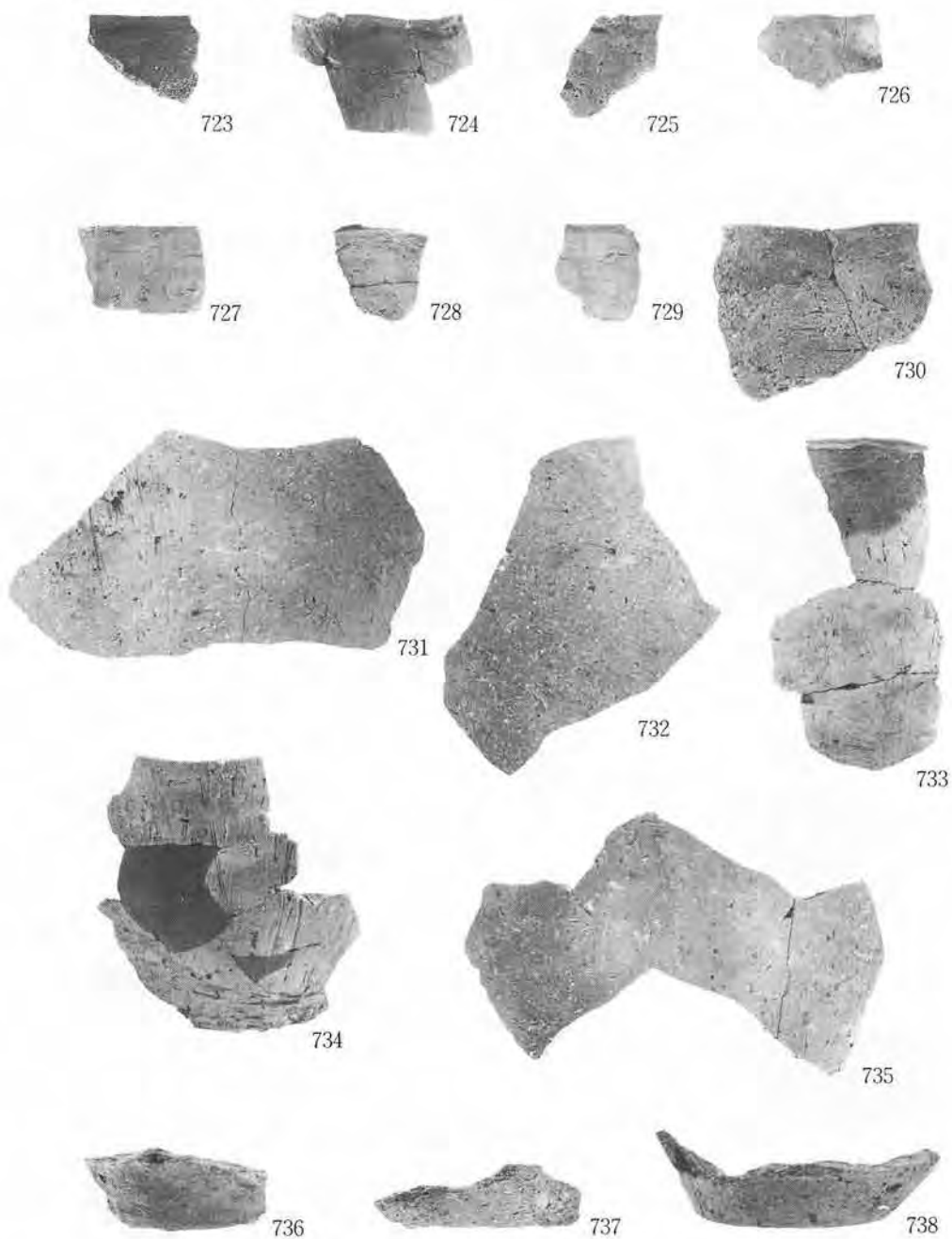
II A—101 大溝跡(1) (701~722)



縮尺 1/5

写真図版129

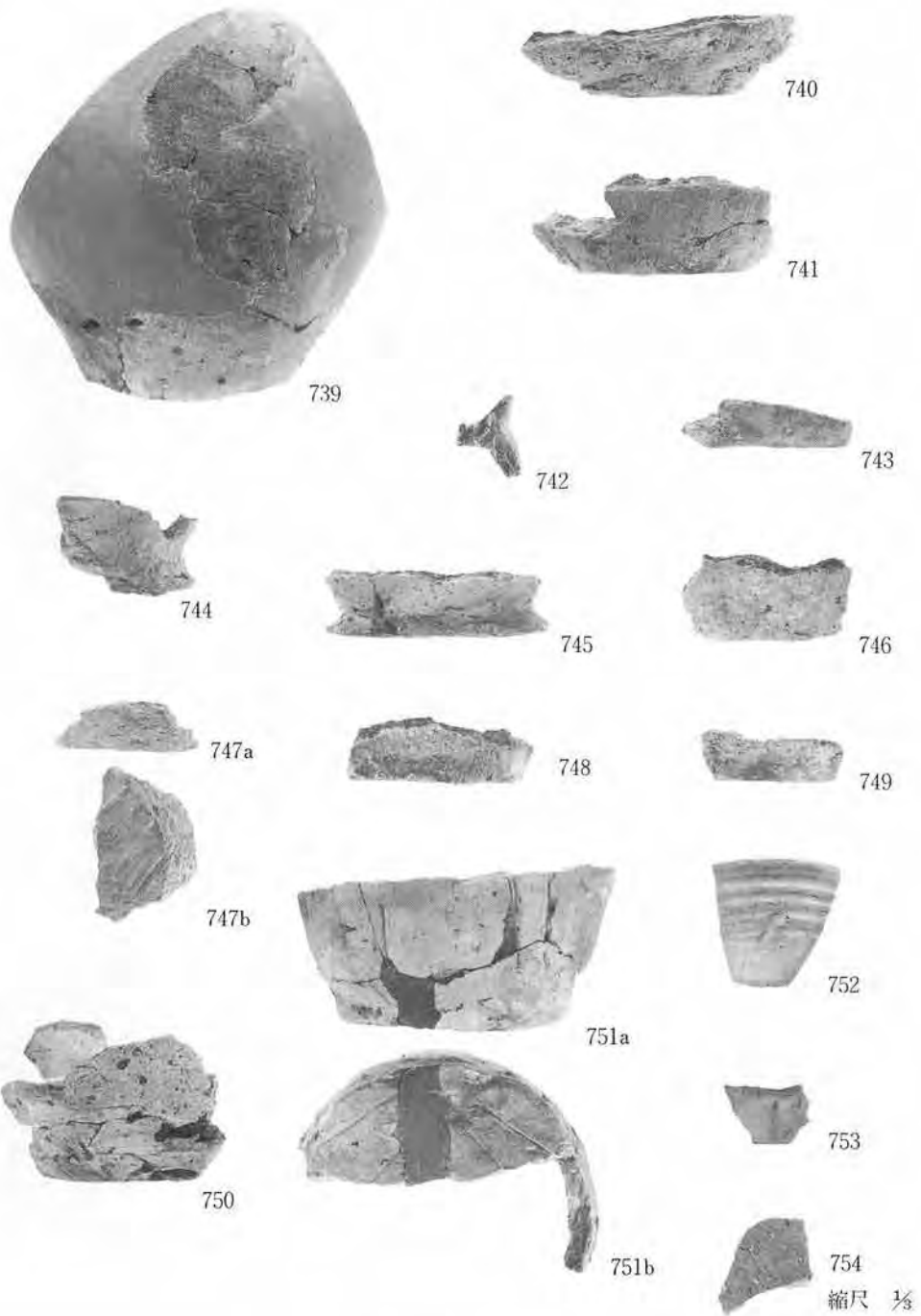
Ⅱ A—101大溝跡(2)(723~738)



縮尺 1/4

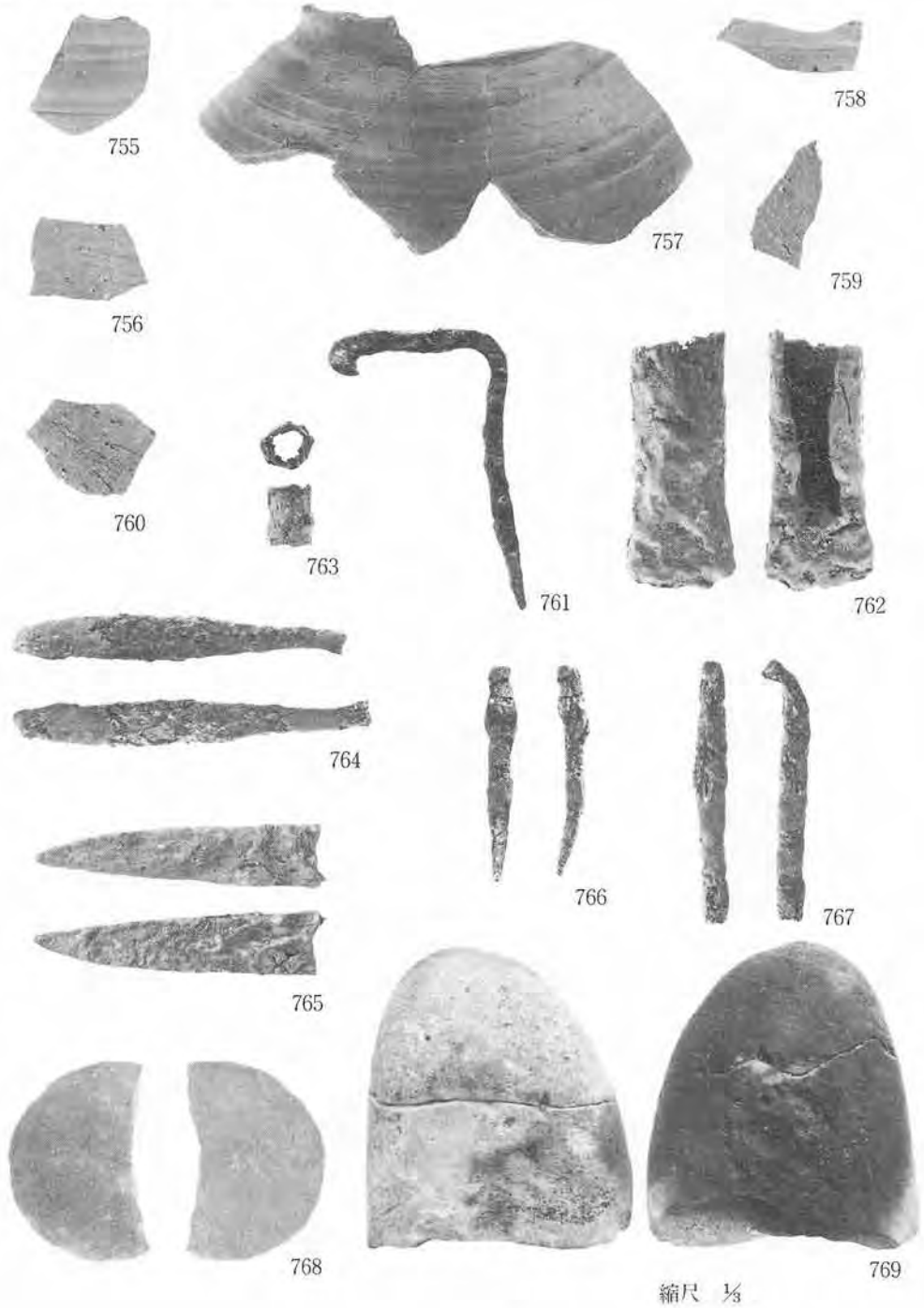
写真図版130

II A-101大溝跡(3)(739~754)



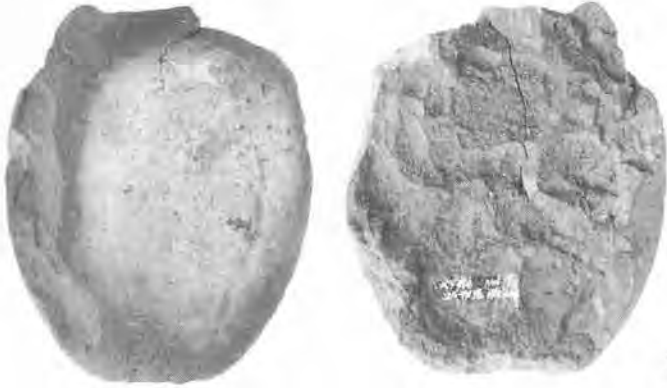
写真図版131

Ⅱ A—101大溝跡(4)(755~769)



写真図版132

Ⅱ A-101大溝跡(5)(770~772)



770



771

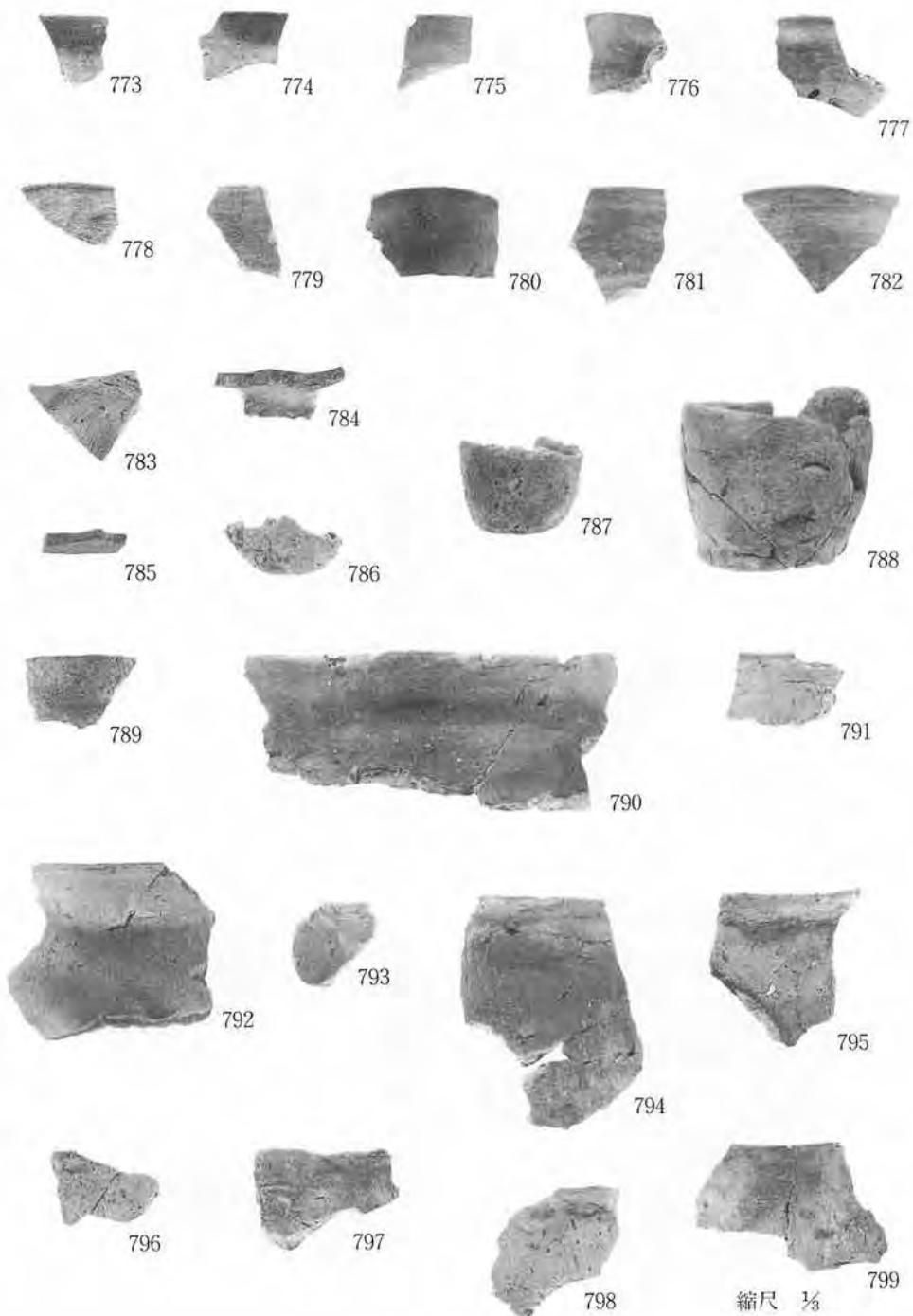


772

縮尺 1/4

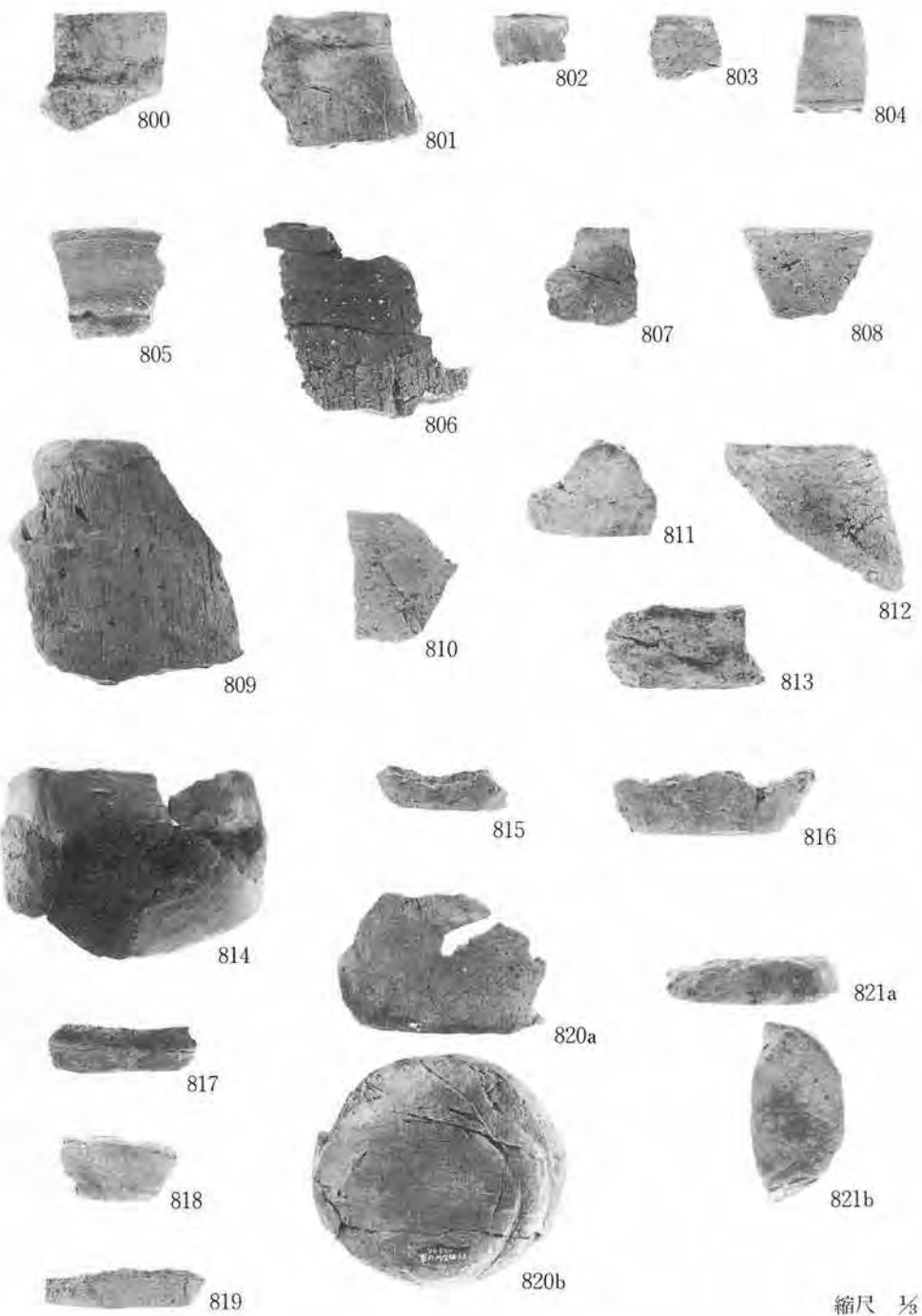
写真図版133

Ⅱ A—102大溝跡(1)(773~799)



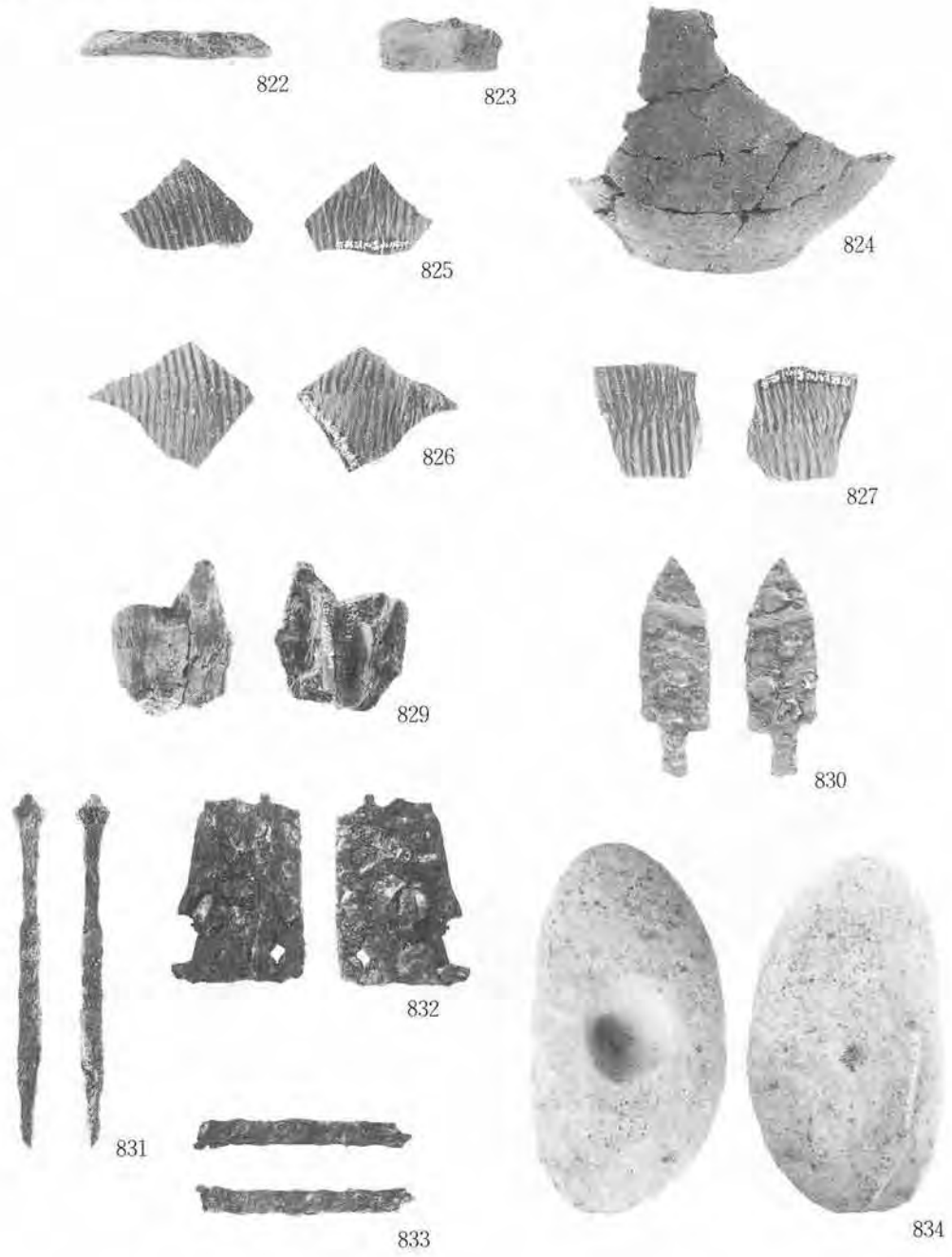
写真図版134

II A-102大溝跡(2)(800~821)



写真図版135

II A—102 大溝跡(3) (822~834)



縮尺 1/4

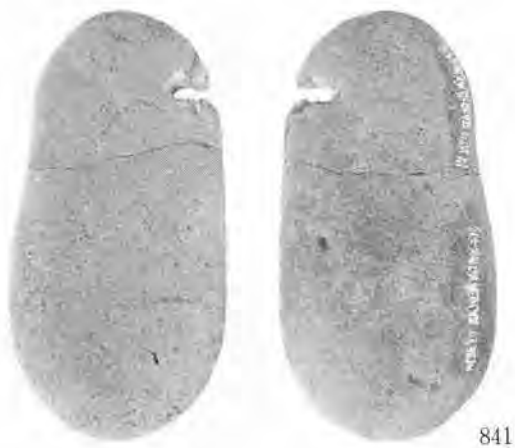
写真図版136

II A—102大溝跡(4)(835~840)



縮尺 1/3

II A—102大溝跡(5)(841、842)



縮尺 1/3

写真図版138

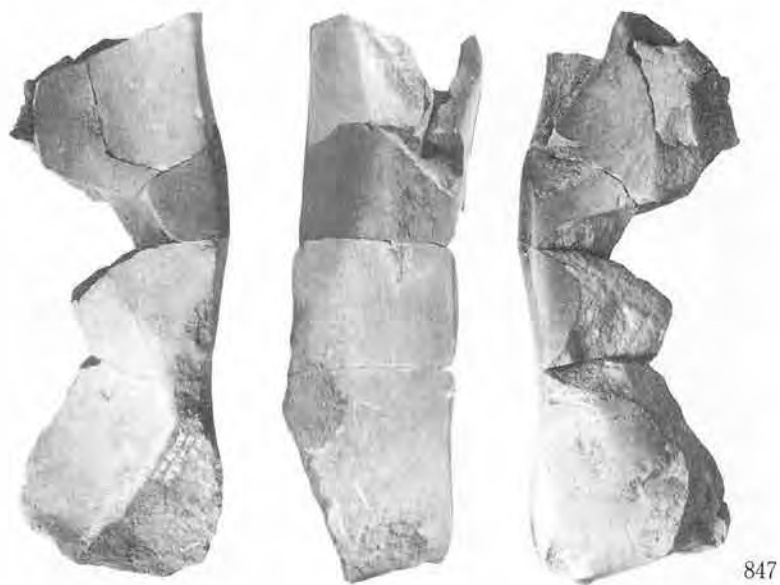
Ⅲ A—101 大溝跡(1)(843~846)



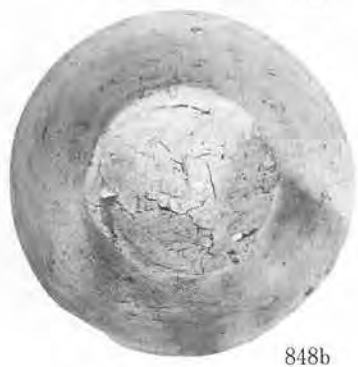
縮尺 ¼

写真図版139

Ⅲ A—101大溝跡(2) (847)



Ⅳ A—101大溝跡(1) (848~850)



IV—101 大溝跡(2) (851~864)



851



852



853



854



855



856



857



858



859



860



863



861



862a



862b



864

縮尺 1/4

写真図版141

IV A—101 大溝跡(3) (865~872)



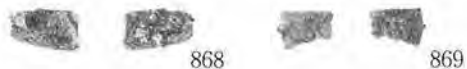
865



866



867



868

869



870



871



872

IV A—102 溝跡 (873)



873

IV A—1・2 号方形周溝(874・875)



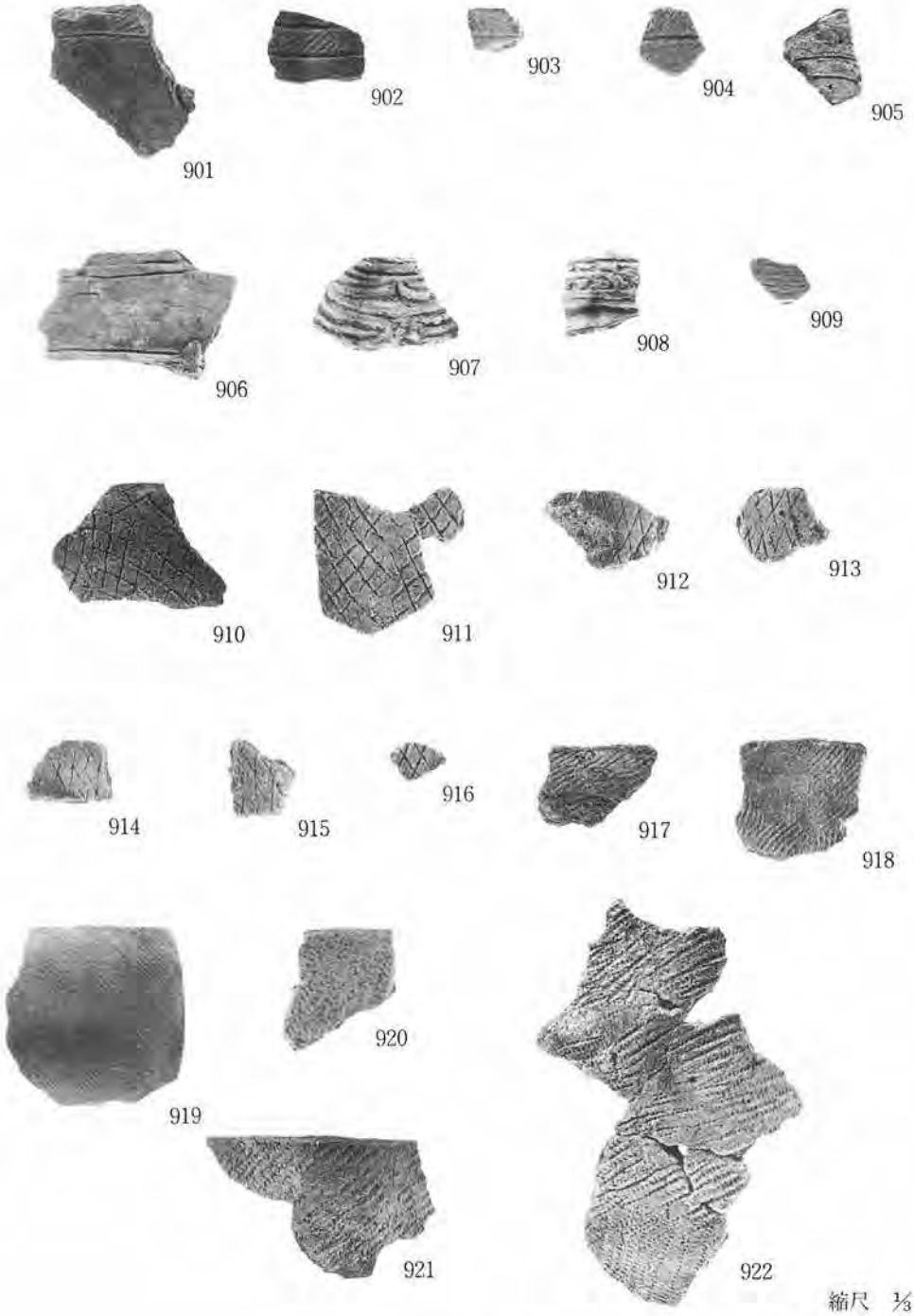
874



875

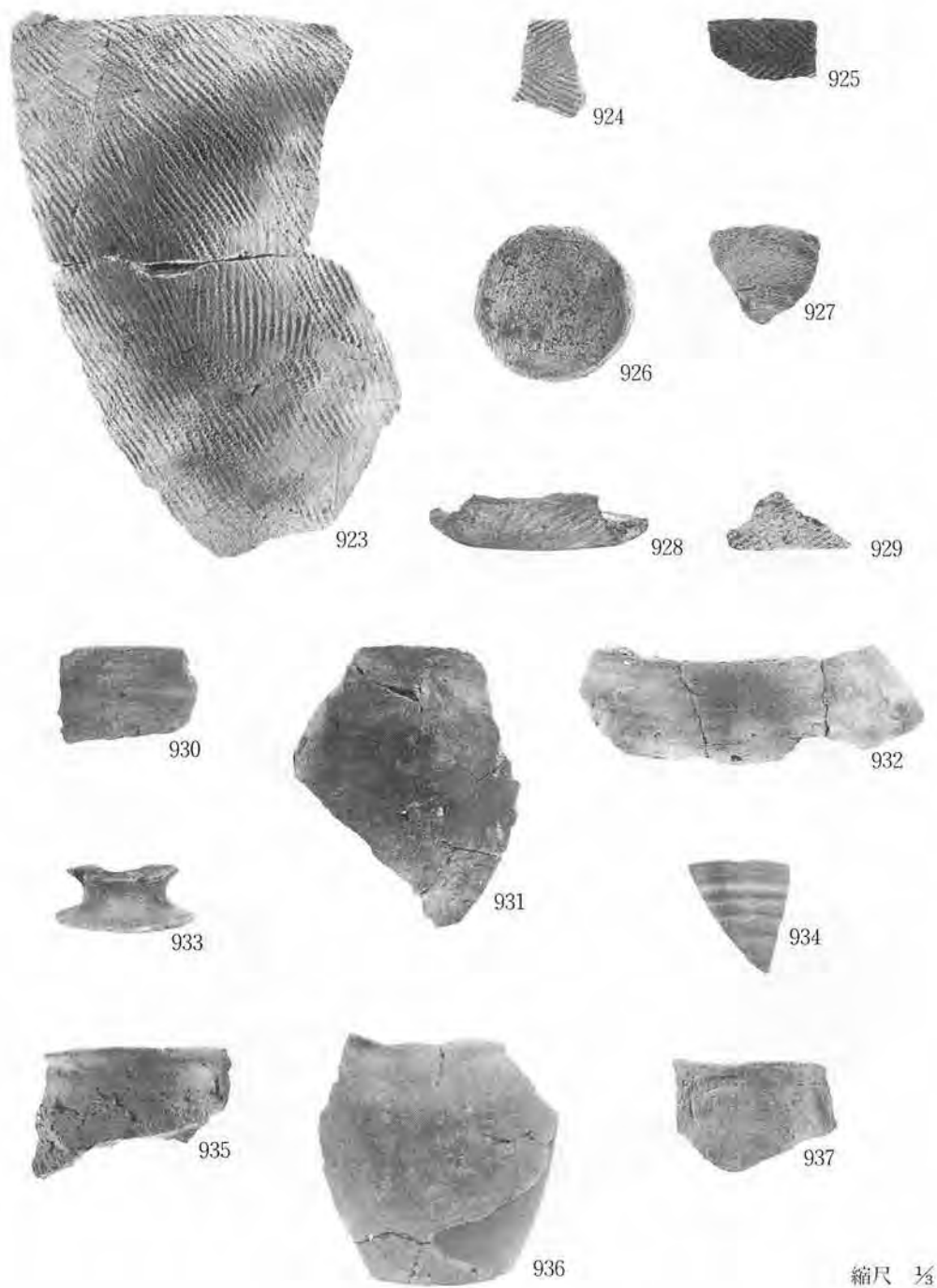
縮尺 1/4

遺構外出土遺物(1)(901~922)



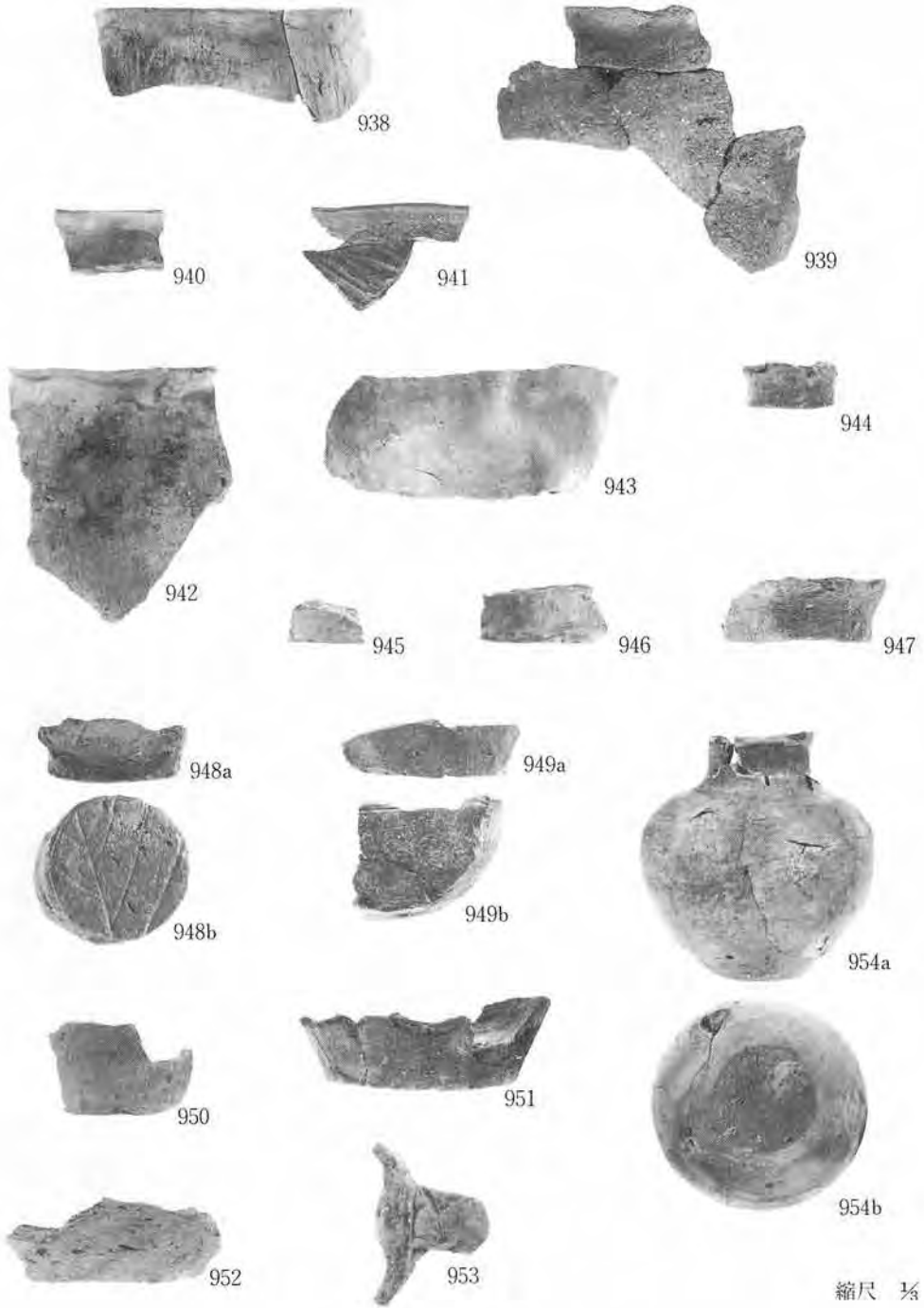
写真図版143

遺構外出土遺物(2) (923~937)



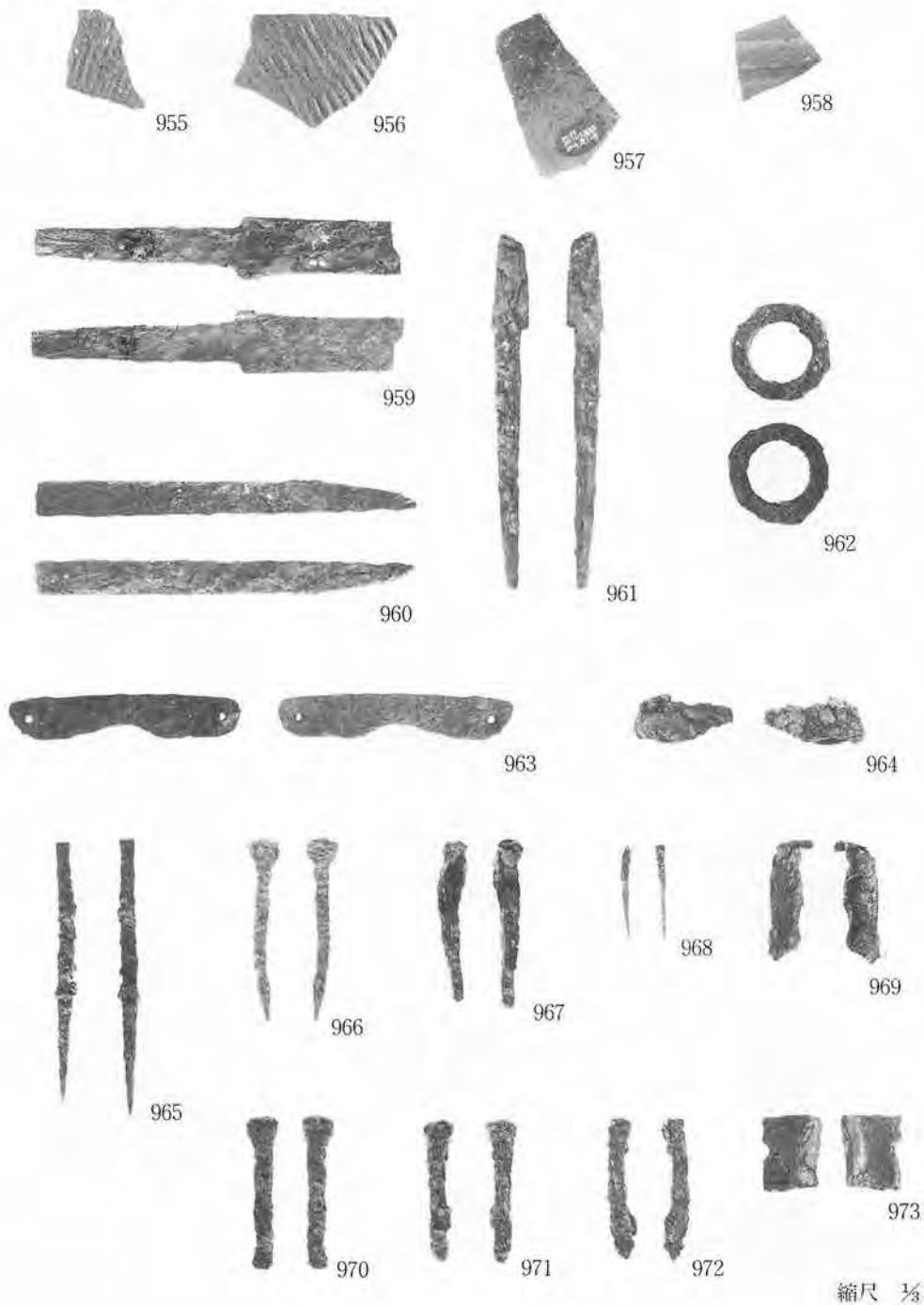
写真図版144

遺構外出土遺物(3)(938~954)



写真図版145

遺構外出土遺物(4)(955~973)



写真図版146

遺構外出土遺物(5)(974~979)



974



975



976



977



978

縮尺 1/4



979

縮尺 1/3

写真図版147

遺構外出土遺物(6)(980~983)



縮尺 1/3

写真図版148

財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター職員

所 長 及 川 昌 二

副 所 長 鎌 田 良 悦

〔管 理 課〕

管理課長(兼) 鎌 田 良 悦

課長補佐 伊 藤 吉 郎

主 事 阿 部 隆 広

嘱 託 似 内 喜 兵

運 転 技 士 佐 藤 春 男
兼 技 能 員

〔調 査 課〕

調 査 課 長 昆 野 靖

主任文化財 三 浦 謙 一
専門調査員

” 工 藤 利 幸

” 高 橋 与 右 工 門

” 田 鎖 寿 夫

” 佐 々 木 嘉 直

” 平 井 進

” 中 村 良 一

” 中 川 重 紀

文 化 財 光 井 文 行
専門調査員

” 佐 瀬 隆

” 玉 川 英 喜

” 斎 藤 博 司

” 東 海 林 隆 幹

” 遠 藤 修

” 斎 藤 邦 雄

” 高 橋 義 介

” 酒 井 宗 幸

〔資 料 課〕

資 料 課 長 新 田 和 雄

主任文化財 小 田 野 哲 憲
専門調査員

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財発掘調査報告書133集

駒焼場遺跡発掘調査報告書

国道4号金田一バイパス関連遺跡発掘調査

印刷 平成元年2月25日

発行 平成元年2月28日

発行 財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター
〒020 岩手県紫波郡都南村大字下飯岡11-185
電話 (0196) 38-9001~2

印刷 河北印刷株式会社
〒020 盛岡市本町通2-8-7
電話 (0196) 23-4256

© 財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター・1989